今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第９集

石崎曲り田遺跡

— II —

上 巻

1984

福岡県教育委員会

今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第9集

石崎曲り田遺跡

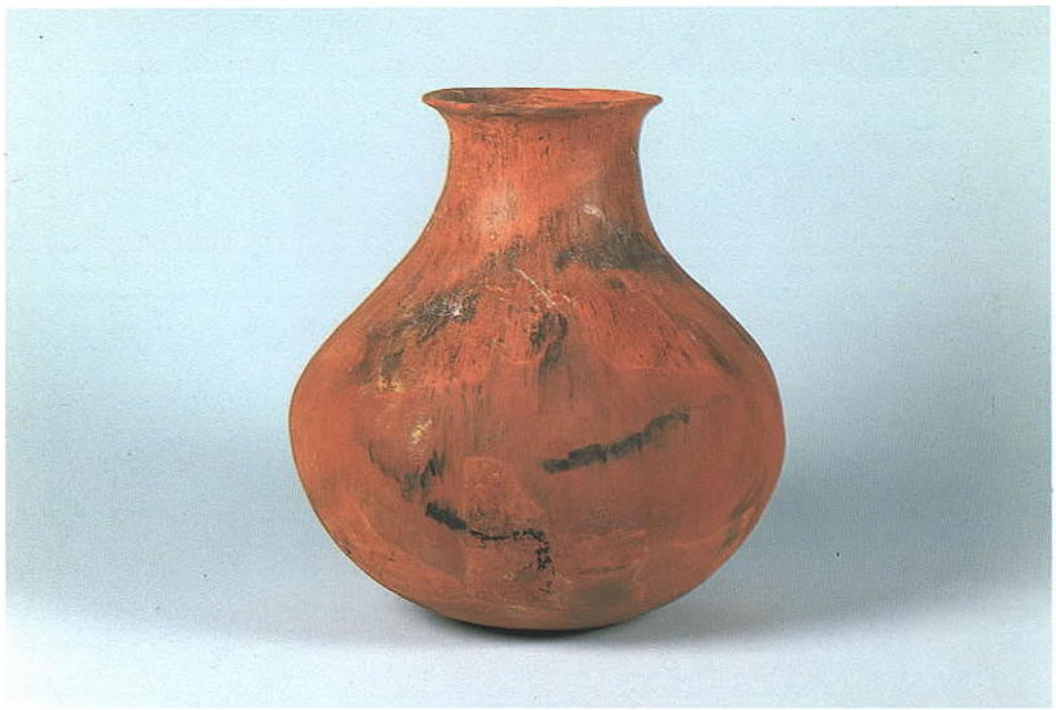
— II —

上 巻

1984

福岡県教育委員会

曲り田遺跡出土土器



丹塗り磨研壺

把手付甕(甑)

浅　鉢

打製石器群

打製石鏃

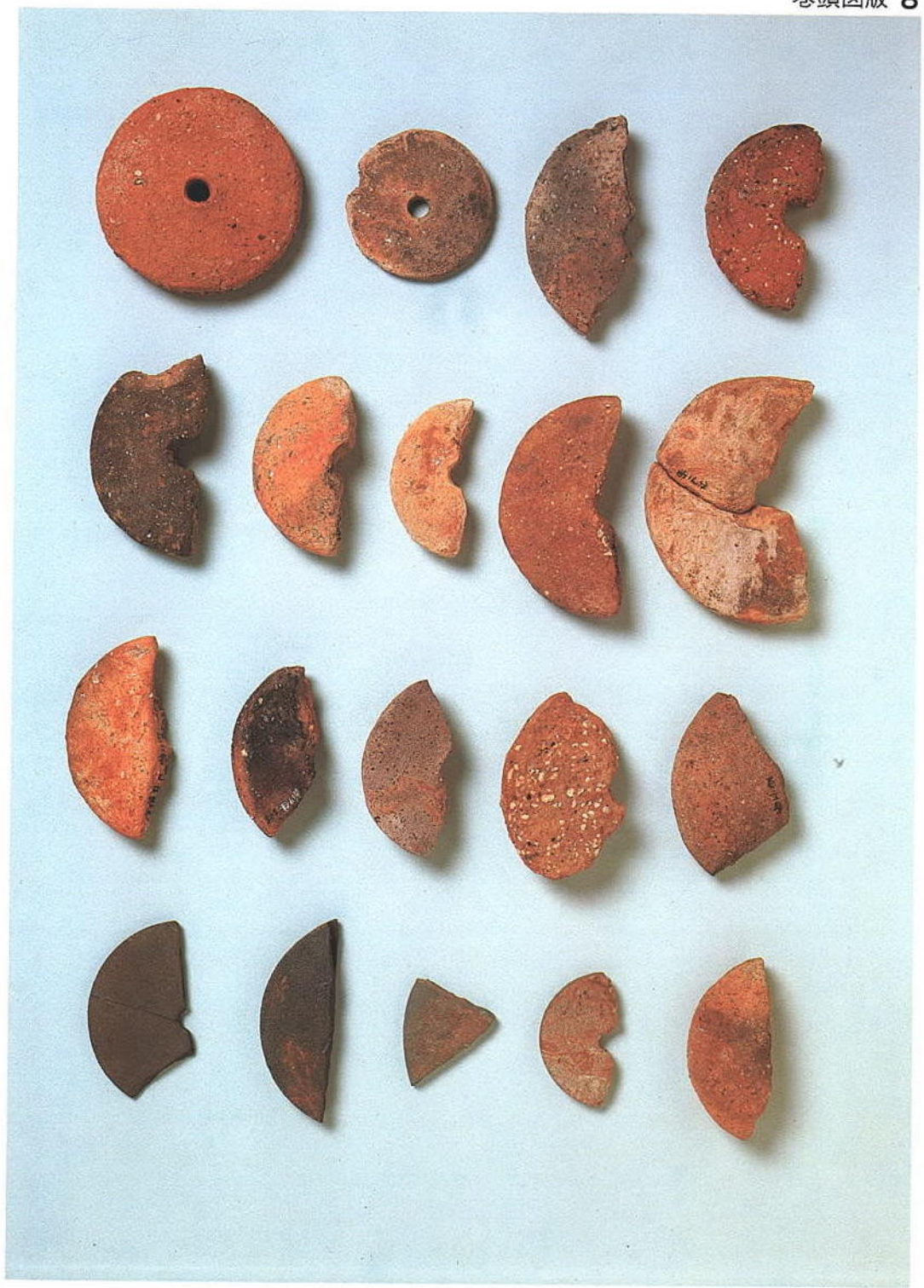
磨製石器群

磨製石鏃

石庖丁

石庖丁穿孔具

玉と人形品



紡 錘 車

序

「今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告」第9集　石崎曲り田遺跡－II－が刊行の運びとなりました。今回の報告は1980年度に調査を実施しました，我国の水稲耕作開始期の遺跡として注目を集めた，糸島郡二丈町曲り田遺跡の埋蔵文化財の調査記録の一部で，とくに問題となります稲作開始期の遺物を収録したものであります。

脊椎動物遺存体については九州大学医学部解剖学教室の船越公威先生，鉄器については新日本製鉄の佐々木稔先生，鉄滓等については新日本製鉄の大澤正己先生，黒曜石・サヌカイトの産地分析については京都大学原子炉研究所の藁科哲男・東村武信先生にそれぞれお願いしましたが，快諾され，その結果を本書に収録させていただけたことは望外の喜びであります。

寒風のなかで，調査に参加いただいた地元の方々，更にまた調査に全面的に協力していただいた建設省九州地方建設局の方々に心からお礼申しあげます。

本書が文化財の保護と活用に広く利用され，又我国の稲作開始の問題を深める上で一助ともなれば幸甚に存じます。

昭和59年 3 月31日

福岡県教育委員会

教　育　長　　友　野　　隆

例　言

1．この報告は1980年度に福岡県教育委員会が建設省九州地方建設局の委託を受けて実施した一般国道202号線今宿バイパス建設予定地に係る埋蔵文化財の調査記録である。

2．包含層出土の獣骨等について九州大学医学部解剖学教室船越公威氏に，16号住居跡出土の鉄器については新日本製鉄の佐々木稔氏に，27号住居跡出土の鉄滓等については新日本製鉄の大澤正己氏に，黒曜石・サヌカイトの産地分析については京都大学原子炉研究所の藁科哲男・東村武信氏にそれぞれ依頼し，玉稿を頂いた。

3．本報告の執筆分担は下記のとおりである。

Ⅰ……橋口　達也
Ⅱ－1……橋口　達也
　2－a……橋口　達也
　　b……中間　研志
　　c……中間　研志
　　d……中間　研志
　　e－1）……橋口　達也
　　　2）……船越　公威
　　f……橋口　達也
　3……中間　研志
Ⅲ－1……佐々木　稔・村田　明美・伊藤　薫
　2……大澤　正己
　3……中間　研志
　4……藁科　哲男・東村　武信
Ⅳ……橋口　達也

4．土器・鉄器の実測は橋口が，石器・紡錘車・玉類等の実測は中間が行い，製図は中間・豊福弥生が行った。巻頭カラー図版の撮影は九州歴史資料館の石丸洋による。又遺物撮影は石丸洋と平島美代子が行った。

5．遺物の復原作業は岩瀬正信の指導の下に九州歴史資料館で行った。

6．本書の編集は橋口が行った。

本文目次

頁

Ⅰ．はじめに……1
Ⅱ．遺物……5
1．はじめに……5
2．夜臼期の遺物……5
a．土器・土製品……5
1）はじめに……5
イ．器種―とくに甕と深鉢について―……5
ロ．土器の器面調整について……6
2）遺構に伴う土器・土製品……7
3）包含層出土の土器・土製品……195
4）小結……321
（以上上巻）
b．紡錘車……323
c．石器……328
d．玉……412
e．自然遺物……413
1）炭化米および籾圧痕……413
2）曲り田遺跡出土の脊椎動物遺存体……415
f．鉄器……423
3．縄文土器……423
Ⅲ．自然科学的調査……429
1．出土鉄片の金属学的調査……429
2．曲り田遺跡出土の鉄塊・鉄滓・銅滓の金属学的調査……433
3．黒曜石・サヌカイトの産地分析の試料について……443
4．曲り田遺跡出土の石器原材の産地分析……445
Ⅳ．おわりに……456
（以上中巻）

挿図目次

（上　巻）

頁

第 1 図　7号住居跡出土土器1（縮尺1/3）……8
第 2 図　7号住居跡出土土器2（縮尺1/3）……10
第 3 図　8号住居跡出土土器1（縮尺1/6）……12
第 4 図　8号住居跡出土土器2（縮尺1/3）……14
第 5 図　8号住居跡出土土器3（縮尺1/3）……16
第 6 図　8号住居跡出土土器4（縮尺1/3）……18
第 7 図　11号住居跡出土土器1（縮尺1/3）……22
第 8 図　11号住居跡出土土器2（縮尺1/3）……24
第 9 図　11号住居跡出土土器3（縮尺1/3）……28
第 10 図　12号住居跡出土土器（縮尺1/3）……31
第 11 図　13号住居跡出土土器1（縮尺1/3）……34
第 12 図　13号住居跡出土土器2（縮尺1/3）……36
第 13 図　13号住居跡出土土器3（縮尺1/3）……38
第 14 図　13号住居跡出土土器4（縮尺1/3）……42
第 15 図　13号住居跡出土土器5（縮尺1/3）……44
第 16 図　13号住居跡出土土器6（縮尺1/3）……48
第 17 図　14号住居跡出土土器（縮尺1/3）……52
第 18 図　15号住居跡出土土器（縮尺1/3）……55
第 19 図　16号住居跡出土土器（縮尺1/3）……56
第 20 図　17号住居跡出土土器1（縮尺1/3）……60
第 21 図　17号住居跡出土土器2（縮尺1/3）……62
第 22 図　17号住居跡出土土器3（縮尺1/3）……66
第 23 図　17号住居跡出土土器4（縮尺1/3）……70
第 24 図　17号住居跡出土土器5（縮尺1/3）……72
第 25 図　17号住居跡出土土器6（縮尺1/3）……76
第 26 図　17号住居跡出土土器7（縮尺1/3）……80
第 27 図　17号住居跡出土土器8（縮尺1/3）……84
第 28 図　18号住居跡出土土器1（縮尺1/3）……88
第 29 図　18号住居跡出土土器2（縮尺1/3）……90

第 30 図　18・19・25号住居跡上面出土土器（縮尺1/3）……92
第 31 図　21号住居跡出土土器　（縮尺1/3）……93
第 32 図　23号住居跡出土土器　（縮尺1/3）……94
第 33 図　24号住居跡出土土器　（縮尺1/3）……94
第 34 図　25号住居跡出土土器　（縮尺1/3）……95
第 35 図　26号住居跡出土土器1（縮尺1/3）……98
第 36 図　26号住居跡出土土器2（縮尺1/3）……100
第 37 図　26号住居跡出土土器3（縮尺1/3）……104
第 38 図　28号住居跡出土土器1（縮尺1/3）……106
第 39 図　28号住居跡出土土器2（縮尺1/3）……108
第 40 図　28号住居跡出土土器3（縮尺1/3）……110
第 41 図　28号住居跡出土土器4（縮尺1/3）……112
第 42 図　29号住居跡出土土器　（縮尺1/3）……115
第 43 図　30号住居跡出土土器　（縮尺1/3）……117
第 44 図　32号住居跡出土土器　（縮尺1/3）……118
第 45 図　25・26・32号住居跡付近出土土器（縮尺1/3）……118
第 46 図　33号住居跡出土土器1（縮尺1/3）……120
第 47 図　33号住居跡出土土器2（縮尺1/3）……122
第 48 図　33号住居跡出土土器3（縮尺1/3）……124
第 49 図　33号住居跡出土土器4（縮尺1/3）……126
第 50 図　33号住居跡出土土器5（縮尺1/3）……130
第 51 図　33号住居跡出土土器6（縮尺1/3）……134
第 52 図　33号住居跡出土土器7（縮尺1/3）……138
第 53 図　33号住居跡出土土器8（縮尺1/3）……142
第 54 図　33号住居跡出土土器9（縮尺1/3）……144
第 55 図　34号住居跡出土土器　（縮尺1/3）……145
第 56 図　36号住居跡出土土器　（縮尺1/3）……148
第 57 図　38号住居跡出土土器　（縮尺1/3）……150
第 58 図　39号住居跡出土土器1（縮尺1/3）……153
第 59 図　39号住居跡出土土器2（縮尺1/3）……154
第 60 図　39号住居跡出土土器3（縮尺1/3）……158
第 61 図　39号住居跡出土土器4（縮尺1/3）……160
第 62 図　40号住居跡出土土器1（縮尺1/3）……162

第 63 図　40号住居跡出土土器２（縮尺1/3）……164
第 64 図　40号住居跡出土土器３（縮尺1/3）……166
第 65 図　40号住居跡出土土器４（縮尺1/3）……170
第 66 図　40号住居跡出土土器５（縮尺1/3）……172
第 67 図　40号住居跡出土土器６（縮尺1/3）……174
第 68 図　40号住居跡出土土器７（縮尺1/3）……177
第 69 図　41号住居跡出土土器１（縮尺1/3）……180
第 70 図　41号住居跡出土土器２（縮尺1/3）……182
第 71 図　41号住居跡出土土器３（縮尺1/3）……185
第 72 図　42号住居跡出土土器１（縮尺1/3）……188
第 73 図　42号住居跡出土土器２（縮尺1/3）……191
第 74 図　１号支石墓棺外副葬小壺（縮尺1/3）……192
第 75 図　支石墓・甕棺墓墓壙内出土土器（縮尺1/3）……193
第 76 図　黒色包含層出土土器１（縮尺1/3）……196
第 77 図　黒色包含層出土土器２（縮尺1/3）……197
第 78 図　Ｗ－１区包含層出土土器１（縮尺1/3）……199
第 79 図　Ｗ－１区包含層出土土器２（縮尺1/3）……202
第 80 図　Ｗ－１区包含層出土土器３（縮尺1/3）……204
第 81 図　Ｗ－１区包含層出土土器４（縮尺1/3）……206
第 82 図　Ｗ－２区包含層出土土器１（縮尺1/3）……208
第 83 図　Ｗ－２区包含層出土土器２（縮尺1/3）……210
第 84 図　Ｗ－２区包含層出土土器３（縮尺1/3）……212
第 85 図　Ｗ－２区包含層出土土器４（縮尺1/3）……214
第 86 図　Ｗ－２区包含層出土土器５（縮尺1/3）……216
第 87 図　Ｗ－２区包含層出土土器６（縮尺1/3）……218
第 88 図　Ｗ－２区包含層出土土器７（縮尺1/3）……220
第 89 図　Ｗ－２区包含層出土土器８（縮尺1/3）……223
第 90 図　Ｗ－３区包含層（８層）出土土器１（縮尺1/3）……226
第 91 図　Ｗ－３区包含層（８層）出土土器２（縮尺1/3）……228
第 92 図　Ｗ－３区包含層（８層）出土土器３（縮尺1/3）……230
第 93 図　Ｗ－３区包含層（８層）出土土器４（縮尺1/3）……232
第 94 図　Ｗ－３区包含層（８層）出土土器５（縮尺1/3）……234
第 95 図　Ｗ－３区包含層（８層）出土土器６（縮尺1/3）……236

第 96 図　W－3 区包含層(８層)出土土器７（縮尺1/3）……238
第 97 図　W－3 区包含層(８層)出土土器８（縮尺1/3）……240
第 98 図　W－3 区包含層(８層)出土土器９（縮尺1/3）……242
第 99 図　W－3 区包含層(８層)出土土器10（縮尺1/3）……244
第 100 図　W－3 区包含層(９層)出土土器11（縮尺1/3）……245
第 101 図　W－3 区包含層(11層)出土土器12（縮尺1/3）……246
第 102 図　W－3 区包含層(11層)出土土器13（縮尺1/3）……248
第 103 図　W－3 区包含層(11層)出土土器14（縮尺1/3）……250
第 104 図　W－3 区包含層(11層)出土土器15（縮尺1/3）……252
第 105 図　W－3 区包含層(11層)出土土器16（縮尺1/3）……254
第 106 図　W－3 区包含層(11層)出土土器17（縮尺1/3）……256
第 107 図　W－3 区包含層(11層)出土土器18（縮尺1/3）……259
第 108 図　W－3 区包含層(12～15層)出土土器19（縮尺1/3）……260
第 109 図　W－3 区包含層(12～15層)出土土器20（縮尺1/3）……264
第 110 図　W－3 区包含層(12～15層)出土土器21（縮尺1/3）……266
第 111 図　W－3 区包含層(12～15層)出土土器22（縮尺1/3）……267
第 112 図　W－3 区包含層(12～15層)出土土器23（縮尺1/3）……268
第 113 図　W－3 区包含層(12～15層)出土土器24（縮尺1/3）……271
第 114 図　W－3 区包含層(16層)出土土器25（縮尺1/3）……272
第 115 図　W－3 区包含層(16層)出土土器26（縮尺1/3）……275
第 116 図　W－3 区包含層(17層)出土土器27（縮尺1/3）……276
第 117 図　W－3 区包含層(17層)出土土器28（縮尺1/3）……278
第 118 図　W－4 区包含層(８・９層)出土土器１（縮尺1/3）……280
第 119 図　W－4 区包含層(８・９層)出土土器２（縮尺1/3）……282
第 120 図　W－4 区包含層(８・９層)出土土器３（縮尺1/3）……284
第 121 図　W－4 区包含層(８・９層)出土土器４（縮尺1/3）……287
第 122 図　W－4 区包含層(８・９層)出土土器５（縮尺1/3）……289
第 123 図　W－4 区包含層(12・14・15層)出土土器６（縮尺1/3）……292
第 124 図　W－4 区包含層(12・14・15層)出土土器７（縮尺1/3）……294
第 125 図　W－4 区包含層(11・16層)出土土器８（縮尺1/3）……296
第 126 図　W－4 区包含層出土土器９（縮尺1/3）……298
第 127 図　W－4 区包含層出土土器10（縮尺1/3）……300
第 128 図　W－4 区包含層出土土器11（縮尺1/3）……302

第 129 図　W－4 区包含層出土土器12（縮尺1/3）……304
第 130 図　W－4 区包含層出土土器13（縮尺1/3）……306
第 131 図　W－4 区包含層出土土器14（縮尺1/3）……308
第 132 図　W－4 区包含層出土土器15（縮尺1/3）……310
第 133 図　W－4 区包含層出土土器16（縮尺1/3）……312
第 134 図　W－4 区包含層出土土器17（縮尺1/3）……315
第 135 図　W－4 区包含層出土土器18（縮尺1/3）……316
第 136 図　W－4 区包含層出土土器19（縮尺1/3）……318
第 137 図　W－4 区包含層出土土器20（縮尺1/3）……320

（中　巻）

第 138 図　紡錘車実測図 1（縮尺1/2）……324
第 139 図　紡錘車実測図 2（縮尺1/2）……326
第 140 図　磨製石鏃実測図 1（縮尺2/3）……329
第 141 図　磨製石鏃実測図 2（縮尺2/3）……332
第 142 図　磨製石剣実測図（縮尺2/3）……334
第 143 図　磨製石剣未製品・他実測図（縮尺2/3）……336
第 144 図　石刀・他実測図（縮尺1/2）……338
第 145 図　扁平片刃・抉入柱状片刃石斧実測図（縮尺2/3）……339
第 146 図　石庖丁実測図 1（縮尺1/2）……342
第 147 図　石庖丁実測図 2（縮尺1/2）……344
第 148 図　穿孔具実測図（縮尺2/3）……347
第 149 図　石斧実測図 1（縮尺1/2）……350
第 150 図　石斧実測図 2（縮尺1/2）……351
第 151 図　石斧実測図 3（縮尺1/2）……353
第 152 図　石斧実測図 4（縮尺1/2）……355
第 153 図　石斧実測図 5（縮尺1/2）……357
第 154 図　石斧実測図 6（縮尺1/2）……358
第 155 図　石斧実測図 7（縮尺1/2）……360
第 156 図　石斧実測図 8（縮尺1/2）……361
第 157 図　砥石実測図 1（縮尺1/2）……364
第 158 図　砥石実測図 2（縮尺1/2）……366
第 159 図　砥石実測図 3（縮尺1/3）……368

第160図　砥石・石錘・石皿実測図（縮尺1/2・1/4）……370
第161図　敲石・磨石実測図（縮尺1/2）……372
第162図　半球形有孔滑石製品・火鑽臼状石製品実測図（縮尺1/3）……373
第163図　打製石鏃実測図1（縮尺2/3）……376
第164図　打製石鏃実測図2（縮尺2/3）……378
第165図　打製石鏃実測図3（縮尺2/3）……381
第166図　打製石鏃実測図4（縮尺2/3）……385
第167図　打製石鏃実測図5（縮尺2/3）……388
第168図　打製石鏃・石槍実測図6（縮尺2/3）……392
第169図　石錐・スクレイパー実測図1（縮尺2/3）……394
第170図　スクレイパー実測図2（縮尺2/3）……398
第171図　スクレイパー実測図3（縮尺2/3）……400
第172図　使用剝片実測図1（縮尺2/3）……402
第173図　使用剝片・石刃実測図2（縮尺2/3）……404
第174図　石刃・石核実測図（縮尺2/3）……408
第175図　玉類・耳栓実測図（縮尺2/3）……412
第176図　16号住居跡出土鉄器実測図（縮尺2/3）……423
第177図　縄文土器実測図（縮尺1/3）……424
（大澤論文）
第178図　曲り田27号住居跡（縮尺1/3）……434
（藁科・東村論文）
図　1　黒曜石産地……446
図　2　サヌカイト産地……452

表　目　次

（上　巻）

頁

第1表　今宿バイパス関係埋蔵文化財報告書一覧……1
第2表　今宿バイパス関係埋蔵文化財発掘調査の実績及び予定一覧……2・3

（中　巻）

第3表　炭化米及び籾圧痕計測表……414

（船越論文）

表　1　ニホンイノシシの歯牙出土数量表 ……415
表　2　ニホンイノシシの骨格出土数量表 ……415
表　3　ニホンイノシシの出土歯牙に基づく推定最少個体数 ……417
表　4　ニホンジカ骨格・歯牙出土数量表 ……418
表　5　ニホンジカの下顎後臼歯における磨滅指数・頬側咬頭磨滅面径・歯冠高及び臼歯率 ……418

（大澤論文）

Table. 1　供試材の履歴及び調査項目 ……435
Table. 2　供試鉄滓の化学組成……441
Table. 3　ジルコン含有砂鉄製錬系鉄塊と鉱石系鉄塊の出土例 ……442
Table. 4　鉄滓と銅滓・銅粒の共存出土例……442

（藁科・東村論文）

表　1　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差 …… 448・449
表　2　各サヌカイトの原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差 …… 450・451
表　3　曲り田遺跡出土の石片分析結果 ……453
表　4　曲り田遺跡出土の石片石材産地推定結果……454

本文中図版目次

（上　巻）

Photo. 1　土器の器面調整法 1
Photo. 2　土器の器面調整法 2

（中　巻）

Photo. 3　42号住居跡柱穴内出土剝片 1
Photo. 4　42号住居跡柱穴内出土剝片 2
Photo. 5　炭化米および籾圧痕 1
Photo. 6　炭化米および籾圧痕 2
Photo. 7　石材分析資料 1
Photo. 8　石材分析資料 2

（船越論文）
図 版 1　ニホンイノシシの上顎骨・下顎骨及び歯牙
図 版 2　W－3区8層から出土したニホンイノシシの骨格
図 版 3　W－3区10～11層から出土したニホンイノシシの骨格
図 版 4　W－3区16層・17層から出土したニホンイノシシの骨格
図 版 5　W－4区8層から出土したニホンイノシシ上顎骨・切歯骨及び歯牙
図 版 6　W－4区8層から出土したニホンイノシシの骨格
図 版 7　W－4区11～16層から出土したニホンイノシシ1体分の骨格
図 版 8　W－3区から出土したニホンジカの骨格・角及び歯牙
図 版 9　W－3区出土のイヌ・アナグマの骨格
図 版 10　W－3区11層から出土したイノシシ右腓骨の加工品
（佐々木・村田・伊藤論文）
写 真 1　鉄片の外観
写 真 2　採取した黒錆試片のマクロ組織
写 真 3　黒錆試片の顕微鏡組織
写 真 4　黒錆中にもとの鋼と鋳鉄の組織が残されている例
（大澤論文）
Photo. 1　小鉄塊・鉄滓の顕微鏡組織
Photo. 2　鉄滓・鉄片の顕微鏡組織
Photo. 3　鉄滓の顕微鏡組織
Photo. 4　銅滓・(銅粒)・鉄滓の顕微鏡組織
Photo. 5　(その1)小鉄塊(O－831)の非金属介在物の走査X線像(金属鉄)
(その2)小鉄塊(O－831)の非金属介在物のエネルギー分散分析結果(金属鉄)
Photo. 6　(その1)銅滓ガラス質部分のエネルギー分散分析結果
(その2)銅滓中銅粒部分のエネルギー分散分析結果

Ⅰ．はじめに

建設省九州地方建設局から福岡県教育委員会が委託を受けた一般国道202号線今宿バイパス関係の埋蔵文化財の発掘調査の進行状況は第2表に示すとおりである。これらの発掘調査の成果は現在まで「今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告」として第1集～第8集が刊行されている（第1表）。

第9集で報告を行うのは第28地点，糸島郡二丈町石崎（いしざき）所在「曲り田遺跡」の調査であるが，遺構と弥生時代以後の遺物は既に第8集で報告ずみであるので，今回は夜臼期以前の遺物についてとりあげる。遺物の量が多いので考察は割愛せざるを得なかったが，この部分は第11集と

第1表　今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告書一覧

番　号	副　　題	収録した遺跡	報　告　者	備　　考
第1集	福岡市大字拾六町所在の遺跡群	湯納遺跡 宮の前遺跡・E地点 高崎古墳群 大又遺跡	浜田　信也 酒井　仁夫 浜田 副島　邦弘	1969年調査 1970年報告
第2集	福岡市大字徳永・飯氏所在の遺跡	若八幡古墳 飯氏馬場遺跡 飯氏鏡原遺跡	柳田康雄，浜田，副島 永井　昌文 柳田，副島，浜田	1970・71年調査 1971年報告
第3集	福岡市西区大字拾六町所在の遺跡	高崎古墳群 大又遺跡	栗原　和彦 上野　精志	1971年調査 1973年報告
第4集	福岡市西区大字拾六町所在 湯納遺跡の調査	湯納遺跡	青峰重範，松本　昂 林　弘也，山本輝雄 栗原，上野，馬田弘稔	1971・72年調査 1976年報告
第5集	福岡市西区・糸島郡前原町所在 遺跡の調査	湯納遺跡 今宿大塚南遺跡 今宿高田遺跡 今宿小塚遺跡 糸島平野条里及び古野遺跡 上鑵子遺跡	沢村　仁 松本，林 細川　隆英 粉川　昭平 弓場　紀知 栗原，柳田 上野，馬田	1971・72・73年調査 1977年報告
第6集	糸島郡前原町大字波多江所在 「波多江遺跡」	波多江遺跡	松本，林，大澤正己 丸山雍成，橋口達也 高橋　章，馬田	1978年調査 1982年報告
第7集	糸島郡二丈町深江・大入地区所在 遺跡の調査	塚田遺跡 鎮懐石八幡宮裏古墳 赤岸遺跡	大澤，橋口，中間 橋口達也 中間研志	1979年調査 1982年報告
第8集	石崎・曲り田遺跡Ⅰ	曲り田遺跡	橋口達也，中間研志 上原周三，長　哲二	1980・81年調査 1983年報告
第9集	石崎・曲り田遺跡Ⅱ	曲り田遺跡	佐々木稔，大澤正己 東村武信，藁科哲男 船越公威 橋口達也，中間研志	1980・81年調査 1984年報告
第10集	今宿高田遺跡	今宿高田遺跡	大澤正己，橋口達也 佐々木隆彦	1982年調査 1984年報告

第2表　今宿バイパス関係埋蔵文化財発掘調査の実績及び予定一覧

地点番号	遺跡名	所在地	調査所要区間			既調査面積		
			長さ	幅	面積	44年度	45年度	46年度
			m	m	m²	m²	m²	m²
1	遺物散布地	福岡市西区大字拾六町	34	28	520	45		
2	〃	〃	52	50	2,600	63		
3	湯納遺跡	〃	280	40	11,200	168		1,200
3	〃	〃	30	20	600			
4	宮の前遺跡	〃	110	40	4,400	400		
5	高崎1・2号墳	〃	36	15	540	160		
6	大又遺跡	〃	57	20	1,140	300		900
6	高崎3・4・5号墳	〃	40	15	600	200		249
7	須恵器散布地	〃	55	20	1,100	27		
8	弥生散布地	〃	33	39	1,287			
9	若八幡古墳	福岡市西区徳永	50	40	2,000		1,100	
10	馬場遺跡	福岡市西区飯氏	70	70	4,900		290	
11	鏡原遺跡	〃	70	50	3,500		550	
12	条里遺跡	福岡市西区大字飯氏～糸島郡前原町篠原	3,000	40	120,000			136
13	古野遺跡	糸島郡前原町大字有田・篠原	150	40	6,000			482
14	上鐘子遺跡	糸島郡前原町大字有田	70	30	2,100			304
15	遺物散布地	〃	300	30	9,000			
16	古墳2基	糸島郡前原町	30	30	900			
17	遺物散布地	〃	100	30	3,000			
18	〃	〃	40	30	1,200			
19	今宿高田遺跡	福岡市西区大字今宿字高田	50	40	2,000			
19′	今宿大塚南遺跡	福岡市西区大字今宿	100	40	4,000			
20	今宿小塚遺跡	福岡市西区大字今宿女原	30	40	1,200			
21	遺物散布地	糸島郡前原町	250	20	5,000			
22	〃	〃	50	40	2,000			
23	〃	〃	100	20	2,000			
24	〃	〃	230	20	4,600			
25	〃	〃	150	20	3,000			
26	〃	〃	200	20	4,000			
27	太田遺跡	糸島郡前原町東	300	30	9,000			
28	石崎曲り田遺跡	糸島郡二丈町大字石崎字曲り田	200	30	6,000			
29	遺物散布地	糸島郡二丈町大字上深江	100	40	4,000			
30	〃	糸島郡二丈町大字深江	100	40	4,000			
31	〃	〃	100	30	3,000			
(32)	鎮懐石八幡宮裏古墳	〃						
(33)		糸島郡二丈町大入						
(34)	赤岸遺跡	〃						

既調査面積									残調査予定面積	備考
47年度	48年度	53年度	54年度	55年度	56年度	57年度	58年度	計		
㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	
								45	0	調査不要
								63	0	〃
4,612								5,980	0	発掘調査終了，報告書既刊
	450							450	0	〃
								400	0	報告書既刊
								160	0	発掘調査終了，報告書既刊
								1,200	0	〃
								449	0	〃
								27	0	調査不要
								0	0	消滅
								1,100	0	保存確定，報告書既刊
								290	2,000	一部調査終了，報告書既刊
								550	2,000	〃
		3,360						3,496	0	調査終了，報告書既刊
								482	0	〃
630								934	0	〃
									4,500	
									0	路線変更のため調査不要
									0	〃
									1,000	旧追1
						2,000		2,000	0	旧追2，今回報告
	650							650	0	旧追2，調査終了，報告書既刊
	500							500	0	旧追3，〃
									1,000	
									400	
									400	
									900	
									600	
									800	
							2,700	2,700	0	58年度調査，59年度報告予定
				2,000				2,000	0	調査終了，57年度一部報告 今回一部報告
				100				100	0	遺構なし
			3,000					3,000	0	調査終了，56年度報告
									0	調査不要
			100					100	0	調査終了，56年度報告 （二丈浜玉道路）
			30					30	0	調査終了，遺構なし （二丈浜玉道路）
			224					350	0	56年度報告（二丈浜玉道路）

して早急に刊行するよう努力したい。

調査関係者は下記のとおりである。

総　括	福岡県教育委員会	教育長	友野　隆
		文化課長	藤井　功
庶務・会計		文化課主任主事	川村喜一郎
調査担当		〃　技術主査	橋口達也
		〃　主任技師	中間研志

なお，遺物整理・図面整理・浄書等に大野由美子，蓑原鈴美，大田育子の諸姉には多大の協力を受けた。記して感謝する。

II. 遺　物

1．はじめに

遺構編で述べているように，当遺跡は縄文時代，夜臼期，弥生時代，古墳時代，奈良・平安時代の遺構が複雑に重複していた。奈良・平安時代の遺構と甕棺は比較的容易に検出できたが，弥生時代以前の遺構が複雑に重複する部分では北端の輪郭のみはわかっていても，全容を把握するには困難をきわめ，遺構検出のためやむなく遺構面を徐々に下げていったため，結果的には上層の弥生時代中期・後期の住居跡等をかなりとばしてしまっている。したがって第８集で報告した弥生時代以後の遺物は，発掘時に確実にその遺構に伴うものとしてとりあげた遺物のみに限っている。これら上層の住居跡の柱穴等に伴う遺物が，下層の夜臼期の住居跡を発掘する際にかなり混入していた。又，夜臼期の住居跡の床面下に縄文土器も若干ではあるがみられた。発掘時に確認したものは当初から床面下の土器としてとりあげたが，一部は夜臼期のものと一緒にとりあげている。これらは発掘に忠実に，今回夜臼期の遺物をとりあつかう際に一緒に報告し，判明する分についてはどの遺構に伴うものかを明らかにしたい。

2．夜臼期の遺物

a．土器・土製品

1）はじめに

イ．器種 —— とくに甕と深鉢について ——

曲り田遺跡出土の土器には，壺・埦・高坏・浅鉢・深鉢・鉢・甕・甑等の種類がみられる。ところが縄文式土器を主に対象とする研究者と弥生式土器を対象とする研究者とで，甕と深鉢についての認識が異っている観があり，若干の混乱が生じているといえよう。いま詳しく分類を試みる気はないが，記述の都合上，本書で使用した甕と深鉢について説明を加えておこう。

まず，深鉢とは，かって夜臼式土器ｂと仮称されていた土器で，口縁は外反し，肩部でつよく屈折した器形のものをいう。(註1) この土器はその多くが丹塗り磨研又は黒色磨研を加えた精

製土器であり，御領式土器以来の深鉢の系譜をひくものである。口縁の破片のみでは大形壺との区別がつきにくい。

この深鉢以外の甕・深鉢と呼ばれる土器は，器形が浅く鉢として一目瞭然なものをのぞき，そのほとんどを甕としてとりあげる。甕は直立又はやや外反ぎみのものと，深鉢同様に肩部でつよく屈曲するものとに大別され，それらがそれぞれ刻目のないもの・刻目のあるもの・刻目凸帯を貼付するものに分けられる。刻目には棒状工具・爪・指押圧・ヘラ・板木口によるものと多種多様である。これらの他に，現在まで知られていなかった器形として把手付のものと，口縁が短かく直角に外反する小甕がみられた。

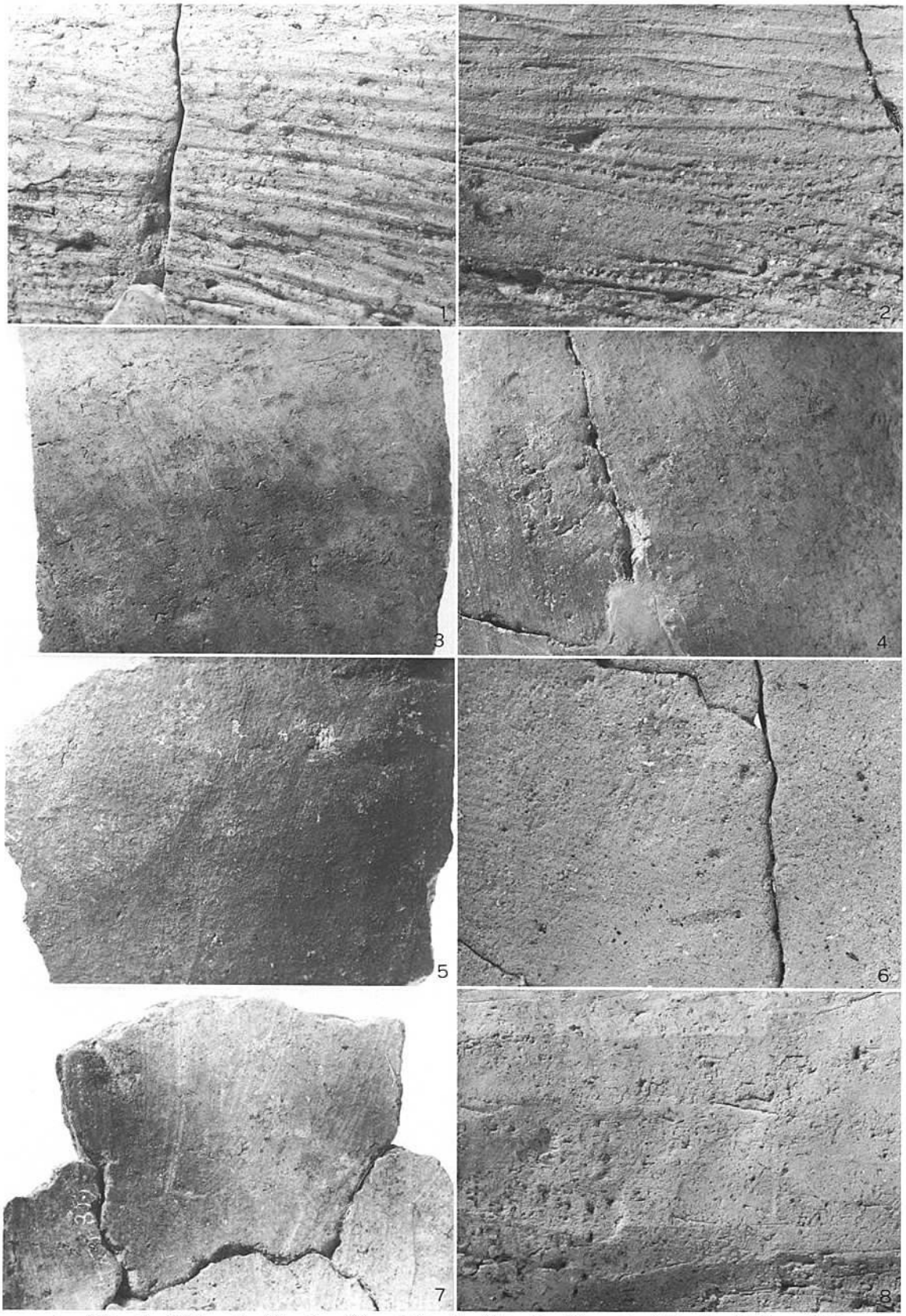
ロ．土器の器面調整について

この時期の土器の器面調整にはヘラミガキ，条痕，板状工具による擦過，ハケ目，ナデ等がみられる。板状工具による擦過とは聞きなれない用語ではあろうが，基本はハケ目と同様，板木口によって器面を擦過し，整えた痕跡である。ところでハケ目はこの擦過によって周知の模様(痕跡)がついたものであるが(註2) 同じ板木口による擦過にも，一見ヘラミガキ風のもの・条痕風のもの・ハケ目風のもの・ケズリ風のもの・ナデ風のもの各種がみられる。これらは板木口による擦過の起点痕が認められる。条痕は二枚貝腹縁によるものといわれているが，これも又，二枚貝腹縁によるもの以外に，板木口によるものも存在するのではないかと思われた。今後の検討が必要となろう。いまこれらの調整痕をPhoto.1に示すので参考にされたい。

では以下，土器の説明を加える。

註１）　森貞次郎・岡崎敬「1.福岡県板付遺跡」日本考古学協会編『日本農耕文化の生成』1961

２）　横山浩一「刷毛目調整工具に関する基礎的実験」九州文化史研究所紀要23．1978



1．（W－3，320）　2．（W－3，49）……条痕　3．（W－3，69）　4．（W－3，170）……擦過
5．（W－3，48）……ナデ風擦過　6．（W－3，260）　7．（W－3，103）……ハケ目風
8．（W－3，163内）……粗いミガキ風擦過

土器の器面調整法1

Photo. 2

9

10

11

12

13

14

15

16

9．（W－3，163外）14．（W－3，83外）……擦過　10．（W－3，78）　11．（W－3，176）……削り風擦過
12．（W－3，175）　13．（W－3，83内）……条痕風擦過　　15．（W－3，110外底）板木口によるカキトリ
16　（W－4，237）……ハケ目

土器の器面調整法2

2）遺構に伴う土器・土製品

7号住居跡出土土器（第1・2図）

1は壺の口縁である。復原口径は9cm程度である。外面から口縁内面にかけては横方向のミガキを施し，頸部内面には指頭圧痕がみられる。内面は黒色を呈し，外面は茶褐色～暗茶褐色を呈する。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好である。本来は黒色磨研壺と思われる。

2は黒色磨研壺の肩から胴部へかけての破片で，胴部最大径は21cm程に復原できる。肩部は段をつくっている。外面は横方向ミガキ，内面下半は横方向の擦過，肩部内面は指頭圧痕が認められる。又内面には爪跡が数個みられる。内外ともに黒色を呈し，胎土には砂粒を少量含む。焼成は硬く良好である。

3は直立する甕で，口縁は波状を呈している。復原口径は20cm，外面は板状工具による縦方向の擦過，口縁直下は横方向のナデがみられる。内面は風化のため調整法は不明。内面は灰白色を，外面は黒褐色を呈する。胎土には大粒の砂を多く含み，焼成は良好である。

4は直立する甕の口縁である。内面は一見ナデ風の横方向擦過，外面は横方向の擦過を施している。黒褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好である。

5は直立する甕の口縁部破片である。内外ともに風化のため調整法は観察できない。黒色を呈し，胎土にはやや多く砂粒を含み，焼成は軟質で不良といえる。

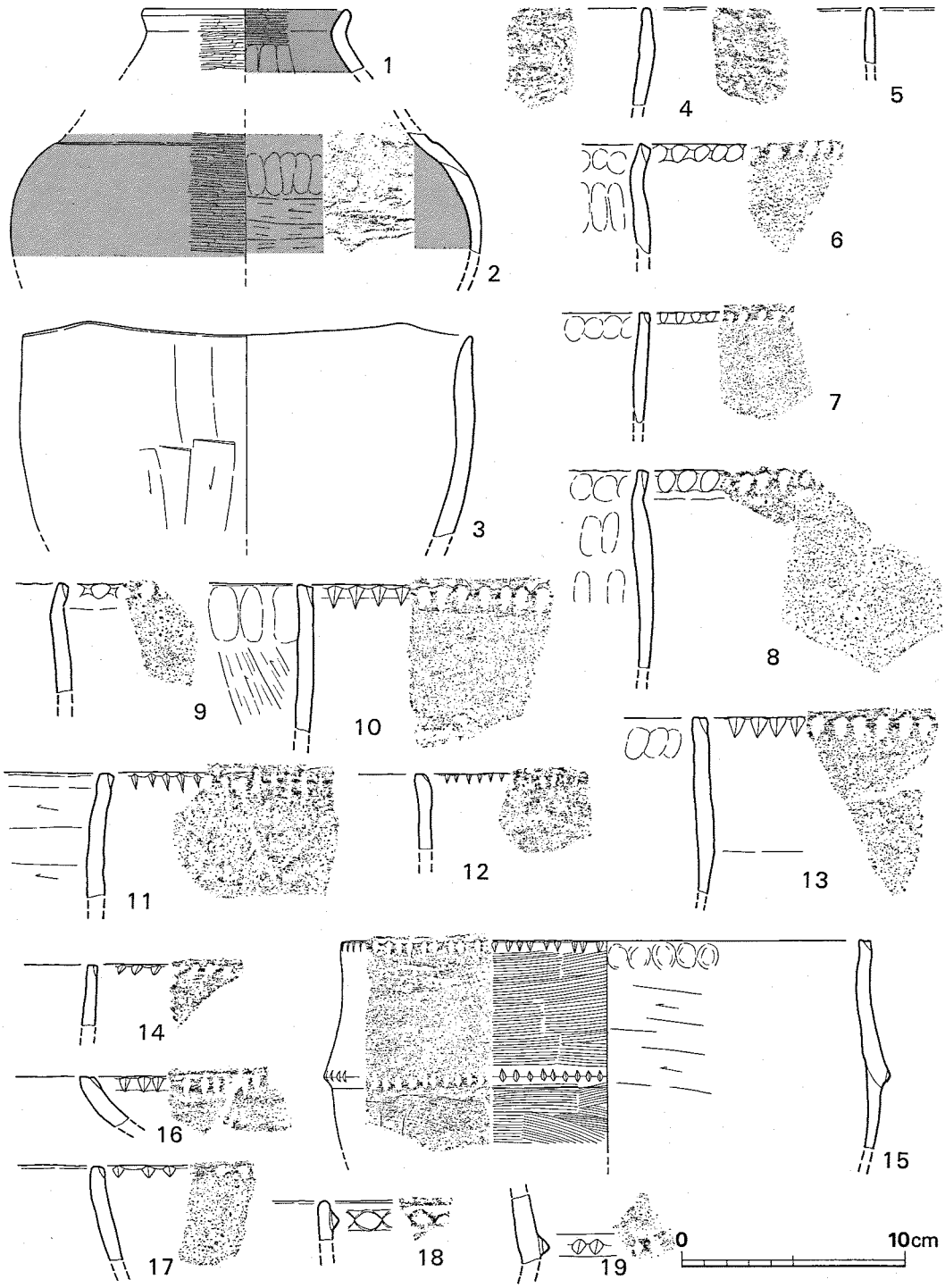
6は口縁部でわずかに外反する甕である。口縁部に棒状工具による刻目を施す。内面には指頭圧痕が認められるが，外面は風化のため調整法は不明。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は軟質で不良といえる。

7は直立する甕で，口縁部に棒状工具による刻目を施している。内面の口縁下には指頭圧痕が認められるが，以下は風化のため不明。外面は縦方向の擦過である。内面は赤褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや不良といえる。

8は口縁がわずかに外反する甕で，口縁には棒状工具による大きな刻目が施されている。内面にはかすかに指頭圧痕が認められるが，外面の調整は風化のためわからない。内面は黒褐色，外面は明茶褐色を呈する。胎土には多くの砂粒を含み，焼成は不良といえる。

9は口縁がわずかに外反する甕で，口縁には棒状工具による大きな刻目を施す。調整は内外ともに風化のため不明。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色で，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。色の感じなどがちがうが，8と同一個体の可能性がある。

10は直立する甕で，口縁部にヘラによる大きな刻目を施している。内面は縦方向の擦過で，口縁下は指によるナデ，外面は縦方向のナデ調整。内面は赤褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土



第 1 図　7 号住居跡出土土器 1（縮尺1/3）

にはやや多めの砂粒を含み，焼成は良好である。

11は直立する甕で，口縁部にヘラによる刻目を施している。内面は横方向の擦過，外面は風化のため調整法は不明。内面は黒褐色，外面は茶褐色を呈し，焼成はあまりよくない。

12は直立する甕で，口縁部にヘラによる繊細な刻目を施している。内面は横方向ナデ，外面は風化のため調整法不明。内面は暗褐色，外面は暗赤褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成はあまりよくない。

13は直立する甕で，口縁部にヘラによる大きな刻目を施す。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は赤褐色，外面は黒色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成はあまりよくない。

14は直立する甕で，口縁部にはヘラで刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は赤褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成はあまりよくない。

15は肩部で屈曲する甕で，口縁と肩部にヘラによる刻目を施す。5片からなる比較的大きな破片で，復原口径23.5cm，肩部径25.2cmを測る。内面口縁下には指頭圧痕が認められる。他は風化のため観察しにくいが，砂粒の流れからすると横方向の擦過を施している。外面の口縁から肩部の間は横方向のハケ目，肩部以下は横又は斜方向のハケ目を施し，部分的に強い横方向のナデつけがみられる。内面は明茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。肩部に黒斑が認められる。

16は肩部でつよく屈曲し，口頸部もつよく内傾する甕の口縁片である。ヘラによる刻目を施している。内面は風化のため調整法不明，外面は横方向のナデと思われる。内面は黄褐色，外面は黒色を呈し，胎土にはやや多めの砂粒を含み，焼成は良い。

17は肩部で屈曲する甕の口縁片で，ヘラによる刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

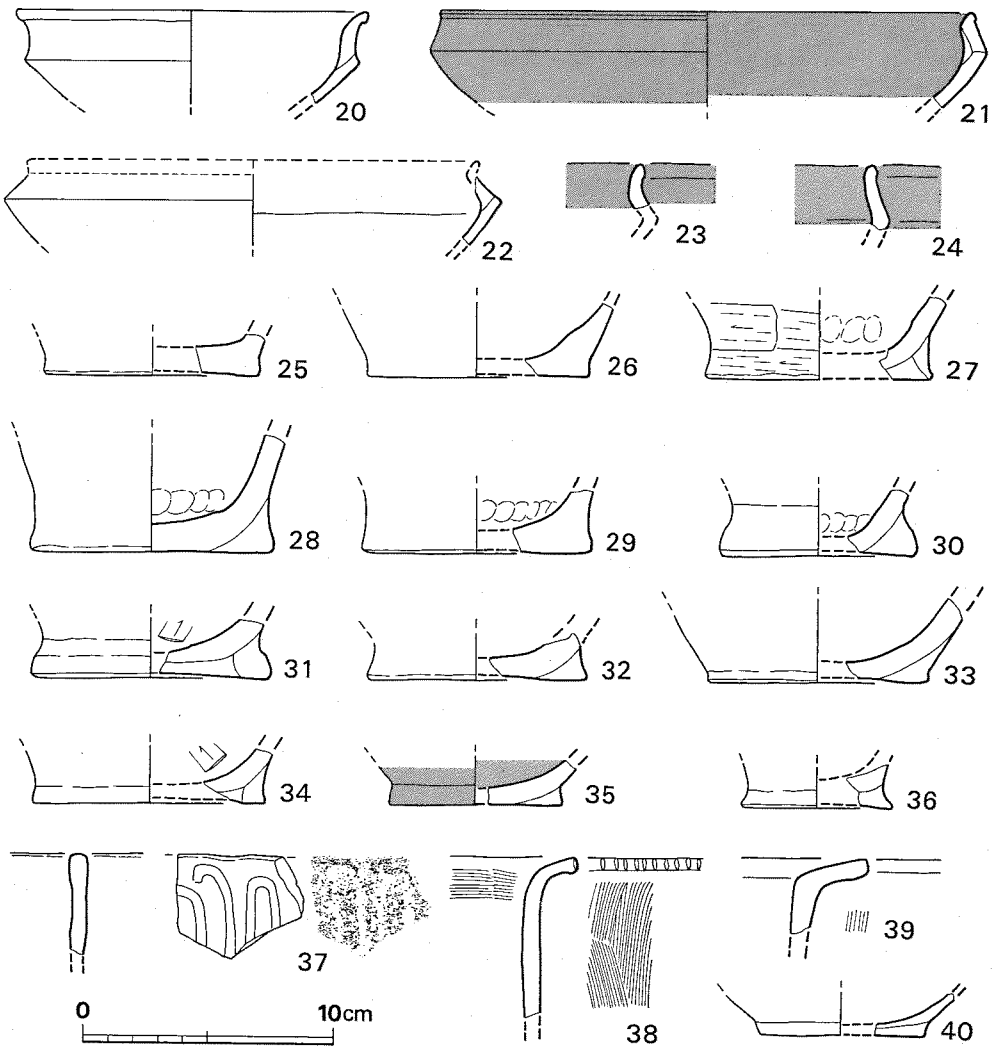
18は直立する甕で，口縁下に棒状工具による大きな刻目を施した凸帯をめぐらしている。調整は内外ともにナデ，内面は黒色，外面は暗褐色を呈し，胎土には細粒の砂をわずかに含み，焼成はあまりよくない。

19は肩部で屈曲する甕の肩部片である。ヘラによる刻目を施した凸帯を貼付している。調整法は内外ともに風化のため不明。茶褐色を呈し，胎土には細粒の砂を多く含み，焼成は良い。

20は小形の浅鉢又は高坏で，口径14cm弱に復原できる。内外ともに横方向ミガキである。茶褐色を呈し，胎土にはやや多めに砂粒を含み，焼成はあまりよくない。肩部下に一部黒斑が認められる。

21は黒色磨研の浅鉢片で，復原口径は約21cm。内外ともに横方向ミガキである。胎土には細粒の砂をやや多めに含み，焼成は良い。口縁から肩部にかけてはさらに丹塗りも施されている。

22は浅鉢肩部片で，肩部径は20cm弱に復原できる。風化のため調整法の観察は困難であるが，



第 2 図　7 号 住 居 跡 出 土 土 器 2（縮尺1/3）

内面の一部に横方向のミガキが認められる。暗褐色を呈し，胎土には細粒の金雲母片を含み，焼成はあまり良くない。本来は黒色磨研と思われる。

23は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキで，内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成はあまりよくない。

24は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキで，黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成はあまりよくない。

25は底部片で底径 8.5cm程に復原できる。内外ともに風化のため調整法は不明。明黄褐色を

呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良い。底部近くから外底にかけて小黒斑が認められる。

26は径 8.5cm程に復原できる底部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は明黄褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。又外面は二次的火熱を受けて一部赤褐色に赤変した部分がある。

27は径 9 cm程に復原できる底部である。内面には指頭圧痕が認められる。外面は横方向の擦過を施す。暗茶褐色を呈するが，外面は二次的火熱を受けてやや赤変している。胎土には砂粒を多く含み，焼成はあまりよくない。

28は復原径 9.7cmの底部である。内外ともにナデ調整で，内面には指頭圧痕が認められる。内面は灰白色，外面は淡褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

29は復原径 9 cm程の底部である。内外ともに風化のため調整法は不明であるが，内面には不明瞭ながら指頭圧痕が認められる。赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

30は復原径 7.8cm程の底部片である。内面はナデで，指頭圧痕が認められる。外面は風化のため不明。暗黄褐色を呈するが，外面は二次的火熱を受けて赤変している。胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや良い。

31は復原径 9.5cmの底部である。内面は擦過の後ナデを加える。外面はナデ，外底は板木口によるカキトリで上げ底状を呈する。内面は明赤褐色，外面は暗赤褐色，外底は黒色を呈する。胎土にはやや多めに砂粒を含み，焼成は良好である。

32は復原径 8.6cmの底部である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は明茶褐色を呈するが，外面は二次的火熱を受け暗赤褐色に赤変している。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。又つぎ目は擬口縁を呈している。

33は復原径 8.8cmの底部である。内外ともに風化のため調整法不明。赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はあまりよくない。

34は復原径 9.3cmの底部片である。内面は擦過，外面は風化のため不明。赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はあまりよくない。

35は復原径 6.8cmの黒色磨研の浅鉢底部である。風化のためミガキ方向は観察できない。胎土には砂粒を少量含み，焼成はよくない。

36は復原径 6.0cmの底部片である。風化のため内外ともに調整法は不明。赤褐色を呈するが外面は二次的火熱を受け，さらに赤桃色に赤変している。胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや良い。

以上の土器は 7 号住居跡に伴うものである。

37は縄文時代後期初頭頃のものと考えられる。床面下というより，丘頂部にあった縄文式土器の流入とみたほうがよい。灰黄色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は悪い。

38は 7 号住居跡内の小柱穴より出土したもので，上層から掘りこまれた穴への混入とみてよ

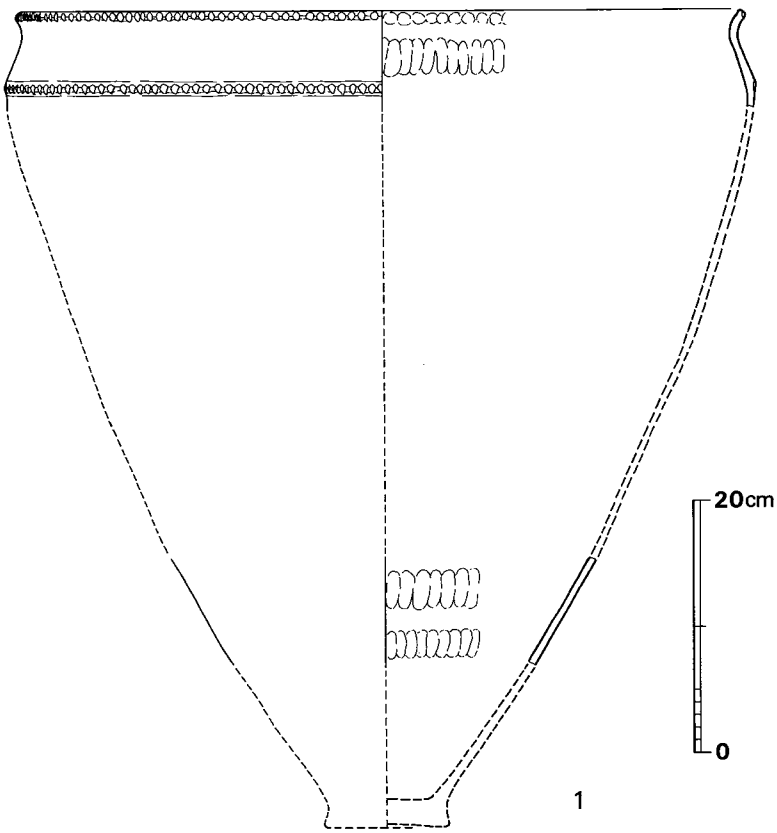
い。板付Ⅰ式の如意形口縁を呈する甕で，口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，口縁直下は横方向のハケ目，外面は縦方向の細かいハケ目を施す。内面は黄褐色，口縁内面から外面にかけては黒褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

39は弥生時代後期後半頃の鉢の口縁片である。おそらくは6号住居跡に伴う土器と考えられる。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良である。

40は平安時代初期の坏底部である。内外ともに風化のため調整法は不明。内外ともに黒色を呈し，精選粘土を用いている。焼成は軟質で不良。

8号住居跡出土土器（第3～6図）

1は肩部で屈曲する大形の甕で，破片は各部分にわたっているが，図示できる部分のみを示して復原した。口縁部は外反し，口縁と肩部に棒状工具による刻目を施している。復原器高65cm，復原口径57.2cmを測る。内外ともに風化いちじるしくて，調整法の観察は困難であるが，ただ内面には指頭圧痕がのこり，ナデ調整であろうと思われる。黄褐色で一部は灰黄色を呈するが，全体に二次的火熱を受けている。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成はよくない。



第 3 図　8 号 住 居 跡 出 土 土 器 1（縮尺1/6）

2は丹塗り磨研の深鉢又は大形壺の口縁部である。風化のためミガキ方向は不明。地は淡赤褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成はあまりよくない。

3は壺の口縁片である。風化のため調整法は不明。黄褐色部分と黒色部分がある。胎土には少量の砂粒を含み，焼成はあまりよくない。

4は黒色磨研壺の破片である。内面から口縁下にかけては横方向ミガキ，それ以下は縦方向の擦過である。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

5は丹塗り磨研壺の頸・肩部の破片である。風化のため内面の調整，外面のミガキ方向は不明。内面は灰色，外面の地は黄褐色，丹は暗赤色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成はあまりよくない。

6は黒塗り磨研壺の頸部破片である。内面には指頭圧痕が明瞭である。外面は横方向ミガキ。明黄褐色の地に淡黒褐色の黒色顔料を塗っている。胎土には砂粒を微量に含み，焼成は良好。

7は丹塗り磨研壺の胴部片である。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。地は黄色で，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

8は壺の口縁片である。風化のため内外ともに調整法は不明。黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はよくない。

9は黒色磨研壺の胴下半部と考えられる破片である。内面は砂粒の動きから横方向の擦過と思われるが，外面は風化のためミガキ方向は不明。内面は黒色，外面は灰黒色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや不良。

10は黒色磨研浅鉢の肩部片である。風化がいちじるしいが，外面は辛うじて横方向ミガキが観察できる。胎土には少量の砂粒を含み，焼成はよくない。

11は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外とも風化のためミガキ方向不明。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

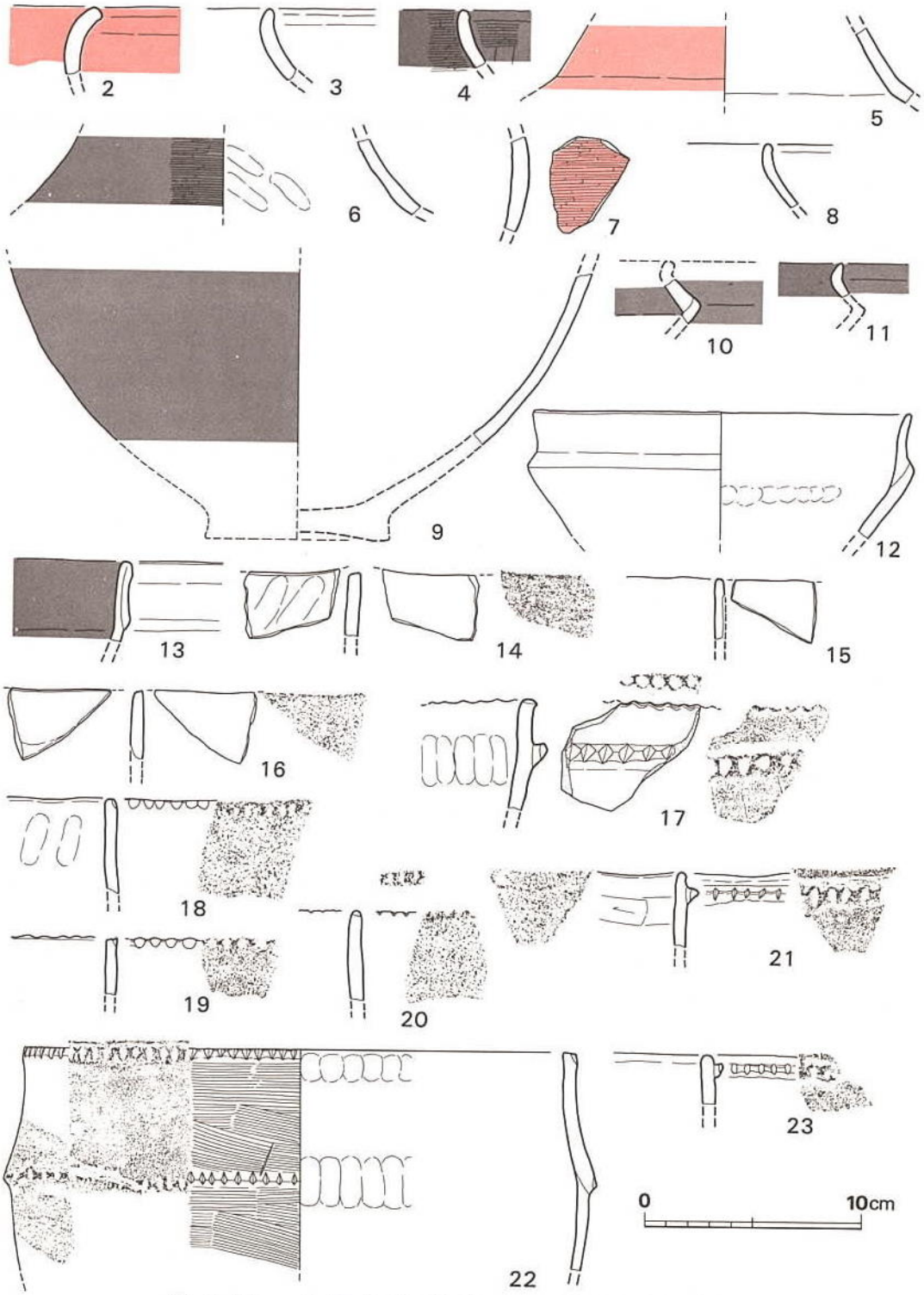
12は浅鉢の破片で，復原口径は約17cmを測る。内外ともにナデ調整。黒褐色～黒色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。磨研土器ではなく，一応粗製土器といえよう。

13は鉢と思われる。口縁は折り返している。このような技法は可楽里式甕の影響を受けたものであろうか。内面は横方向ミガキであるが，外面は風化のため調整法は不明。内面は黒色，外面は暗褐色を呈する。胎土にはやや多めに砂粒を含み，焼成はよい。内面の黒色磨研から外面も本来は黒色磨研であったものと思われる。

14は直立する甕の口縁片である。口縁はやや波状を呈する。内面はナデ調整で指頭圧痕がみられる。外面は風化のため不明。内面は淡黄色，外面は黒褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

15は直立する甕の口縁である。内外ともに風化のため調整法は不明。暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

16は直立する甕の口縁片である。内外ともに風化のため調整法不明。暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。



第 4 図　8 号 住 居 跡 出 土 土 器 2 （縮尺1/3）

17は直立する甕で，口縁上端には棒状工具による刻目を施し，口縁下２～３cmの間にはヘラによる刻目を施した凸帯を貼付している。内面には指頭圧痕が認められ，ナデ調整と思われるが，外面は風化のため調整法不明。淡黄色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成はあまりよくない。

18は直立する甕で，口縁には棒状工具による刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明であるが，内面には指頭圧痕がみられる。暗褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はよくない。

19は直立する甕で，口縁には棒状工具による刻目を施す。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は赤褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

20は直立する甕で，口縁上端にヘラによる刻目を施す。内外ともに風化のため調整法不明。内面は黒褐色，外面は黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は不良。

21は直立する甕で，口縁下にヘラによる刻目を施した凸帯を貼付している。内面は横方向擦過，外面は風化のため調整法不明。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

22は肩部で屈曲する甕で，口縁と肩部にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ調整で口縁下と肩部には指頭圧痕がみられる。外面はやや粗い横方向のハケ目を施している。内面下半は茶褐色，上半から外面にかけては黒褐色～暗茶褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良い。

23は直立する甕で，口縁下に棒状工具による刻目を施した凸帯を貼付している。内面から凸帯の上まではナデ，凸帯より下は風化のため不明。内面は明茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には多くの砂粒と金雲母を若干含み，焼成はやや不良。

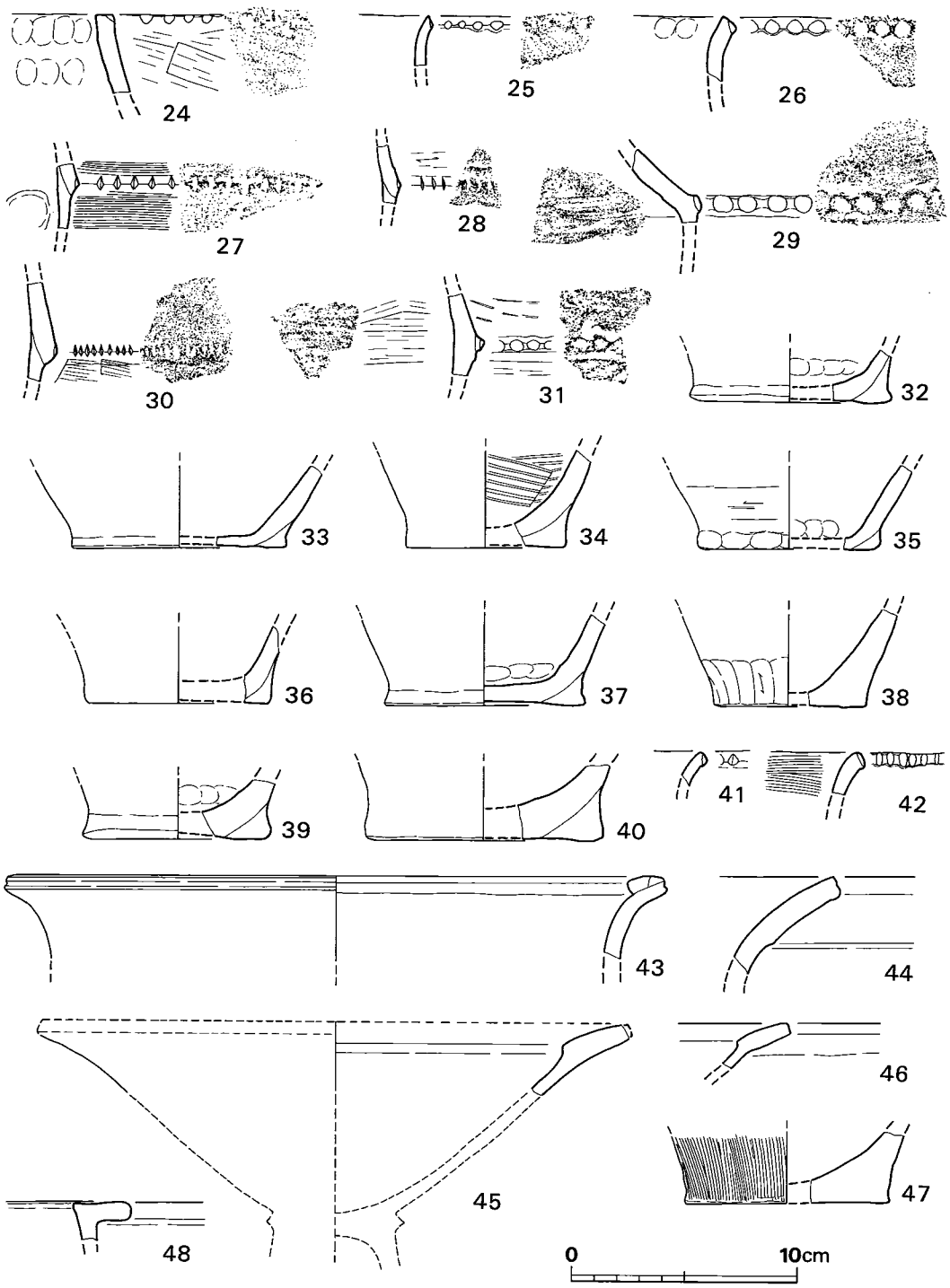
24は肩部で屈曲する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施す。内面はナデで指頭圧痕が認められ，外面は横方向の擦過である。内面は淡黄色，外面は黒褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良い。

25は肩部で屈曲する甕の口縁片である。口縁部には棒状工具による刻目を施す。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黄褐色，外面は赤褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

26は肩部で屈曲する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施す。風化のため内外ともに調整法は不明。黒褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良。

27は肩部で屈曲する甕の肩部片である。肩部にはヘラによる刻目を施す。内面には指頭圧痕が認められるのでナデと思われる。外面は横方向のハケ目を施している。内面は暗茶褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成はあまりよくない。15と同一個体の可能性もあるが，色調・胎土の感じなど微妙に異なる。

28は肩部で屈曲する甕の肩部片である。肩部にはヘラによる刻目を施す。内面の調整法は不



第 5 図　8 号 住 居 跡 出 土 土 器 3 (縮尺1/3)

明，外面の肩より上は横方向擦過，肩より下はナデ。内面は赤褐色，外面は暗赤褐色で，胎土にはやや少なめに砂粒を含み，焼成は良好。

29は肩で屈曲し，口頸部はつよく内傾する大形甕の肩部片である。肩部には棒状工具による大きな刻目を施す。内外ともに横方向の擦過。内面は黒褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや良い。

30は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩部にはヘラによる刻目を施す。内面と，肩部より上はナデ，肩部より下は粗いハケ目風の擦過を施す。内面は灰褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

31は肩で屈曲する甕の肩部片で，肩部には棒状工具で刻目を施した凸帯を貼付している。内面と肩部より下位は条痕風の横方向擦過，肩部より上位は横方向擦過を施している。内面は明茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には石英と金雲母片を多く含み，焼成は良い。

32は復原径 8.8cmの底部である。内面には指頭圧痕が認められるが，外面は風化のため調整法不明。暗褐色～黒色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。外面には二次的火熱を受けて赤変した部分もある。

33は復原径 9.4cmの底部である。風化のため内外ともに調整法は不明。内面は黄褐色，外面は赤褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。外面は二次的火熱を受けて赤変している。

34は復原径 7.8cmの底部である。内面は条痕，外面はナデ調整。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや良。

35は復原径8 cmの底部である。内面はナデ，外面は横方向擦過。外面には指頭圧痕による凹凸が認められる。内面は淡茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成はやや良。

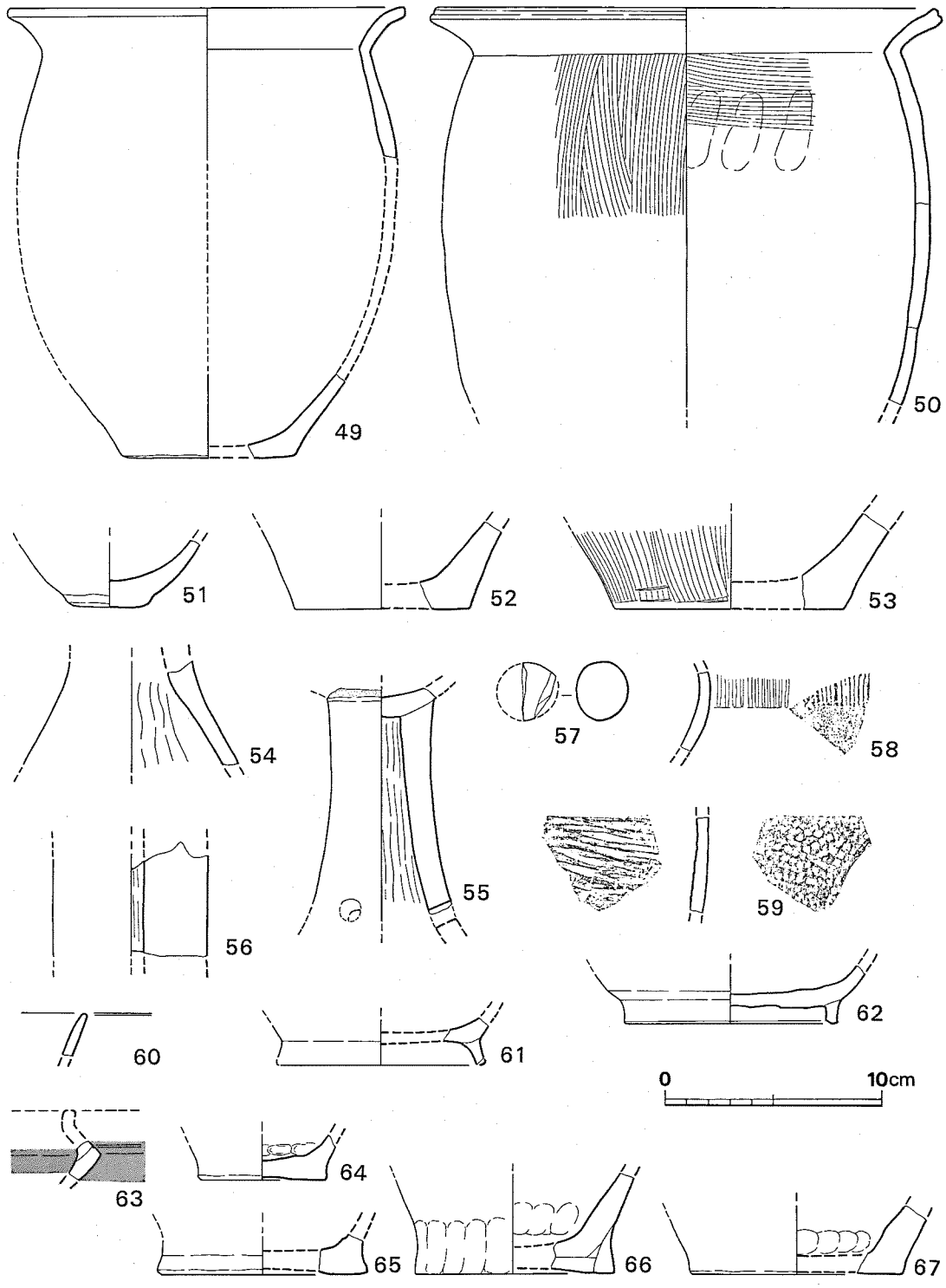
36は復原径 8.1cmの底部である。内外ともに風化のため調整法の観察は困難であるが，外面には35と同様の指頭圧痕によると思われる凹凸が不明瞭ながら認められる。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

37は復原径 8.9cmの底部である。内外ともに風化のため調整法は不明。赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや良好。

38は復原径 6.7cmの底部である。外面には板木口による縦方向の擦過が認められるが，他は風化のため不明。内面は黒褐色，外面は赤褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや良好。板付Ⅰ式に下る可能性も考えられるが，一応夜臼期のものとしてとりあげておく。

39は復原径 8.2cmの底部である。内面に指頭圧痕が認められるが，内外とも風化のため調整法は不明。内面は黄褐色，外面は赤褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

40は復原径10.4cmの底部である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黒色を呈し，



第 6 図　8 号住居跡出土土器 4（縮尺1/3）

外面は二次的火熱を受けて赤桃色に赤変している。胎土には砂粒を含み，焼成は良好。

以上の土器，63～67は８号住居跡に伴う土器である。

41は如意形口縁を呈する甕の口縁片である。口唇にはヘラによる刻目を施す。風化のため内外ともに調整法は不明。内面は黒色，外面は茶褐色を呈する。胎土には砂粒を少量含む。焼成は良。板付II式の古い段階のものである。

42は如意形口縁を呈する甕の口縁片である。口唇には棒状工具による刻目を施している。内面は横方向のハケ目，外面は風化のため不明。暗茶褐色を呈し，胎土には石英と金雲母を多量に含む。焼成はやや良。板付Ｉ式に属する。

43は口縁端に粘土帯を貼付した壺で，口径は28.8cmに復原できる。内外ともにナデ。粘土帯下は擬口縁を呈し，その部分はヨコナデを施している。淡茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや良。板付II式に属する。

44は大形壺の口縁片である。外反する口縁下に段をつくっている。内外ともに風化のため調整法は不明。赤褐色～暗褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。板付II式の古い段階のものである。

45は高坏の口縁片である。口径は25.5cm程に復原できる。おそらくは口縁端に粘土帯を貼付したものと思われるが確認できなかった。内外ともに風化のために調整法は不明。内面は赤褐色，外面は二次的火熱を受けて赤紫色に変色している。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。今川遺跡出土の高坏（註1）と同型式のものである。今川遺跡では板付Ｉ式の新しい段階としているが，この種の口縁端に粘土帯を貼付するものは板付II式の古い段階に位置付けられる。(註2)

46も45と同種の高坏口縁片である。内外ともにミガキ。茶褐色を呈し，胎土には多くの砂粒と金雲母片を含む。焼成は硬く，良好である。板付II式の古い段階に位置付けられる。

47は復原径 9.0cmの底部である。内面は指によるナデで指紋が残っている。外面はやや細目の縦方向ハケ目。内面は黒褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には石英・金雲母等を多く含み，焼成は良好。弥生時代前期に属する。

48は逆Ｌ字状口縁を呈する甕口縁片である。内外ともにヨコナデ。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。弥生時代中期前半に比定できる。

49はく字形口縁の甕である。胴部破片もあるが直接接合できないので，口縁と底部で復原して図示する。復原器高20.5cm，口径18.1cm，底径は８cmで，底部はだらけておりわずかに丸底化への傾向が出現しつつある。胴上半の内面はナデ，口縁外面はヨコナデ，他は風化のため不明。黄白色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。弥生時代後期後半に比定できる。

50もく字形口縁の甕で，口径22.6cmを測る。口縁内外はヨコナデ，内面には横方向の粗いハケ目と指圧痕がみられ，外面は縦方向の粗いハケ目。内外とも口縁下約７cmまでは黄褐色の色を保っているが，それ以下は二次的火熱により黒褐色～赤褐色を呈する。胎土には砂粒を多く

含み，焼成不良。弥生時代後期後半に比定できる。

51は壺の底部である。内面はナデ，外面はハケ目をナデ消している。外底はナデ。内面は黄褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土にはやや少なめに砂粒を含み，焼成は良好。弥生時代後期後半に比定できる。

52は復原径 8.0cmの底部である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黒褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。外面は二次的火熱により赤変している。弥生時代中期に比定できる。

53は復原径10.4cmの底部である。内面はナデ，外面は粗いハケ目を施す。茶褐色で一部黒褐色を呈する。胎土には砂粒を少量含み，焼成は不良。弥生時代中期に比定できる。

54は脚台と考えられる。内面にはしぼり痕がみられる。外面はナデ。黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。弥生時代後期後半に比定できる。

55は高坏脚である。内面はしぼり痕が明瞭である。外面はヘラ切りの後ナデ調整。下半部に穿孔している。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含む。焼成は良好。弥生時代後期後半に属する。

56は器台片である。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや良。弥生時代後期後半のものである。

57は球形の投弾で，弥生時代後期後半に属するものであろう。

58は金海式灰陶である。内面はナデ，外面の上半は繩蓆文タタキ，下半はナデ。灰白色を呈し，胎土は精選粘土を用い，焼成はやや軟質ながら良好。弥生時代後期後半に伴うものと考える。

59は須恵器である。内面は平行線タタキ，外面は格子目タタキ。内面は灰黒色，外面は暗茶色。精選粘土を用い，焼成は硬質にて良好。奈良～平安初期頃のものである。

60は須恵器坏である。内外ともヨコナデ調整。灰黒色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は硬質にて良好。奈良～平安初期のものである。

61は内黒土師器である。内面は横方向ヘラミガキ。高台周辺はヨコナデ。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良い。平安時代初期（９Ｃ前半）に属する。

62は土師器高台付坏である。内面はヨコナデ，内底はナデ。外面は回転ヘラ削りと思われる。高台周辺はヨコナデ。外底は荒削りのままである。奈良時代後半のものである。

以上41～62は上層の土器が混入したものである。これらのうち弥生時代後期後半のものは，おそらく６号住居跡に属するものと考えられる。

63は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外とも風化のためミガキ方向不明。胎土には細粒の砂を少量含み，焼成は不良。

64は復原径 5.9cmの底部である。内面はナデで指頭圧痕がみられる。外面は風化のため調整法不明。外面は二次的火熱を受け赤変している。

65は復原径 9.6cmの底部である。内外ともに風化のため調整法不明。明黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成不良。

66は復原径 9.0cmの底部である。内面は指によるナデで指頭圧痕，爪跡等がみられる。外面には不明瞭ながら指による調整痕がみられる。内面は淡黄色，外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや良い。

67は復原径 9.6cmの底部である。内面はナデで指頭圧痕がみられる。外面は風化のため不明。内面は黄褐色，外面は赤褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。外面は二次的火熱により赤変している。板付Ⅰ式に下る可能性も考えられるが，一応夜臼期のものとしておく。

63～67は８号住居跡に伴うものである。

註１）伊崎俊秋「弥生時代の遺構と遺物」津屋崎町教育委員会『今川遺跡』津屋崎町文化財調査報告書第4集1981

２）橋口達也「曲り田甕棺の編年的位置」福岡県教育委員会『石崎曲り田遺跡』Ⅰ今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告第８集1983

11号住居跡出土土器（第７～９図）

１は丹塗り磨研壺の口縁片である。口縁部は外反している。風化著しく，口縁部内面は横方向ミガキであるが，他はミガキ方向不明。地は黄褐色で，丹は淡赤色を呈す。胎土にはやや多めに砂粒を含み，焼成は軟質にて不良。

２は丹塗り磨研壺の口縁片である。風化のためミガキ方向は不明。地色は黄褐色で，丹は淡赤色を呈する。胎土にはやや少なめに砂粒を含み焼成は軟質にて不良。

３は丹塗り磨研壺の口縁片である。風化のためミガキ方向は不明。内面には指頭圧痕がみられる。地は黄褐色，丹は淡赤色である。胎土には砂粒を少量含み，焼成はやや良。

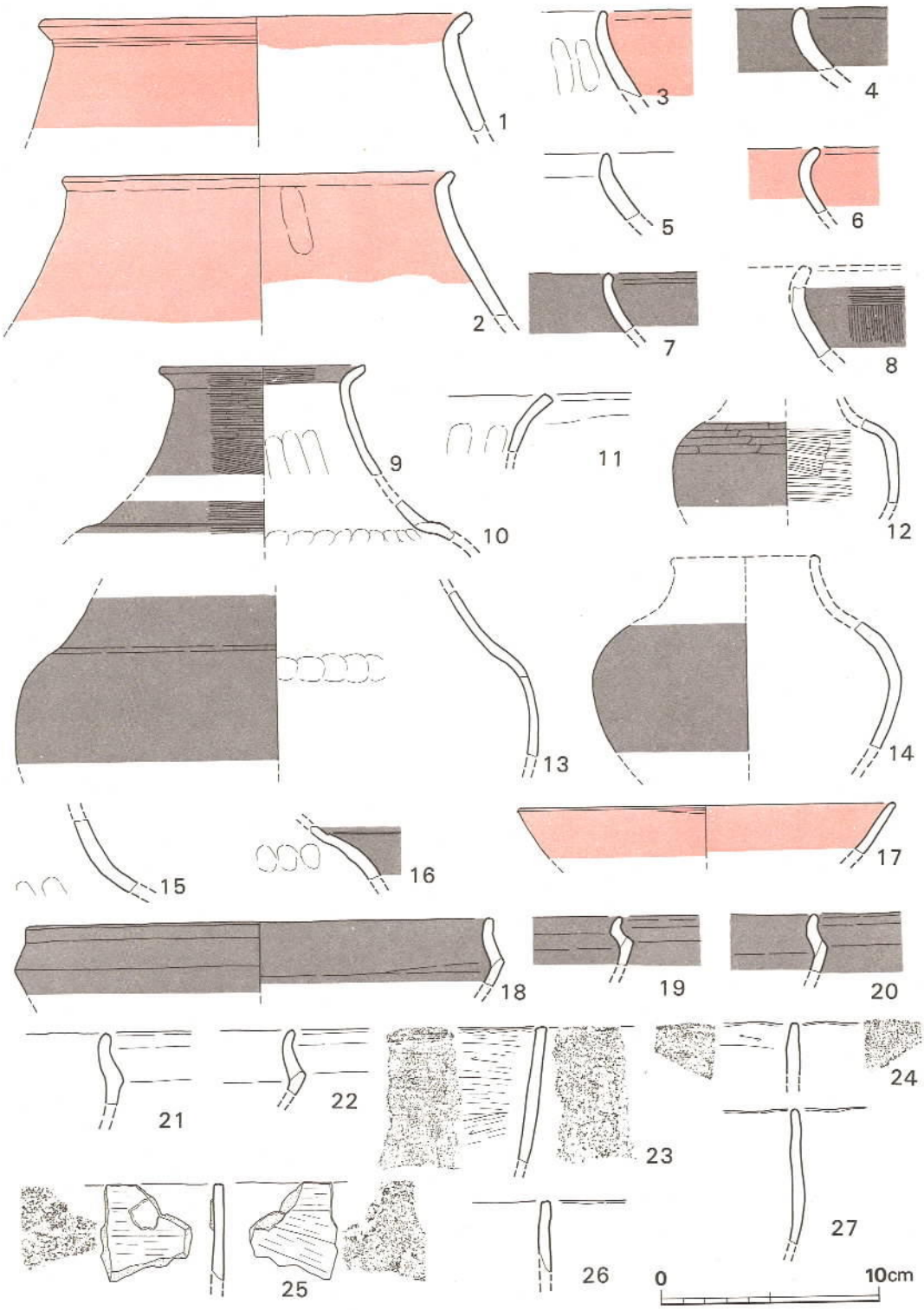
４は黒色磨研壺の口縁片である。内面は風化のためミガキ方向不明。外面は横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

５は壺の口縁片である。口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面はナデ，外面は風化のためミガキ方向不明。内面は淡黒色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良い。

６は丹塗り磨研壺の口縁片である。丹塗り部分は横方向ミガキ。内面の丹塗りより下は調整法不明。地は黄白色で，丹は淡赤色。胎土には精選粘土を使用し，焼成は良。

７は黒塗り磨研壺の口縁片である。内面は上位を横方向，下位をやや斜方向のミガキ，外面は横方向のミガキ。地は明茶褐色で，その上に黒色顔料を塗っている。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

８は黒色磨研壺の頸部片である。内面はナデ，外面は口縁外反部を横方向ミガキ，頸部は縦方向ミガキ。内面は黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。



第 7 図　11 号 住 居 跡 出 土 土 器 1（縮尺1/3）

9は黒色磨研壺の口頸部で，復原口径は 9.1cm。10は径の算出はできない小片であるが，9と同一個体と思われるので合せて復原した。口縁内面から外面は横方向ミガキ，内面頸部以下はナデ。肩部内面には指頭圧痕が明瞭である。頸部内面にも指頭圧痕がみられるが，ナデ消している。内面は黒褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

11はかなり大形の土器口縁片であるが器種を定かにはできない。壺又は深鉢であろうか。内面には指頭圧痕がみられるが，全体に風化のため調整法は不明。黄褐色を呈し，胎土にはやや少なめに砂粒を含み，焼成は不良。

12は小形の黒塗り磨研壺の胴部片で，胴部最大径は10.4cmに復原できる。内面は横方向条痕，肩部は幅広の横方向ミガキで，胴中央部はナデ。内面は暗褐色，外面は茶褐色の地の上に黒色顔料を塗っている。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良。

13は黒色磨研壺の頸から胴部にかけての二つの破片からなる。肩部には段をつくる。内面はナデで肩部内面は指頭圧痕がみられる。外面は横方向ミガキ。内面は灰褐色，外面は淡黒色。胎土にはやや多めに砂粒を含み，焼成は良。

14は黒色磨研壺の胴部破片である。内面はナデ，外面は横方向ミガキ，内外ともに黒色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は不良。

15は壺の肩部片である。内面はナデで，肩部には指頭圧痕がみられる。外面は風化のため調整法不明。内面は暗褐色，外面は明茶褐色を呈する。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

16は黒色磨研壺の肩部片である。肩部内面には指頭圧痕が明瞭である。外面は横方向ミガキ，内面は黒褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。9・10と同一個体の可能性がつよい。

17は丹塗り磨研埦である。口径は小片なので不確実ではあるが17cm程に復原できる。内外ともに横方向ミガキ。丹は紫紅色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

18は黒色磨研浅鉢の破片である。口径は21.2cmに復原できる。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には石英・雲母の細粒を含む。焼成は良好。

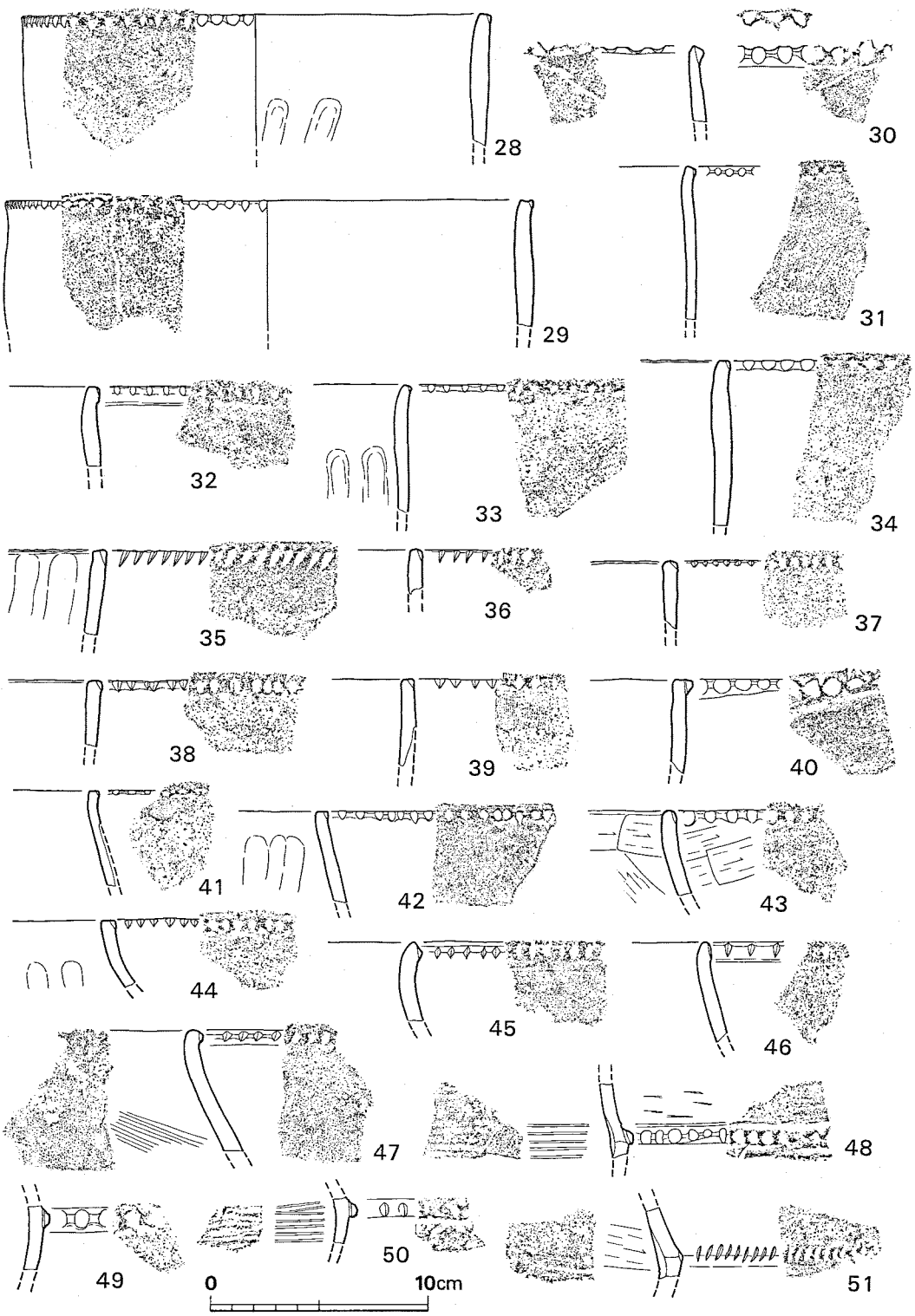
19は黒色磨研浅鉢の破片である。頸部の内傾と口縁の外反はつよく，古い要素を残している。内外ともに横方向ミガキ。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

20は黒色磨研浅鉢であるが，風化のためミガキ方向は不明。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

21は浅鉢の破片である。風化のため調整法は不明。内面は黒褐色，外面は黒褐色～茶褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

22は浅鉢の破片である。内外ともに風化のため調整法は不明。現状は黒褐色を呈するが，本来は黒色磨研であったと思われる。胎土には砂粒を少量含み，焼成は不良。

23は直立する甕の口縁片である。内面は横方向の擦過，外面は縦方向の擦過であるが，器表の



第 8 図　11 号 住 居 跡 出 土 土 器 2 （縮尺1/3）

剝落がいちじるしい。内面は黒褐色，外面は暗茶褐色。胎土にはやや少量の砂粒を含み，焼成は良。

24は直立する甕の口縁片である。内面は横方向擦過，外面は風化のため不明。暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

25は直立する甕の口縁片である。内面は口縁下 1.3cmまでは横方向の擦過，それより下はやや斜方向の擦過。焼成前に口縁にひび割れが生じ，それを補修した痕跡が残っている。内面は黄褐色，外面は黒褐色。胎土には砂粒を少量含み，焼成はやや良好。

26は直立する甕の口縁片である。内外とも風化のため調整法は不明。黄白色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は不良。

27は直立する甕の口縁片である。風化のため内外ともに調整法は不明。暗褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

28は直立する甕の口縁片で，口径は21.5cmに復原できる。口縁には棒状工具による刻目を施す。内面には一部指頭圧痕がみられるが，風化のため内外ともに調整法不明。内面は淡赤褐色，外面は暗褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

29は直立する甕の口縁片で，口径は24cm程に復原できる。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面は風化のため調整法不明，外面はナデ。内面は淡赤褐色，外面は暗褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや良好。

30は直立する甕の口縁片で，口縁には棒状工具による大きな刻目を施し，その間の口縁上端は棒状工具で押圧し，凹凸をつくっている。内外ともに横方向のナデ調整。褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

31は直立する甕で，口縁部がわずかに外反している。口縁には棒状工具による刻目を施している。内外ともにナデ。内面は淡黄褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

32は直立する甕で，口縁部はわずかに外反ぎみである。口縁には棒状工具による刻目を施している。内外ともに風化のため調整法不明。内面は暗灰緑色，外面は黒褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

33は直立する甕で，口縁はわずかに外反ぎみである。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面は風化のため調整法は不明であるが，指頭圧痕が不明瞭ながらみられる。外面はナデ。内面は淡赤褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや良好。

34は直立する甕で，口縁はわずかに外反ぎみである。口縁には棒状工具によるやや大きな刻目を施している。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は淡赤褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや不良。

35は直立する甕の口縁片で，口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデで指頭圧痕がみられる。外面は横方向のナデ。内面は淡赤褐色，外面は暗赤褐色を呈する。胎土には砂粒

を多く含み，焼成は良。

36は直立する甕の口縁片で，口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

37は直立する甕の口縁片で，口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には石英・雲母等を多く含み，焼成は不良。

38は直立する甕の口縁片で，口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。内面は茶褐色，外面は淡黒褐色。胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや良。

39は直立する甕の口縁片で，口縁にはヘラによる刻目を施す。内面は風化のため調整法不明，外面はナデ風の横方向擦過。内面は暗褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

40は直立する甕の口縁片で，口縁の外側に棒状工具で大きな刻目を施した凸帯を貼付している。内面は指頭圧痕の上から横方向擦過，外面は横方向擦過。茶褐色を呈し，胎土にはやや少なめに砂粒を含み，焼成は良好。

41は肩で屈曲する甕の口縁片で，口縁には棒状工具による刻目を施している。内外ともナデ調整，外面は器表の剝落がいちじるしい。内面は灰褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

42は肩で屈曲する甕の口縁片で，口縁には棒状工具による刻目を施している。内面は指頭圧痕の上からナデ，口縁内面はヨコナデ，外面はナデ。内面は淡赤褐色，外面は黄褐色を呈し，胎土には砂粒をやや少なめに含み，焼成良好。

43は肩で屈曲する甕の口縁片で，口縁には棒状工具による刻目を施す。内外ともに横方向の擦過。内面は茶褐色，外面は黒色，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良。

44は肩で屈曲する甕の口縁片である。頸部の内傾度はつよい。口縁にはヘラによる刻目を施す。内面には指頭圧痕がみられるが，内外とも風化のため調整法不明。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色，胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや良。

45は肩で屈曲する甕の口縁片で，口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面は横方向ナデ。黒褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや良好。

46は肩で屈曲する甕の口縁片で，口縁にはヘラによる刻目を施している。内外とも風化のため調整法不明。内面は黄褐色，外面は暗褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

47は肩で屈曲する甕の口縁片で，口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はハケ目の後ナデ消し，外面はナデ。内面は茶褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

48は肩で屈曲する甕の肩部片で，肩には棒状工具による刻目を施した凸帯を貼付している。

内面は横方向条痕で，頸部はその上からナデを加えている。外面は横方向の粗い擦過，凸帯の上下はヘラによる削りとりで面どりしている。黒色を呈し，胎土にはやや少なめに砂粒を含み，焼成は良好。

49は肩で屈曲する甕の肩部片で，肩には棒状工具による大きな刻目を施した凸帯を貼付している。内面はナデ，外面は風化のため調整法不明。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は不良。

50は肩で屈曲する甕の肩部片で，肩には爪による刻目を施した凸帯を貼付している。内面は条痕，外面は粗いナデ仕上，凸帯上部はヨコナデ。内面は灰黒色，外面は黒色。胎土には砂粒をやや少量含み，焼成は良好。

51は肩で屈曲する甕の肩部片で，肩には爪による刻目を施している。内面は横方向の擦過，外面の頸部は風化のため不明，胴部はナデ。内面は淡黄褐色，外面は淡黒褐色。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

52は復原径 6.5cmの底部である。内面はナデ，外面の多くは器表が剝落しているが，板木口による擦過の起点痕が残っている。暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

53は復原径10cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は淡赤褐色，外面は黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

54は復原径 8.6cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

55は復原径 8.2cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法不明。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

56は復原径 8.9cmの底部片である。内外ともに調整法不明。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

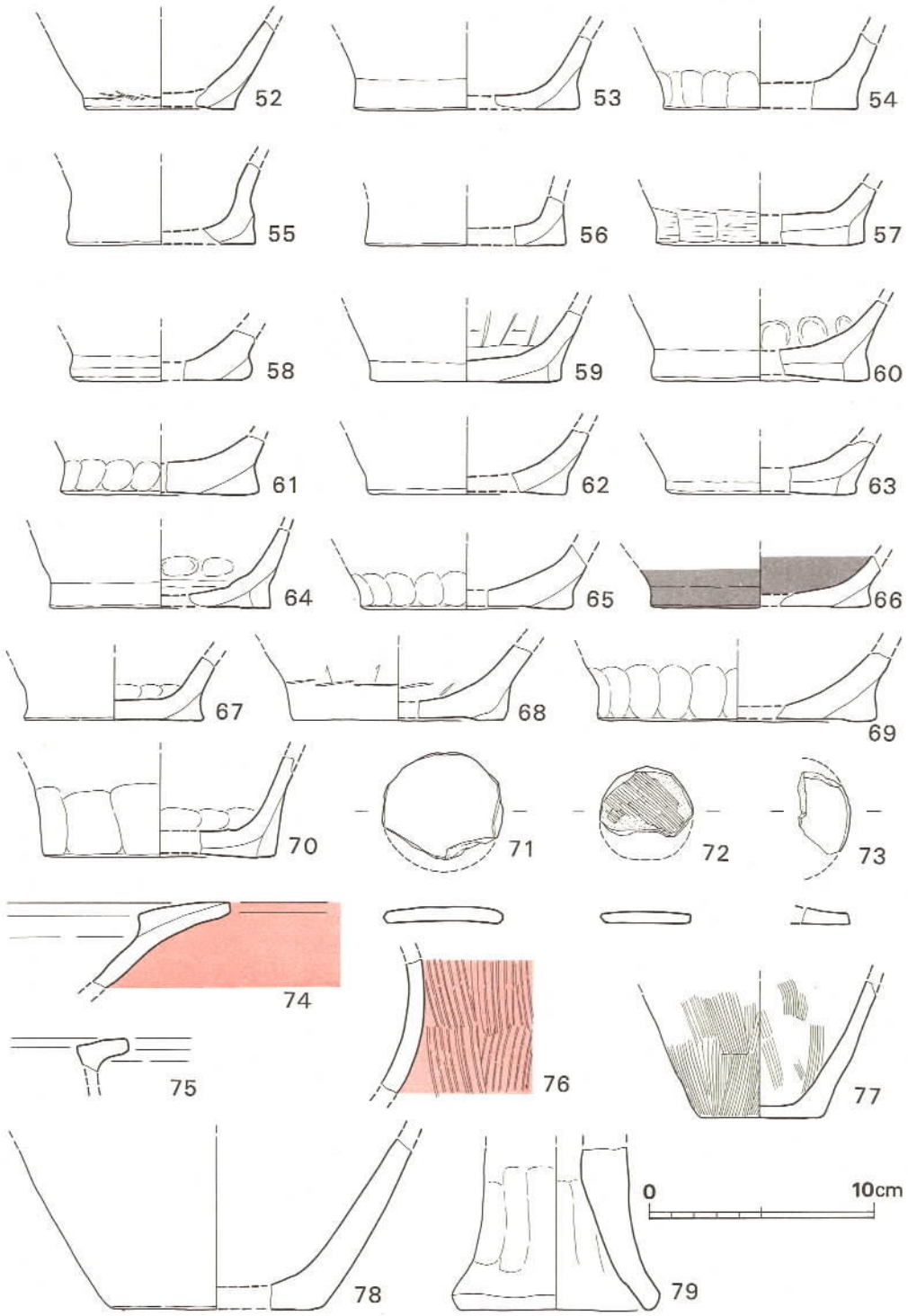
57は復原径 9.2cmの底部片である。外面は横方向擦過，内面は風化のため不明。内面は暗褐色，外面は赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

58は復原径 7.9cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黄褐色，外面は二次的火熱を受けて赤褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

59は復原径 8.9cmの底部片である。内面は横方向の擦過，外面は風化のため不明。内面は黒褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

60は復原径 9.6cmの底部片である。内面には指頭圧痕がみられる。外面は風化のため不明，外底はナデ。内面は茶褐色，外面は淡赤褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや良。

61は復原径 8.6cmの底部片である。外面には指頭圧痕がみられるが，内面は風化のため不明。茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや少量含み，焼成不良。



第 9 図　11 号 住 居 跡 出 土 土 器 3（縮尺1/3）

62は復原径 8.8cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法不明。内面は明茶褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

63は復原径 8.4cmの底部片で，内外ともに風化のため調整法不明。内面は黒褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

64は復原径 9.7cmを測る底部片である。内面は指頭圧痕の上からナデ，外面は風化のため不明，外底は板木口によるカキトリ。内面は黄褐色，外面は赤褐色で，二次的火熱を受けてさらに赤変している。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

65は復原径 9.4cmの底部片である。内面はナデ，外面には不明瞭ではあるが指頭圧痕がみられる。外底はナデ。赤褐色を呈するが外面は二次的火熱を受けさらに赤変している。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

66は復原径 9.7cmの黒色磨研浅鉢の底部である。内面はミガキ，外面は横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

67は復原径 7.8cmの底部片で，内面に指頭圧痕がみられるが，内外ともに風化のため調整法は不明。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

68は復原径 9.2cmの底部片である。内面は擦過のあとナデを加えているが，数個の幅15mm前後の擦過の起点痕がみられる。外面も擦過のあとナデを加えているが，幅20mm前後の擦過の起点痕が残っている。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

69は復原径12.3cmの底部片である。外面には不明瞭ながら指頭圧痕がみられるが，内外ともに風化のため調整法は不明である。内面は黄褐色，外面は明茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

70は復原径10.1cmの底部片である。内面には指頭圧痕がみられ，外面には擦過と思われる大きな整形痕がみられる。外底はナデ。内面は黒褐色，外面は淡赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。器形は新しい感じをうけるが，つくり・胎土・調整等夜臼期のものとしてまちがいない。

71は甕の胴部片を利用した円盤である。径は 5.4cm。面を整えただけで，内外ともに加工は加えてないが，風化のため調整法は不明。黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

72は壺胴部片を再利用した円盤である。径は 4.0cm。壺の外面はミガキをそのまま残し，内面は少し磨って直にしている。内面は赤褐色，外面は茶褐色。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

73は土器片利用の円盤片である。図示した面は土器の外面にあたる。土器の内面にあたる部分は磨って直にしている。外面は黄褐色，内面は黒色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成不良。

以上の土器は11号住居跡に伴うものである。

74は高坏口縁片である。口縁には粘土帯を貼付し，鋤先口縁をなす。内傾度と口縁部の発達具合からすると中期初頭頃のものと考える。外面には不明瞭ながら丹塗りの痕跡が認められるが，風化のため調整法は不明。地は黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

75は逆L字状口縁を呈する甕口縁片で，その未発達さと内傾度から74と同時期の中期初頭頃のものと考えられる。淡黄色を呈し，胎土にはやや少量の砂粒を含み，焼成は不良。

76は丹塗り壺の胴部片である。内面はナデ，外面は粗いハケ目のあと丹塗りを加えている。地は黄白色，丹は濃赤色。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良。

77は甕底部で底径 5.4cmを測る。丸底化の傾向がみられる。内面はハケ目のあとナデ，外面は細いハケ目を施す。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。大きな黒斑が底部から外底にかけてみられる。

78は復原径 9.2cmの底部片である。丸底化の傾向がみられる。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は黒褐色，外面は赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

79は器台の破片である。底径は 8.3cmに復原できる。風化のため内外ともに調整法は不明な点が多いが，内面は指によるもの，外面はヘラナデかと思われる。赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

76～79は弥生時代後期後半に位置付けられるもので，これらは43号住居跡に伴うものと考えられる。

12号住居跡出土土器（第10図）

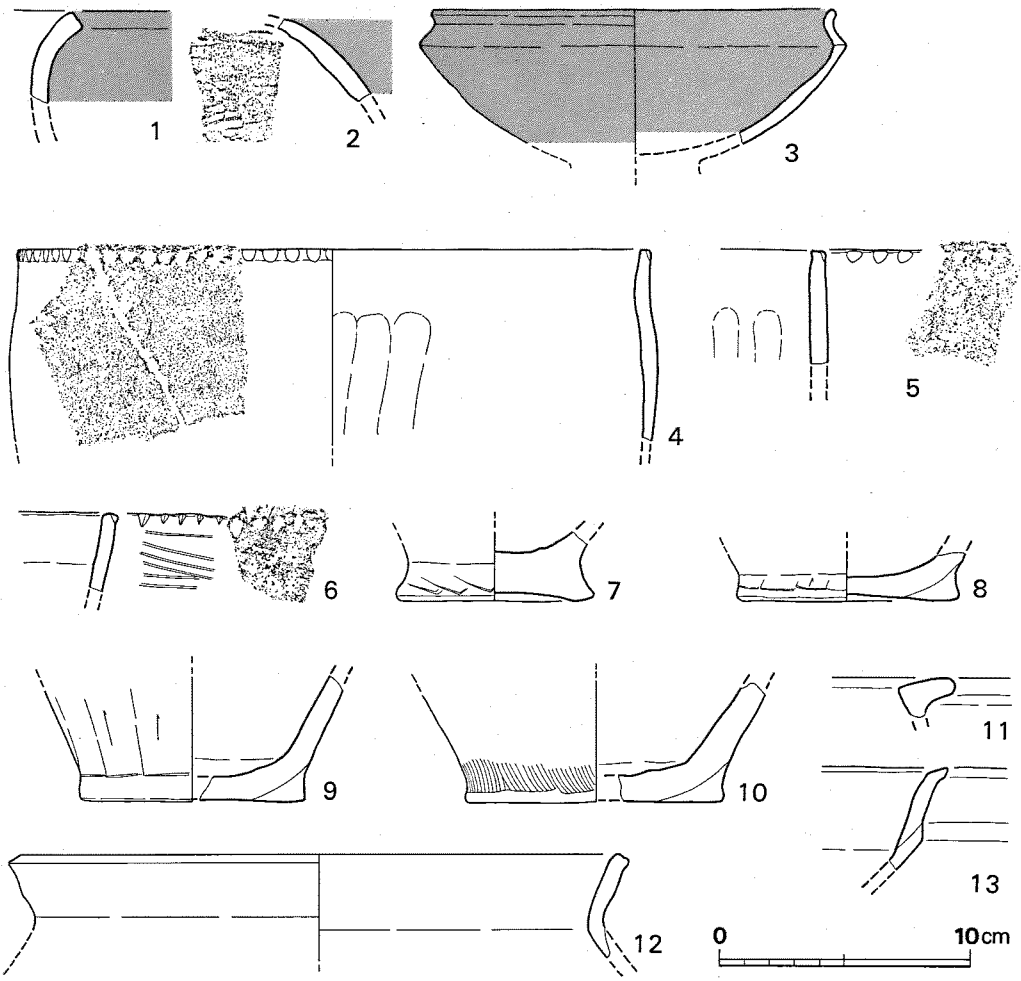
1は黒塗り磨研深鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキであるが，口縁端と口縁下1cm弱の部分はヨコナデ。茶褐色の地の上に暗褐色の黒色顔料を塗っている。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

2は黒色磨研の大形壺の肩部片である。内面は横方向条痕，外面は横方向ミガキ。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

3は黒色磨研の浅鉢又は高坏の破片であるが，おそらくは高杯であろう。内外ともに横方向ミガキ。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

4は直立する甕の口縁片で，口径は25cm程に復原できる。口縁は棒状工具による刻目を施している。内面には指頭圧痕がみられるが，風化のため詳細は不明。外面は縦方向の擦過。内面は淡黄色，外面は暗褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

5は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面は指頭圧痕の上からナデ，外面は風化のため不明。内面は暗褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒



第 10 図　12 号 住 居 跡 出 土 土 器（縮尺1/3）

を多く含み，焼成は不良。

6は直立する甕の口縁片で，口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は風化のため不明，外面は横方向条痕。内面は黒褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや良好。

7は径 7.8cmの底部である。外面は擦過，内面は板木口によるカキトリ，外底は幅18mm前後の板木口によるカキトリで上げ底を呈している。内面は黒色，外面は赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

8は復原径 8.8cmの底部片である。内面は風化のため調整法不明，外面は板木口による擦過の起点痕が残る。淡茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや良好。

9は復原径 8.8cmの底部片である。内面と外底はナデ。外面は縦方向の擦過。内面は黄白色，外面は淡茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

10は復原径10.2cmの底部片である。内底は条痕様のカキトリの痕跡がある。内面と外底はナデ，外面は粗いハケ目を施す。内面は黄白色，外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

11は逆Ｌ字状口縁の甕口縁片である。口縁は未発達で内傾しており，中期初頭の特徴を示す。黄褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成はやや良好。

12は甕の口縁片である。口縁内外はヨコナデ。黄白色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は軟質で不良。弥生時代後期後半に属する。

13は高坏の破片である。内面は横方向ミガキ，外面は風化のため不明。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。弥生時代後期後半のものである。

１～10は12号住居跡に伴う土器であり，11～13は上層から混入したもので，12・13は43号住居跡に伴うものと考える。

13号住居跡出土土器（第11～16図）

１は丹塗り磨研壺である。胴部最大径は19.5cmに復原できる。口縁は小片なので，胴部に合せて復原した。口縁内面から外面は横方向ミガキ，肩部内面は横方向の粗いミガキ，胴下半部は横方向の粗い条痕。内面は灰褐色，丹は深紅色。胎土には砂粒を微量に含み，焼成は良好。

２は丹塗り磨研壺の口縁片である。内面から口縁外面は横方向ミガキ，頸部は風化のためミガキ方向不明。地は灰黄色で，丹は暗い朱色。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

３は黒塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。淡茶褐色の地に黒色顔料を塗る。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

４は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面から口縁外面までは黒色，頸部は灰褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

５は小形壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外は黄褐色部分と黒色部分がある。黒斑かと思われるが，本来は黒色磨研であったかもしれない。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

６は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は黄褐色，丹は明るい朱色。胎土には砂粒をやや多めに含み，焼成は良好。

７は大形の丹塗り磨研壺の口縁片である。頸部内面は指頭圧痕。口縁外面は横方向ミガキ。口縁内面と，頸部は風化のためミガキ方向不明。地は黄褐色，丹はやや明るい朱色。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

8は丹塗り磨研壺の口縁小片である。内外とも横方向ミガキ。地は淡黄色，丹は淡赤色。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は不良。

9は丹塗り磨研の大形壺の肩部片である。内面は風化のため調整法不明。外面は横方向ミガキ。内面は白濁色，外面の地は淡黄色，丹は淡赤色。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

10は丹塗り磨研の大形壺の口縁，肩部の破片である。内外ともに横方向ミガキ。地は黄白色丹は深紅色。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は不良。

11は丹塗り磨研の大形壺の頸部片である。内面指頭圧痕の上をナデ，外面は横方向ミガキ。地は淡黄色で，丹は淡赤色。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

12は丹塗り磨研の大形壺の肩部片である。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。内面は茶褐色，丹は淡赤褐色で，化粧土に近い感じである。胎土には砂粒を少量含む，焼成は良好。

13は丹塗り磨研壺の肩部片である。風化のため内面の調整法は不明，外面は横方向ミガキ。内面は灰褐色，外面の地は黄褐色，丹は淡赤色。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良。

14は丹塗り磨研壺の肩部片である。内面は風化のため調整法不明。外面はミガキ方向不明。地は暗黄褐色で，丹は暗朱色。胎土には砂粒を少量含み，焼成は不良。

15は丹塗り磨研壺の肩部片である。内面は風化のため調整法不明。外面は横方向ミガキ。地は黄褐色，丹は暗赤色。胎土には砂粒を微量に含み，焼成は良。

16は黒色磨研壺の肩部片である。肩部径は15.4cmに復原できる。内面は指頭圧痕の上をナデ，外面は横方向ミガキ。内面は黒褐色，外面は黒色を呈する。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良。

17は丹塗り磨研埦の口縁片である。内面はミガキ，口縁内面から外面は横方向ミガキ。地は暗赤色。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良。

18は黒色磨研埦の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には砂粒を微量に含み，焼成は良好。

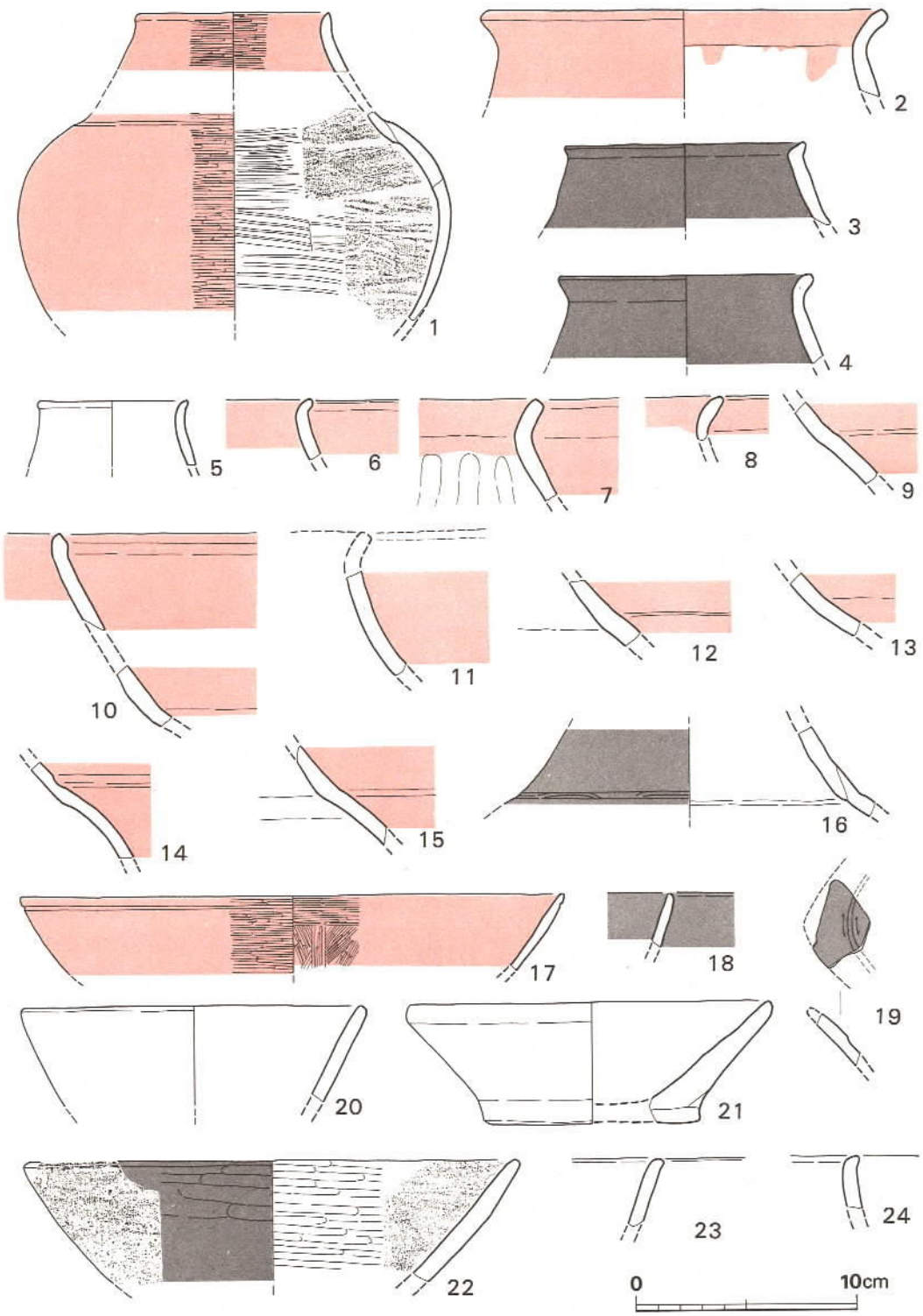
19は黒色磨研の方形浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は暗褐色，外面は灰褐色。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

20は鉢で，復原口径15.2cmを測る。内面は斜方向ナデ，外面は風化のため不明。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成良好。

21は鉢で，復原口径は14.2cm，復原底径は 9.7cm，器高は 5.5cmを測る。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は暗茶褐色，外面は黒褐色，底部は赤褐色を呈する。胎土には砂粒を少量含み，焼成不良。

22は黒色磨研の埦又は鉢である。復原口径は21.8cm。内面は茶褐色の化粧土の上からやや粗い横方向ミガキ，外面は粗い横方向ミガキ，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

23は鉢の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。黄褐色を呈し，胎土には砂粒



第 11 図　13 号 住 居 跡 出 土 土 器 1（縮尺1/3）

を多く含み，焼成は良い。

24は精製深鉢の口縁小片と思われる。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

25は精製深鉢の口縁片で，復原口径は20.2cm。内外ともに横方向ミガキで，内面は暗赤褐色，外面は黒褐色。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

26は黒色磨研浅鉢片で，肩部の復原径は18.8cm。口縁で外反し，口縁下には段をつくり，頸部の長い，肩部でつよく段をつくるもので，古い形態を残している。内外とも横方向ミガキ。胎土には砂粒を少量を含み，焼成は良。

27は26と同様の黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外とも横方向ミガキ。胎土には細粒の砂少量を含み，焼成は良好。

28も前二者と同様の黒色磨研浅鉢肩部片である。内外とも横方向ミガキ。胎土には細粒の砂微量を含み，焼成は良好。

29は前三者と同様の浅鉢の肩部小片である。暗褐色を呈しているが，本来は黒塗り又は黒色磨研と思われる。内外とも横方向ミガキ。胎土には細粒の砂微量を含み，焼成は良。

30は黒色磨研浅鉢で，復原口径は16.5cm，肩部径は18.5cmを測る。頸部はつよく内傾し，口縁部はほぼ直にたちあがる。内外ともに横方向ミガキ。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

31は浅鉢又は高坏の破片である。復原口径は13.9cm。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は淡黒褐色，外面は黄褐色を呈するが，本来は黒塗りでも施していたものと思われる。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

32は黒色磨研浅鉢で，復原口径は22.6cm，肩部径は24cmを測る。頸部は短く，かつつよく内傾し，口縁は外反する。内外とも横方向ミガキ。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成はやや不良。

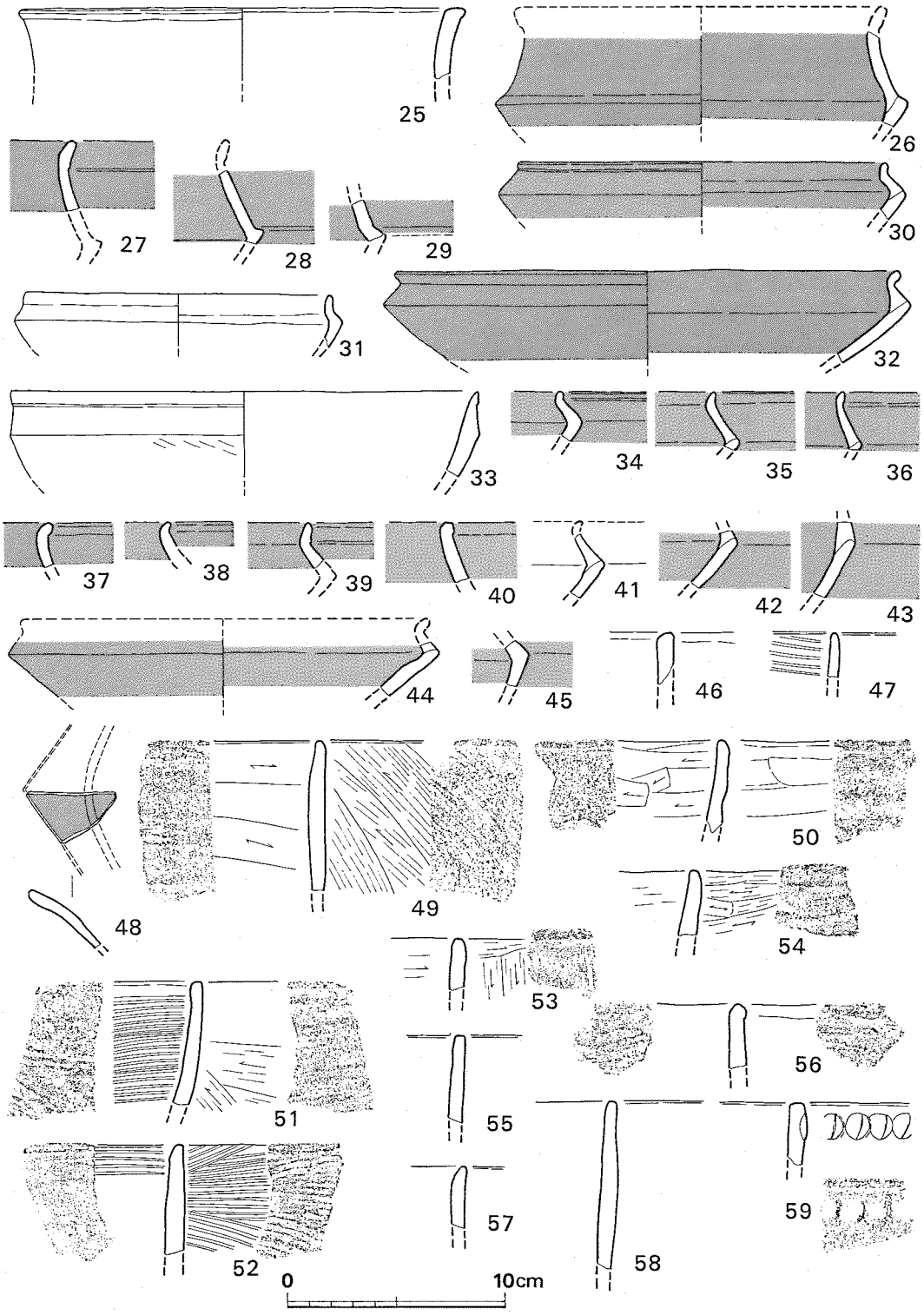
33は浅鉢で，復原口径21.3cm，肩部径は21.5cm。外面の口縁から肩部は横方向ミガキ。肩部下は斜方向擦過，内面と胴下半は風化のため不明。内面は赤褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

34は黒色磨研浅鉢の小片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。30と同一個体の可能性が大。

35は黒塗り磨研浅鉢の小片である。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈している。胎土には細粒の砂少量を含み，焼成は不良。

36は黒色磨研浅鉢である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は不良。

37は黒色磨研浅鉢の口縁小片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には細粒の砂を多く含



第 12 図　13 号 住 居 跡 出 土 土 器 2 （縮尺1/3）

み，焼成は不良。

38は黒塗り磨研浅鉢の口縁小片である。内外ともに横方向ミガキ。淡茶色の地に黒褐色の顔料を塗る。胎土には細粒の金雲母片を微量に含み，焼成は良好。

39は黒塗り磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。暗黄褐色の地の上に黒褐色の顔料を塗る。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

40は黒色磨研の壺かと思われる。内外ともに横方向ミガキ。胎土には細粒の砂少量を含み，焼成は良好。

41は浅鉢の肩部片である。内外とも風化いちぢるしいが，辛うじて横方向ミガキが観察できる。淡褐色を呈し，胎土には細粒の砂少量を含み，焼成は不良。

42は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内面と外面の肩より上は横方向ミガキ，肩より下は風化のため不明。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

43は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内面から外面の肩までは横方向ミガキ，肩より下はやや粗い横方向ミガキ。胎土には金雲母がやや多く，石英は少ない。焼成は不良。

44は黒色磨研浅鉢の肩部片で，肩部の復原径は19.7cm。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面は灰褐色～黒色。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

45は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内面と外面の肩より上は横方向ミガキ，肩より下は風化のため不明。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

46は直立する甕の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。黒色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は不良。

47は直立する甕の口縁片である。内面は横方向条痕，外面は風化のため不明。内面は暗褐色，外面は黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

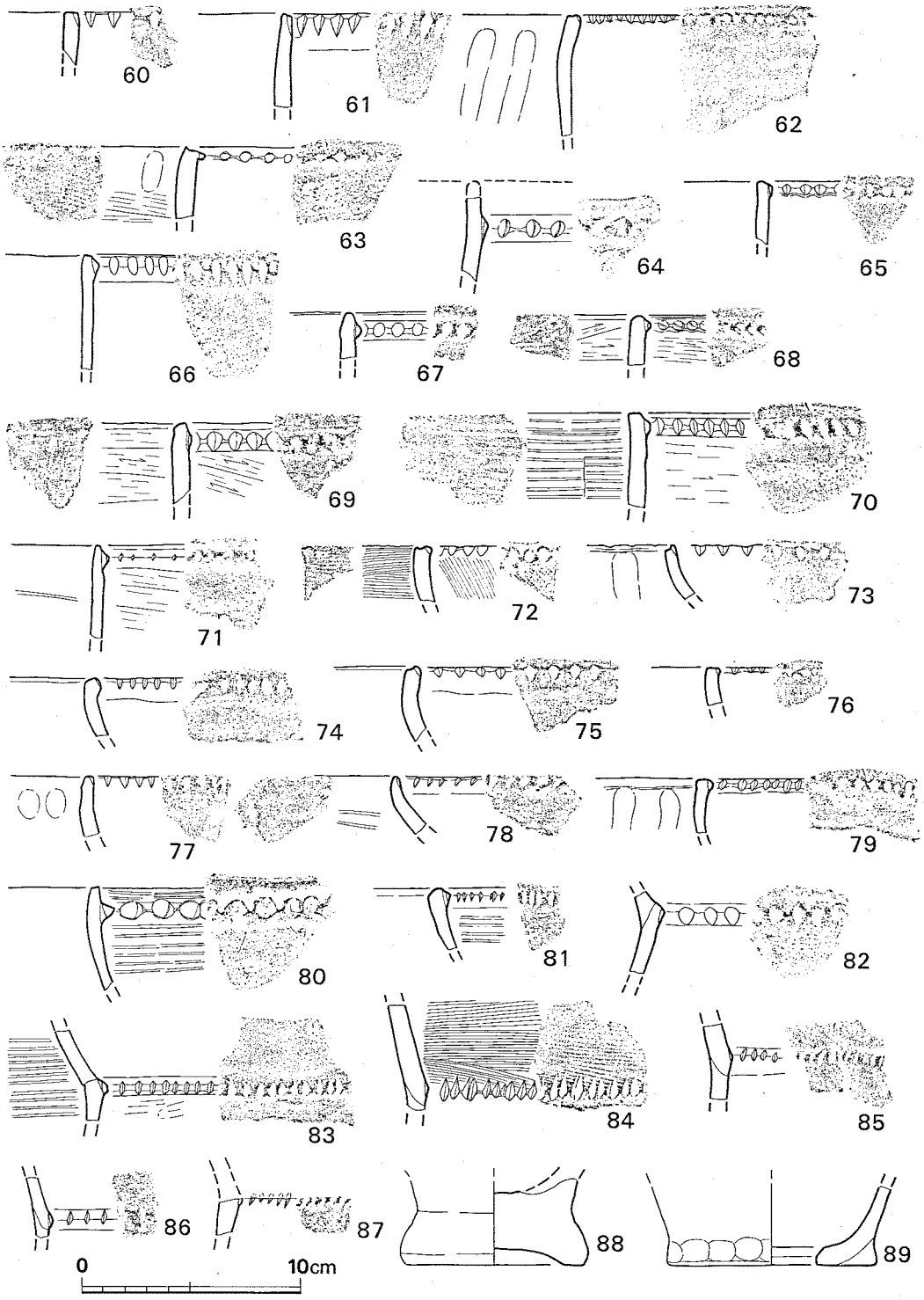
48は黒色磨研方形浅鉢の口縁片である。内外ともにヘラミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

49は直立する甕の口縁片で，口縁はわずかに外反ぎみである。内面はハケ目に近い感じの横方向擦過，外面は条痕風の斜方向擦過。暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

50は直立する甕の口縁片である。内面はミガキ風の横方向擦過，外面は指による調整で，凹部ができている。内面は黒色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

51は直立する甕の口縁片である。内面は横方向条痕，外面は口縁下を擦過のあとナデ，それより下は横および斜方向の擦過。内面は明茶褐色，外面は茶褐色で，外は二次的火熱を受けている。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

52は直立する甕の口縁片である。内面は条痕のあとナデ，外面は横方向の条痕。淡茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 13 図　13 号 住 居 跡 出 土 土 器 3 (縮尺1/3)

53は直立する甕の口縁片である。内面から外面の口縁下は横方向擦過，それより下は縦方向擦過。内面は黄褐色，外面は暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

54は直立する甕の口縁片である。内面は横方向擦過，外面は擦過と思われる粗い調整で，凹凸がいちじるしい。黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

55は直立する甕の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は明茶褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は不良。

56は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向ナデ。内面は茶褐色，外面は濃褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

57は直立する甕で，口縁がわずかに外反ぎみである。内外ともにナデと思われる。内面は黒色，外面は黒褐色。胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや不良。

58は直立する甕の口縁片である。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は赤褐色，外面は黄褐色を呈する。外面の下半には黒斑が認められる。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

59は直立する甕の口縁片である。口縁より５～17㎜の間に，指頭(爪)押圧による刻目を施している。内面は茶褐色，外面は暗黄褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は不良。

60は直立する甕の口縁片で，口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ調整。淡黄色を呈し，胎土には砂粒を微量に含み，焼成は良好。

61は直立する甕の口縁片で，口縁にはヘラによる大きな刻目を施している。内外ともに横方向ナデ。内面は淡茶褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒少量を含み，焼成は良好。

62は直立する甕で口縁はわずかに外反する。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は風化のため，指頭圧痕の凹部しか観察できない。外面は横方向ナデ。黄褐色を呈するが，外面は二次的火熱を受けてやや赤変している。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

63は直立する甕で，口縁はわずかに外反ぎみである。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面は粗いハケ目風の擦過，口縁内面はさらに指による横方向ナデ，外面は風化のため不明。内面は茶褐色，外面は淡黄色で，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

64は直立する甕で，口縁下２～３㎝程のところに，凸帯を貼付し爪による刻目を施している。内外ともにナデ，黒褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

65は直立する甕で，口縁外側に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面は横方向ナデ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

66は直立する甕で，口縁外側に凸帯を貼付し，棒状工具で刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黄褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

67は直立する甕で，口縁下４～12㎜の間に凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。淡黄色を呈し，胎土には砂粒を含み，焼成は不良。

68は直立する甕で，口縁外側に凸帯を貼付し，条痕工具で押圧した刻目を施している。内面は条痕で，口縁直下は横方向擦過で条痕を消す。外面は横方向擦過。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

69は直立する甕で，口縁よりわずかに下った位置に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，外面は横方向擦過。黒色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

70は直立する甕で，口縁よりわずかに下った位置に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は横方向条痕，工具原体幅は17～18㎜。外面は横方向擦過。内面は淡茶褐色，外面は茶褐色，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

71は直立する甕で,口縁よりわずかに下った位置に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は風化のため不明，外面は横方向擦過。内面は淡黒色，外面は茶褐色，胎土には砂粒を少量含み，焼成はやや良。

72は肩で屈曲する甕の口縁片で，口縁には棒状工具による刻目を施している。内面は横方向ハケ目，外面は縦方向ハケ目。淡褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

73は肩で屈曲する甕の口縁片で，口頸部の内傾度はつよい。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は指頭圧痕の上からナデ，外面はナデ。内面は茶褐色，外面は暗褐色。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

74は肩で屈曲する甕で，口頸部の内傾度はつよい。口縁にはヘラによる刻目を施す。内面は風化のため調整法不明。外面はナデ風の横方向擦過。内面は暗茶褐色，外面は淡茶色を呈し，胎土には砂粒をやや少なめに含み，焼成は良。

75は肩で屈曲する甕で，口頸部の内傾度はつよい。内面はナデ，外面は横方向ナデ。内面は明茶色，外面は褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

76は肩で屈曲する甕の口縁片で，口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向ナデ。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成良好。

77は肩で屈曲する甕の口縁片で，口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は指頭圧痕の上からナデ，外面は横方向擦過。黒褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成良好。

78は肩で屈曲する甕で，口頸部は短くてつよく内傾するものである。口縁には爪による刻目を施している。内面は横方向条痕をナデ消し，外面は横方向ナデ。内面は黒褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

79は肩で屈曲する甕で，口縁外側に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は指頭圧痕の上から横方向ナデ，外面は風化のため不明。内面は赤褐色，外面は黄褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は不良。

80は肩で屈曲する甕の口縁で，口縁下６～16㎜の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を

施している。内面はナデ，外面は横方向条痕と思われるが風化のため不明瞭である。内面は茶褐色，外面は淡黄褐色で，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

81は肩で屈曲する甕の口縁片で，口縁外側に凸帯を貼付し，爪先による刻目を施している。内面は風化のため調整法は不明，外面は横方向条痕。黒色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

82は肩で屈曲する甕の肩部で，肩部には棒状工具による刻目を施す。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は淡黄色，外面は黄白色で一部黒褐色。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は不良。

83は肩で屈曲する甕の肩部片で，凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は横方向条痕，外面の肩より上は横方向ナデ，肩より下は横方向擦過。内面は暗褐色，外面は淡茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

84は肩で屈曲する甕の肩部片で，肩部にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面の頸部はやや粗いハケ目，肩より下はナデ風の横方向擦過。内面は茶褐色，外面は淡黄褐色を呈するが，肩上下にかかる大きな黒斑がある。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

85は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には爪先による刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黄褐色，外面は暗黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は不良。

86は肩で屈曲する甕の肩部片で，凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面の肩より上は横方向ナデ，肩より下はナデ。内面は黒色，外面は暗赤褐色で，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

87は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩にはヘラによる刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。肩の接合面は擬口縁を呈している。暗黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

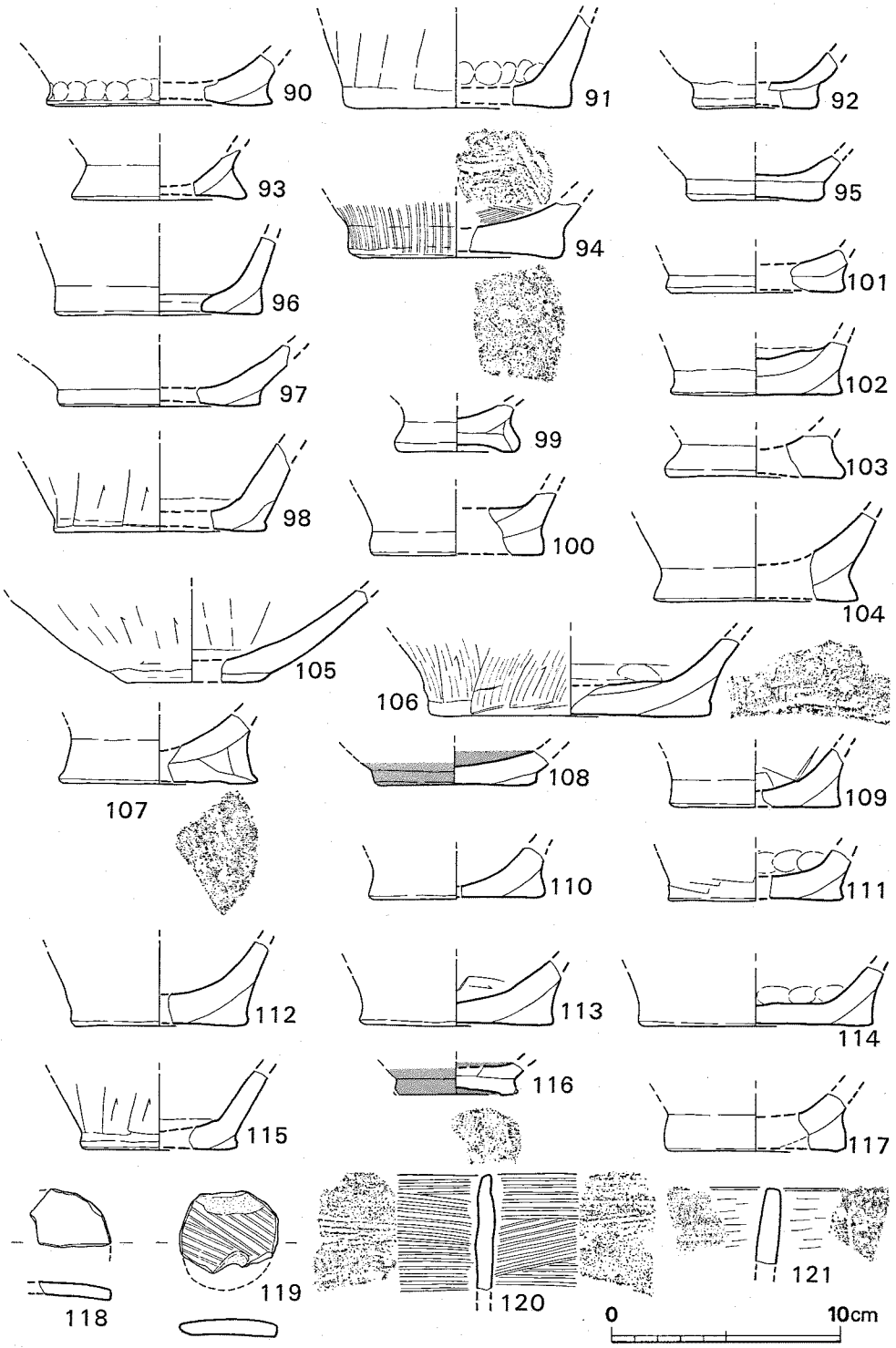
88は径 8.0cmの底部である。かなり上げ底を呈する。全体にナデ調整。内底は暗褐色，外底は淡赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

89は復原径 9.4cmの甑底部である。焼成後に底部を外→内へ穿孔している。孔径は３～４cm程のものと思われる。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は白濁色，外面は黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

90は復原径 9.8cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法不明。暗褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

91は復原径 9.7cmの底部片である。内面は指頭圧痕の上からナデ，外面は縦方向擦過，底部外側から外底はナデ，淡赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

92は復原径 5.2cmの底部片である。いわゆる円盤貼付である。内面はナデ，外面は不明。内



第 14 図　13 号 住 居 跡 出 土 土 器 4 （縮尺1/3）

面は淡茶色，外面は暗褐色，底部外側から外底にかけては二次的火熱を受けて赤褐色に赤変している。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良。

93は復原径 7.6cmの底部片で，外底は板木口によるカキトリでわずかに上げ底を呈する。内外ともに風化のため調整法は不明。黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

94は復原径 9.2cmの底部片である。内面は横方向条痕，外面は縦方向条痕。外底は板木口によるカキトリでやや上げ底を呈する。内面は黒色，外面は暗褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良。

95は復原径 6.0cmの底部片で，いわゆる円盤貼付である。内外ともに風化のため調整法は不明，外底は板木口によるカキトリで，やや上げ底を呈する。内面は茶褐色，外面は淡茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は不良。

96は復原径 9.1cmの甑底部である。底部中央に外→内へ穿孔している。孔径は3～4cm程のものであろう。黄白色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

97は復原径 8.8cmの底部片である。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は茶褐色，外面は黄褐色，外底は淡赤褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

98は復原径 9.3cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は縦方向擦過。擦過工具の原体幅は23～24mm。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

99は復原径 5.4cmの底部片である。内外ともにナデ，外底はカキトリのあとナデを加えている。かなりの上げ底を呈する。暗褐色を呈するが，底部外側から外底にかけては二次的火熱により赤褐色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

100は復原径7.4cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法不明。内面は黄褐色，外面は赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

101は復原径7.8cmの底部片である。内面はナデ，外面は風化のため調整法不明。茶色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

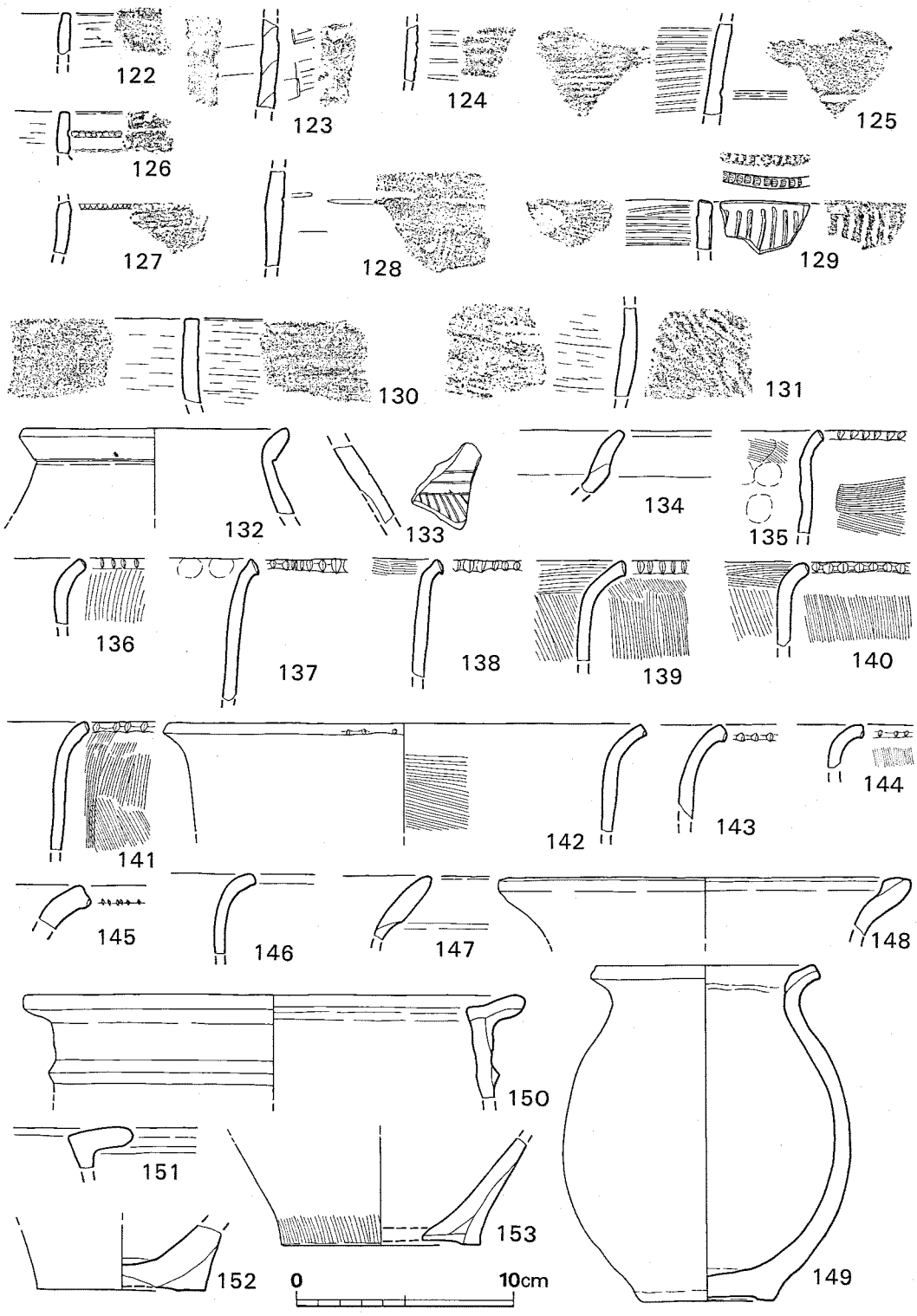
102は径7.4cmの底部である。外底はナデ，他は内外とも風化のため不明。内面は黄褐色，外面は茶褐色～赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

103は復原径7.3cmの底部片である。内外ともに風化のため不明。内面は淡黒色，外面は淡赤褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は不良。

104は復原径8.8cmの底部片である。内外ともにナデ。内面は黒色，外面は黄白色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

105は復原径5.7cmの底部片で，底部はだらけており，丸底に近いといえる。内面はナデ風の擦過，外面は縦方向擦過，底部外側は横方向擦過。内面は黒褐色，外面は淡赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

106は復原径12.2cmを測る大形甕の底部片である。内面は指によるナデ，外面は縦方向擦過，



第 15 図　13 号 住 居 跡 出 土 土 器 5 （縮尺1/3）

外底は擦過の上からナデ。内面は赤褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

107は復原径8.7cmの底部片である。内外ともにナデ，外底は板木口によるカキトリ。黄褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

108は黒色磨研浅鉢の底部片で，復原径は 7.0cm。内面はミガキ，外面は風化のためミガキ方向不明。細粒の砂を多く含み，焼成は良。

109は復原径7.5cmの底部片である。内面は板木口による擦過で，工具原体幅は約20mm，外底はナデ，外面は風化のため不明。外底には籾圧痕がある。長さは6.6mm，幅は2.9mm，芒長は2.1mm，長幅比は2.28。内面は黄褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

110は復原径7.6cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は淡茶色，外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

111は復原径7.6cmの底部片である。内面は指頭圧痕の後ナデを加える。外面は擦過で，底部外側には起点痕が残っている。工具原体幅は23mm，外底はナデ，淡茶色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

112は復原径7.7cmの底部片である。内面はナデ，外面は風化のため不明，外底は板木口によるカキトリでわずかに上げ底を呈する。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

113は復原径8.4cmの底部片である。内面は擦過，外面は風化のため不明。内面は黄白色，外面は暗褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

114は復原径10.2cmの底部片である。内面は指頭圧痕の上からナデ，外面は風化のため不明。内面は黒褐色，外面は赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

115は復原径6.7cmの底部片である。外面は縦方向の擦過，内面は風化のため不明。内面は赤褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

116は黒色磨研浅鉢の底部片で，復原径は 5.4cmを測る。内外ともにミガキ，外底は板木口によるカキトリで上げ底を呈する。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

117は復原径7.8cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は淡黄色，外面は淡赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

118は土器片利用の円盤の破片である。円盤に加工して面どりするのみである。内外ともにナデ。土器外面は淡赤色，土器内面は，黄白色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

119は土器片利用の円盤である。径は4.3cm。土器の外面は条痕のあとナデ，内面はナデ。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

120は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向条痕。内面は茶褐色，外面は褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

121は直立する甕の口縁片で，内外ともに横方向擦過。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

以上の土器は13号住居跡に伴うものである。

122は床面下の縄文式土器である。直立する甕の口縁小片である。外面は横方向擦過，内面は不明。黄褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は不良。

123も同じく床面下の縄文式土器の甕胴部小片である。内外ともに横方向の擦過。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

124も同じく床面下の縄文土器片である。内外ともに風化のため調整法は不明。凹線文がみられる。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は不良。

125も同じく床面下の縄文式土器片である。内面は横方向条痕，外面には凹線がみられる。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

126は同じく床面下の縄文式土器の口縁片である。二枚貝の貝殻腹縁の押圧による沈線風の文様がみられる。内面は擦過と思われる。茶色を呈し，胎土にはわずかながら大粒の砂を含む。焼成は良。

127は同じく床面下の縄文式土器片で，大きな凹線と刺突文を加えた文様と思われる。外面はナデ仕上げ，内面は風化のため不明。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は不良。

128も同じく床面下の縄文式土器片で，凹線文がみられる。風化のため内面の調整痕は不明。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

129も同じく床面下の縄文式土器口縁片である。内面は条痕，口縁上面には刺突文を左→右方向へ施し，外面には縦方向の凹線文がみられる。茶褐色を呈し，胎土には大粒の砂微量と，細粒の金雲母等を含み，焼成は良好。

130は13号住居跡内に設けたトレンチより出土したもので，同じく床面下の縄文式土器と思われる。口縁は直立しているが，しだいにひろがっていくようである。内外ともに粗い擦過を施す。内面は暗茶褐色，外面は黒色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

131は床面下の縄文式土器片である。内面は粗い擦過，外面は不明な点が多いが，斜方向に文様もしくは，条痕がみられる。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

122～131の縄文式土器は13号住居跡と16号住居跡で多くみられた。これらについては後節で詳述するが，縄文時代前期のものと考えられる。

132は板付Ⅰ式の壺口縁片である。復原口径は12cm。内外ともに横方向ミガキ。内面は黄白色，外面は淡茶色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

133は壺の肩部で，横沈線と羽状文をヘラ施文し，それに赤色顔料を入れている。内面は風化のため調整法不明，外面はミガキ。内面は灰黒色，外面は淡黄色を呈し，胎土には砂粒少量を含み，焼成は良。板付Ⅰ式に属する。

134は板付Ⅰ式の高坏口縁片である。内面は横方向ミガキであるが，外面は風化のため不明。内面は淡茶色，外面は灰黒色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は不良。

135は板付Ⅰ式の甕口縁片で，口唇部にはヘラによる刻目を施している。内面の口縁直下は横方向ハケ目，それより下は指頭圧痕の上からナデ。外面の口縁直下はヨコナデ，それより下は横方向ハケ目。内面は茶褐色，外面は暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

136は板付Ⅰ式の甕口縁片で，口唇部にはヘラによる刻目を施す。内面はナデ，口縁直下はヨコナデ，外面は縦方向の粗いハケ目。黒褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

137は板付Ⅰ式の甕口縁片で，口唇部にはヘラによる刻目を施している。口縁下をヨコナデする他は内外ともハケ目をナデ消している。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

138は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口唇部にはヘラによる刻目を施している。口縁内面は横方向ハケ目，外面口縁下はヨコナデの他は内外ともにナデ。内面は茶褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

139は板付Ⅰ式の甕口縁片で，口唇部にはヘラによる刻目を施している。内外ともにハケ目を施すが，口縁内面の横方向は粗いハケ目で他と異る。内面は暗褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

140は板付Ⅰ式の甕口縁片で口唇部にはヘラによる刻目を施している。内面は縦方向の粗いハケ目の上からナデ，口縁下は横方向のハケ目，外面は縦方向のハケ目で，口縁下はヨコナデを加えている。内面は黒色，外面は暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

141は板付Ⅰ式の甕口縁片で，口唇部にはヘラによる刻目を施している。内面は風化のため調整法は不明。外面は縦方向ハケ目で口縁下はその上からヨコナデを加えている。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

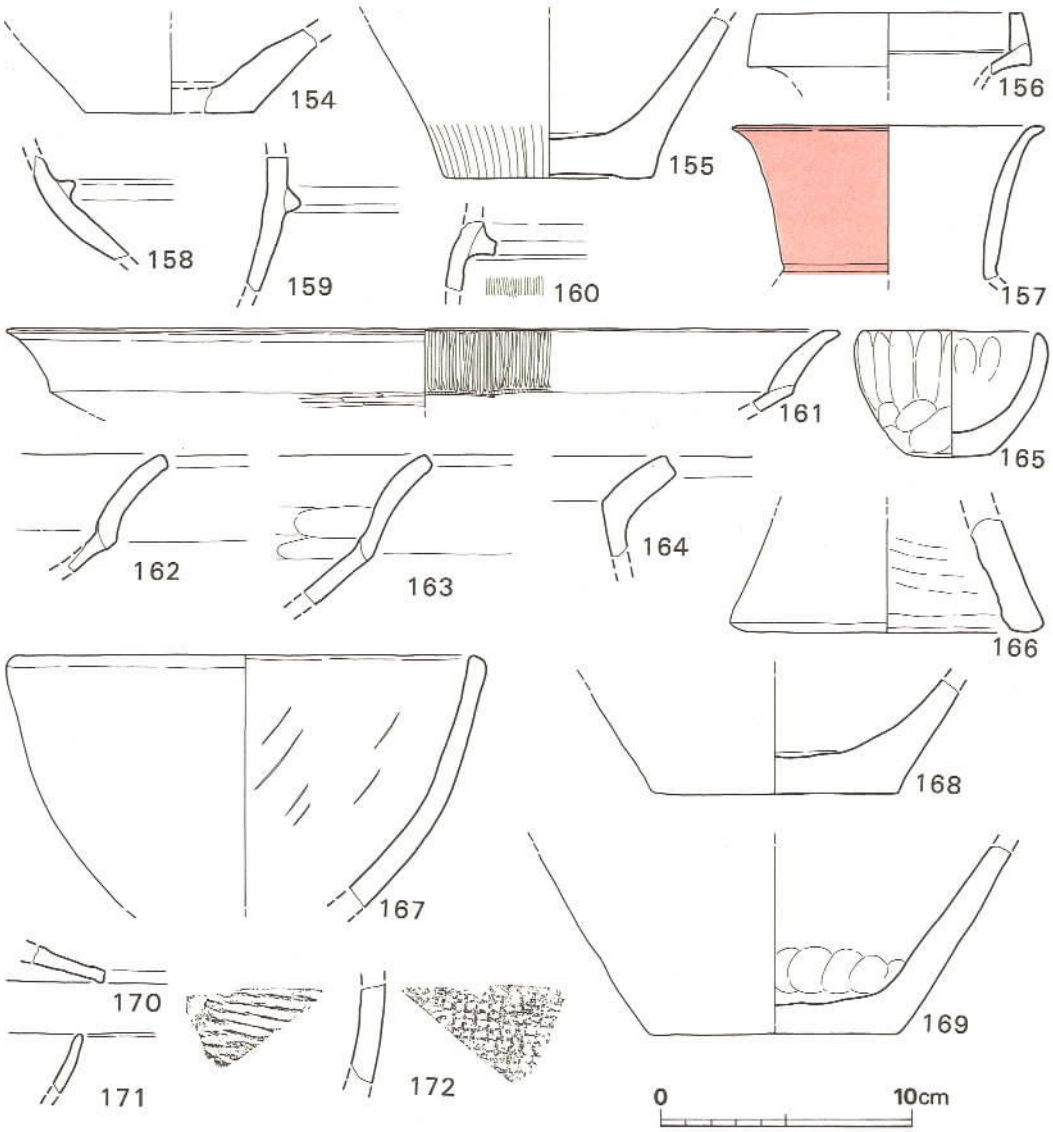
142は板付Ⅱ式の甕口縁片で，復原口径21.6cmを測る。口縁下端に部分的にヘラによる刻目が施されている。内面は横方向ハケ目，口縁内面から外面はナデ。内面は黄褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

143は板付Ⅱ式の甕口縁片で，口縁下端にはヘラによる刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。淡黄色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

144は板付Ⅱ式の甕口縁片で，口縁下端にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面はハケ目で口縁下はさらにヨコナデを加えている。内面は黄褐色，外面は淡褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

145は板付Ⅱ式の甕口縁片で，口縁下端にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面は風化のため不明。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

146は板付Ⅱ式の甕口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。黒褐色を呈し，胎土



第 16 図　13 号 住 居 跡 出 土 土 器 6（縮尺1/3）

には少量の砂粒を含み，焼成は不良。

147は壺口縁片である。口縁下には段をつくり古い要素を残している。板付II式の古い段階のものであろう。調整法は内外ともに風化のため不明。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

148は口縁上端に粘土帯を貼付する壺の口縁片で，復原口径は18.8cm，内外ともに横方向ミガキを加える。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。板付II式に属する。

149は小形壺で，器高15.4cm，復原口径9.9cm，底径 6.0cmを測る。口縁内外は横方向ミガキ，外底はナデ，他は風化のため不明。黒色部分と黄褐色部分があり，胎土には多量に砂粒を含み，焼成は不良。板付II式に属する。

132～149の板付Ⅰ・II式の土器の多くは13号住居跡の西南部から出土したもので，W－1区とした部分，とくに17号・33号住居跡の西端から，35号住居跡の南半の下層，39号・41号・42号住居跡の上層に形成されていた包含層の一角をなしていたものと思われるが，これらの時期の遺構は検出できなかった。

150は逆L字状口縁をなす甕口縁片で，復原口径は23cmを測る。内傾の度合，口縁の未発達の状態から中期初頭のものと考える。黄褐色の地に赤味を帯びた化粧土をかけている。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

151は逆L字状口縁の甕口縁片である。調整法は内外ともに風化のため不明。赤褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は不良。 中期前半に比定できる。

152は復原径7.7cmの底部である。内外ともに風化のため調整法は不明。黄褐色を呈するが，底部外側から外底にかけては二次的火熱を受けて赤変している。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。弥生時代前期のものと考える。

153は復原径9.2cmの底部片である。内面はナデ，外面はハケ目の上からナデを加えている。外底はわずかに上げ底でナデ調整。黄褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。弥生時代前期のものである。

154は復原径6.6cmの壺底部である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は淡茶色，外面は淡黄色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。弥生時代前期のものと考える。

155は径8.4cmの底部である。内面は風化のため調整法不明。外面には甕棺内面にみられるものと同様の粗いハケ目様の擦過，外底は粗いナデ。内面は暗黄褐色，外面は茶色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。弥生時代前期のものである。

156は，袋状口縁壺の口縁片である。口縁はほぼ直立に近くなっている。復原口径は10.6cmを測る。口縁内面はハケ目の上からナデ，頸部はナデ，外面はヨコナデ。黄白色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。弥生時代後期後半のものである。

157は丹塗り磨研壺の口縁片である。内面は風化のため調整法不明，外面は横方向ミガキ。地は黄褐色で，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。弥生時代後期後半のものかと考える。

158は壺の肩部片である。凸帯周辺はヨコナデ，他は内外ともにナデ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。弥生時代後期後半のものであろう。

159は壺の胴部片である。内面はナデ，外面はハケ目のあとナデ，凸帯周辺はヨコナデ。内面は黄褐色，外面は茶色，凸帯は黄白色を呈する。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良。弥生時

代後期後半のものであろう。

160は胴部破片である。内面はナデ，外面はハケ目，凸帯周辺はヨコナデ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

161は高坏口縁片で，復原口径は33cmと大きい。口縁内面は暗文風の縦方向ミガキ，体部内面はハケ目のあとナデ，口縁外面は横方向ハケ目のあとヨコナデ，体部外面は横方向ミガキ。褐色の地に黄白色の化粧土をかけてから先の調整を施している。胎土には砂粒を少量含み，焼成はやや不良。弥生時代後期後半に属する。

162は弥生時代後期後半の高坏片である。調整法は内外ともに風化のため不明。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は不良。

163は弥生時代後期後半の高坏で，内面はナデ，とくに屈折部は指によるナデ。外面は横方向ミガキ。内面は茶褐色，外面は黄褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良。

164は甕の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。淡黄色を呈し，胎土には細粒の砂を微量に含む。焼成は不良。弥生時代後期後半のものであろう。

165は小形の鉢である。器高は5.0cm，口径は 7.0cm。内面はナデ，外面は指による整形の後ナデを加えている。茶色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。弥生時代後期後半に属する。

166は器台片で，復原径は12.4cm。内外ともに風化のため調整法は不明。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。弥生時代後期後半に属する。

167は鉢で，復原口径は18cm。口縁内外はヨコナデ。内面はハケ目をナデ消しているが，起点痕だけが残っている。外面はナデ。内面は淡茶色，外面は暗褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。弥生時代後期後半のものと考える。

168は径9.8cmの底部である。底部はややだらける傾向が生じている。内外ともに風化のため調整法は不明。茶褐色の地に黄色の化粧土をかけている。胎土には砂粒を多量に含み，焼成は不良。弥生時代後期後半に属する。

169は復原径9.8cmの底部で，底部はだらける傾向が生じている。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は灰褐色，外面は黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。弥生時代後期後半に属する。

156～169のこれら弥生時代後期後半に比定される土器は，35号・37号住居跡のいずれかに伴うものであることはまちがいない。

170は須恵器坏蓋の破片である。内外ともにヨコナデ。灰青色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は硬質にて良好。奈良時代後半頃のものであろう。

171は土師器坏片である。内外ともにヨコナデ。黄褐色を呈し，胎土には微細な雲母片等を含み，焼成は良。平安時代初期のものである。

172は須恵器胴部片である。内面は平行線タタキ，外面は格子目タタキがのこる。灰黄色を呈し，胎土には精選粘土を使用している。焼成は軟質で，いわゆる生焼きである。奈良～平安初期のものである。

14号住居跡出土土器（第17図）

1は壺の口縁片である。復原口径は15.3cm。内外ともに風化のため調整法は不明。暗褐色～黒色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は不良。

2は黒色磨研壺の口縁片である。内面は風化のためミガキ方向不明，外面は横方向ミガキ。胎土には砂粒を少量含み，焼成は不良。

3は壺の口縁片である。口縁内面はヨコナデ，他は内外ともに不明。内面は暗茶褐色，外面は茶色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は不良。

4は丹塗り磨研埦の口縁片である。内外ともに風化のためミガキ方向は不明。地は茶褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には精選粘土を用い焼成は不良。

5は浅鉢又は高坏の破片で，復原径は13cm。内外ともに風化のため調整法は不明。灰褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は不良。

6は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には精選粘土を用い，焼成は良。

7は浅鉢の肩部片である。内面は黒色，外面は黄褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は不良。

8は口縁が直に外反する小甕の破片である。内外ともに風化のため調整法は不明瞭であるが，ミガキでないことは確実である。内面は茶褐色，外面は淡褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成はやや不良。

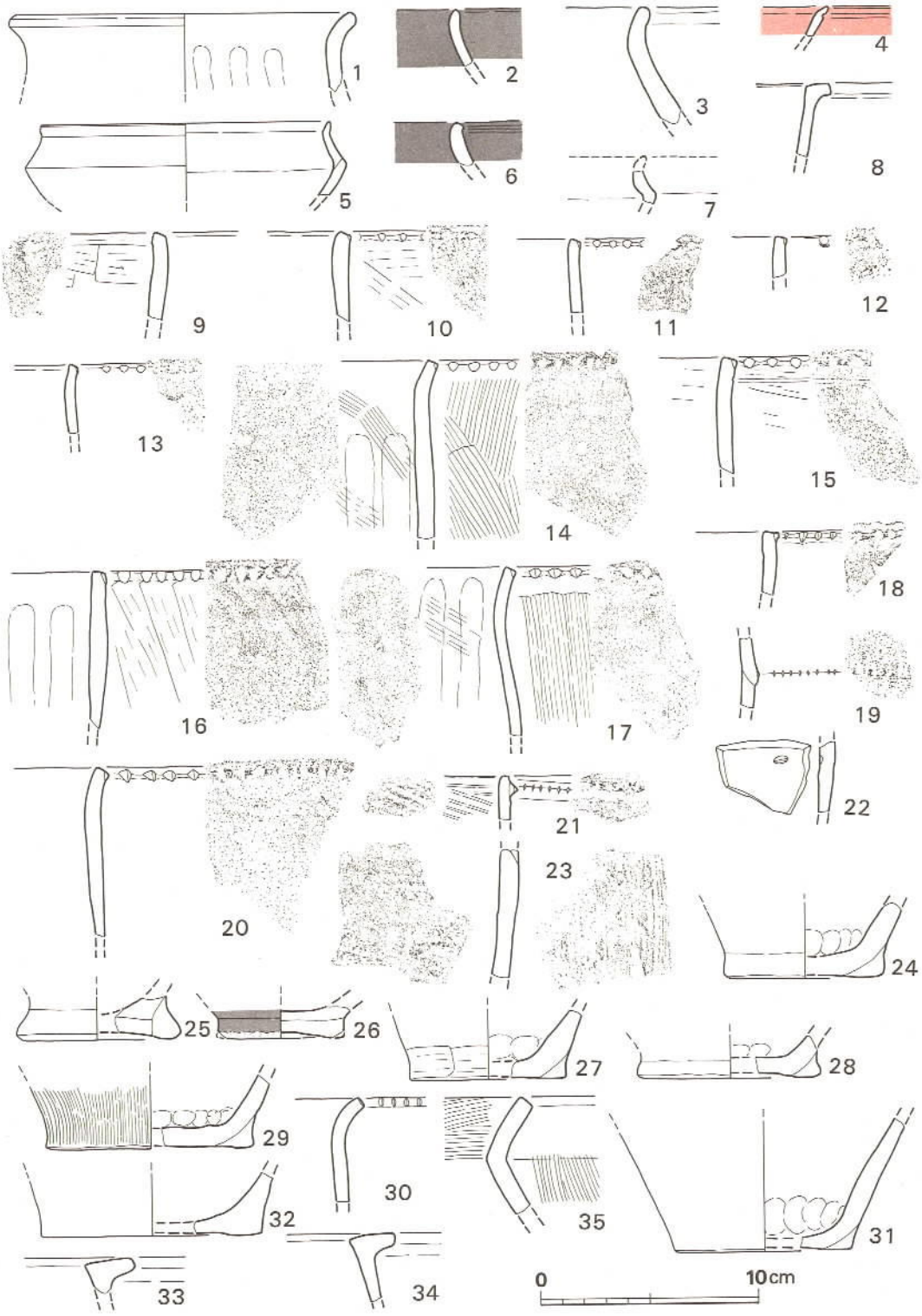
9は直立する甕の口縁片である。内面と口縁端は横方向擦過，外面ナデ。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良。

10は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面はナデ，外面は擦過。内面は淡黄色，外面は暗褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

11は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内外ともにナデ。明茶色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

12は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施し，その下に爪先の押圧がある。内面はナデ，外面は擦過。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

13は直立する甕で，口縁はわずかに外反している。口縁には棒状工具による刻目を施してい



第 17 図　14 号 住 居 跡 出 土 土 器（縮尺1/3）

る。内外ともに風化のため調整法は不明。褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は不良。

14は直立する甕で，口縁はわずかに外反する。口縁には棒状工具による刻目を施し，内面はやや粗いハケ目のあと指頭圧痕がみられる。外面は粗いハケ目。内面は黄褐色，外面は褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

15は直立する甕の口縁片で，口縁はわずかに外反ぎみである。口縁には棒状工具による刻目を施している。内外ともに横方向擦過で，外面の口縁下に沈線状のものがあるが，小破片なので全周する沈線であるか否かわからない。

16は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面には指頭圧痕はみられるが調整法は不明，外面は縦方向擦過。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

17は口縁でわずかに外反し，胴部でふくらむが，一応直立する甕の一種とみてよい。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は粗いハケ目のあと指頭圧痕を，その上をさらにナデを加えている。外面は縦方向の粗いハケ目のあと，ナデているが，ハケ目はよく残っている。茶褐色～黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

18は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ調整。内面は茶色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

19は肩で屈曲する甕の肩部片である。風化のため不明瞭ではあるが小さな刻目が施されている。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は淡茶色，外面は黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

20は直立する甕で，口縁はわずかに外反ぎみである。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は茶褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

21は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下る位置に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は条痕のあとナデ，外面はナデ。黒褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良。

22は甕胴部片で，内面に籾圧痕がある。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黒色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を含み，焼成は不良。籾痕の長は 6.1㎜，幅は 3.1㎜，長幅比は1.97である。

23は甕胴部片である。調整法の資料として示した。内面は横方向擦過，外面は縦方向の粗い擦過である。内面は茶色，外面は褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

24は復原径 7.2cmの底部片である。内面に指頭圧痕がみられるが，風化のため内外ともに調整法は不明。内面は茶褐色，外面は黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

25は復原径 7.4cmの底部片である。内外ともにナデ，外底は板木口によるカキトリの後ナデ

を加えている。内面は黒色，外面は赤褐色を呈し胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

26は復原径 5.8cmの円盤貼付の底部である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黄色，外面は黒色～黒褐色で本来は黒色磨研であったと思われる。壺の底部であろう。胎土には大粒の砂粒を少量含み，焼成は不良。

27は復原径 7.1cmの底部片である。内面と外底はナデ，底部外側は横方向擦過，他は風化のため不明。内面は茶色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

28は復原径 8.4cmの底部片である。内面には指頭圧痕がみられるが，風化のため内外とも不明な点が多い。外底はナデ。黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

29は復原径 9.4cmの底部片である。内面と外面はナデ。外面は粗いハケ目のあとナデを加えている。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

以上の土器は14号住居跡に伴うものである。

30は板付Ⅰ式の甕で，口縁には刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。黄褐色～灰褐色を呈するが，外面は二次的火熱を受けて赤変している。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

31は復原径 8.1cmの底部片である。内面には指頭圧痕がみられるが，風化のため調整法は不明，外面はナデ。赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。弥生時代前期のものである。

32は復原径10cmの底部片である。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は茶褐色，外面は赤褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。弥生時代前期のものと思われる。

33は逆Ｌ字状を呈する甕の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。淡黄色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は不良。中期初頭に比定される。

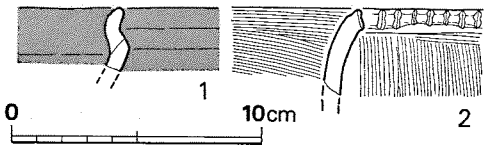
34は逆Ｌ字状を呈する甕の口縁片である。口縁外側はヨコナデであることがわかるが，他は風化のため不明。内面は黄褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。中期初頭に比定される。

35はく字状を呈する甕口縁片である。胴部内面はナデ，口縁内面は横方向の粗いハケ目。口縁外面はヨコナデ，胴部外面は縦方向の粗いハケ目。内面は茶褐色，外面は褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。後期後半に属する。この土器は43号住居跡に伴うものと考える。

15号住居跡出土土器（第18図）

1は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は不良。

2は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は横，外面は縦方向の粗いハケ目。茶色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第18図 15号住居跡出土土器
（縮尺1/3）

15号住居跡は土器の量が少なく，図示できるのは以上の2点であり，時期確定が困難であるが，切合いの状況等からして浅鉢の時期のものと考えられる。したがって2は上層の土器の混入と思われる。

16号住居跡出土土器（第19図）

1は黒色磨研の小形壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良。

2は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。暗褐色を呈し，胎土には精選粘土を使用し，焼成は不良。

3は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は不良。

4は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には砂粒を微量に含み，焼成は不良。

5は大形壺の肩部片である。肩には段をつくる。内面は風化のため不明な点が多いが，肩部内面には指頭圧痕がみられる。外面は横方向ミガキ。内面は灰褐色，外面は黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

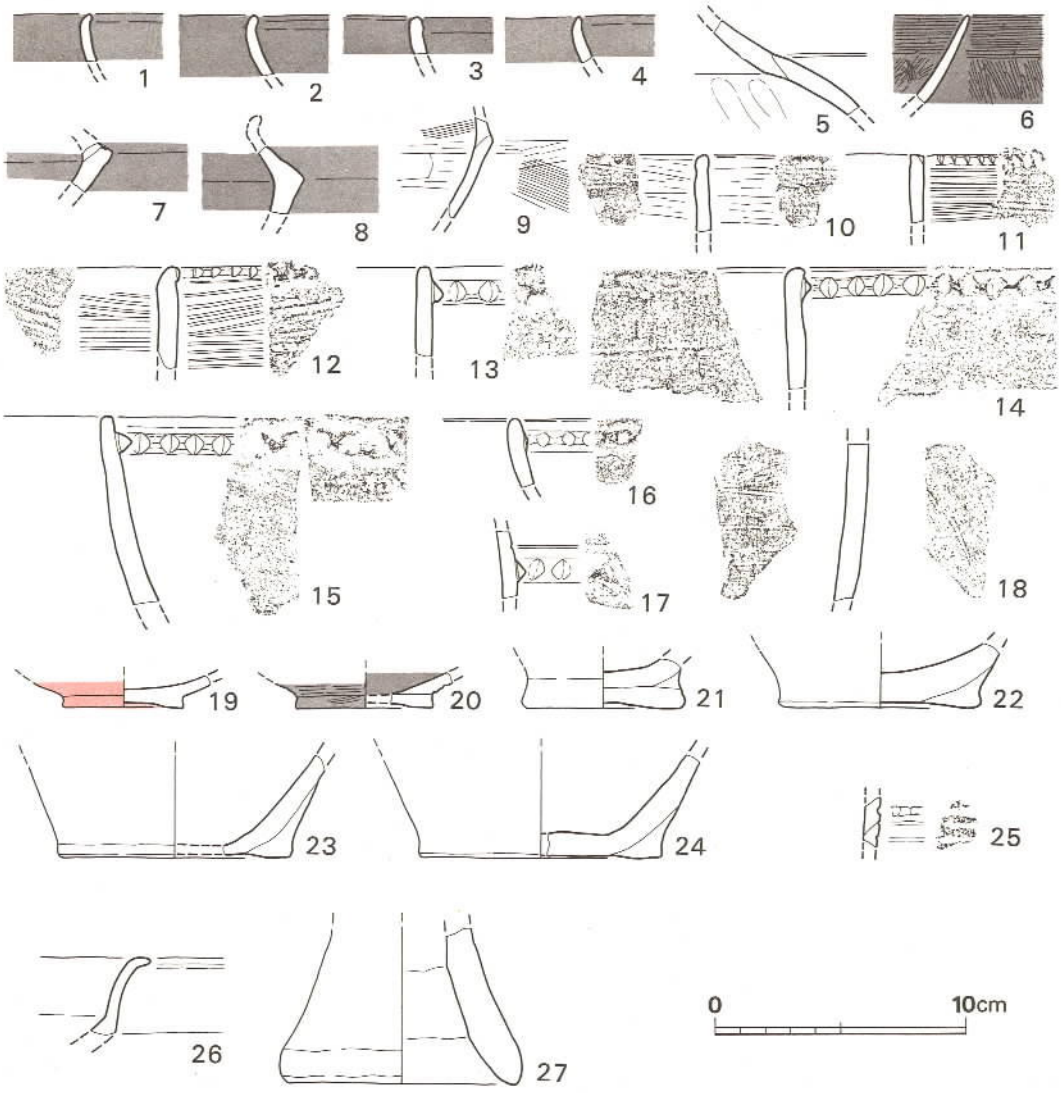
6は黒塗り磨研埦の口縁片である。口縁内外は横方向ミガキ，内面の下半は縦・斜方向のミガキ，外面下半は斜方向のミガキ。茶色の地に黒褐色の顔料を塗っている。胎土には精選粘土を使用しており，焼成は良好。

7は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内面は横方向ミガキ，外面はミガキ方向不明。肩の直上に沈線様のものがあるが，はっきりと沈線とはいえず，又，小片なので全周するか否かもわからない。細粒の石英・金雲母等を含み，焼成は不良。

8は浅鉢の肩部片である。風化のため内外ともに調整法は不明。暗褐色を呈しており，本来は黒色磨研土器と思われる。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は不良。

9は肩で屈曲する甕の肩部片と思われる。内面下半は横方向擦過，上半はハケ目，外面はハケ目と擦過を併用しているが，同一工具によるものとは思われない。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良。

10は直立する甕の口縁片である。内面は粗い横方向擦過，外面は横方向擦過。内面は黒色，



第 19 図　16 号 住 居 跡 出 土 土 器（縮尺1/3）

外面は暗褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良。

11は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面は横方向条痕。内面は茶褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

12は直立する甕の口縁片である。口縁外側に凸帯を貼付し，条痕工具による刻目を施している。内外ともに横方向条痕。内面は黄褐色，外面は黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

13は直立する甕の口縁片である。口縁より5～15mmの間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面ナデ，外面は風化のため不明。黄白色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

14は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，爪による刻目を施す。内外ともに横方向ナデ調整。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

15は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁より6～15mm下った間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施す。内外ともにナデ調整。淡茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや少なめに含み，焼成は良好。

16は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁より4～13mmの間に凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施す。内外ともに風化のため調整法は不明。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は不良。

17は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪によると思われる刻目を施している。肩の直上に沈線様のものがみられる。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黄白色，外面は淡黄色，胎土には砂粒を少量含み焼成は不良。

18は調整法の資料として図示した甕の胴部片である。内面は横方向擦過，外面は斜方向の粗い擦過。暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成良好。

19は丹塗り磨研壺の底部である。底径は4.8cmを測る。内面はナデ，外面は横方向ミガキ，外底は板木口によるカキトリで，やや上げ底を呈する。地は黄褐色，丹は明るい赤色。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良。

20は黒色磨研浅鉢の底部片である。復原底径は5.4cm。内面はミガキ，外面は横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

21は復原径6.4cmの底部片である。内面と外底はナデであるが，外面は風化のため不明。内面は黒色，外面は赤褐色を呈する。胎土には大粒の砂粒少量と，細粒の砂を多く含み，焼成は良好。

22は復原径8.0cmの底部片である。内面は擦過，外面は不明，外底はナデ。内面は黒色，外面は赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

23は復原径9.3cmの底部片である。内外ともにナデ調整。内面は黄褐色，外面は淡黄色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

24は復原径9.7cmの底部片である。内外ともにナデ調整で，指頭圧痕も認められる。内面は黄褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

以上は16号住居跡に伴う土器である。

25は床面下の縄文式土器の胴部片である。深い刺突文と浅い沈線文がみられる。黄褐色を呈

し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は不良。縄文時代前期のものと思われる。

26は弥生時代後期後半の高坏口縁片である。内面は横方向ミガキ，外面は風化のため不明。黄白色を呈し，胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

27は器台の破片である。復原底径は９cmを測る。内外ともに風化のため調整法は不明。赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。弥生時代後期後半のものである。

これらの土器の他にこの住居跡からは鉄器片が出土している。この鉄器は床面に近いところからの出土であり，上層から混入した上記２点の弥生時代後期後半の土器に伴う可能性はきわめてうすく，ほぼ確実に夜臼期のものといってよい。

17号住居跡出土土器（第20～27図）

１はミニチュア壺である。復原口径は 3.5cm，器高は 3.3cm程のものである。暗褐色を呈し，胎土には砂粒をわずかに含み，焼成はやや軟質で不良。

２は丹塗り磨研の大形壺である。復原口径は12.2cm。頸部は短くわずかに内傾し，口縁は外反する。長胴になるものと思われる。外面から頸部内面までは横方向ミガキ，胴部内面はナデ。地は茶色で，丹は暗赤色。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

３は壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ。頸部内面はナデで，指頭圧痕がみられる。暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

４は丹塗り磨研の大形壺である。復原口径は13cm，胴部最大径は28.6cmを測る。頸は短く長胴のものである。口縁内面から肩部までは横方向ミガキ，胴部は縦方向ミガキ，頸部は条痕ののち丁寧なナデ，胴部は条痕ののちナデるが，条痕はよく残っている。内面は灰黄色，丹は鮮紅色で，一部暗赤色を呈する。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。頸から肩部にかけて小黒斑，胴部に大黒斑がみられる。

５は丹塗り磨研の大形壺の肩部である。肩部の復原径は19.4cmを測る。内面は擦過，外面は横方向ミガキ。地は灰白色で，丹は暗朱色を呈する。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

６は丹塗り磨研の小形壺の破片で，復原口径は 7.0cm。頸部は短く，わずかに内傾し，口縁は外反する。外面から口縁内面までは横方向ミガキであるが，頸部内面以下は風化のため不明。地は黄褐色で，丹は暗赤色を呈する。胎土には精選粘土を用い，焼成は良。

７は丹塗り磨研大形壺の口縁片である。地は白色で，丹は暗赤色を呈する。丹塗りの後横方向ミガキを施す。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

８は丹塗り磨研大形壺の口縁片である。外面から口縁内面までは横方向ミガキ，それより下は風化のため不明。地は白色で，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良。

９は丹塗り磨研大形壺の口縁片である。内外ともに風化のためミガキ方向は不明。地は黄褐

色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は不良。

10は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は淡黒色で，丹はくすんだ赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

11は丹塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面は丁寧なナデ。地は白色で，丹はどす黒い赤色を呈する。胎土には精選粘土を用い，焼成は良。

12は丹塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面までは横方向ミガキであるが，内面には口縁直下のところまでしか丹をかけていない。頸部内面はナデ。地は暗黄白色で，丹は濁赤黒色を呈する。胎土には精選粘土を用い，焼成は不良。

13は丹塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面までは横方向ミガキが辛うじてわかる。丹も痕跡的である。地は黄白色で，丹は黄赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

14は丹塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面の丹ののこりは悪く，ミガキ方向は不明。頸部内面は指頭圧痕の上からナデを加えている。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

15は丹塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面は風化のためミガキ方向不明，頸部内面は風化のため不明。地は白色で，丹は暗赤色を呈す。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良。

16は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は黄褐色，丹は淡赤橙色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

17は丹塗り磨研大形壺の口縁片である。内面はナデ。外面は横方向ミガキ。地は灰褐色，丹は淡赤黒色を呈し，胎土には精選粘土を用い，焼成は良。

18は丹塗り磨研壺の肩部片である。内面は風化のため不明，外面は横方向ミガキ。内面は灰色，外の地は黄褐色，丹は淡赤橙色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

19は丹塗り磨研壺の頸部破片である。口縁内外は横方向ミガキ，頸部外面は縦方向ミガキ。内面は指頭圧痕ののち横方向擦過。地は灰黄色，丹は赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

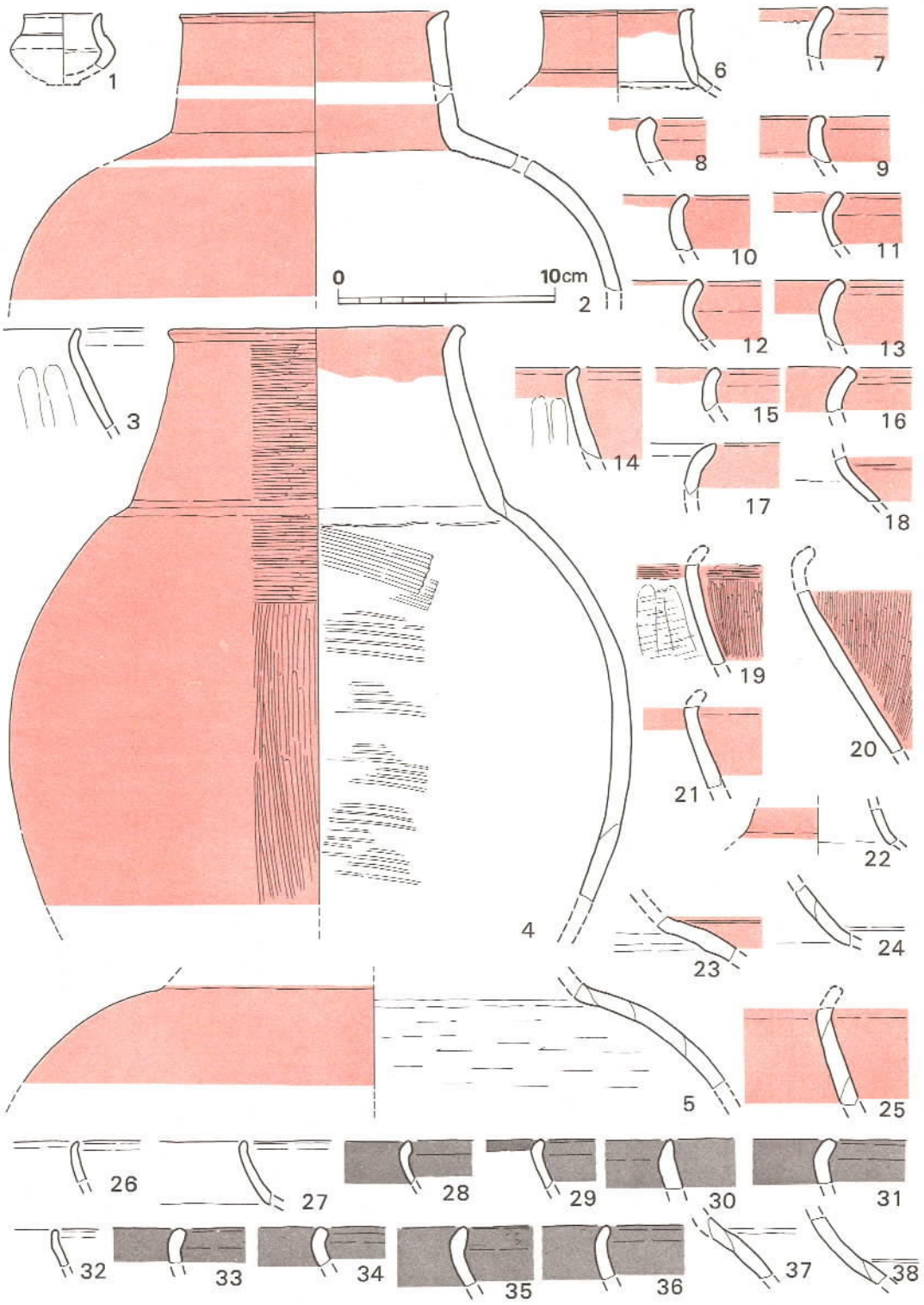
20は丹塗り磨研大形壺の頸部片である。内面は指頭圧痕ののち丁寧なナデ。外面は縦方向ミガキ。地は白黄色，丹は赤茶色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

21は丹塗り磨研壺の頸部片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ。頸部内面はナデ。地は白濁色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

22は丹塗り磨研小形壺の頸・胴部の破片である。肩の復原径は 6.6cmを測る。内面はナデ，外面はミガキ方向不明。地は淡灰色，丹は暗赤色を呈する。胎土には精選粘土を用い，焼成は良。

23は丹塗り磨研大形壺の肩部片である。内面は横方向ナデ，外面はミガキ方向不明。内面は灰黄色，外の地は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は不良。

24は壺の肩部片である。内面はナデ風の横方向擦過，外面は横方向ミガキ。内面は黒色，外



第 20 図　17 号 住 居 跡 出 土 土 器 1（縮尺1/3）

面は黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

25は丹塗り磨研大形壺の頸部片である。内外ともに横方向ミガキ。地は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

26は小形壺の口縁片である。風化のため調整法は不明。灰色を呈し，胎土には砂粒をわずかに含み，焼成は良好。

27は小形壺の口縁片である。ミガキを加えているが，風化のためミガキ方向は不明。茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

28は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

29は黒塗り磨研壺の口縁片である。外面は横方向ミガキ，内面は風化のため不明。暗黄褐色の地に黒色顔料を塗っている。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は不良。

30は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

31は黒色磨研壺の口縁である。頸部外面で横方向ミガキが観察できるが，他は風化のため不明。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

32は壺の口縁小片である。内外ともに風化のため調整法は不明。灰色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

33は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良。

34は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

35は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面は暗褐色を呈する。外面はあるいは黒塗りかとも思える。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

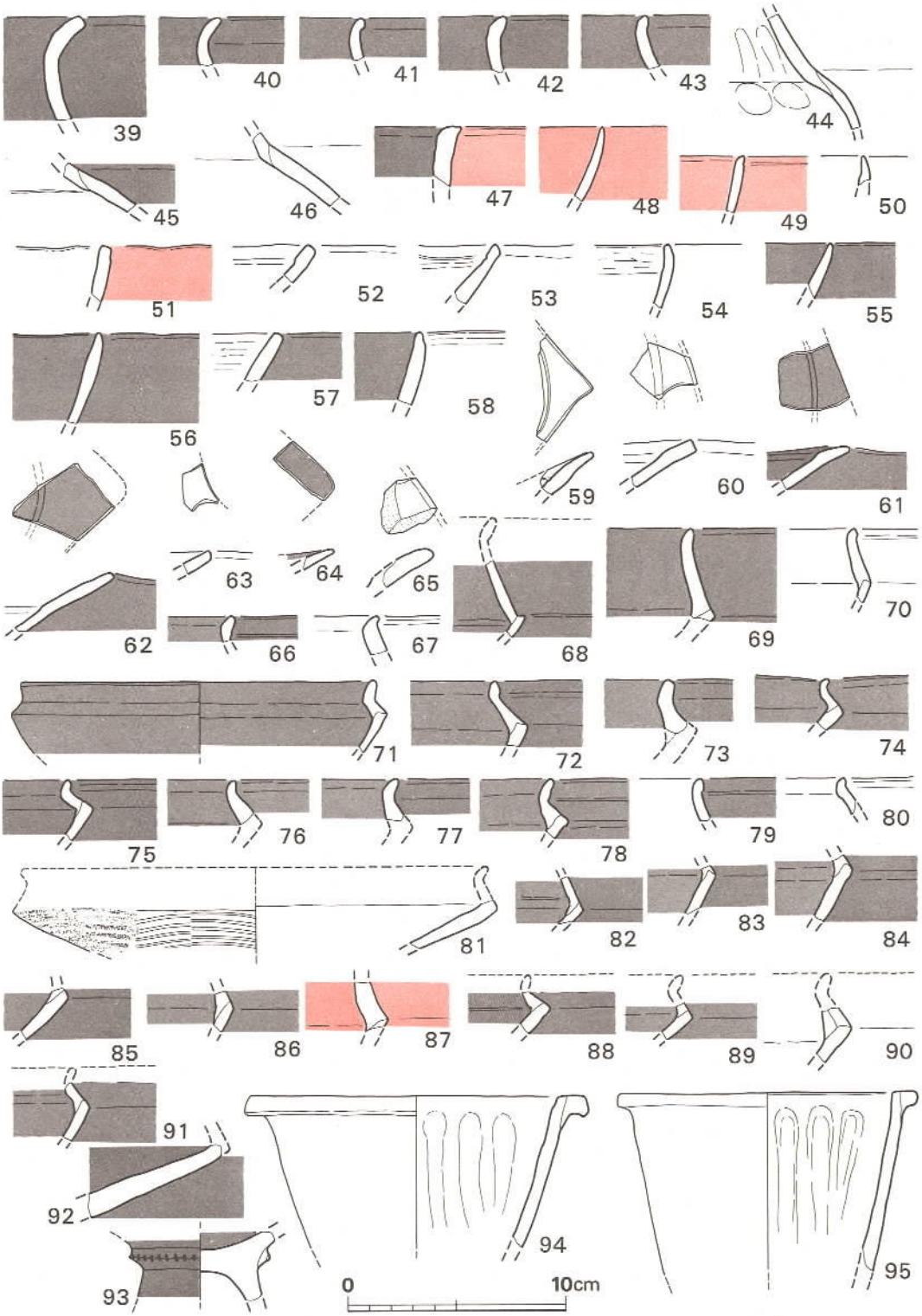
36は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面は暗褐色を呈する。外は黒塗りの可能性も考えられる。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

37は大形壺の肩部片である。外面は横方向ミガキ，内面は風化のため不明。内面は暗黄褐色，外面は淡茶色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

38は大形壺の肩部片である。外面は横方向ミガキ，内面は風化のため不明。内面は黄褐色，外面は暗褐色～黒色を呈する。胎土にはやや多めに砂粒を含み，焼成は良。

39は黒色磨研大形壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

40は黒色磨研壺の口縁片である。外面は横方向ミガキ，内面は風化のため不明。黒～黒褐色を呈し，胎土には細粒の砂少量を含み，焼成は良。



第 21 図　17 号 住 居 跡 出 土 土 器 2 （縮尺1/3）

41は黒色磨研壺の口縁片である。内面は横方向ミガキ，外面は風化のため不明。内面は黒色，外面は灰褐色～黒色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

42は黒色磨研壺の口縁片である。外面は横方向ミガキ，内面は不明。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

43は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ，内面は黒色，外面は淡黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み、焼成は良好。

44は大形壺の頸・肩部片である。外面は横方向ミガキ。内面は指頭圧痕ののちナデを加える。内面は黒色，外面は暗褐色を呈している。黒色磨研といってもよいかもしれない。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

45は黒色磨研壺の肩部片である。外面は横方向ミガキ，内面は風化のため不明。内面は淡褐色を呈し，外は黒色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

46は大形壺の肩部である。内外ともに風化のため調整法は不明。淡黄白色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

47は丹塗り磨研深鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキを加えるが，内面は黒色を呈しており，いわゆる黒色磨研である。外面は黒色磨研の上から丹塗りを加えたものではなく，当初からの丹塗りで，丹は赤茶色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

48は丹塗り磨研埦の口縁片である。内面は横方向ミガキ，外面は風化のためミガキ方向不明。地は黄褐色で，丹は暗赤色を呈する。胎土には微細粒の砂少量を含み，焼成は良。

49は丹塗り磨研埦の口縁片である。口縁下に沈線1条をめぐらしている。内外ともに横方向ミガキ。地は黄褐色で，丹は朱色。胎土には精選粘土を用い，焼成は良。

50は埦の口縁小片である。内外ともにナデ。暗褐色を呈し，胎土には微細な砂粒を含み，焼成は良。

51は丹塗り磨研埦の口縁片である。口縁はやや波状を呈する。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。地は淡黄褐色で，丹は暗赤色。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

52は埦の口縁片である。口縁内面には段をつくっている。内外ともに横方向ミガキ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み焼成は良好。

53は埦の口縁片である。口縁内面には沈線状のものがみられる。内外ともに風化のため調整法は不明。黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

54は埦の口縁片である。内面は擦過，外面はナデ。淡黄白色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は不良。

55は黒色磨研埦の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

56は黒色磨研埦の口縁片である。口縁はやや波をうっている。内外ともに横方向ミガキ。胎

土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

57は黒色磨研の埦又は鉢の口縁片である。内面は擦過，外面は横方向ミガキ。内面は暗黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

58は内面黒色磨研の埦口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒褐色，外面は淡黄色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

59は方形浅鉢の口縁片である。内面には沈線をめぐらしている。内外ともに風化のため調整法は不明。黄褐色を呈し，胎土にはやや多めに砂粒を含み，焼成は良好。

60は方形浅鉢の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

61は黒色磨研方形浅鉢の口縁片である。内面には段をつくっている。内面は風化のためミガキ方向は不明，外面は横方向ミガキ。内面は暗褐色～黒色，外面は暗茶褐色を呈する。外面は黄褐色の地の上に黒色顔料を塗ったものかともみえる。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良。

62は黒塗り磨研方形浅鉢の口縁片である。64と同一個体である。内面は横方向ミガキ，外面は風化のため不明。茶褐色の地の上に黒色顔料を塗っている。胎土にはわずかに砂粒を含み，焼成は良好。

63は方形浅鉢の口縁小片である。外面はミガキ，内面は風化のため不明。黄褐色を呈し，胎土には砂粒を微量に含み，焼成は良好。

64は62と同一個体であり▲印の所で接合できた。黒塗り磨研方形浅鉢の口縁片で，諸特徴は62と同じ。

65は方形浅鉢の口縁片である。内外ともにミガキ。内面は灰褐色，外面は灰褐色～黒色を呈する。一応黒色磨研とよんでいいのかもしれない。胎土には砂粒を微量に含み，焼成は良好。

66は黒色磨研浅鉢の口縁小片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

67は壺又は浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

68は口縁でつよく外反し，頸部は長く，肩には明瞭な段をつくる，古い要素を残した黒色磨研浅鉢である。内外ともに横方向ミガキ，内面は淡黒褐色，外面は黒色。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

69は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

70は浅鉢口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。淡灰褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。現状では粗製といえる。

71は黒色磨研浅鉢で，復原口径は16.0cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。胎土にはやや多

めに砂粒を含み，焼成は良好。

72は黒色磨研浅鉢である。内外ともに横方向ミガキ。暗褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良。

73は黒塗り磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は茶色の地の上から暗褐色の黒色顔料を塗っている。外面は黒色を呈する。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

74は内面から外面の口頸部は黒色磨研，外面の胴部は黒塗り磨研の浅鉢である。黒塗り部分は灰褐色の地の上から淡黒色の黒色顔料を塗っている。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は不良。

75は黒色磨研浅鉢である。内外ともに横方向ミガキ。口・頸部には黒色磨研の上にさらに丹塗りの痕跡がみられる。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

76は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には細粒の砂少量を含み，焼成は良好。

77は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。灰褐色～黒褐色を呈しており，あるいは黒塗りかとも思われる。胎土には細粒の砂少量を含み，焼成は良。

78は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には細粒の砂微量を含み，焼成は良好。

79は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黄褐色，外面は黒色。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

80は口縁が直立し，頸部は内彎ぎみのやや古い要素を残した浅鉢の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。淡褐色を呈しているが，本来は黒塗り磨研であったかと思われる。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

81は浅鉢の胴部片である。肩部の復原径は22cmを測る。内面は横方向ミガキ。外面は横方向条痕。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良。

82は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに風化のためミガキ方向は不明。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は不明。

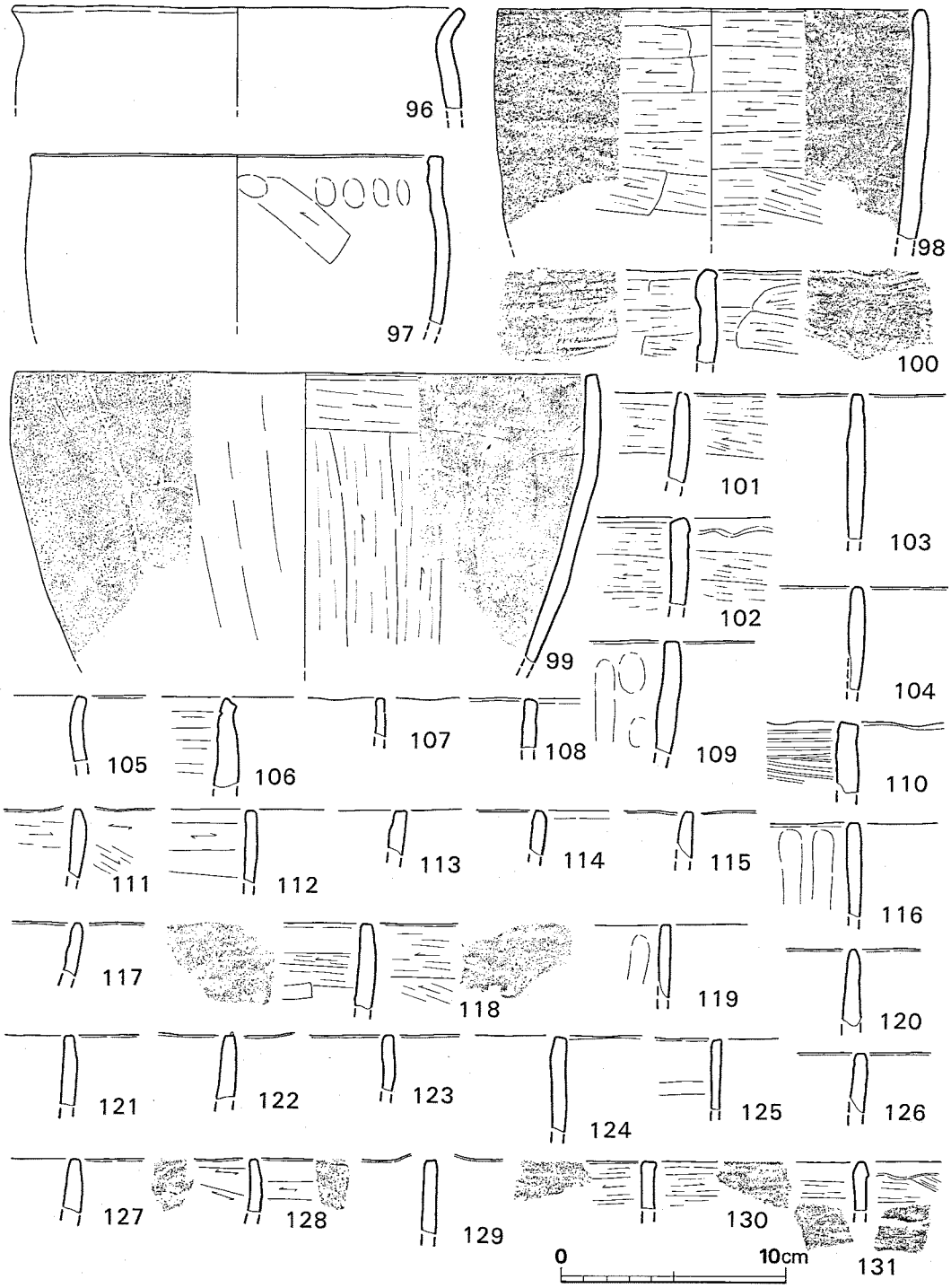
83は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

84は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面は灰褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成はやや良。

85は黒塗り磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。灰褐色の地の上から黒色顔料を塗り黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

86は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成はやや不良。

87は丹塗り磨研深鉢の肩部片と思われる。内外ともに横方向ミガキ。茶褐色の地の上に，暗



第 22 図　17 号 住 居 跡 出 土 土 器 3（縮尺1/3）

赤褐色の丹塗りを施している。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

88は黒塗り磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。灰褐色の地の上に黒色顔料を塗り黒褐色を呈する。胎土には細粒の砂微量を含み，焼成は良好。

89は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

90は浅鉢の肩部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

91は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内面は横方向ミガキ，外面は風化のため不明。黒褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良。

92は黒色磨研浅鉢の胴部片である。内外ともに横方向ミガキ。内外ともに黒色磨研の上からさらに丹塗りを加えた痕跡がみられる。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

93は高坏の坏・脚部片である。凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。坏内面および，凸帯から上はミガキ，凸帯より下は風化のため不明，脚内面はナデ。坏内面と脚内面は黒色を呈し，本来黒色磨研であったと思われるが，外面は二次的火熱を受け，暗赤紫色に変色した部分がある。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

94は口縁で直に外反する小甕である。復原口径は15.2cm。内面は指頭圧痕の上からナデ。口縁上端はナデ。口縁外側は一見ミガキ風の横方向ナデ。外面は縦方向のヘラナデ。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

95は口縁で直に外反する小甕である。復原口径は13.5cm。内面は指頭圧痕の上からナデ。口縁部はヨコナデ，外面はミガキ風の縦方向ヘラナデ。内面は暗茶褐色，外面は黄褐色～褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

96は直立する甕で口縁は外反している。復原口径は19.5cmを測る。内面は指頭圧痕の上からナデ，外面は風化のため不明。内面は淡赤褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

97は直立する甕の口縁片で，胴部はややふくらみぎみである。内面は板木口による擦過と，指頭圧痕がみられる。口縁部は横ナデ，外面はナデ。内面は黄褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

98は直立する甕で，復原口径は18.7cmを測る。内外ともに横方向擦過。内面から口縁直下までは黒褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

99は直立する甕で，復原口径は25.6cmを測る。内面は縦方向の擦過，口縁下は横方向擦過，外面は縦方向の丁寧な擦過。内面は淡茶褐色，外面は赤褐色～暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

100は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。黒色を呈し，胎土には砂粒を多く

含み，焼成は良好。

101は直立する甕の口縁片である。内外ともにミガキ風の横方向擦過。内面は暗黄褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

102は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。内面は暗茶褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

103は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。内面は明茶色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

104は直立する甕の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

105は直立する甕の口縁片である。口縁は外反ぎみで，胴部はわずかにふくらむ。内面はナデ，外面は横方向擦過。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

106は直立する甕の口縁片である。内外ともに擦過。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

107は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

108は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。灰黄色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

109は直立する甕の口縁片である。内面は指頭圧痕の上からナデ，外面はナデ。内面は淡赤褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

110は直立する甕の口縁片である。内面は横方向条痕，外面は条痕をナデ消す。内面は暗褐色，外面は黒色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

111は直立する甕の口縁片である。口縁はやや波をうっている。内外ともに横方向擦過。内面は黄褐色，外面は暗黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

112は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。内面は淡茶色，外面は灰黄色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

113は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

114は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

115は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。内面は淡褐色，外面は暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

116 は直立する甕の口縁片である。内面は指頭圧痕ののちナデ，外面はナデ。内面は淡褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

117は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。黄褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

118は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。内面は茶褐色，外面は暗褐色で，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

119は直立する甕の口縁片である。内面は指頭圧痕の上からナデ，外面はナデ。内面は淡褐色，外面は暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

120は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。内面は灰黒色，外面は淡黄色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

121は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。灰黄色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

122は直立する甕の口縁片である。口縁はやや波をうっている。内外ともにナデ。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

123は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。灰黄色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

124は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

125は直立する甕の口縁片である。口縁はやや波をうっている。内面は擦過，口縁内面はナデ，外面は風化のため不明。暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

126は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ，口縁内外はヨコナデ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

127は直立する甕の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。黄褐色の地に淡赤褐色の化粧土をかけている。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

128は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。黒色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

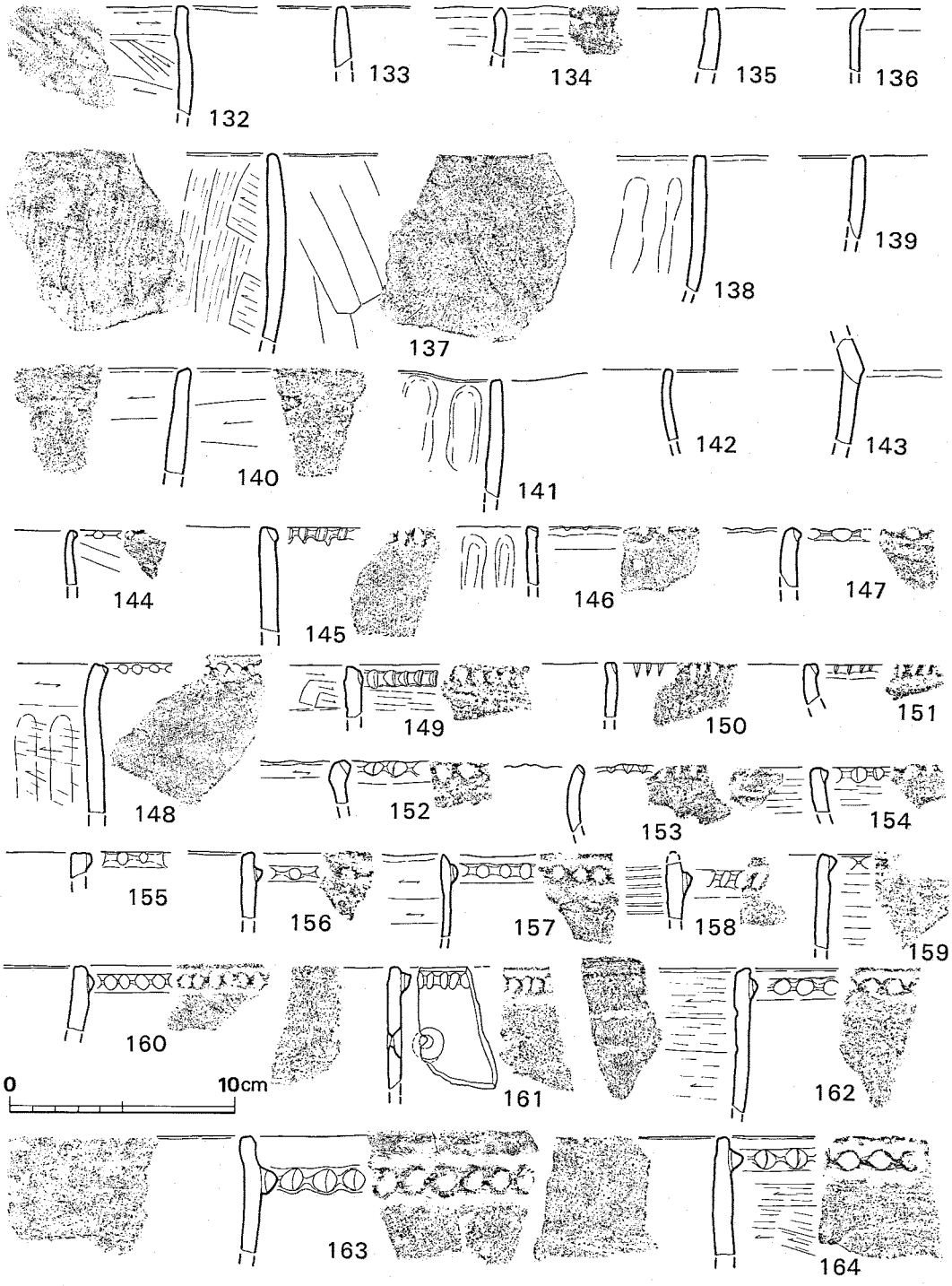
129は直立する甕の口縁片である。口縁はやや波をうっている。内外ともにナデ。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。口縁上面には淡赤色の丹を塗っている。胎土には少量の砂粒を含み焼成は良好。

130は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

131は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

132は直立する甕の口縁片である。内面は板木口による擦過，外面はナデ。暗赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

133は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。黄白色を呈するが，内面には橙色の化粧



第 23 図　17 号 住 居 跡 出 土 土 器 4 （縮尺1/3）

土が付着した部分がある。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

134は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

135は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

136は直立する甕で口縁はわずかに外反する。内外ともに風化のため調整法は不明。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

137は直立する甕の口縁片である。内面はミガキ風の擦過，外面はナデ風の丁寧な擦過を施す。内面は赤褐色，外面は暗赤褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

138は直立する甕の口縁片である。内面には指頭圧痕が認められるが風化のため不明な点が多い。外面はナデ。内面は茶褐色。外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

139は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。内面は淡茶褐色，外面は暗褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

140は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。内面は灰褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

141は直立する甕の口縁片である。口縁は波をうっている。内面は指頭圧痕の上からナデ，外面はナデ。内面は黄褐色，外面は暗褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

142は肩で屈曲する甕の口縁片である。内外ともにナデ。内面は暗黄白色，外面は暗黄茶色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

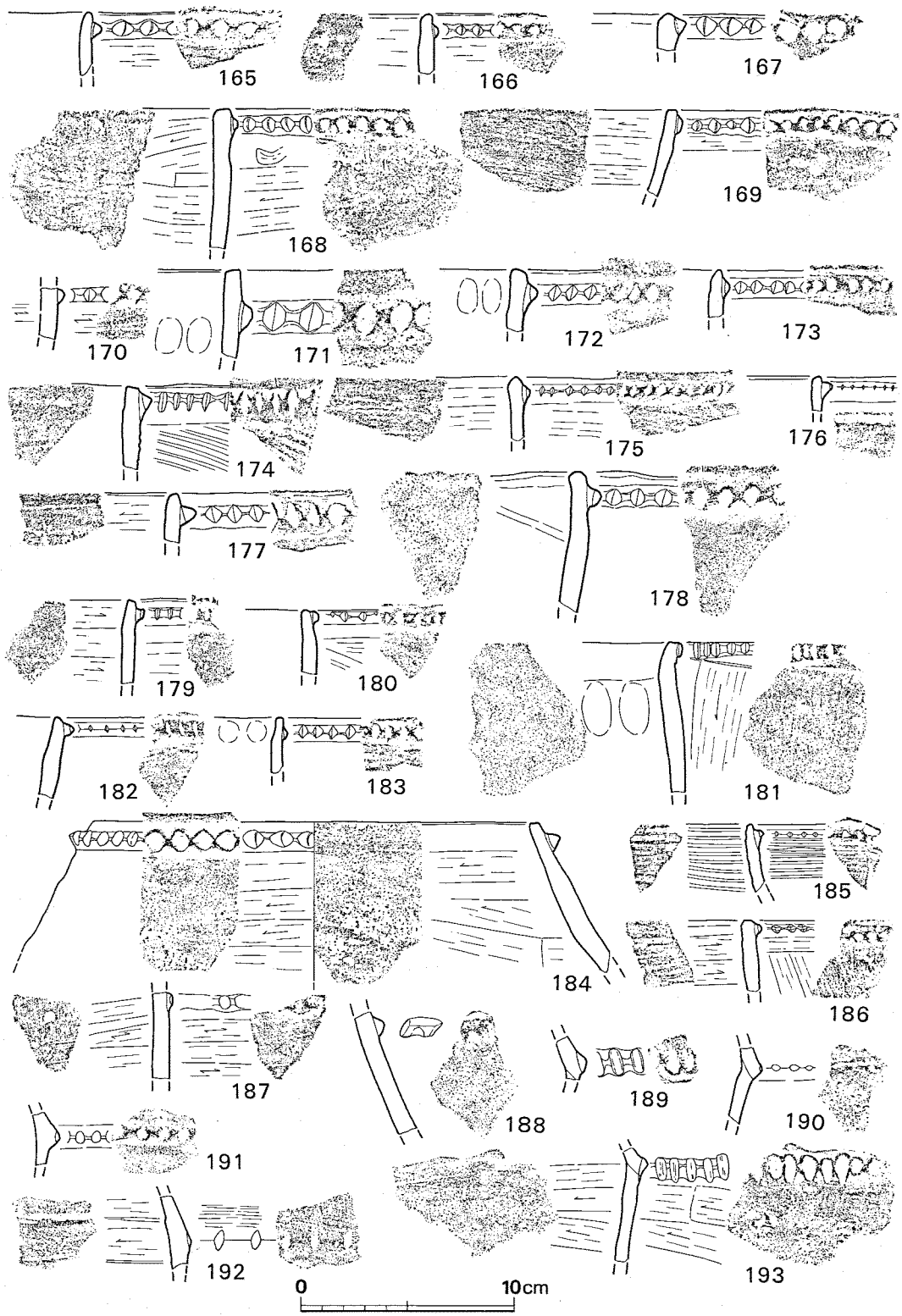
143は黒色磨研深鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

144は直立する甕で口縁はわずかに外反ぎみである。口縁には棒状工具による刻目を施す。内面はナデ，外面は擦過。内面は明茶褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

145は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面はナデ，外面は縦横の擦過。内面は淡褐色，外面は暗褐色を呈し，胎土には細粒の砂を多く含み，焼成は良好。

146は直立する甕の口縁片である。口縁上端に棒状工具で押圧した刻目を施す。内面は指頭圧痕の上からナデ，外面は擦過。内面は茶褐色，外面は暗褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

147は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面はナデ，外面は横方向擦過。暗褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。



第 24 図　17 号 住 居 跡 出 土 土 器 5 （縮尺1/3）

148は直立する甕で口縁はわずかに外反する。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面は指頭圧痕の上からミガキ風の擦過，外面は丁寧なナデ。内面は灰褐色，外面は赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

149は直立する甕の口縁片である。口縁には爪による粗い刻目を施す。内面は擦過，外面は条痕。内面は黒色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

150は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施す。内外ともにナデ。内面は淡黄褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には細粒の砂をやや多く含み，焼成は良。

151は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁には爪による刻目を施す。内外ともに風化のため調整法は不明。暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は不良。

152は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁には爪による刻目を施す。内面は擦過，外面は風化のため不明。黒色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや不良。

153は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施す。内外ともにナデ。内面は暗黄褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

154は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる大きな刻目を施している。内外ともに横方向擦過。黒色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

155は直立する甕の口縁片である。口縁外側には凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。口縁から内面は黄白色，外面は黒色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は軟質で不良。

156は直立する甕の口縁片である。口縁下6～13㎜程の間に凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内面から凸帯まではナデ，凸帯より下は風化のため不明。茶褐色～暗茶褐色を程し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

157は直立する甕の口縁片である。口縁下5～13㎜程の間に凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内面は横方向擦過，外面は風化のため不明。黄白色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。全体に薄手である。

158は直立する甕の口縁片である。口縁下10㎜程のところに凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内面は横方向条痕，外面は風化のため不明。内面は茶褐色，外面は灰褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

159は直立する甕の口縁片である。口縁外側に凸帯を貼付し，刻目を施している。内面はナデ，外面は横方向擦過。内面は淡茶色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

160は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内外ともにナデ。内面から凸帯の上までは淡赤褐色，凸帯より下は淡褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

161は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，棒状工具

による刻目を施している。内外ともにナデ。内面は黒褐色，外面は暗黄褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。口縁下３cm程のところに補修孔を穿っている。外径は13mm，内径は３～４mmを測る。

162は直立する甕の口縁片である。口縁下４～14mm程の間に凸帯を貼付し，棒状工具による大きな刻目を施している。内面は横方向擦過，口縁から凸帯まではヨコナデ，凸帯より下は風化のため不明。内面から凸帯の下までは黒色，外面は淡赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成良好。

163は直立する甕の口縁片である。口縁下13～25mm程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面はヨコナデ様の擦過と思われる。外面はナデ。内面は黒褐色，外面は黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

164は直立する甕の口縁片である。口縁下６～16mm程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。口縁と凸帯周辺はヨコナデ，外面は横方向擦過，内面は風化のため不明。内面は黄褐色，外面は濃茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

165は直立する甕の口縁片である。口縁下５～13mm程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。口縁から凸帯周辺はヨコナデ，外面は擦過，内面は風化のため不明。内面は茶褐色，口縁から凸帯は暗赤褐色，外面は淡茶褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

166は直立する甕の口縁片である。口縁下５～11mm程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面は黒褐色，外面は淡黄色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

167は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともにナデ。内面は黒色，外面は黒褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

168は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともに横方向擦過。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

169は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面はハケ目風の横方向擦過，外面はナデ風の擦過。内面は淡黒褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

170は直立する甕の口縁片と思われる。口縁より下ったところに凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向擦過。淡茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含む。焼成は良好。

171は直立する甕の口縁片である。口縁下14～30mm程のところに凸帯を貼付し，ヘラによる大

きな刻目を施している。内面は指頭圧痕ののちナデ，外面はナデ。内面は赤褐色，外面は黄色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

172は直立する甕の口縁片である。口縁より５～16㎜程下ったところに凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は指頭圧痕ののちナデ，外面はナデ。内面は黄白色，外面は灰褐色～黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

173は直立する甕の口縁片である。口縁下３～14㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。黄白色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

174は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下った位置に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面から凸帯まではナデ，外面は横方向条痕。内面は灰褐色，外面は黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

175は直立する甕の口縁片である。口縁下４～13㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。口縁内外と凸帯部分はヨコナデ，他は内外ともに横方向擦過。茶褐色を呈するが口縁内外だけは黒色である。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

176は直立する甕の口縁片である。口縁下３～12㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。内面は淡黄色，外面は淡茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

177は直立する甕の口縁片である。口縁下５～17㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる大きな刻目を施している。内面は横方向擦過，外面はナデ。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

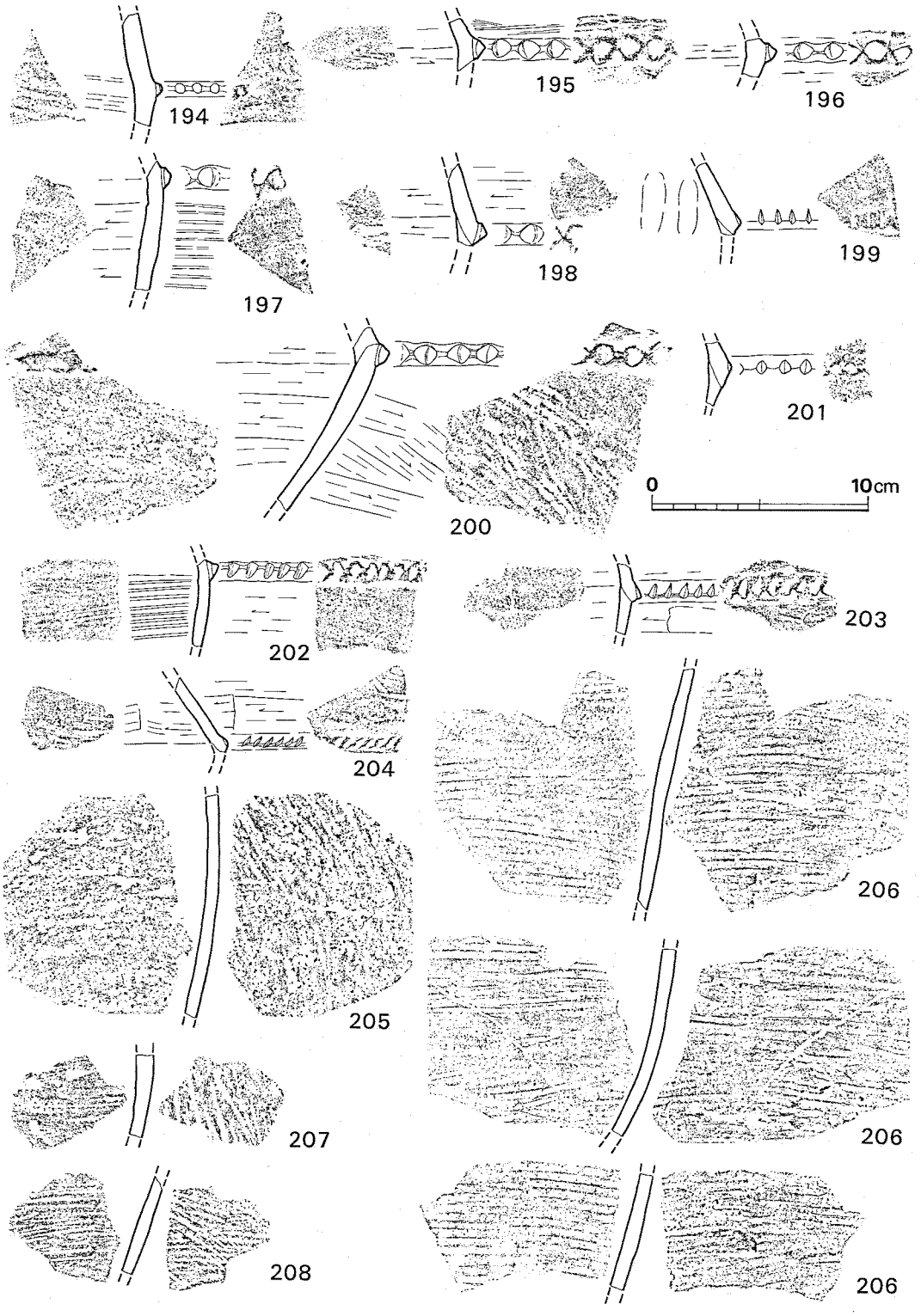
178は直立する甕の口縁片である。口縁下６～19㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる大きな刻目を施している。内外ともにナデ。内面は黄白色，外面は暗黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

179は直立する甕の口縁片である。口縁より４～12㎜程下った間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面は黄褐色，口縁内外は黒色，外面は淡褐色を呈する。胎土には細粒の砂を多く含み，焼成は良好。

180は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。外面は擦過，内面は風化のため不明。黄褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

181は直立する甕で口縁はわずかに外反ぎみである。口縁外側に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施す。内面は指頭圧痕のあとナデ，外面は縦方向擦過。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

182は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。黄白色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良



第 25 図　17 号 住 居 跡 出 土 土 器 6 （縮尺1/3）

好。

183は直立する甕の口縁片である。口縁下４～11㎜程下った間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は指頭圧痕の上からナデ，外面は風化のため不明。淡茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

184は肩で屈曲する甕の口縁片で，復原口径は20.7㎝。口縁より5～13㎜程下った間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともに横方向の擦過であるが，凸帯周辺だけはナデ。内面から口縁にかけては黄褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

185は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向の条痕であるが，口縁から凸帯にかけてはナデ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

186は内傾の度合が弱く直立する甕の口縁片と思われる。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，板木口による刻目を施している。内面から口縁下までは横方向擦過，外面はハケ目に近い縦方向の擦過。内面は黒色，外面は黒褐色。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

187は直立する甕の口縁と思われる。口縁より下ったところに凸帯を貼付し，不明瞭な刻目を施している。内外ともに横方向の擦過。内面は黒色，外面は黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

188は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁より下ったところに小突起を貼付するが，刻目は明瞭でない。内外ともにナデ。黄褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

189は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には棒状工具による大きな刻目を施している。内外ともにナデ。暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

190は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には棒状工具による刻目を施している。内面はナデ，凸帯より上は横方向擦過，凸帯より下は風化のため不明。内面は明茶褐色，外面は淡黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

191は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には棒状工具による刻目を施している。内外ともにナデ調整。内面は茶褐色，外面は淡茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

192は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には棒状工具による刻目を施している。内面は擦過，外面は横方向の擦過で，肩より上は一見ハケ目風である。内面は黒色，外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

193は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には棒状工具による大きな刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面は灰褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

194は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施してい

る。内面は横方向擦過，外面は風化のため不明。内面は赤褐色，外面は暗赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

195は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は横方向擦過，外面は横方向条痕。内面は淡茶色，外面は黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

196は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面は淡黄褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

197は肩で屈曲する甕の口縁片である。肩には凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は横方向擦過，外面は風化のため不明瞭ではあるが横方向条痕と思われる。内面は黄褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

198は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面は黄褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

199は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩部にはヘラによる刻目を施している。内面は指頭圧痕の上からナデ，外面はナデ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

200は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともに横方向の粗い擦過。淡褐色を呈し，胎土には砂粒を多く，焼成良好。

201は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩にはヘラによる刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黒色，外面は灰色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

202は肩で屈曲する肩部片である。肩には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は横方向条痕，外面は横方向擦過。内面は黒褐色，外面は褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

203は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩にはヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面は黒褐色，外面は暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

204は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩にはヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面は黒色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

205は甕の胴部片である。調整法の資料として示す。内面は横方向の粗い擦過，外面は斜方向の粗い擦過。暗黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

206は甕の胴部片である。調整法の資料として示す。内外ともに横方向の条痕である。内面は淡黄褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

207は甕の胴部片である。調整法の資料として示す。内面は横方向の擦過，外面は斜方向の粗い擦過。内面は暗灰色，外面は暗黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

208は甕の胴部片である。調整法の資料として示す。内面は横方向条痕，外面は横・斜方向の条痕。内面は黒色，外面は茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

209は直立する甕で，口縁はわずかに外反する。口縁にはハケ目工具による刻目を施している。内面は縦方向の細いハケ目，外面はハケ目のあと横方向条痕を施す。口縁内外はヨコナデ。内面は黄褐色，外面は黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

210と211は甕の胴部片で同一個体である。調整法の資料として図示する。内面は横方向条痕，外面は斜方向条痕の上からナデている。内面は黒色，外面は茶褐色，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

212は復原径7.0cmの丹塗り磨研の底部である。内面と外底はナデ，外面は風化のためミガキ方向不明。内面の地は灰色，外面の地は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

213は径５cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は縦方向の擦過。内面は黄白色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

214は復原径7.8cmの底部である。内外ともにナデ。内面は灰白色，外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

215は径6.4cmの浅鉢底部である。内面は黒色磨研，外面はさらに暗赤褐色の丹塗りを加えているがミガキ方向は不明。外底は板木口によるカキトリの後ナデ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

216は復原径7.4cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は風化のため不明。内面は暗茶褐色，外面は赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

217は復原径7.8cmの底部片である。内外ともにナデ。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

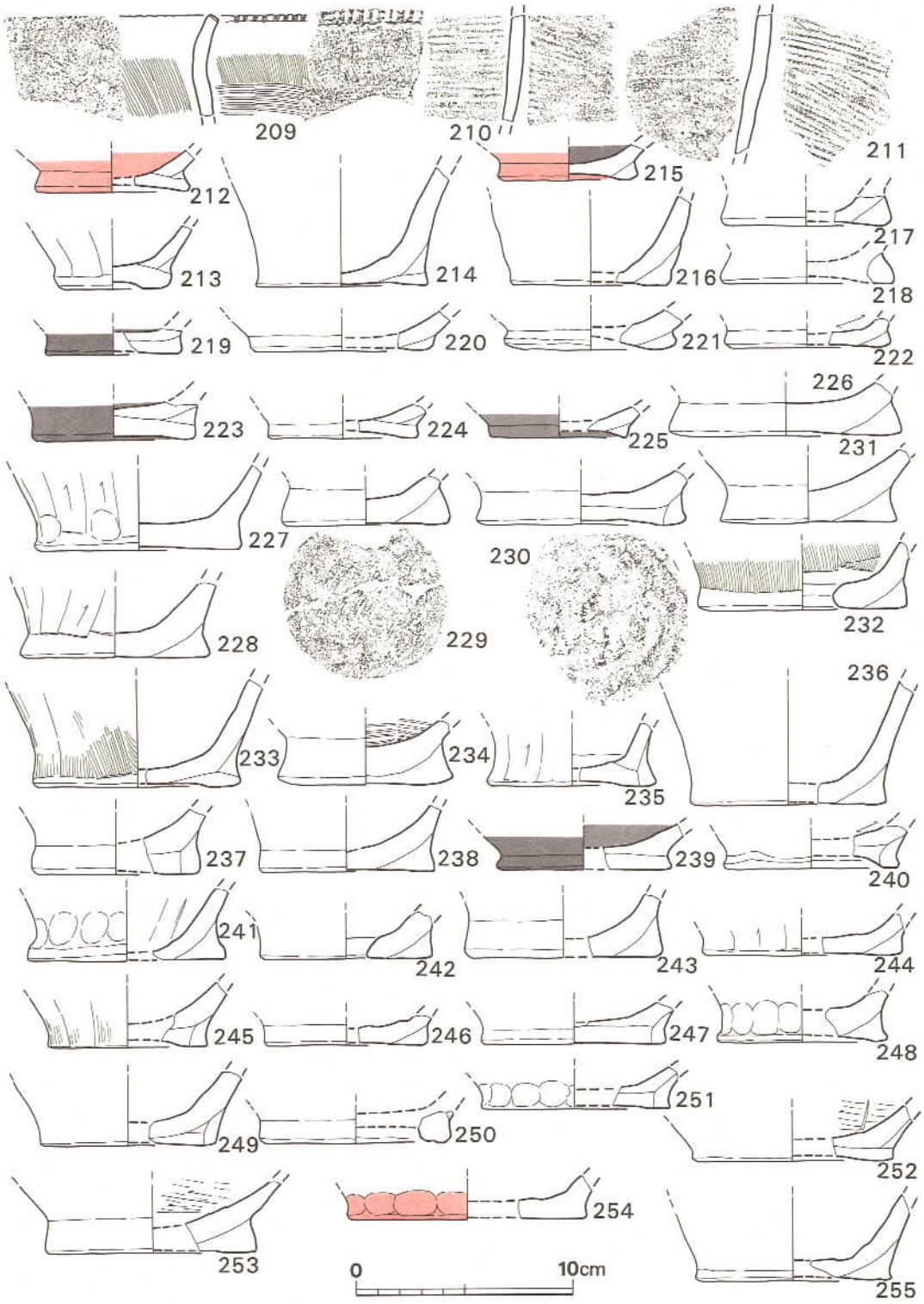
218は底部片であるが，小片で径を算出できないので一応８cmで復原して図示した。ナデ調整。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

219は復原径6.2cmの黒色磨研浅鉢の底部片である。外面はミガキ，外底はナデ，内面は風化のため不明。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

220は復原径8.3cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は灰白色，外面は灰黄色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

221は復原径7.8cmの底部片である。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は黒褐色，外面は暗褐色を呈するが，底部外面は二次的火熱を受け赤変している。胎土には細粒の砂を多く含み，焼成は良好。

222は復原径7.6cmの底部片である。内面は擦過，外面はナデ。内面は黒色，外面は二次的火



第 26 図　17 号 住 居 跡 出 土 土 器 7（縮尺1/3）

熱を受けて赤褐色を呈する。胎土には大粒の砂を少量含み，焼成は良好。

223は復原径7.4cmの黒色磨研浅鉢の底部片である。内外ともにミガキ。胎土には細粒の砂を多く含み，焼成は良好。

224は復原径6.9cmの底部片である。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は黒褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

225は復原径6.2cmの黒色磨研壺の底部片である。外面は横方向ミガキ，外底はヘラによる削リトリ，内面は風化のため不明。内面は茶褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には細粒の砂少量含み，焼成は良好。

226は径10.7cmの底部である。内面と外底は擦過，外面はナデ。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

227は径9.4cmの底部である。内面は指ナデ，外面は縦方向の擦過に，部分的に指頭圧痕がみられる。外底はナデ。内面は淡赤褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

228は径8.6cmの底部である。外面は縦方向擦過，底部外側から外底はナデ，内面は風化のため不明。内面は黄褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。底面に籾圧痕がみられる。長6.5mm，幅3.3mm，長幅比は1.97である。

229は径7.7cmの底部である。内面は擦過，外面はナデ，外底は板木口によるカキトリを施す。内面は黄褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

230は径9.7cmの底部である。内面は条痕の痕跡がみられる。外面はナデ，外底は板木口によるカキトリ。内面は黄褐色，外面は赤褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

231は径8.2cmの底部である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は淡赤褐色，外面は暗黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

232は甑底部片で復原径は9.6cmである。外から内部へと穿孔している。孔の径は3cm程のものである。内外ともにハケ目を施す。淡黄褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

233は復原径9.5cmの底部片である。内面はナデ，外面は細いハケ目ののちナデを加えている。外底はナデ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

234は復原径8.0cmの底部片である。内面は条痕，外面はナデ。内面は暗茶褐色，外面は赤褐色～淡褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

235は復原径7.8cmの底部片である。外面は縦方向擦過，外底はナデ，内面は風化のため不明。内面は明黄褐色，外面は暗黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

236は径を算出できないので一応9cmで復原して図示した。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は茶褐色，外面は赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

237は復原径7.6cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は淡茶色，外面は黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

238は復原径8.0cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。暗黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

239は復原径8.0cmの黒色磨研浅鉢の底部である。外面は横方向ミガキ，内面は風化のため不明，外底はナデ。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

240は復原径8.0cmの底部片である。内面は擦過，外面はナデ。内面は褐色，外面は黒色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

241は復原径9.0cmの底部片である。内面は擦過ののちナデ，外面は風化のため不明。赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

242は甑の底部片で，復原径は7.9cmを測る。外から内へ穿孔し，外径は２cm程のものである。内外ともに風化のため調整法は不明。淡赤褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

243は径を算出できないので一応９cmで復原して図示した。内面と外底はナデ，外面は風化のため不明。内面は灰褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

244は復原径9.2cmの底部片である。内面はナデ，外面は縦方向の擦過，外底も擦過。内面は黒褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

245は復原径7.4cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は細いハケ目ののちナデを加えている。内面は赤褐色，外面は淡桃色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

246は復原径7.5cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。黄褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良。

247は径8.5cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黄白色，外面は淡茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。底面に籾圧痕がある。長6.4mm，幅3.5mm，長幅比は1.83である。

248は復原径7.8cmの底部片である。内外ともにナデ。外底は板木口によるカキトリ。暗黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

249は復原径8.0cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は暗黄褐色，外面は淡茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

250は土器成形時に底部外側に貼付した粘土帯がはずれたものである。復原径は8.8cmである。剝落部分は擬口縁を呈し，ナデ調整である。外面もナデ。擬口縁部分は茶褐色，器面は淡茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。かなりの上げ底を呈するようである。

251は復原径8.7cmの底部片である。内外ともにナデ，底部外側には指頭圧痕が明瞭である。淡赤褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

252は復原径9.2cmの底部片である。内面は擦過，外面は風化のため不明。内面は黄褐色，外面は暗黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

253は復原径9.6cmの底部片である。内面は擦過，外面は風化のため不明。内面は灰黄色，外面は赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

254は復原径11.0cmの丹塗り磨研大形壺の底部である。外面は指頭圧痕ののちナデ，内面と外面は不明。地は黄褐色，丹は暗赤色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

255は復原径9.0cmの底部片である。内外ともにナデ。内面は黒褐色，外面は淡赤褐色を呈し，胎土には細粒の砂をやや多く含み，焼成は良好。

以上は17号住居跡に伴う土器である。

256は縄文式土器の口縁片である。口縁外側にヘラによる刻目と斜方向の刻線が認められる。内外ともにナデと思われる。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。縄文時代前期のものと考えられる。

257は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口唇部には棒状工具で軽く押圧した刻目を施している。内面はミガキ風の横方向擦過，外面はナデ。内面は茶褐色，外面は暗黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

258は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口唇部にはヘラによる刻目を施す。内面はナデ，外面はハケ目ののちナデ。黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

259は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口唇部にはヘラによる刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は淡茶色，外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや不良。

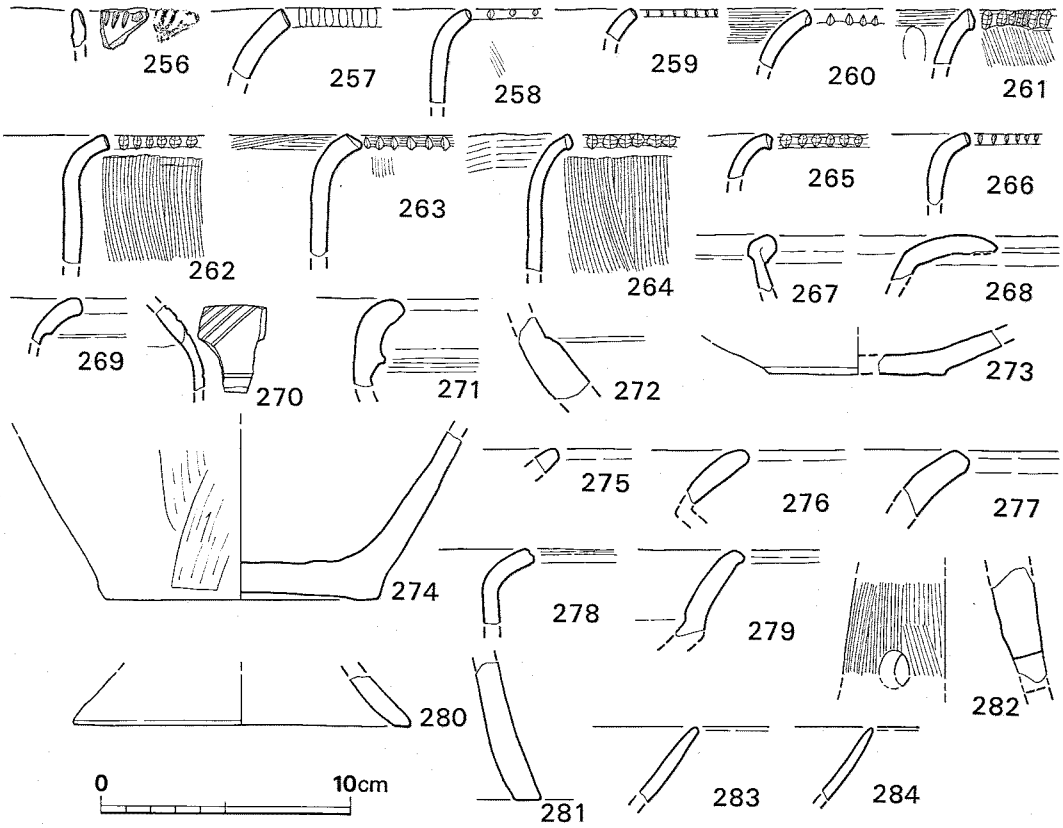
260は板付Ⅱ式の甕口縁片である。口縁下端にヘラによる刻目を施している。口縁内面はハケ目，他はナデ。淡茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

261は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口唇部にはハケ目工具による刻目を施している。口縁内面は横方向ハケ目，それより以下は指頭圧痕ののちナデ，外面はハケ目。黒褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

262は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口唇部にはハケ目工具による刻目を施している。内面はナデ，外面はやや粗いハケ目。内面は暗黄褐色，外面は褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

263は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口唇部にはヘラによる刻目を施している。口縁内面と口唇部は横方向ハケ目，他は内外ともにハケ目ののちナデを加えている。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好である。

264は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口唇部にはハケ目工具による刻目を施している。内面は粗いハケ目ののちナデ，外面は細いハケ目。内面は黄褐色，外面は褐色～黒色を呈し，胎土には



第 27 図　17 号 住 居 跡 出 土 土 器 8（縮尺1/3）

少量の砂粒を含み，焼成は良好。

265は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口唇部にはハケ目工具による刻目を施している。内面はナデ，外面はハケ目ののちナデを加えている。内面は黄褐色，外面は暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

266は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口唇部にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

267は無文土器甕の口縁片である。口縁は折り返してつくっている。内外ともに横方向ナデ。内面は黒色，外面は淡黄色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。古い形態のものであり，板付Ⅱ式の古い段階頃に伴うものと考える。

268は高坏の口縁片である。口縁は直に近く外反し，内に低く傾斜している。内外ともに横方向ミガキ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。板付Ⅱ式に属する。

269は壺口縁片である。口縁下に段をつくっている。内外ともに横方向ミガキ。茶褐色で一部

黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。板付Ⅰ式に属する。

270はヘラ描きの複線山形文をもつ壺肩部片である。内面はナデ。外面は風化のためミガキ方向不明。内面は灰褐色，外面は黄褐色を呈する。胎土には精選粘土を使用し，焼成はやや不良。板付Ⅰ式に属する。

271は大形壺の口縁片である。口縁下には段をつくっている。内外ともに横方向ミガキ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。板付Ⅱ式の古段階に属する。

272は大形壺の肩部片である。肩には段をつくる。内面はナデ，外面はミガキ。内面は茶色，外面は黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。板付Ⅱ式の古段階に属する。

273は復原径7.0cmの壺底部片である。外面はナデ，内面は風化のため不明。内面は黄白色，外面は赤褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。弥生時代前期に属する。

274は径10.8cmの底部である。内面は風化のため不明瞭であるが，ハケ目工具の起点痕がみられる。外面はハケ目ののちミガキ風の擦過。黄白色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。底部外側から外底にかけて黒斑がある。弥生時代前期に属する。

275はおそらく，く字状口縁甕の口縁片であろう。内外ともに風化のため不明。明茶褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。弥生時代後期のものであろう。

276はく字状口縁を呈する甕口縁片である。内外ともにヨコナデ。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成良好。弥生時代後期後半のものであろう。

277はく字状口縁を呈する甕口縁片である。内外ともにヨコナデ。内面は暗茶褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。弥生時代後期後半のものであろう。

278はく字状口縁を呈する甕口縁片である。口縁内外はヨコナデ，他は内外ともにナデ。黄白色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

279は高坏口縁片である。内面は横方向ミガキ，外面は風化のため不明。茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。弥生時代後期後半に属する。

280は脚部片である。復原径は13.4cm。内外ともに横方向ミガキ。脚裾端部はヨコナデ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。弥生時代後期のものであろう。

281は器台の脚部片である。内外ともにナデ調整。黄褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。弥生時代後期後半に属する。

282は高坏脚部片である。内面はナデ，外面はハケ目を施す。赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。弥生時代後期後半に属する。

283は土師器坏口縁片である。内外ともにヨコナデ。茶褐色を呈し，胎土には赤色粒子を含む。焼成は良好。平安時代初期のものと考ける。

284は土師器坏口縁片である。内外ともにナデ。茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は軟質で不良。平安時代初期のものと考える。

275～282の弥生時代後期後半に属する土器は，35号住居跡に伴うものであることはまちがいない。

18号住居跡出土土器（第28・29図）

1は丹塗り磨研壺の口・頸部片である。口縁内外面は横方向ミガキ，頸部外面は縦方向ミガキ。地は黄白色，丹は鮮紅色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

2は丹塗り磨研大形壺の口縁部片である。外面から口縁内面までは横方向ミガキ，頸部内面はナデ。地は白濁色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

3は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに風化のためミガキ方向は不明。地は黄白色，丹は痕跡的であるが暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成はやや不良。

4は内面黒色磨研，外面丹塗り磨研の壺口縁片である。内面は横方向ミガキ，外面は風化のためミガキ方向不明。外の地は黄褐色，丹は痕跡的であり，淡赤色を呈する。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

5は黒色磨研にさらに丹塗りを加えた壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色磨研のまま，外面はさらに丹塗りを加えて赤味のかかった黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

6は黒色磨研の壺口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

7は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

8は壺の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は明茶色，外面は黄褐色部分と黒色部分がある。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は不良。

9は丹塗り磨研壺の頸，肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。地色は黒褐色，丹は赤桃色を呈する。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

10は黒色磨研壺の肩部片である。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。内面は黒褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

11は丹塗り磨研埦の口縁片である。口縁直下には内外ともに沈線1条をめぐらしている。内外ともに横方向ミガキ。内面の地は灰黒色，外面の地は黄褐色，丹は淡赤色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

12は丹塗り磨研埦の口縁片である。口縁直下に一条の沈線をめぐらしている。内外ともに風化いちじるしく，丹も痕跡的である。地は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良。

13は丹塗り磨研埦の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明な点が多く，丹も痕跡的である。内面と外面の地は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。精選粘土を使用し，焼成は良。

14は内面黒色磨研，外面丹塗り磨研の埦口縁片である。内外ともにミガキ。内面は黒褐色，口縁内面から外面は不明瞭ではあるが丹塗りと思われ，暗赤褐色を呈している。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

15は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向へラミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

16は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

17は浅鉢の破片である。風化のため内外ともに調整法は不明。暗褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや良。

18は黒色磨研浅鉢の肩部片である。肩の上には一条の沈線をめぐらしている。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

19は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には細粒の砂を少量含み，焼成は良好。

20は黒色磨研浅鉢の胴部片である。内外ともに横方向ミガキ。暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

21は直立する甕の口縁片である。内面は指頭圧痕の上からナデ。外面はナデ。茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

22は黒色磨研の直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

23は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

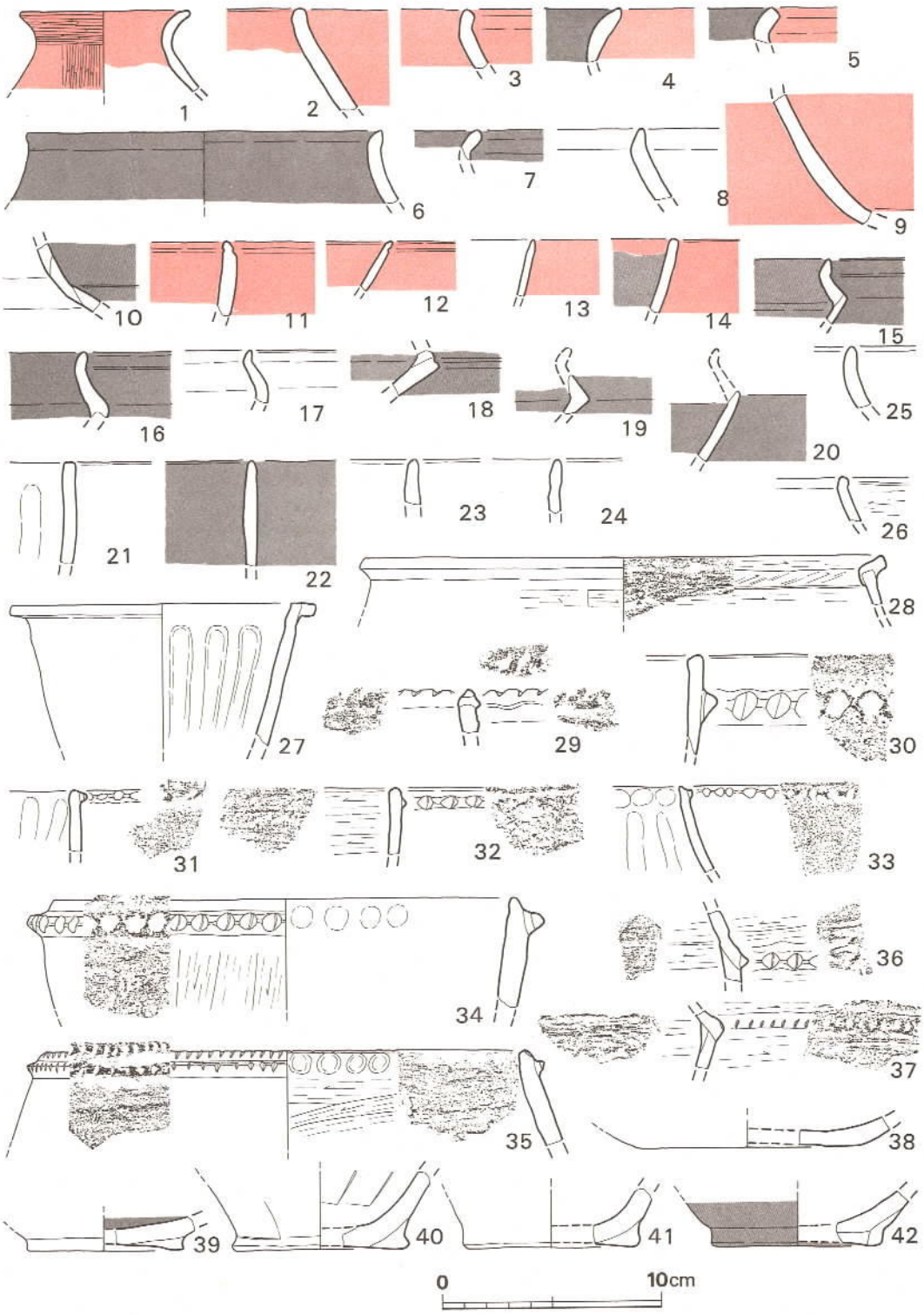
24は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

25は肩で屈曲する甕の口縁片である。内外ともにナデ。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

26は肩で屈曲する甕の口縁片である。内面はナデ，外面は横方向擦過。内面は暗黄褐色，外面は褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

27は口縁が直に外反する小甕である。復原口径は13.6cm。内面は指頭圧痕の上からナデ。口縁内外はヨコナデ，外面は縦方向ナデ。内面は暗褐色，外面は暗黄褐色～黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

28は口縁で外反する甕である。口縁は粘土帯を貼付してつくっている。口縁内外は横方向擦



第 28 図　18 号 住 居 跡 出 土 土 器 1（縮尺1/3）

過。内面は黒褐色，外面は黄褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

29は直立する甕の口縁片である。口縁上端にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

30は直立する甕の口縁片である。口縁下15～32mm下った間に凸帯を貼付し，ヘラによる大きな刻目を施している。外面はナデ，内面は風化のため不明。茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

31は直立する甕の口縁片である。口縁外側には凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内面は指頭圧痕の上からナデ，外面はナデ。内面は黄褐色を外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

32は直立する甕の口縁片である。口縁下４～10mm下った間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は横方向擦過，口縁から凸帯にかけてはナデ，外面は風化のため不明。黒色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

33は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内面の口縁直下は指頭圧痕の上からヨコナデ，頸部内面は指頭圧痕の上からナデ，外面はナデ。内面は赤褐色，外面は暗黄褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

34は直立する甕で復原口径は20.9cmを測る。口縁より５～17mm程下った間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施す。内面はナデで指頭圧痕がみられる。口縁から凸帯下まではヨコナデ，外面は縦方向の擦過。黒褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

35は肩で屈曲する甕で，復原口径は21.6cmを測る。口縁から４～12mm程下ったところに凸帯を貼付し，口縁と凸帯にヘラによる刻目を施している。口縁内面は指頭圧痕ののちヨコナデ，頸部内面は横方向擦過。口縁から凸帯の下まではヨコナデ，頸部はナデ。赤褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

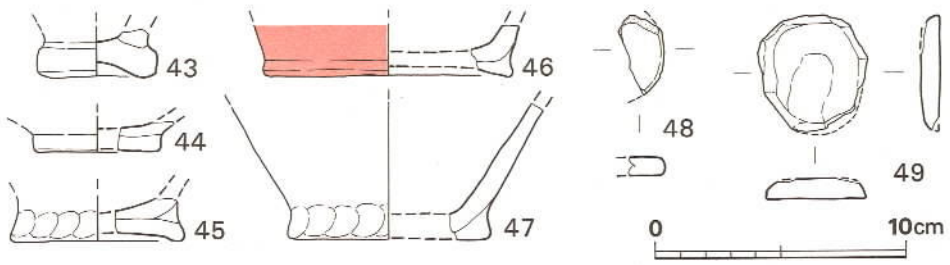
36は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には爪による大きな刻目を施している。内外ともに横方向擦過。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

37は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には爪先による刻目を施している。内外ともに横方向擦過。茶褐色～暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

38は復原径10.2cmの丸底の壺底部である。風化のため内外ともに調整法は不明。内面は黒色，外面は黄褐色であるが二次的火熱を受けて赤桃色に赤変している。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

39は復原径7.1cmの浅鉢底部片である。内面は黒色磨研，外面はナデで茶褐色を呈するが，黒塗りの可能性も考えられる。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

40は復原径8.0cmの底部片である。内面は横方向擦過，外面は縦方向擦過。暗赤褐色を呈し，



第 29 図　18 号 住 居 跡 出 土 土 器 2（縮尺1/3）

胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

41は復原径8.0cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。暗赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

42は復原径7.7cmの黒色磨研壺の底部片である。外面はミガキ，内面と外底は風化のため不明。内面は黄白色，外面は黒色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

43は径4.6cmの底部である。内外ともに擦過。内面は暗茶褐色，外面は黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。蓋の可能性も考えたが，図示した外底部分がすれているので，底部と考えた。

44は復原径5.0cmの小形壺の底部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。黄白色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

45は復原径6.8cmの底部片である。内面はナデ，外面は不明瞭ながら指頭圧痕がみられる。外底は板木口によるカキトリで上げ底にする。内面は黒色，外面は赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

46は復原径9.8cmの丹塗り磨研壺の底部片である。内面はナデ，底部外側は横方向ミガキ。地は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

47は復原径8.0cmの底部片である。内面はナデ，外面はナデで，底部外側には指頭圧痕がみられる。内面は淡赤褐色，外面は暗赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

48は土器片利用の円盤である。外側の加工が丁寧であり，紡錘車として使用した可能性もある。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黒褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

49は土器片利用の円盤である。径は4.1～4.7cmでやや長円形を呈する。内外ともにナデ，暗褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

18・19・25号住居跡上面出土土器（第30図）

これらの土器は18号・19号・25号住居跡の遺構面を検出する過程で出土したもので，これらの住居跡に伴うが，いずれかを確定できないもの，又これらの住居跡より上層にあった土器の両者を含んでいる。

1は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は黄白色，丹は暗赤色，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

2は壺の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。黄白色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良。

3は深鉢口縁片である。内面はナデと思われる。外面は風化のため不明，黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成はやや不良。本来は黒色磨研の精製深鉢と考える。

4は深鉢の口縁片かと思われる。内外ともに風化のため調整法は不明。地は茶褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

5は直立する甕の口縁片である。外面は縦方向の擦過，口縁部はナデ，内面は風化のため不明。内面は淡黄色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

6は弥生時代後期後半の高坏肩部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は茶褐色，外面は黄褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は不良。

7は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

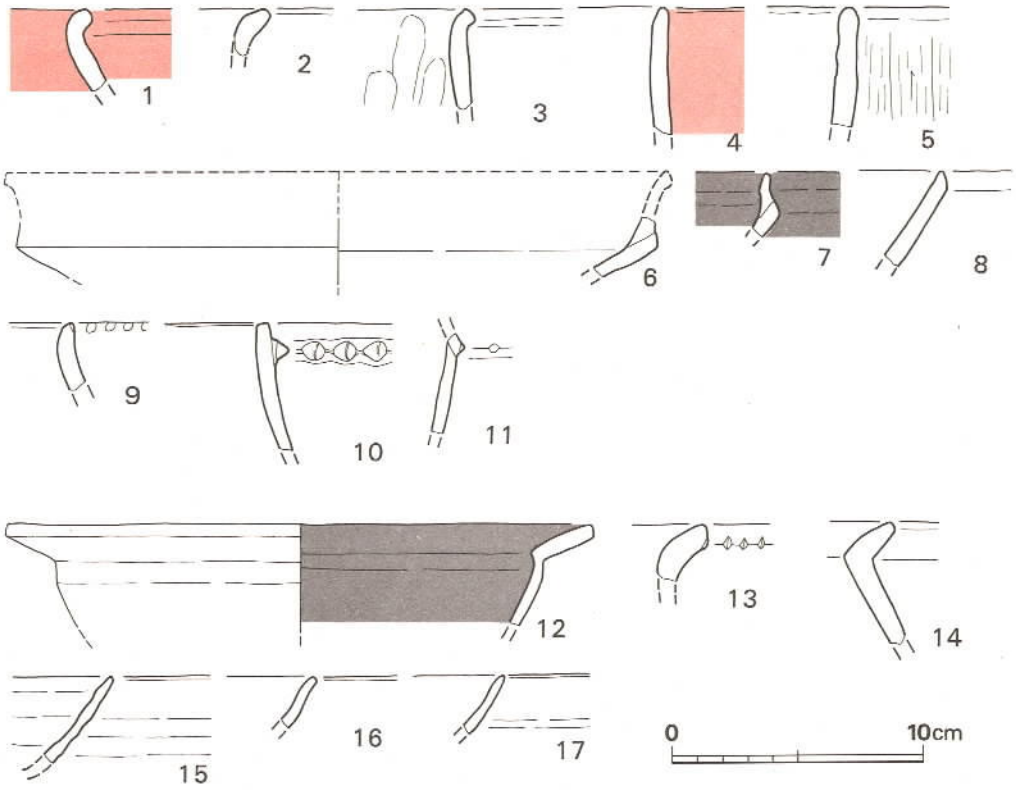
8は鉢の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。暗褐色を呈するが，外面の一部は二次的火熱を受けて赤変している。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

9は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内外ともに横方向ナデ。暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

10は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下6～16㎜程下った間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。灰白色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

11は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には棒状工具による刻目を施す。内面は縦方向ナデ，外面は風化のため不明。内面は黒色，外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

12は内面黒色磨研，外面は丹塗りと思われる高坏である。内面は横方向ミガキ，外面は風化のため不明。外面は黄白色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。板付Ⅰ式の新段階のものと考える。



第 30 図　18・19・25号住居跡上面出土土器（縮尺1/3）

13は板付II式の甕口縁片である。口縁下端にヘラによる刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黒褐色，外面は淡褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや不良。

14はく字状口縁を呈する弥生時代後期後半の甕である。口縁内外はヨコナデ，他は内外ともにナデ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

15は土師器坏片である。内外ともにヨコナデでロクロ痕が明瞭である。淡茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。平安時代初期のものである。

16は須恵器坏片である。内外ともにヨコナデ。灰黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。奈良末～平安初期のものである。

17は須恵器坏片である。内外ともにヨコナデ。灰色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。奈良末～平安初期のものである。

以上のうち時期を特記しなかったものはすべて夜臼期の土器である。

21号住居跡出土土器（第31図）

1は壺の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黒色，外面は黄白色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

2は直立する甕の口縁片である。口縁はやや波をうっている。口縁より3～13㎜程下った間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は黒色，外面は暗赤褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

3は方形浅鉢の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。黒褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は不良。

4は復原径8.0cmの底部片である。内面はナデ，外面は指頭圧痕ののちナデ。外底には木葉痕がみられる。

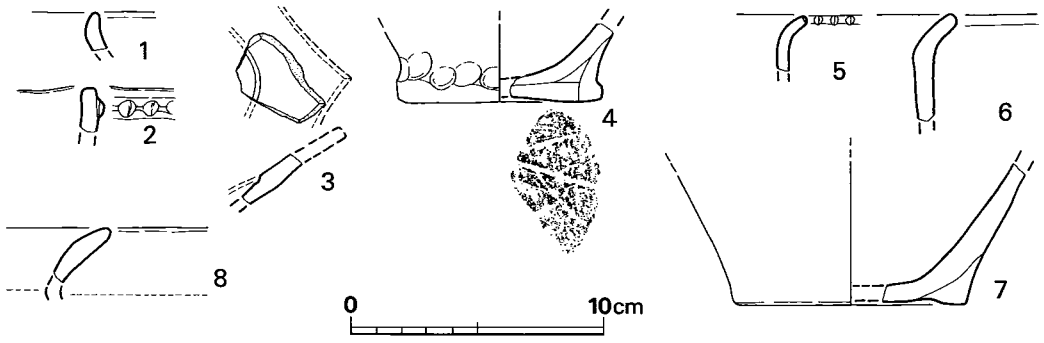
以上が21号住居跡に伴うものである。

5は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施す。内外ともに風化のため不明。黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

6は板付Ⅱ式の甕と思われる。風化のため内外ともに調整法は不明。口唇部に刻目はないようである。淡黄色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

7は復原径9.2cmの底部片である。内外ともにナデと思われる。内面は茶褐色，外面は淡赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。弥生時代前期のものである。

8はく字状口縁を呈する甕の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。黄褐色～褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。弥生時代後期後半のものと考えられる。



第31図　21号住居跡出土土器（縮尺1/3）

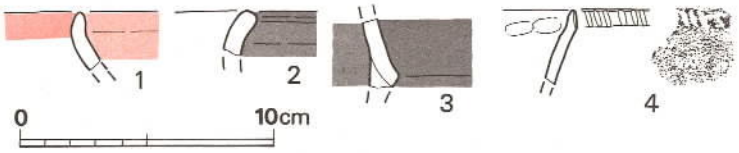
23号住居跡出土土器（第32図）

1は丹塗り磨研壺の口縁片である。口縁の部分だけ横方向のミガキが観察できるが，他の部分は風化のため不明。地は淡茶色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

2は黒色磨研の大形壺の口縁と思われる。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。内面は暗茶褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

3は黒色磨研深鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

4は鉢の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面は指頭圧痕ののちナデ，外面はナデ。内面は暗茶褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 32 図　23 号 住 居 跡 出 土 土 器（縮尺1/3）

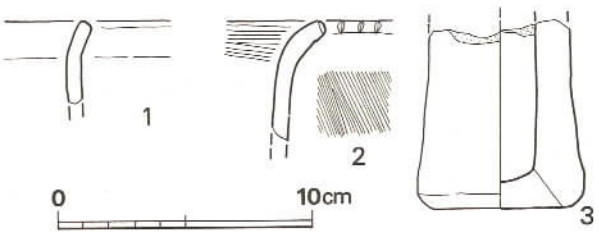
24号住居跡出土土器（第33図）

1は直立する甕で口縁がわずかに外反する。内外ともに風化のため調整法は不明。淡茶色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。夜臼期のものである。

2は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口唇部にはヘラによる刻目を施している。口縁内面は横方向ハケ目ののちナデ，胴部内面はナデ，口縁外面はナデ，胴部外面は細いハケ目。内面は淡茶色，外面は暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

3は器台である。底径は 6.5cmを測る。外わくをつくって内部に粘土を充塡している。風化のため調整法は不明。赤褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は不良。弥生時代中期前半のものと考える。

以上3点しか図示し得る土器がないが，切合い関係等からして，1がこの住居跡に伴う土器と考えられる。



第 33 図　24 号 住 居 跡 出 土 土 器（縮尺1/3）

25号住居跡出土土器（第34図）

1は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

2は直立する甕の口縁片である。口縁は波をうっている。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黄褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

3は直立する甕の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は灰褐色，外面は黒色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

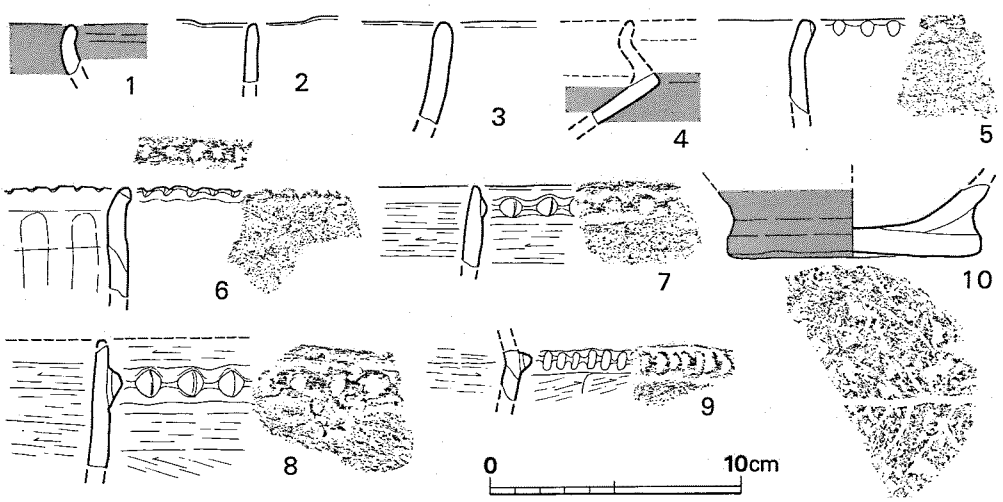
4は黒色磨研浅鉢の胴部片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には細粒の砂少量を含み，焼成は良。

5は直立する甕の口縁片である。口縁はわずかに外反し，棒状工具による刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は淡茶褐色，外面は黄白色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は不良。

6は直立する甕の口縁片である。口縁はわずかに外反ぎみである。口縁上端には棒状工具による刻目を施している。内面は指頭圧痕ののちナデ，外面は風化のため不明。内面は淡茶褐色，外面は暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

7は直立する甕の口縁片である。口縁より5～13mm程下った間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともに横方向擦過。赤褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

8は直立する甕の口縁片である。口縁端を一部欠失しているが，口縁より10～25mm程下った間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともに横方向擦過。淡赤褐色を呈



第 34 図　25 号 住 居 跡 出 土 土 器（縮尺1/3）

し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

9は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面は黒色，外面は暗褐色を呈している。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

10は径10cmの底部である。内外ともにナデ，外底には木葉痕がみられる。内面は黄白色，外面および外底は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。底部外側はナデであるが，黒色磨研壺の底部であると考える。

26号住居跡出土土器（第35～37図）

1は丹塗り磨研壺の口・頸部片である。復原口径は12.0cmを測る。口縁内外は横方向ミガキ，頸部は縦方向ミガキ，頸頭内面は指頭圧痕ののちナデ。内面は黄褐色，外の地は淡黄色，丹は暗赤褐色で質が悪い。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

2は壺の口・頸部片である。復原口径は13.2cmを測る。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面は指頭圧痕ののちナデ。濃茶褐色を呈し，胎土には細粒の砂を少量含み，焼成は良好。17と諸特徴等から同一個体の可能性が大。

3は壺の口縁である。口縁端はわずかに折返している。外面は横方向ミガキ，口縁直下はヨコナデと思われるが，口縁から内面にかけては風化のため不明。内面は暗黄褐色～黒色，外面は赤褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

4は壺口・頸部片である。復原口径は11.5cm。外面は横方向ミガキを辛うじて観察できるが，内面は風化のため不明。内面は明黄色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや不良。

5は壺の口縁～肩部である。さらに下半部もあるが，部分を確定できない。復原口径は14.2cmを測る。外面から口縁内面までは横方向ミガキ。頸部内面は指頭圧痕の上から擦過。肩部内面には指頭圧痕がみられる。胴部内面は擦過ののちナデ。内面は赤褐色～黒褐色，外面は黒褐色で一部赤褐色のところあり。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

6は丹塗り磨研壺の口縁片である。風化のためミガキ方向は不明。地は灰色，丹は暗赤色を呈する。胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

7は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は茶褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

8は丹塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面までは横方向ミガキ，頸部内面は風化のため不明。地は淡茶色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

9は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面の地は淡赤褐色，外の地

は暗黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

10は黒色磨研の壺又は浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

11は丹塗り磨研壺の肩部片である。外面は風化のためミガキ方向は不明。内面は風化のため不明。内面は灰色，外の地は淡黄色，丹は暗赤褐色で質が悪い。胎土には少量の砂粒を含み，焼成はやや不良。

12は丹塗り磨研壺の肩部片である。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。地は灰黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

13は丹塗り磨研壺の肩部片である。内面はナデで，肩部には指頭圧痕がみられる。外面は横方向ミガキ。地は灰褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

14は丹塗り磨研壺の肩部片である。外面は横方向ミガキ，内面は風化のため不明。内面は灰色，外の地は灰黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

15は丹塗り磨研壺の肩部片である。内面はナデ，外面は風化のためミガキ方向不明。内面は赤褐色，外の地は灰褐色～黒褐色，丹は暗赤褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

16は壺の肩部片である。頸部内面は横方向擦過，肩部内面は指頭圧痕ののちナデ，外面は横方向ミガキが辛うじてわかる。内面は黄白色，外面は淡黄色～黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

17は壺の底部である。底径 6.8cmの丸底化した底部をもつ。内面は擦過，外面は横方向のミガキ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。器形からは弥生後期後半の可能性も考えられないこともないが，色，胎土，焼成，手法等から夜臼期のものと考えられ，2の底部であろうと思われる。

18は埦の口縁かと思われる。内外ともに風化のため調整法は不明。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

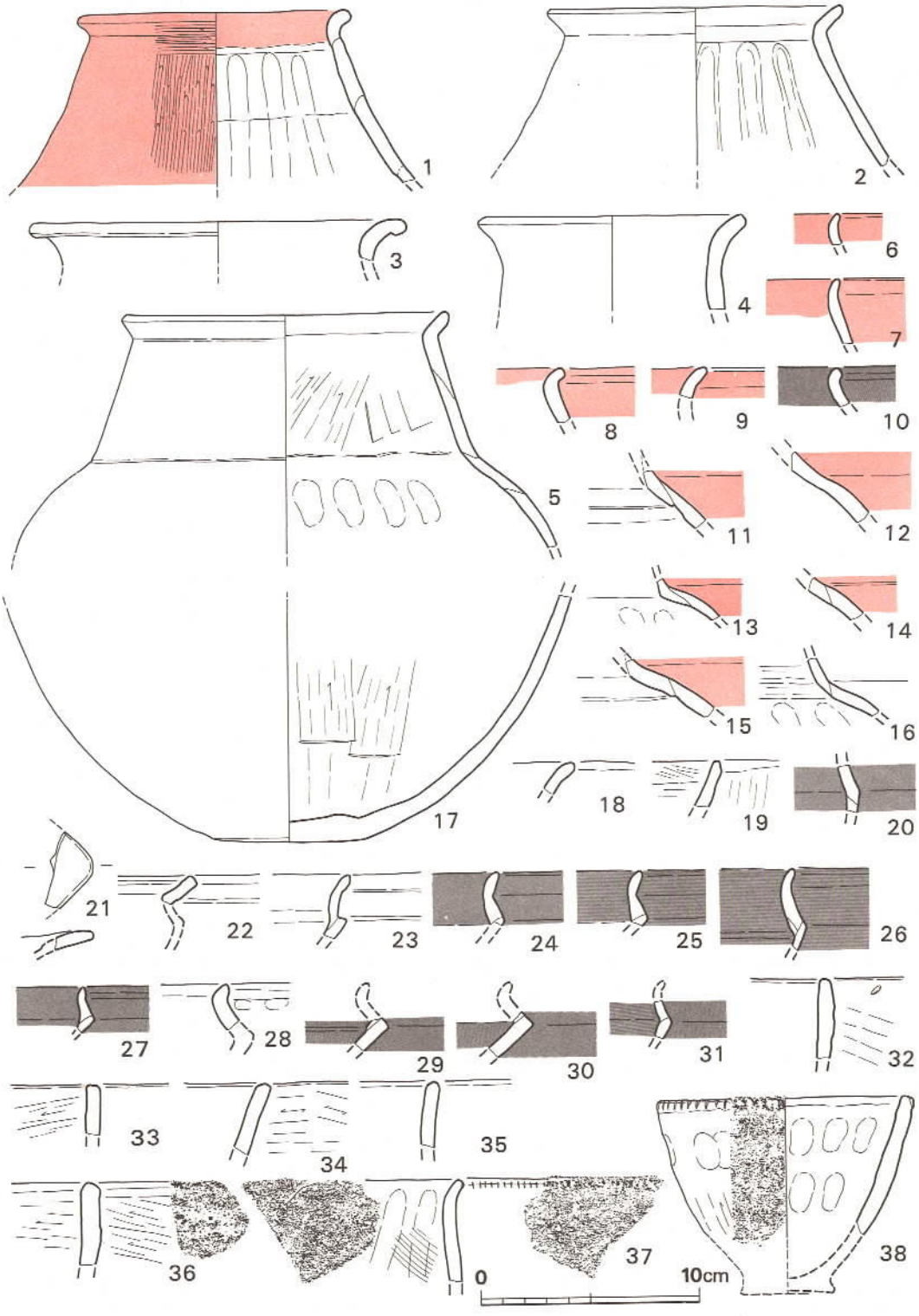
19は鉢の口縁片である。内面はミガキ風の横・斜方向の擦過，外面は縦方向の擦過。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

20は黒色磨研の深鉢である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

21は方形浅鉢の口縁片である。外面にはハケ目様の条線が認められる。内面は風化のため不明。暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

22は浅鉢口縁片である。口縁内面で段をつくり，さらに屈曲する古い要素をもっている。内外ともに風化のため調整法は不明。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

23は浅鉢又は高坏の破片である。頸部は直立し，口縁は外反し，口縁下には段をつくり，又



第 35 図　26 号 住 居 跡 出 土 土 器 1（縮尺1/3）

肩部の段はつよく張り，古い要素を残している。内面は灰褐色，外面は淡黄褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

24は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

25は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

26は黒塗り磨研浅鉢の破片である。内外ともに横方向ミガキ。淡赤褐色の地に黒色顔料を塗り，黒褐色～黒色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

27は黒色磨研浅鉢の破片である。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良。

28は浅鉢の口縁片である。風化のため調整法は不明であるが，口縁下に指頭圧痕がみられる。灰黒色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は不良。本来は黒色磨研であろう。

29は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

30は黒色磨研浅鉢の肩部片である。風化のため辛うじて横方向ミガキが観察できる。内面は淡黒褐色，外面は黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

31は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は淡褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

32は直立する甕の口縁片である。内面は横方向ナデ，外面は斜方向のナデ。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。口縁下に米の圧痕がある。長 4.5㎜，幅 1.9㎜，長幅比2.37である。

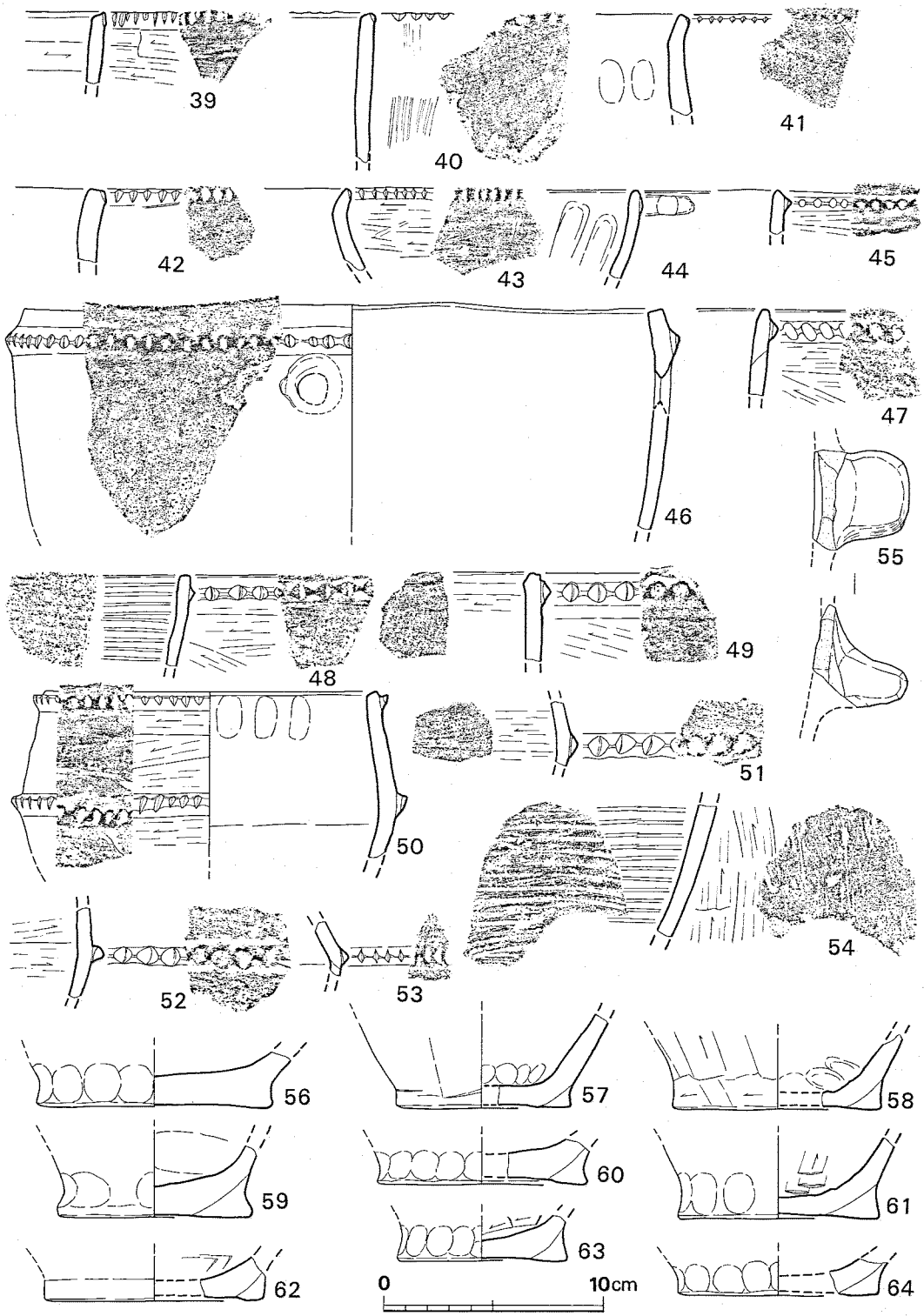
33は直立する甕の口縁片である。内面は横方向擦過。外面はナデ。内面は淡黄色，外面は黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

34は鉢の口縁片である。内外ともに横方向擦過。内面は黒褐色，外面は淡褐色および黒斑がみられる。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

35は直立する甕の口縁片である。口縁はわずかに外反ぎみで，胴部でふくらみをもつものと思われる。内外ともにナデ。内面は黒褐色。外面は茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

36は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。内面は茶褐色，外面は淡赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

37は直立する甕の口縁片である。口縁は外反ぎみで，胴部でふくらむものである。口縁にはヘラによるか細い刻目を施している。内面は指頭圧痕ののち粗いハケ目，口縁内面はナデ，外面は斜方向のナデ。内面は黄褐色，外面は暗茶褐色～黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，



第 36 図　26 号 住 居 跡 出 土 土 器 2 (縮尺1/3)

焼成は良好。

38は直立する小甕で，復原口径は11.6cm。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面から外面の上半は指頭圧痕ののちナデ。外面下半は縦方向擦過。内面は黄褐色～暗茶褐色，外面は赤褐色～暗褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

39は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面は褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

40は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面は一見ハケ目風の縦方向擦過。内面は黄褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

41は直立する甕の口縁片である。口縁はわずかに外反ぎみで，胴部はややふくらむ。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ調整。内面は黄褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

42は直立する甕の口縁片である。口縁はわずかに外反ぎみで，胴部はふくらむものと思われる。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。赤褐色～暗赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

43は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は横方向ナデ，外面は横方向擦過。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

44は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに，低くて目立たない部分的な凸帯を貼付し，棒状工具による不明瞭な刻目を施している。内面は指頭圧痕ののちナデ，外面は風化のため不明。内面は暗茶褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

45は直立する甕の口縁片である。口縁からわずかに下ったところに凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内面から口縁まではナデ，凸帯より下は横方向擦過。内面は暗黄褐色，外面は暗褐色を呈し，胎土には細粒の砂少量を含み，焼成は良好。

46は直立する甕で，復原口径は29.0cmを測る。口縁はやや波をうっている。口縁より9～21mm程下った間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面はナデ，口縁から凸帯の下まではヨコナデ，胴部外面はナデ。口縁内外は赤褐色，他は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。凸帯下に内から外へ穿孔した補修孔がある。外径は 2.7cm，内径は 1.3cm程に復原できる。

47は直立する甕の口縁片である。口縁下5～15mm程下った間に凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。外面は擦過，内面は風化のため不明。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

48は直立する甕の口縁片である。口縁下5～12mm程下った間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は横方向条痕，外面は擦過。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

49は直立する甕の口縁片である。口縁下4～16mm程下った間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。口縁内面は横方向擦過，内面は擦過ののちナデ，口縁から凸帯下まではヨコナデ，外面は擦過。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

50は肩で屈曲する甕で，復原口径は15.0cm。口縁よりわずかに下ったところと肩には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面はナデで，口縁部には指頭圧痕がみられる。外面は横方向の擦過。内面は赤褐色～褐色，外面は茶褐色～暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

51は肩で屈曲する甕の肩部である。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は横方向擦過，外面は風化のため不明。内面は黒色，外面は茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

52は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は横方向擦過，外面は風化のため不明。内面は茶褐色，外面は黄褐色～褐色を呈し，胎土には砂粒をやや含み，焼成は良。

53は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ調整。内面は褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を多く含み，焼成は良好。

54は甕の胴部片である。調整法の資料として図示する。内面は横方向条痕，外面は縦方向の粗い擦過。内面は黄褐色，外面は黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

55は把手の破片である。やや下向きで，幅は4cm，長さ 3.5cm,厚さ2cm程のものである。内面および把手部分はすべてナデ調整を施す。内面は淡黄色，外面は黒褐色を呈するが，下面は二次的火熱を受けて赤褐色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。類似品は刻目を施すものであるが33号住居跡出土の甕（甑）にみられる（第50図114）。

56は径10.7cmの底部である。内外ともにナデ，外側には不明瞭ながら指頭圧痕がみられる。黄白色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

57は径 7.9cmの底部片である。内面はナデ，外面は縦方向の擦過。内面は黄白色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

58は復原径 9.4cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は擦過。内面は淡赤褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

59は復原径 8.8cmの底部片である。内面は指ナデ，外底はナデ，外側は不明瞭ながら指頭圧痕がみられる。内面は黄白色，外面は赤褐色を呈し，胎土には大粒の砂を少量含み，焼成は良

好。

60は復原径 9.4cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。ただ外側には不明瞭ながら指頭圧痕がみられる。

61は復原径 9.1cmの底部片である。内面は擦過で，工具の起点痕が残っている。外面は風化のため不明であるが，外側には指頭圧痕がみられる。黄褐色を呈するが，外側から外底にかけては二次的火熱を受け赤桃色に赤変している。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

62は復原径10.0cmの底部片である。内面は擦過ののちナデ，外面は風化のため不明。内面は黄褐色，外面は淡赤褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

63は復原径 7.2cmの底部片である。内面は擦過，外面は風化のため不明であるが，外側には指頭圧痕がみられる。暗黄灰褐色を呈するが，外側から外底にかけては二次的火熱により赤変している。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成はやや不良。

64は復原径 9.0cmの底部片である。外面は指頭圧痕ののちナデ。内面と外底は風化のため不明。内面は黄褐色～黒色，外面は黒色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

65は径 6.2cmの黒色磨研浅鉢の底部片である。外底はナデ，外面は風化のためミガキ方向不明。胎土は明茶褐色を呈するが，外面は茶褐色～黒色であり，あるいは黒塗りかもしれない。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

66は復原径 8.4cmの底部片である。内面は指頭圧痕ののちナデ，外面は風化のため不明。淡赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

67は復原径 7.7cmの底部片である。内面はナデ，外面は縦方向の擦過。内面は黄褐色と黒褐色部分があり，外面は黄褐色を呈する。胎土には大粒の砂粒を少量含み，焼成は良。

68は径算出不能なので，一応８cmで復原して図示した。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は明黄褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

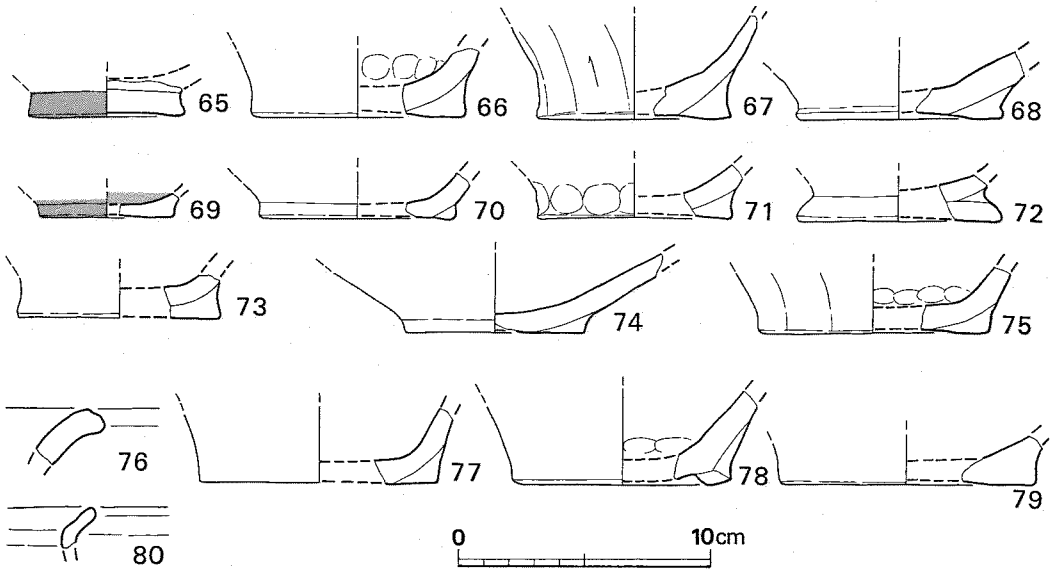
69は復原径 5.2cmの黒色磨研浅鉢と思われる底部片である。風化のためミガキ方向は不明。黒褐色を呈し，胎土には細粒の砂をやや多く含み，焼成は良。

70は復原径 7.8cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は暗赤褐色，外面は褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

71は復原径 7.6cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法は不明であるが，外側には指頭圧痕がみられる。内面は黄褐色，外面は二次的火熱を受けて赤桃色に赤変している。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

72は径算出不能なので一応８cmで復原して図示した。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黒色，外面は黄褐色を呈するが，外側から外底にかけては二次的火熱を受けて赤変している。胎土には大粒の砂をやや多く含み，焼成は良。

73は復原径 8.0cmの底部片である。内外ともにナデ。赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を



第 37 図　26 号 住 居 跡 出 土 土 器 3 （縮尺1/3）

含み，焼成は良好。

74は径算出不能なので一応 7 cmで復原して図示した。黒色磨研浅鉢の底部である。内面はミガキ，外面は風化のため不明。内外ともに黒色であるが，底部外側から外底は二次的火熱を受けて赤桃色に赤変している。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

75は復原径 9.0cmの底部片である。内面は指頭圧痕ののちナデ，外面は擦過。内面は黄褐色，外面は赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

以上の土器は26号住居跡に伴うものである。

76は壺口縁片かと思われる。内外ともに丁寧なナデ。暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。弥生時代前期のものと考えられる。

77は復原径 9.4cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。淡赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。弥生時代前期のものである。

78は復原径 8.6cmの底部片である。内外ともにナデ調整。内面は暗褐色，外面は赤褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。弥生時代前期のものと考えられる。

79は復原径10.1cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。弥生時代前期のものと考えられる。

80は土師器甕の口縁片と思われる。内外ともに横方向ミガキ。暗茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

28号住居跡出土土器（第38～41図）

1は丹塗り磨研壺の口・頸部片である。外面から口縁内面までは横方向ミガキ。頸部内面は指頭圧痕ののちナデ。内面は茶褐色，外面の地は黄褐色～黒褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

2は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は黄褐色，丹は赤茶色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

3は壺の頸・肩部片である。胴部最大径は27.0cmを測る。胴部内面は横方向の粗い擦過，肩部内面は指頭圧痕，頸部内面はナデ，外面の頸部は横方向条痕，胴部はケズリ風の擦過。暗赤褐色を呈し，胎土には大粒の砂粒を多く含み，焼成は良好。

4は壺の口縁片である。内外ともにナデ風の擦過。明茶褐色を呈し，胎土には大粒の砂をやや多く含み，焼成は良好。

5は黒色磨研壺の肩部片である。肩部内面には指頭圧痕があり，内面はその上から横方向擦過，外面は横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒と細粒の金雲母片を含み，焼成は良好。

6は黒色磨研壺の肩部片である。外面は横方向ミガキ，内面は風化のため不明。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

7は黒色磨研浅鉢の口縁片である。風化のためミガキ方向は不明。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は不良。

8は浅鉢又は高坏の破片である。外面は横方向ミガキ，内面は風化のため不明。黄褐色を呈し，胎土には大粒の砂粒を少量含み，焼成は良。

9は方形浅鉢の口縁片である。内面では段をつくり，外面では稜をつくっている。黄褐色部分と赤褐色部分がある。胎土には大粒の砂粒をやや多く含み，焼成は良。

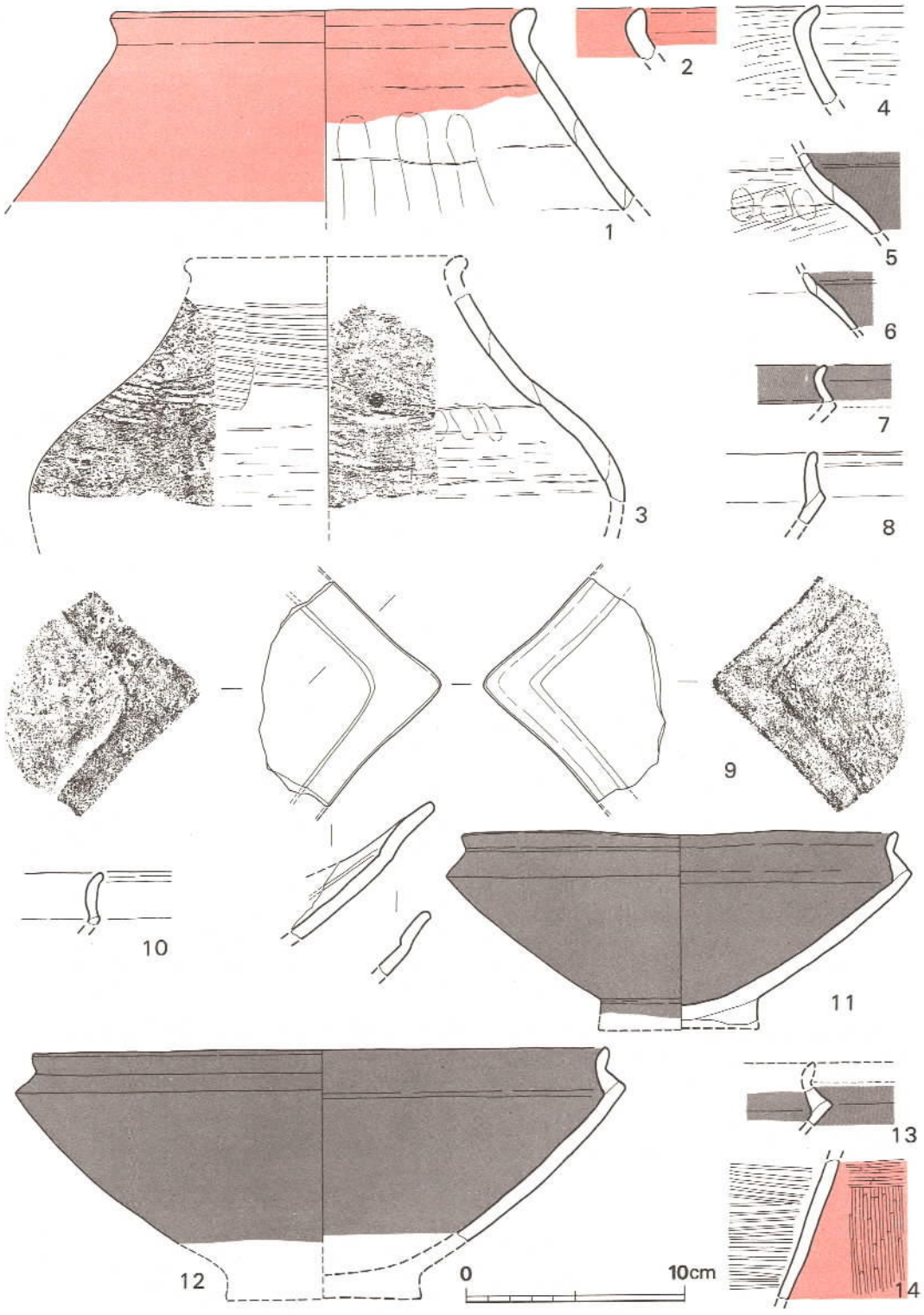
10は浅鉢又は高坏の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。暗茶褐色を呈し，胎土には細粒の砂を多く含み，焼成は良好。

11は黒色磨研浅鉢である。復原口径は19.9cm，肩部径は21.1cm，底径は 7.1cm，復原器高は 9.0cmを測る。口縁はやや波をうっている。外面から内面の肩部下までは横方向ミガキ，胴部内面はミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

12は黒色磨研浅鉢の大きな破片であるが，径算出不能なので，口径26cmで復原して図示する。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

13は黒色磨研浅鉢の肩部片である。風化のためミガキ方向は不明。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

14は壺胴部片である。内面は条痕，外面は上部を横方向ミガキ，下部は縦方向ミガキ。内面



第 38 図　28 号 住 居 跡 出 土 土 器 1（縮尺1/3）

は灰褐色，外の地は淡黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

15は黒色磨研浅鉢口縁のかなり大きな破片であるが，径算出不能なので，口径26cmで復原して図示した。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

16は復原口径 8.4cmの直立する口縁をもつ小甕片である。内面は指頭圧痕ののち横方向ナデ，外面は縦方向擦過。内面は明黄色，外面は黄褐色を呈する。口縁の内外は二次的火熱により赤変している。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

17は直立する甕の口縁片である。内面は指頭圧痕ののちナデ，外面は横方向の粗い擦過。内面は明茶色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には大粒の砂少量を含み，焼成は良好。

18は直立する甕の口縁片である。口縁はやや波をうっている。口縁内外は横方向擦過，他は内外ともに縦方向擦過。内面は赤褐色，外面は暗赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

19は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。暗褐色を呈し，胎土には大粒の砂粒少量を含み，焼成は良好。

20は直立する甕の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は淡黄褐色，外面は黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は軟弱で不良。

21は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ風の横方向擦過。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

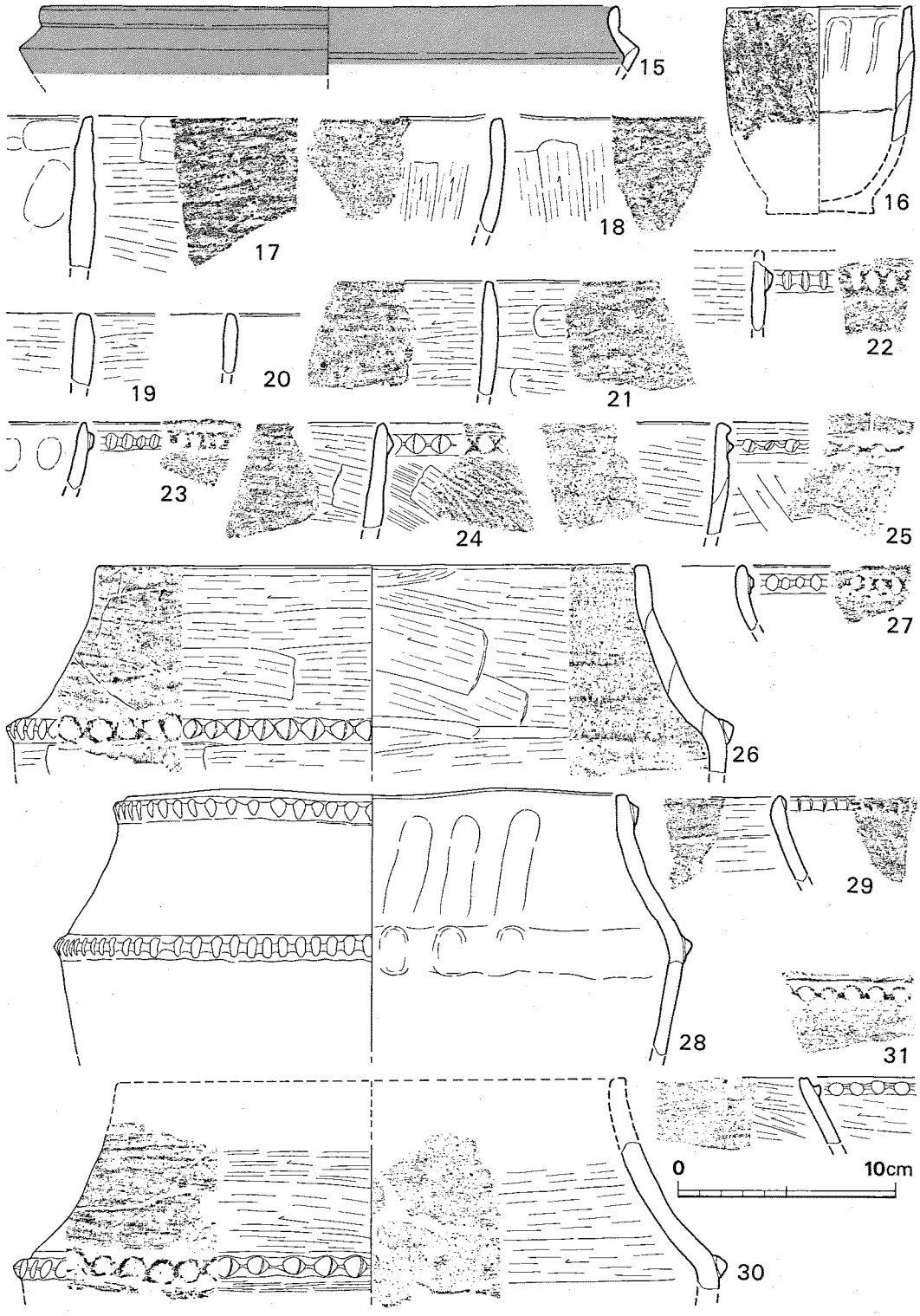
22は直立する甕の口縁片である。口縁より下ったところに凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内面は黄褐色，外面は暗褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

23は直立する甕の口縁片である。口縁より4～13mm程下った間に凸帯を貼付し，ヘラによる大きな刻目を施している。内面は指頭圧痕ののちナデ，外面はナデ。内面は黒色，外面は暗黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

24は直立する甕の口縁片である。口縁より5～15mm程下った間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は擦過，口縁から凸帯下まではヨコナデ，外面は条痕風の粗い擦過。内面は黒色，外面は黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

25は直立する甕の口縁片である。口縁下7～15mm程下った間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。口縁内外はナデ，他は内外ともに擦過。内面は暗黄褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

26は肩で屈曲する甕である。復原口径は25.0cm，肩部径は33.1cmを測る。頸部はつよく内傾している。口縁には刻目なし，肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は横方向の粗い擦過，口・頸部外面は条痕風の粗い擦過，胴部外面はナデ風の横方向擦過。内面は明茶褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には大粒の砂をやや多く含み，焼成は良好。頸部に小黒斑がみられる。



第 39 図　28 号 住 居 跡 出 土 土 器 2（縮尺1/3）

27は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁より4～13mm程下った間に凸帯を貼付し，棒状工具による大きな刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。暗黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

28は肩で屈曲する甕である。復原口径は22.7cm，肩部径は29.0cm。口縁はかなり波をうっている。口縁より5～17mm程下った間と肩に凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内面は指頭圧痕ののちナデ，外面は風化のため不明。灰褐色～黒褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

29は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は横方向擦過，外面はナデ。内面は黒褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

30は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩の復原径は32.4cm。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は横方向擦過，外面の口縁近くと凸帯より下は条痕風の横方向擦過，凸帯の上部はナデ風の横方向擦過。内面は赤褐色，外面は黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

31は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁より4～9mm程下った間に凸帯を貼付し，棒状工具による大きな刻目を施している。内面から凸帯の上までは黒褐色，外面は明茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

32は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁より4～12mm程下った間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は横方向擦過，外面はナデ。黒褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

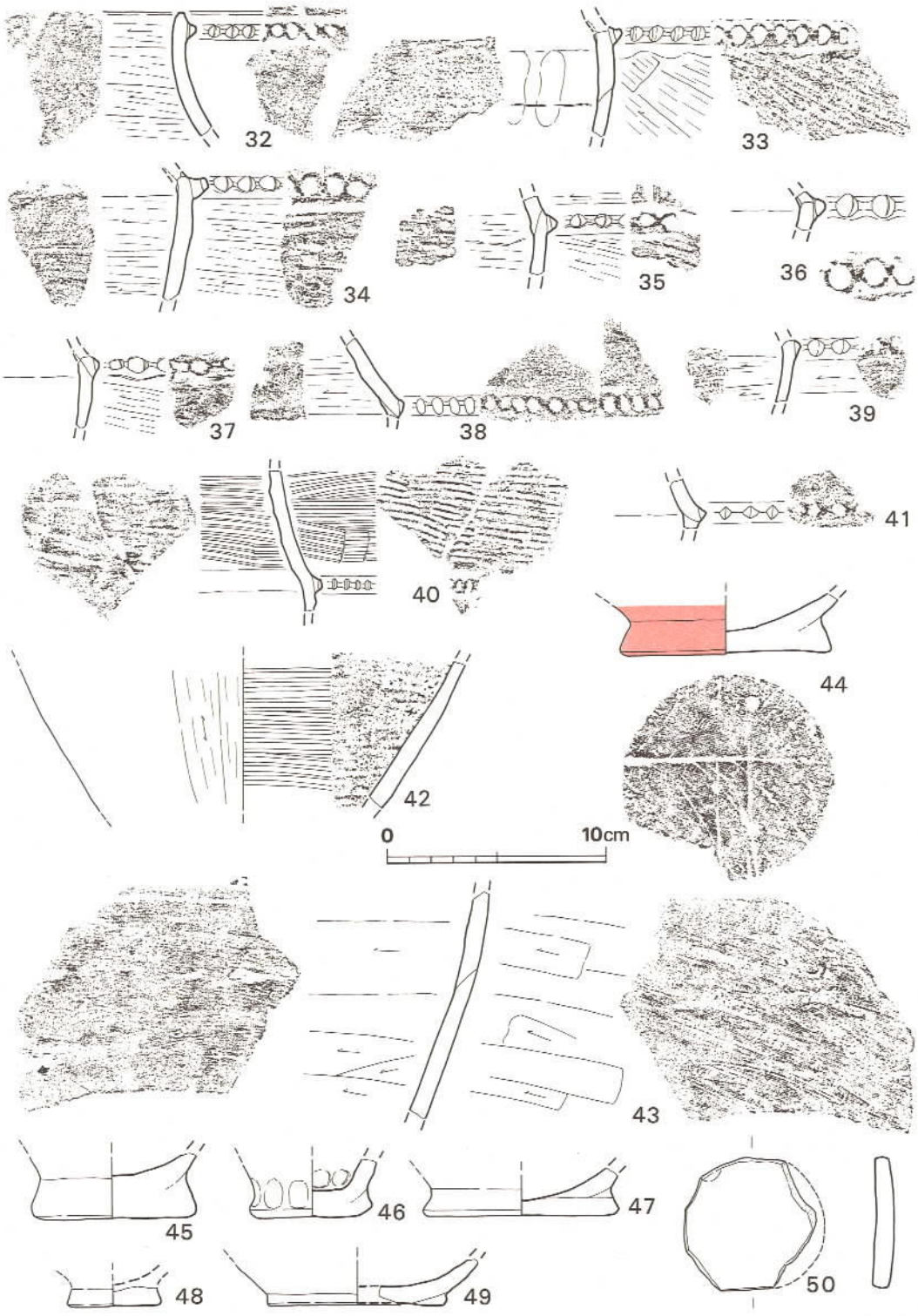
33は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，ヘラによる大きな刻目を施している。内面は指頭圧痕ののちナデ，凸帯周辺はヨコナデ，胴部外面は条痕風の擦過。淡黄色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

34は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は横方向擦過，凸帯周辺はナデ，胴部外面は横方向の粗い擦過。内面は黒褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

35は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。凸帯周辺はナデ，他は内外ともに横方向擦過。内面は明黄褐色，外面は暗黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

36は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともにナデ。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

37は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には爪による雑な刻目を施している。内面はナデ，外面は横方向擦過。濃茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 40 図　28 号住居跡出土土器 3（縮尺1/3）

38は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には棒状工具による大きな刻目を施している。内面は横方向擦過，外面は風化のため不明。内面は暗褐色，外面は暗黄褐色を呈し，胎土には細粒の砂をやや多く含み，焼成は良。

39は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面は黒褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

40は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。頸部は内外ともに横方向条痕，凸帯周辺と肩部内面はナデ。内面は赤褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

41は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩にはヘラによる大きな刻目を施している。内外ともにナデ。内面は暗褐色，外面は褐色を呈するが，肩部下は二次的火熱を受けて赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

42は甕の胴部片である。内面は横方向条痕，外面は縦方向の調整痕がある。内面は暗黄褐色を呈し，外面は赤褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

43は甕の胴部片である。調整法の資料として図示した。内外ともに横方向の擦過。内面は淡赤褐色，外面は一部は茶褐色，大部分は黒斑と思われるが黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

44は丹塗り磨研壺の底部で，径は 9.6cmを測る。内面はナデ，外面は横方向ミガキ，外底には木葉痕が残り，ナデ調整。地は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

45は径 7.2cmの底部である。内面と外底はナデ，外面は風化のため不明。内面は黄褐色，外面は二次的火熱を受けて赤変し暗赤褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

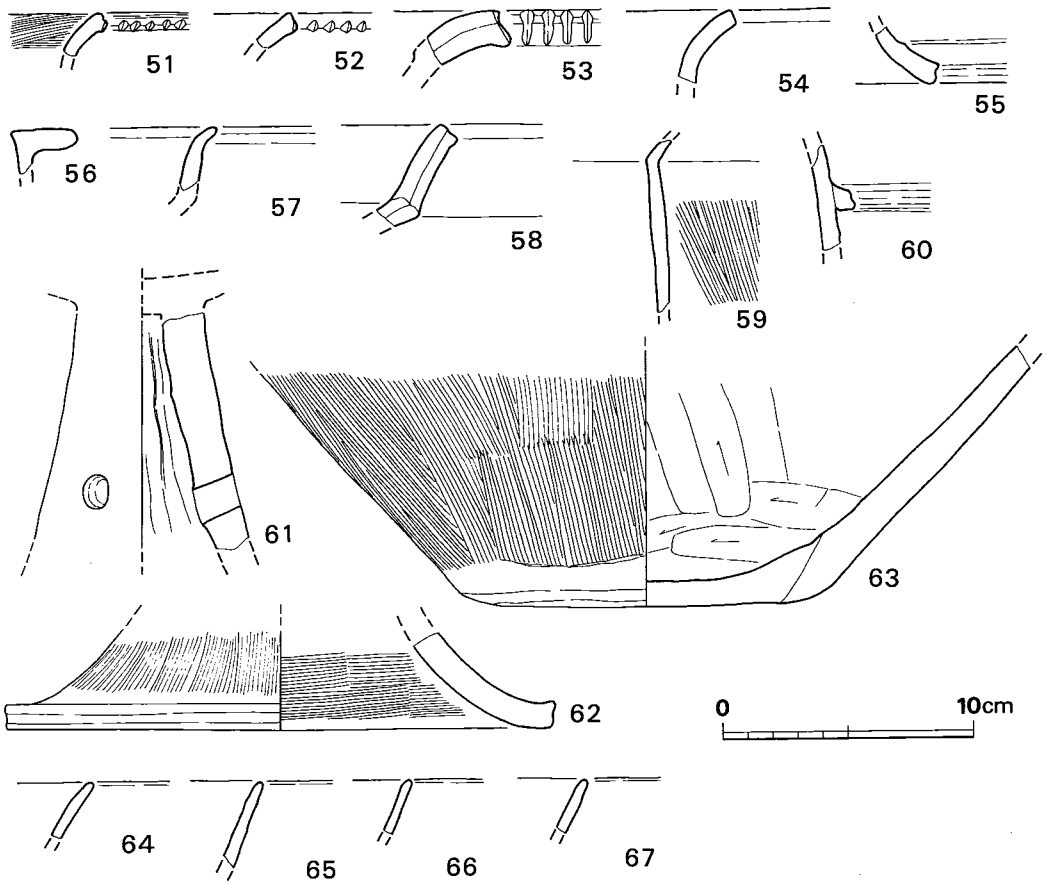
46は径 5.5cmの底部である。内面は指頭圧痕ののちナデ，外面はナデ。底部外側には指頭圧痕がみられる。内面は黄褐色と茶褐色，それと対応する外面は黒斑と茶褐色とはっきりと色がわかれている。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

47は復原径 8.8cmの底部片である。内面は条痕工具によるカキトリ，外面はナデ。暗黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

48は復原径 4.2cmの小さな底部片である。外面はナデ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

49は復原径 8.1cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は風化のため不明。茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

50は土器片利用の円盤である。径は６～ 6.5cmを測る。内外ともにナデ。内面は赤褐色，外面は茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 41 図　28 号 住 居 跡 出 土 土 器 4（縮尺1/3）

以上の土器は28号住居跡に伴うものである。

51は板付II式の甕口縁片である。口縁下端にヘラによる刻目を施している。内面はハケ目，口縁部はヨコナデ，外面はナデ。内面は暗褐色，外面は暗黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

52は板付II式の甕口縁片である。口縁下端にヘラによる刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。明茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

53は板付II式の壺口縁片である。口縁外側にはヘラによる刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。暗黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

54は板付II式の甕口縁片である。内外ともにヨコナデ。淡黄褐色を呈し，胎土には少量の砂

粒を含み，焼成は良好。

55は高坏脚裾片と思われる。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黄褐色，外面は暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。板付II式の古段階のものかと考える。

56は逆L字状口縁を呈する甕口縁片である。内外ともにヨコナデ。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。中期前半のものである。

57は弥生後期後半の高坏口縁片である。内外ともにナデ。暗赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

58は弥生後期後半の高坏口縁片である。内面は横方向ミガキ，外面は風化のため不明。内面は黄褐色，外面は暗黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

59は弥生後期後半のく字状口縁を呈する甕の破片である。口縁内外はヨコナデ，内面はナデ，外面はやや粗目のハケ目を施している。淡黄色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

60は壺胴部片である。コ字形凸帯1条を貼付している。凸帯周辺はヨコナデ，他は内外ともにナデ。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

61は高坏脚部片である。内外ともにナデ。黄褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。弥生後期後半のものである。58と同一個体か。

62は弥生後期後半の高坏脚裾片である。内面はハケ目，外面はハケ目ののちナデ，脚裾端は内外ともにヨコナデ。黄褐色の地に赤褐色の化粧土をかける。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

63は弥生後期後半の大形壺の底部である。底部は丸底化し，径は14.6cmを測る。内面は指ナデ，外面はやや粗いハケ目。淡赤褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

57～63の弥生時代後期後半の土器は35号，37号住居跡に伴うものであることは確実である。

64は須恵質の坏口縁片である。内外ともにヨコナデ。表面は灰色を呈するが，胎土は淡黄色を呈している。胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

65は須恵器坏口縁片である。内外ともにヨコナデ。灰色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

66は土師器坏口縁片である。内外ともにヨコナデ。黄褐色を呈し，胎土には赤色粒子を含む精選粘土を用い，焼成は良好。

67は土師器坏口縁片である。内外ともにヨコナデ。黄褐色の地に茶黄色の化粧土をかけている。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

64～67は奈良時代後半～末に位置付けられ，28号住居跡とほぼ重複していた27号住居跡に伴うものであることは確実である。

29号住居跡出土土器（第42図）

1は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は黄褐色，丹は鮮紅色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

2は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

3は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

4は黒塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面は風化のため不明。茶褐色の地に黒色顔料を塗り黒褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

5は黒塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黄褐色，外面は黒色顔料を塗り黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

6は黒色磨研壺の肩部片である。外面は横方向ミガキ，内面は頸までは横方向ミガキ，胴部内面は横方向擦過，肩部内面は指によるナデで指紋痕がある。内外ともに黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

7は黒色磨研埦である。復原口径は15.3cmを測る。口縁下には1条の沈線をめぐらす。口縁内面は横方向ミガキ，体部内面は斜方向ミガキ，外面は横方向ミガキ。地は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

8は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

9は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

10は直立する甕の口縁片である。内外ともに擦過。茶褐色～暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

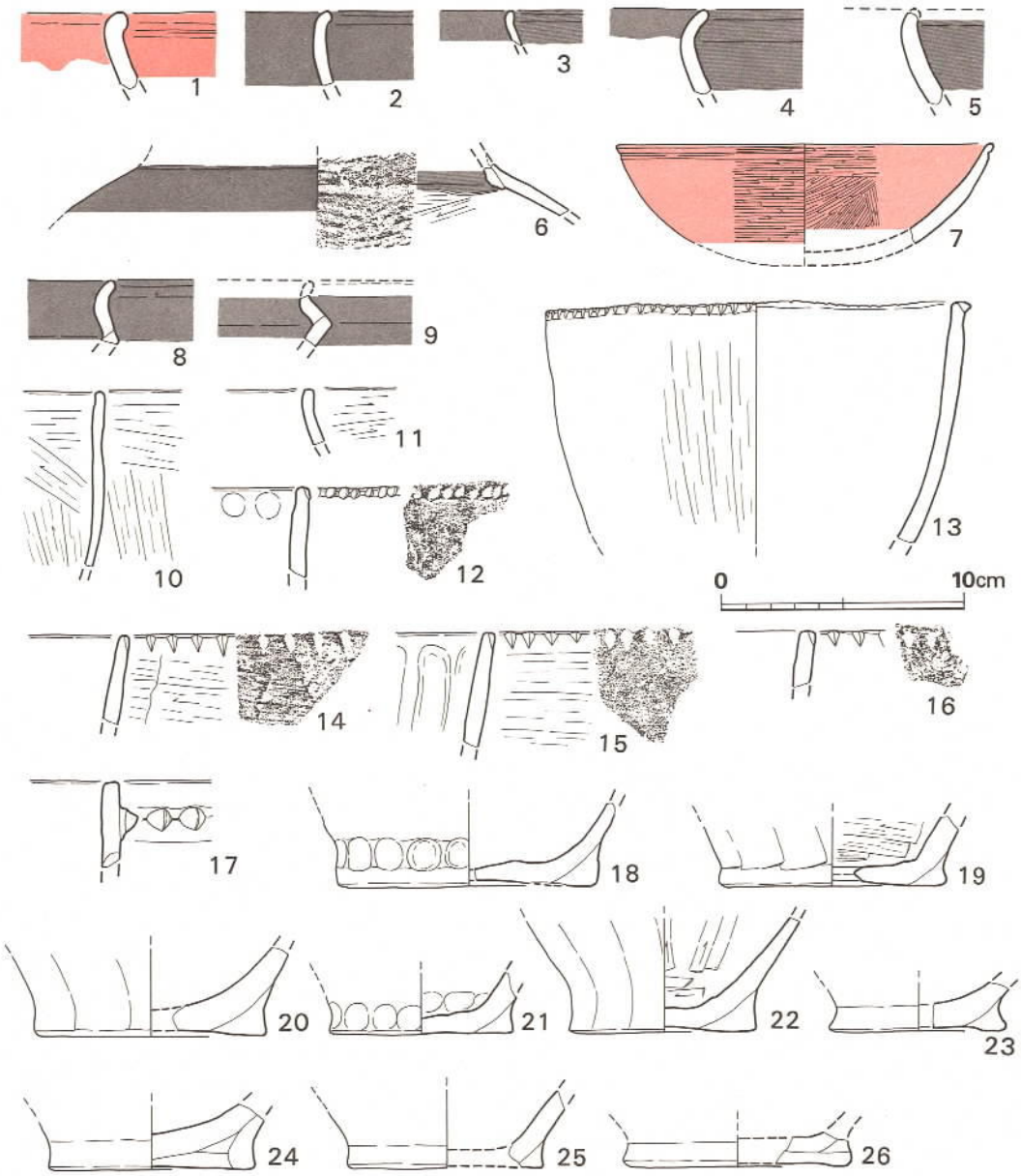
11は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁はやや波をうっている。内外ともにナデ風の擦過。暗黄褐色を呈し，胎土には細粒の砂・雲母片等を微量に含み，焼成は良好。

12は直立する甕の口縁片である。口縁には爪による小さな刻目を施している。内面口縁下に指頭圧痕がみられるが，内外ともに風化のため調整法は不明。内面は茶褐色，外面は淡褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

13は直立する甕である。復原口径17.2cmを測る。口縁にはヘラによる刻目を施している。口縁部はヨコナデ，外面はナデ風の縦方向擦過，内面は風化のため不明。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

14は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。外面は横方向擦過内面は風化のため不明。内面は茶褐色，外面は淡茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

15は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は指頭圧痕のちナデ，外面は横方向擦過。内面は淡赤褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒



第 42 図　29 号 住 居 跡 出 土 土 器（縮尺1/3）

を含み，焼成は良好。

16は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施す。内外ともに風化のため不明。内面は茶褐色，外面は褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

17は直立する甕の口縁片である。口縁下10～25mm程下った間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。淡黄色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

18は復原径10.5cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は風化のため不明であるが，指頭圧痕がみられる。内面は黄褐色，外面は暗赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

19は復原径 9.3cmの甑底部片である。焼成後に外から内へ穿孔している。内外ともに横方向擦過。内面は赤褐色，外面は黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成良好。

20は復原径 9.4cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は縦方向の擦過。内面は黄褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

21は復原径 7.4cmの底部片である。内面と外底はナデ。外側は不明瞭な指頭圧痕がみられる他は不明。明茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

22は復原径 7.6cmの底部片である。内面はヘラナデ。外面はナデ風の縦方向擦過。内面は淡茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。底部外側から外底にかけてな二次的火熱により赤変している。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

23は復原径 7.2cmの底部片である。内面はナデ，外面は横方向ナデ，外底は板木口によるカキトリ，外底周縁はナデ，淡茶色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

24は復原径が 8.4cmの底部片である。内面はナデ，外面は風化のため不明。淡茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

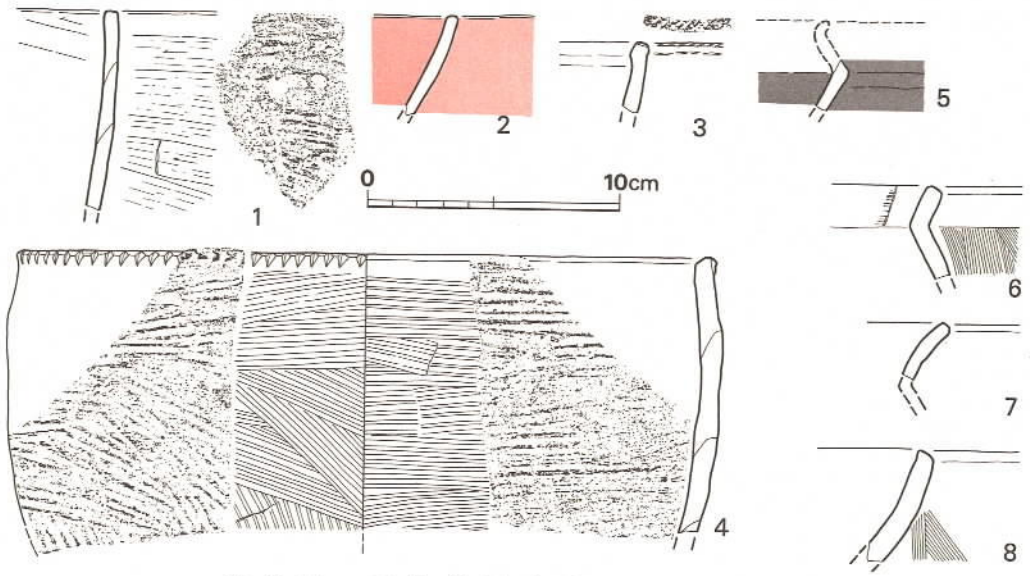
25は径算出不能のため８cmで復原して図示した。内外とも風化のため不明。内面は淡茶色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

26は復原径 9.3cmの底部片である。外底はナデ，他は風化のため不明。黄褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

30号住居跡出土土器（第43図）

１は直立する甕の口縁片である。口縁内外は丁寧な擦過，内面は横方向ナデ，外面は粗い横方向擦過。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

２は丹塗り磨研埦の口縁片である。地は黄褐色，丹は痕跡的にしか残らず，ミガキ方向は不明。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 43 図　30 号 住 居 跡 出 土 土 器（縮尺1/3）

3は直立する甕の口縁片である。口縁上端に浅い小さな刻目を施している。内面はナデ，外面はミガキ風のナデ。明黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

4は直立する甕である。復原口径は27.5cmを測る。口縁はヘラによる刻目を施している。内面から口縁下までは横方向条痕，胴部は斜方向の条痕。内面は黄褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には石英・雲母をやや多く含み，焼成は良好。

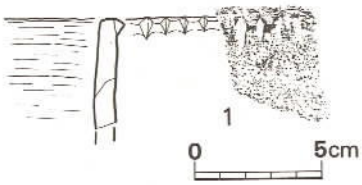
5は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

以上は30号住居跡に伴うものである。

6は弥生時代後期後半のく字状口縁を呈する甕口縁片である。口縁内面はハケ目ののちヨコナデ，胴部内面はナデ。口縁外面はヨコナデ，胴部外面はハケ目。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

7は同じく弥生時代後期後半の甕である。内外ともに風化のため不明。内面は赤褐色，外面は淡黄色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は不良。

8は弥生時代後期後半の鉢口縁片である。内面はナデ，外面はハケ目。内面は褐色，外面は赤褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや不良。



第 44 図　32号住居跡出土土器（縮尺1/3）

32号住居跡出土土器（第44図）

1は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は横方向の擦過，外面は風化のため不明。内面は褐色～黒色，外面は褐色～暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

25・26・32号住居跡付近出土土器（第45図）

遺構検出の過程で出土したもので，いずれの住居跡に伴うかを確定できなかった土器である。

1は黒色磨研壺の肩部片である。外面は横方向ミガキ，内面は風化のため不明。内面は灰褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

2は丹塗り磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は黄褐色，丹は淡赤色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

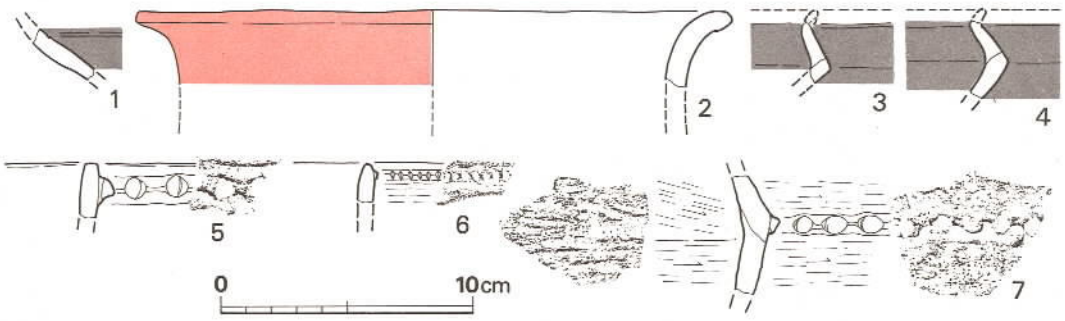
3は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面は黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

4は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

5は直立する甕の口縁片である。口縁より5～17㎜程下った間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。淡黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

6は直立する甕の口縁片である。口縁より3～7㎜程下った間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。外面は横方向擦過，内面は風化のため不明。内面は灰褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

7は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともに横方向の粗い擦過。内面は赤褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。



第 45 図　25・26・32号住居跡付近出土土器（縮尺1/3）

33号住居跡出土土器（第46～54図）

1は大形壺で，口径は12.8cm，胴部最大径は28.7cmを測る。復原器高は35～36cmのものであろう。内面には指頭圧痕が明瞭であり，その上からナデている。外面はナデ調整。淡赤褐色を呈するが，胴部に焼成時に生じた色変部がある。黒斑と同様のものであろうが，中心は灰色を周縁は茶褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

2は丹塗り磨研壺の口・頸部片である。復原口径は14.8cmを測る。内面は指頭圧痕ののちナデ，外面は横方向ミガキ。地は淡黄白色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

3は丹塗り磨研壺の口・頸部片である。復原口径は15.0cm，外面から口縁内面までは横方向ミガキ，頸部内面は横方向擦過。地は淡黄褐色，丹は暗赤色を呈し，部厚いが雑な塗りである。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

4は丹塗り磨研壺の口・頸部片である。復原口径は8.3cmを測る。口縁内外は横方向ミガキ，頸部外面は縦方向ミガキ，頸部内面はナデ。地は淡茶色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，器壁はうすく仕上げられ，焼成は良好。

5は黒塗り磨研壺の口・頸部片である。外面から口縁内面までは横方向ミガキ，頸部内面は指頭圧痕ののちナデ。地は淡黄色～淡茶色，外面には黒色顔料を塗っている。胎土には少量の砂粒を含み，暗黄緑色を呈する。焼成は良好。

6は丹塗り磨研壺の口縁部片である。口縁下には沈線1条をめぐらしている。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。地は黄白色，丹は暗赤色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

7は丹塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ。頸部内面は横方向擦過。地は黄白色，丹は明紅色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

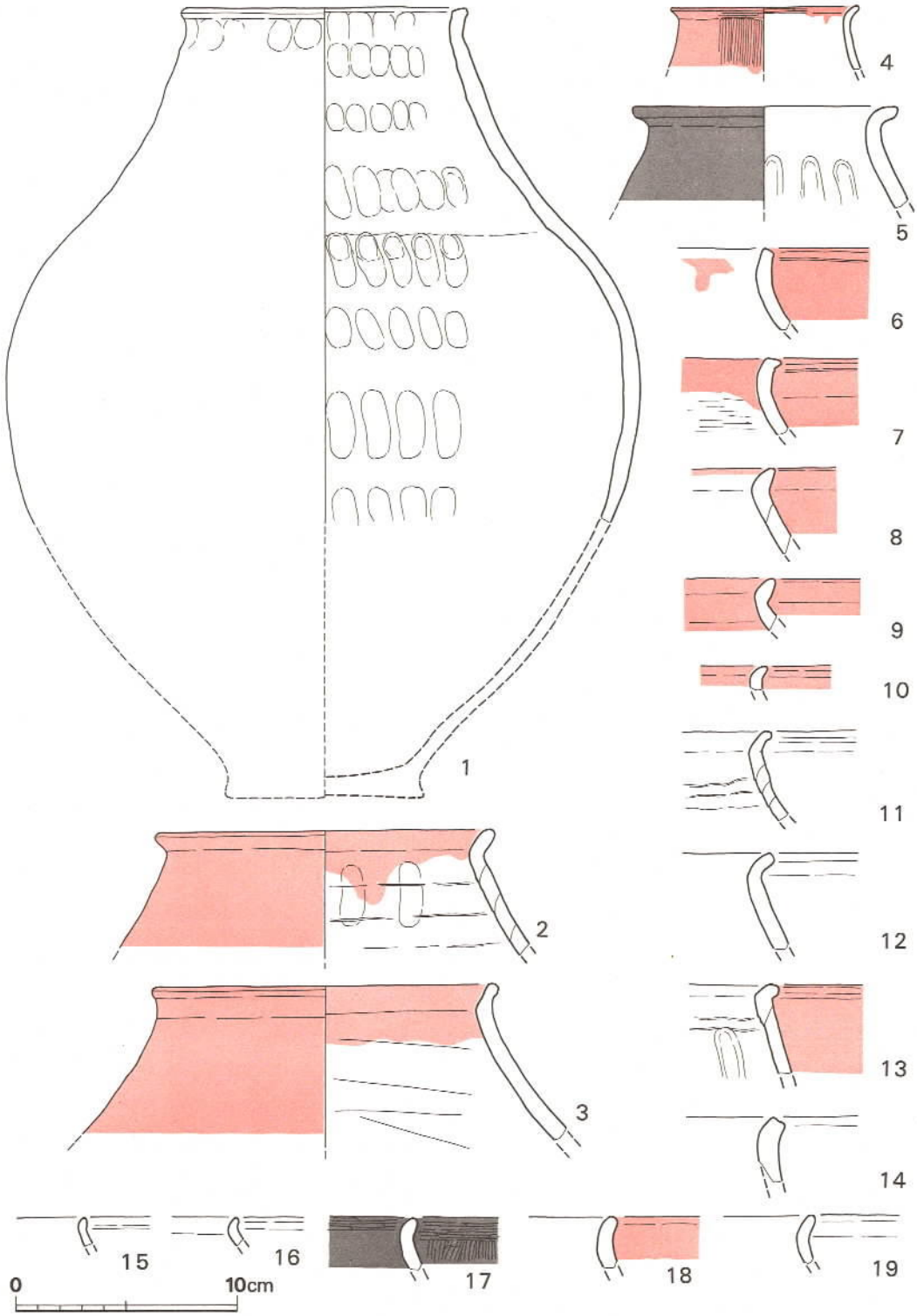
8は丹塗り磨研壺の口縁部片である。外面から口縁内面までは横方向ミガキ，頸部内面はナデ。内面は灰黄色，外の地は淡黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には細粒の砂を少量含み，焼成は良好。

9は丹塗り磨研壺の口縁部片である。口縁内外は横方向ミガキ，頸部内面は横方向擦過。地は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

10は丹塗り磨研壺の口縁部片である。内外ともに横方向ミガキ。地は淡黄白色，丹はどす黒い赤色を呈する。胎土には精選粘土を用い，焼成は良。

11は壺の口・頸部片である。内面から口縁下までは横方向擦過，外面は横方向ミガキ，頸部内面は接合面の痕跡が明瞭である。淡赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

12は壺の口・頸部片である。外面から口縁内面までは横方向ミガキ，頸部内面は丁寧なナデ。淡茶色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 46 図　33 号 住 居 跡 出 土 土 器 1 （縮尺1/3）

13は丹塗り磨研壺の口縁片である。丹は痕跡的であるので外面のミガキ方向は不明。頸部内面は指頭圧痕ののちナデ。内面は灰黄色，外の地は淡黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

14は大形壺又は精製深鉢の口縁片と思われる。外面は横方向ミガキ，内面はナデ。赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

15は壺口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は淡黄色，外面は黄白色を呈し，胎土には細粒の砂少量を含み，焼成は良。

16は壺口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は淡黄白色，外面は淡灰白色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良。

17は黒色磨研壺の口縁片である。口縁内外は横方向ミガキ，頸部外面は縦方向ミガキ，頸部内面は横方向擦過。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

18は丹塗り磨研壺の口縁片である。外面は横方向ミガキ，内面は風化のため不明。地は淡黄白色，丹は暗赤色を呈し，胎土には細粒の砂を少量含み，焼成は良好。

19は壺口縁片である。外面は横方向ミガキ，内面は風化のため不明。内面は淡黄褐色，外面は淡黄色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

20は丹塗り磨研大形壺である。復原器高は36.7cm，口径は15.2cm，胴部最大径は34.8cm，底径は10.3cmを測る。口縁内面から外面の胴部上半までは横方向ミガキ，底部近くは縦方向の擦過，底部外側は指頭圧痕がみられる。内面の頸部下半は横方向擦過，肩部内面は擦過ののちナデ，胴部から内底にかけてはナデ。地は黄褐色，丹は暗赤色を呈するが，口縁部には暗赤紫色を呈する部分もある。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

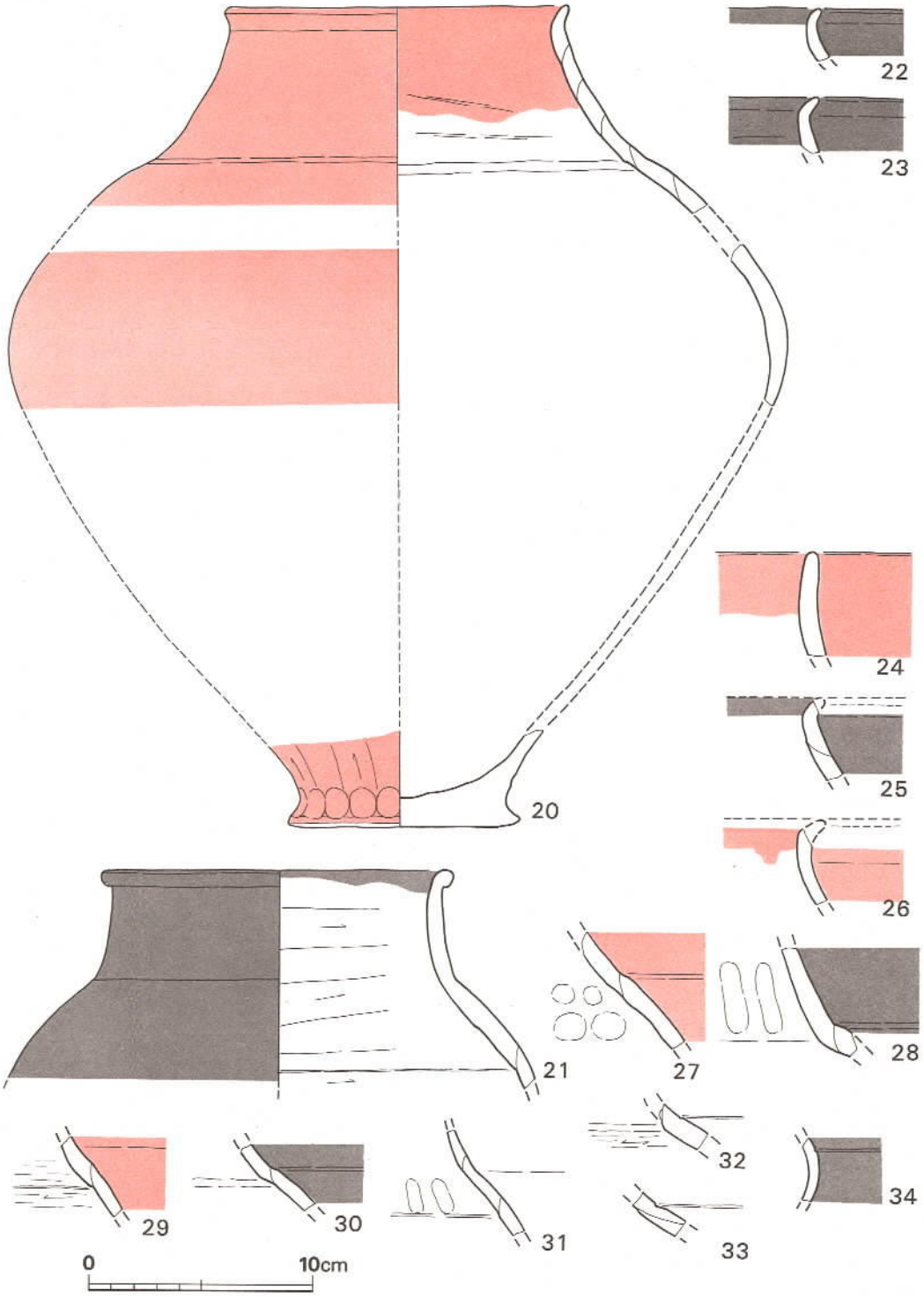
21は黒塗り磨研壺である。復原口径は15.6cmを測る。外面から口縁内面は横方向ミガキ，内面は横方向擦過。内面と外面の地は暗黄褐色でその上から黒色顔料を塗り，黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

22は黒塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面までは横方向ミガキ，頸部内面は風化のため不明。内面と外面の地は黄褐色で，その上から黒色顔料を塗り黒褐色を呈する。胎土には大粒の石英等を少量含み，焼成は良好。

23は黒塗り磨研と思われる壺口縁片である。外面の黒塗りはほとんど剝落し，地の黄褐色がむき出しになっている。内面は横方向擦過で黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

24は丹塗り磨研の，口縁が直立する短頸壺の口縁部片である。地は淡黄白色，丹は暗赤色を呈するが，内面の丹は赤茶色で化粧土のようである。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。器形は無文土器系のものと考える。

25は黒色磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部外面はナデ。内面



第 47 図　33 号 住 居 跡 出 土 土 器 2（縮尺1/3）

は黄褐色，外面は黒色を呈する。あるいは黒塗りかもしれない。胎土には砂粒をやや多く含み焼成は良。

26は丹塗り磨研壺の口・頸部片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面はナデ。地は明茶色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

27は丹塗り磨研壺の肩部片である。内面は指頭圧痕ののちナデ，外面は横方向ミガキ。地は淡黄白色，丹は暗赤色を呈する。胎土には細粒の砂少量を含み，焼成は良好。

28は黒色磨研壺の肩部片である。外面は横方向ミガキ。内面は指頭圧痕ののちナデ。内面は暗茶褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

29は丹塗り磨研壺の肩部片である。外面は横方向ミガキ。内面は横方向擦過，地は淡赤褐色，丹はどす黒い赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

30は黒色磨研壺の肩部片である。外面は横方向ミガキ，内面はナデ。内面は黄白色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

31は壺肩部片である。肩部内面に指頭圧痕がみられる他は，風化のため不明。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

32は壺の肩部片である。内面は横方向擦過，外面は横方向ミガキ。内面は黒色，外面は灰黄色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

33は壺肩部片である。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。内面は明茶褐色，外面は明褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

34は黒色磨研壺の胴部片である。胴上部にあたる部分に1条の沈線をめぐらしている。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。内面は灰褐色，外面は黒～黒褐色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

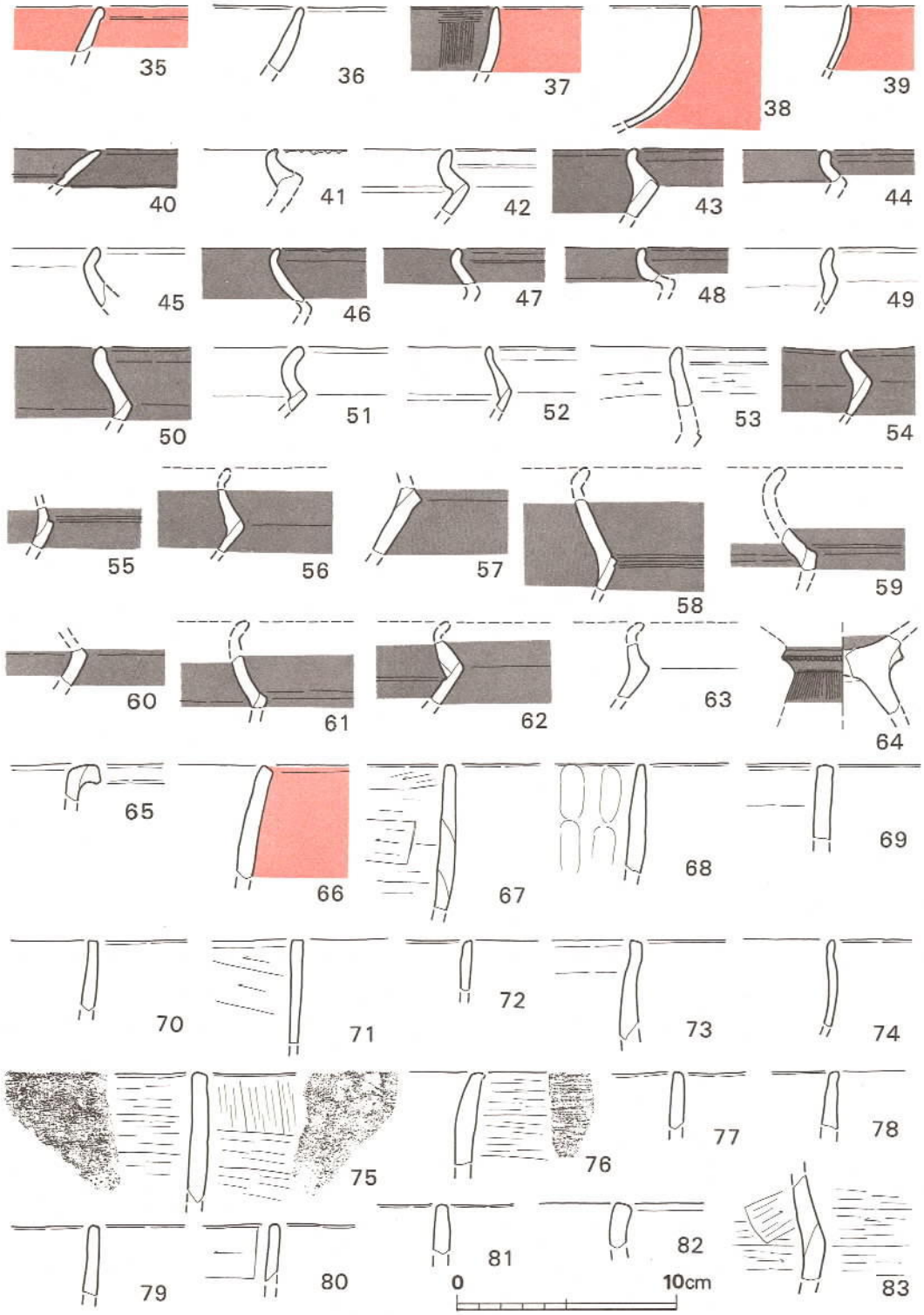
35は丹塗り磨研埦の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は淡黄白色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

36は埦口縁片である。横方向擦過ののち丁寧なナデを加えている。内面は淡黄白色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

37は内面は黒色磨研，外面は丹塗り磨研の埦口縁片である。内面の口縁直下は横方向ミガキ，体部は縦方向ミガキで，黒色を呈する。外面の地は黄褐色，丹は暗紫紅色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

38は丹塗り磨研の埦破片である。外面は横方向ミガキ。内面は風化のため不明。内面は黄白色～黒褐色，外面の地は黄白色～黒色で，丹は暗赤茶色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

39は丹塗り磨研埦である。内面は横方向ミガキ，外面は風化のため丹は痕跡的でありミガキ方向は不明。内面は黒褐色，外の地は黄褐色で，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含



第 48 図　33 号 住 居 跡 出 土 土 器 3（縮尺1/3）

み，焼成は良好。

40は黒色磨研方形浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

41は浅鉢口縁片である。口頸部はつよく内傾し，口縁にはヘラによる刻目を施している。淡黄色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

42は浅鉢破片である。頸部はつよく内傾し，口縁は外反し，口縁下には段をつくる。内外ともに風化のため調整法は不明。灰色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。本来は黒色磨研であろうと思われる。

43は黒色磨研浅鉢片である。内面から外面肩部までは横方向ミガキで黒色を呈する。体部外面は灰黄色を呈し，調整法も不明，本来のものか否かは不明。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

44は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

45は浅鉢口縁片である。口縁内外は横方向擦過，頸部内面は風化のため不明。内面は黒褐色～淡褐色，外面は暗灰黄色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

46は黒塗り磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黄褐色の地の上から黒色顔料を塗る。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

47は黒塗り磨研浅鉢である。内外ともに横方向ミガキ。黄褐色の地の上に黒色顔料を塗り黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

48は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面は黒褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

49は黒色磨研浅鉢又は高坏の破片である。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には細粒の砂を少量含み，焼成は良好。

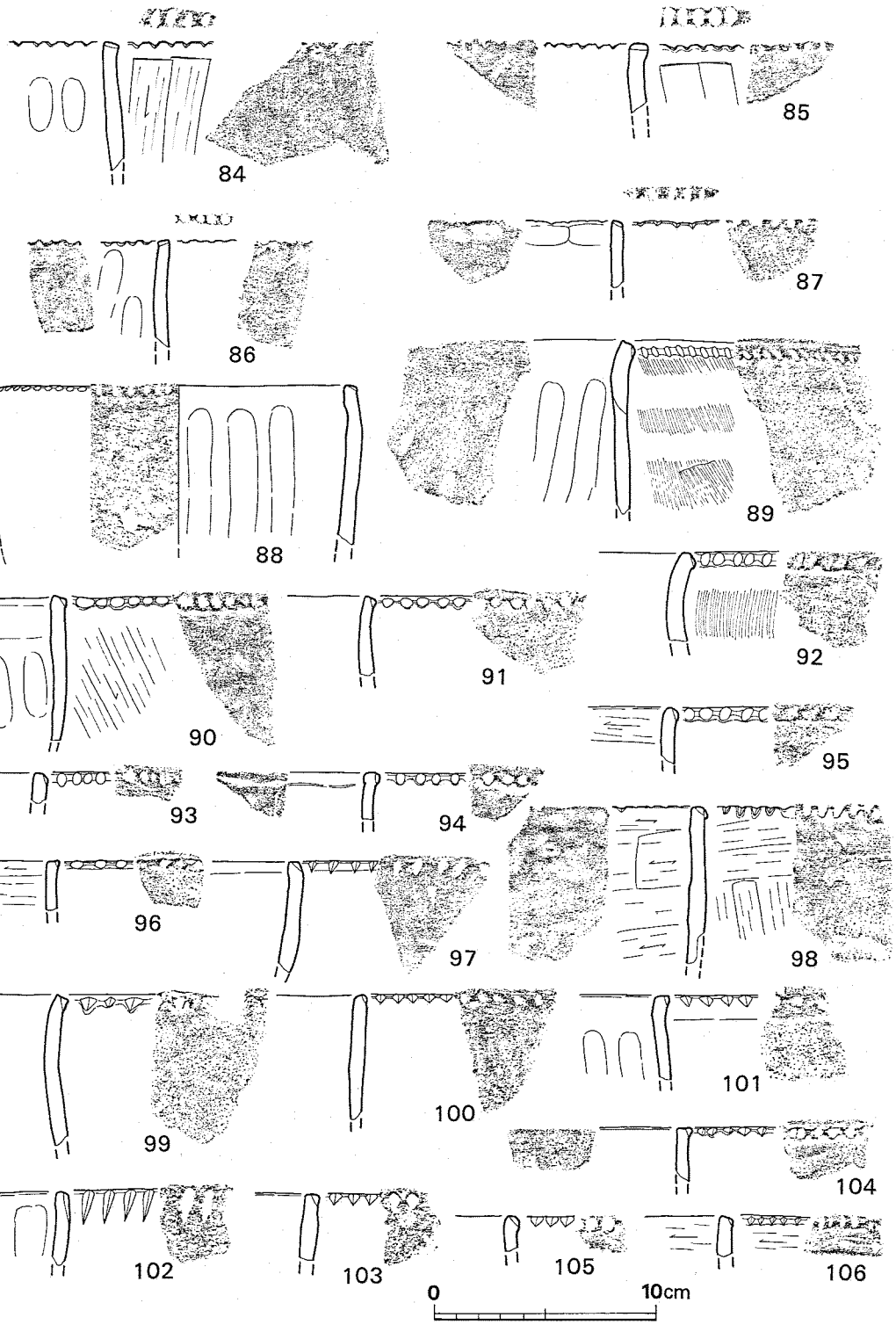
50は黒色磨研浅鉢片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，内面は横方向の粗いミガキ。内面は黒色，外面は淡黒褐色を呈する。黒塗りかもしれない。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

51は浅鉢片である。風化のため内外ともに調整法は不明。灰褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

52は浅鉢片である。内面は擦過，外面は風化のため不明。内面は暗黄褐色～黒褐色，外面は暗茶褐色～黒褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

53は浅鉢口縁片である。内外ともにミガキ風の横方向擦過。黒褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

54は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ，黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒



第 49 図　33 号 住 居 跡 出 土 土 器 4 （縮尺1/3）

を含み，焼成は良好。

55は黒色磨研浅鉢の肩部片である。肩にはつよく段をつくり，又１条の沈線をめぐらしている。頸の長い58のような浅鉢になるものと思われ，古い要素を残しているといえよう。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

56は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

57は深鉢の肩部かと思われる。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は淡茶褐色，外面は黒色を呈する。本来黒色磨研かと思われる。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

58は黒色磨研浅鉢の肩部片である。肩の上下に１条ずつ沈線をめぐらしている。頸部の長い古いタイプのものである。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

59は黒塗り磨研浅鉢である。肩には段をつくり，１条の沈線をめぐらしている。58と同様頸の長いものと思われ，古い要素を残しているといえよう。内外ともに横方向ミガキ。赤褐色の地の上に黒色顔料を塗り，黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成はやや不良。

60は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には細粒の砂を少量含み，焼成は良好。

61は黒色磨研浅鉢の肩部片である。肩には段をつくり，頸部は長く，58・59等と同様古い要素を残している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

62は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

63は浅鉢肩部片である。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は黒色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

64は高坏脚部片である。坏と脚の間には凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。坏内面はミガキ，凸帯周辺は横方向ミガキ，脚外面は縦方向ミガキ，脚内面はナデ，淡黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

65は口縁が直に外反する小甕の口縁片である。口縁部はミガキ風の横方向ナデ。外面は横方向ナデ，内面はナデ。淡茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

66は丹塗り磨研土器であるが器形を確定できない。外面は横方向ミガキ，内面は風化のため不明。内面は暗褐色，外面の地は暗黄褐色，丹は暗赤茶色。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

67は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。内面は暗茶褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

68は直立する甕の口縁片である。内面は指頭圧痕ののちナデ。外面は風化のため不明。内面は暗褐色，外面は二次的火熱を受けて淡茶紫色に変色している。胎土には少量の砂粒を含み，

焼成は良好。

69は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。内面は黄褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

70は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。内面は茶褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

71は直立する甕の口縁片である。口縁はわずかながら波をうっている。内面は横方向擦過，外面は風化のため不明。淡黄褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成はやや不良。

72は直立する甕の口縁片である。口縁はやや波状を呈する。内面は擦過，外面は風化のため不明。内面は茶褐色，外面は褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

73は直立する甕の口縁片である。胴部は少しふくらみぎみである。内面は横方向擦過，外面は風化のため不明。内面は茶褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

74は直立する甕の口縁片である。胴部は少しふくらみぎみである。外面は横方向擦過，内面は風化のため不明。内面は灰黄色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

75は直立する甕の口縁片である。口縁はやや波をうっている。内面は横・斜方向の擦過，外面はミガキ風の縦・横方向擦過。内面は淡黄褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

76は直立する甕の口縁片である。内面はナデ，外面は条痕風の横方向擦過。内面は赤褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

77は直立する甕の口縁片である。口縁はやや波状を呈する。内外ともに風化のため調整法は不明。暗黄褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

78は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。内面は茶褐色，外面は黄褐色を呈する。胎土には大粒の砂を少量含み，焼成は良好。

79は直立する甕の口縁片である。口縁内外はヨコナデ，外面は縦方向擦過，外面はナデ。淡赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

80は直立する甕の口縁片である。口縁はやや波をうっている。内面は横方向擦過，外面は丁寧なナデ。内面は濃茶褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

81は直立する甕の口縁片である。口縁はやや波をうっている。外面はナデ，内面は風化のため不明。内面は暗灰白色，外面は黒褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

82は肩で屈曲する甕の口縁片である。外面はナデ，内面は風化のため不明。内面は暗茶褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

83は深鉢の肩部片と思われる。内外ともに横方向擦過。内面は淡赤褐色，外面は暗茶褐色を

呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

84は直立する甕の口縁片である。胴部はわずかにふくらみぎみである。口縁上端にヘラによる刻目を施している。内面は指頭圧痕ののちナデ，外面は縦方向擦過。内面は淡茶色～淡黄色，外面は明茶色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

85は直立する甕の口縁片である。胴部はわずかにふくらみぎみである。口縁上端にヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面は縦方向擦過。淡茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

86は直立する甕の口縁片である。口縁上端には棒状工具による刻目を施している。内面は指頭圧痕ののちナデ，外面はナデ風の擦過。内面は赤褐色，外面は淡褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

87は直立する甕の口縁片である。口縁上端にはヘラによる刻目を施しており，やや波状を呈している。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は暗黄褐色～暗褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

88は直立する甕である。復原口径は16.0cm。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面はナデ，外面は風化のため表面の剝落がいちぢるしいが，擦過を施していることが辛うじてわかる。内面の下半は黒褐色，上半は暗黄褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

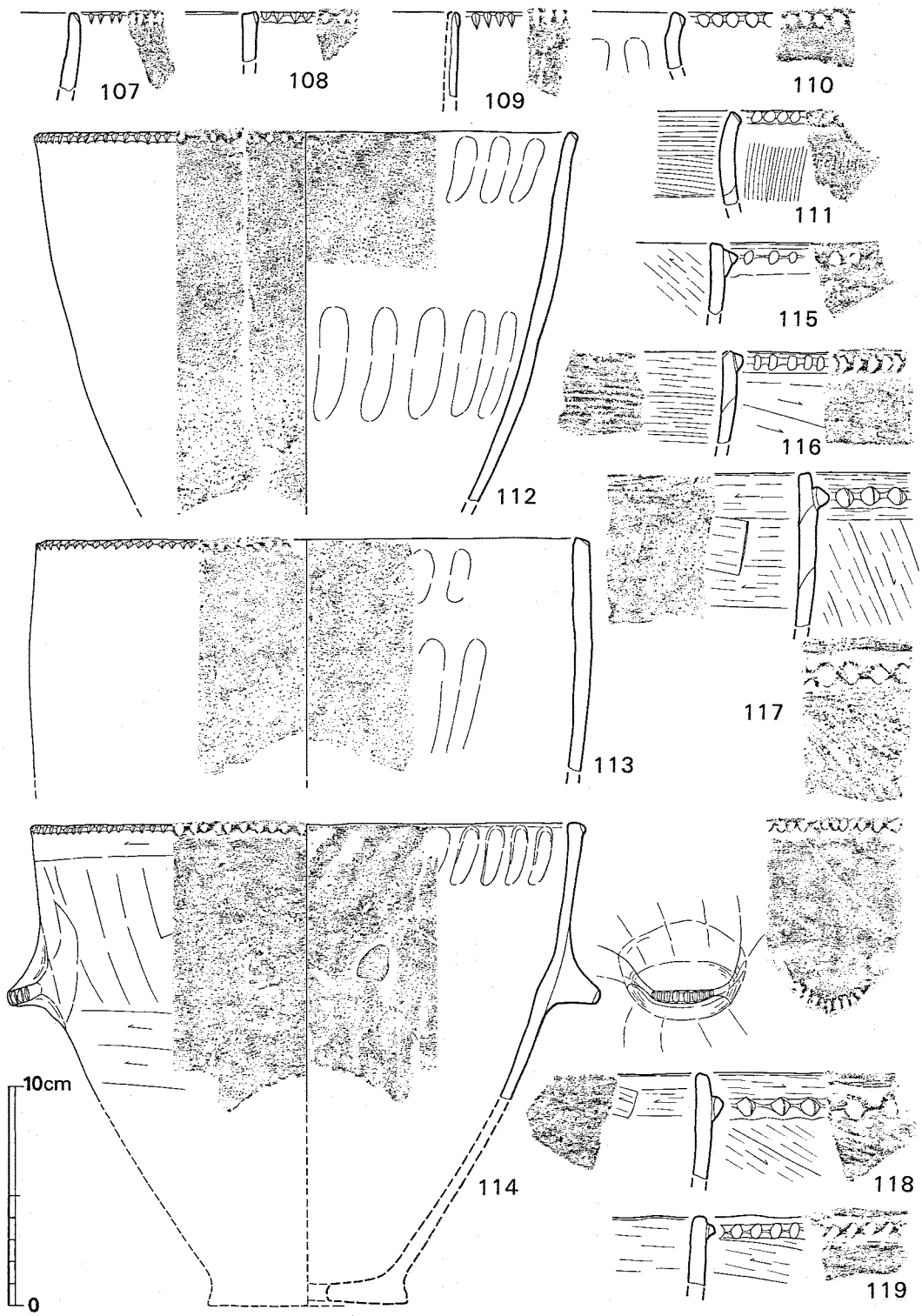
89は直立する甕の口縁片である。口縁はわずかに外反しており，棒状工具による刻目を施している。内面は指頭圧痕ののちナデ。口縁内面から口縁上端は横方向擦過，外面は縦方向の細いハケ目ののち間隔をおいてナデを加えてハケ目を消している。内面は暗赤褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

90は直立する甕の口縁片である。口縁はやや波をうっている。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面はナデで指頭圧痕がみられる。外面は斜方向の擦過。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

91は直立する甕の口縁片である。口縁はわずかに外反ぎみである。口縁には棒状工具による刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を多く含み，焼成は良好。

92は直立する甕の口縁片である。口縁はわずかに外反ぎみで，胴部はややふくらむ。口縁には棒状工具による刻目を施している。外面は縦方向のハケ目，内面は風化のため不明。内面は黄褐色～暗茶褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

93は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黄褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 50 図　33 号 住 居 跡 出 土 土 器 5 （縮尺1/3）

94は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面は淡赤褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

95は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面は横方向擦過，外面は風化のため不明。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

96は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面は横方向擦過，外面は風化のため不明。黒褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

97は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面は縦横の擦過。内面は黄褐色，外面は暗茶褐色～黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

98は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面から外面の口縁下までは横方向，それ以下は縦方向の擦過。内面は暗黄褐色，外面は黒褐色～黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

99は直立する甕の口縁片である。口縁はわずかに外反ぎみで，胴部はふくらみをもつ。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は赤褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

100は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面はナデかと思われる。内面は暗黄褐色，外面は褐色。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

101は直立する甕の口縁片である。口縁はわずかに外反ぎみである。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデで指頭圧痕がみられる。外面は風化のため不明。内面は黒褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

102は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる大きな刻目を施している。内面はナデで，指頭圧痕がみられる。外面はナデと思われる。内面は暗茶褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

103は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ調整。内面は淡褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

104は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともにヨコナデ。内面は明黄橙色，外面は暗赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

105は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向擦過。暗黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

106は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向擦過。明茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

107は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。内面は茶褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

108は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は擦過,外面は風化のため不明。褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

109は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は剝落,外面は風化のため調整法は不明。淡赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

110は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁は棒状工具による刻目を施している。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は黄褐色，外面は灰褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

111は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面は粗いハケ目又はハケ目風の擦過とでもいえる。外面はハケ目。内面は暗褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

112は直立する甕である。口径は24.0cmを測る。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデで，口縁下と胴中央部に指頭圧痕がみられる。外面の口縁部は横方向擦過，外面はミガキ風の縦・横方向の擦過。暗茶褐色を呈するが，上半部に大黒斑が認められ，その内面にも小黒斑がみられる。下半部は二次的火熱を受けて赤褐色に赤変している。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

113は直立する甕で,復原口径は25.5cmを測る。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデで，口縁下と胴部中央に指頭圧痕が認められる。外面の口縁下は横方向擦過，外面は丁寧なナデ風の縦方向擦過，内面は暗黄褐色～黒褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

114は把手付の甕である。口縁は直立し,ヘラによる刻目を施している。把手は幅4cm前後，やや下向きで長さ2cm強，先端の厚さは6mm,基部で4.5cm程である。先端にはヘラによる刻目を施している。一つの把手は26号住居跡の西側の包含層より出土したものであるが，刻目の数が異なるだけで，同一個体と思われるので合せて復原した。内面は指頭圧痕ののちナデ。外面は,口縁下を横方向擦過，上半は縦方向擦過,下半は横方向擦過。内面は黒褐色で一部黄褐色，外面は茶褐色～明茶褐色を呈するが，把手より下位は二次的火熱を受けている。とくに把手の下部から先端にかけては火を強く受けたものと思われ赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。甑である可能性が強い。

115は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内面から口縁上端はナデ風の擦過，凸帯周辺はナデ，外面は風化のため不明。内面は淡茶褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

116は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し,棒状工具による刻目を施している。内面は条痕風の横方向擦過，外面は横方向擦過。暗褐色を呈し，胎

土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

117は直立する甕の口縁片である。口縁より７～17cm程下った間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過。口縁から凸帯下までは横方向擦過，外面は条痕風の斜方向擦過。内面は茶褐色，外面は赤味を帯びた茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

118は直立する甕の口縁片である。口縁より10～22mm程下った間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面の口縁下は横方向擦過，胴部内面はナデ。外面の口縁は横方向擦過，凸帯部はナデ，外面は条痕風の斜方向擦過。内面は暗茶褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

119は直立する甕の口縁片である。口縁はやや波をうっている。口縁より３～10mm程下った間に凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面は暗黄褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

120は直立する甕の口縁片である。口縁より６～26mm程下った間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面はナデで指頭圧痕がみられる。口縁上端は擦過。外面はナデ。内面から凸帯の上までは赤褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

121は直立する甕の口縁片である。口縁より９～20mm程下った間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面から凸帯の上までは黄褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

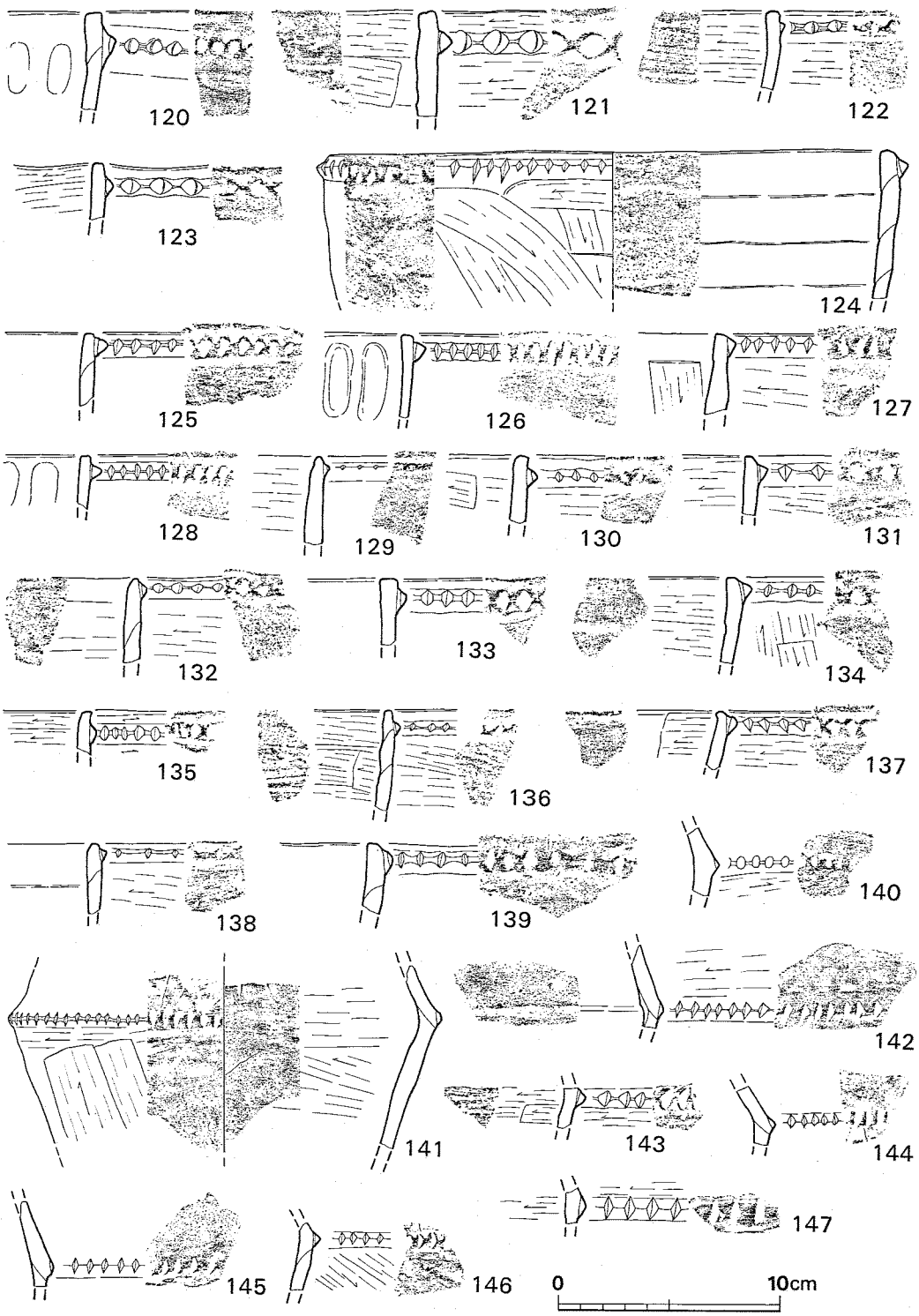
122は直立する甕の口縁片である。口縁下５～11mm程下った間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は条痕風の横方向擦過，口縁内面から外面は横方向擦過。内面から凸帯の上までは淡茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

123は直立する甕の口縁片である。口縁は波をうっている。口縁より６～15mm程下った間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。凸帯部はナデ，他は内外ともに横方向擦過。口縁内外は暗茶褐色，他は暗黄褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

124は直立する甕で復原口径は25.1cmを測る。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付しヘラによる刻目を施している。内面は横方向擦過，外面は擦過。内面は黄褐色と明茶褐色のまだら，外面は明茶褐色。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

125は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。凸帯部はナデ，他は内外ともに横方向擦過。内面は黒色，外面は淡黄褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

126は直立する甕の口縁片である。口縁より４～12mm程下った間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面はナデで指頭圧痕がみられる。口縁から凸帯まではナデ，外面は風化のため不明。内面は茶褐色，外面は淡黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 51 図　33 号 住 居 跡 出 土 土 器 6（縮尺1/3）

127は直立する甕の口縁片である。口縁外側に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は縦方向擦過，外面は横方向擦過。内面は淡茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

128は直立する甕の口縁片である。口縁より4～11㎜程下った間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともにナデで，内面には指頭圧痕がみられる。内面から凸帯の上までは明茶褐色，外面は淡黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

129は直立する甕の口縁片である。口縁より4～12㎜程下った間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は横方向擦過，外面はナデ。内面は灰白色，外面は淡褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

130は直立する甕の口縁片である。口縁より5～14㎜程下った間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。凸帯部はナデ，他は内外ともに横方向擦過。内面から凸帯の上までは黒色，外面は灰褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

131は直立する甕の口縁片である。口縁より4～14㎜程下った間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。凸帯部はナデ，他は内外ともに横方向擦過。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

132は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面は暗黄褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

133は直立する甕の口縁片である。口縁下4～16㎜程下った間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。口縁から凸帯まではナデと思われるが，他は風化のため不明。灰白色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

134は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。口縁から凸帯まではナデ，内面は横方向擦過，外面は縦方向擦過。明茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

135は直立する甕の口縁片である。口縁より6～15㎜程下った間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向擦過。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

136は直立する甕の口縁片である。口縁より5～12㎜程下った間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともに条痕風の横方向擦過，内面は黄褐色，外面は赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

137は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。口縁から凸帯まではナデ，他は内外ともに横方向擦過。内面から凸帯の上までは暗褐色，外面は暗赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

138は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。凸帯周辺は横方向ナデ，他は内外ともに横方向擦過。内面は黒褐色，外面は暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

139は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

140は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には棒状工具による刻目を施している。内面はナデ，外面は横方向擦過。内面は暗黄褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

141は肩で屈曲する甕の頸・胴部片である。肩の復原径は19.3cm。肩にはヘラによる刻目を施している。内面は横方向擦過，頸部外面は横方向ナデ，肩部下は横方向擦過，胴部は縦方向擦過。内面は淡褐色，外面は褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

142は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩にはヘラによる刻目を施している。内面は擦過，外面はナデ風の横方向擦過。内面は暗黄褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

143は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は粗い横方向の擦過，凸帯部はナデ，外面は横方向擦過。内面は暗褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

144は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。内面は暗赤褐色，外面の肩より上は黒褐色，肩より下は暗赤褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

145は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。内面は暗褐色，外面は暗茶褐色～黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

146は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面はナデ，凸帯部はナデ，肩より下は斜方向の擦過。淡黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

147は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向擦過。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

148は径9.1cmの底部である。内面は指頭圧痕ののち擦過。外面も指頭圧痕ののち擦過。外底はナデ。内面は明茶褐色，外面は暗褐色，外底は黄白色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

149は壺底部である。径は5.7cmを測る。内面はナデ，外面は風化のため不明。淡黄褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

150は復原径10cmの底部片である。内面はナデで指頭圧痕がみられる。外面は縦方向の擦過，外底はナデ。内面は黄褐色，外面は茶褐色，外底は褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

151は復原径11.5cmの底部片である。内面はナデで指頭圧痕がみられる。外面は縦方向擦過，外底は擦過。内面は暗茶褐色，外面は暗赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

152は復原径8.0cmの底部片である。内外ともにナデ，外底は板木口によるカキトリ。内面は淡黄褐色，外面は暗赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

153は径10.3cmの底部片である。内面は擦過，外面はナデで，底部外側には指頭圧痕が明瞭である。内面は淡黄褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

154は復原径8.0cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は風化のため不明。内面は茶褐色，外面は赤褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。板付Ⅰ式かと考える。

155は径8.1cmの底部片である。内面は擦過，外面は横方向擦過，外底は板木口によるカキトリ。内面は淡黄褐色を呈するが，外面は二次的火熱によって淡赤紫色を呈している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

156は復原径11.2cmの甑底部片である。外から内へと穿孔しているが，中心からはかなりずれている。内外ともに縦方向擦過，外底はナデ。内底は淡赤褐色，内面は暗褐色，外面は淡黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

157は復原径12.7cmの底部片である。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は淡茶黄色，外面は暗黄褐色～暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

158は復原径9.0cmの底部片である。外面はナデで，指頭圧痕がみられる。内面は風化のため不明。外底には稲わらしき圧痕がある。淡茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

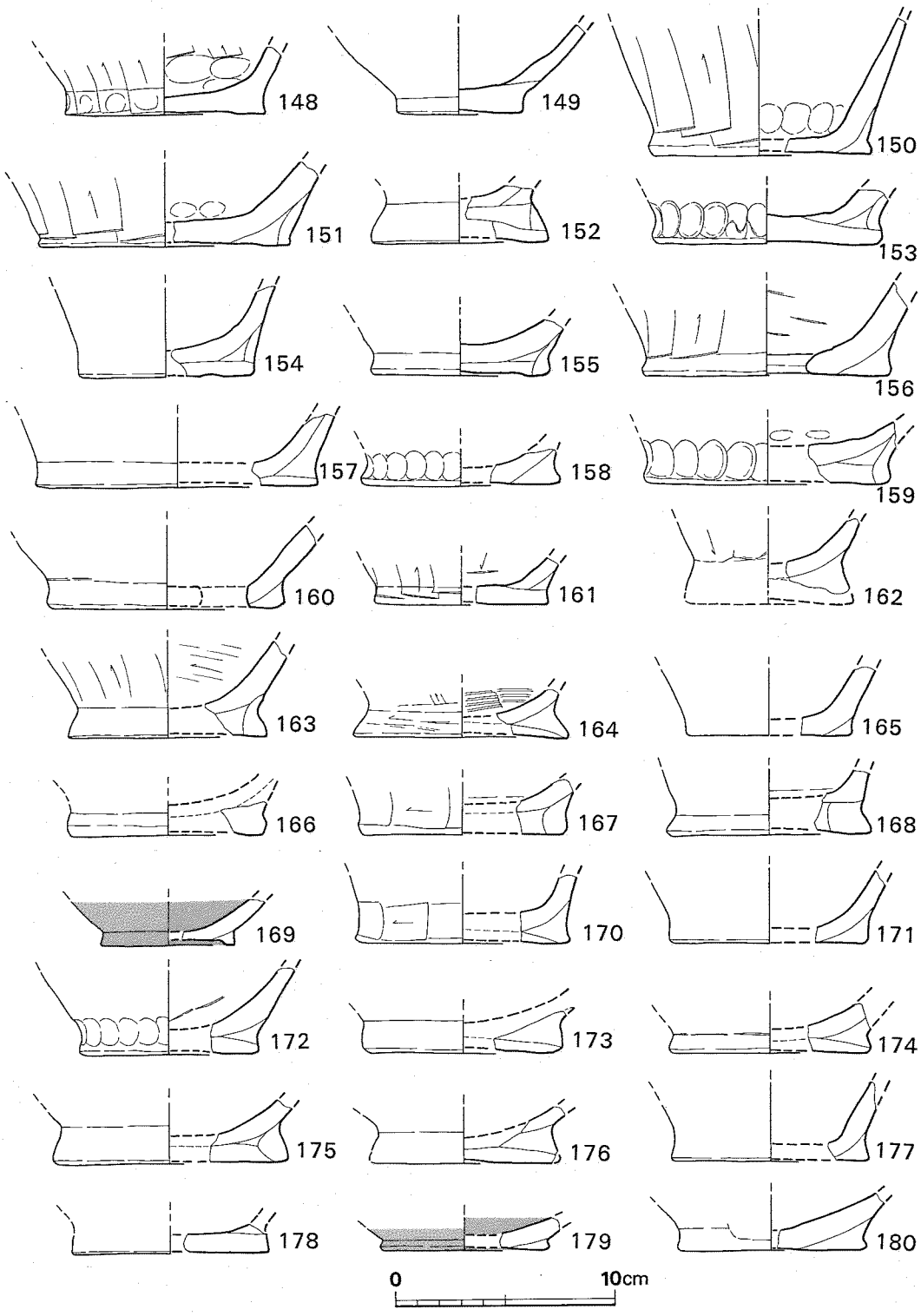
159は復原径11.0cmの底部片である。内外ともにナデで，底部外側には指頭圧痕が明瞭である。内面は淡黄色，外面は淡赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

160は復原径10.8cmの甑底部片である。かなり片寄ったところに外から内へ穿孔しているので，多孔の甑であった可能性も考えられる。内外ともにナデ。内面は淡茶褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

161は復原径7.8cmの底部片である。内外ともに縦方向擦過。外底はナデ。内面は暗黄褐色，外面は淡褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

162は復原すると底径7.5cm程の底部片である。内面はナデ，外面は縦方向擦過。内面は茶褐色，外面は黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

163は径算出不能なので，9.0cmで復原して図示した。内面は横方向擦過，外面は縦方向擦過，



第 52 図　33 号住居跡出土土器 7（縮尺1/3）

底部外側は横方向ナデ，外底は板木口によるカキトリ。内面は暗褐色，外面は赤褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

164は復原径9.7cmの底部片である。内面は横方向条痕，外面は縦方向擦過，底部外側は横方向擦過，外底は板木口によるカキトリ。内面は黒色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

165は復原径7.5cmの底部片である。内面と外底はナデ。外面は風化のため不明。内面は暗褐色，外面は二次的火熱を受けており，明茶褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

166は底部成形の際，周縁にめぐらした粘土帯である。復原径は8.9cm。接合面は擬口縁を呈する。外面はナデ。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

167は復原径9.4cmの底部片である。内外ともに擦過，外底は板木口によるカキトリ。内面は黄白色，外面は暗褐色，外底は黒色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

168は復原径9.1cmの底部片である。内面は擦過，外面は風化のため不明。外底は板木口によるカキトリ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

169は黒色磨研浅鉢の底部片で，復原径は6.1cm。内面はミガキ，外面は横方向ミガキ。外底は板木口によるカキトリ。内面は黒色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

170は復原径9.7cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は横方向擦過。内面は淡茶色，外面は二次的火熱により暗赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

171は径算出不能なので9cmで復原して図示した。内面と外底はナデ，外面は風化のため不明。内面は赤褐色，外面は暗赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

172は復原径8.2cmの底部片である。内面は擦過，外面は底部外側に指頭圧痕がみられる他は風化のため不明。内面は黒褐色，外面は二次的火熱を受けて灰紫色に変色している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

173は176と同一個体である。径8.2cmの底部片である。内面はナデ，外面は横方向擦過。内面は淡黄色，外面は黒褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

174は径算出不能なので径9.0cmで復原して図示した。内外ともにナデ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

175は復原径10.6cmの底部片である。内外ともにナデ，底部外側は横方向ナデ，外底は擦過。内面は黄白色，外面は黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

177は復原径8.9cmの底部片である。内外ともにナデ。内面は淡茶褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

178は復原径9.0cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は風化のため不明。内面は淡黒

褐色，外面は二次的火熱を受けて淡赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

179は黒色磨研浅鉢の底部片で復原径は7.6cm。内面はミガキ，外面は横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

180は復原径8.5cmの底部片である。内面はナデ，外面は風化のため不明。外底は粗い擦過。内面は淡黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

181は浅鉢底部片である。復原径は7.6cmを測る。内面はミガキ，外面は横方向擦過。外底は条痕工具によるカキトリののちナデ。内面は茶褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。黒塗りの可能性もある。

182は復原径9.6cmの底部片である。外面は横方向擦過，外底は粗いカキトリ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

183は復原径8.4cmの底部片である。内外ともに横方向擦過，外底はナデ。内面は淡茶色。外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

184は復原径9.8cmの底部片である。内面は擦過ののちナデ，底部外側は横方向ナデ，外底はナデ。内面は暗茶褐色，外面は淡赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

185は黒色磨研浅鉢の底部片で，復原径6.4cm。内面はミガキ，外面は横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

186は復原径6.7cmの底部片である。内面は擦過，外面は擦過，底部外側には指頭圧痕が明瞭である。外底はナデ。内面は淡茶色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

187は復原径6.4cmの黒色磨研浅鉢の底部片である。内面はミガキ，外面は横方向ミガキ，外底はナデ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

188は復原径9.0cmの底部片である。外面はナデ。淡黄白色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

189は黒色磨研の壺底部と思われる。復原径は6.5cmを測る。内面はナデで指頭圧痕がみられる。外面は風化のためミガキか擦過か不明。内外ともに黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

190は復原径9.2cmの底部片である。外底は板木口によるカキトリで上げ底を呈する。外面は風化のため不明。淡赤褐色を呈するが，二次的火熱を受けて淡赤紫色に赤変した部分がある。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

191は復原径9.0cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は風化のため不明。内面は明赤褐色，外面は暗赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

192は甕胴部片利用の円盤で復原径は4cm程のものである。外縁は磨って整えている。内面はナデ，外面は擦過。内面は淡赤褐色。外面は暗褐色。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

193は土製人形品である。頭にあたる部分は太く，手は細く，足は中ぐらいにつくっており，単なるヒトデ形の土製品ではなく確実に人形品である。高さは3.8cm，手をひろげた幅は4.4cmを測る。いずれが前面か判断に苦しむが，腕のひろげ方からみて，側面観の左，つまり右側に図示した部分が前面であろうかと思われる。別の面の丁度股間に亀裂があり，性器を表現したものではないかという意見もあったが，残念ながらこの面は後面である可能性がつよい。つくりは雑で，指によるナデ調整である。暗黄褐色～淡褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

以上は154をのぞき33号住居跡に伴うものである。

194は板付Ⅰ式の壺口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は暗黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

195は板付Ⅰ式の大形壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黄白色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

196は板付Ⅰ式の壺肩部片である。肩部にはコンパスを使用した同心重弧文を施している。大きな弧は半径15mm，小さな弧は半径12.5mmを測る。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。内面は淡茶色，外面は淡黄色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

197は丹塗り磨研の深鉢かと考えられる。内面は横方向ミガキ，外面は風化のため不明。内面の地は黒褐色，外面の地は黄褐色，丹は暗赤色。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。板付Ⅰ式かと思われる。

198は高坏破片である。復原口径は23.3cm。口縁内面から外面は横方向ミガキ。内面はナデ。赤褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。板付Ⅰ式の新しい段階に属する。

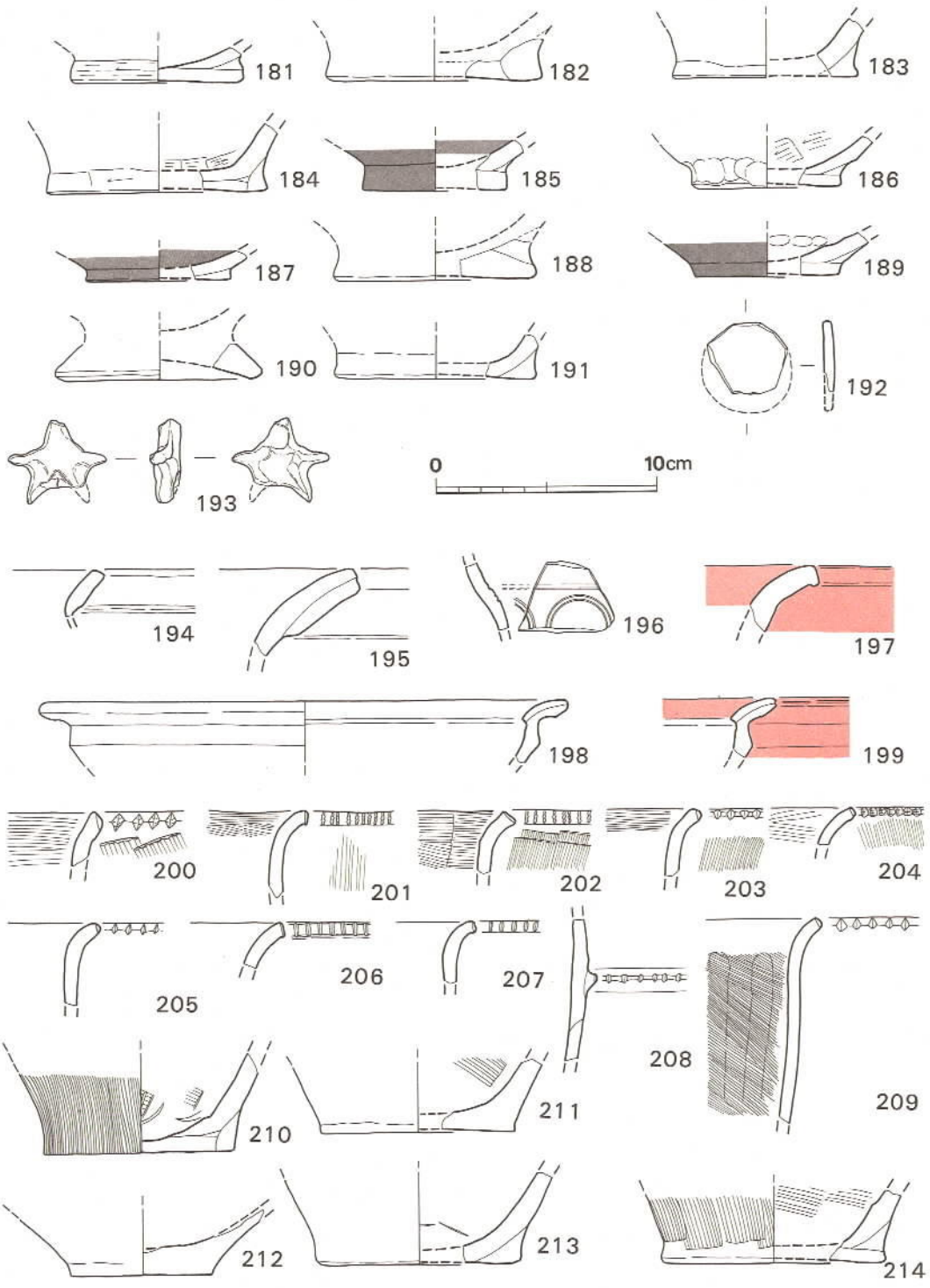
199は前者と同様板付Ⅰ式新段階の丹塗り磨研高坏片である。口縁内外と頸部・体部は横方向ミガキ，体部内面と口縁外面の下半部はヨコナデ。地は赤褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

200は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はハケ目ののちナデ，外面は粗いハケ目。内面は黒褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

201は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口縁にはハケ目工具刺突による刻目を施している。内面はナデ，口縁下はハケ目，外面は粗いハケ目ののちナデ。内面は淡茶褐色，口縁内面から外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

202は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口縁にはハケ目工具刺突による刻目を施している。内外ともにハケ目。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

203は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，口縁内面はハケ目，口縁外面はヨコナデ，外面はハケ目。暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を



第 53 図　33 号 住 居 跡 出 土 土 器 8（縮尺1/3）

含み，焼成は良好。

204は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口縁にはハケ目工具による刻目を施している。内外ともに粗いハケ目。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

205は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。口縁内外はヨコナデ，他は内外ともにナデ。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

206は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面は風化のため不明。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

207は板付Ⅰ式の甕口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。口縁内外はヨコナデ，他は内外ともにナデ。内面は淡茶褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

208は肩に刻目凸帯をめぐらす甕である。凸帯周辺はヨコナデ，他はナデ。内面は淡赤褐色，外面は暗赤褐色を呈する。胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。板付Ⅰ式と思われる。

209は板付Ⅰ式の甕である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は指頭圧痕ののちハケ目，口縁内外はヨコナデ，外面は縦方向のナデ。内面は黒褐色～暗黄褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

210は径8.4cmの底部片である。内面はハケ目ののちナデを加えているが，ハケ目の起点痕の他に弧を呈する圧痕がみられる。棒木口によるタタキあて具痕ではないかと考える。外面は細いハケ目，外底はナデ，淡茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。板付Ⅰ式のものである。

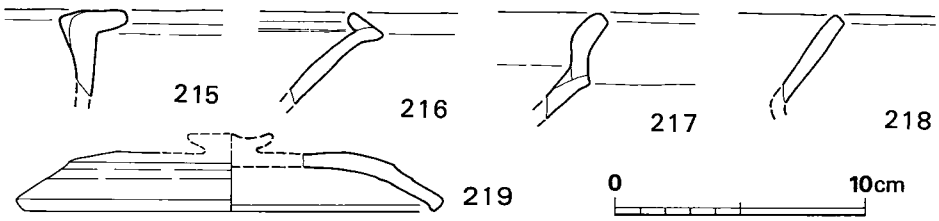
211は復原径8.6cmの底部片である。内面は粗いハケ目ののちナデ，外面はナデ。内面は暗褐色，外面は黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。板付Ⅰ式のものである。

212は丹塗り磨研壺の底部である。径は6.2cmを測る。外面は横方向ミガキ，外底はナデ，内底は風化のため不明。地は茶褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。板付Ⅰ式のものである。

213は復原径9.0cmの底部片である。内面は擦過ののちナデ，外面は風化のため不明。内面は暗茶褐色，外面は黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。古い要素を残しているが，板付Ⅰ式としてよかろう。

214は復原径10.0cmの底部片である。内面は粗いハケ目ののちナデ。外面はハケ目，外底はナデ。内面は暗褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

215は逆L字状を呈する甕口縁片である。口縁下にヨコナデがみられる他は風化のため不明。暗黄褐色を呈するが，二次的火熱による赤変部分もみられる。胎土には少量の砂粒を含み，焼



第 54 図　33 号 住 居 跡 出 土 土 器 9（縮尺1/3）

成はやや不良。弥生中期前半のものである。

216は袋状口縁壺である。内面はナデ,外面は風化のため不明。淡黄白色を呈し，胎土には精選粘土を使用し，焼成は良。弥生後期後半のものである。

217は高坏口縁片である。内面は横方向ミガキ,外面は風化のため不明。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。弥生後期後半のものである。

218はく字状口縁を呈する甕の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。淡黄白色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや不良。弥生後期後半のものである。

219は須恵器坏蓋片である。口縁内外はヨコナデ,他は内外ともにナデ。青灰色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

34号住居跡出土土器（第55図）

1は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は淡黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

2は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

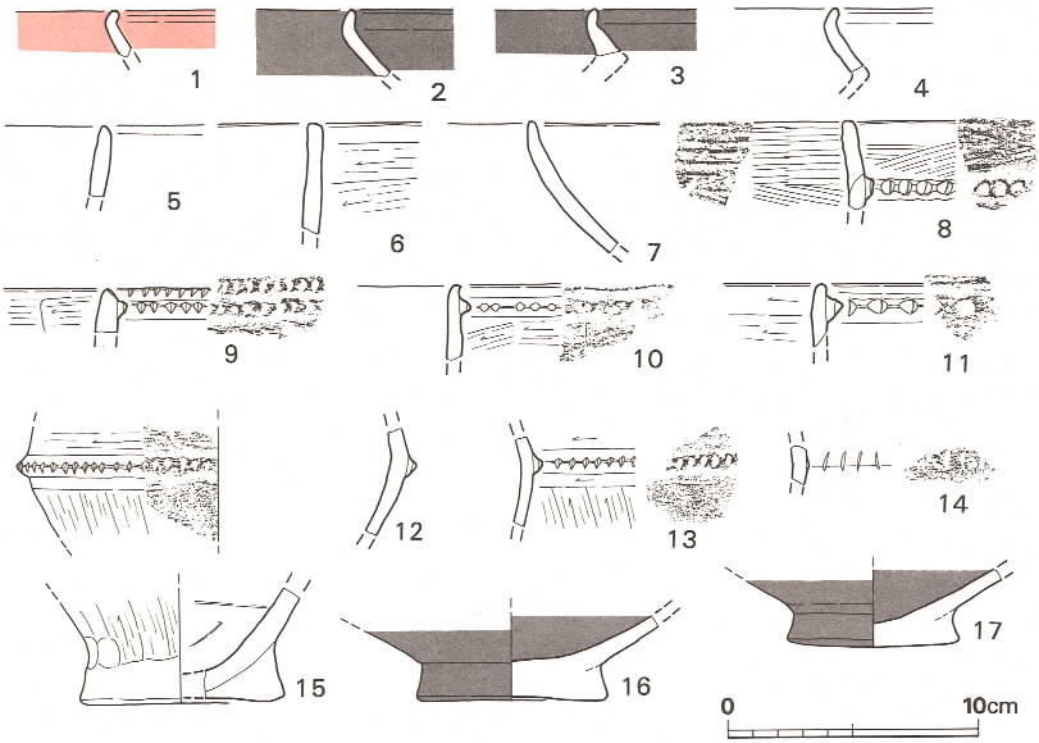
3は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

4は浅鉢口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面は茶褐色を呈する。本来は黒色磨研であろうと思われる。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

5は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。内面は暗褐色，外面は黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

6は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ風の横方向擦過。淡赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

7は肩で屈曲する甕の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。茶褐色を呈し，胎土には多くの砂粒と赤色粒子を含み，焼成は良。



第 55 図　34 号 住 居 跡 出 土 土 器（縮尺1/3）

8は直立する甕の口縁片である。口縁より22～31㎜程下った間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は横方向条痕，口縁部はヨコナデ，外面は条痕ののちナデを加えている。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

9は直立する甕の口縁片である。口縁より５～12㎜程下った間に凸帯を貼付し，口縁と凸帯にヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ風の横方向擦過。暗赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

10は直立する甕の口縁片である。口縁より５～12㎜程下った間に凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内面は黒褐色，外面は黒色～暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

11は直立する甕の口縁片である。口縁より４～15㎜程下った間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内外ともにナデ風の横方向擦過。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

12は肩で屈曲する甕で，肩の復原径は15.7㎝を測る。肩には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面の肩より上は横方向擦過，肩より下は縦方向擦過。内面は暗

茶褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

13は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面はナデ，外面の凸帯周辺は横方向擦過，肩より下は縦方向擦過，内面は茶褐色，外面は黒色～黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

14は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には爪先刺突による刻目を施している。外面は横方向擦過，内面は風化のため不明。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

15は復原径8.0cmの底部である。内外ともに擦過，底部外側と外底周縁はナデ，外底は板木口によるカキトリ。内面は灰褐色，外面は明茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

16は黒色磨研浅鉢底部で，径は7.5cmを測る。内面は丁寧なミガキ，外面は二次的火熱を受けて風化がいちぢるしく不明。内面は黒色，外面は黄・赤褐色に変化しているが部分的に本来の黒色部分が残っている。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

17は黒色磨研浅鉢の底部で，径は6.8cmを測る。内外ともに風化いちぢるしくミガキ方向は不明。内面は黒色，外面は黒色～黒褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成はやや不良。

36号住居跡出土土器（第56図）

1は丹塗り磨研大形壺の口・頸部片である。復原口径は15.7cmを測る。外面から口縁内面までは横方向ミガキ。頸部内面は横方向擦過。内面は灰褐色，外面の地は淡黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

2は丹塗り磨研壺の口・頸部片である。口縁内面は横方向ミガキ。頸部内面はナデ，外面は風化のためミガキ方向は不明。地は淡黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

3は丹塗り磨研大形壺の頸・肩部片である。内面はナデで指頭圧痕がみられる。外面は横方向ミガキ。地は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

4は大形壺の肩部片である。内面は指頭圧痕ののち横方向擦過，外面は横方向ミガキ。内面は暗茶褐色，外面は茶褐色～黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

5は黒色磨研小形壺の肩部片である。復原胴部最大径は8.5cmを測る。内面は指によるナデ，外面は横方向ミガキ。内外とも黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

6は壺の口縁部片である。復原口径は16.5cmを測る。口縁は短く，わずかに外反する。内外ともにヨコナデ。赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒と微量の金雲母片を含み，焼成は良好。器形的には無文土器の系統のものといえよう。

7は黒色磨研埦の口縁片である。口縁はかなり波をうっている。内面は粗い擦過，外面は横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

8は黒色磨研埦の口縁片である。内面は横方向擦過，口縁部は横方向ミガキ，外面はミガキ風の横方向擦過。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

9は高坏又は方形浅鉢の口縁片である。口縁はやや波をうっている。内外ともに横方向ミガキ。淡茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

10は直立する甕の口縁片である。口縁下には1条の沈線をめぐらしている。外面は横方向擦過，内面は風化のため不明。内面は赤褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

11は直立する甕の口縁片である。口縁内外はヨコナデ，他は内外ともに横方向擦過。内面は茶褐色～黒褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

12は直立する甕の口縁片である。内面はナデ，外面は横方向擦過。内面は赤褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

13は直立する甕の口縁片である。口縁上端に爪による刻目を施している。内面はナデ風の擦過，外面は丁寧なナデ。内面は褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒と金雲母片を含み，焼成は良好。

14は直立する甕の口縁片である。口縁上端には爪による刻目を施している。内外ともにナデ調整。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

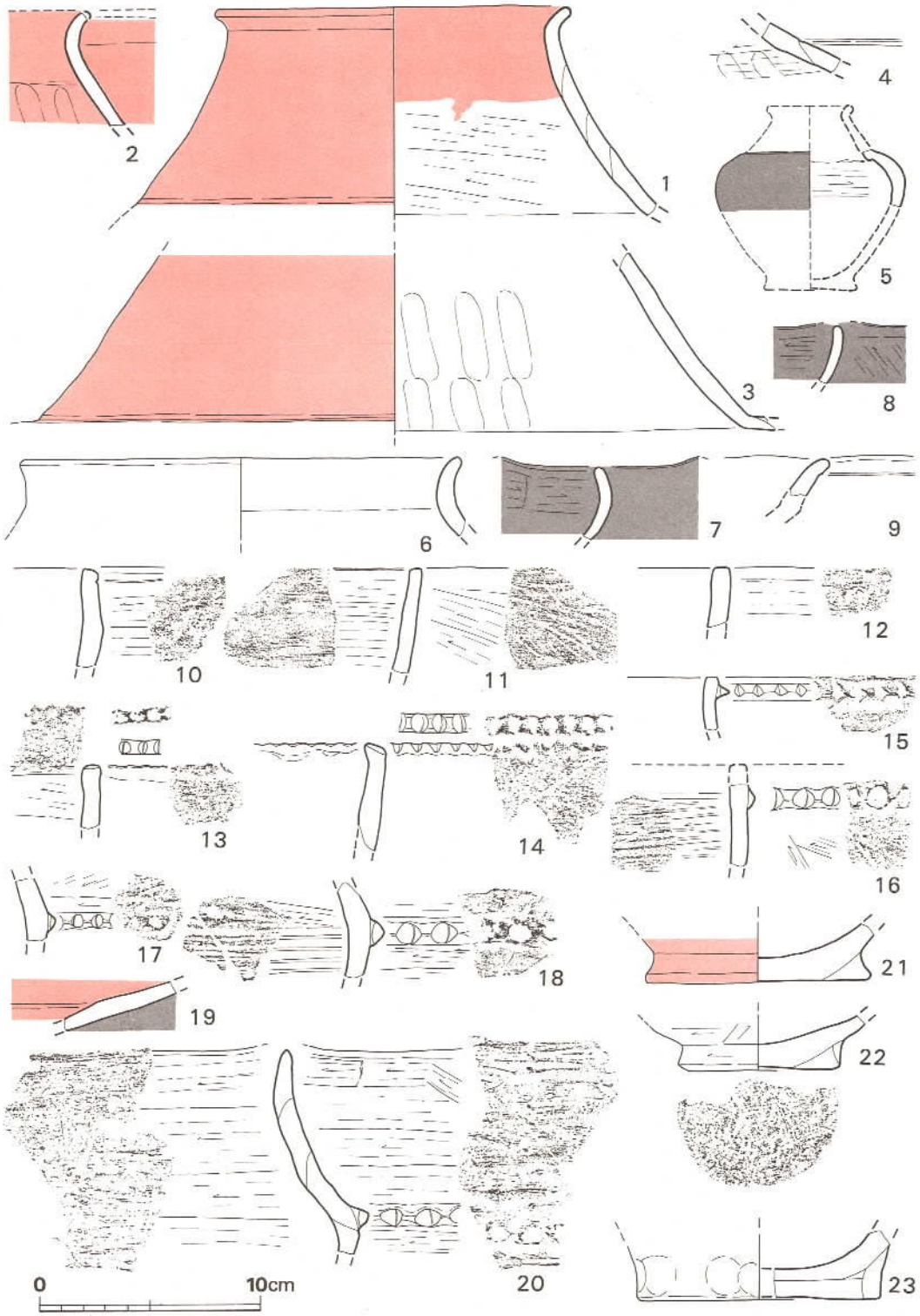
15は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁より3～10㎜程下った間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，外面はナデ。内面は黒褐色，外面は褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

16は直立する甕の口縁片である。口縁より下ったところに凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は条痕風の粗い擦過，凸帯の周辺はナデ，外面は斜方向の粗い擦過。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

17は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は丁寧なナデ，外面の凸帯の上はヨコナデ風の擦過，頸部は条痕風の粗い擦過。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

18は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面の肩より上は横方向擦過，肩より下は横方向条痕。凸帯周辺はナデ，外面はナデ風の横方向擦過。内面は淡茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

19は丹塗り磨研の方形浅鉢の破片と思われる。内面の段より上は横方向ミガキ，段より下は斜方向ミガキ，外面は丁寧なナデ。内面の地は淡黄色，丹は淡赤色，外面は黒色で黒色磨研と



第 56 図　36 号 住 居 跡 出 土 土 器（縮尺1/3）

いってよかろう。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

20は肩で屈曲する甕である。口縁はかなり波をうち刻目はない。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともに横方向の粗い擦過。内面は茶褐色，外面の口縁は茶褐色，凸帯周辺は黒色を呈する。黒色部分は黒斑かとも思われる。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

21は径10.2cmの丹塗り磨研壺の底部である。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。外底は板木口によるカキトリ。地色は黄白色，丹は淡赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

22は径7.3cmの底部片である。内面はナデ，外面は擦過，外底は板木口によるカキトリ。工具の幅は28mmを測る。内面は黒褐色，外面は明茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

23は復原径11cmの底部片である。内外ともにナデ。底部外側には不明瞭な指頭圧痕がみられる。内面は黄白色，外面は暗赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

38号住居跡出土土器（第57図）

1は黒塗り磨研壺である。復原口径は12.0cm，肩には1条の沈線をめぐらしている。外面から口縁内面までは横方向ミガキ，内面の頸部から胴部にかけてはナデ，肩部内面には指頭圧痕がみられる。内面の地は褐色，外面の地は茶褐色を呈し，その上から黒色顔料を塗っている。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

2は黒塗りの壺口縁片である。内面はナデ風の擦過，外面はナデ。内面は茶褐色の地に黒褐色の黒色顔料を塗っているが，外面は茶褐色を呈し，黒塗りか否かはっきりしない。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

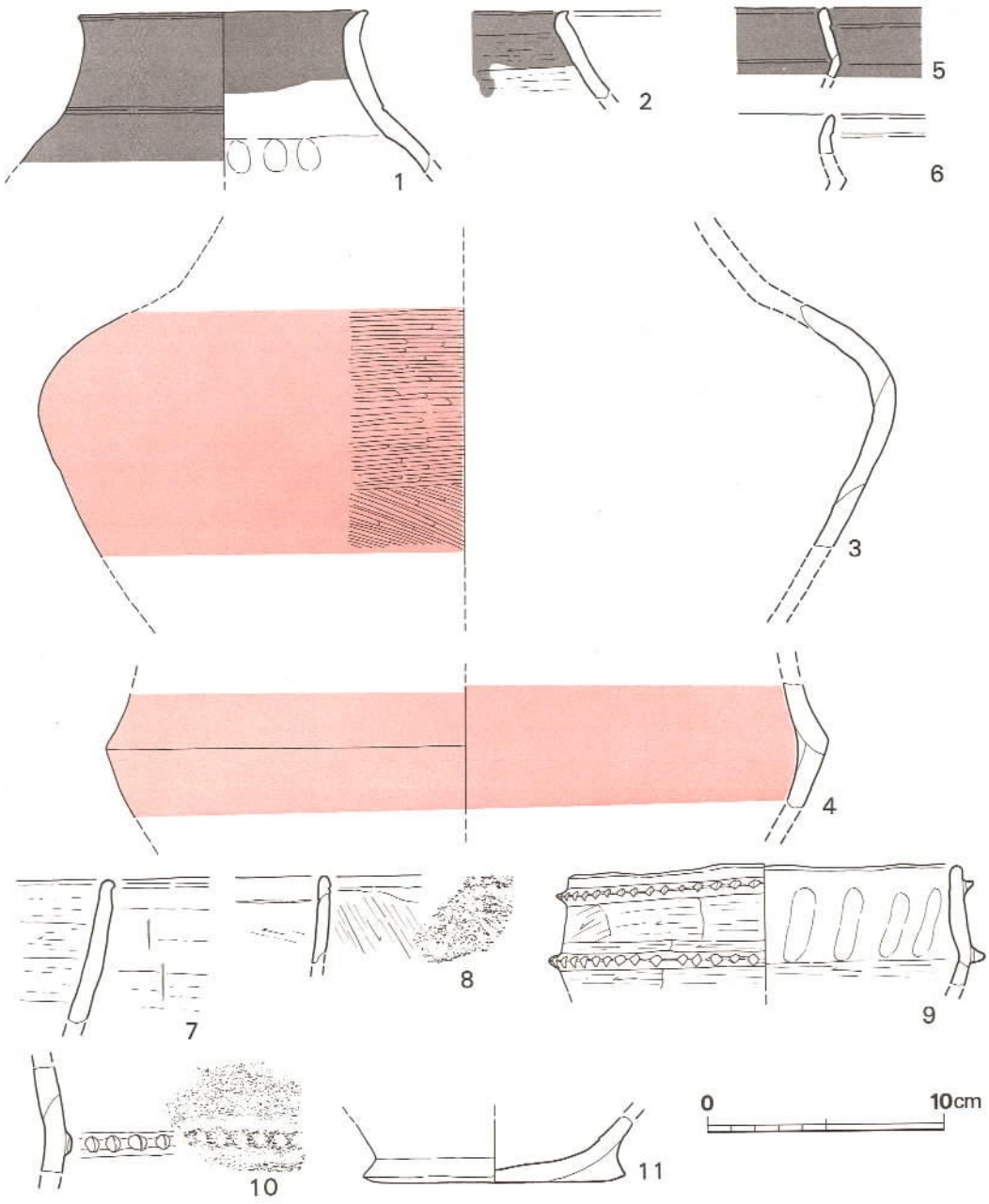
3は丹塗り磨研大形壺の胴部片である。胴部最大径は35.6cmに復原できる。胴部の上半は横方向ミガキ，下半は斜方向ミガキ。内面は風化のため不明。内面は褐色，外面の地は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

4は丹塗り磨研深鉢の肩部片である。外面は横方向ミガキ。内面は風化のため不明。地は赤褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

5は黒色磨研の高坏口縁片と思われる。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

6は浅鉢の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

7は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過であるが，外面には縦方向の砂の動



第 57 図　38 号 住 居 跡 出 土 土 器（縮尺1/3）

きもみられる。黒褐色を呈するが，外面は二次的火熱により暗茶褐色に変色している。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

8は直立する甕の口縁片である。内面は擦過ののちナデ，口縁部はナデ，外面は斜方向の擦過。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み焼成は良好。

9は肩で屈曲する甕で，復原口径は16.5cmを測る。口縁はかなり波をうっている。口縁より7～14mm程下った間と肩に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。胴部内面は横方向擦過，頸部内面は横方向擦過ののちナデ，口縁内外と凸帯部はナデ，外面は横方向擦過。凸帯の間は茶褐色，他の部分は暗茶褐色。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

10は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内外ともにナデ。黒褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

11は復原径10.9cmの底部片である。内底は板木口によるカキトリ，外面は風化のため不明。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

39号住居跡出土土器（第58～61図）

1は丹塗り磨研大形壺の口・頸部片である。復原口径は15.0cmを測る。頸部内面はナデ，口縁内面から外面は丹の剝落がいちぢるしくミガキ方向は不明。地は黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

2は丹塗り磨研大形壺の口・頸部片である。復原口径は18.8cmを測る。外面から口縁内面は横方向ミガキ，口縁内面はナデ。地は黄白色，丹は淡赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

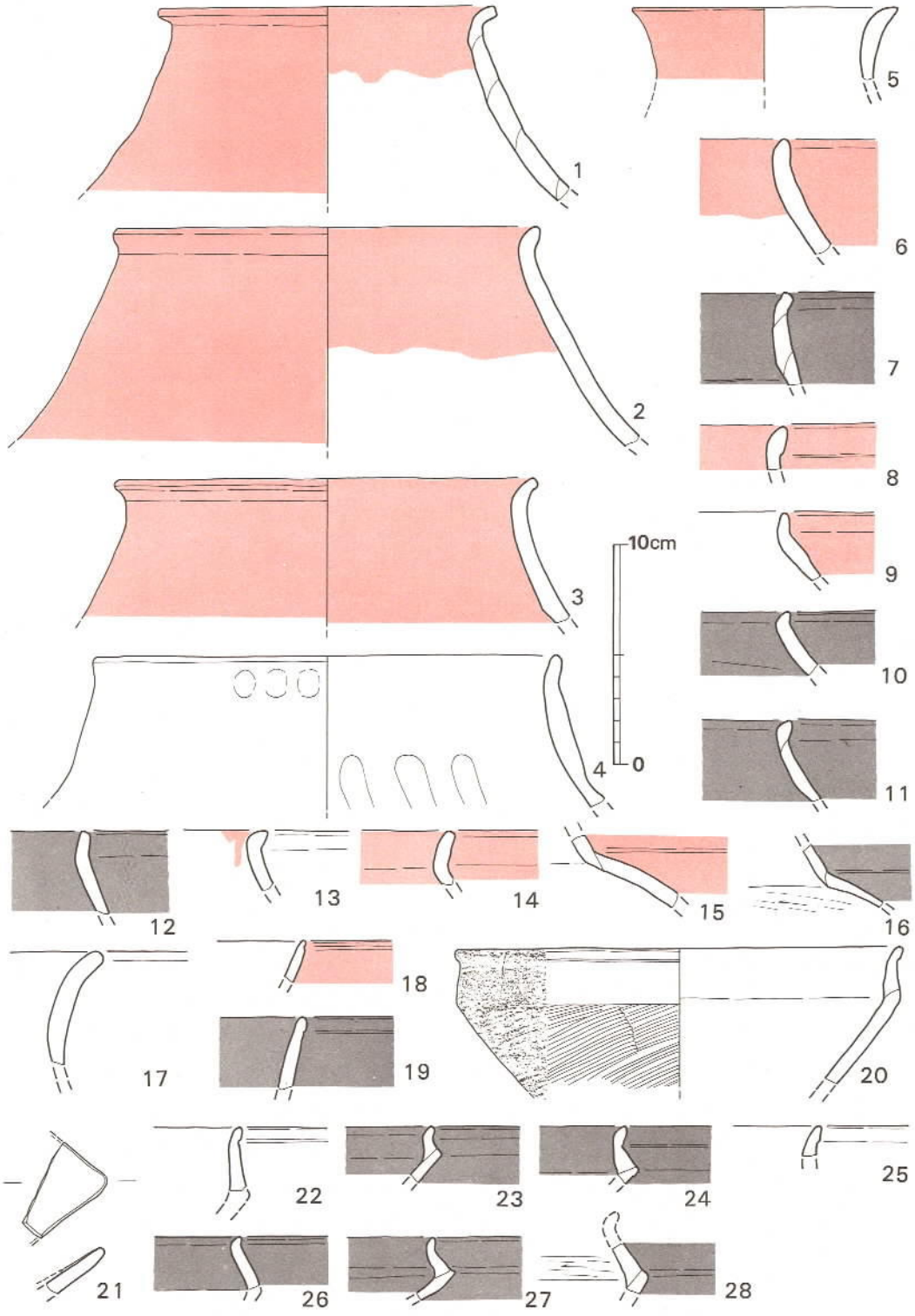
3は丹塗り磨研大形壺の口・頸部片である。復原口径は18.6cm。内外ともに丹塗りの後，横方向ミガキを施すが，丹塗り前には口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面は横方向ナデで調整を行っている。内面の地は淡黄褐色。外面の地は淡黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

4は大形壺の口・頸部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黄白色，外面は淡黄色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

5は丹塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面はナデ。内面は灰黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。器形的には通常の壺と異なり，無文土器にみられるフラスコ形をした壺の系統のものかと考える。

6は丹塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ。頸部内面は横方向擦過。内面は暗茶褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

7は黒色磨研壺の口縁片である。内面から口縁下までは横方向ミガキであるが，外面は風化し，灰黄色を呈し，調整法も不明。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 58 図　39 号 住 居 跡 出 土 土 器 1（縮尺1/3）

8は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は黄白色，丹は淡赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

9は丹塗り磨研壺の口縁片である。外面は横方向ミガキ，内面は風化のため不明。内面は黄白色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

10は黒色磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面にかけては横方向ミガキ，頸部内面は条痕風の横方向擦過。内面は灰褐色，外面は濃灰褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

11は黒色磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面にかけては横方向ミガキ，頸部内面はナデ風の擦過。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

12は黒色磨研壺の口縁片である。風化のためミガキ方向は不明。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良。

13は壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。暗茶褐色を呈し，口縁内面に丹の痕跡が認められる。本来は丹塗り磨研かと思われる。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

14は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は黄白色，丹は淡赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

15は丹塗り磨研壺の肩部片である。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。内面は淡黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

16は黒色磨研壺の肩部片である。外面は横方向ミガキ，頸部内面はナデ，肩部内面は横方向擦過。黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

17は深鉢の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。黄白色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。本来は丹塗り磨研であったと思われる。

18は丹塗り磨研埦の口縁片である。口縁下には1条の沈線をめぐらしている。外面は丁寧な横方向ミガキ，内面は風化のため不明。内面は灰黒色，丹は鮮紅色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

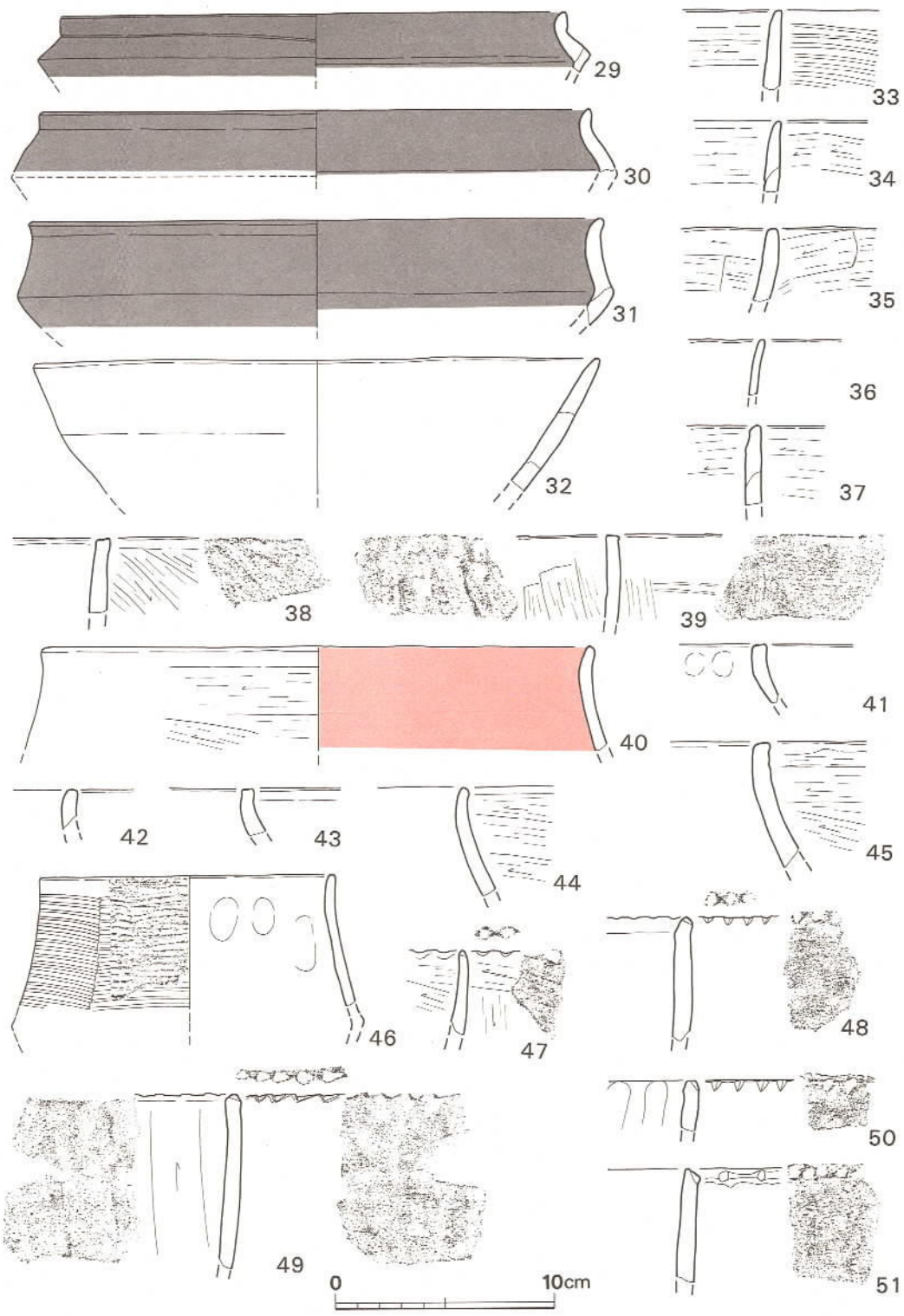
19は黒色磨研の埦又は浅鉢の口縁片である。内外ともに風化のためミガキ方向は不明。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

20は浅鉢で，復原口径は19.8cmを測る。内面から外面の肩まではナデ，体部外面は斜方向の条痕を施している。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

21は黒色磨研方形浅鉢である。内外ともにミガキ方向不明。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂と金雲母の細片を含み，焼成は良好。

この他に内外ともに丹塗りで彎曲の少い破片がかなりあり，方形浅鉢又は盤のようなものと思われるが図示可能な部分がないので省略している。

22は浅鉢口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。明茶褐色を呈し，胎土には小量の砂粒を



第 59 図　39 号住居跡出土土器 2（縮尺1/3）

含み，焼成は良好。

23は黒色磨研の浅鉢又は高坏の破片である。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

24は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微細な金雲母片を含む精選粘土を用い，焼成は良好。

25は浅鉢口縁片である。内面は茶褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

26は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

27は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

28は黒塗り磨研浅鉢の肩部片である。内面は横方向擦過，外面は横方向ミガキ。内面と体部外面は暗灰褐色，頸部にはさらに黒色顔料を塗っている。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

29は黒色磨研浅鉢で，復原口径は22.7cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

30は黒色磨研浅鉢片で，復原口径は24.6cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

31は黒塗り磨研浅鉢片で，復原口径は25.6cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。茶褐色の地の上から黒色顔料を塗り，黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

32は鉢で，復原口径は25.6cmを測る。口縁はわずかに波をうっている。内外ともに横方向の粗いミガキ。内面は暗黄褐色の地の上に暗茶色の化粧土をかけている。外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

33は直立する甕の口縁片である。内面は横方向擦過，外面は横方向条痕。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

34は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ風の横方向擦過。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

35は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。内面は暗黄褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

36は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。口縁下に指紋がのこる。内面は濃茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

37は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色～黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

38は直立する甕の口縁片である。内面は横方向ナデ，口縁部はナデ風の擦過，外面は斜方向の擦過。黒褐色～黒色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

39は直立する甕の口縁片である。内面は縦方向の擦過，外面は擦過ののちナデ。茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

40は肩で屈曲する甕の口縁片で，復原口径は24.5cmを測る。外面は横方向擦過，内面は風化のため不明。内面には丹塗りを施している。内面の地は淡黄色，丹は暗赤色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

41は肩で屈曲する甕の口縁片である。内面はナデ，外面はミガキ風の横方向擦過。明茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

42は肩で屈曲する甕の口縁片である。内外ともにナデ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

43は肩で屈曲する甕の口縁片である。内面はナデ，外面は風化のため不明。黒色を呈し，胎土には細粒の砂を少量含み，焼成は良好。

44は肩で屈曲する甕の口縁片である。内面はナデ，外面は横方向擦過。内面は黄褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

45は肩で屈曲する甕の口縁片である。内面はナデ，外面はミガキ風の横方向擦過。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒と金雲母片を含み，焼成は良好。

46は肩で屈曲する甕で，復原口径は13.4cmを測る。内面はナデ。口縁下はヨコナデ，外面は横方向の条痕。内面は茶褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

47は直立する甕の口縁片である。口縁上端に棒状工具による刻目を施している。内面から外面の口縁はミガキ風の横方向擦過，外面は縦方向のミガキ風擦過。

48は直立する甕で口縁はわずかに外反する。口縁上端にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。内面は淡茶白色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

49は直立する甕の口縁片である。口縁上端にはヘラによる刻目を施している。内面は縦方向の擦過，工具幅は23mm。外面はナデ。内面は淡赤褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

50は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデで，内面には指頭圧痕がみられる。内面は茶褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

51は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内外ともにナデ。褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

52は直立する甕で，復原口径は25.0cm。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面には指頭圧痕がみられ，その上から縦方向擦過を加える。口縁の擦過は一見条痕風である。外面はナデ風の縦方向擦過。内面は淡黄褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

53は直立する甕の口縁片である。口縁下７～17㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面から凸帯下までナデ，外面は横方向擦過。茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

54は直立する甕の口縁片である。口縁より４～16㎜程下った間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内外ともにミガキ風の横方向擦過。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

55は直立する甕の口縁片である。口縁より４～14㎜程下った間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面から凸帯まではナデ風の横方向擦過。外面は条痕風の擦過。内面は黒色，外面は黒色～黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

56は直立する甕の口縁片である。口縁より５～19㎜程下ったところに凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は条痕風の横方向擦過，口縁内面から凸帯まではナデ。外面は風化のため不明。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

57は直立する甕の口縁片である。口縁より15～23㎜程下った間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともにナデ風の擦過。口縁内外は淡黄色の地に淡赤色の丹塗りを施している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

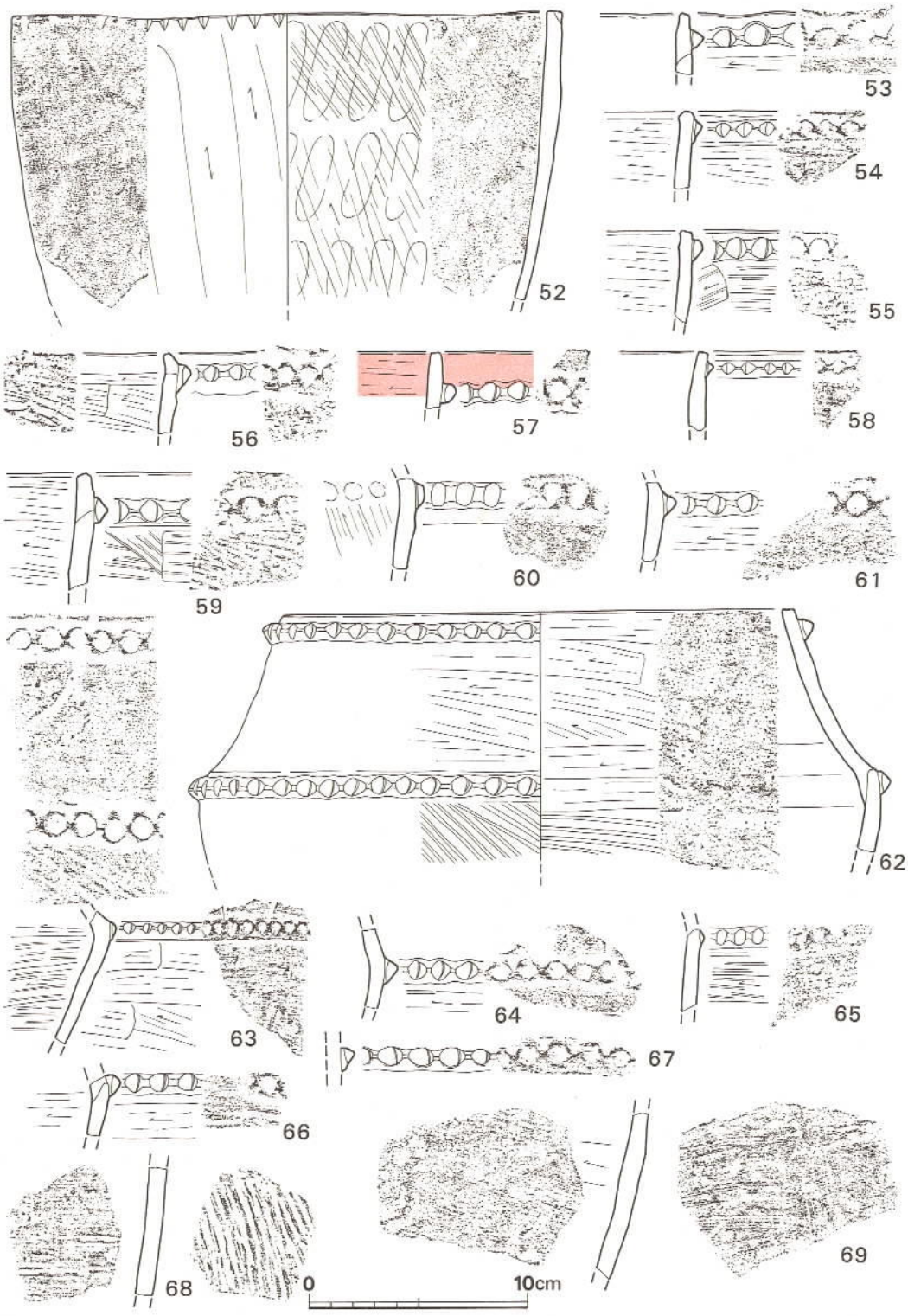
58は直立する甕の口縁片である。口縁より４～12㎜程下った間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

59は直立する甕の口縁片である。口縁より11～23㎜程下った間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面から凸帯まではナデ風の横方向擦過，外面は条痕風の擦過。内面は黄褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

60は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，棒状工具による大きな刻目を施している。内面はナデ風の縦方向擦過，肩部内面には指頭圧痕がみられる。外面はナデ。内面は淡茶褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

61は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。外面は横方向擦過，内面は風化のため不明。黒褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

62は肩で屈曲する甕で，復原口径は25.2cm，肩部径は31.8cmを測る。口縁下５～15㎜程の間と肩に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。頸部内面はミガキ風の横方向擦過，



第 60 図　39 号住居跡出土土器 3（縮尺1/3）

外面の口縁から肩の凸帯下までは横方向擦過，胴部は内外ともに条痕。内面は黄褐色，外面の肩までは黄褐色，胴部は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

63は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は条痕風の横方向擦過，凸帯周辺はナデ，胴部外面はミガキ風の横方向擦過。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

64は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面および外面の頸部から凸帯まではナデ，胴部外面は横方向擦過。胴部内面は淡褐色，頸部内面は黄褐色，外面は褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

65は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，棒状工具による擦過。内面はナデ，外面は条痕風の横方向擦過。黒褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

66は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

67は爪による刻目を施した凸帯である。ナデ調整。褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

68は甕の胴部片である。調整法の資料として図示した。内面は横方向擦過，外面は縦方向条痕。淡黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

69は甕の胴部片である。調整法の資料として図示した。内面は横方向，外面は横方向ののち縦方向の擦過。内面は淡赤褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

70は径 8.6cmの底部片である。内面はナデで指頭圧痕がみられる。外底はナデで少し上げ底を呈している。外面は風化のため不明であるが，底部外側には指頭圧痕がみられる。内面は茶褐色，外面は黄白色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

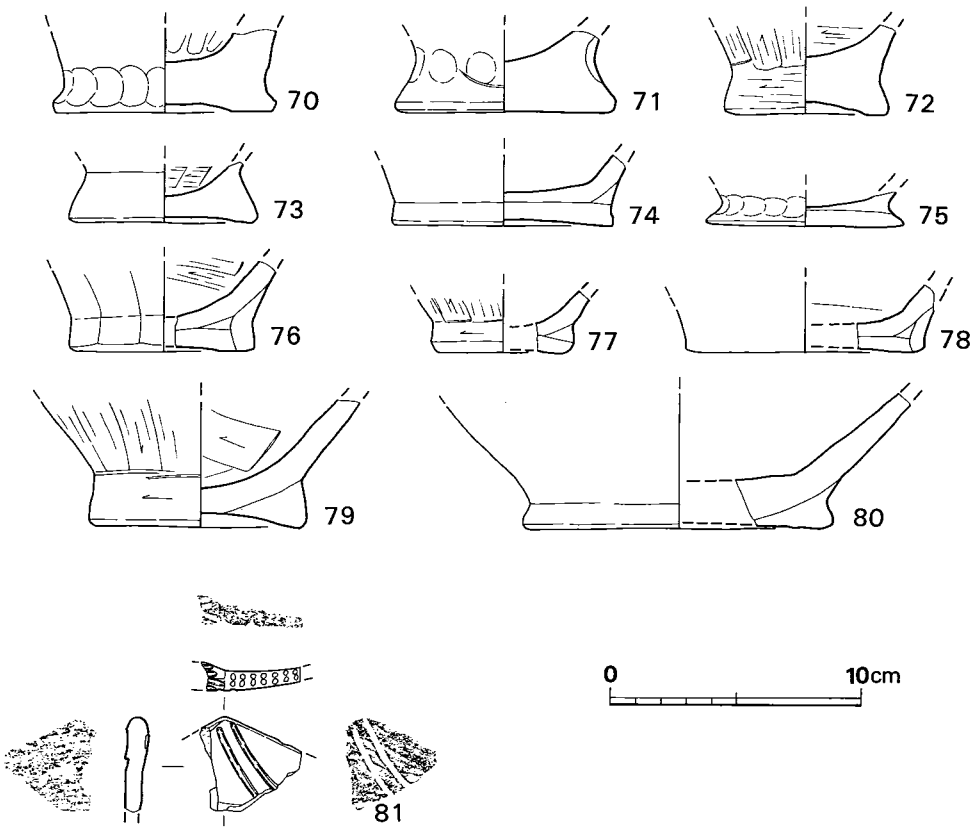
71は径 8.7cmの底部である。外面はナデで底部外側には指頭圧痕がみられる。内面は風化のため不明。内面は灰黒色，外面は淡黄色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

72は径 6.4cmの底部である。内外ともに擦過，外底は指頭による整形で上げ底を呈し，ナデ調整。内面は黄白色，外面は淡赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

73は径 7.4cmの底部である。内面は擦過，外面はナデ，外底は板木口によるカキトリでやや上げ底を呈する。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

74は復原径 8.8cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は不明。内面は黄白色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

75は径 7.9cmの底部片である。内外ともにナデで，底部外側には指頭圧痕がみられる。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 61 図　39 号 住 居 跡 出 土 土 器 4 （縮尺1/3）

76は復原径 7.3cmの底部片である。内外ともに擦過。内面は淡黄色，外面は赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

77は復原径 5.6cmの底部片である。内面と外底はナデ。外面は縦方向擦過，底部外側はナデ風の横方向擦過。内面は黄白色，外面は黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

78は復原径 9.4cmの底部片である。内面は擦過，外底はナデ，外面は風化のため不明。内面は黄白色，外面は暗赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

79は復原径 8.5cmの底部片である。内面は擦過ののちナデ，外面は擦過，外底は板木口によるカキトリで上げ底を呈する。内面は黄褐色，外面は二次的火熱を受けて淡赤褐色に赤変している。外底は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

80は復原径12.2cmの底部片である。内面はナデ，外面は縦方向ナデ，底部外側は横方向ナデ。内面から外面の一部と外底は明茶褐色，外は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼

成は良好。

以上は39号住居跡に伴うものである。

81は縄文後期初頭頃のものと考えられる。内面は条痕風の擦過，外面は斜方向に２条の沈線文を施し，口縁上端には沈線文と刺突文を施している。灰褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

40号住居跡出土土器（第62～68図）

１は黒色磨研壺である。復原口径は11.9cm，胴部最大径は24.2cmを測る。外面は横方向ミガキで頸部に一部斜方向の部分がみられる。頸部内面は横方向ミガキ，胴部内面はナデ，肩部内面には指頭圧痕が明瞭である。内面は灰褐色～灰黒色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

２は丹塗り磨研大形壺の口・頸部片である。復原口径は14cmを測る。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面はナデ風の横方向擦過。地は黄白色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

３は黒色磨研の小形壺の口頸部片である。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

４は丹塗り磨研壺の胴部片で，胴部最大径は12.9cmに復原できる。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。内面と外面の地は黄白色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

５は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色～黒褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

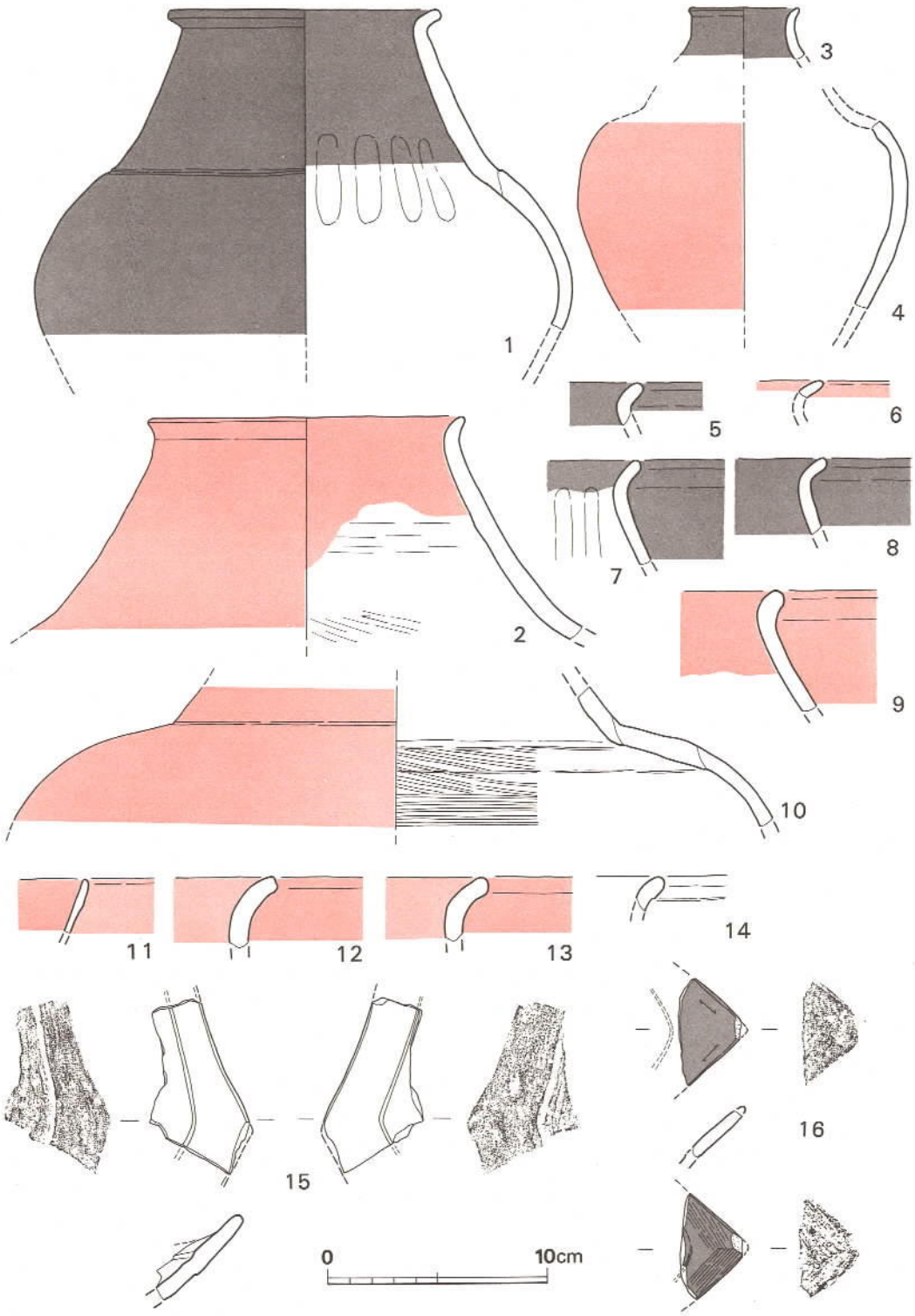
６は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は黄白色，丹は淡赤色を呈する。胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

７は黒塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ。頸部内面はナデ。内面は黒褐色，口縁内面から外面は黄褐色の地の上から黒色顔料を塗り，黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

８は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色～黒褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

９は丹塗り磨研壺の口・頸部片である。外面から口縁内面までは横方向ミガキ，頸部内面はナデ。地は淡黄色，丹は淡赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

10は丹塗り磨研大形壺の肩部片で，復原肩径は20.2cmを測る。外面は横方向ミガキ，頸部内面はナデ，胴部内面は横方向条痕。内面と外面の地は黄白色，丹はやや鮮やかな暗赤色を呈す



第 62 図　40 号 住 居 跡 出 土 土 器 1 （縮尺1/3）

る。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

11は丹塗り磨研埦の口縁片である。内面は斜方向ミガキ，口縁内面から外面は横方向ミガキ。地は淡黄色，丹はやや鮮やかな暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

12は丹塗り磨研深鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は黄白色，丹は淡赤色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

13は丹塗り磨研深鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面の丹は明淡赤色，外面の丹は暗赤褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

14は深鉢の口縁かと思われる。内外ともに風化のため調整法は不明。淡赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

15は方形浅鉢の口縁片である。内外ともにミガキ。内面は明赤褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

16は黒色磨研方形浅鉢の口縁片である。内面は丁寧なミガキ，外面は粗いミガキ。黒褐色を呈し，胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

17は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

18は黒色磨研浅鉢である。肩の上には1条の沈線をめぐらしている。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

19は浅鉢口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は淡茶色，外面は淡褐色を呈している。あるいは黒塗りかと思われる。胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

20は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

21は黒色磨研浅鉢又は高坏の破片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒褐色，外面は黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

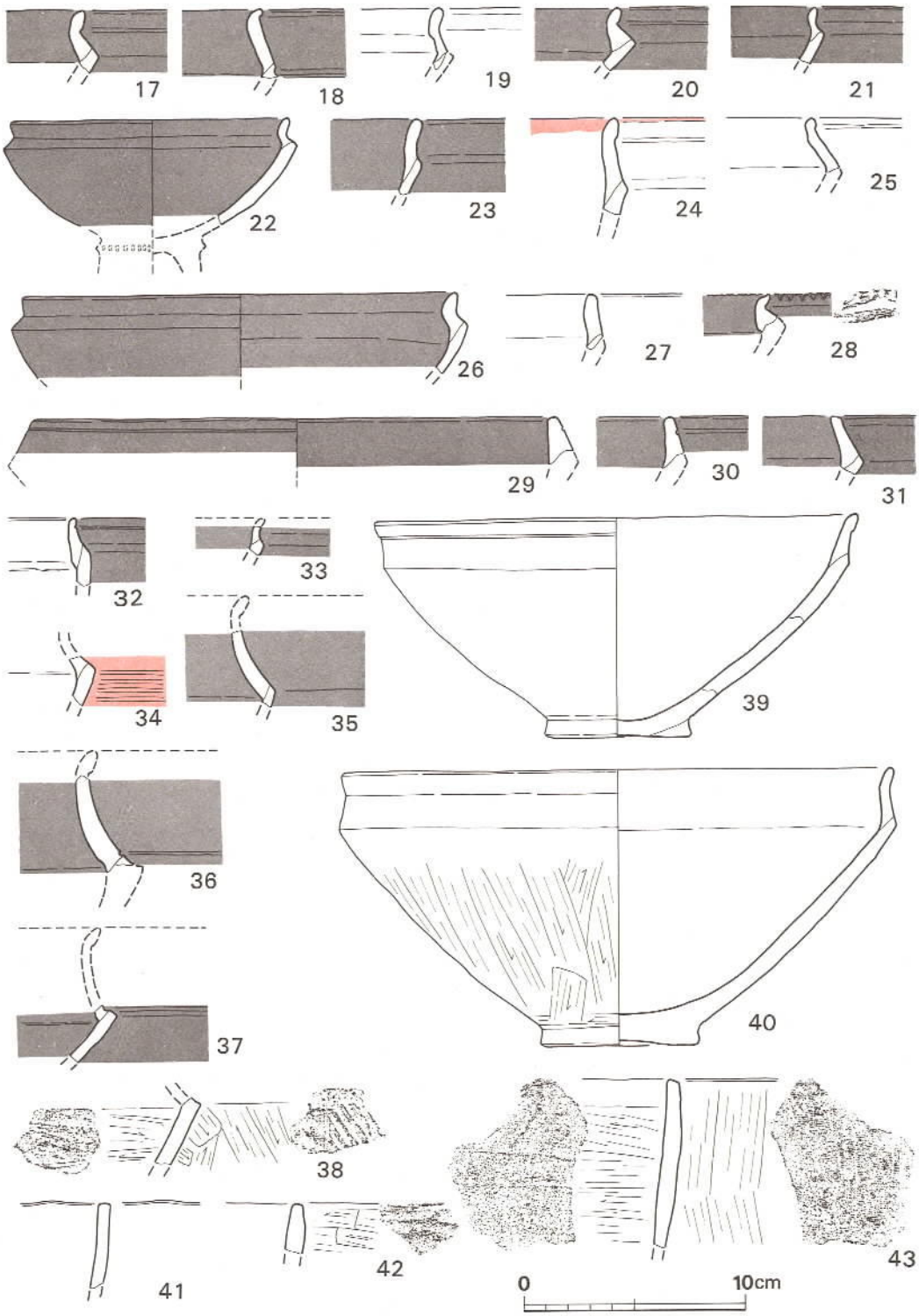
22は高坏である。復原口径は12.2cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

23は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

24は浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は灰黄色，外面は淡茶色を呈する。口縁内外には暗赤色の丹塗りが施されている。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

25は浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。明茶色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

26は黒色磨研浅鉢又は高坏で，復原口径は19.2cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 63 図　40 号住居跡出土土器 2（縮尺1/3）

27は浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。灰黄色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

28は黒色磨研浅鉢又は高坏の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

29は黒色磨研浅鉢の口縁片である。口縁には1条の沈線をめぐらしている。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

30は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

31は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

32は黒色磨研の浅鉢と思われる。口縁下には1条の沈線をめぐらしている。内外ともに横方向ミガキ。内面は茶褐色，外面は灰黒色～黒色。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

33は黒色磨研浅鉢又は高坏の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

34は丹塗り磨研浅鉢の肩部片である。内面と頸部は横方向ミガキ，体部外面は横方向条痕。内面は黄褐色，外の地は黄褐色，丹は淡赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

35は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。暗茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。頸は長く，古い要素を残しているといえる。

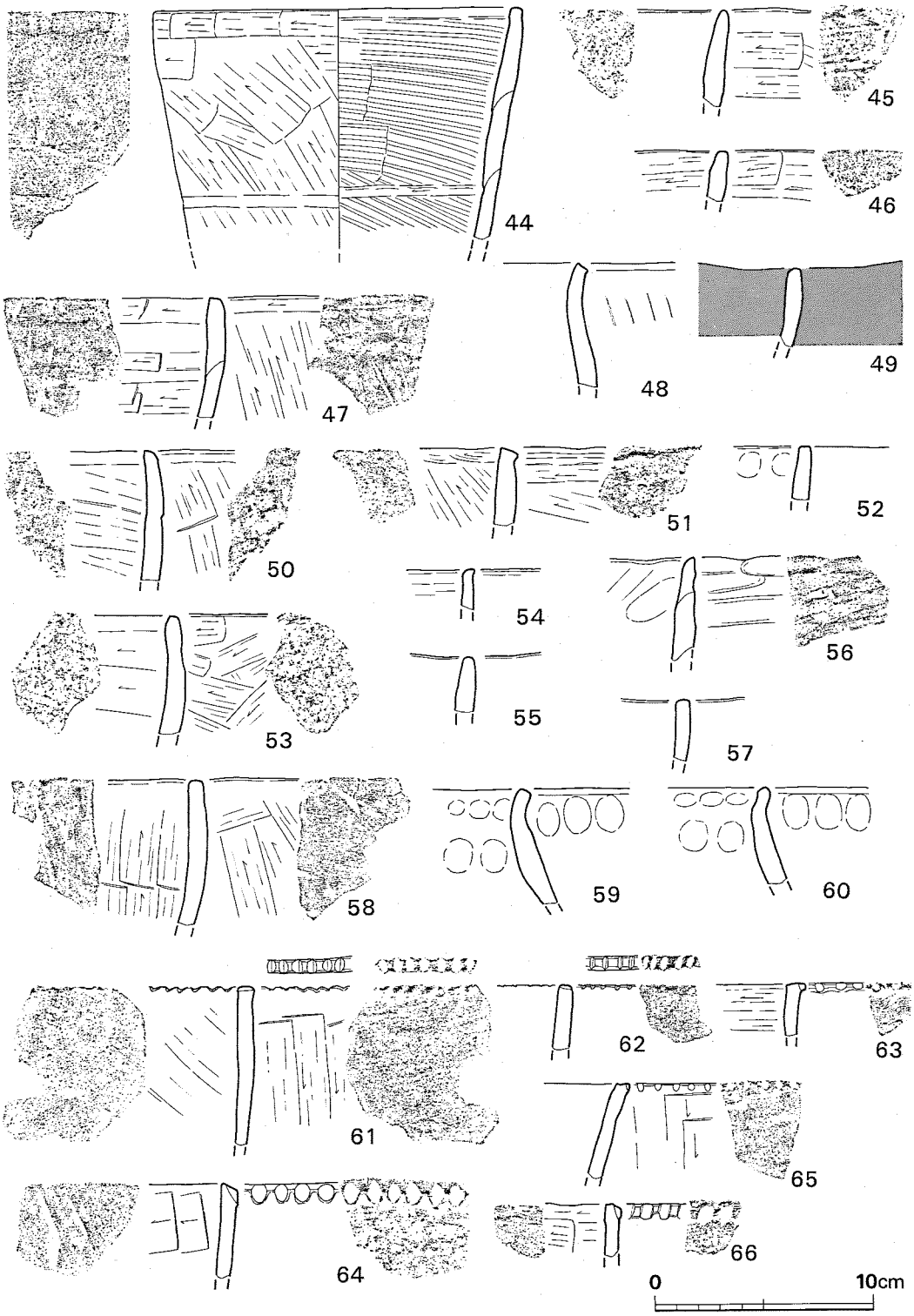
36は黒色磨研浅鉢片である。頸は長く，肩の上に1条の沈線をめぐらし，古い要素を残したものである。内外ともに横方向ミガキ。淡黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

37は黒色磨研浅鉢の肩部片である。肩は明瞭な段をつくり，肩の上には1条の沈線をめぐらした古い要素を残したものである。内外ともに横方向ミガキ。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

38は浅鉢の肩部片である。内面はミガキ風の横方向擦過。肩より上は横方向の擦過，肩より下は粗い斜方向の擦過。内面は黒色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

39は黒色磨研浅鉢である。器高は 9.9cm，口径は21.5cm，底径は 6.6cmを測る。内外ともに横方向ミガキ，外底は擦過。内面は明茶褐色，外面は茶褐色～黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

40は浅鉢である。器高は12.5cm，口径は24.6cm，底径は 7.1cm。内面から外面の肩の下までは横方向擦過，体部外面は縦方向擦過，底部外側は横方向擦過，外底はナデ。内底は黒褐色，内面から外面の上半は淡茶褐色，外面の下半は淡褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，



第 64 図　40 号 住 居 跡 出 土 土 器 3（縮尺1/3）

焼成は良好。

41は直立する甕の口縁片である。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は灰黄色，外面は暗褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

42は直立する甕の口縁片である。内面はナデ，外面は横方向擦過。内面は黒色，外面は黒～暗茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

43は直立する甕の口縁片である。内面から口縁下まではナデ風の横方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は灰褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

44は直立する甕で，復原口径は16.6cmである。内面は横方向の条痕であるが胴中央付近を沈線状に1条ナデ消している。口縁外面は横方向擦過，外面は斜方向擦過で，内面と同じく沈線状に1条ナデ消している。内面は淡茶褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

45は直立する甕の口縁片である。内面から口縁外面まではナデ，外面は横方向擦過ののちナデ。内面は黒色～淡赤桃色，外面は淡赤桃色を呈する。黒色部分は黒斑かとも思われる。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

46は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

47は直立する甕の口縁片である。内面はナデ風の擦過。口縁上端はヘラ切り，口縁外面は横方向擦過，外面は縦方向擦過。褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

48は直立する甕口縁である。口縁はわずかに外反ぎみで，胴部はすこしふくらむ。内外ともにナデ。内面は淡茶色，外面は灰褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

49は黒色磨研埦の口縁片である。口縁はかなり波状を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良。

50は直立する甕の口縁片である。内面から口縁外面までは横方向擦過，外面は縦方向擦過。内面は黒褐色，外面は淡赤桃色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

51は直立する甕の口縁片である。内面は斜方向擦過，口縁内面から外面は横方向擦過。内面は黒褐色，外面は黄桃色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

52は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデで，内面には指頭圧痕がみられる。内面は赤褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

53は直立する甕の口縁片である。内面はナデ風の横方向擦過，外面はナデ風の縦横の擦過。内面は暗黄褐色，外面は褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

54は直立する甕の口縁片である。内面は横方向擦過，外面はナデ。内面は黄褐色，外面は淡赤桃色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

55は直立する甕の口縁片である。口縁はわずかに波をうっている。内外ともにナデ。黄褐色を呈し，胎土には細粒の砂微量と金雲母片を含み，焼成は良好。

56は直立する甕の口縁である。内面はナデで指頭圧痕がみられ，外面は指頭によるナデで凹凸が明瞭である。内面は黄褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

57は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

58は直立する甕の口縁片である。口縁内外はヨコナデ，他は内外ともにナデ風の縦方向擦過。内面は淡茶色，外面は褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

59は肩で屈曲する甕の口縁片である。内外ともにナデで，口縁内外には指頭圧痕が明瞭である。黄白色を呈し，胎土には細粒の砂を少量含み，焼成は良好。

60は肩で屈曲する甕の口縁片である。内外ともにナデで，口縁内外には指頭圧痕が明瞭である。黄白色を呈し，胎土には細粒の砂を少量含み，焼成は良好。59と同一個体かと思われる。

61は直立する甕の口縁片である。口縁上端にはヘラによる刻目を施している。口縁内外はナデ風の横方向擦過，内面は斜方向の擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は淡茶色，外面は褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

62は直立する甕の口縁片である。口縁上端にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

63は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，外面はナデ。内面は赤褐色，外面は灰褐色の地の上から赤褐色の化粧土をかけている。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

64は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による大きな刻目を施している。内面は横方向擦過，外面は風化のため不明。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

65は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面はナデ，外面はナデ風の縦方向擦過。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

66は直立する甕の口縁片である。口縁には角のある棒状工具による刻目を施している。内面は横方向擦過，外面はナデ。黄褐色を呈し，胎土には砂粒を微量に含み，焼成は良好。

67は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面は斜方向擦過，口縁内面は横方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は淡赤褐色，外面は明茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

68は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面はナデ，口縁外面は横方向ナデ，外面はナデ。内面は淡赤褐色，外面は明茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

69は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる大きな刻目を施している。内外ともにナデ。淡赤褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

70は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともに粗いハケ目風の擦過（既にハケ目といってもよいが，若干明瞭さを欠く），口縁内面から上端はナデ。暗褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

71は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。内面は淡赤褐色，外面は淡褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

72は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。内面は淡褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

73は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，外面はハケ目。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

74は直立する甕の口縁片である。口縁はわずかに外反ぎみで，胴は少しふくらむ。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ風の横方向擦過。内面は淡茶色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

75は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。内面は淡茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

76は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。口縁内面から上端は横方向ナデ，内面は斜方向擦過，外面はナデ風の縦横の擦過。内面は淡茶色，外面は暗褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

77は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は淡茶色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

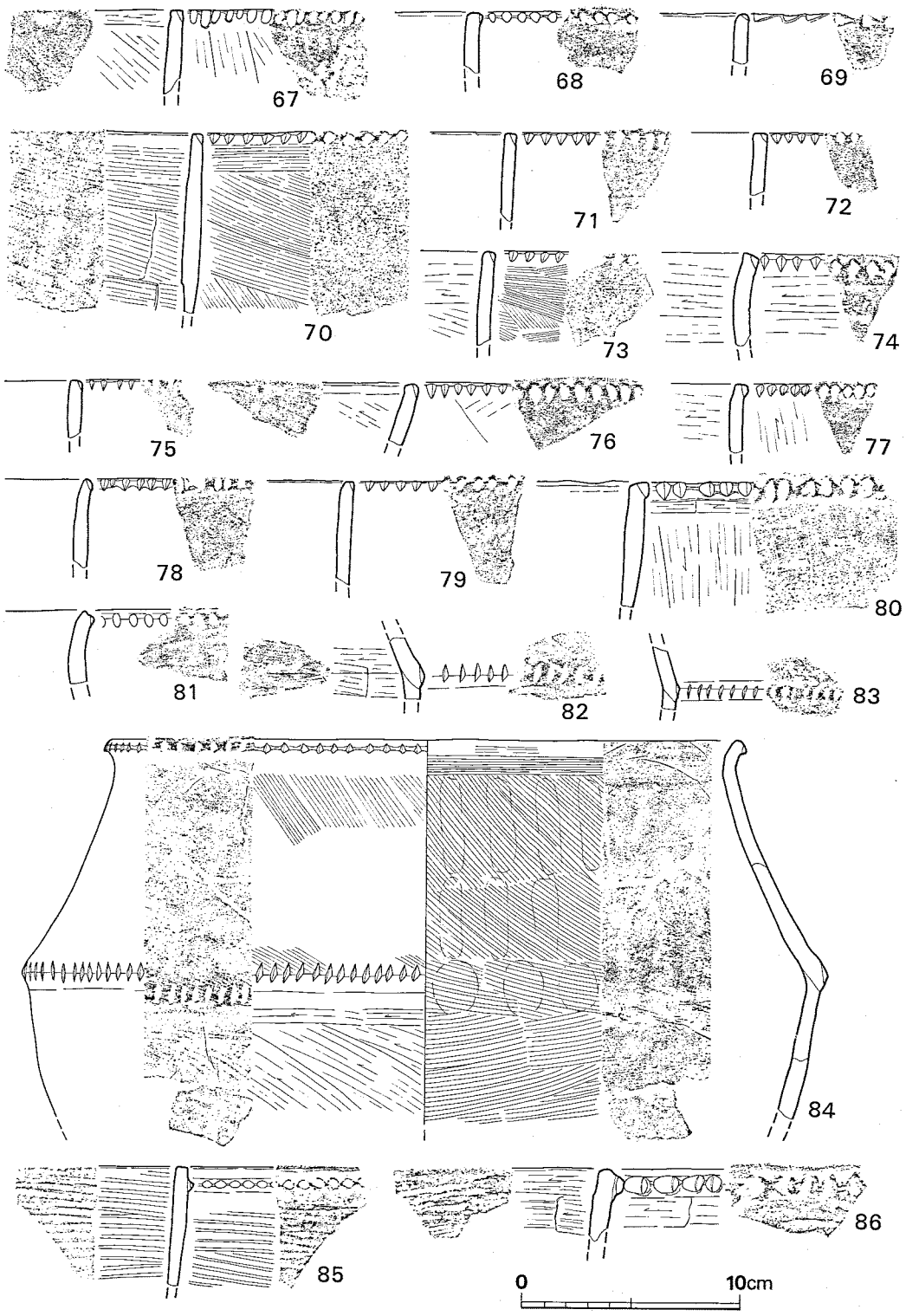
78は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。内面は黄褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

79は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともに丁寧なナデ。内面は淡褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

80は直立する甕の口縁片である。口縁外側に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面はナデ，口縁下は横方向擦過，外面は縦方向擦過。内面は淡茶褐色，外面は褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

81は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内外ともにナデ。内面は淡黄褐色，外面は淡褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

82は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩にはヘラによる刻目を施している。内面は横方向擦



第 65 図　40 号住居跡出土土器 4（縮尺1/3）

過，外面はナデ。内面は茶褐色，外面は暗黄褐色～褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

83は肩で屈曲する甕の口縁片である。肩には爪先刺突による刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黄褐色の地の上から淡赤褐色の化粧土をかける。外面は暗茶褐色。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

84は肩で屈曲する甕で，口縁は外反する。復原口径は28.4cm，肩部径は36.6cmを測る。口縁と肩にはヘラによる刻目を施している。内面は指頭圧痕ののちハケ目，口縁内面は横方向ハケ目ののちナデ，頸部外面は斜方向ハケ目ののちナデ，肩部下は横方向擦過，胴部外面は粗いハケ目風の斜方向擦過。内面は暗赤褐色～暗黄褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

85は直立する甕の口縁片である。口縁下５～11mm程の間に凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内面は横方向条痕，口縁から凸帯下まではヨコナデ，外面は横方向条痕ののちナデ。黒色を呈し，胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

86は直立する甕の口縁片である。口縁下３～15mm程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともに横方向擦過，口縁上端から凸帯の上半はナデ。内面は褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

87は直立する甕で，復原口径は29.0cmを測る。口縁下13～25mm程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面はナデ，口縁から凸帯の上まではナデ風の横方向擦過，外面は擦過。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

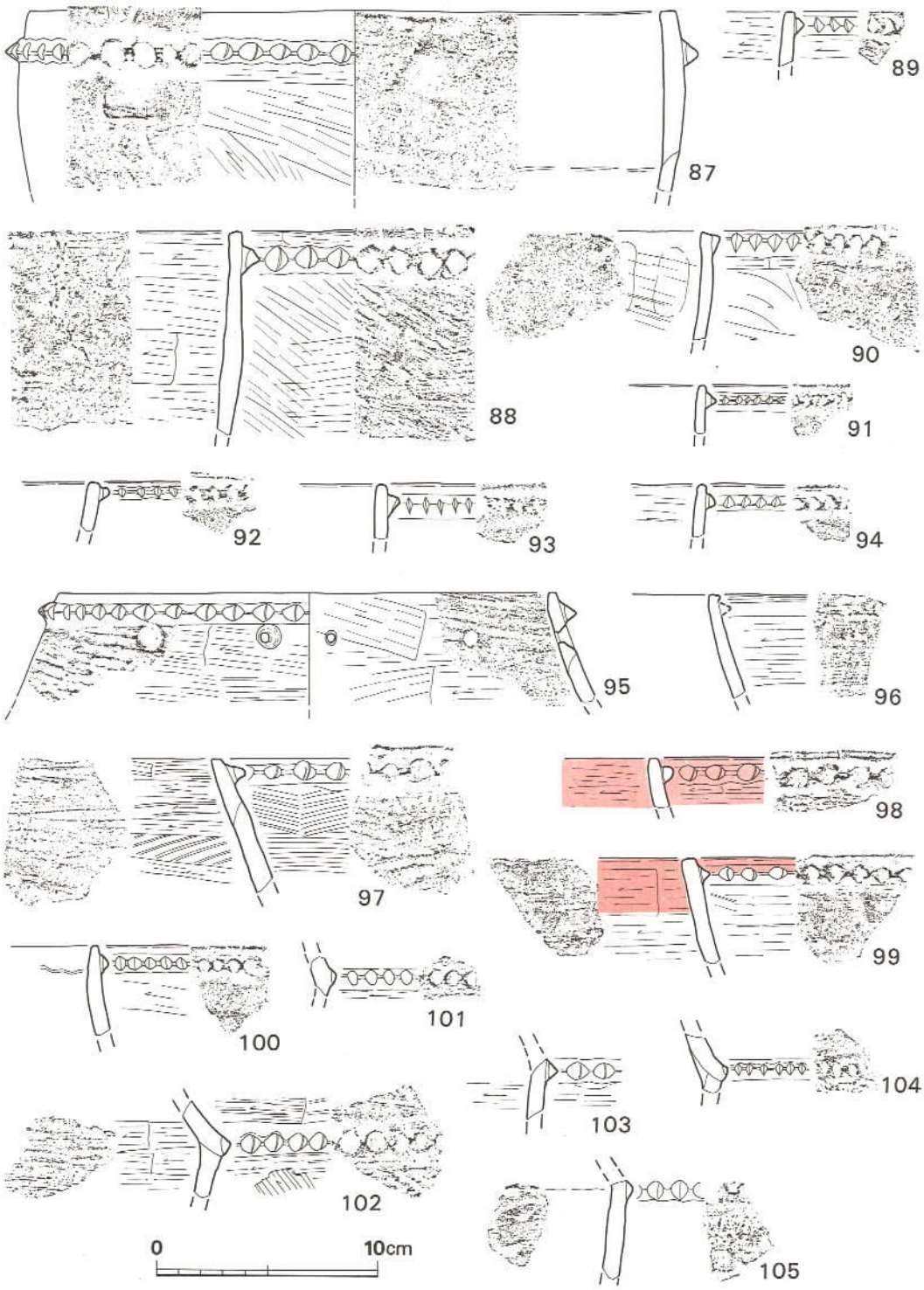
88は直立する甕である。口縁下７～20mm程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面から口縁外面は横方向擦過，外面は斜方向擦過。暗褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

89は直立する甕の口縁片である。口縁下３～11mm程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ風の横方向擦過。内面から凸帯の上までは黒褐色，外面は褐色を呈するが，凸帯下面は二次的火熱を受けて赤紫色に赤変している。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

90は直立する甕の口縁片である。口縁外側に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は擦過ののちナデ，外面はナデ風の擦過。内面は淡黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

91は直立する甕の口縁片である。口縁下３～11mm程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。内面は灰黄色，外面は淡赤褐色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

92は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，ヘラによ



第 66 図　40 号 住 居 跡 出 土 土 器 5（縮尺1/3）

る刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

93は直立する甕の口縁片である。口縁下５～16㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。内面から凸帯の上までは淡茶色，凸帯より下は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

94は直立する甕の口縁片である。口縁下４～11㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面から凸帯の上まではナデ風の横方向擦過，外面は風化のため不明。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

95は肩で屈曲する甕の口・頸部片で，復原口径は22.2㎝を測る。口縁下４～15㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は横方向擦過，口縁から凸帯部はナデ，頸部外面は粗い条痕風の横方向擦過。内面は暗黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。凸帯下に補修孔を穿っている。外径は11㎜，内径は４㎜を測る。

96は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下３～10㎜程の間に凸帯を貼付した痕跡がある。内面は横方向擦過ののちナデ，外面は横方向擦過。内面から凸帯下２㎝程までは黒色，それ以下は灰色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

97は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下３～12㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は条痕を横方向擦過でカキ消し，条痕と擦過が交互にみられる。口縁から凸帯部はナデ，頸部外面は条痕ののちナデ。内面は明茶色，外面の凸帯より上は黄褐色，凸帯より下は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

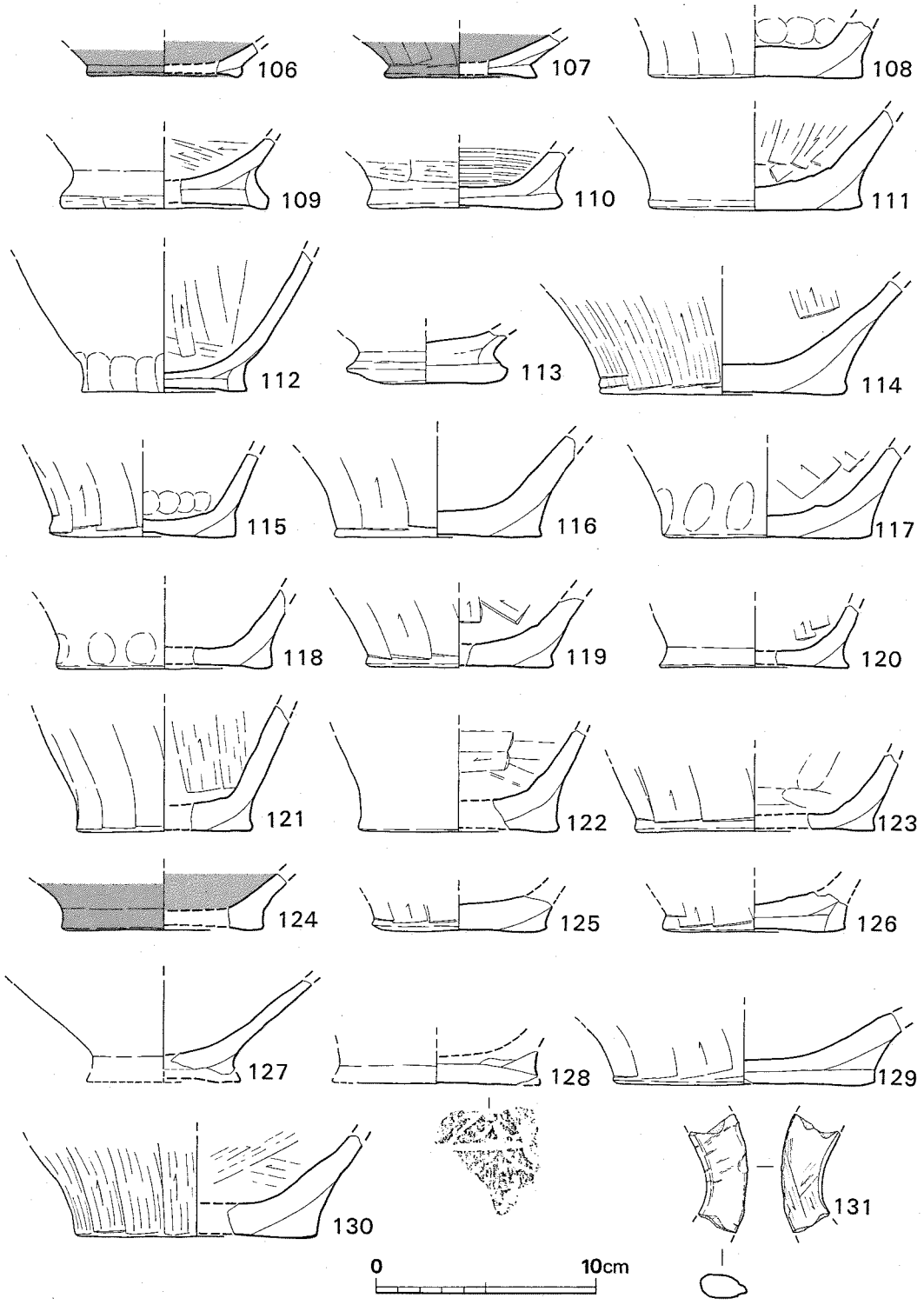
98は肩で屈曲する甕の口縁片である。凸帯下４～12㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面から凸帯まではナデ風の横方向擦過，外面は横方向擦過。暗褐色の地の上から淡赤色の丹塗りを施している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

99は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下３～12㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面は淡茶褐色，外面は茶褐色を呈するが，口縁内面から凸帯上半までは赤褐色の丹塗り（風の化粧土）を加えている。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

100は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下４～13㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。外面はナデ風の横方向擦過，内面は風化のため不明。黄白色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

101は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には棒状工具による刻目を施している。凸帯部はナデ，凸帯より下は横方向擦過，内面は風化のため不明。内面は黄白色，外面は淡赤褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

102は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には爪による大きな刻目を施している。内面は横方



第 67 図　40 号 住 居 跡 出 土 土 器 6（縮尺1/3）

向擦過，外面の肩より上はハケ目風の横方向擦過，肩の下は横方向擦過，胴部外面は斜方向の条痕。内面は明茶褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

103は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は横方向擦過，外面は横方向擦過ののちナデ。内面は淡赤褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

104は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。内面は明茶色，外面は黄褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

105は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内外ともにナデ。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

106は黒色磨研浅鉢の底部片で復原径は 7.1cmを測る。内外ともにミガキ。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

107は黒色磨研浅鉢の底部片で，復原径は6.8cmを測る。内面はミガキ，外面はミガキ風の擦過，外底はナデ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

108は復原径9.6cmの底部片である。内面はナデ，外面は縦方向擦過。内面は明黄褐色，外底は暗褐色を呈するが，外面から外底周縁は二次的火熱により赤褐色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

109は復原径9.4cmの底部片である。内面はミガキ風の擦過，外面は横方向擦過，底部外側はヨコナデおよび横方向擦過。外底は板木口によるカキトリ。内面は黒褐色，外面は淡褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

110は径8.7cmの底部である。内面は条痕，外面は擦過，底部外側から外底はナデ。内面は淡茶褐色，外面は暗黄褐色，外底は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

111は径9.6cmの底部である。内面は擦過，内底はナデ，外面は風化のため不明。内面は淡茶色，外面は黄褐色を呈するが，底部外側から外底周縁は二次的火熱を受けて赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

112は復原径7.4cmの壺底部片である。内面はミガキ風の擦過，外面は縦方向ミガキ。底部外側はヘラ切り，外底はミガキ。内面は黄褐色～淡黒褐色，外面は淡黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

113は径7.3cmの底部である。内外ともにナデ。淡赤褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

114は復原径11.1cmの底部片である。内面は擦過ののちナデ，外面は粗いハケ目風の縦方向擦過。外底は板木口によるカキトリ。内面は淡黄褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

115は径8.4cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は縦方向擦過。内面は赤褐色，外面

は暗褐色を呈するが，底部外側から外底周縁にかけては二次的火熱により赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

116は復原径9.3cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は縦方向擦過。赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

117は復原径9.4cmの底部片である。内面は擦過，外面はナデ。内面は黄白色，外面は赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

118は復原径9.8cmの底部片である。内外ともにナデ。内面は明茶色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

119は復原径8.4cmの底部片である。内面は擦過ののちナデ，外面は縦方向擦過，外底は擦過。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

120は復原径8.5cmの底部片である。内面は擦過ののちナデ。外底はナデ，外面は風化のため不明。内面は淡茶褐色，外面は褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

121は復原径8.0cmの底部片である。内外ともに縦方向の擦過。内面は黄褐色，外面は二次的火熱により赤褐色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

122は復原径9.0cmの底部片である。内面は擦過，外面は風化のため不明。内面は黄褐色～褐色，外面は明赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

123は復原径10.8cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は縦方向擦過。茶褐色を呈するが，底部外側から外底周縁にかけては二次的火熱により赤褐色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

124は黒色磨研浅鉢の底部片で，復原径は9.0cmを測る。外面はミガキ，内面は風化のため不明。淡黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

125は復原径7.8cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は縦方向擦過。淡茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

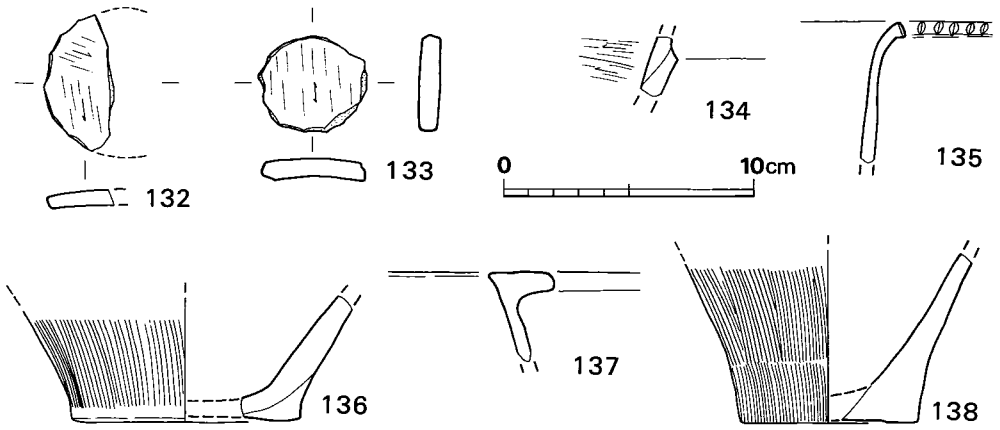
126は復原径8.2cmの底部片である。内外ともに擦過。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

127は浅鉢の底部である。復原径は７cm程のものである。内面はミガキ，外面は横方向ミガキ。淡茶色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

128は復原径9.3cm程の底部片である。外底には木葉痕がある。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

129は復原径11.8cmの底部片である。内面はナデ，外面は縦方向擦過。内面は黄褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

130は復原径11.0cmの底部片である。内外ともに擦過。内面は淡茶色，外面は淡黄赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 68 図　40 号 住 居 跡 出 土 土 器 7（縮尺1/3）

131は不明土製品である。底部周縁に貼付された粘土帯に似るが，断面の形態，調整等からこの粘土帯ではないと考える。一部擦過で，他はナデ調整。茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

132は土器片利用の円盤である。復原径は６cm程のものである。外面は擦過，内面はナデ。内面は淡黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

133は土器片利用の円盤である。径は3.8 ～ 4.1cm。外面はナデ風の擦過，内面はナデ。外面は黒褐色，内面は黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

以上は40号住居跡に伴うものである。

134は板付Ⅰ式の高坏肩部片である。内面は横方向擦過，頸部外面は横方向ミガキ，体部外面は擦過ののちナデ。内面は黒褐色，外面は黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

135は板付Ⅰ式甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は黒色，外面は赤褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は不良。

136は板付Ⅰ式甕の底部片である。径算出不能のため９cmで復原して図示した。内面はナデ，外面は粗いハケ目。内面は黒褐色，外面は淡赤褐色を呈するが，底部外側から外底周縁は二次的火熱により赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

137は逆Ｌ字状口縁の甕片である。口縁内外はヨコナデ，内面はナデ，外面は風化のため不明。黄褐色を呈する。口縁内面には淡赤色の丹塗りの痕跡がある。胎土には少量の砂粒を含み，焼

成は良好。弥生時代中期前半のものである。

138は径7.0cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面はハケ目。内面は黄褐色，外面は褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。弥生時代中期前半のものである。

41号住居跡出土土器（第69～71図）

1は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

2は丹塗り磨研壺の口縁片である。復原口径は12.6cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。内面の地は茶褐色，丹は淡赤色を呈する。胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

3は黒色磨研壺の口・頸部片である。外面から口縁内面までは横方向ミガキ，頸部下半はナデ。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

4は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

5は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

6は黒色磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面はナデ。内面は淡灰黒色，外面は灰黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

7は黒色磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面はナデ，内面は灰色，外面は黒色を呈し，いずれも銀びかりをしている。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

8は壺の口縁片である。内面はナデで指頭圧痕がみられる，外面は横方向ミガキ。内面は褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

9は壺の頸部片である。外面から口縁内面までは横方向ミガキ，頸部内面は横方向擦過。内面は淡茶色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

10は丹塗り磨研壺の胴部片である。内面はナデ，外面は縦方向ミガキ。内面は灰褐色，丹はやや鮮やかな淡赤色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

11は丹塗り磨研埦の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色の地の上から丹塗りを加えている。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

12は黒色磨研深鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は暗黒褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

13は黒色磨研方形浅鉢の口縁片である。口縁は内外ともに段をつくっている。内外ともにミガキ。黒褐色～黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

14は黒色磨研浅鉢の口縁片である。頸の長い古い要素を残したものと考える。内外ともに横方向ミガキ。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

15は黒色磨研浅鉢片である。内面から頸部外面までは横方向ミガキ。体部外面は横方向擦過。内面と頸部外面は黒色，体部外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

16は黒色磨研の高坏片と思われる。内外ともに横方向ミガキ。内面は黄褐色，外面は黒褐色～黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。板付Ⅰ式かとも考えられる。

17は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

18は黒色磨研の浅鉢又は高坏である。復原口径は17.8cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒褐色～黒色，外面は黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

19は黒色磨研浅鉢で，復原口径は20.8cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。内面は灰黒色～黒色。外面は黄白色の地の上に灰褐色の色がみられ，本来は黒塗りかと思われる。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

20は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

21は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

22は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

23は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

24は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。内面から口縁直下までは黒色，頸部付近は暗黄褐色を呈する。胎土には細粒の砂を少量含み，焼成は良好。

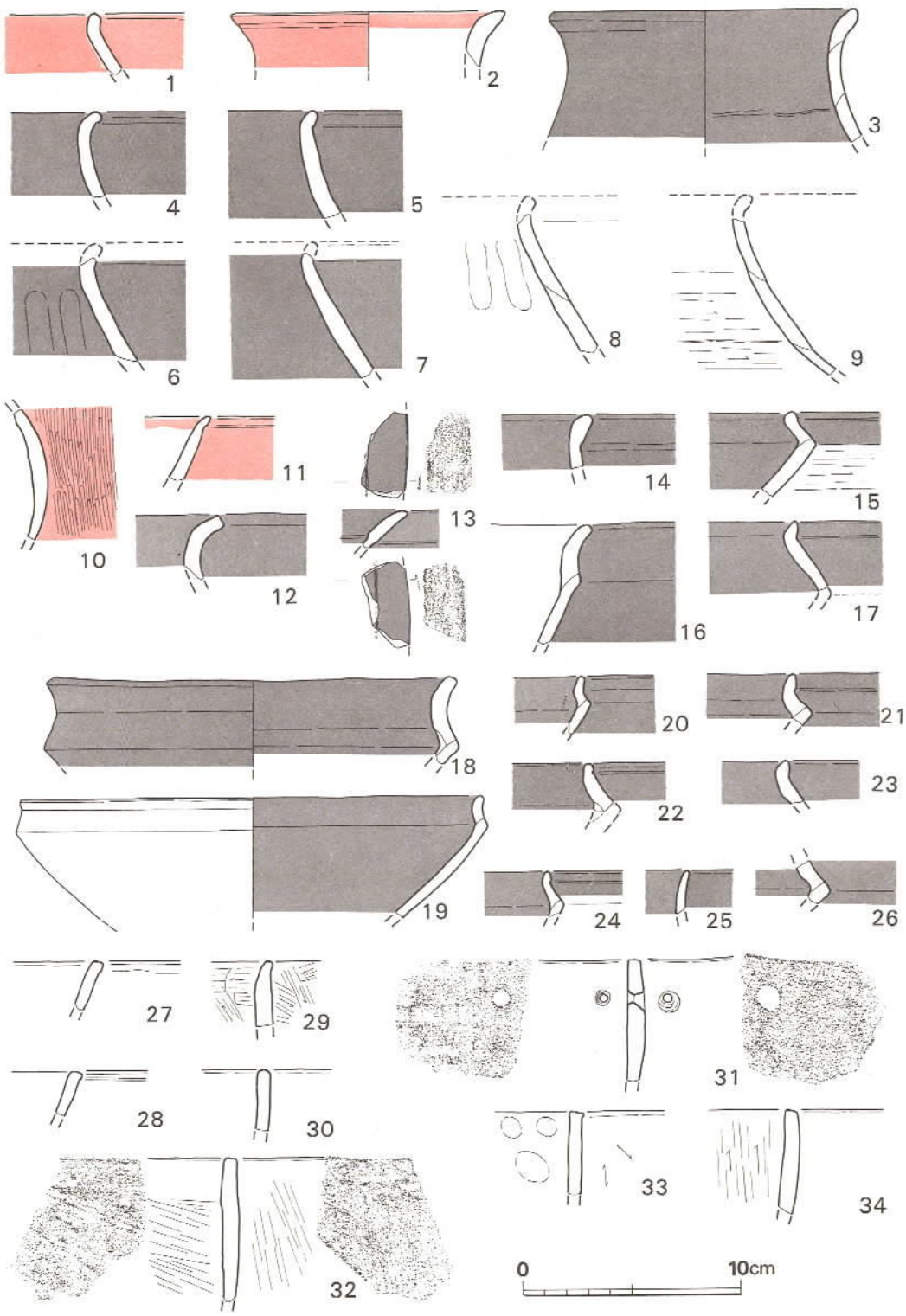
25は黒色磨研土器の口縁片であるが，器種を確定できない。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

26は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

27は鉢の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。暗黄褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

28は鉢の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。暗黄褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。27と同一個体の可能性もある。

29は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ風の擦過。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 69 図　41 号住居跡出土土器 1（縮尺1/3）

30は直立する甕の口縁片である。口縁内外はナデ。内面は明茶色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

31は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。口縁下に石庖丁穿孔具を用いて両面穿孔した補修孔がある。外側の外径は10mm，内側の外径は７mm，内径は４mmを測る。

32は直立する甕の口縁片である。内面は横方向擦過，口縁内面はその上からナデ。外面は縦方向擦過ののちナデ。内面は淡茶色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

33は直立する甕の口縁片である。内面はナデで指頭圧痕がみられる。外面は丁寧なナデ風の斜・縦方向の擦過。内面は淡茶色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

34は直立する甕の口縁片である。内面は縦方向擦過ののちナデ，口縁内外は横方向擦過ののちナデ，外面はナデ。内面は明茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

35は直立する甕の口縁片である。内面はナデ風の擦過，外面もナデ風の擦過。内面は淡茶色，外面は黄褐色を呈する。口縁上端から口縁外面には暗赤色の丹塗りを施している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

36は直立する甕の口縁片である。口縁はかなり波を打っている。内面から口縁外面までは横方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は暗黄褐色，外面は黒褐色および茶褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

37は直立する甕の口縁片である。口縁にはやや角のある棒状工具による刻目を施している。内外ともにナデ。外面から刻目までは淡黄褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

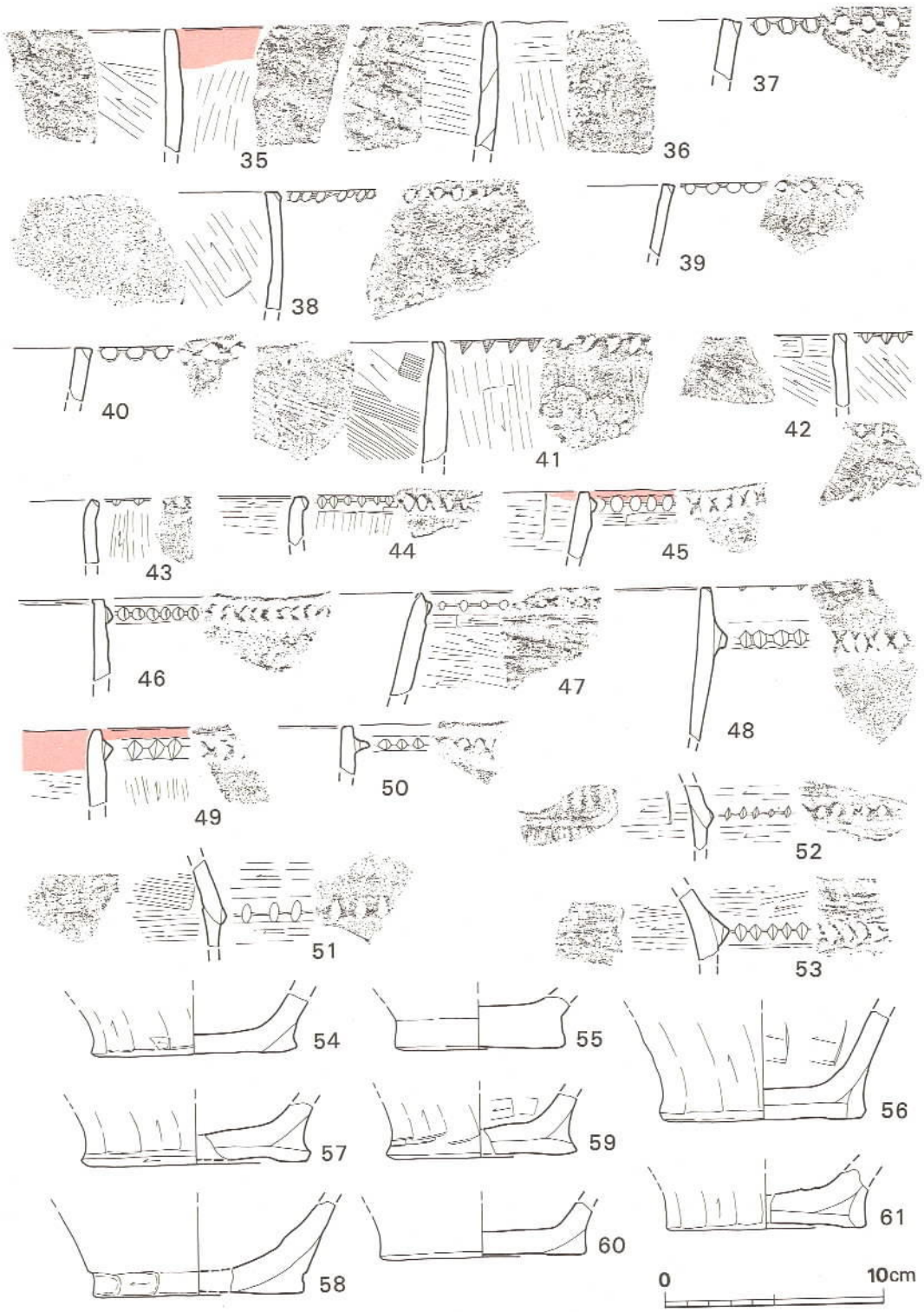
38は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面は斜方向擦過，外面はナデ。内面は暗黄褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

39は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内外ともにナデ。内面は暗黄褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

40は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面から刻目までは明黄褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

41は直立する甕の口縁片である。口縁には板木口による刻目を施している。内面は条痕，外面は縦方向擦過ののちナデ。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

42は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともに擦過。



第 70 図　41 号住居跡出土土器 2（縮尺1/3）

内面は黒色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

43は直立する甕の口縁片である。口縁は外反ぎみである。内面はナデ，外面は縦方向擦過。内面は黄白色の地の上に淡茶色の化粧土をかけている。外面は茶褐色を呈する。胎土には細粒の砂を少量含み，焼成は良好。

44は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，外面は縦方向擦過。内面は黒褐色，外面は黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

45は直立する甕の口縁片である。口縁下３～11㎜程の間に凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内面から凸帯下までは横方向擦過，外面は風化のため不明。内面は灰白色，外面は褐色を呈する。口縁内外には暗赤紫色の丹塗りを施している。胎土には少量の砂粒を含み焼成は良好。

46は直立する甕の口縁片である。口縁下４～11㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は横方向ナデ、口縁から凸帯上半まではナデ，凸帯より下は風化のため不明。内面は暗黄褐色～黒褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には石英・金雲母片・黒色粒子等をやや多く含み，焼成は良好。

47は直立する甕の口縁片である。口縁下４～11㎜程の間に凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内面から凸帯上半まではナデ，凸帯下は横方向擦過。内面は淡黄褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

48は直立する甕の口縁片である。口縁下12～34㎜程の間に凸帯を貼付し，口縁と凸帯にヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。内面から凸帯の上までは黄白色の地の上から淡茶色の化粧土をかけている。凸帯より下は淡褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

49は直立する甕の口縁片である。口縁下４～15㎜の間に凸帯を貼付し，ヘラによる大きな刻目を施している。口縁内外は横方向ナデ。内面は横方向擦過，外面は縦方向擦過。黄白色を呈するが，口縁内面から凸帯の上までは暗赤色の丹塗りを施している。胎土には細粒の砂を微量含み，焼成は良好。

50は直立する甕の口縁片である。口縁下５～13㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。内面は黒褐色～黒色，外面は淡黄褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

51は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には棒状工具による刻目を施している。内面はハケ目風の横方向擦過。外面は横方向擦過。内面は暗赤色，外面は褐色～暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

52は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩にはヘラによる刻目を施している。内外ともに横方

向擦過。明茶色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

53は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面は黒色，外面は淡黄色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

54は径9.0×9.4cmでやや扁円形を呈する底部である。内外ともに擦過，外底はナデ。内面は黄褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

55は径7.0×7.9cmでやや扁円形を呈する底部である。内面は擦過，外面はナデ。内面は淡茶褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

56は径9.3cmの底部片である。内外ともに擦過，外底はナデ。内面は黄褐色，外面は淡茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

57は復原径10.3cmの底部片である。内面はナデ，外面は縦方向擦過，底部外側は削り風の横方向擦過，外底は擦過。内面は淡黄褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

58は復原径9.4cmの底部片である。内面と外底はナデ。底部外側は板木口による横方向の擦過。外面は風化のため不明。内面は黄白色，外面は黄褐色を呈するが，二次的火熱により赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

59は復原径8.6cmの底部片である。内外ともに擦過。内面は暗黄褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

60は復原径9.4cmの底部片である。内外ともにナデ。内面は黄白色，外面は茶褐色，外底は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

61は径算出不能なので9cmで復原して図示した。内外ともに擦過。内面は黄褐色，外面は赤褐色を呈する。外面は二次的火熱を受けて赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

62は復原径9.6cmの底部片である。内面はハケ目風の擦過，外面は細かいハケ目，底部外側から外底はナデ。内面は茶褐色，外面は淡褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

63は黒色磨研壺の底部片で，復原径は8.0cm。内面は擦過，外面は横方向ミガキ，外底はミガキ。底部外側から外底周縁は二次的火熱により，赤褐色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

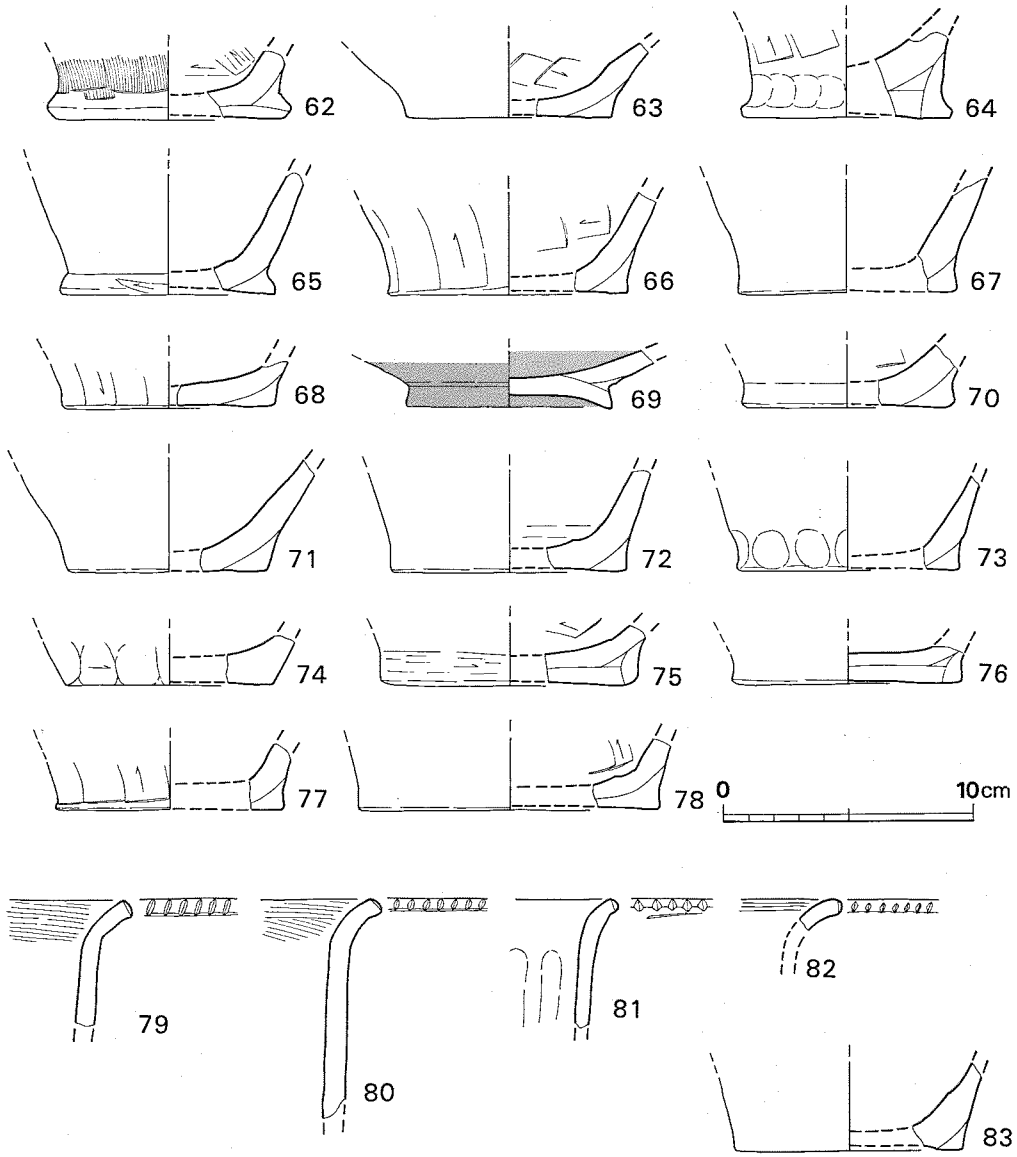
64は復原径8.3cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は縦方向擦過，底部外側は指頭圧痕がみられる。内面は明茶色，外面は黄褐色を呈するが一部二次的火熱を受けて赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

65は復原径8.4cmの底部片である。内外ともにナデ。淡茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を

含み，焼成は良好。

66は復原径9.4cmの底部片である。内外ともに擦過，外底はナデ。内面は淡茶褐色，外面は黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

67は復原径8.6cmの底部片である。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は暗茶褐色，外面は黒褐色を呈するが，二次的火熱により赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は



第 71 図　41 号 住 居 跡 出 土 土 器 3（縮尺1/3）

良好。

68は復原径8.4cmの底部片である。内外ともに擦過,外底はナデ。内面は黄褐色，外面は黒褐色，外底は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

69は黒色磨研浅鉢の底部片で復原径は8.0cm。内面はミガキ,外面は横方向ミガキ，外底は板木口によるカキトリ。内面は淡褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

70は復原径8.4cmの底部片である。内面は擦過,外面はナデと思われる。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

71は径算出不能なので 8.0cmで復原して図示した。内外ともに風化のため不明。内面は黄褐色，外面は淡茶色。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

72は復原径9.3cmの底部片である。内面はナデ,外面は風化のため不明。内面は茶色，外面は暗赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

73は復原径8.8cmの底部片である。外面はナデ,底部外側には指頭圧痕がみられる。内面は黒褐色，外面は淡茶色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

74は復原径8.2cmの底部片である。内面と外底はナデ,底部外側は削り風の横方向擦過。淡茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

75は復原径10.1cmの底部片である。内外ともに擦過，外底はナデ。内面は淡黄白色,外面は赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

76は復原径9.1cmの底部片である。内面と外底はナデ,外面は風化のため不明。内外ともに黄褐色，外底は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

77は径算出不能なので 9.0cmで復原して図示した。内面と外底はナデ，外面は縦方向擦過。内面は赤褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

78は復原径11.8cmの底部片である。内面は擦過，外底はナデ，外面は風化のため不明。内面は淡茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

以上は16だけが疑問が残るが，41号住居跡に伴うものである。

79は板付Ⅰ式甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。口縁内面は横方向の粗いハケ目であるが，他は内外ともにナデ。内面は灰黄色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

80はW－1区の41号住居跡上面から出土した板付Ⅰ式甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。口縁内面は横方向の粗いハケ目であるが，他は内外ともにナデ。内面は暗黄褐色～黒褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

81はW－1区の41号住居跡上面から出土した板付Ⅰ式甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面はハケ目ののちナデ。内面は黄褐色，外面は暗褐色を

呈する。胎土には細粒の砂少量を含み，焼成は良好。

82はW－1区の41号住居跡上面から出土した板付Ⅰ式甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は横方向の粗いハケ目，外面はナデ。内面は褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

83は径算出不能なので 9.0cmで復原して図示した。内外ともにナデ。内面は褐色，外面は黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。板付Ⅰ式と考える。

42号住居跡出土土器（第72・73図）

1は丹塗り磨研壺の頸・肩部片である。肩の復原径は10.0cm。内面はナデ，外面は縦方向ミガキ。内面は黄白色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

2は黒色磨研壺の口縁片である。復原口径は 9.4cmを測る。頸部内面はミガキ，口縁内面から外面は横方向ミガキ。やや輝きぎみの黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

3は丹塗り磨研壺の肩部片である。胴部内面は横方向擦過，頸部内面はナデ，外面は縦方向ミガキ。内面は灰黄色，外面の地は淡黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

4は壺の肩部片である。胴部内面は横方向条痕，頸部内面は横方向擦過，外面は横方向ミガキ。内面は淡黄褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

5は深鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は茶褐色，外面は明赤褐色を呈し丹塗り様である。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

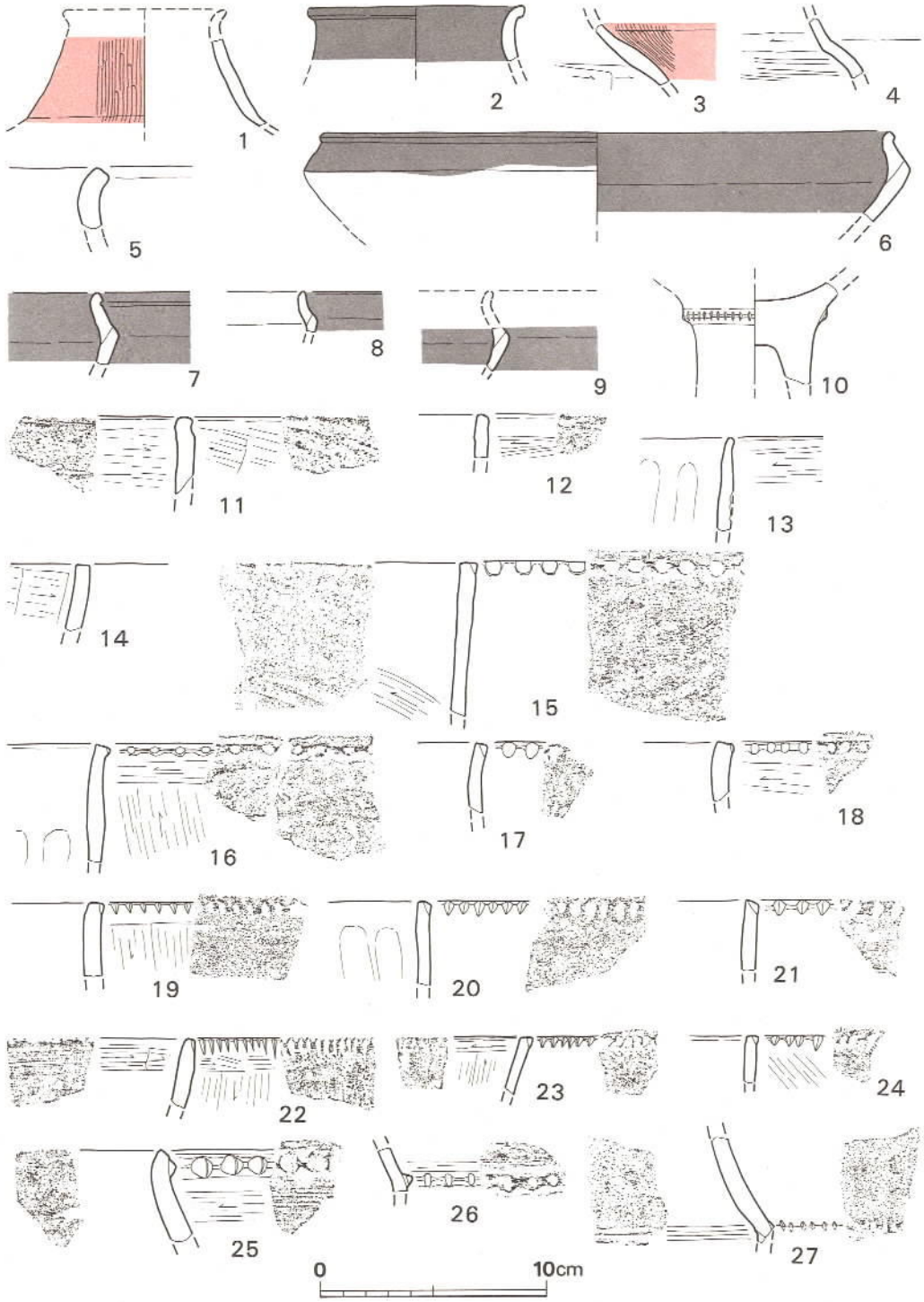
6は黒色磨研浅鉢で，復原口径は24.8cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。内面から肩部までは黒色を呈するが，体部外面は灰黄色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

7は黒色磨研浅鉢片である。口縁には1条の沈線をめぐらす。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

8は黒塗り磨研浅鉢片である。外面は横方向ミガキ，内面は風化のため器表が剝落して不明。茶褐色の地の上から黒色顔料を塗っている。内面は剝落しているが内面にも塗っていたものと思われる。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

9は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

10は高坏脚片である。坏・脚部の間には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。凸帯部の径は 6.4cmを測る。内面はミガキ，坏部外面は横方向ミガキ，脚部外面は縦方向ミガキ，脚部内面はナデ。明茶褐色を呈するが，一部に暗茶褐色を呈する塗ったような部分がある。本



第 72 図　42 号 住 居 跡 出 土 土 器 1（縮尺1/3）

来は黒塗りを施したものかもしれない。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

11は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

12は直立する甕の口縁片である。内面から口縁外面は横方向ナデ，外面は横方向擦過。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

13は直立する甕の口縁片である。内面はナデ，外面はナデ風の横方向擦過。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

14は直立する甕の口縁片である。内面は横方向擦過，外面はナデ。内面は茶褐色，外面は淡茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

15は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による大きな刻目を施している。内面は擦過ののちナデ，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は淡茶色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

16は直立する甕の口縁片である。口縁はわずかに外反ぎみである。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面はナデ，外面はナデ風の擦過。内面は黒褐色，外面は茶褐色～黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

17は直立する甕の口縁片である。口縁はわずかに外反ぎみである。口縁には棒状工具による大きな刻目を施している。内外ともにナデ。暗褐色を呈し，胎土には 少量の砂粒を含み，焼成は良好。

18は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面はナデ，外面はナデ風の擦過。黒褐色を呈し，胎土には細粒の砂を微量と金雲母片を含み，焼成は良好。

19は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面は縦方向擦過。内面は赤褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

20は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。内面は赤褐色，外面は褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

21は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。内面は淡褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

22は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，口縁内面はハケ目風の横方向擦過，外面は擦過。内面は褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

23は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ風の擦過，外面はナデ。内面は暗茶褐色，外面は黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

24は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ,外面は斜方向擦過。内面は褐色,外面は暗褐色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み,焼成は良好。

25は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し,爪による大きな刻目を施している。内面から凸帯下まではナデ,外面は条痕風の横方向擦過。内面は黒色,外面は黒色～暗黄褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み,焼成は良好。

26は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し,棒状工具による刻目を施している。頸部外面はナデ,凸帯上部は横方向擦過,内面は風化のため不明。内面は黄褐色,外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み,焼成は良好。

27は肩で屈曲する甕の頸・肩部片である。肩にはヘラによる刻目を施している。胴部内面は横方向条痕,頸部は内外ともにナデ。胴部内面は黒褐色,頸部内面は赤褐色,頸部外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み,焼成は良好。

28は肩で屈曲する甕の頸・胴部片で,肩の復原径は32.2cmを測る。肩にはヘラによる刻目を施している。肩部内面は指頭圧痕,胴部内面は横方向擦過ののちナデ,頸部内面は横方向擦過,頸部外面は横方向擦過ののちナデ,肩部直下は横方向擦過,胴部外面は縦方向擦過。内面は茶褐色～暗褐色,頸部外面は茶褐色,胴部外面は濃茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み,焼成は良好。

29は径11.4cmの底部片である。内外ともに擦過,外底はナデ。外面の擦過工具の幅は約12mm。内面は淡黄褐色,外面は茶褐色～暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み,焼成は良好。

30は復原径 9.0cmの底部片である。内外ともに擦過,外底はナデ。内面は赤褐色,外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み,焼成は良好。

31は復原径 6.9cmの底部片である。内面と外底はナデ,底部外側は風化のため不明。暗赤褐色を呈し,胎土には少量の砂粒を含み,焼成は良好。

32は復原径 7.8cmの底部片である。外底はナデ,他は風化のため不明。内面は淡赤褐色,外面は黒褐色,外底は淡赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み,焼成は良。

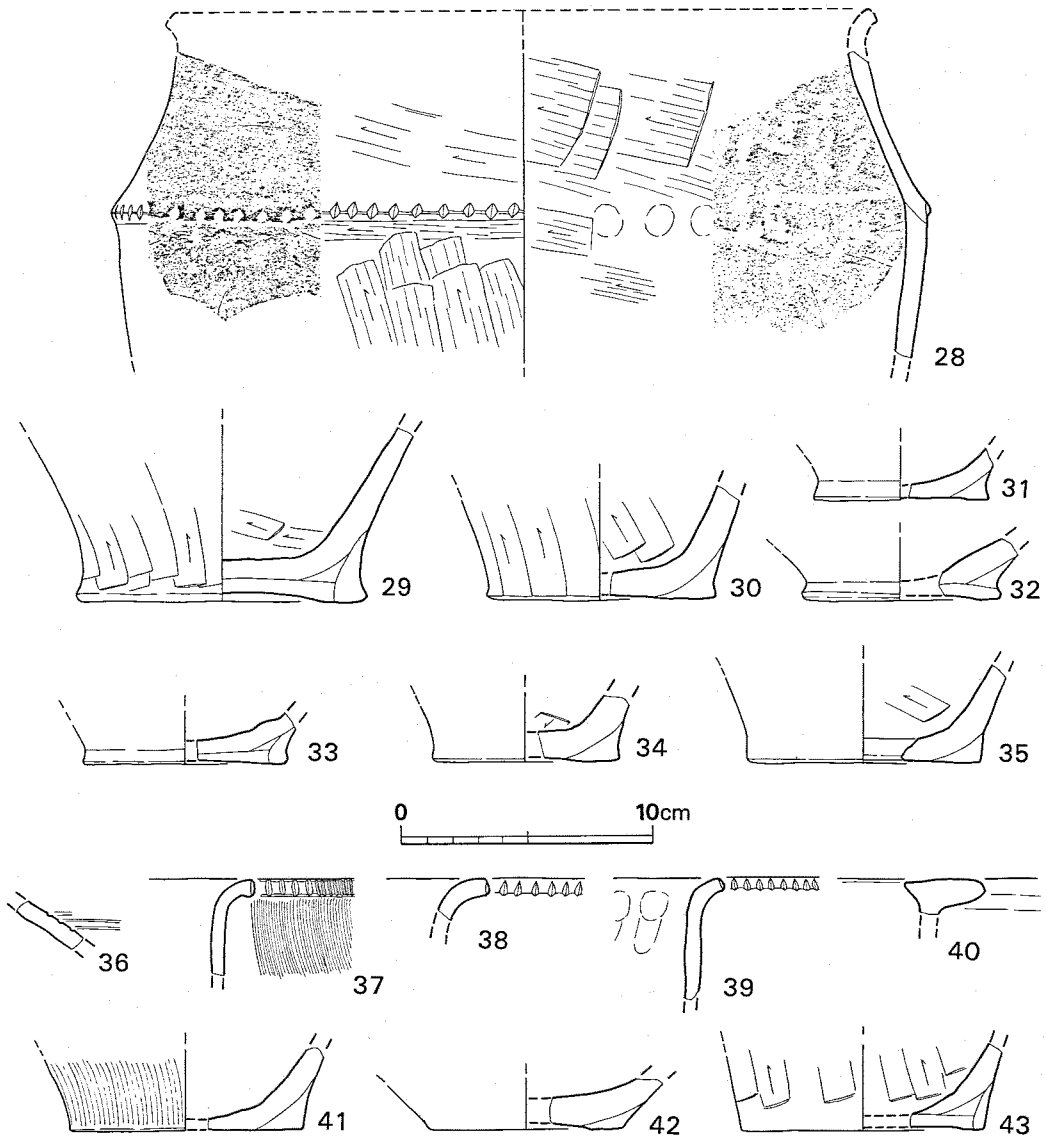
33は復原径 8.0cmの底部片である。内面は擦過,外底はナデ,底部外側は風化のため不明。内面は黄褐色,外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み,焼成は良好。

34は復原径 7.3cmの底部片である。内面は擦過ののちナデ,外面はナデ。暗黄褐色を呈し,胎土には少量の砂粒を含み,焼成は良好。

35は甑の底部で復原径は 9.2cmである。外から内へ穿孔している。内面は擦過,外底はナデ,外面は風化のため不明。内面は淡赤褐色,外面は暗赤褐色,外底は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み,焼成は良好。

以上は42号住居跡に伴うものである。

36は板付Ⅰ式壺の肩部片である。3条の沈線をめぐらしている。内面はナデ,外面はミガキ



第 73 図　42 号 住 居 跡 出 土 土 器 2（縮尺1/3）

内面は黄白色，外面は淡黄褐色と黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

37は42号住居跡上面出土の板付Ⅰ式甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面は細かいハケ目。内面は黄褐色，外面は褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

38は42号住居跡上面から出土した板付Ⅰ式甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施

している。内外ともにナデ。内面は黄褐色～褐色の地の上から暗赤色の丹塗り，外面は褐色～黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

39は42号住居跡上面から出土した板付Ⅰ式甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。内面は褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

40はT字状口縁を呈する弥生中期の甕口縁片である。内外ともにヨコナデ。淡赤褐色を呈し胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

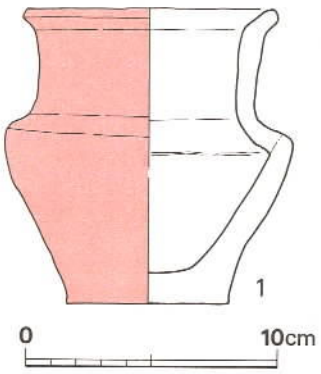
41は復原径 9.2cmの底部片である。内面と外底はナデ。外面は粗いハケ目。内面は黒褐色，外面は明茶褐色を呈するが，底部外側から外底周縁にかけては二次的火熱により赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。板付Ⅰ式に比定される。

42は板付Ⅰ式の鉢の底部片と思われる。復原口径は 7.6cmを測る。内面と外底はナデ，外面は擦過ののちナデ。黄白色を呈するが，底部外側から外底にかけては黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

43は板付Ⅰ式の底部と思われる。復原径は 9.6cmを測る。内外ともに擦過ののちナデ。外底はナデ。内面は褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

1号支石墓棺外副葬小壺（第74図）

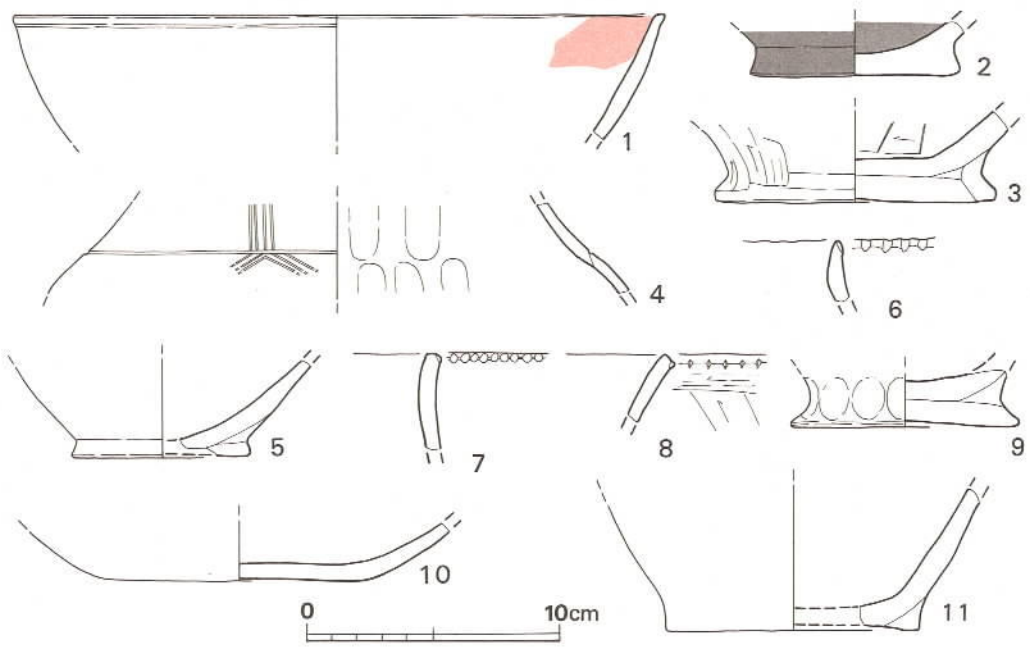
丹塗り磨研の小壺である。器高11.8cm，口径 9.7cm，肩部径 9.1cm，胴部最大径は肩部近くにあり11.3cmを測る。底径は 6.4cm。外面の口縁から胴部上半は横方向ミガキ。胴部下半は縦方向ミガキ。内面は風化のため不明。胴部には大きな黒斑がある。棺外副葬であり，当初は外気にさらされていたためであろうか風化がいちじるしく，丹塗りは痕跡的であるが，外面の全体に施されていたことは確実である。地は淡黄褐色，丹は暗紅色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。



第 74 図　1号支石墓棺外副葬小壺（縮尺1/3）

支石墓・甕棺墓墓壙内出土土器（第75図）

1は1号支石墓墓壙内出土の埦である。復原径は25.6cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。暗黄褐色を呈するが，内面の一部に丹塗りの痕跡が残り，本来は丹塗り磨研であったことがわかる。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 75 図　支石墓・甕棺墓墓壙内出土土器（縮尺1/3）

2は1号支石墓墓壙内出土の黒色磨研浅鉢の底部で，径は 8.2cmを測る。内面はミガキ，外面は横方向ミガキ。外底は擦過。黒色を呈するが外底は茶褐色である。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

3は1号支石墓墓壙内から出土した底部片で，復原径は11cmを測る。内面は擦過ののちナデ外面は縦・横の擦過，外底は擦過。内面と外底は茶褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

1～3は棺外副葬小壺とほぼ同時期のものである。

4は4号甕棺墓墓壙内から出土した黒色磨研壺の頸・肩部片で，肩の復原径は20.0cmを測る。頸にはヘラ施文の4条の縦沈線・肩には1条の沈線をめぐらす。又肩には3条の複線山形文を施文している。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。内面は褐色，外面は黒色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

5は4号甕棺墓墓壙内から出土した壺底部片で，復原径は 7.0cmを測る。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は暗褐色，外面は淡褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

4・5はいずれも夜臼期のものであるが，4の頸・肩部の沈線，複線山形文など住居跡等より出土したものに比して新しい段階のものである。

6は6号甕棺墓墓壙内より出土した肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁には棒状工具によ

る刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は灰黒色，外面は茶褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は不良。

6号甕棺墓は15号・16号・21号住居跡等と切り合っているが，15号住居跡の土器が混入した可能性が最も大きい。

7は7号甕棺墓墓壙内出土の甕口縁片である。直立する甕で,口縁はわずかに外反ぎみ,胴は少しふくらむものである。口縁には棒状工具による刻目を施している。内外ともにナデ。茶褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

8は7号甕棺墓墓壙内より出土した鉢の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面は擦過。赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

9は7号甕棺墓墓壙内より出土した底部片で，復原径は 9.0cmを測る。内外ともにナデで，底部外側には指頭圧痕がみられる。外底は擦過。暗黄褐色を呈し，胎土には細粒の砂少量を含み，焼成は良好。

10は7号甕棺墓墓壙内から出土した丹塗り磨研壺底部である。丸底を呈し，復原径は10cmを測る。内面と外底はナデ，外面は斜方向ミガキ。内面は淡黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒と赤色粒子を含み，焼成は良好。

7号甕棺墓は11号，14号住居跡と切り合っており，これらの土器はこの両者の住居跡からの混入であることは確実であり，いずれかというと11号住居跡に伴う可能性がつよい。

11は11号甕棺墓墓壙内から出土した底部片で，復原径は10.0cmを測る。内外ともにナデ。暗茶色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。夜臼期のものである。

3）包含層出土の土器・土製品

黒色包含層出土土器（第76・77図）

1は黒色磨研大形壺の口･頸部片である。復原口径は22.0cmを測る。外面から口縁内面は横方向ミガキ。頸部内面はナデ。地は淡黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

2は丹塗り磨研深鉢の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面はナデ。暗褐色の地に暗赤色の丹塗りを施している。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

3は黒色磨研浅鉢又は高坏である。復原口径は19.0cm。内外ともに横方向ミガキ。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

4は黒色磨研浅鉢又は高坏である。復原口径は21.6cm。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈するが，口・頸部にはさらに丹塗りを加えている。丹は暗赤色。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

5は鉢で，復原口径は26.2cmを測る。内面はナデ，外面は横方向のヘラナデ。内面は暗茶褐色，外面は暗茶褐色～褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

6は鉢で，復原口径は24.4cmを測る。内面はナデ，外面は横方向の粗いミガキ。内面は茶褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

7は直立する甕で，復原口径は26.8cmを測る。内面から口縁外面までは横方向擦過，外面は斜方向擦過。暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒と金雲母片を含み，焼成は良好。

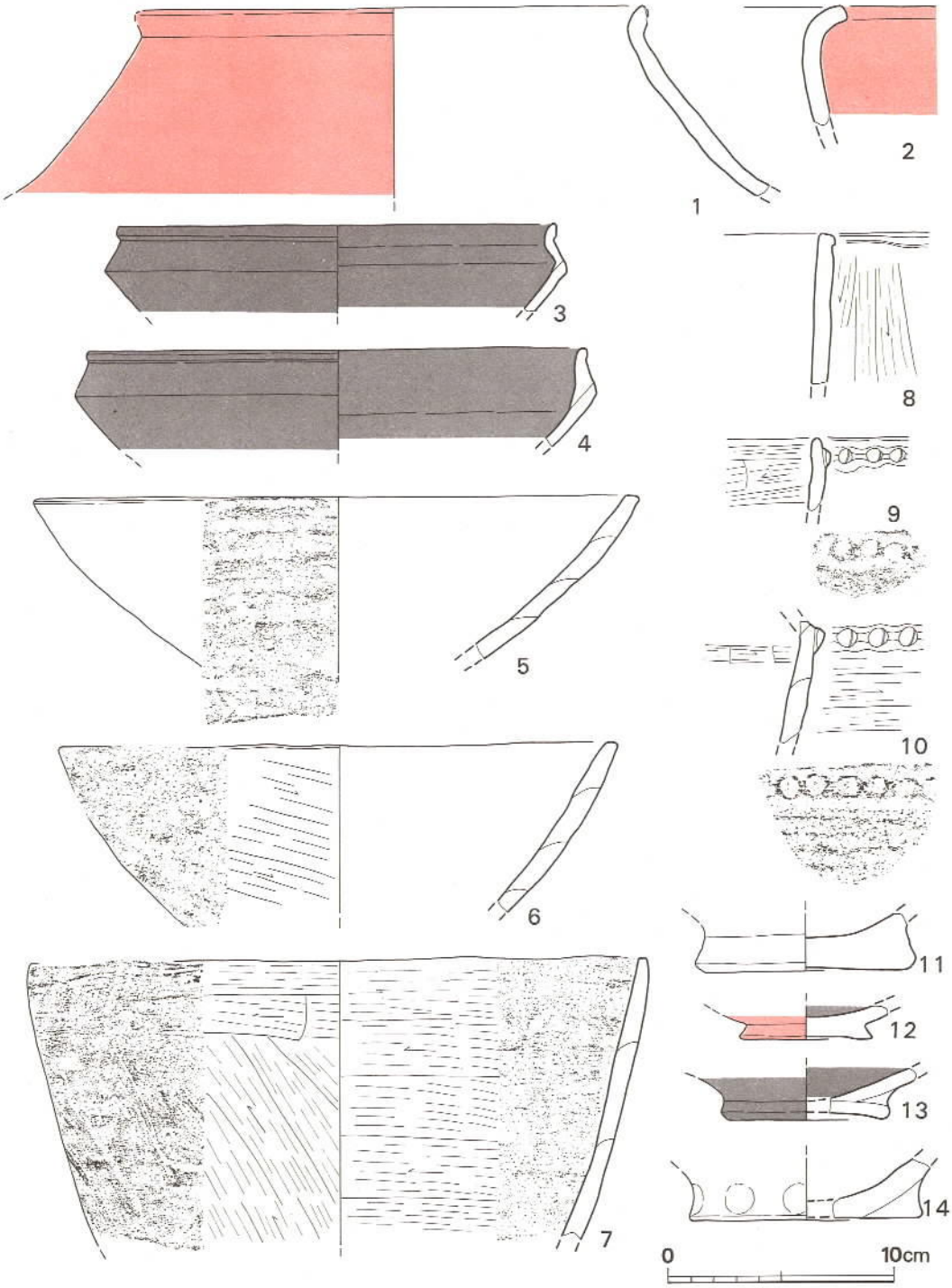
8は直立する甕の口縁片である。口縁内外は横方向ナデ，内面はナデ，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

9は直立する甕の口縁片である。口縁下4～14mm程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，口縁から凸帯下までは横方向ナデ，外面はナデ。内面は黒褐色，外面は黒色を呈する。胎土には細粒の砂を少量含み，焼成は良好。

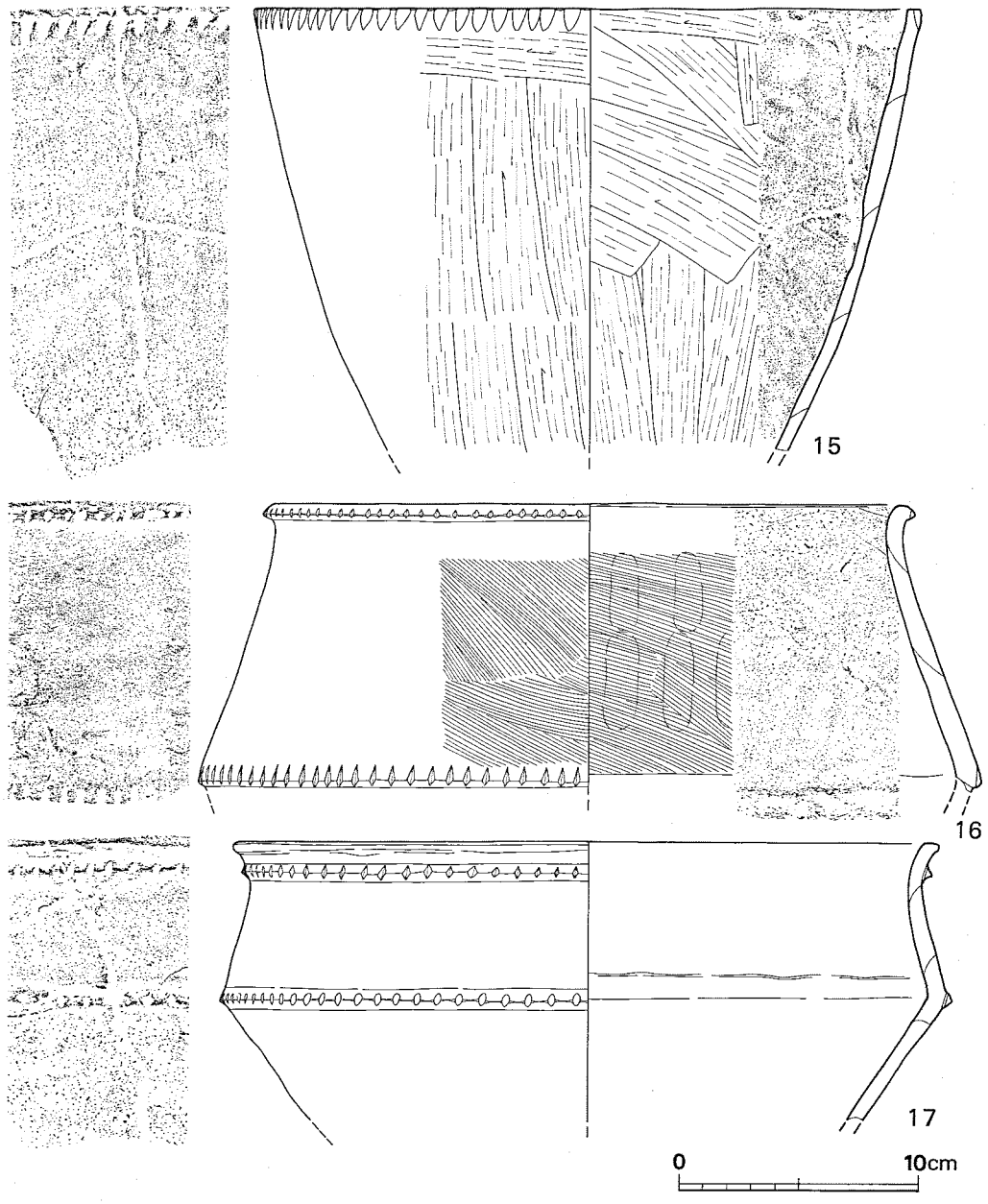
10は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。凸帯周辺は横方向ナデ，他は内外ともに横方向擦過。内面は明茶色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

11は径9.6cmの底部である。内外ともにナデ,外底は擦過ののちナデ。内面は黄褐色，外面は赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

12は内面黒色磨研，外面丹塗り磨研浅鉢の底部で，径は5.8cmを測る。内面と外底はミガキ，外面は横方向ミガキ。内面は灰黒色，外面は淡黄色の地に暗赤褐色の丹塗りを施している。胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。



第 76 図　黒色包含層出土土器 1（縮尺1/3）



第 77 図　黒色包含層出土土器 2（縮尺1/3）

13は黒色磨研浅鉢の底部片である。内面はミガキ，外面は横方向ミガキ，外底は板木口によるカキトリののちミガキ。胎土には細粒の砂をやや多く含み，焼成は良好。

14は復原口径10.2cmの底部片である。内外ともにナデ。底部外側には不明瞭ではあるが指頭

圧痕がみられる。内面は暗黄褐色，外面は褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

15は直立する甕で，復原口径は27.4cmを測る。口縁には棒状工具による大きな刻目を施している。内外ともに擦過。この擦過は甕棺内面にみられる擦過と同類のものである。暗褐色を呈するが，口縁下８cm程より下は¼周程，二次的火熱により赤褐色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

16は肩で屈曲する甕で，復原口径は26cm，肩部径は32.2cmを測る。口縁と肩にはヘラによる刻目を施している。口縁内外は横方向ナデ，内面は指頭圧痕の上から斜方向の細かいハケ目，外面は斜方向の細かいハケ目。内面は淡褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

17は肩で屈曲する甕で，復原口径は29.0cm，肩部径は30.1cmを測る。口縁下９～17mm程の間と肩に凸帯を貼付し，口縁部凸帯にはヘラによる刻目を，肩部凸帯には棒状工具による刻目を施している。内面は黄褐色，外面は茶褐色，口縁内外は黒色を呈する。肩部より下には二次的火熱により赤褐色に赤変する部分があり，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

W－１区包含層出土土器（第78～81図）

１は黒塗り磨研壺の口･頸部片である。復原口径は12.6cmを測る。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面はナデ。明茶褐色の地の上に黒色顔料を塗り，黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

２は壺の口・頸部片で，復原口径は10.0cmである。外面から口縁内面はミガキ、頸部内面はナデ。黄白色を呈し，胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

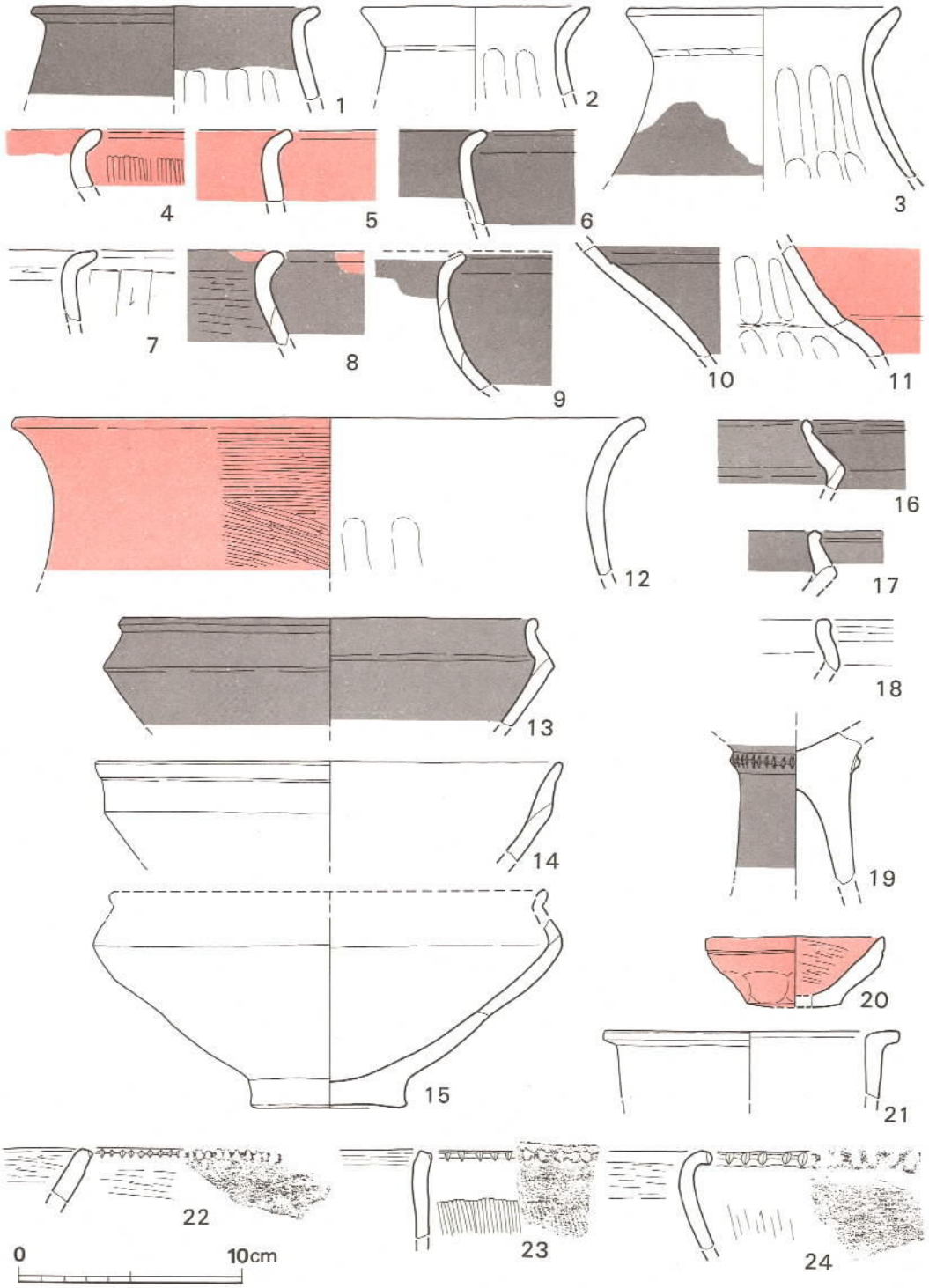
３は壺の口･頸部片で，復原口径は12.0cmを測る。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面はナデで指頭圧痕が明瞭である。内面は淡褐色，外面は暗黄褐色の地の上から一部黒塗りの痕跡が認められる。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

４は丹塗り磨研壺の口縁片である。内面から口縁外端までは横方向ミガキ，口縁外面はヨコナデ，頸部は縦方向ミガキ。地色は黄白色，丹は淡赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

５は丹塗り磨研深鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は黄白色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

６は黒色磨研壺の口縁片であるが，風化のためミガキ方向は不明。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

７は壺の口縁片である。内外ともに擦過。灰褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成



第 78 図　W－1区包含層出土土器1（縮尺1/3）

は良好。

8は黒塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面は横方向擦過。暗黄褐色の地の上から黒色顔料を塗る。口縁内外の一部にはさらに暗赤色の丹塗りが施されている。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は不良。

9は黒塗り磨研壺の口･頸部片である。外面から口縁内面はミガキであるが風化のためミガキ方向は不明。頸部内面は風化のため調整法不明。灰褐色の地の上に黒色顔料を塗り，黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

10は黒色磨研壺の肩部片である。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。内面は淡茶褐色，外面は黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

11は丹塗り磨研壺の肩部片である。内面はナデで，指頭圧痕が明瞭である。外面は横方向ミガキ。内面は茶褐色，外面の地は茶褐色，丹は淡赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

12は丹塗り磨研深鉢片で，復原口径は27.8cmを測る。頸部内面はナデで指頭圧痕がみられる。口縁内外は横方向ミガキ，頸部外面は斜方向ミガキ。地は黄白色，丹は暗赤色を呈するが，二次的火熱を受けて赤紫色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

13は黒色磨研浅鉢又は高坏で，復原口径は18.4cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

14は浅鉢で，復原口径は20.5cmを測る。内外ともにやや粗い横方向のミガキ。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色～暗褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

15は浅鉢で，底径は6.9cm，肩部径は20.9cm，復原器高は9.7cm，復原口径は19.2cm程のものである。底部外側は横方向ミガキ，外底はナデ，他は内外ともに風化のため調整法は不明。褐色～黒褐色を呈する。本来は丹塗り磨研であったと思われる。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

16は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

17は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

18は浅鉢口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。暗黄褐色～黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

19は黒塗り磨研高坏の脚部片である。坏・脚の間には凸帯を貼付し，凸帯の径は5.8cmを測る。内面はナデ，凸帯周辺はヨコナデ，脚部外面は縦方向ミガキ，脚部内面はナデ。外面は明茶色の地の上から黒色顔料を塗り，黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

20は丹塗りの小埦である。器高は3.2cm，復原口径は8.0cm，復原底径は4.3cm。口縁下には1

条の沈線をめぐらしている。内面は擦過，外面はナデで下半には指頭圧痕がみられる。黄白色の地に暗赤色の丹塗りを施している。胎土には大粒の砂少量を含み，焼成は良好。

21は口縁が直に外反する小甕である。内外ともに丁寧なナデを加えている。暗黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

22は鉢の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向擦過。淡黄色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

23は直立する甕の口縁片である。口縁はわずかに外反ぎみで，胴部はわずかにふくらむ。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は丁寧なナデ，口縁内面は横方向ハケ目ののちナデ，口縁外面はナデ，外面は縦方向ハケ目。内面は明茶褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

24は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁はつよく外反している。口唇部にはヘラによる刻目を施している。口縁内外は横方向ナデ，内面はナデ風の横方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。淡黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

25は肩で屈曲する甕の頸・肩部片である。肩にはヘラによる刻目を施している。内面は指頭圧痕の上から横方向ハケ目，頸部から肩まではナデ，肩部下は横方向の擦過，胴部外面はナデ。内面は茶褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

26は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩にはヘラによる刻目を施している。内面は擦過ののちナデ，肩部内面には指頭圧痕がみられる。外面はナデ風の横方向擦過。内面は茶褐色，頸部外面は茶褐色，肩部は黒褐色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

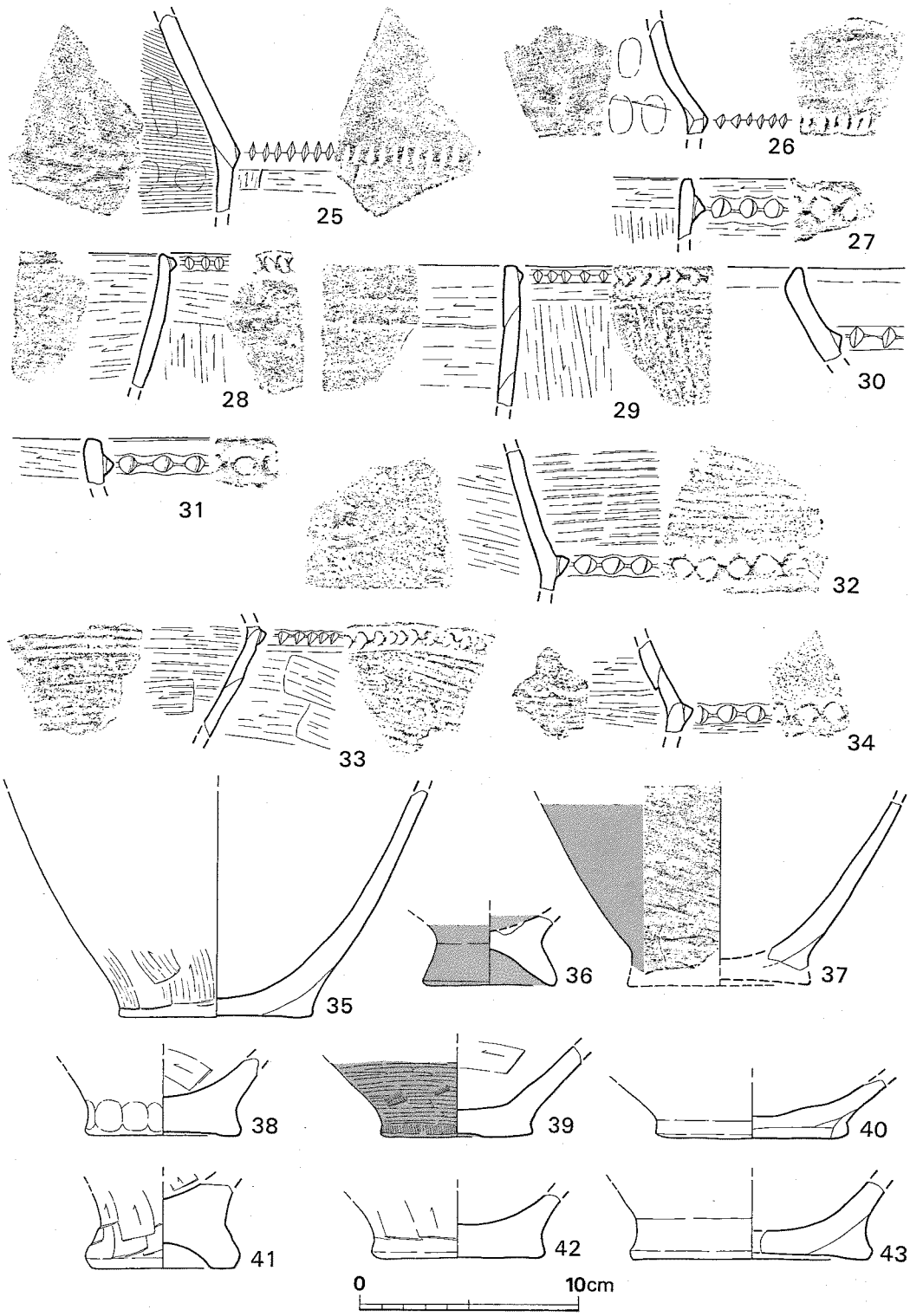
27は直立する甕の口縁片である。口縁下７～21㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともに擦過。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

28は直立する甕である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は横方向擦過，外面はナデ風の擦過。内面は褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には細粒の砂を少量含み，焼成は良好。

29は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面から凸帯下まではナデ風の横方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

30は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下27～38㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる大きな刻目を施している。内面はナデかと思われる。外面は風化のため不明。内面は暗灰褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

31は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下７～17㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は横方向擦過，外面はナデ。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 79 図　W－1区包含層出土土器2（縮尺1/3）

32は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は横方向の擦過，外面は条痕風の横方向擦過。内面は淡黄褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。内面には一部に丹の痕跡が認められる。

33は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は条痕風の横方向擦過，外面は横方向擦過。内面は淡明茶色，外面は淡黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

34は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は横方向擦過，頸部外面は風化のため不明，胴部外面は横方向擦過。淡黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

35は復原底径8.8cmの胴・底部片である。内外ともにナデ，底部外側は一部ハケ目風の縦方向擦過。内面は淡黒褐色，外面は淡赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

36は黒色磨研浅鉢の脚ともいうべき底部である。径は6.1cmを測る。外面は横方向ミガキ，脚内面はナデ，内面は風化のため不明。黒色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

37は黒色磨研壺の底部片である。底部復原径は8.2cm程のものである。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。底部外側はヘラ削り風の横方向擦過。内面は淡褐色，外面は淡褐色～黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

38は径7.1cmの底部である。内面は擦過，外面はナデと思われ，底部外側には指頭圧痕がみられる。外底は板木口によるカキトリ。内面は暗茶褐色，外面は黄褐色を呈するが，底部外側から外底周縁は二次的火熱により，赤褐色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

39は黒色磨研壺の底部で，径は7.0cmを測る。内面は擦過，外面はハケ目ののち横方向ミガキ，外底は擦過ののちナデ。内面は黄褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

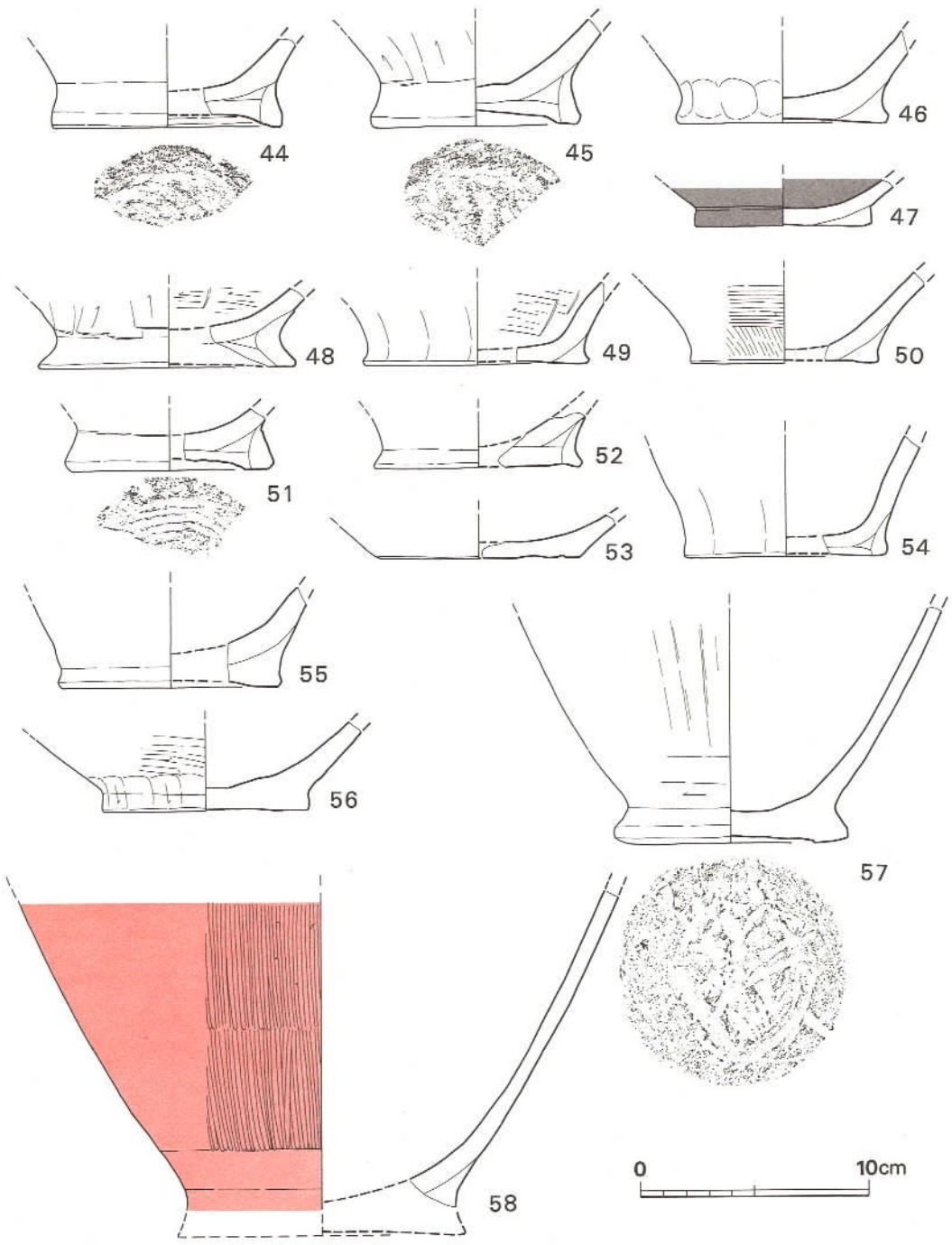
40は浅鉢底部で，径は8.8cmを測る。外面は横方向ミガキ，他は風化のため不明。内面は黒褐色，外面は黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

41は径7.0cmの底部である。かなりの上げ底を呈する。内面と外面と外底周縁は擦過，底部外側と外底上げ底部分はナデ。内面は暗茶褐色，外面は暗赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

42は径7.8cmの底部である。内面はナデ，外面は縦方向擦過。内面は淡黄色，外面は黄白色を呈するが，底部外側から外底周縁は二次的火熱を受け赤褐色に赤変している。

43は復原径11.0cmの底部片である。内外ともに風化のため不明。黄褐色を呈するが，外面は二次的火熱により赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

44は復原径10.0cmの底部片である。内外ともにナデ，外底は板木口によるカキトリで上げ底



第 80 図　W－1 区包含層出土土器 3 （縮尺1/3）

を呈する。内面は黄褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

45は復原径9.2cmの底部片である。内面と底部外側はナデ，外面は擦過，外底は板木口によるカキトリで上げ底を呈する。暗黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

46は復原径9.2cmの底部片である。内外ともにナデで，底部外側には指頭圧痕がみられる。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

47は黒色磨研浅鉢の底部片で，復原径は7.7cmを測る。内面はミガキ，外面は横方向ミガキ。内面は茶褐色，外面は褐色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

48は復原径11.1cmの底部片である。内面はナデ風の擦過，外面は縦方向擦過，底部外側から外底にかけてはナデ。内面は明茶褐色，外面は黄褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

49は復原径9.8cmの底部片である。内外ともに擦過，外底はナデ。内面は茶褐色，外面は淡黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

50は復原径8.2cmの壺底部片である。内面は擦過ののちナデ，外面は横方向ミガキ，底部外側は縦方向ミガキ，外底はナデ。内面は黒色，外面は淡黄褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

51は復原径9.0cmの底部片である。内面と底部外側から外底周縁はナデ，外面は縦方向擦過，外底は条痕工具によるカキトリで上げ底を呈する。内面は黄褐色，外面は黄褐色を呈するが，底部外側から外底周縁にかけては二次的火熱を受け赤紫色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

52は復原径9.0cmの底部片である。内外ともにナデ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

53は鉢の底部片と思われる。復原径は9.0cm。外面は丁寧なナデ，外底はナデ。内面は風化のため不明。内面は淡茶褐色，外面は黒褐色～黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

54は復原径8.8cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は縦方向擦過。内底は黄褐色，内面は黒褐色，外面は淡赤褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

55は復原径9.6cmの底部片である。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は黄褐色，外面は暗茶褐色を呈するが外面から外底にかけては暗赤褐色に赤変している。胎土には大粒の砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

56は壺の底部で，径は8.9cmを測る。内面と外底はナデ，外面は横方向ミガキ，底部外側はヘラ削り風の擦過。内面は茶褐色，外面は褐色～黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

57は底径10.2cmを測る，胴･底部片である。内面はナデ，外面は縦方向擦過，底部外側は横方

向擦過，外底周縁は擦過，外底は板木口によるカキトリ。内面は黄褐色，外面は黄褐色であるが，二次的火熱を受けて淡赤褐色に赤変している。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

58は丹塗り磨研大形壺の胴下半部片である。復原底径は12.4cm程のものである。内面はナデ，外面は縦方向ミガキ，底部外側は横方向擦過ののちナデ。内面と外面の地は淡黄色，丹は暗赤色部分と赤桃色部分がある。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

以上は夜臼期のものであるが，以下に第８集にもれていた板付Ｉ式の壺・高坏等を追加しておく。

59は壺の肩部片で，ヘラ描きの複線山形文を施文している。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

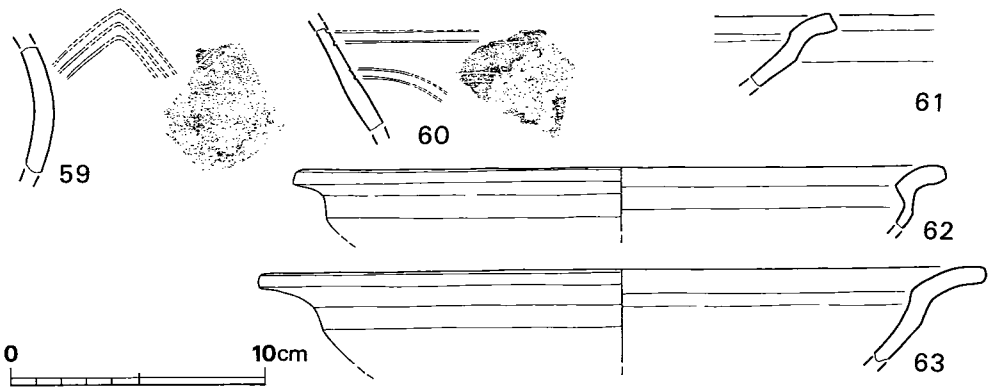
60は壺の肩部片で，ヘラ描きの沈線２条とその下に重弧文を施している。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。内面は黄褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

61は高坏口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黄白色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

62は高坏口縁片で，復原口径は25.2cmを測る。内面は横方向ミガキ，外面は風化のため不明。口縁上端は暗褐色，他は淡茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

63は高坏口縁片で，復原口径は28.2cmを測る。内外ともに風化のため不明瞭ではあるが，横方向ミガキが辛うじて観察できる。内面は黄白色の地の上から暗茶褐色の化粧土をかける。外面は明茶褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

61・62・63の高坏は板付Ｉ式の新しい段階のものである。



第 81 図　Ｗ－１区包含層出土土器4（縮尺1/3）

W－2区包含層出土土器（第82～89図）

1は内面黒塗り，外面丹塗り磨研の壺口縁片で，復原口径は9.8cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。地は灰黄色，内面は黒色，外面の丹は明赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

2は黒色磨研の上に丹塗りを施した壺の口縁片で，復原口径は10.1cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。黒色の上に淡赤色の丹塗り。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

3は黒色磨研壺の口縁片で，復原口径は11.5cmを測る。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面はナデ。褐色を呈し，胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

4は丹塗り磨研壺の口縁片で，復原径は12､6cmを測る。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面はナデ。地は淡黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

5は丹塗り磨研壺の口･頸部片で，復原口径は13.4cmを測る。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面の下半はナデ。地は暗黄褐色，丹はやや明るい赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

6は丹塗り磨研壺の口･頸部片である。復原口径は14.6cmを測る。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面は横方向擦過。黄白色の地に暗赤色の丹を塗る。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

7は丹塗り磨研壺の口･頸部片で，復原口径は10.4cmを測る。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面はナデ。地は黄白色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

8は丹塗りの大形壺である。復原口径は20.6cmを測る。口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面は擦過ののちナデ。口縁端はヨコナデ，外面は縦方向の擦過。内面は暗黄褐色，外面は暗茶褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

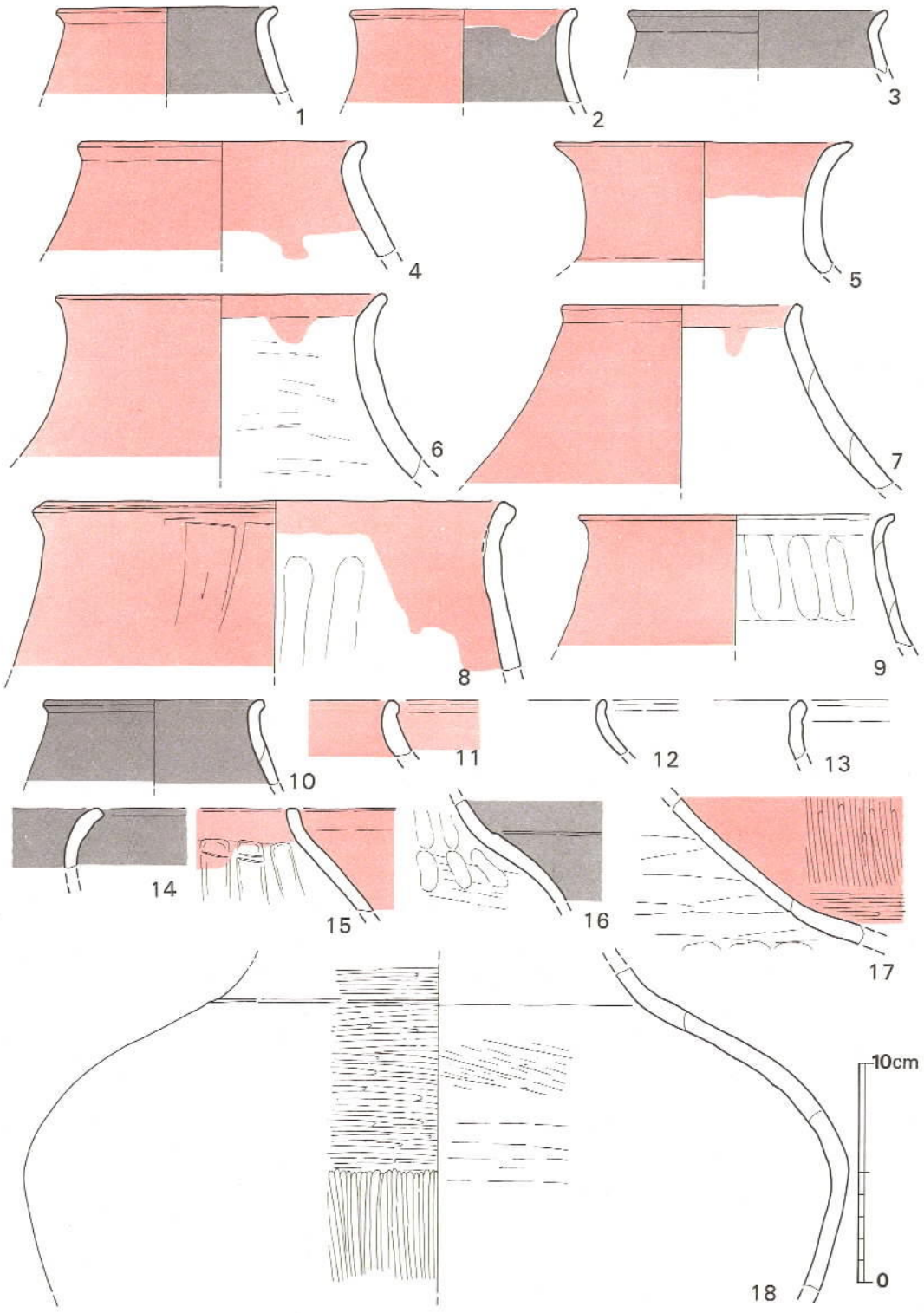
9は丹塗り磨研壺の口縁片で，復原口径は14.2cmを測る。口縁内面は横方向ミガキ，口縁外面はヨコナデ，外面は縦方向ミガキ。頸部内面はナデ。地は淡黄色，丹は淡赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

10は黒色磨研壺の口縁片で，復原口径は9.6cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

11は丹塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面は横方向擦過。地は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

12は壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面は横方向擦過，茶褐色を呈し，胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

13は壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ。内面は淡茶色，外面は褐色を呈



第 82 図　W－2区包含層出土土器1（縮尺1/3）

する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

14は黒色磨研の壺又は深鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

15は丹塗り磨研壺の口・肩部片である。口縁部は内傾して短く，すぐに肩・胴部に連らなる。器形は無文土器の系統のものと考える。外面から口縁内面は横方向ミガキ。肩部内面は板木口によるナデあげ。内面の地色は明黄褐色，丹は淡赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

16は黒色磨研壺の肩部片である。胴部内面は横方向擦過，頸部から肩部の内面は指頭圧痕がみられ，ナデ調整，外面は横方向ミガキ。内面は黒褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

17は丹塗り磨研大形壺の頸・肩部片である。内面は削り風の擦過，肩部内面には指頭圧痕がみられる。頸部外面は縦方向ミガキ。肩部は横方向ミガキ。内面は黒色，外面の地は淡黄色，丹はやや明るい赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

18は大形壺の頸・胴部片である。復原胴部最大径は37.2cmを測る。頸部内面に横方向擦過がみられる他は内面はナデ，外面の頸から胴部上半は横方向ミガキ，胴部下半は縦方向ミガキ。内面は暗黄褐色～淡褐色，外面は灰褐色～黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

19は壺の頸・胴部片で，復原胴部最大径は17.4cmを測る。内面はナデ，外面は風化のためミガキ方向不明。内面は淡黄色,外面は灰褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み,焼成は良好。

20は黒色磨研壺の肩部片である。内面はナデ，肩部内面には指頭圧痕が明瞭，外面は横方向ミガキ。内面は黒褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

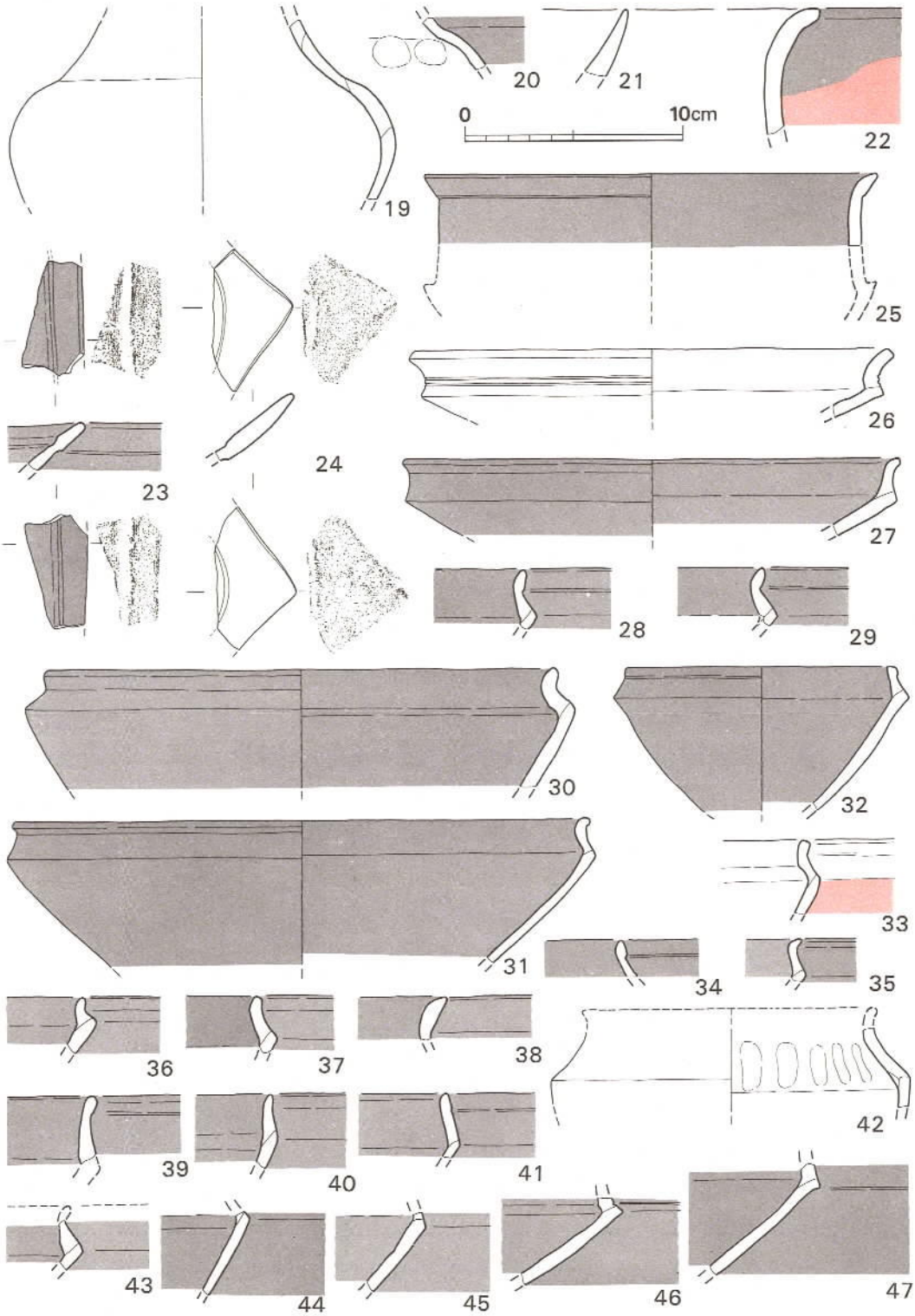
21は埦の口縁片である。内面は丁寧なミガキ，外面は風化のため不明。暗紫色の地に淡茶色の化粧土をかけている。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

22は黒色磨研の深鉢に一部丹塗りを加えたものである。外面は横方向ミガキ，内面は風化のため不明。内面は黄褐色，外面は黒色，丹は赤紫色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

23は黒色磨研方形浅鉢の口縁片である。内外ともに段をつくっている。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面は暗褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

24は方形浅鉢の口縁片である。風化のためミガキ方向は不明。暗褐色を呈し，胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

25は黒色磨研浅鉢の口縁片で，復原口径は20.4cmを測る。口縁は外反し，口縁には段をつくり，頸部はほぼ直立して長めのものである。肩には明瞭な段をもうける古い要素を残したものであろうと思われる。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には細粒の砂を微量に含



第 83 図　W－2 区包含層出土土器 2 （縮尺1/3）

み，焼成は良好。

26は高坏又は浅鉢片で，復原口径は21.6cmを測る。口縁は外反し，頸部には細い2条の沈線をめぐらしている。内外ともに横方向ミガキ。灰黄色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

27は黒色磨研浅鉢又は高坏で，復原口径は22.4cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。灰黒色を呈し，胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

28は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

29は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

30は黒色磨研浅鉢で，復原口径は22.8cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

31は黒色磨研浅鉢で，復原口径は26.0cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。胎土には細粒の砂を少量含み，焼成は良好。

32は黒色磨研高坏又は浅鉢で，復原口径は12.2cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

33は浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。淡黄橙色を呈するが，体部外面には暗赤色の丹塗りの痕跡が認められる。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

34は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

35は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

36は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

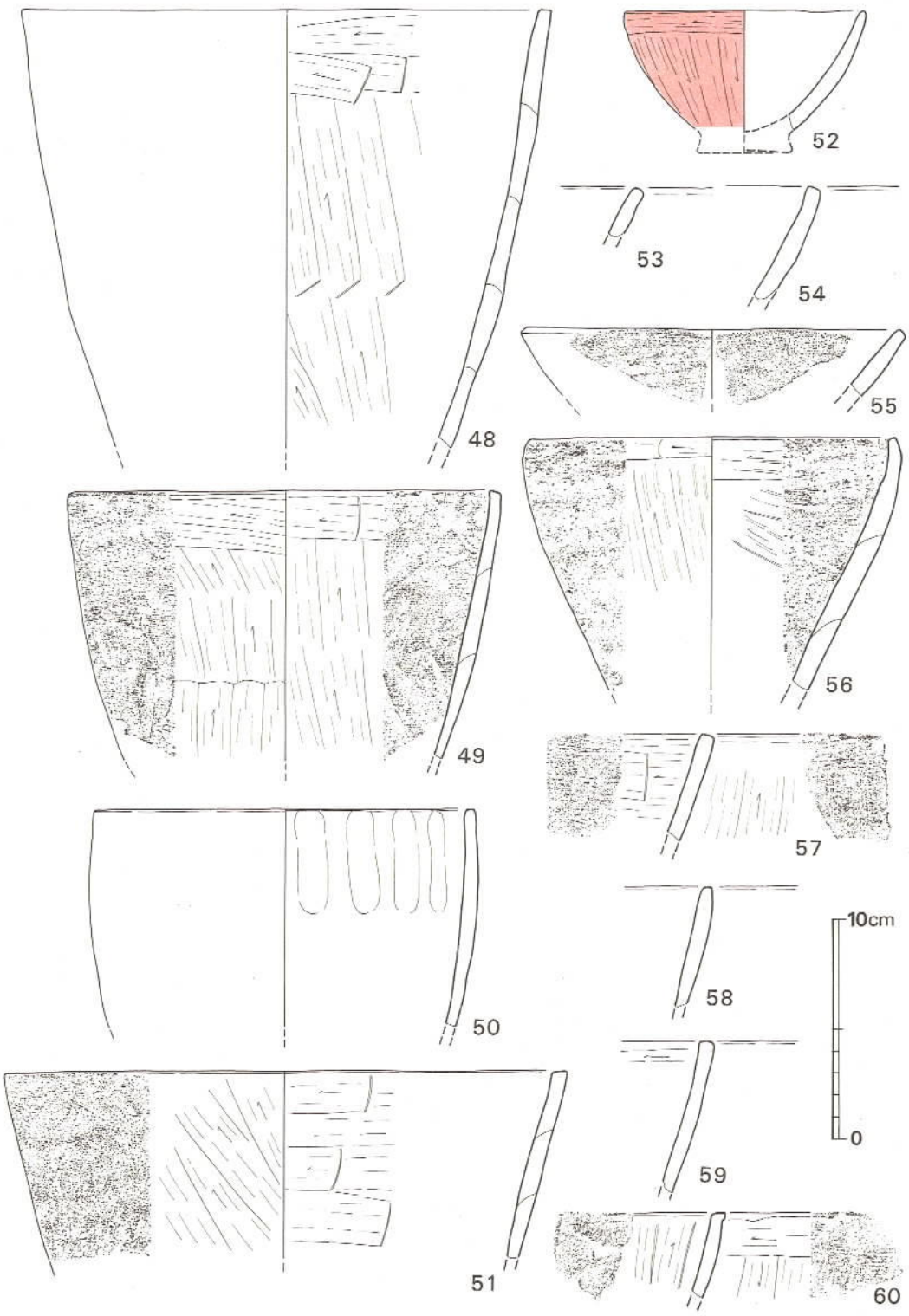
37は黒色磨研浅鉢片である。内面は横方向ミガキ，外面は風化のため不明。淡黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良。

38は黒色磨研浅鉢の口縁片である。頸の長いものと思われる。内外ともに横方向ミガキ。胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

39は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

40は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面は黒色～褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

41は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ，胎土には少量に砂粒を含み，焼成は



第 84 図　W－2 区包含層出土土器 3（縮尺1/3）

良好。

42は浅鉢というよりも肩で屈曲する小甕というべきであろうか。肩部の復原径は16.2cmを測る。内面はナデで，指頭圧痕がみられる。外面は風化のため不明。内面は黒褐色，外面は暗黄褐色を呈するが，頸部は二次的火熱により赤褐色に赤変している。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

43は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

44は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

45は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み。焼成は良好。

46は黒色磨研浅鉢の肩部片である。肩はつよく張り，肩の上に1条の細い沈線をめぐらしている。25・38等の頸の長い浅鉢の肩部である。内外ともに横方向ミガキ。淡黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

47は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

48は直立する甕で，復原口径は24.0cmを測る。口縁内面はナデ風の横方向擦過，内面は縦方向擦過。口縁外面は横方向ナデ，外面はナデ。内面は淡茶色，外面は暗褐色を呈するが，口縁部は二次的火熱を受けて，淡赤褐色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

49は直立する甕で，復原口径は19.6cmを測る。口縁内外は横方向擦過，内面は縦方向の擦過，外面は斜・縦方向擦過。内面は明茶色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

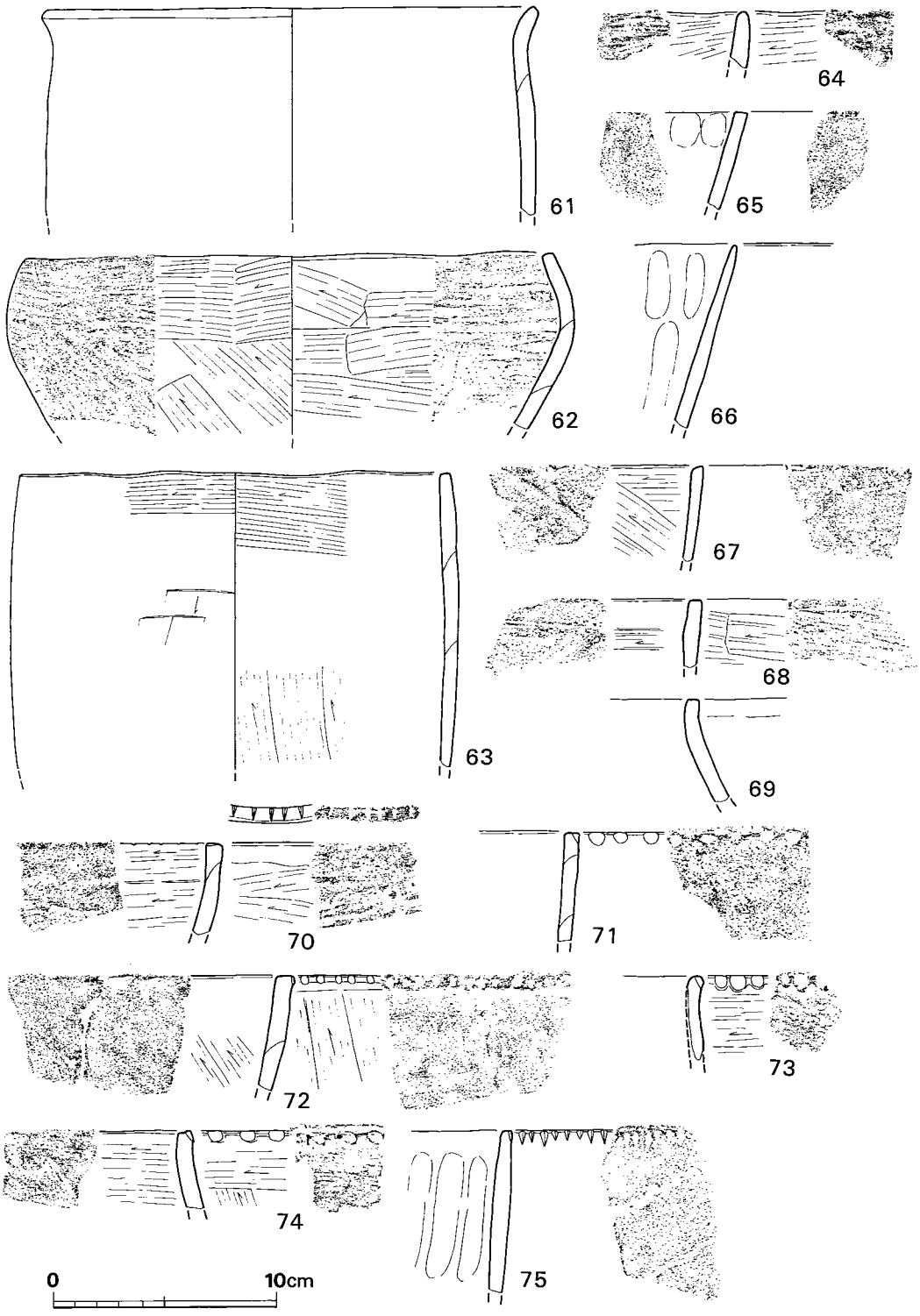
50は直立する甕で，復原口径は17.1cmを測る。内面はナデで口縁内面には指頭圧痕がみられる。外面は風化のため不明。淡黄色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

51は直立する甕で復原口径は25.5cmを測る。内面は横方向擦過，外面は斜方向擦過。内面は黄白色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

52は丹塗りの小鉢である。復原口径は10.8cmを測る。口縁外面は横方向擦過，外面は縦方向擦過，内面は風化のため不明。内面は淡黒褐色，外の地は灰白色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

53は鉢の口縁片である。内外ともにナデ。内面は黒褐色，外面は赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

54は鉢の口縁片である。内面はナデ，外面は風化のため不明。暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 85 図　W－2区包含層出土土器4（縮尺1/3）

55は鉢の口縁片で，復原口径は16.9cmを測る。内外ともに粗い横方向のミガキ。明茶色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

56は直立する甕で，口縁はわずかに内彎ぎみである。復原口径は16.6cmを測る。口縁内面は横方向擦過，胴部上半は擦過，下半はナデ，口縁外面は削り風の横方向擦過，外面は縦方向擦過。内面は暗褐色，外面は暗茶褐色を呈するが，胴部下半は二次的火熱により赤変している。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

57は直立する甕の口縁片である。内面はナデ風の横方向擦過，口縁外面は横方向ナデ，外面は縦方向擦過。内面は淡茶褐色，口縁内面から外面は黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

58は直立する甕の口縁片である。内外ともに風化のため不明，ナデかと思われる。内面は暗黄褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

59は直立する甕の口縁片である。口縁内面は横方向擦過，他は内外ともにナデ。内面は淡茶色，外面は暗黄褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

60は直立する甕の口縁片である。内面は縦方向の擦過，口縁外面はナデ風の横方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は淡茶色，外面は褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

61は直立する甕で，口縁はわずかに外反ぎみで胴は少しふくらむ。内外ともにナデ。暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

62は粗製鉢で，口縁は内彎している。復原口径は23.6cmを測る。内面は条痕風の横方向擦過，口縁外面は条痕風の横方向擦過と，一部に条痕がみられる。胴部外面は条痕風の斜方向擦過。内面は暗黄褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

63は直立する甕で，復原口径は19.2cmを測る。口縁内外は粗いハケ目風の横方向擦過，内面はナデ風の縦方向擦過，外面は縦方向擦過ののちナデ。内面は明黄橙色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

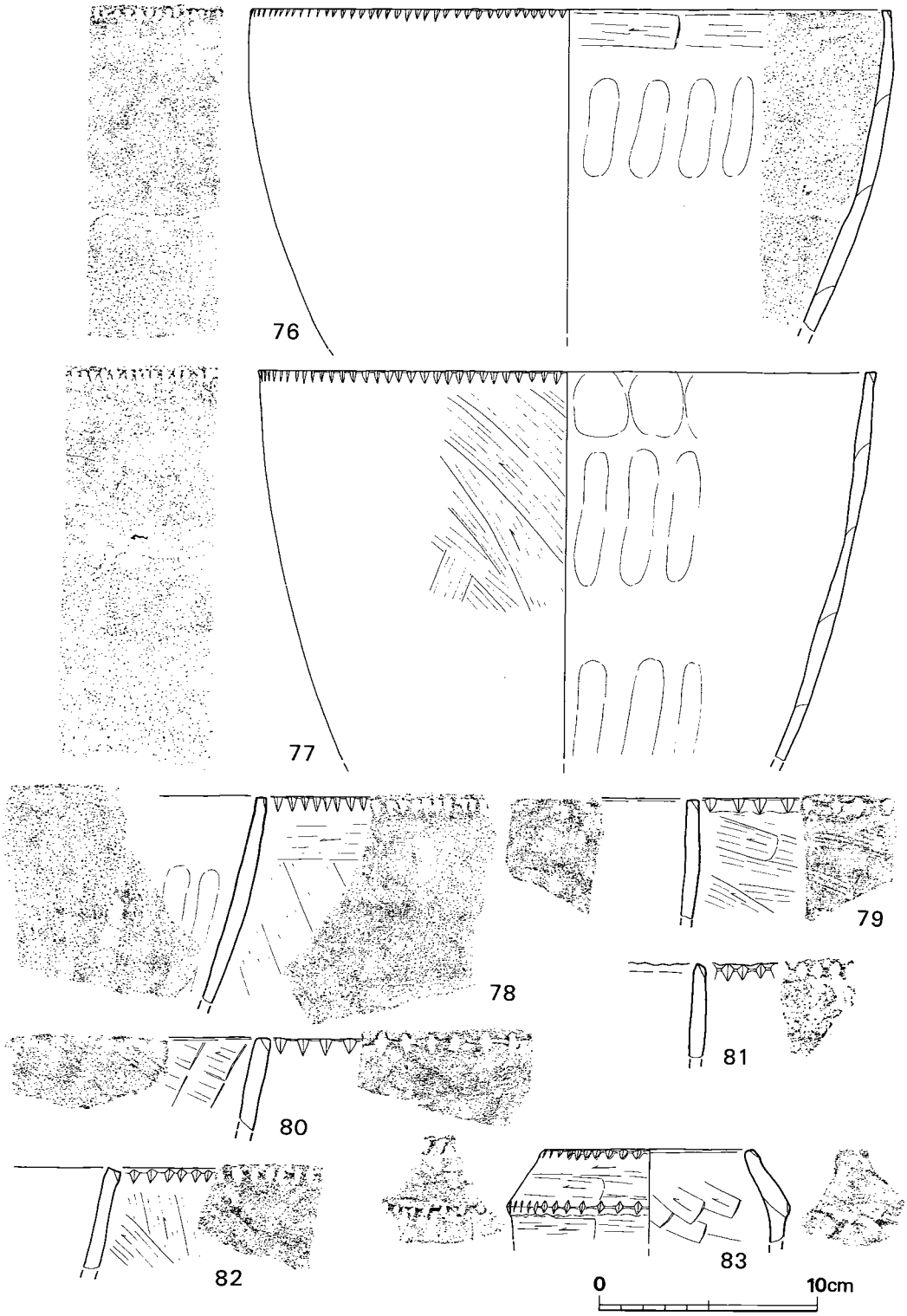
64は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

65は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデで口縁内面には指頭圧痕がみられる。暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

66は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデで，内面には指頭圧痕がみられる。内面は明茶褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

67は直立する甕の口縁片である。口縁内面は横方向擦過，内面は擦過，外面はナデ。暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

68は直立する甕の口縁片である。口縁内外はヨコナデ風の擦過，他は内外ともに横方向擦過。



第 86 図　W－2区包含層出土土器5（縮尺1/3）

内面は暗褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

69は肩で屈曲する甕の口縁片である。内外ともにナデ。内面は淡茶色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

70は直立する甕の口縁片である。口縁上端にはヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向擦過。黒褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

71は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による大きな刻目を施している。内外ともにナデ。内面は淡茶色，外面は黄褐色で一部黒色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

72は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。口縁内面は横方向ナデ，内面は斜方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は淡赤褐色，外面は褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

73は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。外面はナデ風の横方向擦過，内面は器表剝落のため不明。内面は黄褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

74は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，口縁外面は横方向擦過，頸部外面はナデ風の縦方向擦過。内面は淡茶褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

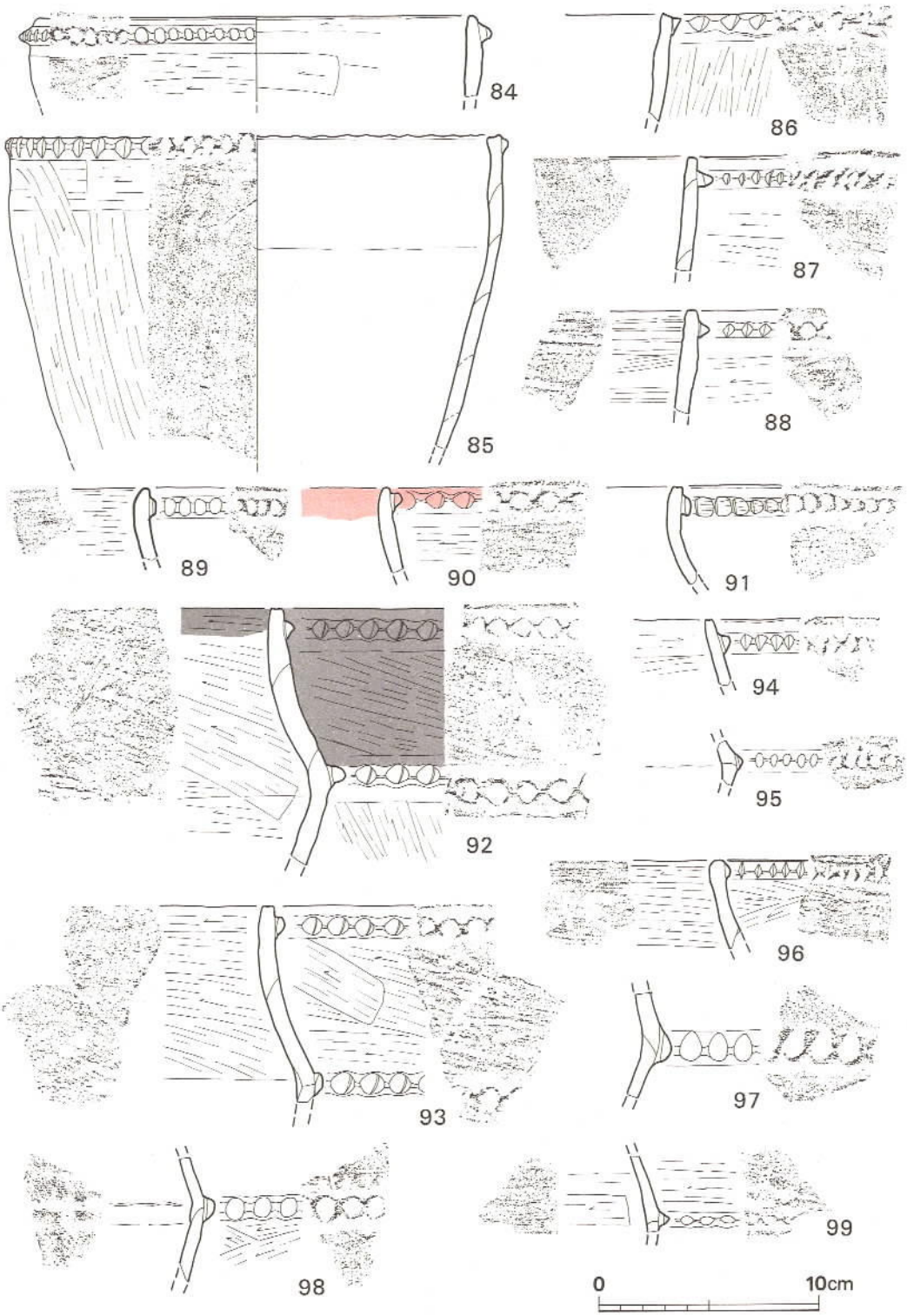
75は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデで内面には指頭圧痕がみられる。内面は暗茶褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

76は直立する甕で，復原口径は29.1cmを測る。口縁にはヘラによる刻目を施している。口縁内面は横方向擦過，内面はナデで指頭圧痕がみられる。外面はナデ。内面は暗赤褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

77は直立する甕で，復原口径は28.0cmを測る。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデで，指頭圧痕がみられる。外面は斜方向の擦過。内面は暗茶色～暗黄褐色，外面は暗褐色を呈するが，胴部下半は二次的火熱を受けて暗赤褐色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

78は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデで，指頭圧痕がみられる。口縁外面はナデ風の横方向擦過，外面はナデ風の斜方向擦過。内面は暗赤褐色，外面は暗褐色～黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

79は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面は条痕風の擦過。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 87 図　W－2 区包含層出土土器 6 （縮尺1/3）

80は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は一見指ナデ風の擦過，外面はナデ。淡茶褐色で外面の一部は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

81は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は暗褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。

82は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。外面は擦過，内面は風化のため不明。内面は暗黄褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

83は肩で屈曲する甕で，復原口径は9.4cm，復原肩部径は12.8cmの小形のものである。口縁と肩にはヘラによる刻目を施している。口縁内面がナデの他は内外ともに擦過。内面は淡茶褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

84は直立する甕の口縁片で，復原口径は19.6cmを測る。口縁下３～13mm程の間に凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，口縁から凸帯下まではヨコナデ，外面は横方向の擦過。内面は淡茶色，口縁から凸帯上半は茶色，外面は褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

85は直立する甕で，復原口径は22.0cm。口縁外側に凸帯を貼付し，ヘラによる大きな刻目を施している。内面はナデ，口縁外面は横方向擦過，外面は縦方向擦過。内面は暗黄褐色，外面は暗黄褐色～暗褐色を呈するが，口縁下５cm程より下位は二次的火熱を受けて淡赤褐色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

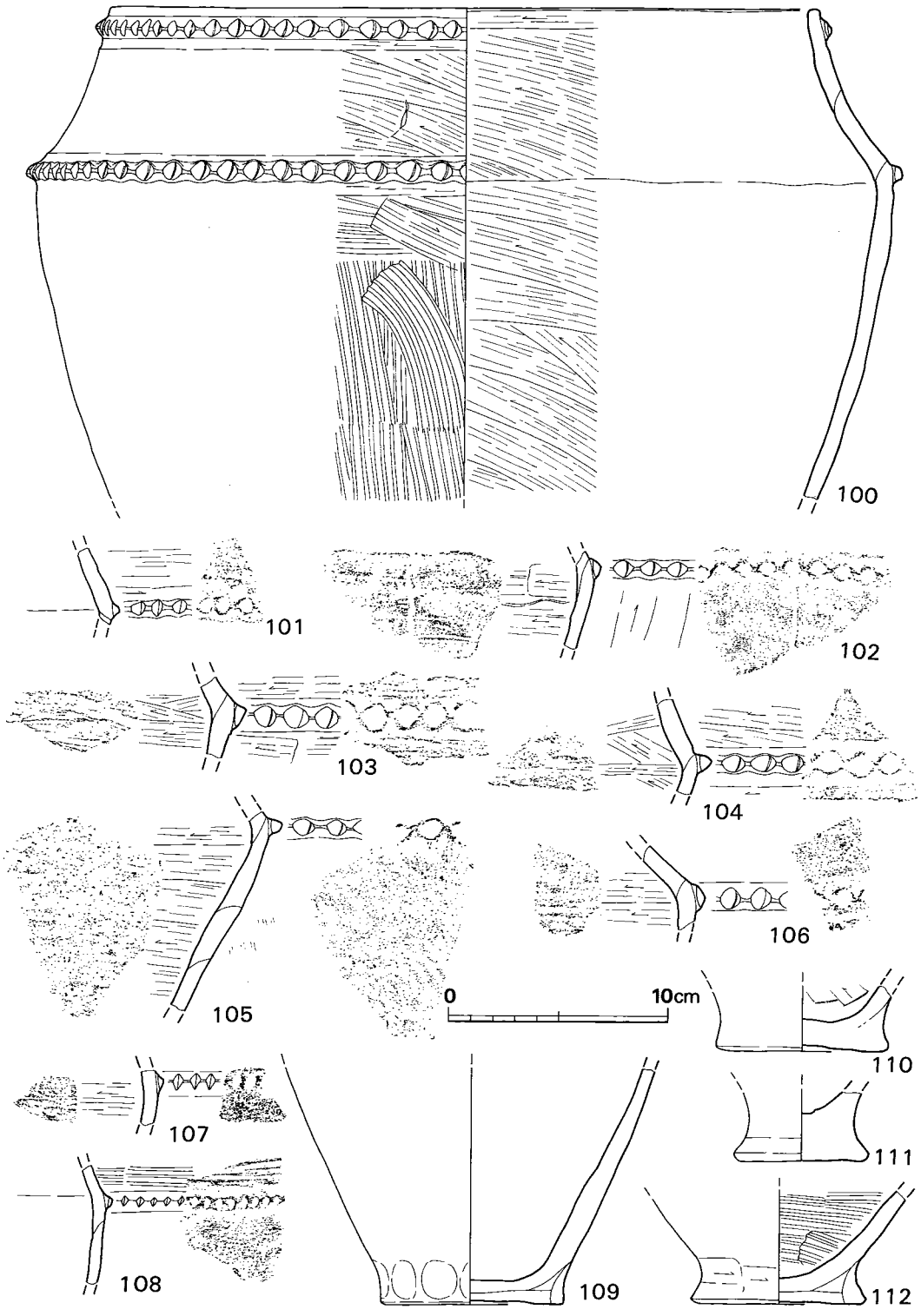
86は直立する甕の口縁片である。口縁外側には凸帯を貼付し，ヘラによる大きな刻目を施している。内面から凸帯下まではナデ，外面は縦方向擦過。内面は淡茶色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

87は直立する甕の口縁片である。口縁下６～14mm程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面はナデ，口縁内面から凸帯下まではヨコナデ，外面は横方向擦過。内面は黄褐色～褐色，外面は淡茶色と黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

88は直立する甕の口縁片である。口縁下５～13mm程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は条痕風の横方向擦過，口縁から凸帯下までは横方向ナデ。外面は横方向擦過。内面は黒褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

89は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下３～14mm程の間に凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内面はナデ風の擦過，外面は風化のため不明。暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

90は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下２～12mm程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目



第 88 図　W－2区包含層出土土器7（縮尺1/3）

を施している。内面はナデ，口縁内面から凸帯下まではヨコナデ，外面は横方向擦過。内面は褐色，外面は暗茶褐色を呈するが，口縁内面から刻目まで暗赤褐色の丹塗りを施している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

91は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下4～13㎜程の間に凸帯を貼付し，板木口による大きな刻目を施している。口縁内面から凸帯下まではナデ，他は風化のため不明。内面は黄褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

92は肩で屈曲する甕である。口縁下6～15㎜程の間と肩に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面と頸部外面は横方向の粗い擦過，胴部外面は縦方向の擦過，口縁から凸帯下，肩部凸帯の周辺は横方向ナデ。内面は暗赤褐色，外面は暗茶褐色を呈するが，口縁内面から頸部外面にはさらに黒塗りを加えている。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

93は肩で屈曲する甕である。口縁下4～15㎜程の間と肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。口縁と凸帯周辺は横方向ナデ，他は内外ともに横・斜方向の粗い擦過。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

94は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下6～16㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，口縁から凸帯下までは横方向ナデ，頸部外面はナデ風の縦方向擦過。内面は淡茶色，外面は黒褐色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

95は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内外ともに風化のため不明。内面は淡黄褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成はやや不良。

96は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は横方向擦過，外面は横・斜方向の擦過，内面は黄褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

97は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，棒状工具による大きな刻目を施している。内外ともにナデ。内面は黄白色，外面は淡黄色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

98は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，棒状工具による大きな刻目を施している。内面から外面の凸帯下まではナデ，胴部外面はナデ風の擦過。内面は淡黄色，外面は明茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

99は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，外面は横方向擦過。内面は黒色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

100は肩で屈曲する甕で，復原口径は32.5cm，肩部径は40.0cmを測る。口縁下4～15㎜程の間

と，肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面と頸部外面は横方向の粗い擦過，肩部下は斜方向条痕ののちナデ，胴部外面は縦方向条痕，口縁内面から凸帯下まではナデ風の横方向擦過。内面は淡赤褐色，外面は暗茶褐色～褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

101は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面は横方向の擦過。内面は暗褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

102は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は横方向擦過，凸帯周辺はヨコナデ，胴部外面はナデ風の縦方向擦過。内面は暗黄褐色～黒褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

103は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。凸帯部はヨコナデ，他は内外ともに横方向の粗い擦過。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

104は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は擦過，凸帯部はヨコナデ，外面は横方向擦過。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

105は肩で屈曲する甕の肩・胴部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は横方向の粗い擦過，外面は斜方向の条痕をナデを加えて消している。内面は淡茶色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

106は肩で屈曲する甕の肩部片である。頸部の内傾度はつよい。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は横方向の擦過，外面は風化のため不明。内面は明黄褐色，外面は黒色で一部黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

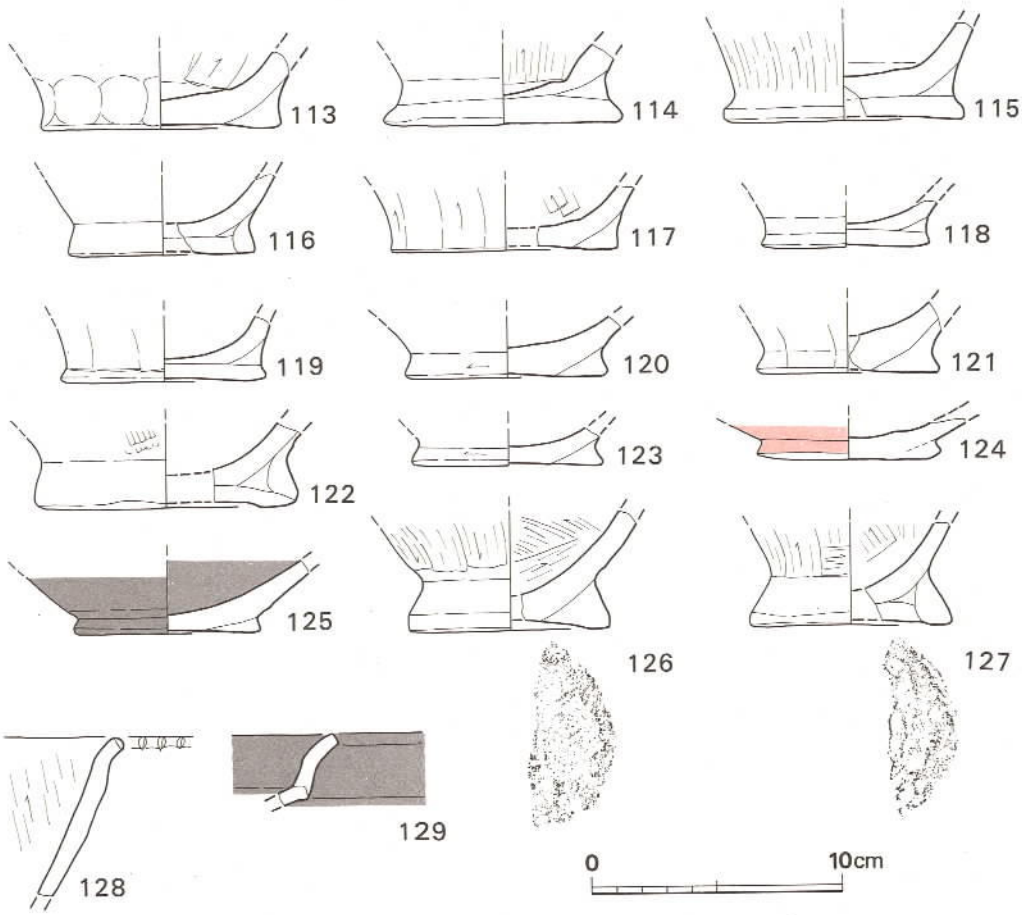
107は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は横方向擦過，外面はナデ。内面は暗褐色，外面は明赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

108は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面と胴部外面はナデ，頸部外面は横方向条痕，凸帯部はヨコナデ。内面は黒褐色，外面は暗褐色を呈するが，胴部外面は二次的火熱を受けて暗赤紫色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

109は胴・底部片で，復原口径は8.2cmを測る。内外ともにナデ，底部外側は指頭圧痕がみられる。赤褐色を呈し，胎土には砂粒を少量含み，焼成は良好。

110は径7.8cmの底部である。内面は擦過，外面はナデ。内面は茶褐色，外面は淡茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

111は径6.0cmの底部である。内外ともにナデ。内面は淡黄色，外面は淡黄褐色を呈するが，



第 89 図　W－2区包含層出土土器8（縮尺1/3）

二次的火熱を受けて赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

112は径7.9cmの底部片である。内面は条痕，外面と外底はナデ，底部外側はナデ風の横方向擦過。内面は黒色，外面は黄褐色を呈する。胎土には細粒の砂を少量含み，焼成は良好。

113は復原径9.4cmの底部片である。内面は擦過，外面はナデで底部外側には不明瞭ではあるが，指頭圧痕がみられる。内面は淡黄色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

114は径9.4cmの底部片である。内面と外底は擦過，外面はナデと思われる。内面は灰黄色，外面は赤褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

115は復原径9.5cmの底部片である。内面と，底部外側から外底にかけてはナデ，外面は縦方向擦過。内面は黒色，外面は淡赤褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

116は復原径7.3cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は風化のため不明。内面は暗茶

褐色，外面は赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

117は復原径8.8cmの底部片である。内面と外面は擦過，外底はナデ。内面は黄褐色，外面は赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

118は径6.6cmの底部片である。外面と外底は擦過，内面は風化のため不明。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

119は復原径8.0cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は擦過。内面は淡茶色，外面は淡褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

120は復原径7.8cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は横方向擦過。暗赤茶色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

121は復原径7.2cmの底部片である。内面と外底はナデ，外面は縦方向擦過。内面は黄褐色，外面は淡赤黄色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

122は径10.3cmの底部片である。内面および底部外側から外底はナデ，外面は縦方向の条痕。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

123は径7.4cmの浅鉢底部片である。内面はミガキ，外面は横方向擦過，外底は擦過ののちナデ。内面は黄褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

124は丹塗り磨研浅鉢又は埦の底部で径は7.2cmを測る。外面は横方向ミガキ，外底は擦過ののちナデ，内面は風化いちぢるしく不明。地は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

125は黒色磨研浅鉢の底部片で，復原径は7.3cmを測る。内外ともに横方向ミガキ，底部の直上は削り，底部外側はミガキ，外底はナデ。黒色で一部は灰褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

126は復原径7.8cmの底部片である。内面は擦過，外面は縦方向擦過，底部外側は横方向ナデ，外底は板木口によるカキトリ。内面は褐色，外面は淡茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

127は復原径8.0cmの底部片である。内外ともに擦過，底部外側から外底周縁はナデ，外底は板木口によるカキトリ。内面は黒色，外面は赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

以上は夜臼期の土器である。

128は板付Ⅰ式の鉢口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ風の擦過，口縁内面はヨコナデ，外面はナデ。内面は暗褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

129は黒色磨研高坏の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。器形的には板付Ⅰ式の高坏であると考える。

W－3区包含層出土土器（第90～117図）

W－3区包含層については幅3m，長さ約8mのトレンチを設けて発掘した。8層から17層が夜臼期の遺物を出土する層である。9･10･11層は混貝層であり，9･10層からの遺物の 出土は少なかったが，発掘時に10層の土器は11層と一緒にとりあげている。又，12･13･14･15層は層位としては古いが，斜面の高所に位置し，表面に露出していたこともあって結果的には遺物は一緒にとりあげている。

又異なる層位から出土した土器で接合されたものについては新しい層位のほうに入れて説明を加えている。8層と11層，8層と11層と16層，11層と16層，11層と17層等，各層位間で接合される土器が存在するので，W－3区の包含層は8～17層の間に時間差があるとは考えられない。では順次，説明を加えていく。

〈8層出土土器〉

1は丹塗り磨研壺である。口径は10.6cm，肩部径は11.9cmを測る。頸部内面の上半から口縁外面にかけては横方向ミガキ，頸部から胴上位にかけては縦方向ミガキ，胴部は斜方向ミガキ，頸部内面の下半から胴部内面はナデ風の横方向擦過。内面は灰黄色，丹はやや鮮やかな紅色を呈する。胎土には精選粘土を用い，焼成は極めて良好。無文土器の丹塗り磨研壺である可能性が強い。

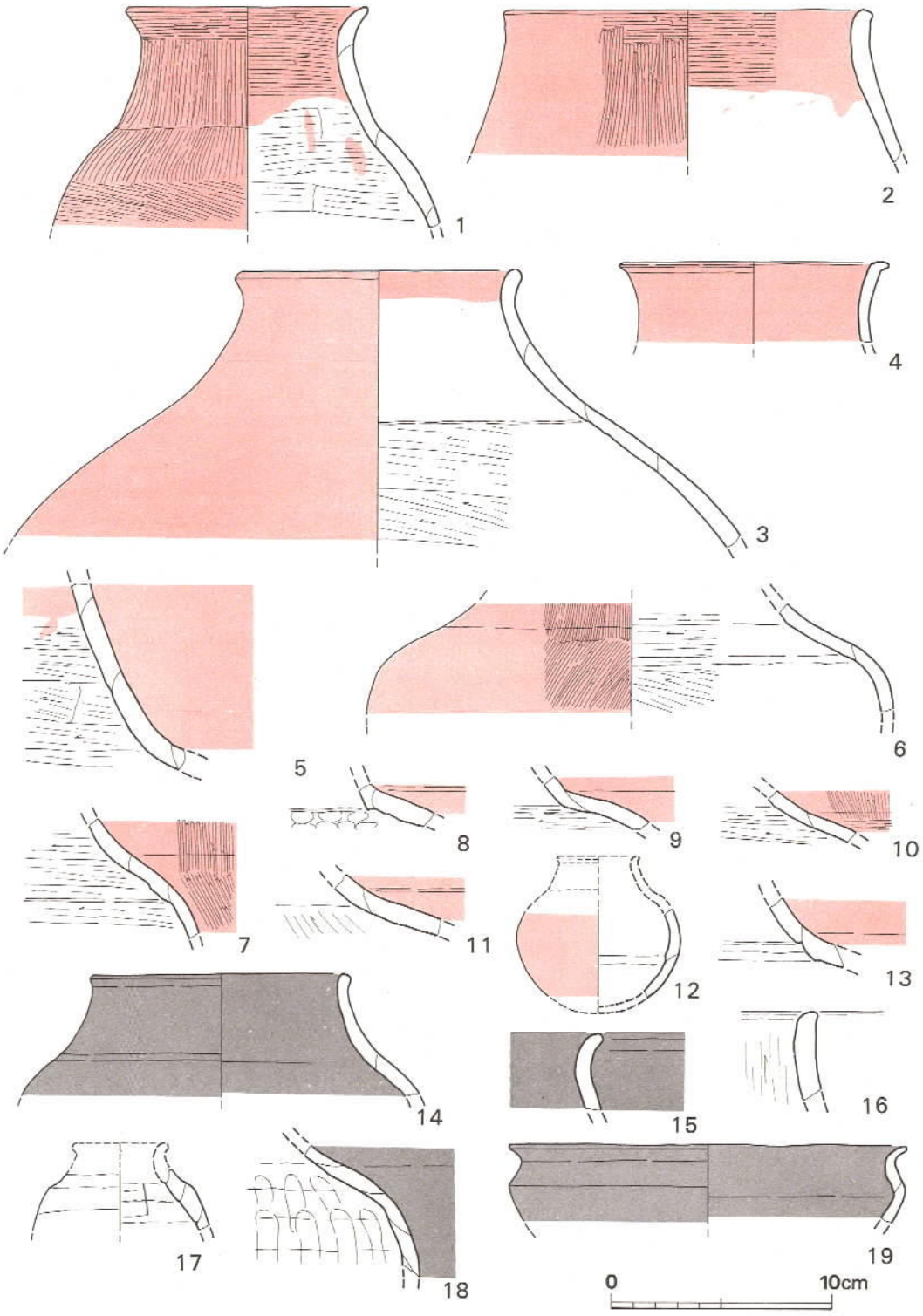
2は丹塗り磨研大形壺の口縁で，口径は15.8cmを測る。口縁内外は横方向ミガキ，頸部外面は縦方向ミガキ，頸部内面はナデ。内面の地は黄白色，丹はやや明るい赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

3は丹塗り磨研大形壺である。口縁はわずかに外反し，頸は短く、肩は不明瞭で，そのまま胴部につづく。復原口径は12.2cmとそれほど大きくはないが，それに比して胴部はかなり大きくなりそうである。口縁内面から外面にかけては横方向ミガキ，頸部内面はナデ，胴部内面はナデ風の横方向擦過。地は黄白色，丹は暗赤色を呈するが，口縁から胴部にかける大黒斑と，肩部付近に小黒斑がみられる。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

4は丹塗り磨研壺の口縁片である。口縁は短く直に外反している。内外ともに横方向ミガキ。地色は黄褐色，丹は暗紅色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

5は丹塗り磨研大形壺の頸･肩部片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面は横方向の粗い擦過，肩部内面はナデ風の横方向擦過。内面は淡黄褐色，丹はやや明るい赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

6は丹塗り磨研壺の肩・胴部片である。肩部復原径は16.7cmを測る。頸から肩にかけては縦方向ミガキ，胴部上半は斜方向ミガキ，内面は横方向擦過。内面は淡黄褐色，丹は濃赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 90 図　W－3 区包含層（8 層）出土土器1 （縮尺1/3）

7は丹塗り磨研壺の頸・肩部片である。頸から肩にかけては縦方向ミガキ，胴部上半は斜方向ミガキ，内面は横方向擦過。内面は淡黄褐色，丹は濃赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。6と同一個体の可能性もある。

8は丹塗り磨研壺の肩部片である。外面は横方向ミガキ，内面はナデ，肩部内面には指頭圧痕が明瞭である。内面は灰白色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

9は丹塗り磨研壺の肩部片である。外面は横方向ミガキ，頸部内面はナデ，胴部内面は横方向擦過。頸部内面は黄褐色，胴部内面は淡褐色，丹はやや明るい赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

10は丹塗り磨研壺の肩部片である。頸から肩にかけては縦方向ミガキ，胴部上半から下は横方向ミガキ，内面は横方向擦過。内面は黄褐色，丹は濃赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

11は丹塗り磨研壺の肩部片である。外面は横方向ミガキ，頸部内面は横方向ナデ，肩部内面は縦方向ナデ。内面は灰色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

12は丹塗り磨研小形壺の胴部片である。復原胴部最大径は7.3㎝を測る。外面は横方向ミガキ，内面はナデ。内面は白色，丹は暗赤紫色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

13は丹塗り磨研壺の肩部片である。外面は横方向ミガキ，内面はナデ。内面は淡黄褐色，丹はやや明るい赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

14は黒色磨研壺で，復原口径は11.4㎝を測る。外面から頸部内面までは横方向ミガキ，肩部内面は横方向擦過。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

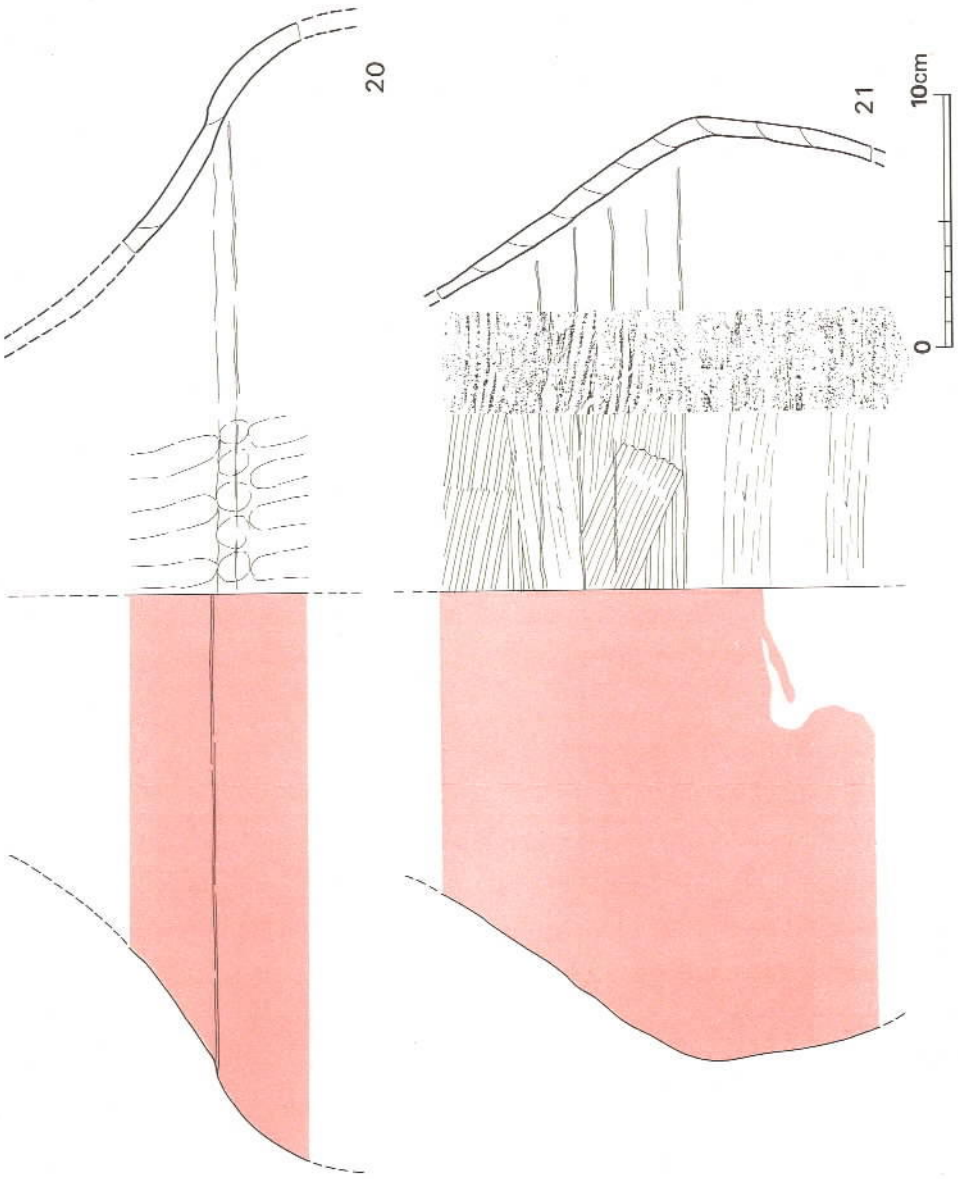
15は黒色磨研壺の口縁片である。口縁外面は横方向擦過，他は内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

16は直立する短頸壺の口縁片と思われる。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面は縦方向擦過。黄白色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。無文土器系の短頸壺で，132と同一個体の可能性もあるが，直接にはつながらない。

17は粗製の小壺の肩・胴部片である。外面はナデ，内面は横方向擦過ののちナデ。明茶色を呈するが，胴部に黒褐色の黒斑がある。胎土には微量の砂粒と金雲母片を含み，焼成は良好。

18は黒色磨研壺の肩・胴部片である。外面は横方向ミガキ，内面はナデで肩部以下には指頭圧痕が明瞭である。内面は黒褐色，外面は灰黒色を呈する。胎土には小量の砂粒を含み，焼成は良好。

19は黒色磨研浅鉢又は高坏で，復原口径は17.6㎝を測る。内外ともに横方向ミガキ。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。



第91図　W－3区包含層(8層)出土土器2（縮尺1/3）

20は丹塗り磨研大形壺の頸・肩部片である。肩の復原径は37.2cmを測る。外面は横方向ミガキ，内面はナデで指頭圧痕が明瞭。内面は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

21は丹塗り大形壺の頸・胴部片で，8層からの5片，11層からの2片が接合された。肩は不明瞭でだらだらと胴部につづいている。胴部最大径の復原値は37.3cm。外面は横方向擦過のの

ちナデ，頸・肩部内面は条痕ののち擦過，胴部内面は横方向擦過ののちナデ。内面は茶褐色，外面は茶褐色の地に赤褐色の化粧土風のきたない丹塗りを施している。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

22は黒色磨研深鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

23は丹塗り，黒塗り磨研埦で，復原口径は19.2cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。地は淡黄色，口縁端から内面は淡赤色の丹塗りで，他に鮮紅色の水銀朱と思われる赤色顔料の痕跡が各所にみられる。外面は黒塗りで黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

24は黒色磨研高坏又は浅鉢で，復原口径は12.1cmを測る。口縁内面から外面は横方向ミガキ，内面は横方向擦過。内面は黒褐色，外面は黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

25は黒色磨研浅鉢で，復原口径は18.9cm，肩部径は21.0cmを測る。口縁は外反し，口縁下には段をつくり，頸は長く，肩には明瞭な段をつくり，沈線１条をめぐらしている。古い要素をもつものである。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

26は黒色磨研浅鉢の肩部片である。肩の段は明瞭で，25のような長頸の浅鉢になるものである。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

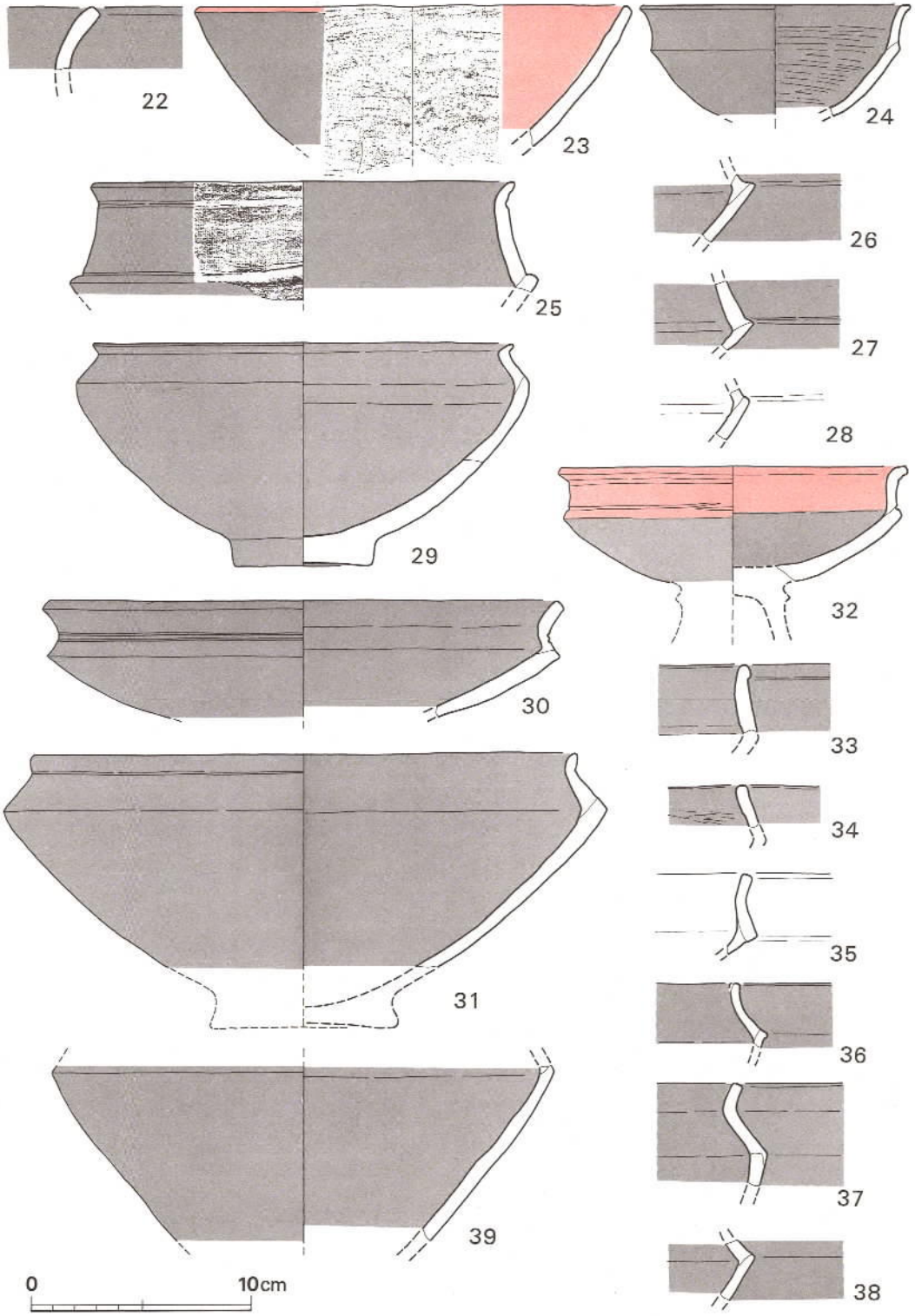
27は黒色磨研浅鉢の肩部片である。肩の段は明瞭で，25と同様の長頸の浅鉢になるものである。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色～黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

28は浅鉢肩部片である。前三者に比べると，若干肩の段の張り具合が弱いが，同じく長頸の浅鉢と思われる。内外ともに横方向ミガキ。黄褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

29は黒色磨研浅鉢で，器高10.2cm，口径18.8cm，肩部径20.4cm，底径6.2cmを測る。内底はミガキ，底部近くは斜方向ミガキ，外底は擦過ののちミガキ，他は内・外面，底部外側ともに横方向ミガキ。黒褐色～黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

30は黒色磨研高坏又は浅鉢で復原口径は22.8cmを測る。頸部に２条の細い沈線をめぐらしている。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色～黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。W－２区26と同様な形態をもち同一個体の可能性も考えられるが，径・口縁部の高さ等大きさがちがうようである。

31は黒色磨研浅鉢である。８層より１片，11層より２片，16層より３片出土したものが接合した。復原口径は24.4cm，復原肩部径は27.1cm，復原器高は12.5cm程のものである。内外とも



第 92 図　W－3区包含層(8層)出土土器3 (縮尺1/3)

に横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

32は黒色磨研高坏にさらに丹塗りを加えたものである。復原口径は15.6cm。口縁は外反し，肩は張り明瞭な段をつくる。口縁下と肩の上に各1条ずつ沈線をめぐらしている。内面から外面の体部上半までは横方向ミガキ，体部下半はミガキ。黒褐色～黒色を呈し，さらに口・頸部の内外に鮮やかな赤色の丹塗りが施されている。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

33は黒色磨研浅鉢又は高坏の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

34は黒色磨研浅鉢の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面は横方向擦過。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

35は浅鉢の口縁片であるが，肩部の接合のしかたが，他のものとは逆になっている。内外ともにナデ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

36は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は暗茶褐色，外面は黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

37は黒色磨研浅鉢片である。口縁部は外反し頸はやや長く，深目のものになりそうである。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

38は黒塗り磨研浅鉢の肩部片である。内面から，外面の肩までは横方向ミガキ，肩より下は風化のためミガキ方向不明。明茶褐色の地の上から黒色顔料を塗っている。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良。

39は黒色磨研浅鉢の肩・体部片である。肩部の復原径は22.5cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面は黒褐色～黒色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

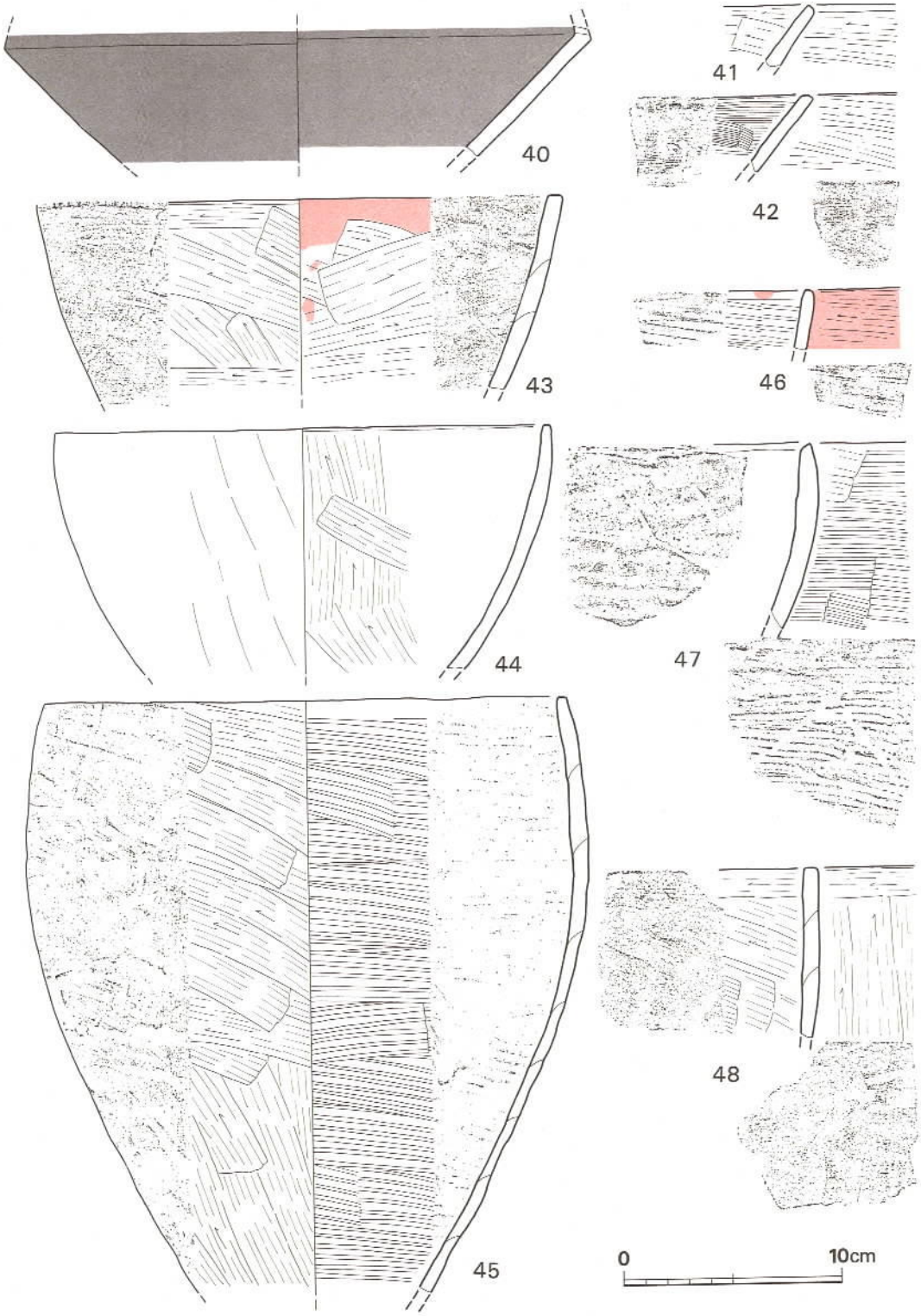
40は黒色磨研浅鉢の肩・体部片である。8層から1片，11層から1片出土したものが接合された。肩部の復原径は26.6cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

41は鉢の口縁片である。内外ともにミガキ風の横方向擦過。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

42は鉢の口縁片である。内面はハケ目，外面は横方向擦過。内面は黄褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

43は直立する甕で，復原口径は23.8cmを測る。内面は削り風の横方向擦過，口縁外面は横方向，胴上半は斜方向，胴下半は横方向の擦過。内面は灰黄色を呈するが，口縁には淡赤褐色の丹塗りが施されている。外面は褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

44は直立する甕である。8層から4片，11層から1片，16層から1片他2片が接合されたものである。復原口径は22.5cmを測る。内外ともに縦・斜方向の擦過。内面の上半は黒褐色，下



第 93 図　W－3 区包含層（8 層）出土土器4 （縮尺1/3）

半は黄褐色，外面は暗褐色を呈するが，口縁下5～6cm以下は二次的火熱を受けて赤褐色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

45は８層出土のものと11層より出土した口縁片1片が接合された。直立する甕で，復原口径は23.8cmを測る。内面は横方向条痕，口縁内面はナデ。外面の上半は斜方向擦過，下半は縦および斜方向の擦過。内面は淡茶色，外面は底部近くは茶褐色であるが大部分は褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

46は直立する甕の口縁片である。内面は横方向条痕，口縁内面から外面は横方向擦過。内面は淡茶色，外面はその上から淡赤色の丹塗りを加えている。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

47は直立する甕の口縁片である。内面は擦過ののちナデ，外面は横方向条痕と一部横方向擦過。内面は黄褐色，外面は淡褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

48は直立する甕の口縁片である。口縁内外はナデ風の横方向擦過，内面は斜方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は淡茶褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

49は直立する甕で，復原口径は24.8cmを測る。内面は条痕，外面は斜・横方向の擦過。内面は淡茶色，外面は暗褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。45と同一個体の可能性もあるが，直接つながらない。

50は直立する甕の口縁片である。口縁内外はナデ風の横方向擦過，他は内外ともにナデ風の縦方向擦過。内面は明茶色，外面は暗褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

51は直立する甕の口縁片である。口縁内外は横方向擦過。暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

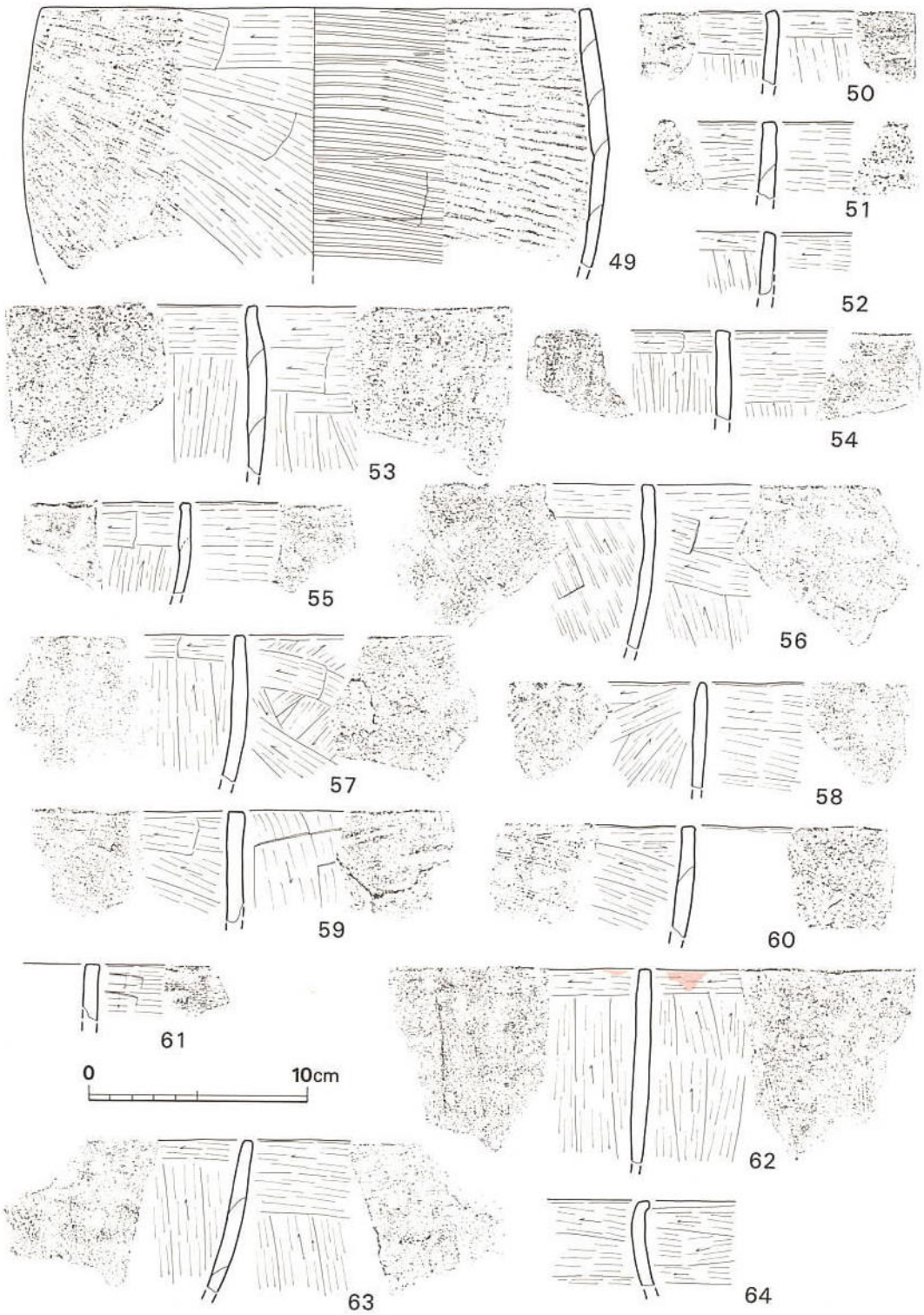
52は直立する甕の口縁片である。口縁内外はナデ風の横方向擦過，内面はナデ風の縦方向擦過。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

53は直立する甕の口縁片である。口縁内外はナデ風の横方向擦過，内面は縦方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は淡茶褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

54は直立する甕の口縁片である。口縁内外はナデ風の横方向擦過。内面は縦方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は灰黄色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

55は直立する甕の口縁片である。口縁内面はナデ風の横方向擦過，内面はナデ風の縦方向擦過，外面はきたない横方向の擦過。灰黄色を呈し，胎土には微量の細砂粒を含み，焼成は良好。

56は直立する甕の口縁片である。内面は条痕風の粗い擦過ののちナデ，口縁内外はナデ風の横方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面の下半は褐色，上半は暗黄褐色，外面は淡褐色をを呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 94 図　W－3 区包含層(8 層)出土土器5 (縮尺1/3)

57は直立する甕の口縁片である。内面は縦方向擦過，口縁内面は横方向擦過，外面は擦過。内面は淡褐色～黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

58は直立する甕の口縁片である。内面は粗い斜方向の擦過，外面は粗い横方向の擦過ののちナデ。内面は淡褐色，外面は褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

59は直立する甕の口縁片である。内面は横方向擦過，外面はナデ風の縦方向の擦過。内面は暗黄褐色，外面は黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

60は直立する甕の口縁片である。内面は横方向擦過，口縁内面は横方向ナデ，外面はナデ。内面は茶褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

61は直立する甕の口縁片である。内面はナデ，外面は縦方向擦過ののち横方向擦過。内面は淡茶色，外面は暗褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

62は直立する甕の口縁片である。口縁内外はナデ風の横方向擦過，他は内外ともにナデ風の横方向擦過。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。口縁の一部には淡赤色の丹の痕跡がみられる。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

63は直立する甕の口縁片である。口縁内外は横方向擦過，他は内外ともに縦方向擦過。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

64は肩で屈曲する甕の口縁片である。内面から口縁端まではナデ風の横方向擦過，外面は横方向擦過。内面は黒色，外面は黒褐色～褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

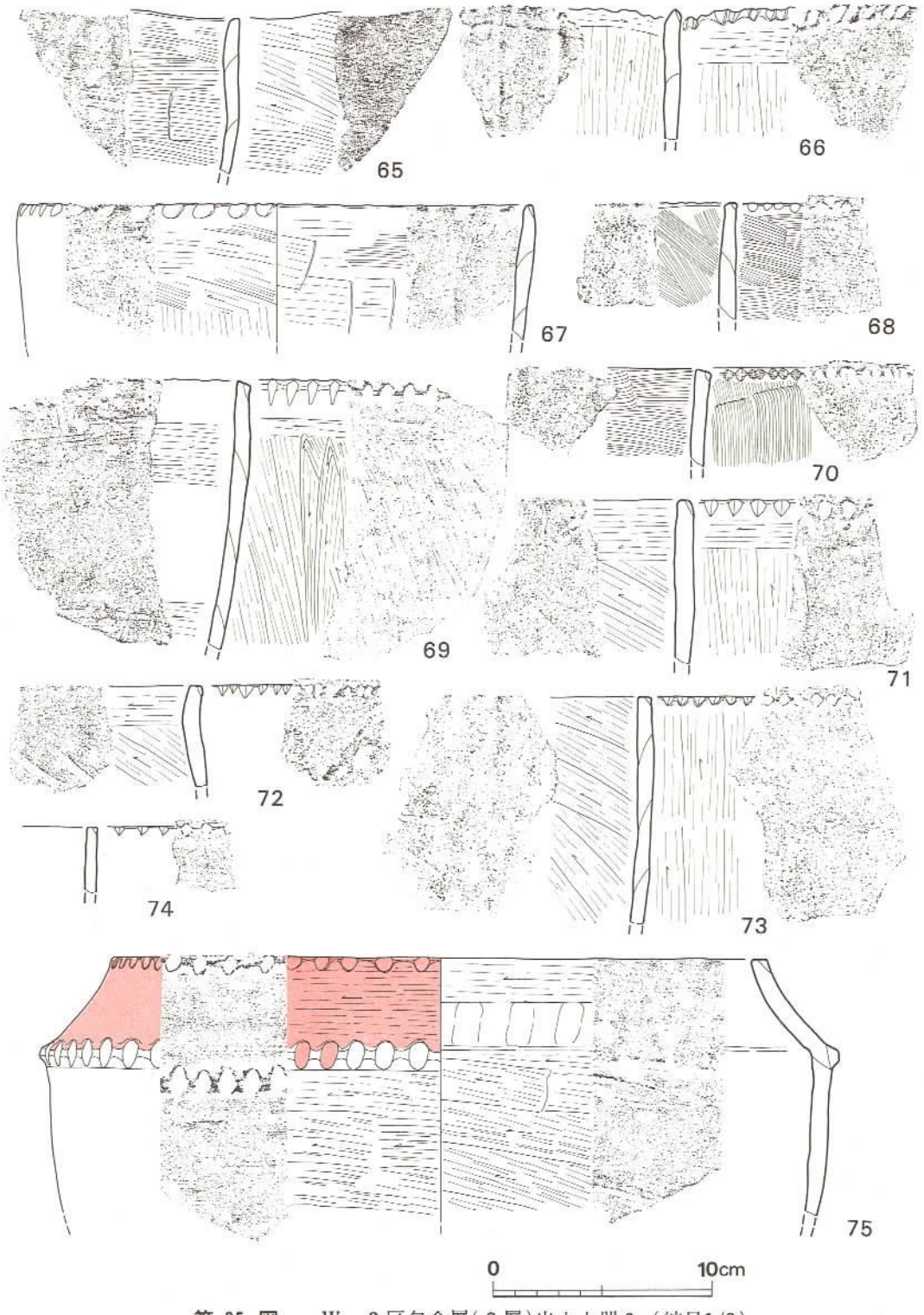
65は直立する甕の口縁片である。口縁はかなり波をうっている。内面は擦過というよりハケ目といってよい。口縁外面は横方向擦過，それより以下はハケ目風の横方向擦過。口縁内面に指紋が付着している。暗黄褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

66は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は縦方向擦過，口縁内面は横方向擦過，口縁外面はナデ風の横方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は淡褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

67は直立する甕の口縁片で，復原口径は23.2cmを測る。口縁には棒状工具による大きな刻目を施している。内面は一部ハケ目風の斜方向擦過，口縁外面は一部ハケ目風の斜方向擦過，外面は縦方向擦過。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

68は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。口縁内外はハケ目。内面は淡茶色，外面は明茶色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

69は直立する甕で，口縁には棒状工具による刻目を施している。内面は横方向擦過ののち部分的にナデを加えている。口縁内外はナデ，外面は縦方向擦過。内面から口縁直下までは黄褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 95 図　W－3 区包含層（8 層）出土土器 6 （縮尺1/3）

70は直立する甕の口縁片である。口縁にはハケ目工具による刻目を施している。内面は横方向，外面は縦方向のハケ目。工具幅は26㎜を測る。内面は黒褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

71は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる大きな刻目を施している。内面は斜方向の擦過，口縁内外はナデ風の横方向擦過，外面はナデ風の擦過。内面は淡茶色，外面は暗褐色～黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

72は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は斜方向擦過口縁内面は横方向擦過，外面は風化のため不明。暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

73は直立する甕である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は斜方向の擦過で，上半はハケ目に近い。外面はナデ風の縦方向擦過。内面下半は褐色，上半は黄褐色，外面は褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

74は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

75は肩で屈曲する甕である。口頸部の内傾度はつよい。復原口径は30.0㎝，復原肩部径は36.6㎝を測る。口縁と肩には棒状工具による大きな刻目を施している。内面は横方向擦過であるが，頸部下半はナデで指頭圧痕が明瞭である。内面は黄褐色～黒褐色，外面は淡黄色を呈する。頸部には淡赤褐色の化粧土風の丹塗りを施している。

76は肩で屈曲する甕である。復原口径は16.5㎝，復原肩部径は18.5㎝を測る。口縁と肩部にはヘラによる刻目を施している。内面は斜方向の擦過，肩部には指頭圧痕がみられる。口縁内面から肩部までは横方向擦過，胴部は縦方向擦過。内面は淡黄褐色，口頸部は茶褐色，胴部は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

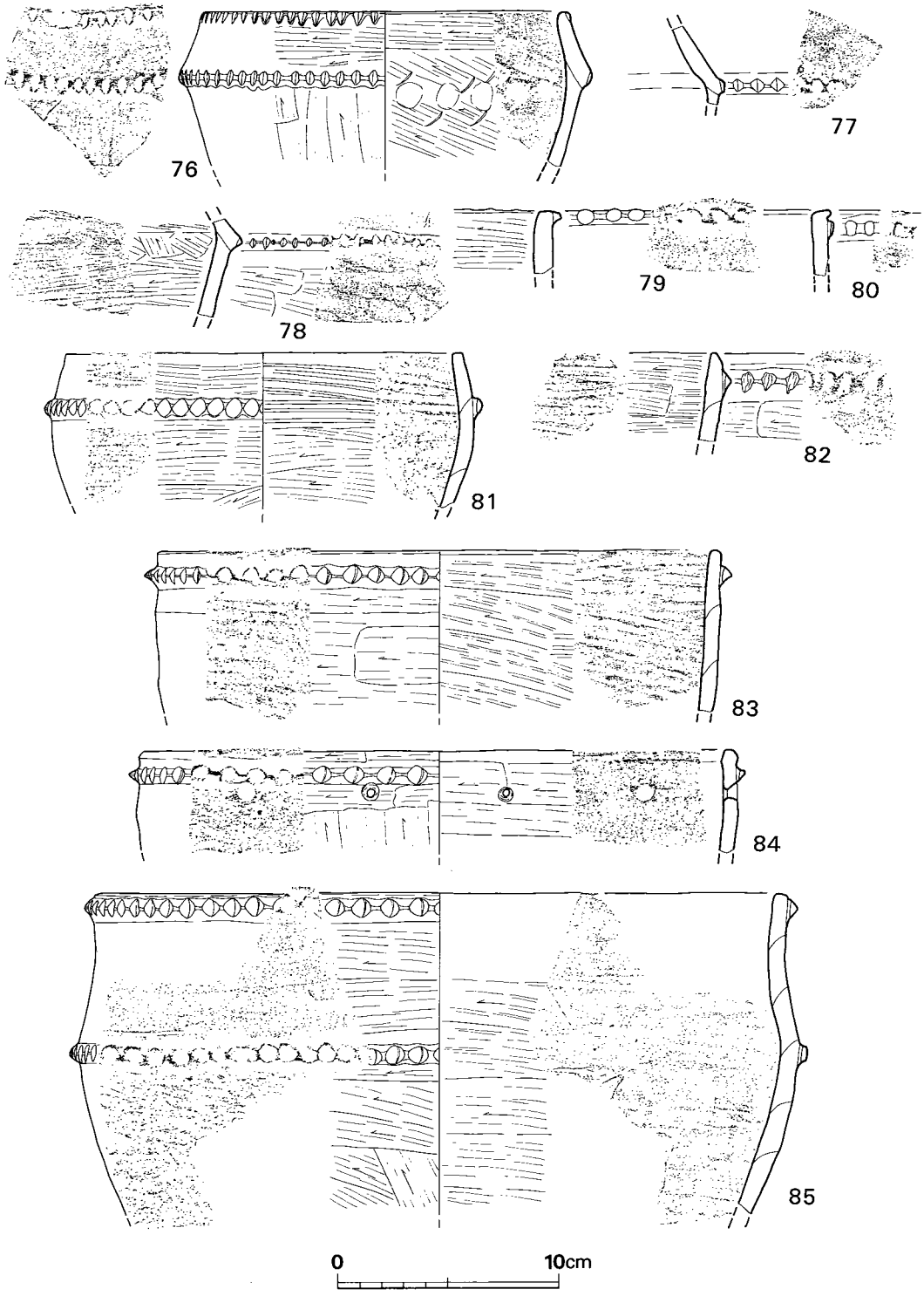
77は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。明茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

78は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩にはヘラによる刻目を施している。内面は擦過，頸部外面はナデ，胴部外面は削り風の擦過。内面は暗茶色，外面は灰黄色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

79は直立する甕である。口縁外側には凸帯を貼付し，棒状工具による大きな刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，口縁上端から口縁下にかけては横方向ナデ，外面はナデ。内面は黒褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

80は直立する甕の口縁片である。口縁下5～14㎜程の間に凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内外ともにナデ。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

81は直立する甕で，復原口径は17.8㎝を測る。口縁下20～30㎜程の間に凸帯を貼付し，爪に



第 96 図　W－3 区包含層(8 層)出土土器7 （縮尺1/3）

よる刻目を施している。胴部内面はナデ風の横方向擦過，頸部内面は横方向条痕，口縁内外は横方向のナデ，凸帯より上は横方向条痕ののちナデ，凸帯より下は横方向擦過。内面から凸帯の上までは淡灰褐色，凸帯より下は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

82は直立する甕の口縁片である。口縁下７～22㎜程の間に凸帯を貼付し，工具原体不明のきたない刻目を施している。内面は横方向の条痕風の擦過，口縁端は横方向ナデ，外面は横方向条痕。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

83は直立する甕で，復原口径は25.3㎝を測る。口縁下７～17㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は条痕風の擦過，口縁から凸帯下まではナデ風の横方向擦過，外面は粗い横方向の擦過。内面は明黄橙色，外面は褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

84は直立する甕の口縁片で，復原口径は26.5㎝を測る。口縁下７～15㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面から凸帯下までは横方向擦過，外面は縦方向擦過。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。凸帯下に補修孔を両面穿孔している。外の外径7.5㎜，内の外径は７㎜，内径は3.5㎜を測る。

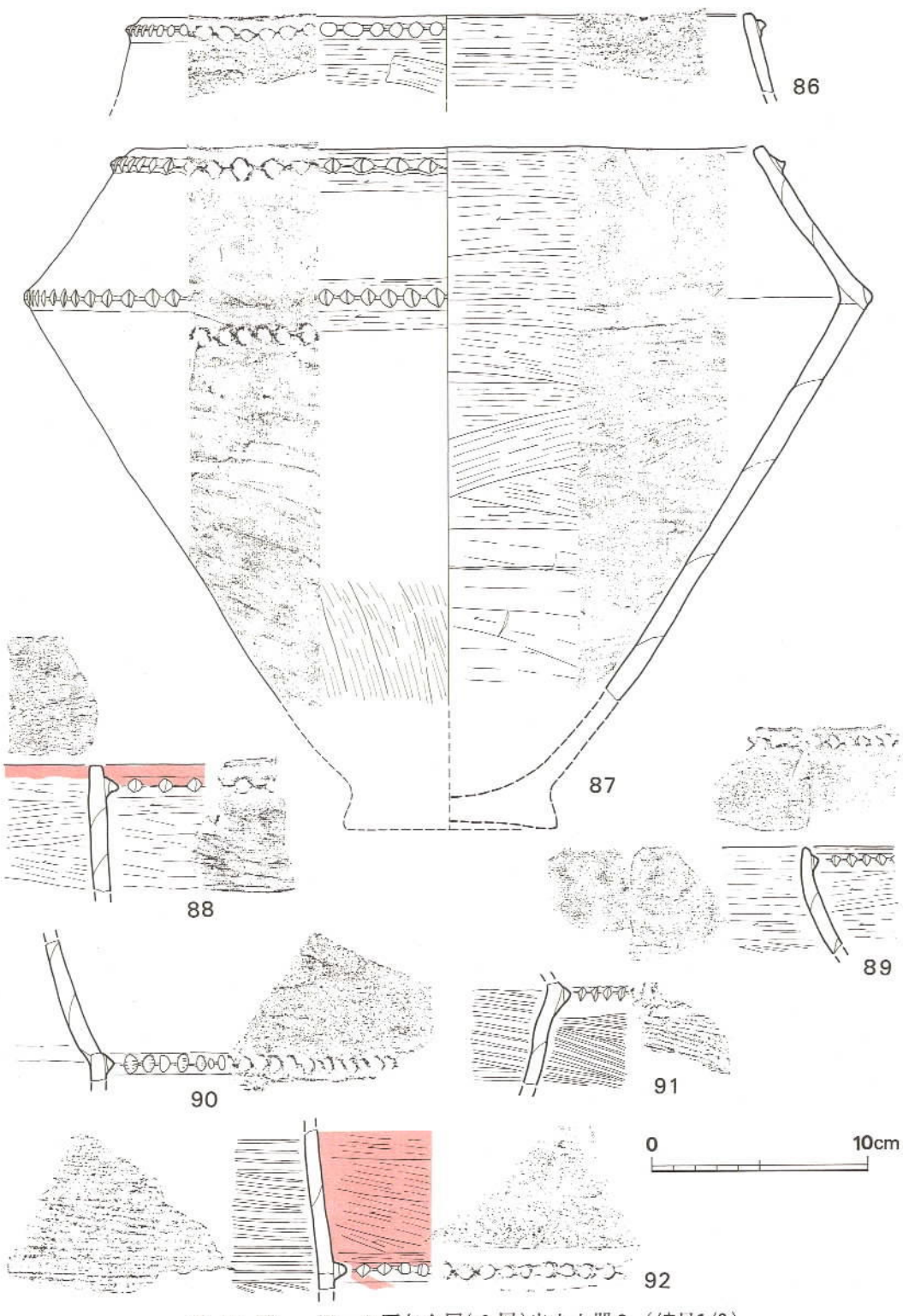
85は８層から出土した１片，16層から出土した２片が接合したものである。肩で屈曲する甕で，復原口径は31.0㎝，復原肩部径は33.0㎝を測る。口縁よりわずかに下ったところと肩に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は横方向擦過ののちナデ，口縁内面から凸帯下までは横方向ナデ，頸部は粗い横方向擦過で一部ナデ，胴部は横・斜方向の粗い擦過。内面は褐色～暗褐色，外面は淡褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

86は肩で屈曲する甕の口縁片で，復原口径は28.0㎝を測る。口縁下３～12㎜程の間に凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内外ともにナデ風の横方向擦過。内面は黒褐色，外面は明茶色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

87は肩で屈曲する甕である。口頸部の内傾度はつよい。口縁下５～17㎜程の間に凸帯をめぐらし，凸帯と肩に爪による刻目を施している。内面から口縁凸帯下まではミガキ風の横方向擦過。頸部と胴部上半は横方向の粗いミガキ，胴部下半は縦方向の擦過。内面は暗黄褐色，外面は淡茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

88は肩で屈曲する甕の肩部片である。口頸部の内傾の度合は弱い。口縁下６～15㎜程の間に，凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面から凸帯の上までと凸帯下は横方向擦過。凸帯はヨコナデ，外面は粗い横方向のミガキ。内面は淡黄色，外面は灰黄色を呈する。口縁内外には淡赤褐色の化粧土風の丹塗りを施している。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

89は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下３～12㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。口縁内面はナデ風の横方向擦過，頸部内面は削り風の横方向擦過，外面は横方向擦過。茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 97 図　W－3 区包含層(8 層)出土土器8 (縮尺1/3)

90は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，先端に丸味のある板木口による刺突の刻目を施す。内外ともにナデ。内面は茶褐色～黒褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

91は甕で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。凸帯部はナデ，他は内外ともに横方向条痕。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

92は肩で屈曲する甕の肩部片である。頸部の内傾度は弱い。肩には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。肩部内面は横方向条痕，頸部内面は条痕の上からナデを加えている。凸帯はナデ，外面は横方向の擦過。内面は淡黄色，外面はその上から淡赤色の丹塗りを施している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

93は丹塗り磨研壺の底部である。底径は6.0㎝を測る。内面と外底は擦過。胴部は縦方向ミガキ，底部外側は横方向ミガキ。内面と外面の地は淡黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

94は丹塗り磨研壺の底部で径は9.4㎝を測る。内面と外底はナデ。外面は横方向ミガキ。内面は黒褐色，外面の地は淡黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

95は丹塗り磨研壺の胴下半部である。底部は丸底化した平底で，復原径は9.7㎝を測る。内面は擦過，外面は斜・横方向のミガキ，外底はミガキ。内面は黄白色，外面の地は黄褐色を呈する。丹は痕跡的であるが，淡赤橙色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

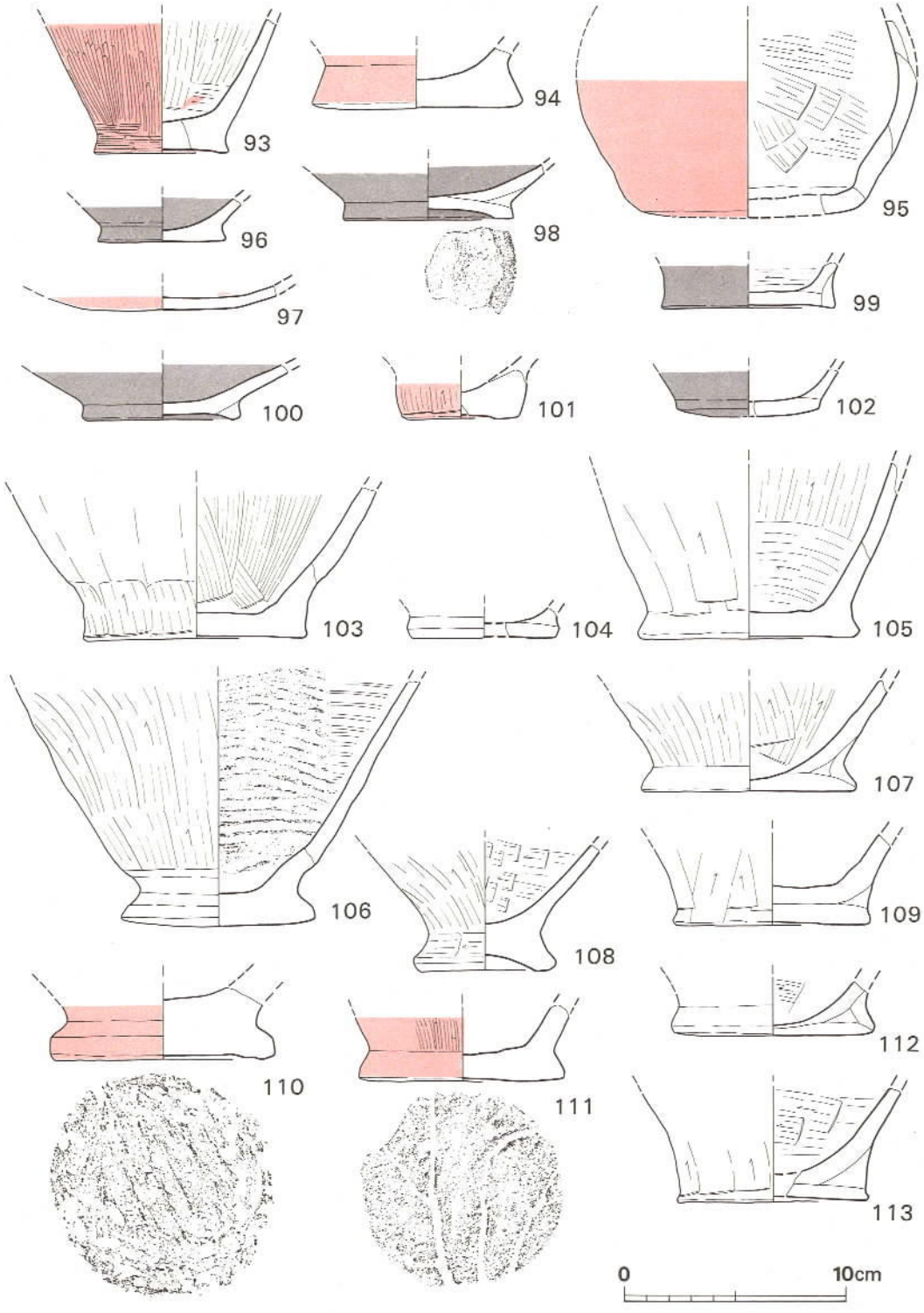
96は黒色磨研浅鉢の底部で，径は5.7㎝を測る。内面はミガキ，外面は横方向ミガキ，外底は擦過。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

97は丹塗り磨研壺の底部で，ほぼ丸底化した平底といえよう。復原底径は7.0㎝を測る。内面は擦過，外面はミガキ。内面は灰色，外面の地も灰白色で，丹は暗赤色を呈する。胎土には黒色粒子微量を含んだ精選粘土を用い，焼成は硬緻できわめて良好。無文土器の丹塗り磨研壺の底部と思われる。

98は黒色磨研浅鉢の底部片で，復原径は7.6㎝を測る。内面はミガキ，外面は横方向ミガキ，外底は板木口によるカキトリで上げ底を呈する。内面は黒色，外面は灰黒色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は極めて良好。

99は黒塗り磨研壺の底部片である。内面は擦過，外面は横方向ミガキ，外底はミガキ。内面は暗茶褐色，外面は茶褐色の地の上に黒色顔料を塗っている。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

100は黒色磨研浅鉢の底部片で，径は7.0㎝を測る。内面はミガキ，外面は横方向ミガキ，外底はナデ。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 98 図　W－3 区包含層（8 層）出土土器9 （縮尺1/3）

101は丹塗りの底部片である。復原径は5.2cmを測る。内面はナデ，外面はハケ目風の縦方向擦過，外底周縁は擦過，外底は板木口によりカキトリでわずかに上げ底を呈する。内面は暗褐色，外面は黄褐色の地の上から淡赤色の丹塗りを施している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。蓋の可能性も考えられる。

102は黒色磨研壺の底部片で，復原径は6.5cmを測る。外底は丸味をもっている。内面はナデ，外面は横方向ミガキ，外底はミガキ。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

103は径10.0cmの底部である。内面は粗いハケ目といってもよい縦方向の擦過，外面は縦方向擦過，外底は擦過。内面は淡茶色，外面は二次的火熱を受けて赤褐色に赤変している。外底は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成良好。

104は復原径6.5cmの底部片である。内外ともにナデ。内面は黄白色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

105は径10.0cmの底部である。内面は横・縦方向擦過，外面は縦方向擦過，外底はナデ。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈するが，底部外側から外底周縁にかけては二次的火熱を受けて淡赤茶色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

106は８層から出土した４片と，11層から出土した２片が接合された。胴下半部で底径は8.6cmを測る。内面は横方向条痕，内底はナデを加えている。外面は縦方向の粗い擦過，底部外側から外底はナデ。内面は淡茶褐色，外面は黄褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

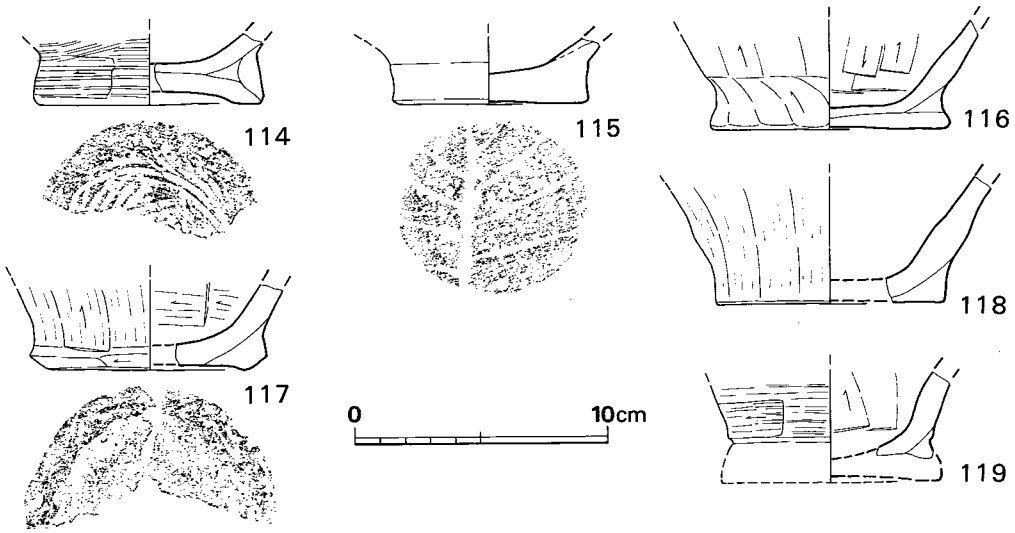
107は復原径9.7cmの底部片である。内面は縦方向擦過，外面は縦方向の粗い擦過，底部外側は横方向擦過ののちナデ。外底はナデ。内面は黒色，外面は淡赤茶色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

108は径6.4cmの底部である。内面は横方向擦過，外面は縦方向擦過，底部外側は横方向擦過，外底周縁はナデ，外底は板木口によるカキトリで上げ底を呈している。内面は茶色，外面は茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

109は復原径8.8cmの底部片である。内面はナデ，外面は縦方向擦過，外底はナデ。内面は淡黄褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

110は径10.0cmの丹塗りの底部である。内面は擦過，外面は横方向擦過ののちナデ，外底は板木口によるカキトリでわずかに上げ底を呈する。内面は暗黄褐色，外面の地は淡黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

111は丹塗り磨研壺の底部で，径は7.1cmを測る。内面は板木口による回転ナデ風の擦過，外面は縦方向ミガキ，底部外側はナデ，外底には木葉痕が残っているが，ナデ調整である。内面は淡黄色，外面の地は黄褐色，丹は淡赤色を呈する。胎土には少量の砂粒と赤色粒子を含む。



第 99 図　W－3区包含層(8層)出土土器10（縮尺1/3）

焼成は良好。

112は径9.2cmの底部片である。内面はミガキ風の擦過，外面は横方向擦過，外底はナデ。内面は黒色，外面は灰黄色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

113は復原径8.6cmの底部片である。内面は横方向擦過，外面は縦方向擦過ののちナデ。外底は擦過。内面は黒色，外面は淡黄色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

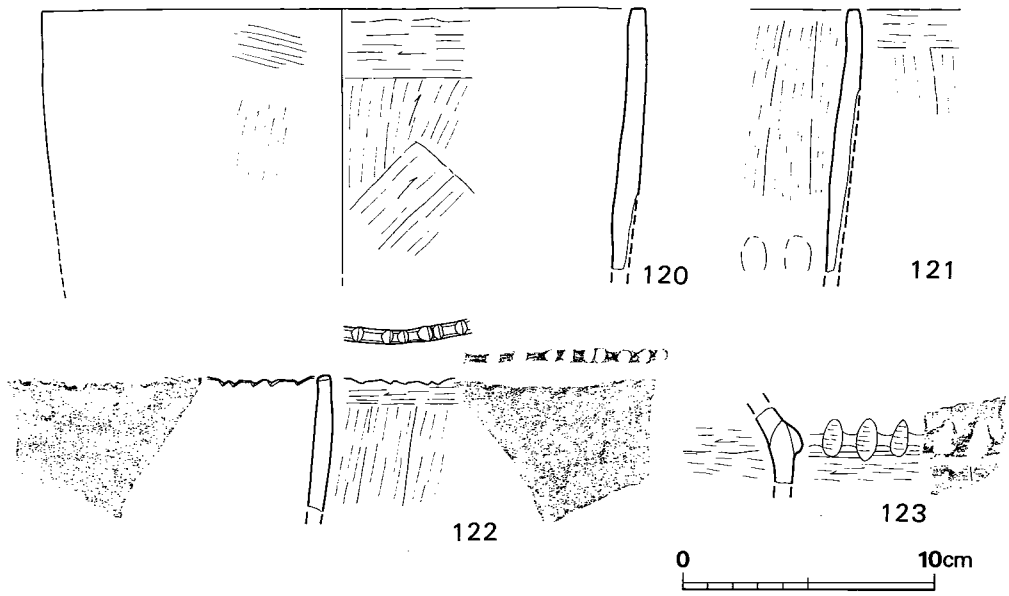
114は復原径9.0cmの底部片である。内面は擦過ののちナデ，外面は横方向条痕，外底周縁はナデ，外底は条痕工具によるカキトリで上げ底を呈する。内面は淡茶色，外面は褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

115は径7.6cmの浅鉢底部である。内面はミガキ，外面は横方向ミガキ，底部外側はナデ，外底には木葉痕がのこる。茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

116は復原径9.4cmの底部片である。内外ともに縦方向擦過，底部外側は削り風の擦過，外底は粗い擦過，外底周縁はナデ。内面は黄褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

117は復原径9.2cmの底部片である。内面は横方向擦過，外面は縦方向擦過，底部外側は横方向擦過，外底は板木口によるカキトリ。内面は淡茶色，外面は黒褐色，外底は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

118は径算出不能なので9.0cmで復原して図示した。内面はナデ，外面はナデ風の縦方向擦過，外底はナデ。内面は黄褐色，外面は淡茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 100 図　W－3 区包含層(9 層)出土土器11（縮尺1/3）

119は径算出不能なので8.6cmで復原して図示した。内面は縦方向擦過，外面は条痕風の横方向擦過。内面は黒色，外面は黄褐色を呈するが，二次的火熱により赤桃色に赤変している。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

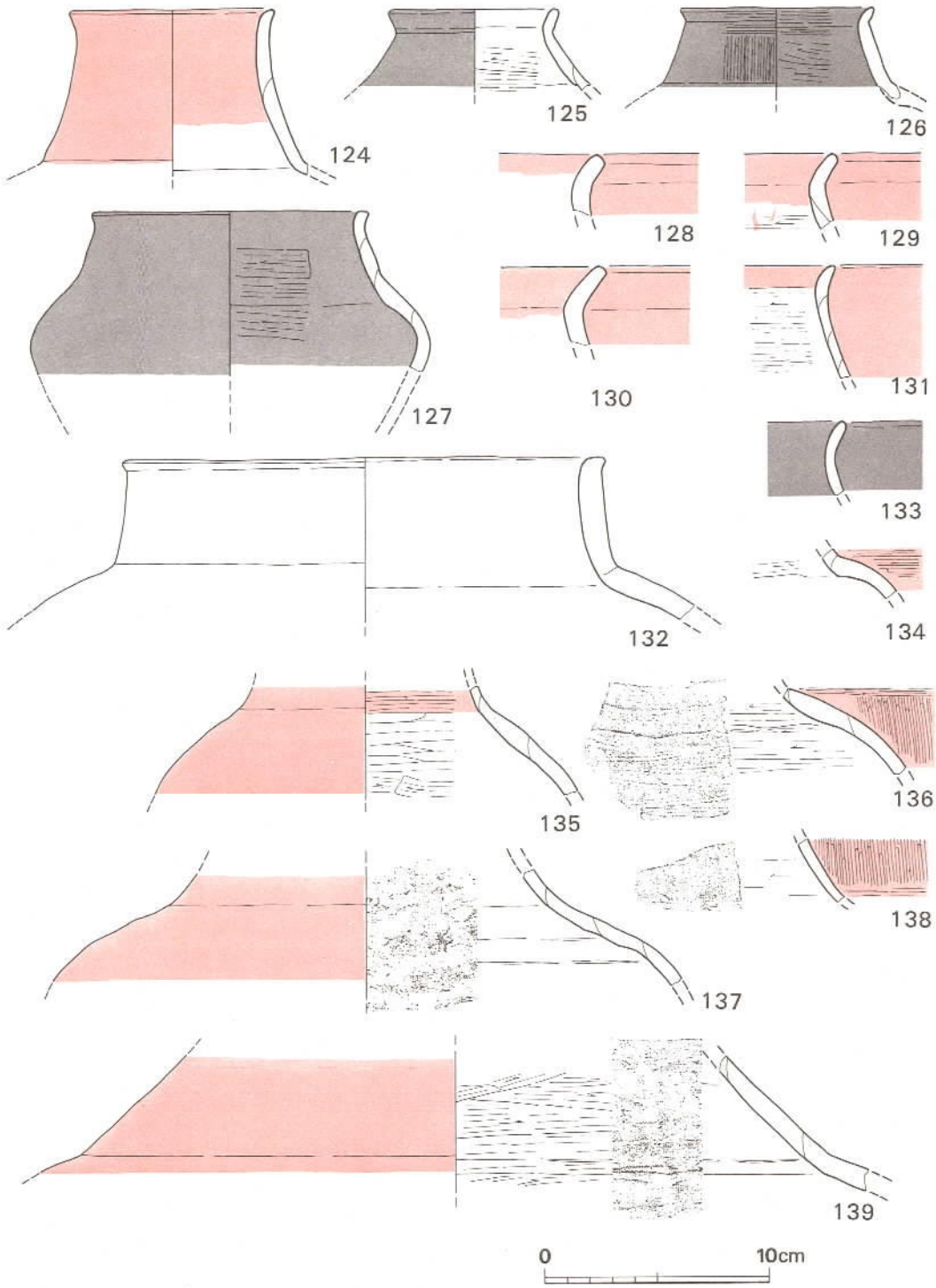
〈9層出土土器〉

120は直立する甕で，復原口径は23.6cmを測る。内面は斜・縦方向擦過，口縁内面は横方向擦過，外面は擦過ののちナデ。内面は暗褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

121は直立する甕である。内面の下半は横方向ナデで指頭圧痕がみられ指紋も残っている。上半は縦方向擦過，口縁外面は横方向擦過ののちナデ，外面は縦方向擦過ののちナデ。黒褐色を呈するが，外面は二次的火熱を受けて，器表が剝落し，かつ暗赤紫色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

122は直立する甕の口縁片である。口縁上端にはヘラによる刻目を施している。内面は横方向擦過ののちナデ，口縁外面はナデ風の横方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は茶褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

123は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，丸味のある板木口で押圧した大きな刻目を施している。内面は横方向擦過，外面の肩より上はナデ，肩より下は横方向擦過。淡褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 101 図　W－3区包含層(11層)出土土器12（縮尺1/3）

〈11層出土土器〉

124は丹塗り磨研壺の口・頸部片である。外面から頸部上半は横方向ミガキ，頸部下半以下はナデ。地は黒色で，本来黒色磨研壺に丹塗りを加えたものと考えられる。丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

125は黒塗り磨研壺の口・頸部片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面はナデ風の横方向擦過。内面は黒褐色，外面の地は明茶褐色を呈し，その上から黒色顔料を塗っている。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

126は黒色磨研壺の口・頸部で，口径は8.6cmを測る。口縁内外は横方向ミガキ，頸部は縦方向ミガキ，肩部は横方向ミガキ，頸部内面は横方向擦過。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

127は黒色磨研壺で，復原口径は12.0cmを測る。外面から口縁内面までは横方向ミガキ，頸部内面から肩部内面にかけては横方向擦過，胴部内面は横方向ミガキ。内面は黒色，外面は灰黒色～黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

128は丹塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面は横方向ナデ。地は淡黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

129は丹塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面は横方向擦過。地は淡茶色，丹はやや鮮やかな紅色。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

130は丹塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面はナデ風の横方向擦過。地は淡茶色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

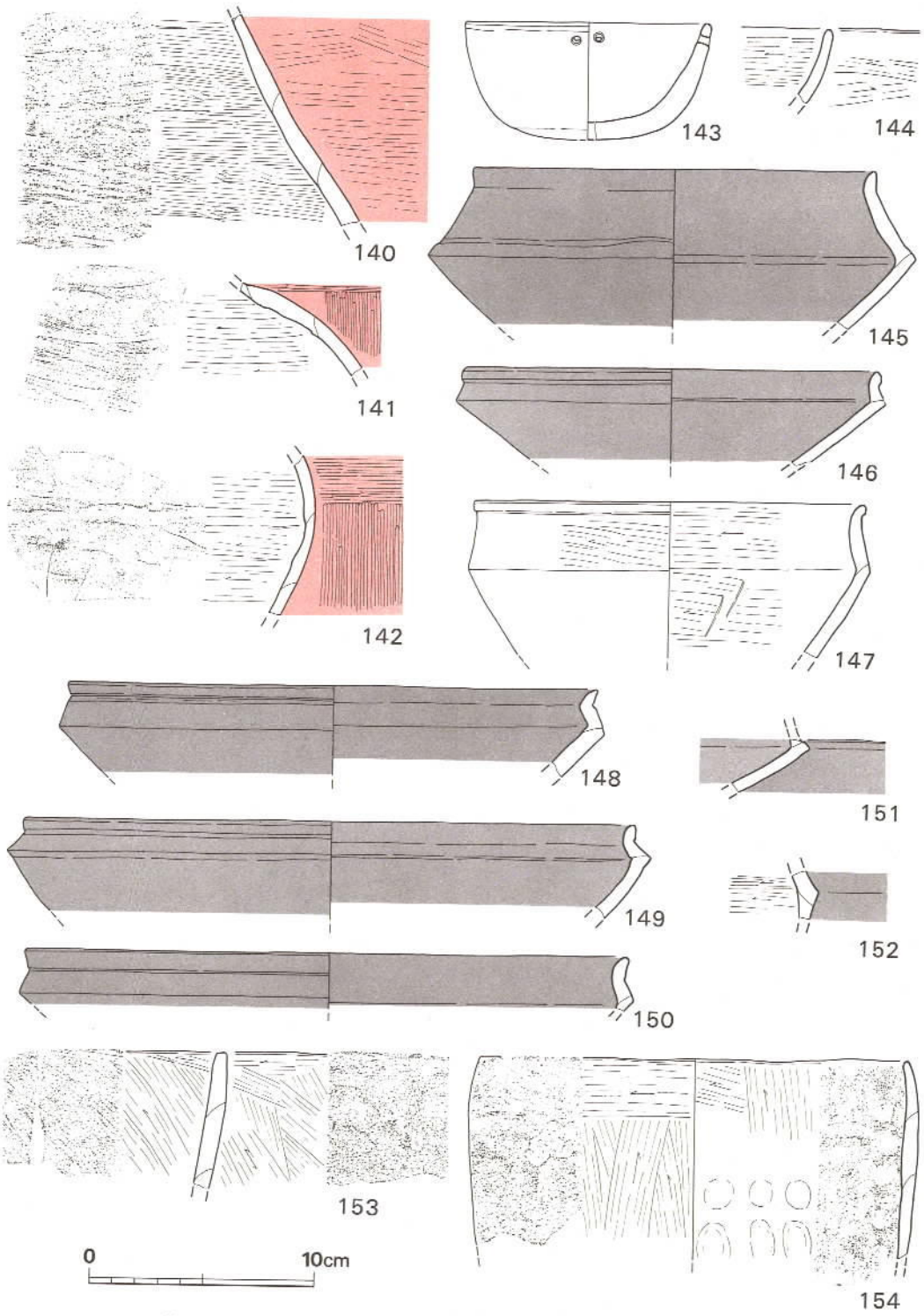
131は丹塗り磨研壺の口縁片である。外面は横方向ミガキ，内面はナデ風の擦過，口縁内外は風化のため不明。地は淡黄褐色，丹は暗紅色を呈する。胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

132は口縁がほぼ直立する短頸の大形壺である。11層から出土した3片，16層から出土した2片が接合したもので，この他に8層から出土した97の口縁，11層，17層より出土した211の底部等がこの土器と同一個体になるものと思われる。無文土器の短頸壺の系統のものである。復原口径は21.4cm，復原肩部径は22.2cmを測る。内外ともにナデ風の横方向ミガキ。黄白色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

133は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

134は丹塗り磨研壺の肩部片である。外面は横方向ミガキ，頸部内面は横方向擦過，肩部内面は横方向ナデ。内面は黒色，丹は暗赤褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

135は丹塗り磨研壺の肩・胴部片である。復原肩部径は11.2cmを測る。外面と頸部内面は横方向ミガキ，肩部内面は横方向の粗いミガキ，胴部内面は横方向擦過。内面は黒色，丹は暗紅色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 102 図　W－3 区包含層(11層)出土土器13（縮尺1/3）

136は丹塗り磨研壺の肩・胴部片である。肩の段付近は横方向ミガキ，胴部上半は縦方向ミガキ，内面はナデ風の横方向擦過。内面は灰黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

137は丹塗り磨研壺の頸・胴部片で，復原肩径は13.5cmを測る。外面は横方向ミガキ，内面は横方向擦過。内面は灰色，外面の丹は鮮やかな暗紅色部分ときたない暗赤茶色部分とがある。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

138は丹塗り磨研壺の肩部片である。頸部は縦方向ミガキ，肩の段の付近は横方向ミガキ。内面は灰黄色，丹は淡赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

139は丹塗り磨研壺の頸・肩部片である。復原肩部径は33.5cmを測る。外面は横方向ミガキで肩の段は特に丁寧に仕上げている。外面は横方向擦過。内面は黒色部分と黄白色部分とがある。丹はやや明るい淡赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

140は丹塗り大形壺の頸部片である。11層から出土した4片と，17層から出土した1片が接合された。内面は条痕をハケ目風擦過でかき消す。外面は縦横の擦過。内面は茶褐色，外面は茶褐色の地の上から赤褐色の化粧土風のきたない丹塗りを施している。

141は丹塗り磨研壺の肩・胴部片である。内面はナデ風の横方向擦過，肩の段の付近は横方向ミガキ，胴部上半は縦方向ミガキ。内面は灰黄色，丹はやや明るい淡赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。136と同一個体の可能性もあるが，直接にはつながらない。

142は丹塗り磨研壺の胴部片である。胴上半は横方向ミガキ，胴下半は縦方向ミガキ，内面は横方向擦過。内面は灰黄色，丹はやや鮮やかな暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

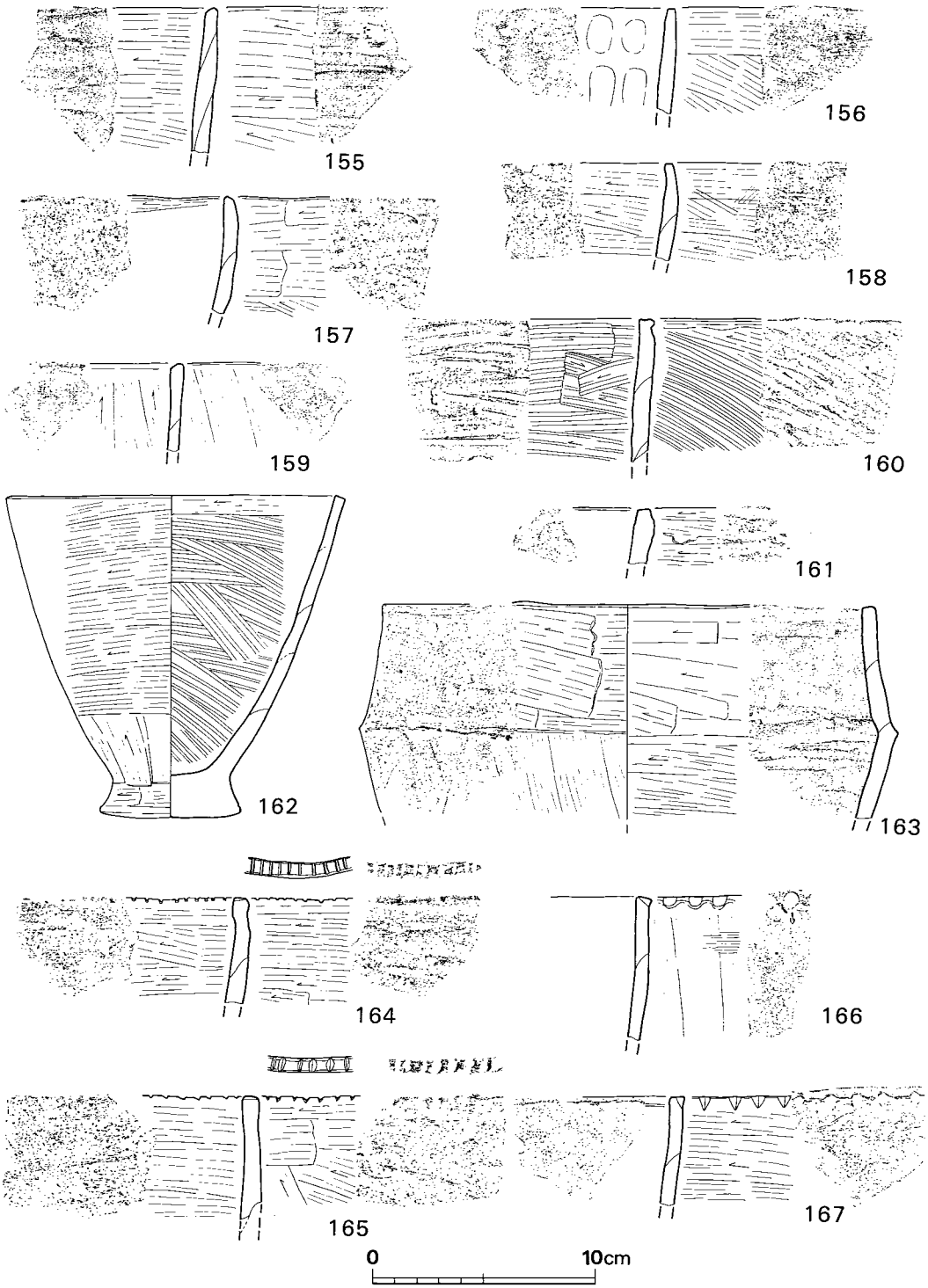
143は塊で，復原口径は11.0cm。内底はミガキ，口縁内面から外面はやや粗い横方向ミガキ，外底は粗いミガキ。茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み焼成は良好。口縁下に径4mm程の補修孔がある。

144は塊の口縁片である。口縁内外は横方向ナデ，他は内外ともに横方向擦過。灰黄色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

145は黒色磨研浅鉢である。口縁は直立ぎみに外反し，肩はつよく張り，肩の上には浅い沈線(状を呈する)を1条めぐらしている。復原口径は18.0cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

146は黒塗り磨研浅鉢又は高坏で，復原口径は18.3cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。茶色の地に黒色顔料を塗っている。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

147は浅鉢で，復原口径は17.4cmを測る。内面はナデ風の横方向擦過，頸部外面は条痕風の粗い横方向擦過。体部外面は擦過。内面は黒色で一部黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 103 図　W－3 区包含層(11層)出土土器14（縮尺1/3）

148は黒色磨研浅鉢で，復原口径は23.5cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

149は黒色磨研浅鉢で，復原口径は27.0cmを測る。口縁は直立し，口縁下には沈線をめぐらしている。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色～黒色を呈する。胎土には微量の砂粒と金雲母片を含む。焼成は良好。

150は黒色磨研浅鉢で，復原口径は26.6cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

151は黒色磨研浅鉢の肩部片である。肩には明瞭な段をつくり，１条の沈線をめぐらしている。古い要素を残した長頸の浅鉢の肩部である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

152は黒色磨研深鉢の肩部片である。内面は横方向擦過で一部ハケ目風を呈する。頸部外面は横方向ミガキ。胴部外面はナデ，内面は黒褐色，頸部外面は黒褐色，胴部外面は褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

153は直立する甕の口縁片である。内面は斜方向擦過，口縁外面は横方向擦過，外面はナデ風の縦・斜方向擦過。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

154は直立する甕で，復原口径は19.0cm。内面はナデで指頭圧痕がみられ，又指紋も残っている。口縁内面はナデ風の擦過。口縁外面は横方向擦過，外面は縦方向擦過。内面は黒褐色，外面は黄褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

155は直立する甕の口縁片である。内面はナデ風の横方向擦過，外面は粗いミガキ風の横方向擦過。内面は黒褐色で一部黄白色，外面は黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

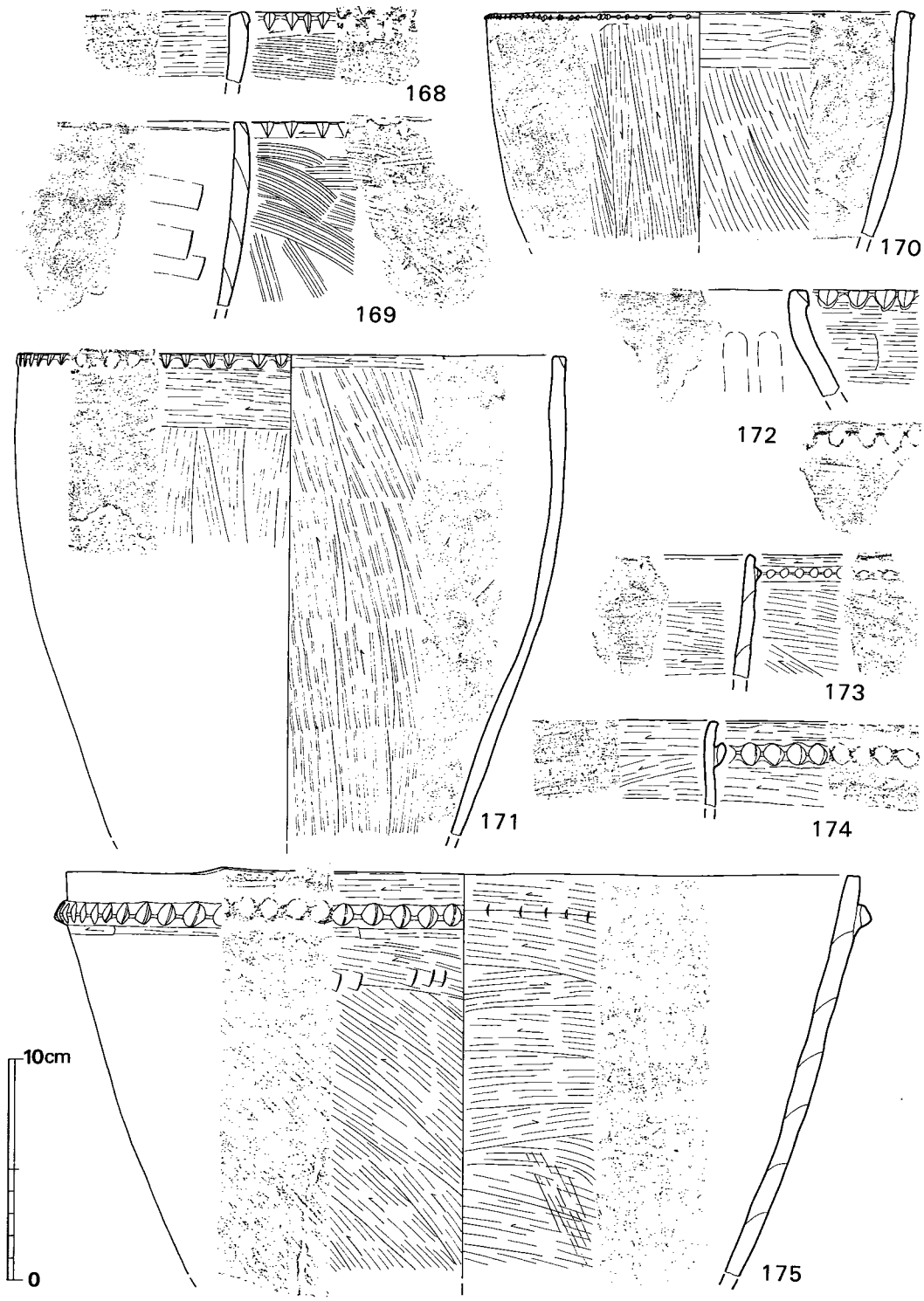
156は直立する甕の口縁片である。内面はナデで指頭圧痕がみられる。口縁外面は横方向擦過，外面は斜方向擦過。内面から外面口縁下は黒褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

157は直立する甕の口縁片である。内面は擦過ののちナデ，外面は横・斜方向の粗い擦過。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

158は直立する甕の口縁片である。内面はナデ風の横方向擦過，外面は横・斜方向の擦過。内面は暗黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

159は直立する甕の口縁片である。内面は粗いナデ風の縦方向擦過。口縁内面はナデ，口縁上端は擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は黄褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

160は直立する甕の口縁片である。内面は横方向条痕，外面は斜方向条痕。内面は黒色，外面



第 104 図　W－3区包含層(11層)出土土器15（縮尺1/3）

は茶褐色～褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

161は直立する甕の口縁片である。内面はナデ，口縁上端はヘラ切り風の擦過，外面は横方向擦過。暗赤褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

162は直立する甕で，器高は14.5cm，底径は6.2cm，復原口径は15.6cmを測る。内面は条痕，口縁内面から胴部下半までは横方向擦過，底部近くは縦方向擦過，底部外側は横方向擦過，外底は擦過。内面の下半は暗黄褐色，上半は茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

163は肩で屈曲する甕で，復原口径は22cm，復原肩部径は24.0cmを測る。口縁はわずかに波状をなす部分がある。胴部内面は削り風の粗い横方向擦過，頸部内面は粗いミガキ風の横方向擦過，頸部外面は横方向の粗い擦過，胴部外面は縦方向の擦過。内面の下半は黒褐色，上半は灰白色，外面の上半は暗黄褐色～淡褐色，下半は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

164は直立する甕の口縁片である。口縁上端に板木口押圧による刻目を施している。内面から口縁外面にかけてはナデ風の横方向擦過，外面は粗い横方向擦過。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

165は直立する甕の口縁片である。口縁上端にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，外面は横・斜方向の擦過。内面は黒色～黒褐色，外面は黒色を呈する。胎土に砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

166は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面はナデ，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は暗褐色，外面は淡褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

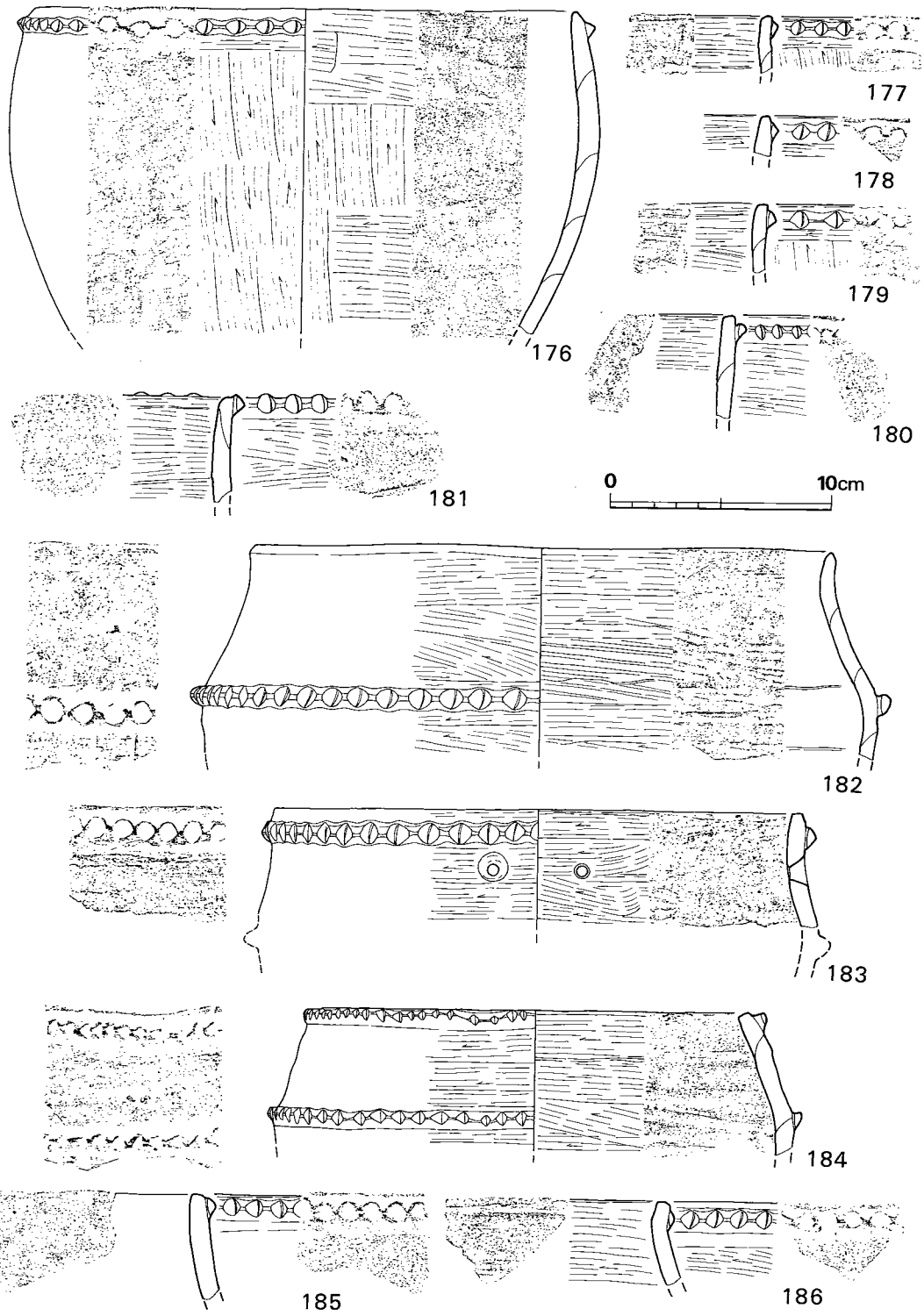
167は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ，内面の口縁直下から外面にかけては横方向擦過。内面は暗褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

168は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は横方向擦過，外面はハケ目風の横方向擦過。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

169は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は横方向擦過ののちナデ，口縁内外は横方向擦過，外面は条痕，下半には条痕ののちナデを加えている。内面は暗褐色，外面は茶褐色～暗褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

170は直立する甕で，復原口径は19.4cmを測る。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は斜方向擦過，口縁内面は横方向擦過，外面は縦方向擦過。内面は黄褐色部分と褐色部分があり，外面は淡褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

171は直立する甕で，復原口径は24.6cmを測る。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は，



第 105 図　W－3 区包含層(11層)出土土器16（縮尺1/3）

条痕風の縦方向擦過ののちナデ，口縁内外は横方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面の上位は黄褐色，中位は暗褐色，下位は茶褐色，外面は黒褐色を呈するが，胴下半は二次的火熱による器表の剝落がいちぢるしく，かつ淡赤褐色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

172は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる大きな刻目を施している。内面はナデで指頭圧痕がみられる。口縁内面は横方向ナデ，口縁上端は擦過，外面は粗いハケ目風の擦過。内面は淡黄褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

173は直立する甕の口縁片である。口縁下５～12㎜程の間に凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内面は横方向擦過，口縁内面はナデ，外面は横・斜方向の擦過。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

174は直立する甕の口縁片である。口縁下12～21㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともに横方向擦過。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

175は11層から出土した８片と，11層から出土した１片と他の２片が接合された。直立する甕で，復原口径は36.0㎝を測る。口縁下14～29㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は横方向擦過，口縁下には部分的に爪の押圧痕がみられる。口縁から凸帯まではナデ風の横方向擦過，外面は横・斜方向の条痕風の粗い擦過。内面は黄褐色～明茶褐色，外面は淡茶色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

176は直立する甕で，復原口径は24.2㎝を測る。口縁下５～12㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。口縁内外は削り風の横方向擦過，内面の上半は削り風の縦方向擦過，下半は横方向擦過，外面は削り風の縦方向擦過。内面は黒色，外面の上半は黒色，下半は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

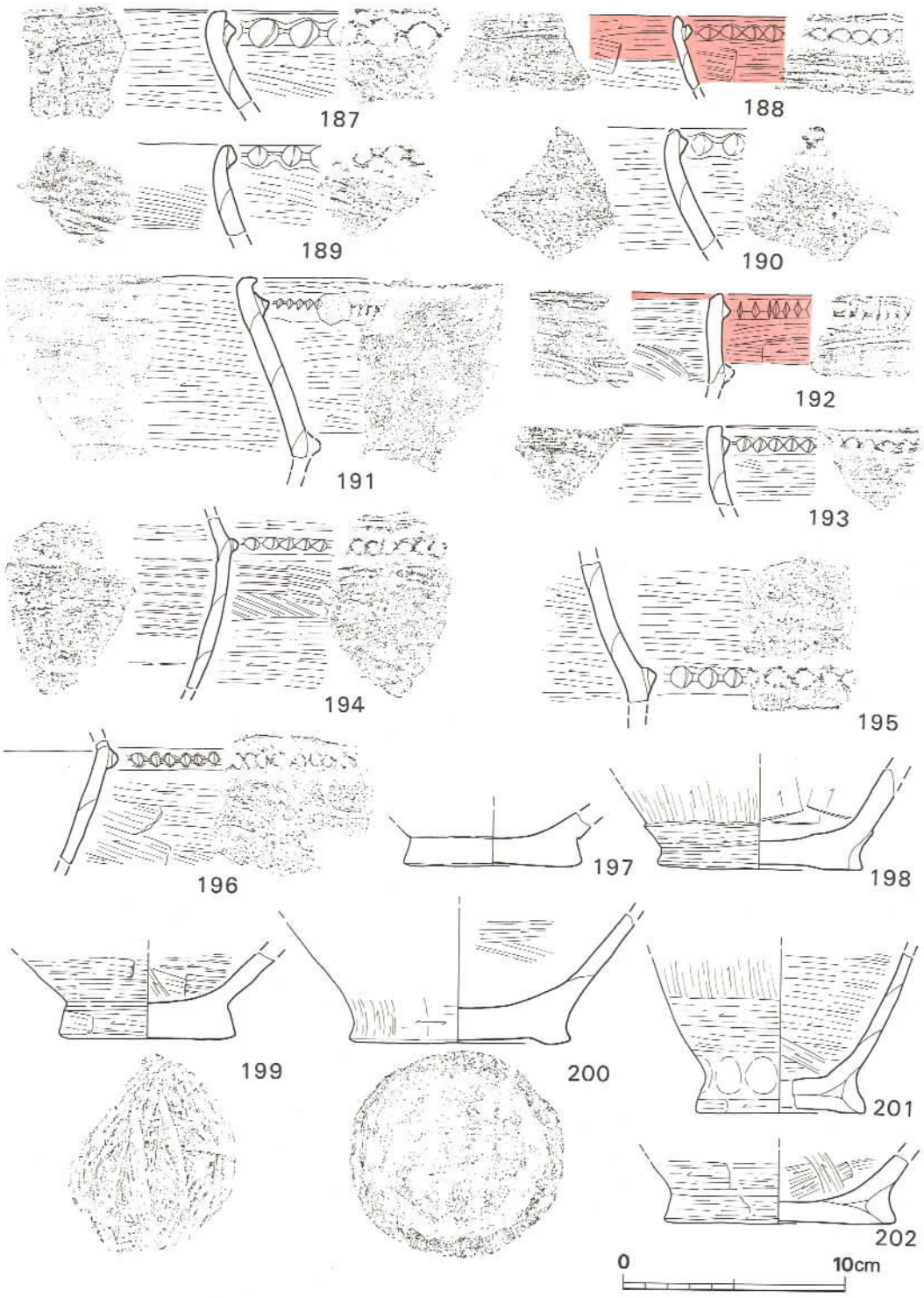
177は直立する甕の口縁片である。口縁下２～10㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面から凸帯下までは横方向擦過，外面は縦方向擦過。内面は暗黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

178は直立する甕の口縁片である。口縁下３～13㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内外ともに横方向擦過。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

179は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面から凸帯下までは横方向擦過，外面は縦方向擦過。内面は黒褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

180は直立する甕の口縁片である。口縁下５～13㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は指ナデ，口縁内面から外面はナデ風の横方向擦過。内面は茶色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

181は直立する甕の口縁片である。口縁外側に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施してい



第 106 図　W－3 区包含層(11層)出土土器17（縮尺1/3）

る。内外ともに横方向ミガキ。灰黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

182は肩で屈曲する甕で，復原口径は25.8cm，復原肩部径は31.3cmを測る。肩には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。肩部内面は横方向擦過，頸部下半は横方向条痕。口縁内外はナデ風の横方向擦過。頸部から凸帯下までは横方向擦過，胴部外面は横方向の粗い擦過。内面は淡黄褐色，外面は淡褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

183は肩で屈曲する甕で，復原口径は23.6cmを測る。口縁下6～17mm程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面は明茶色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。凸帯下に石包丁の穿孔具で穿孔かつ研磨した補修孔がある。外径は13mm，内径は5mmを測る。

184は肩で屈曲する甕で，復原口径は19cm，復原肩部径は23.9cmを測る。口縁よりわずかに下ったところと肩に凸帯をめぐらし，ヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ風の横方向擦過。内面は暗褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

185は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は横方向擦過ののちナデ，口縁内面から凸帯下までは横方向ナデ，外面はきたないナデ。黒褐色～黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

186は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下4～14mm程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，口縁から凸帯下までは横方向ナデ，外面はナデ風の横方向擦過。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

187は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下5～17mm程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともに横方向擦過。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

188は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下5～12mm程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面から凸帯下までは横方向擦過，外面は条痕風の横方向擦過。内面は淡黄褐色，丹は内面から凸帯の上までは淡赤色，凸帯下は二次的火熱を受けたものと思われ暗赤紫色に変色している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

189は肩で屈曲する甕の肩部片である。口縁外側には凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は条痕，口縁内面はナデ，外面は横方向擦過。赤茶色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

190は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下3～13mm程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，外面は横方向擦過。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

191は肩で屈曲する甕である。口縁下7～17mm程の間と，肩に凸帯を貼付しているが，肩の凸帯ははずれ，口縁下の凸帯も一部はずれている。口縁下凸帯にはヘラによる刻目を施している。内

面は(甕棺の内面にみられるのと同様の,) 横方向擦過, 外面は横方向擦過。内面は黄白色, 外面は淡茶黄色を呈する。胎土には微量の砂粒と, 金雲母の細片を含み, 焼成は良好。

192は肩で屈曲する甕の口・頸部片である。口縁下3～11㎜程の間に凸帯を貼付し, ヘラによる刻目を施している。肩の凸帯ははずれている。内面は条痕風の横方向擦過, 口縁上端は擦過, 外面は横方向擦過。内面は黄褐色, 口縁上端から外面は淡赤褐色の丹塗りを施している。胎土には微量の砂粒を含み, 焼成は良好。

193は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下5～14㎜程の間に凸帯を貼付し, 爪による刻目を施している。内外ともに横方向の擦過で, 内面は一部ハケ目風を呈する。内面は黄褐色, 外面は暗黄褐色および淡茶色。胎土には少量の砂粒を含み, 焼成は良好。

194は肩で屈曲する甕の肩・胴部片である。肩には凸帯を貼付し, 爪による刻目を施している。胴部内面は横方向の粗い擦過, 頸部内面は横方向擦過で, 肩部と胴部にはその上からさらにナデを加えた部分がある。内面には暗黄褐色, 外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み, 焼成は良好。

195は肩で屈曲する甕の頸・肩部片である。肩には凸帯を貼付し爪による大きな刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過, 外面は横方向の擦過。黒色を呈し, 胎土には少量の砂粒を含み, 焼成は良好。

196は肩で屈曲する甕の肩・胴部片である。肩には凸帯を貼付し, 板木口押圧による刻目を施している。内面はナデ, 凸帯周辺はナデ, 胴部外面は横方向擦過。内面は茶色, 外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み, 焼成は良好。

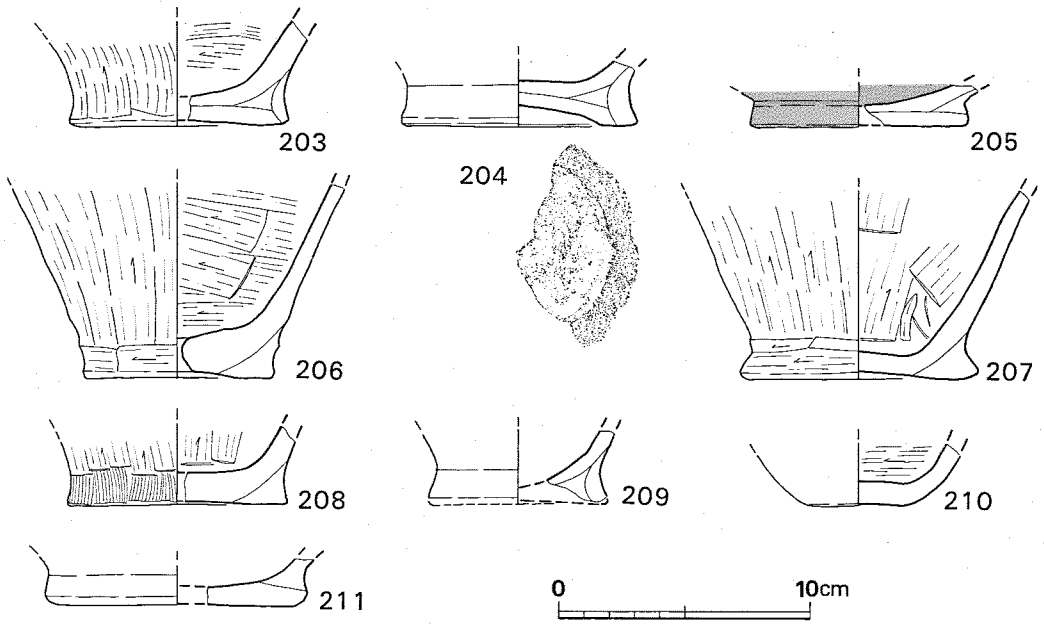
197は浅鉢底部で, 径は8.0㎝を測る。内面はミガキ, 外面は横方向ミガキ, 外底は板木口によるカキトリ。内面は暗灰黄色, 外面は明茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み, 焼成は良好。

198は径9.1㎝の底部である。底部外側には補修痕のごとく粘土帯を貼付している。内面は擦過, 外面は縦方向擦過, 底部外側は横方向擦過, 外底はナデ。内面は明茶色, 外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み, 焼成は良好。

199は径7.9㎝の底部である。内面は条痕ののち擦過, 外面は横方向の粗い擦過, 外底は擦過。内面は黒色, 外面は茶褐色を呈する。胎土には大粒の砂を微量に含み, 焼成は良好。

200は11層から出土した1片と16層から出土した2片が接合された。径9.9㎝の底部である。内面は条痕ののちナデ仕上げ, 外面は横方向ナデ, 底部外側は縦方向擦過ののち横方向ナデ, 外底は板木口によるカキトリで上げ底を呈する。内面は茶褐色, 外面は茶色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み, 焼成は良好。

201は復原径7.5㎝の底部片である。内面はナデ風の横方向擦過。外面は縦方向, 横方向の擦過, 底部外側には指頭圧痕がみられる。外底は擦過。内面は明茶色, 外面は淡赤褐色を呈する。



第 107 図　W－3区包含層(11層)出土土器18（縮尺1/3）

胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

202は径10.3cmの底部片である。内面は擦過，外面は横方向擦過，外底はナデ。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

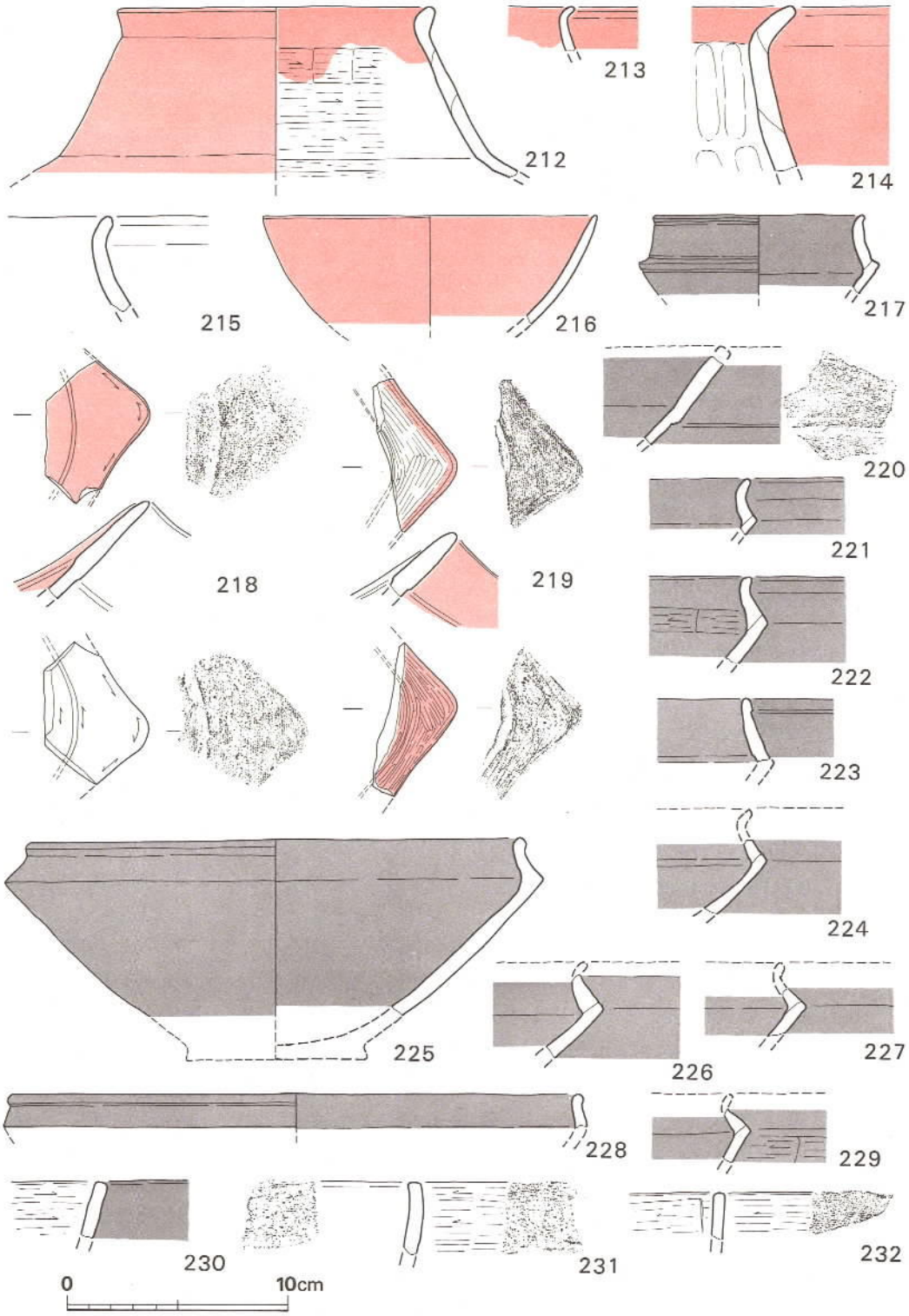
203は復原径8.6cmの底部片である。内面は横方向擦過，外面は縦方向擦過。内面は黄褐色，外面は淡赤茶色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。外底に籾圧痕が3個認められる。1は長6.8mm，幅3.5mm，長幅比1.94。2は長6.7mm，幅は3.7mm，長幅比は1.81。3は長7.4mm，幅4.0mm，長幅比は1.85を測る。

204は復原径9.2cmの底部片である。内面は擦過ののちナデ，外面はナデ，外底はナデ仕上げ。底部はかなりの上げ底を呈している。内面は茶色，外面は茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

205は黒色磨研浅鉢の底部片で，復原径は8.6cmを測る。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

206は甑底部片である。復原径は7.6cmを測る。底部中央に孔を1個穿っている。内面は横方向擦過，外面は縦方向擦過，底部外側は横方向擦過，外底はナデ。内面は黒褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

207は復原径9.4cmの底部片である。内面は擦過，外面は縦方向擦過，底部外側は横方向擦過，



第 108 図　W－3 区包含層(12～15層)出土土器19（縮尺1/3）

外底は擦過。内面は淡黄褐色を呈するが，黒い付着物がある。外面は暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

208は復原径8.6cmの底部片である。内面は擦過，外面はハケ目ののち擦過で，底部外側にはハケ目がよく残っている。内面は淡黄褐色，外面は黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

209は復原径7.0cmの底部片である。内外ともにナデ。内面は茶褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

210は径4.0cmの平底を呈する壺底部である。内面は横方向擦過，外面は粗い横方向の擦過，外底は擦過。内面は茶褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

211は復原径10.3cmの底部片である。外面はナデ，内面は風化のため不明。内面は白色，外面は黄白色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。132の短頸壺の底部と思われ，無文土器の系統のものと考えられる。

〈12～15層出土土器〉

212は丹塗り磨研壺の口・頸部片である。復原口径は14.0cm，復原肩部径は19.5cmを測る。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面は横方向擦過，肩部内面は削り風の横方向擦過。内面は黄褐色，丹は部厚く，焼成後に塗られたものとみられる。暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

213は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒褐色，外面の地は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。精選粘土を用い，焼成は良好。

214は丹塗り磨研壺の口・頸部片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ。頸部内面はナデで指頭圧痕がみられる。内面は黄橙色，外面の地は淡黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

215は壺口縁片である。外面から口縁内面までは横方向ミガキ。頸部内面はナデ。淡黄色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

216は丹塗り磨研埦で，復原口径は15.1cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。地は黄褐色，丹は暗紅色を呈する。内面には黒色の有機物が付着している。胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

217は黒色磨研高坏と思われる。口縁は外反し，直下に沈線1条をめぐらす。肩には段をつくり，肩の上には沈線状のもの1条，肩の下には1条の沈線をめぐらしている。形としては古い要素をもっている。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

218は丹塗り磨研方形浅鉢の口縁片である。内外ともにミガキ。内面の地は暗黄褐色，丹は痕跡的であるが暗赤色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

219は丹塗り磨研方形浅鉢の口縁片である。内外ともにミガキ。淡橙色の地に淡赤色の丹塗りを施しているが，丹は痕跡的である。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

220は黒色磨研方形浅鉢の口縁片と思われる。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒褐色，外面は淡黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

221は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

222は黒色磨研浅鉢片である。肩部内面は横方向擦過であるが，他は内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

223は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

224は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

225は黒色磨研浅鉢で，復原口径は22.0cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

226は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

227は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

228は黒色磨研浅鉢の口縁片で，復原口径は25.6cmを測る。黒褐色を呈し，胎土には細粒の砂をやや多く含み，焼成は良好。

229は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内面から肩部直下までは横方向ミガキ，体部外面は横方向擦過。黒色を呈し，胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

230は8層から出土した黒色磨研鉢の口縁片である。内面は横方向擦過，口縁上端から外面は横方向ミガキ。内面は黒褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

231は直立する甕の口縁片である。内面はナデ，外面は横方向擦過。暗茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

232は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ風の横方向擦過。内面は横褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

233は直立する甕で，復原口径は22.0cmを測る。内面から口縁外面までは横方向擦過，外面は縦方向擦過。内面は明茶色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

234は直立する甕で，復原口径は24.8cmを測る。内面は斜・縦方向擦過，口縁内外は横方向擦過，胴部上半は斜方向，下半は縦方向の擦過。内面の口縁部は淡黄褐色，他の部分は暗黄褐色～黒褐色，外面は淡茶色を呈する。外面の下半は二次的火熱を受けて赤褐色に赤変している。又内

面と外面の胴部上半の各所に黒色の有機物の付着が認められる。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

235は直立する甕で，復原口径は24.0cm，器高は27cm程のものである。内面はナデ風の縦方向擦過，口縁内外は横方向擦過，外面は縦方向擦過。内面は淡灰黄色，外面は黒褐色を呈するが，口縁下9cm程より下は二次的火熱を受けて，上半は赤褐色に，下半は黄褐色に変色している。又それと対応して，内面の下半は淡黒褐色に変色している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

236は直立する小形の甕で，復原口径は13.4cm，器高は12cm程のものである。口縁内外はナデ風の横方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過，内面は風化のため不明。茶褐色を呈するが，外面の各所に黒色の有機物の付着が認められる。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

237は直立する甕の口縁片である。内面はナデ，口縁上端から外面は横方向擦過。内面は暗黄褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

238は直立する甕の口縁片である。内面は横方向擦過，口縁内外は横方向ナデ。口縁下4cm程までは粗いミガキ風の横方向擦過，それより下は斜方向擦過。内面は黒褐色～黒色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

239は直立する甕の口縁片である。内面は縦方向擦過，口縁内面は横方向擦過，口縁外面は横方向擦過，外面は斜・縦方向擦過。内面は黄褐色，外面は褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

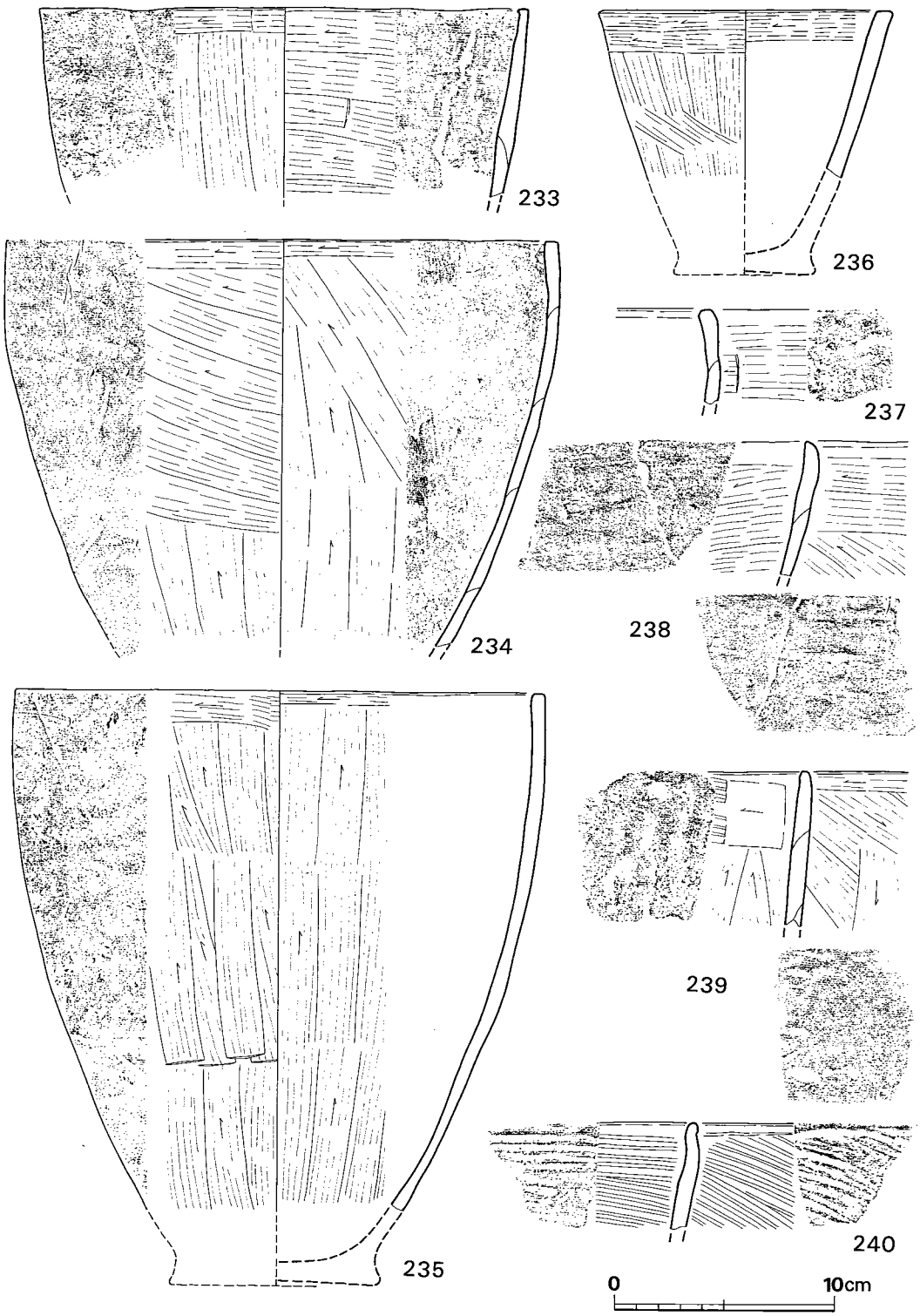
240は直立する甕の口縁片である。内面は横方向条痕，口縁内外は横方向ナデ，外面は斜方向の条痕。内面および口縁外面は黒色，外面は褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

241は直立する甕の口縁片である。内面から口縁外面までは横方向ナデ，外面は横方向擦過。内面は黒褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

242は直立する甕の口縁片である。内面は横方向擦過，口縁上端から口縁外面は横方向ナデ，外面は条痕風の横方向擦過。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

243は直立する甕で，口縁はわずかに外反ぎみである。復原口径は16.8cmを測る。口縁には棒状工具による大きな刻目を施している。内面は縦方向擦過，口縁内面は横方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は淡黄橙色，外面は茶褐色を呈する。内面の上半には黒色の有機物の付着がみられる。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

244は直立する甕で，口縁はわずかに外反ぎみで，胴部はわずかにふくらむ。復原口径は25.0cmを測る。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面は指頭圧痕の上から粗いハケ目，外面は粗いハケ目を施す。内面は赤褐色，外面は茶褐色を呈するが，外面は二次的火熱を受けて器表の剝落がいちぢるしい。内面の各所には黒色の有機物が，外面にも暗茶褐色，黒色の有



第 109 図　W－3 区包含層(12～15層)出土土器20（縮尺1/3）

機物の付着が認められる。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

245は直立する甕で，復原口径は26.6cmを測る。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面は粗いハケ目風の縦方向擦過，口縁内面は横方向擦過，外面は擦過というよりも粗いハケ目といってよかろう。内面は黄褐色，外面は褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

246は直立する甕で，口縁はわずかに外反ぎみで，胴部も少しふくらむものであろう。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面は縦方向擦過，外面はナデ。内面は茶褐色，外面は褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

247は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面はナデ，外面は風化のため不明。口縁内面は黒褐色，他は内外ともに黄褐色，内面と外面の口縁下３cm程より下には黒色の有機物の付着がみられる。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

248は直立する甕で，口縁はわずかに外反ぎみである。口縁には棒状工具による大きな刻目を施している。内面は縦方向擦過，口縁内面は横方向擦過，外面は縦方向擦過。内面の下半は黒褐色，上半は淡黄褐色，外面は褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

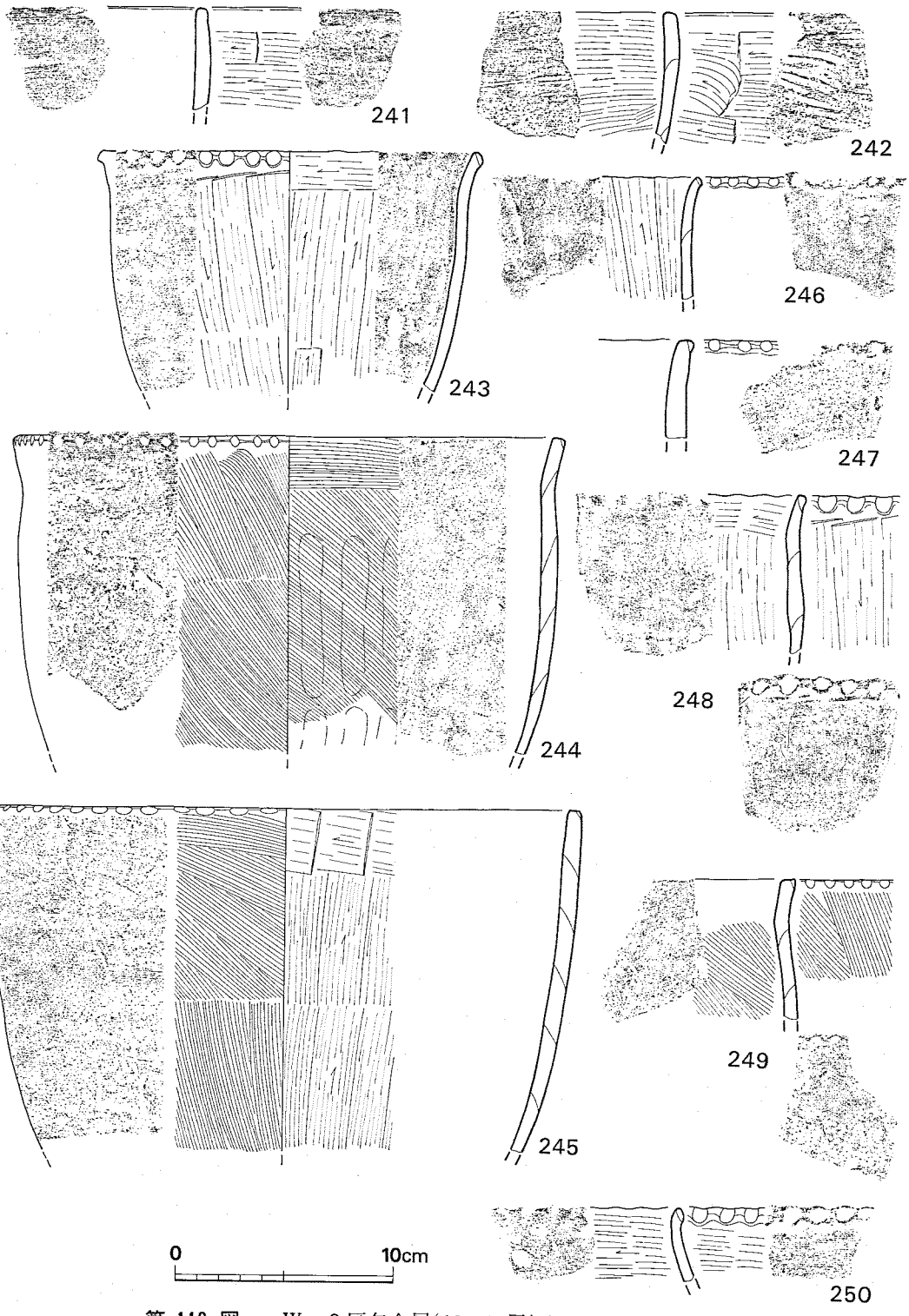
249は直立する甕の口縁片で，口縁はわずかに外反ぎみで胴部はふくらみをもつ。口縁には棒状工具による刻目を施している。内外ともにハケ目を施しているが，口縁内面にはナデを加えている。口縁から刻目はナデ。内面は明茶褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

250は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による大きな刻目を施している。内面は横方向擦過，外面はナデ風の横方向擦過。内面は茶褐色，外面は褐色を呈する。胎土には少量の砂量を含み，焼成は良好。

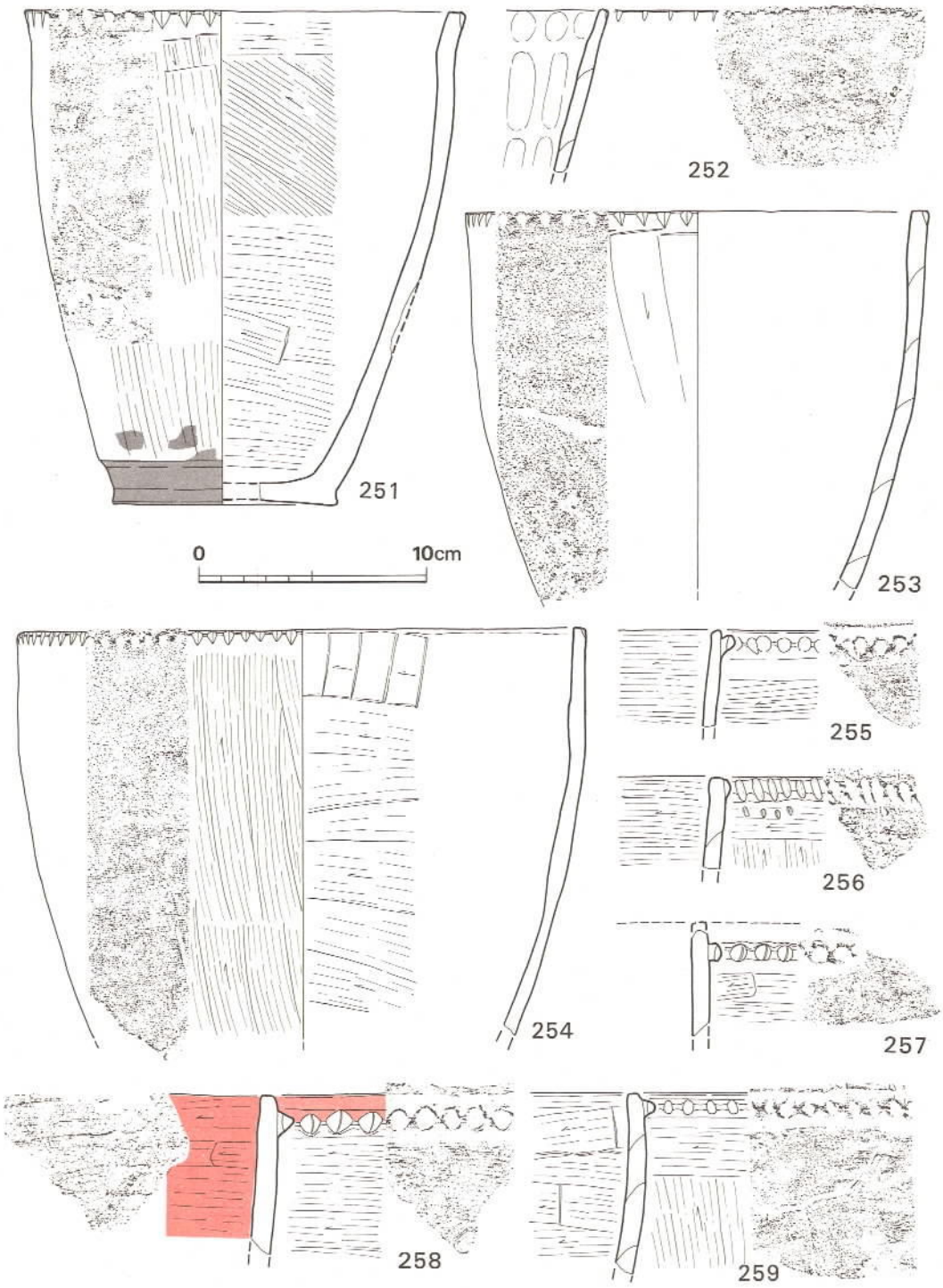
251は甕である。器高は21.7cm，口径は19.4cm，復原底径は10.0cmを測る。口縁はわずかに外反ぎみで，口縁外側にヘラによる大きな刻目を施している。内面の下半は横方向擦過，上半は粗いハケ目風の斜方向擦過。口縁内外はナデ風の横方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は淡赤褐色，外面は黄褐色～褐色を呈する。内面の上半には各所に黒色の有機物が付着する。底部外側には漆様の黒色顔料を塗った痕跡が残っている。又外面の下半は二次的火熱を受けて赤褐色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

252は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面はナデで指頭圧痕がみられる。外面はナデ。暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

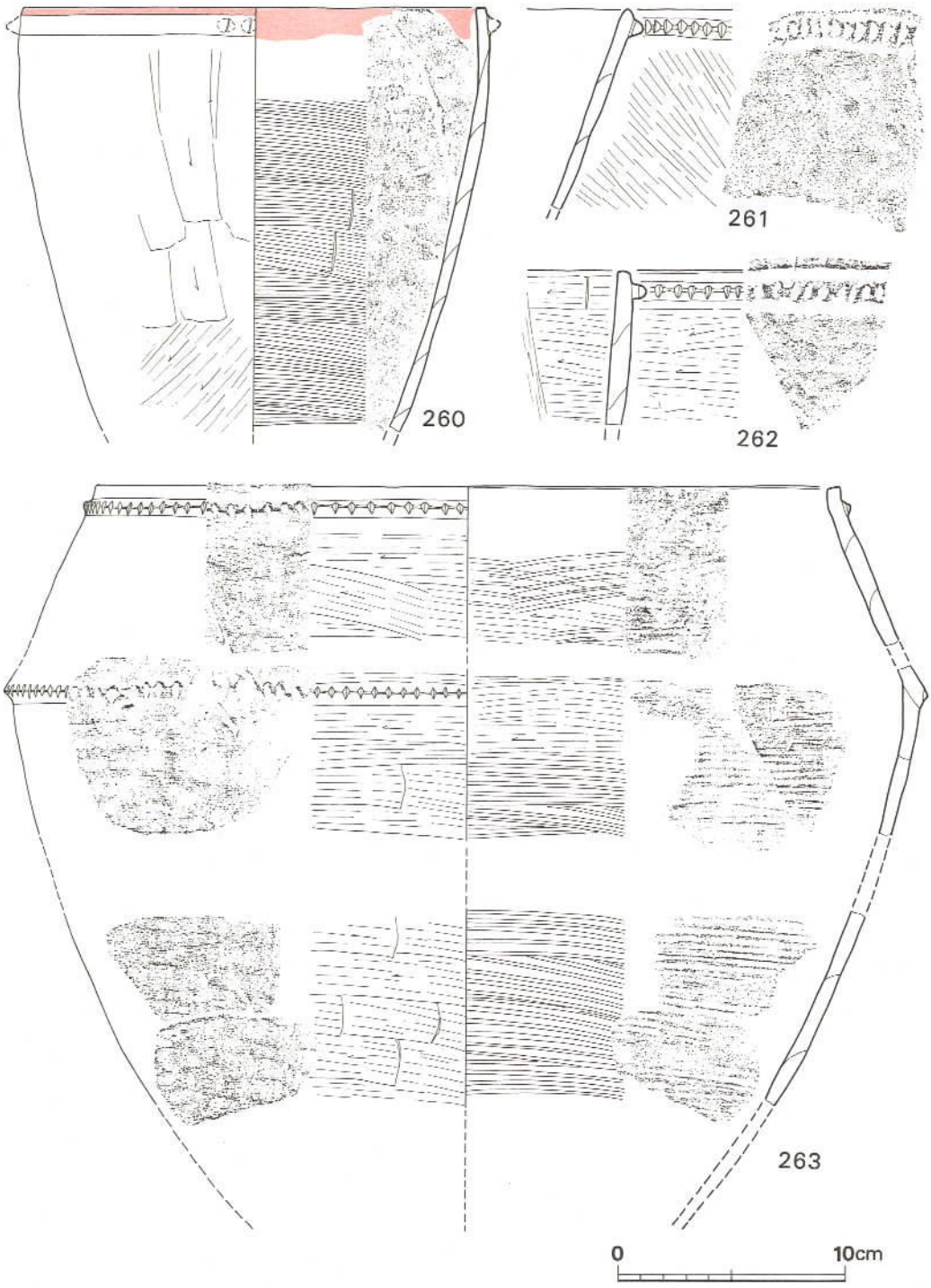
253は直立する甕で，復原口径は20.4cmを測る。口縁にはヘラによる刻目を施している。外面は縦方向擦過が辛うじて観察できるが，内面は風化のため不明。内面の下半は淡茶褐色，上半は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。外面の口縁下４cm程より下は二次的火熱を受けて赤褐色に赤変している。又内面の各所には黒色の有機物の付着が認められる。胎土には少量の砂粒を含み，



第 110 図　W－3区包含層(12～15層)出土土器21（縮尺1/3）



第 111 図　W－3 区包含層(12～15層)出土土器22（縮尺1/3）



第 112 図　W－3 区包含層(12～15層)出土土器23（縮尺1/3）

焼成は良好。

254は直立する甕で，復原口径は25.0cmを測る。口縁にはヘラによる刻目を施している。　内面はナデ風の横方向擦過。外面はナデ風の縦方向擦過。内面は黄褐色～茶褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

255は直立する甕の口縁片である。口縁下４～13㎜程の間に凸帯を貼付し，棒状工具先端刺突による刻目を施している。口縁から凸帯下まではナデ，他は内外ともにナデ風の横方向擦過。内面は茶色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

256は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内面から凸帯下までは横方向擦過，外面は縦方向擦過。内面は淡黄色，外面は淡黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

257は直立する甕の口縁片である。口縁下に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面から口縁下まではナデ，外面はナデ風の横方向擦過。内面は暗黄褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多めに，又黒色粒子を含み，焼成は良好。

258は直立する甕の口縁片である。口縁下７～19㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面はミガキ風の横方向擦過，口縁外面は横方向擦過，凸帯部はナデ，外面は，横方向擦過。内面～凸帯の上までは淡黄色の地の上から淡赤色の丹を施している。凸帯下は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

259は直立する甕の口縁片である。口縁下３～11㎜程の間に凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内面から凸帯下までは横方向擦過，外面は縦方向擦過。内面は暗赤茶色，外面は暗褐色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

260は直立する甕で，復原口径は20.2cmを測る。口縁下３～12㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施した痕跡が残っている。内面はハケ目風の横方向擦過で一部には10㎜に８本ぐらいの粗いハケ目といってよい部分もある。口縁内面から凸帯の下までは横方向ナデ，胴部上半はナデ風の縦方向擦過，下半は斜方向擦過。内面は淡黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胴部下半には二次的火熱を受けて赤褐色に赤変している。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

261は直立する甕の口縁片である。口縁下４～13㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面から凸帯下まではナデ，外面はナデ風の斜方向擦過。内面には明黄橙色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

262は直立する甕の口縁片である。口縁下５～13㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面～凸帯の上までは暗褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

263は肩で屈曲する甕で，復原口径は32.8cm，復原肩部径は40.6cmを測る。口縁下７～14㎜程の間に凸帯を貼付し，凸帯と肩にはヘラによる刻目を施している。胴部内面は横方向条痕，肩

部内面は横方向擦過，頸部内面は横方向条痕ののちナデ，口縁内面から凸帯下までは横方向ナデ。頸部から胴部上半は横方向擦過，胴部下半は削り風の横方向擦過。内面は茶褐色，外面は黒色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

264は直立する甕の口縁片である。口縁下4～15㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。口縁内外は横方向擦過，他は内外ともに擦過。暗黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

265は直立する甕の口縁片である。口縁下2～12㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面から凸帯下まではナデ，外面は風化のため不明。内面は黄白色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

266は直立する甕の口縁片である。口縁下4～11㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面から凸帯下までは横方向ナデ，外面は風化のため不明。茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

267は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下4～13㎜程の間に凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。内面から凸帯の上までは黒褐色，凸帯より下は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

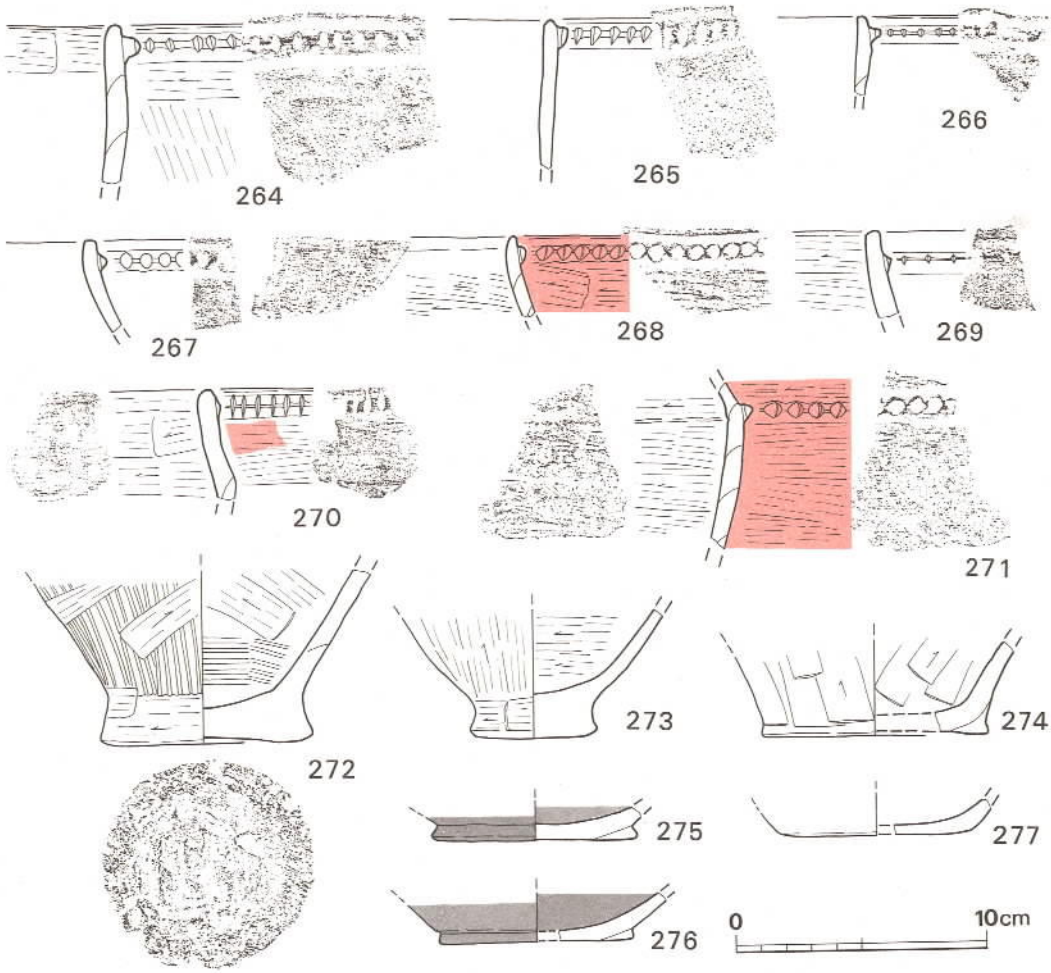
268は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下4～12㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。口縁内面は横方向のナデ，他は内外ともに横方向擦過。内面は黄褐色，外面は暗褐色の地の上に淡赤褐色の化粧土風の丹塗りを施している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

269は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下9～18㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，外面はナデ。茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

270は肩で屈曲する甕である。口縁下2～13㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。肩には刻目は施していない。内外ともに横方向の擦過。暗赤褐色を呈するが，頸部の一部に暗赤色の丹の痕跡が残る。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

271は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は削り風の粗い横方向擦過，外面は，肩より上は横方向擦過，肩より下はナデ風の横方向擦過。内面は黄褐色～黒褐色，外面は淡褐色の地に淡赤褐色の丹塗りを施している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。268と同一個体の可能性がつよい。

272は径8.3cmの底部である。内底は条痕，内面は斜方向擦過，外面は縦方向条痕ののち一部斜方向の擦過，底部外側から外底周縁は横方向擦過，外底は板木口によるカキトリで，わずかに上げ底を呈する。内面は淡黄白色を呈する。外面は二次的火熱により淡白桃色に変色している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。外底に米圧痕が付着しているが，やや斜方向の圧痕



第 113 図　W－3区包含層(12～15層)出土土器24（縮尺1/3）

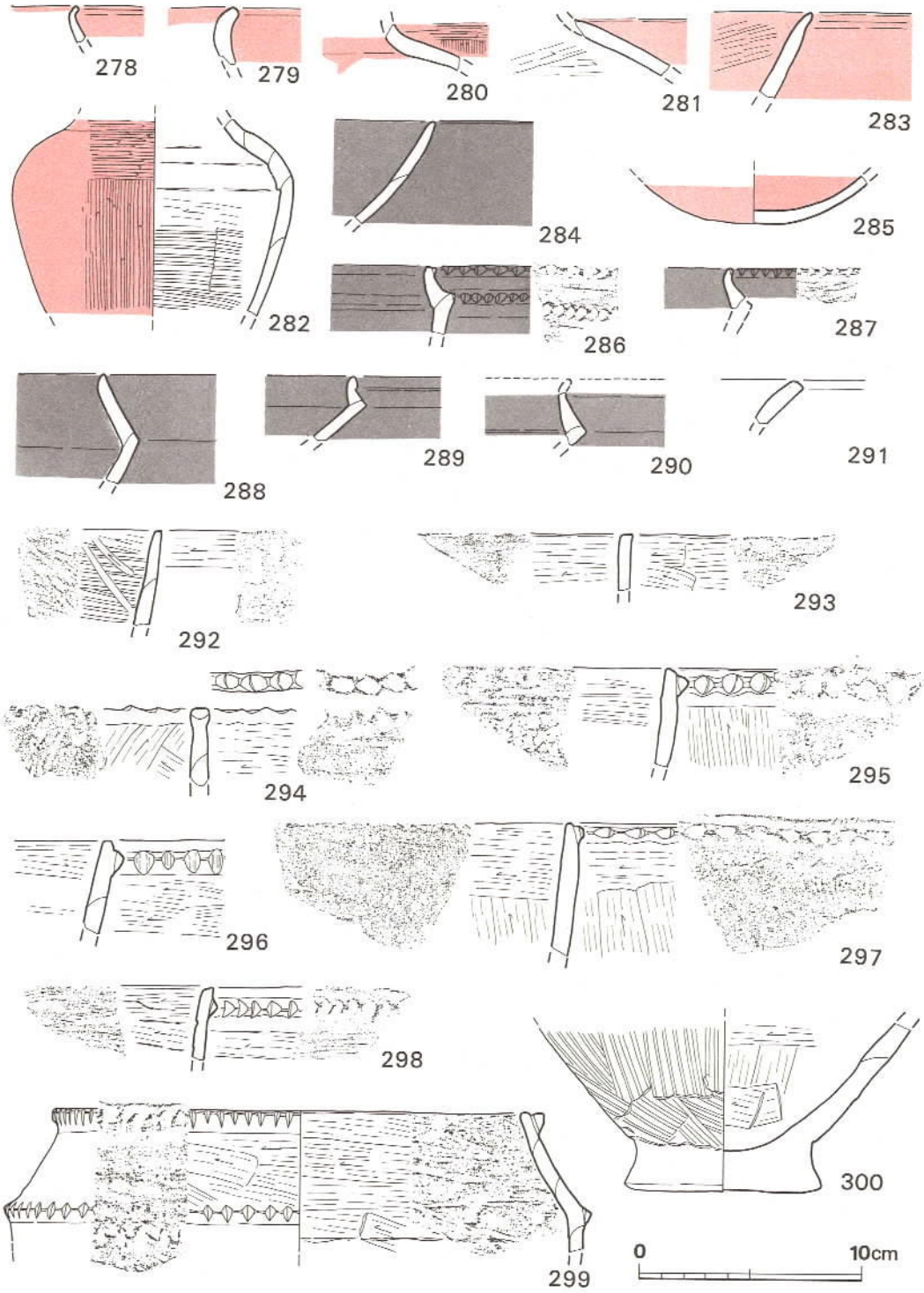
である。長4.6㎜，幅2.8㎜，長幅比1.64を測る。

273は径5.0cmの底部である。内面は横方向擦過，外面は縦方向擦過，底部外側は横方向擦過，外底は擦過。淡橙色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。内面には黒色の有機物の付着がみられる。

274は復原径9.0cmの底部片である。内面は縦方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過，外底はナデ。内面は暗黄褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

275は黒塗り磨研浅鉢の底部片で，径は8.1cmを測る。内面と外面はミガキ，外面は横方向ミガキ。茶褐色の地の上から黒色顔料を塗る。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

276は黒色磨研浅鉢の底部片で，復原口径は7.6cmを測る。内面と外底はミガキ，外面は横方



第 114 図　W－3区包含層(16層)出土土器25（縮尺1/3）

向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

277は平底の壺底部片で，復原径は7.6cmを測る。内外ともに風化のため調整法は不明。暗黄褐色を呈し，胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良。

〈16層出土土器〉

278は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は暗灰黄色，丹はやや明るい赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

279は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面の地は暗黄褐色，丹は暗赤紫色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

280は丹塗り磨研壺の肩部片である。頸部は残り少いが，そのたちあがりの度合から考えると，無文土器系の短頸壺の肩部になると考えられる。肩の段の周辺は横方向ミガキ，肩部は縦方向ミガキ，頸部内面は横方向ミガキ，肩部内面は横方向擦過。内面は淡黄白色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

281は丹塗り磨研壺の肩部片である。外面は横方向ミガキ，内面は横方向擦過。内面は暗灰黄色，外面はやや明るい赤色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

282は丹塗り磨研小壺の肩，胴部片である。復原肩部径は8.0cm，復原胴部最大径は12.4cmを測る。胴部最大径付近までは横方向ミガキ，胴部は縦方向ミガキ，胴部下半の内面は横方向条痕，胴部中央は横方向擦過，肩部から頸部の内面はナデ。内面は黒色，外面は暗赤色のきたない丹塗り。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

283は丹塗り磨研埦の口縁片である。外面から口縁内面までは横方向の粗いミガキ，内面の口縁下は斜方向の擦過，内面は横方向ミガキ。地は黄褐色，丹は淡赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

284は黒色磨研埦の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

285は丹塗り磨研埦の底部片である。ほぼ完全に丸底といえるが，径4.2cm程はミガキ方向が不定でこの部分が底であるとわかる。内底も同様である。他は内外ともに横方向ミガキ。地色は灰黄色，丹は暗紅色を呈する。胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

286は黒色磨研浅鉢片である。口縁と肩にヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

287は黒色磨研浅鉢の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

288は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

289は黒色磨研浅又は高坏である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂

粒を含み，焼成は良好。

290は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

291は器種を決めかねる。内外ともに横方向ミガキ。黄褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

292は直立する甕の口縁片である。内面は横方向の条痕の上から一部ミガキ工具による調整痕がみられる。口縁内外は横方向擦過，外面はナデ，内面は黄褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

293は直立する甕の口縁片である。外面は横方向の擦過，外面は細かい条痕風の横方向擦過，内面は褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

294は直立する甕の口縁片である。口縁上端には爪による刻目を施している。内面はナデ風の擦過，口縁内外はナデ，外面は横方向擦過。黒色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

295は直立する甕の口縁片である。口縁下３～12㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は横方向条痕ののちナデ，口縁内面は横方向擦過ののちナデ，口縁上端から凸帯下まではナデ，外面は縦方向擦過。暗灰褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

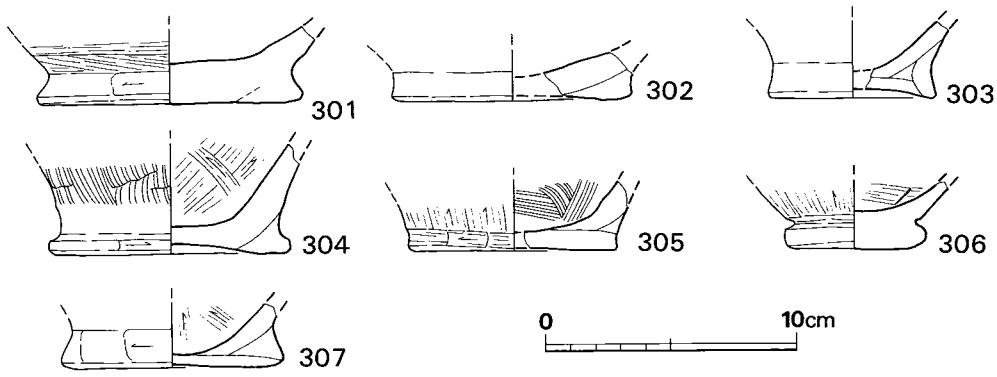
296は直立する甕の口縁片である。口縁下５～16㎜程の間に凸帯を貼付し，棒状工具による大きな刻目を施している。内面は横方向擦過ののちナデ，口縁から凸帯下まではナデ，外面は横方向擦過。内面は灰褐色，外面は茶褐色～黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

297は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は縦方向擦過，口縁内面は横方向擦過，口縁から凸帯まではナデ，凸帯下部は横方向擦過，外面は縦方向擦過。褐色を呈し，胎土には細粒の砂を少量含み，焼成は良好。

298は直立する甕の口縁片である。口縁下５～14㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は横方向擦過，口縁から凸帯下まではナデ，外面は横方向の擦過。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

299は肩で屈曲する甕で，復原口径は20.4cm，復原肩部径は26.0cmを測る。口縁よりわずかに下ったところと肩に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は横方向の粗い擦過。内面は黒色，外面は明茶色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

300は11層から出土した２片と，16層から出土した３片とが接合された。径8.8cmの底部である。内面は擦過，外面は縦方向の条痕，底部外側はナデ，外底は擦過。内面は黒色，外面は淡茶褐



第 115 図　W－3 区包含層(16層)出土土器26（縮尺1/3）

色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

301は径10.4cmの底部である。内面は擦過ののちナデ，外面はハケ目風の横方向擦過。底部外側は横方向ナデ，外底はナデ。明茶色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

302は復原径9.4cmの底部片である。内外ともにナデ，外底は擦過。内面は黒褐色，外面は黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

303は復原径6.6cmの底部片である。内外ともにナデ。内面は淡茶色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

304は径9.5cmの底部片である。内面は擦過，外面は縦方向の粗い条痕，底部外側の凹部はナデ，凸部は板木口による削り風の擦過，外底はナデ。内面は茶色，外面は暗灰褐を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

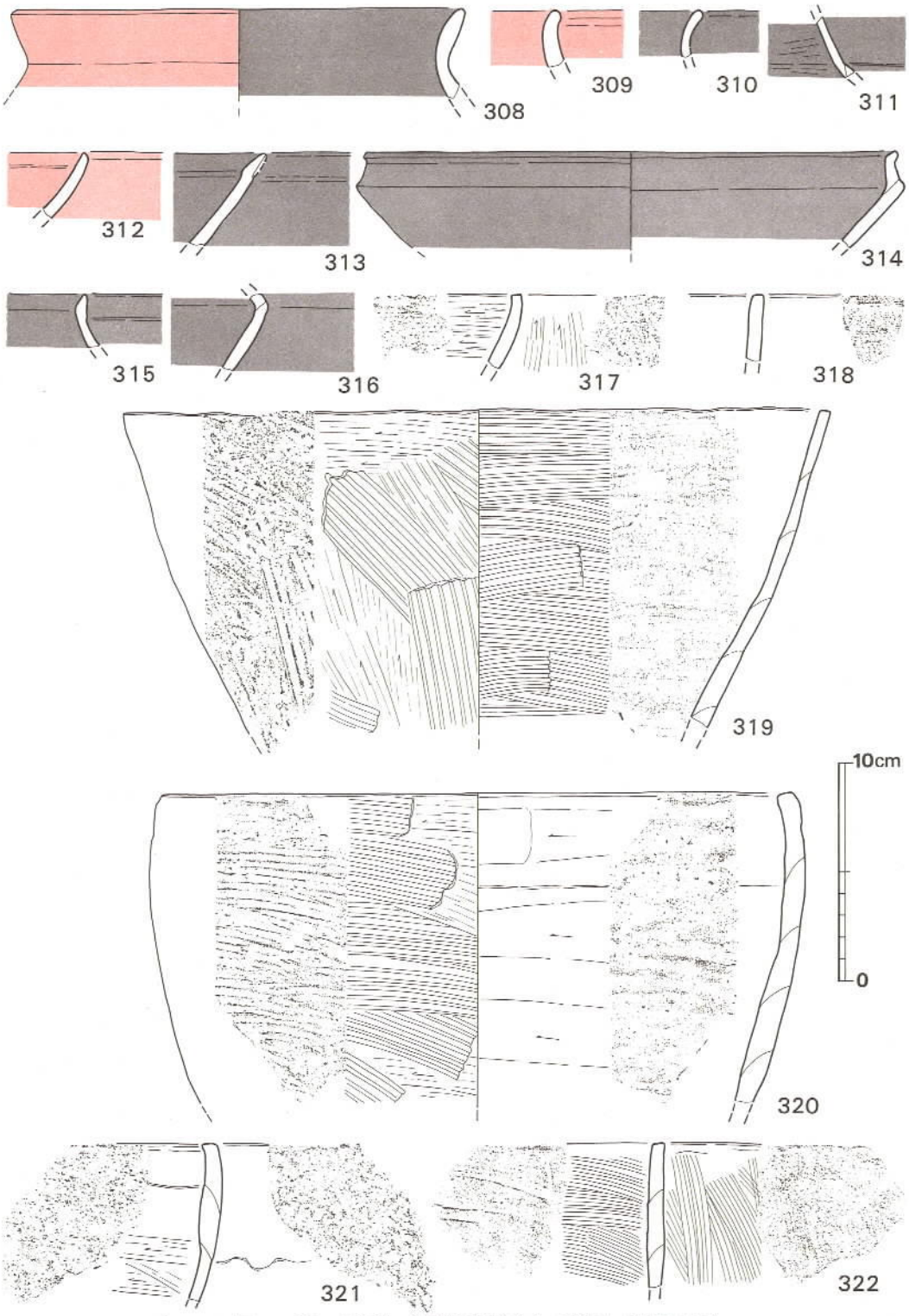
305は復原径8.2cmの底部片である。内面は条痕，外面は縦方向の擦過，底部外側は横方向の擦過，外底は擦過。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

306は径5.6cmの底部である。内面はナデ風の擦過，外面は縦方向の擦過，底部外側から外底はナデ。内面は茶色，外面は黒褐色，外底は赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

307は復原径8.7cmの底部片である。内面は擦過，底部外側は横方向擦過，外底はナデ。内面は黒色，外面は黄褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

〈17層出土土器〉

308は内面黒色磨研，外面丹塗り磨研の壺又は浅鉢の口縁片と考えられる。復原口径は20.2cmを測る。浅鉢の場合は長頸の，肩に明瞭な段をつくるものであろう。内外ともに横方向ミガキ，内面は黒色，外面は黄褐色の地の上から淡赤色の丹塗り。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は



第 116 図　W－3 区包含層(17層)出土土器27（縮尺1/3）

良好。

309は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は黄褐色，丹は淡赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

310は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

311は黒色磨研壺の頸･肩部片である。外面は横方向ミガキ，内面はナデ風の横方向擦過。内面は灰黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

312は丹塗り磨研埦の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

313は黒色磨研方形浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

314は黒色磨研浅鉢で，復原口径は24.2cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

315は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。淡灰黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

316は黒色磨研浅鉢の肩部片である。肩部内面に一部ナデがみられるが内面と頸部外面は横方向ミガキ，体部外面は斜方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

317は鉢の口縁片である。内面は横方向擦過，口縁外面は横方向ナデ，外面は縦方向擦過。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色～暗褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

318は直立する甕の口縁片である。内面は横方向擦過ののちナデ。外底はナデ。内面は暗茶褐色，外面は暗灰黄色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

319は直立する甕で，口縁は板木口による削りでかなり波を打っている。復原口径は32.2cmを測る。内面は擦過風の横方向条痕，口縁外面は横方向擦過，外面は条痕と擦過を併用している。内面は黒色，外面は暗褐色～黒色を呈するが，胴部下半は二次的火熱を受けて淡赤褐色に赤変している。胎土には微量の砂粒と金雲母片を含み，焼成は良好。

320は直立する甕で，復原口径は28.7cmを測る。内面は横方向擦過ののちナデ，外面は横方向条痕で，口縁部の一部にミガキ風の横方向擦過と胴下半部にも一部横方向の擦過がみられる。内面は黄褐色，外面の上半は黄褐色，下半は淡黒褐色を呈する。胎土には大粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

321は直立する甕の口縁片である。内面は擦過ののちナデ，口縁内面から外面はナデ。内面は淡茶色，外面は黄褐色を呈するが，外面は二次的火熱を受けて部分的に淡赤紫色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

322は直立する甕の口縁片である。内外ともに10mmの間に５～６本の擦過というよりもハケ

目というべき調整。口縁内外は横方向ナデ。内面は淡茶色，外面は茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

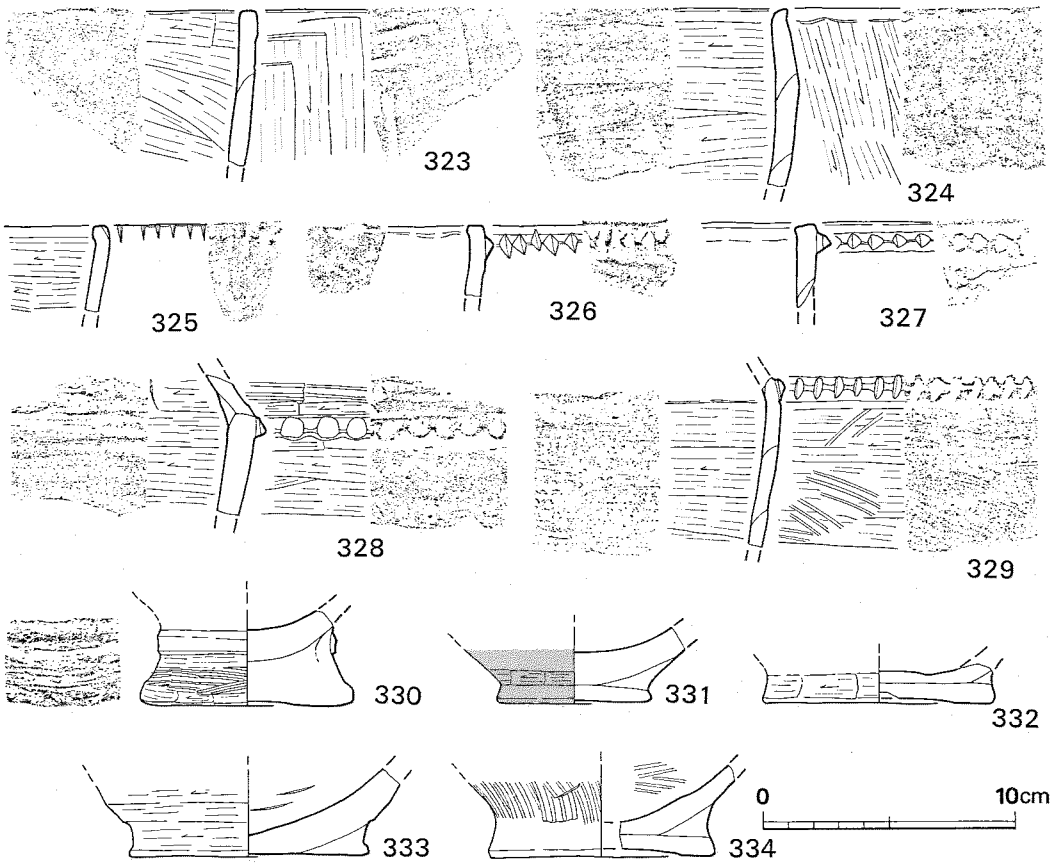
323は直立する甕の口縁片である。内面は横方向の擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

324は直立する甕の口縁片である。内面は横方向擦過，外面は縦方向の擦過。内面は黒褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

325は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は横方向擦過，外面は風化のため不明。内面は黒褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

326は直立する甕の口縁片である。口縁下4～14㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面から凸帯下まではナデ，外面は擦過ののちナデ。内面は暗褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

327は直立する甕の口縁片である。口縁下3～12㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を



第 117 図　W－3区包含層(17層)出土土器28（縮尺1/3）

施している。内外ともに横方向ナデ。淡茶色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

328は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，棒状工具による大きな刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，肩部外面は横方向条痕，凸帯から下はナデ風の横方向擦過。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

329は肩で屈曲する甕の肩・胴部片である。肩には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は横方向擦過，外面は横方向擦過と条痕を併用している。内面は黒色，外面は淡灰黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

330は径8.4cmの底部である。底部外側の凹部にコ字形凸帯を貼付している。内面はナデ，凸帯部は横方向ナデ，凸帯下はナデ風の横方向擦過，底部外側はタタキ痕がのこる。タタキの長さは約30mm。外側の凸部は横方向擦過。外底はナデと思われるが，各種の圧痕が消されずにそのまま残っている。暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

331は黒塗り磨研浅鉢の底部片で，復原径は6.0cmを測る。内面はミガキ，外面は縦方向ミガキ，底部近くは横方向擦過，底部外側から外底はナデ。内面は淡黄褐色，外面は淡黄褐色の地の上から黒色顔料を塗っている。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

332は復原径9.2cmの底部片である。内面にはヘラ先状のものよる擦過痕がのこる。外面は横方向擦過，外底はナデ。暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

333は復原径9.4cmの底部片である。内外・外底ともに擦過。内面は黄褐色，外面は淡褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

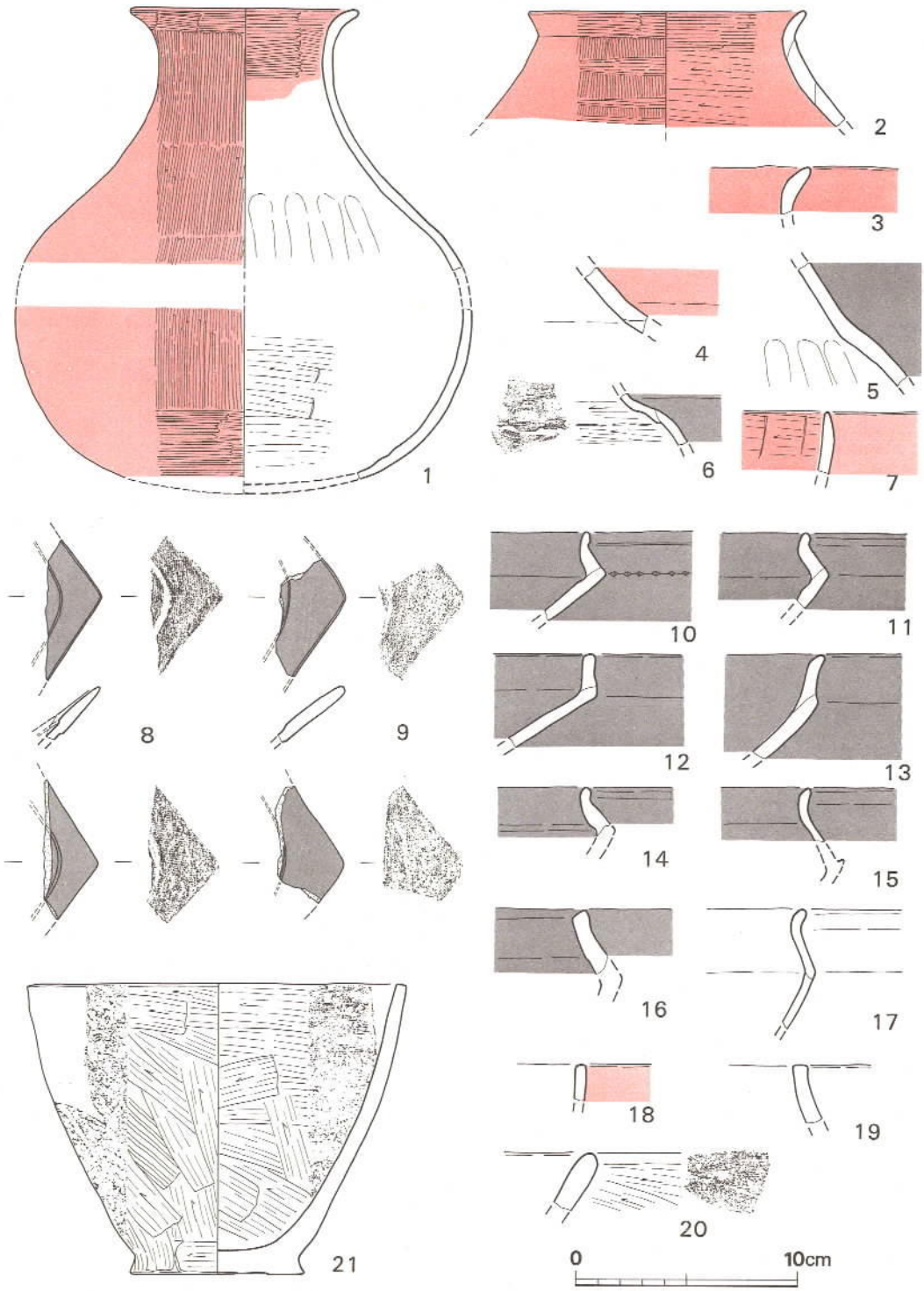
334は復原径8.8cmの底部片である。内面は条痕ののちナデ，外面は縦方向条痕，底部外側から外底周縁はナデ，外底は板木口によるカキトリでわずかに上げ底を呈する。内面は黒色，外面は暗褐色を呈するが，底部外側から外底にかけては二次的火熱により赤褐色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

W—4区包含層出土土器（第118～137図）

W−4区はW−3区と接して西側へ幅約7m程発掘した。土層用畦の近くでは茶褐色土層，灰黒色砂泥層，灰緑色土層とに分けて遺物をとりあげた。これは土層にてらしあわせると，灰黒色砂泥層が8～9層，茶褐色土層が12・14・15層，灰緑土層が11・16層に相当する。他は単にW−4区としてとりあげている。では順次説明を加える。

〈8・9層出土土器〉

1は8・9層が主体で，12・14・15層から5片が出土している。丹塗り磨研壺で，口径は10.3cm，復原器高21.7cm，復原胴部最大径20.6cmを測る。口縁は外反し，口縁下，肩ともに段をつくらず，底部は丸底になるものと思われる。内面の胴部下半はミガキ風の横方向擦過，胴部



第 118 図　W－4 区包含層（8・9 層）出土土器 1（縮尺1/3）

上半から頸部下半にかけてはナデ，肩部内面には指頭圧痕がみられる。頸部内面は横方向ナデ，頸部上半から口縁外面は横方向ミガキ，頸部から胴下半までは縦方向ミガキ，胴部下半は横方向ミガキ。内面は灰白色，丹は暗赤色を呈するが，丹塗り部分はさらに上から黒塗りを加えている可能性もある。胎土には精選粘土を使用し，焼成はきわめて硬質で良好。無文土器の丹塗り磨研壺である。

2は8・9層と12・14・15層から1片ずつ出土した。丹塗り磨研壺の口・頸部片である。頸部内面は横方向擦過，口縁内外は横方向ミガキ，頸部外面は縦方向ミガキののち部分的に横方向ミガキ。地は暗黄褐色，丹は暗紅色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

3は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は黄褐色，丹は淡赤色を呈する。胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

4は丹塗り磨研壺の肩部片である。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。内面は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

5は黒色磨研壺の肩部片である。内面はナデで，肩部内面には指頭圧痕がみられ，指紋が残っている。外面は横方向ミガキ。灰黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

6は黒色磨研壺の肩部片である。内面はナデ風の擦過，外面は横方向ミガキ。内面は灰黄色，外面は黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

7は丹塗り磨研埦の口縁片である。内面は横方向擦過，外面は横方向ミガキ。地は黄褐色，丹は淡赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

8は黒色磨研方形浅鉢の口縁片である。内外ともに口縁下に段をつくっている。内外ともにミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

9は黒色磨研方形浅鉢の口縁片である。口縁下には内外ともに段をつくっている。内外ともにミガキ。黒色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

10は黒塗り磨研浅鉢の口縁片である。肩にはヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向ミガキ。茶色の地に黒色顔料を塗っている。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

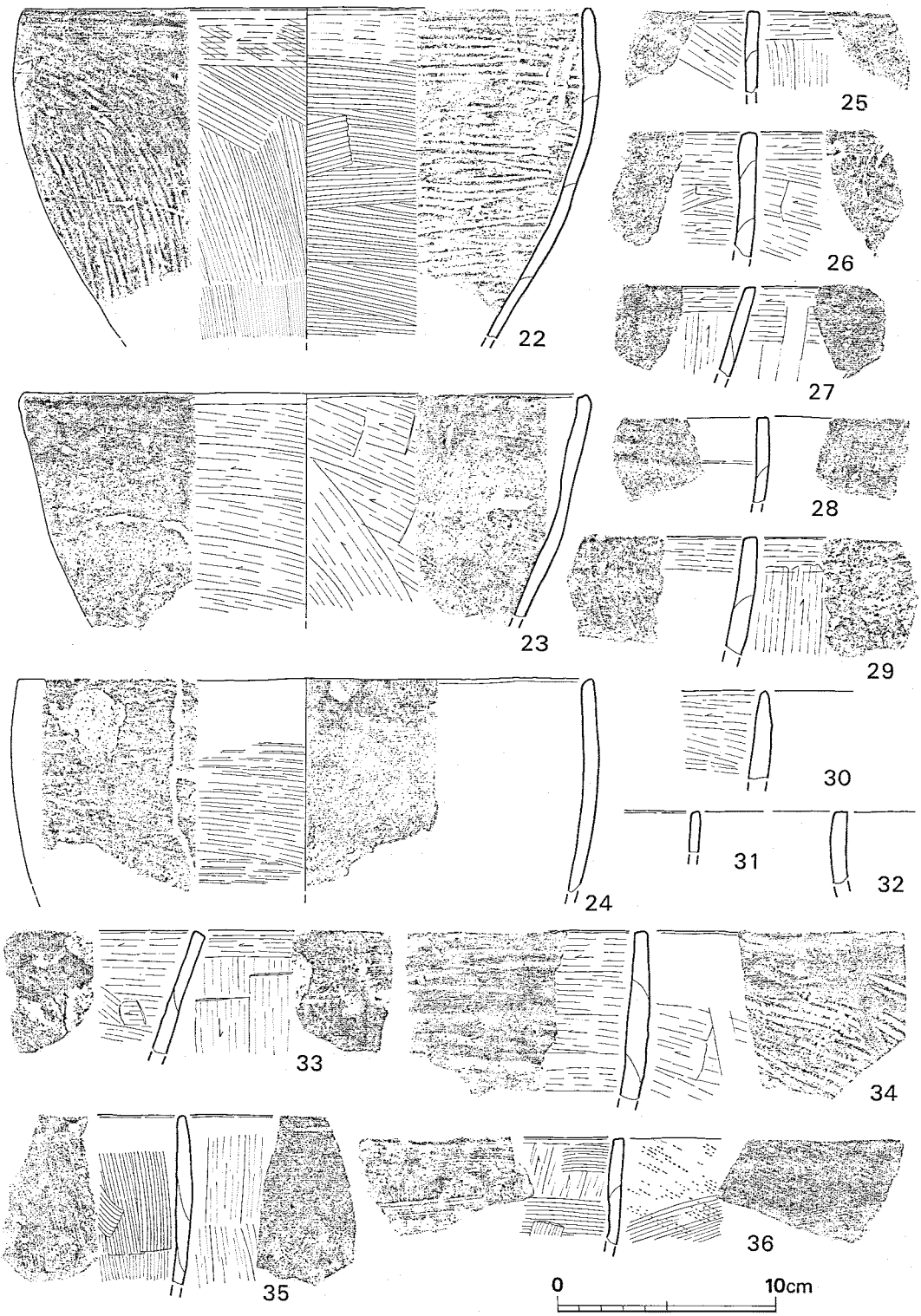
11は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

12は黒色磨研高坏と思われる。内面から頸部外面までは横方向ミガキ，体部外面は横・斜方向のミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

13は黒色磨研高坏片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

14は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

15は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の



第 119 図　W－4区包含層(8・9層)出土土器2 (縮尺1/3)

砂粒を含み，焼成は良好。

16は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

17は浅鉢である。口縁から肩部下までは横方向ミガキがわかるが，他は内外ともに風化のため不明。暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。黒塗りの可能性がある。

18は丹塗り磨研の鉢口縁片である。外面は横方向ミガキ，内面は風化のため不明。内面は灰色，丹は暗赤褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

19は深鉢の口縁と思われる。内外ともに横方向ミガキ，濃茶色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

20は鉢の口縁片である。口縁端はナデ，外面は擦過，内面は風化のため不明。内面は暗褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

21は直立する甕で，器高は13.1cm，底径は7.7cm，復原口径は16.9cmを測る。内面は擦過，外面は条痕ののち擦過，外底はナデ。内面は黒色～黒褐色，口縁は黒色，外面は黒褐色を呈するが，下半部は二次的火熱により赤褐色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。内底に米圧痕があり，長6.0mm，幅3.4mm，長幅比1.77を測る。

22は直立する甕で，復原口径は25.8cmを測る。内面は横方向条痕，口縁内外は条痕を横方向擦過でカキ消す，外面は斜・縦方向の条痕ののち擦過を加えるが，条痕はよく残っている。内面は黒色，外面は濃黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

23は直立する甕で，復原口径は25.6cmを測る。内面は斜方向の擦過，外面はナデ風の横方向擦過。暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

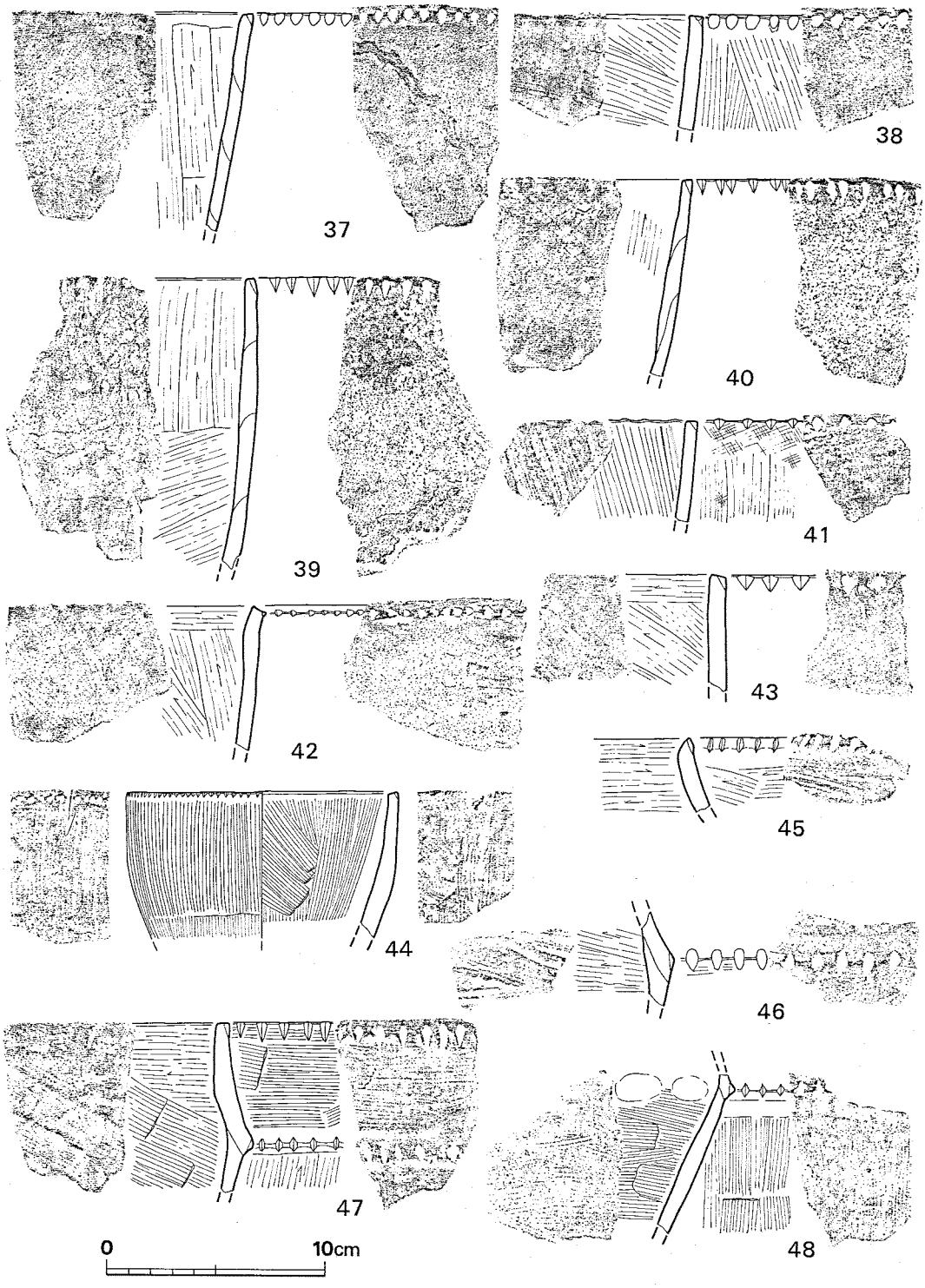
24は直立する甕で，復原口径は26.0cmを測る。内面はナデ仕上げ，外面は横方向条痕をナデ消している。内面は暗茶褐色，外面は褐色を呈するが，外面は二次的火熱を受け，暗赤紫色に赤変した部分がある。又内面の各所には黒色の有機物の付着がみられる。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

25は直立する甕の口縁片である。内面は斜方向擦過，口縁内外は横方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

26は直立する甕の口縁片である。口縁内外は横方向擦過，他は内外ともにナデ風の横・斜方向擦過。内面から口縁は黒色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

27は直立する甕の口縁片である。内面はナデ風の縦方向擦過，口縁内外はナデ風の横方向擦過，外面は縦方向の擦過。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

28は直立する甕の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。暗黄褐色を呈するが，



第 120 図　W－4 区包含層(8・9層)出土土器3 (縮尺1/3)

外面は二次的火熱を受けて暗桃色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は不良。

29は直立する甕の口縁片である。内面はナデ，口縁内外は横方向擦過，外面は縦方向擦過。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

30は直立する甕の口縁片である。内面は横方向擦過，外面は風化のため不明。内面は黒色，外面は茶褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

31は直立する甕の口縁片である。内外ともにナデ。黒褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

32は肩で屈曲する甕の口縁片である。内外ともにナデ。暗褐色を呈し，胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

33は直立する甕の口縁片である。内面から口縁外面はナデ風の横方向擦過。外面はナデ風の縦方向擦過。工具幅は24mm程のものである。内面は淡黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

34は直立する甕の口縁片である。内面は横方向擦過に一部ナデ，口縁外面はナデ。外面は斜方向の削り風擦過に一部ナデ。内面は淡茶褐色，外面は淡褐色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

35は直立する甕の口縁片である。内面は縦方向の粗いハケ目，口縁内外は横方向ナデ，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

36は直立する甕の口縁片である。内面は縦方向擦過ののち粗いハケ目，口縁外面は原体不明（可能性としては糸又はタタキ痕）の圧痕ののちナデ，外面は粗いハケ目を施す。内面は暗灰黄色～黒色，外面は暗灰褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

37は直立する甕である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面は縦方向擦過，外面は風化のため不明。内面は暗黄褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

38は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面は斜方向擦過，外面は横方向擦過。内面は暗黄褐色，外面は黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み焼成は良好。

39は直立する甕である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面下半は斜方向擦過，上半は縦方向擦過，外面はナデ。内面下半は暗茶褐色，上半は暗褐色，外面は褐色を呈するが，口縁下約5cmより以下は二次的火熱を受け，器表の剝落がいちぢるしく，かつ赤褐色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

40は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は擦過ののちナデ。外面は風化のため不明。暗褐色を呈するが，外面下半は二次的火熱により暗赤褐色に赤

変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

41は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は粗いハケ目，口縁外面は布目と思われる圧痕があり，外面は縦方向擦過。内面は暗黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

42は直立する甕の口縁片で，口縁はわずかに外反ぎみである。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は縦・斜方向の擦過，口縁内面は横方向擦過，口縁外面はナデ，外面は風化のため不明。内面は明橙色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

43は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる大きな刻目を施している。内面は斜方向擦過，口縁内面は横方向擦過，外面はナデ。暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

44は直立する甕で，復原口径は12.4cmを測る。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともに粗いハケ目ともいってよい縦方向擦過。内面は淡茶色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

45は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面は黒褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

46は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には棒状工具による刻目を施している。内面は条痕風の擦過，外面はナデ。内面から肩の上までは黄褐色，肩より下は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

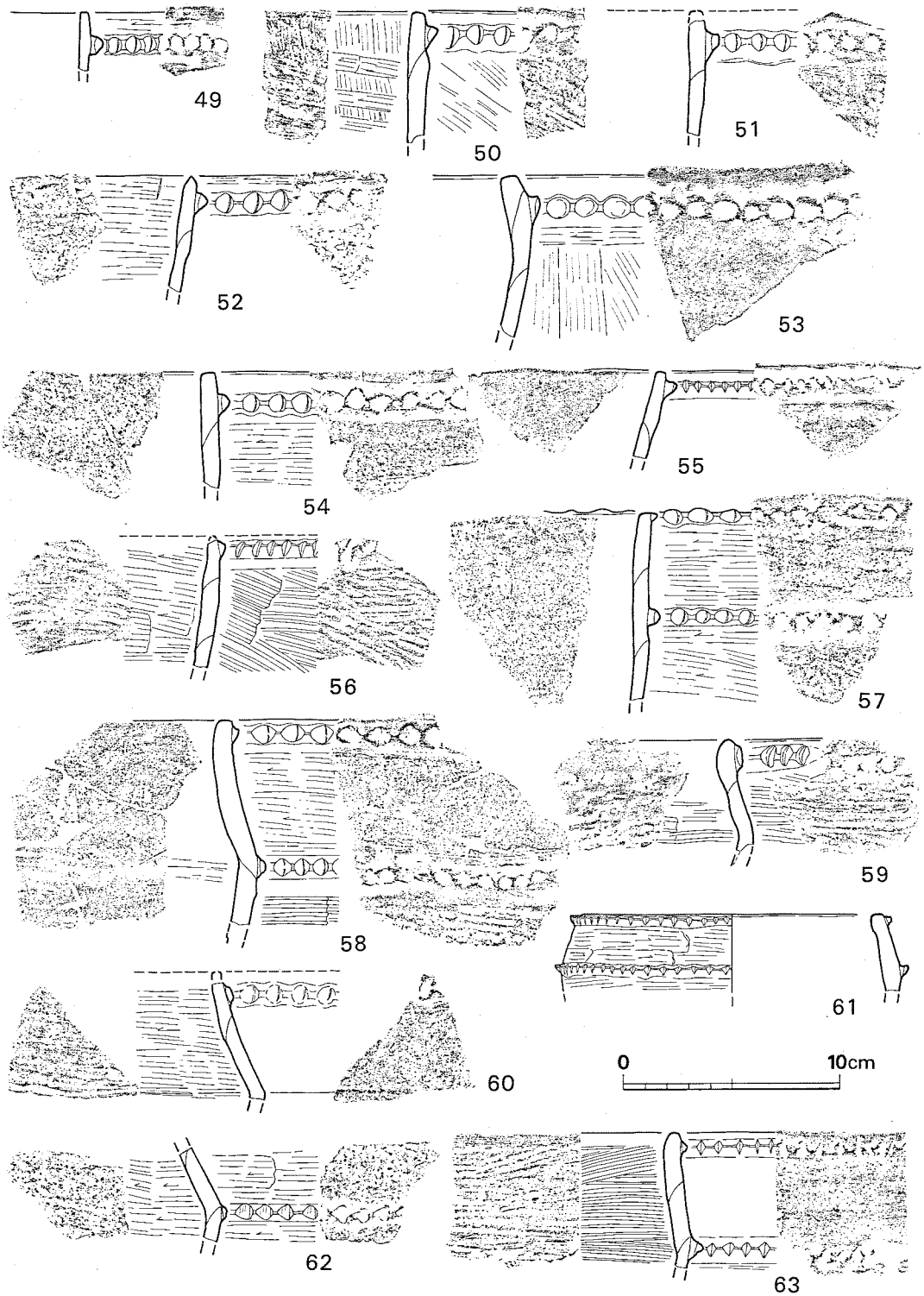
47は肩で屈曲する甕である。口縁と肩にはヘラによる刻目を施している。内面は粗いハケ目といってもよい斜・横方向擦過，頸部外面は粗い横方向のハケ目，胴部外面は縦方向の擦過。内面は暗茶褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

48は肩で屈曲する甕の肩・胴部片である。肩にはヘラによる刻目を施している。胴部内面は粗い横方向のハケ目，肩部内面は指頭圧痕，外面の肩はナデ，胴部は粗いハケ目といってもよい縦方向の擦過。黄褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

49は直立する甕の口縁片である。口縁下10～19mm程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面はナデ，外面はナデ風の横方向擦過。暗茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，暗茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

50は直立する甕の口縁片である。口縁下５～17mm程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は縦方向の削り風擦過ののち横方向擦過，口縁上端は擦過，口縁から凸帯下まではナデ，外面は斜方向の粗い擦過。内面から凸帯の上までは明茶色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

51は直立する甕の口縁片である。口縁より下ったところに凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内外ともにナデ。黒褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。



第 121 図　W－4区包含層(8・9層)出土土器4 (縮尺1/3)

52は直立する甕の口縁片である。口縁下８～19㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面から凸帯の上までは横方向擦過，外面は風化のため不明。暗褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

53は直立する甕の口縁片である。口縁下10～24㎜程の間に凸帯を貼付し，指先押圧による大きな刻目を施している。内面は暗褐色，外面は淡褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

54は直立する甕の口縁片である。口縁下10～20㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は横方向擦過ののちナデ，口縁から凸帯下はナデ，外面は明茶色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

55は直立する甕の口縁片である。口縁下５～13㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面はナデ，外面は擦過ののちナデ。内面は褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

56は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は横方向擦過，口縁から凸帯下まではナデ，外面は斜・横方向の条痕。暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

57は直立する甕である。口縁外側と肩にあたる部分に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面はナデ，外面はナデ風の横方向擦過。内面は黄褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含は，焼成は良好。

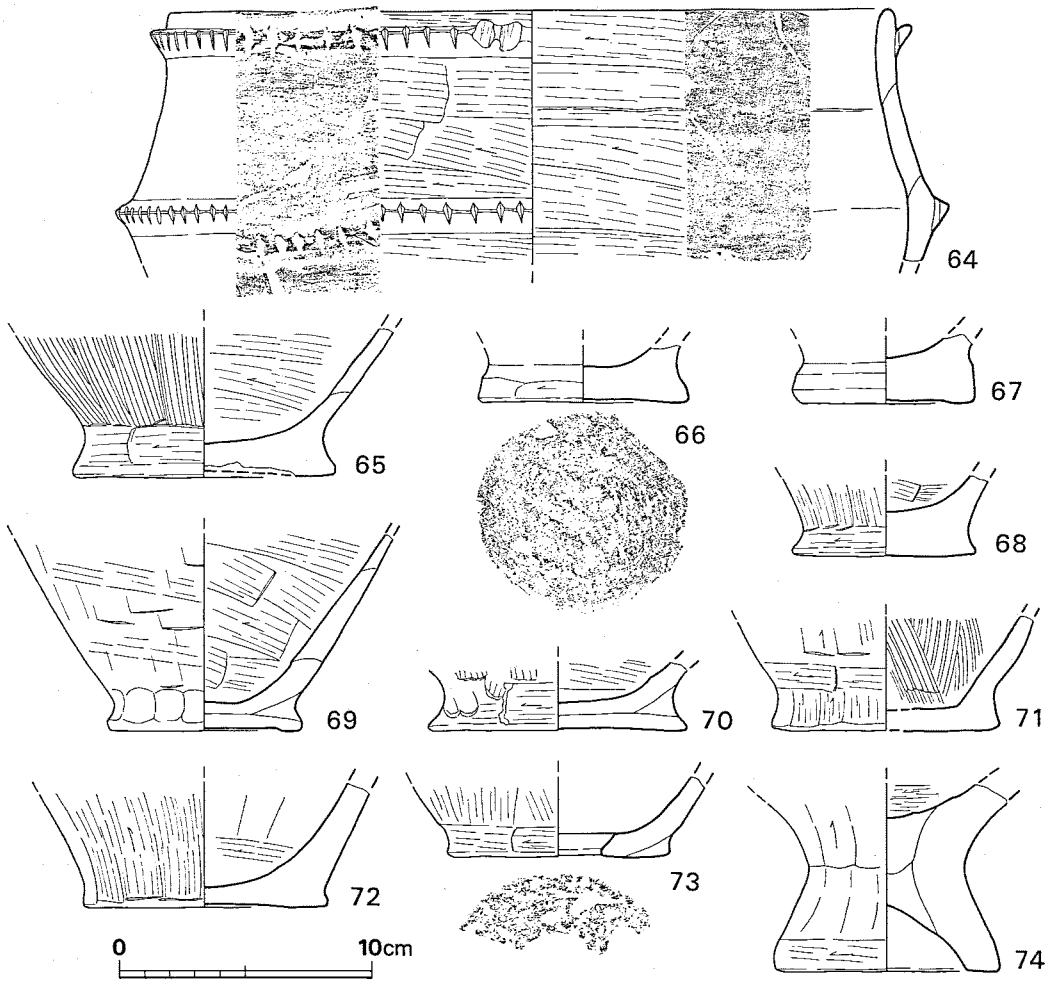
58は肩で屈曲する甕である。口縁下３～12㎜程の間と肩に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は擦過ののちナデ，口縁内面から凸帯下までと肩の凸帯周辺は横方向ナデ，頸部外面は横方向擦過，胴部外面は横方向条痕。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

59は肩で屈曲する甕である。口縁外側には爪による刻目を施した凸起を貼付している。内面の頸部下半は横方向条痕ののち横方向擦過，頸部上半から凸起下までは横方向ナデ，頸部外面は横方向条痕ののち横方向擦過を加えている。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。刻目凸起と肩に凸帯・刻目等のない点，古い要素をもっている。

60は肩で屈曲する甕である。口縁下に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は横方向擦過，外面は風化のため不明。内面は暗茶褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

61は肩で屈曲する甕で，復原口径は13.7㎝を測る。口縁よりわずかに下ったところと肩部に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。口縁内面はナデ，外面はナデ風の擦過。暗赤褐色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

62は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，ヘラによる大きな刻目を施して



第 122 図　W－4区包含層(8・9層)出土土器5（縮尺1/3）

いる。内外ともにナデ風の横方向擦過。内面は黄褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

63は肩で屈曲する甕である。口縁下3～11㎜程の間と肩に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は横方向条痕，口縁内面から肩部凸帯下まではナデ，胴部外面は条痕の痕跡あり。内面は黒褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

64は肩で屈曲する甕である。復原口径は28.0cm，復原肩部径は32.8cmを測る。口縁下8～19㎜程の間と肩に凸帯を貼付し，口縁下凸帯にはヘラによる刻目と一部棒状工具による大きな刻目を，肩部凸帯にはヘラによる刻目を施している。内面は横方向擦過，外面はナデ風の横方向

擦過。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。肩部凸帯下は二次的火熱により淡赤褐色に赤変した部分がある。

65は径10.4cmの底部である。内面は横方向擦過，外面は縦方向条痕，底部外側は横方向擦過，外底には木葉痕が残っている。内面は淡黄褐色，外面は淡茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

66は径8.2cmの底部である。内面は擦過，外面は擦過ののちナデ，外底は板木口によるカキトりでわずかに上げ底を呈する。内面は黒褐色，外面は茶色～淡黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

67は径7.1cmの底部である。内面は擦過，外面は横方向擦過ののちナデ，外底は板木口によるカキトリ。内面は暗赤褐色，外面の⅓程は暗赤褐色，⅔程は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

68は径7.2cmの底部である。内面は擦過，外面は縦方向擦過，底部外側は横方向擦過ののちナデ，外底は擦過ののちナデ。内面は茶褐色，外面は明茶褐色を呈する。外底には暗紅色の丹が付着している。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

69は径7.7cmの底部片である。内面は横方向擦過，外面は縦方向擦過ののち横方向擦過，底部外側から外底にかけてはナデ，底部外側には指頭圧痕がのこる。内底は淡黄褐色，内面は黒色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

70は径10.1cmの底部片である。内面は横方向擦過，外面は擦過，外底はナデ。内面は淡黄褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

71は復原径9.0cmの底部片である。内面は条痕，外面は擦過ののちナデ，底部外側は擦過，外底はナデ。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

72は径9.7cmの底部片である。内底は擦過，内面は擦過ののちナデ，外面は縦方向擦過で，一部粗いハケ目風の部分がある。外底はナデ。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

73は甑の底部片で，復原径は8.8cmを測る。底部中央に外から内へ穿孔している。孔径は3cm程になると思われる。外面は擦過，内面は風化のため不明，外底には稲わら等の圧痕が残っている。内面は暗黄褐色，外面は茶褐色を呈する。
胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

74は復原径8.9cmの底部片である。底部はつよくひきしまり，2.6cm程の上げ底を呈する。内面は横方向擦過，外底は縦方向擦過，底部外側は横方向擦過。外底は風化のため不明。暗赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

〈12・14・15層出土土器〉

75は丹塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面は風化のた

め不明。地は黄白色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

76は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は赤褐色，丹は暗紅色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

77は丹塗り磨研大形壺の頸・肩部で，肩には段をつくるが，頸から肩に直線的につながっている。肩部の復原径は33.0cmを測る。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。内面は黄白色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

78は丹塗り磨研壺の口・頸部で，復原口径は10.9cmを測る。風化のため外面はミガキ方向不明，内面は丹の痕跡もなし。内面は灰黒色，外面の地は淡黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

79は黒色磨研壺の頸・肩部で，復原肩径は19.3cmを測る。内面は横方向擦過ののち丁寧なナデ，外面は横方向ミガキ。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

80は丹塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面は風化のため不明。内面は黒色，外面の地は黄褐色，丹は暗赤褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

81は黒色磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面までは横方向ミガキ，頸部内面はナデ。内面は淡黒褐色，外面は黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

82は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，外面は灰黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

83は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

84は丹塗り磨研壺の肩部片である。内面はナデで，肩部内面には指頭圧痕がみられる。外面は横方向ミガキ。内面は淡黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

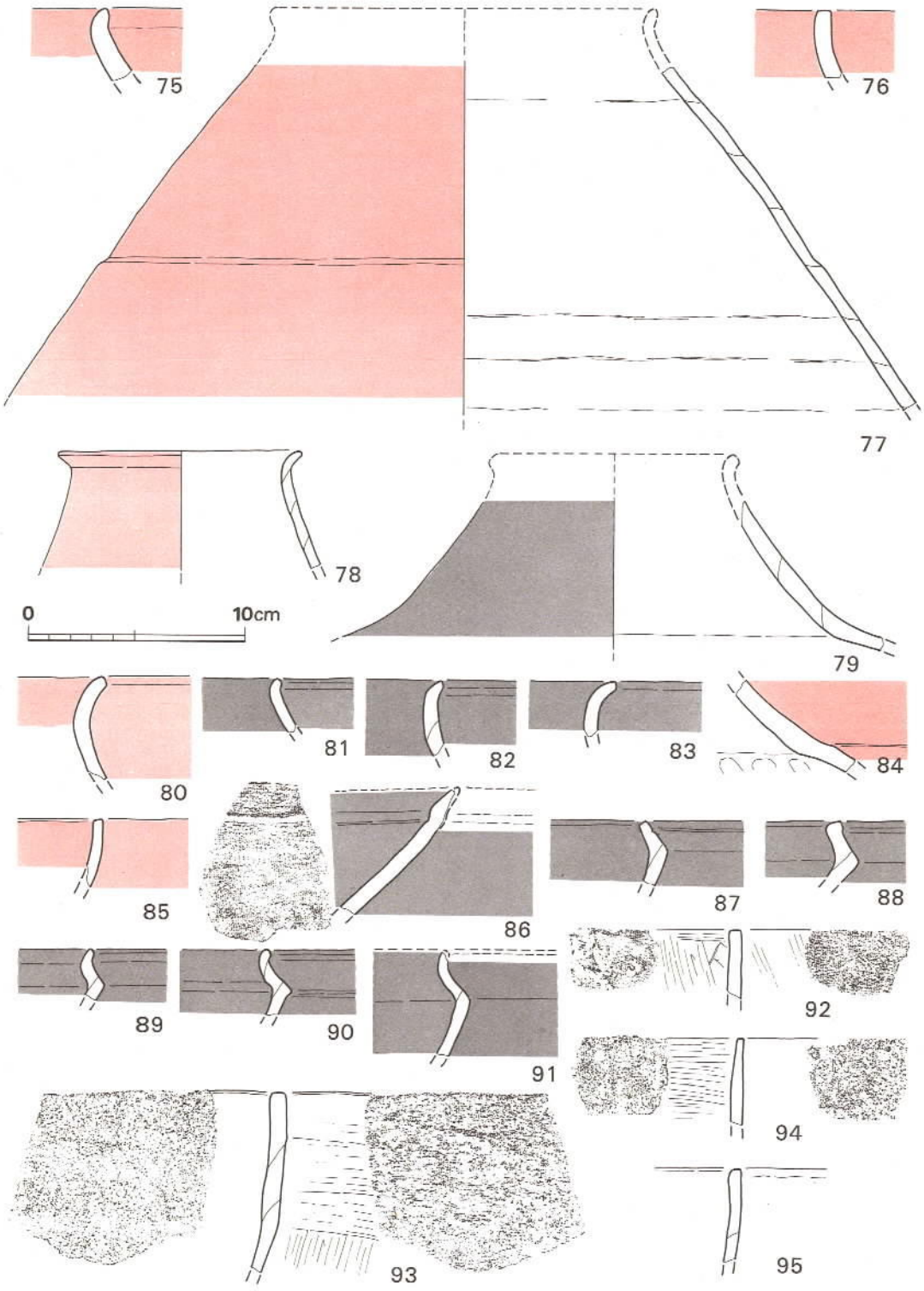
85は丹塗り磨研埦の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

86は黒色磨研方形浅鉢の口縁片である。内面の口縁下には段をつくる。外面は剝落して不明。内面は横方向ミガキ，外面はミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

87は黒色磨研浅鉢片である。口縁下には1条の沈線をめぐらしている。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

88は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

89は黒塗り磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。黄褐色の地に黒色顔料を塗ってい



第 123 図　W－4 区包含層(12・14・15層)出土土器6 （縮尺1/3）

る。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

90は11・16層から出土した黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

91は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

92は直立する甕の口縁片である。内面は擦過，外面は擦過ののちナデ。暗黄褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

93は直立する甕の口縁片である。内面は縦方向擦過ののちナデ，外面は上半を横方向，下半を縦方向擦過ののちナデ。暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

94は直立する甕の口縁片である。内面はナデ風の横方向擦過，外面はナデ。内面は黒褐色，外面は赤褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

95は直立する甕の口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黒色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

96は直立する甕である。内面はナデ風の横方向擦過。口縁内外は横方向擦過，外面はナデ風の横方向擦過。内面は茶褐色，外面は暗褐色を呈するが，口縁上端と口縁外面の一部に暗赤色の丹塗りが認められる。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

97は直立する甕の口縁片である。内面はナデ風の横方向擦過，外面は縦方向擦過ののちナデ。内面は褐色，外面は黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

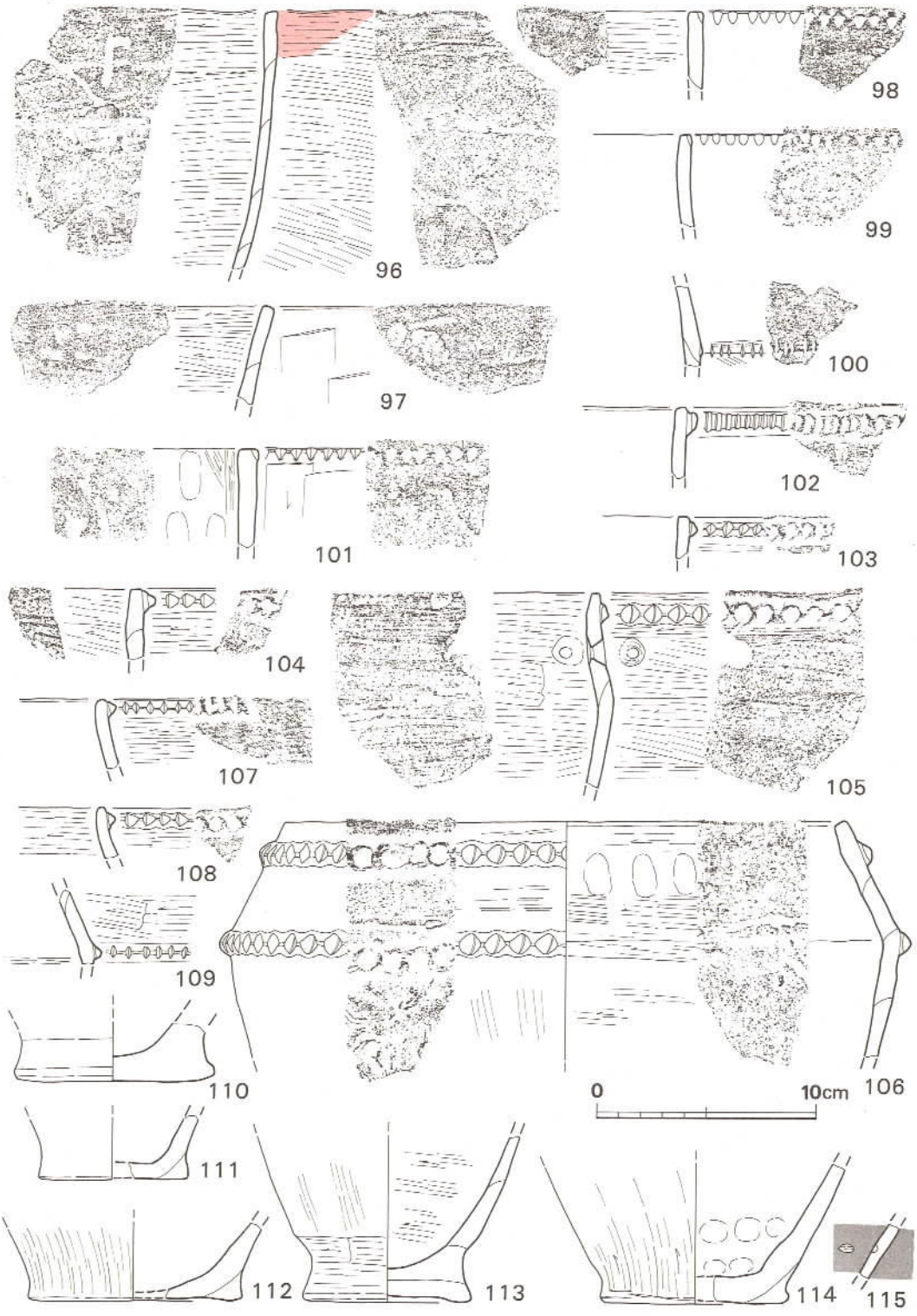
98は直立する甕の口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，外面はナデ。内面は明橙色，外面は褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み焼成は良好。

99は直立する甕で，胴部が少しふくらみぎみのものの口縁片である。口縁には棒状工具による刻目を施している。内面はナデ，外面は風化のため不明。内面は淡黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

100は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩にはヘラによる刻目を施している。内外ともにナデであるが，肩にはハケ目風の横方向擦過の痕跡が残っている。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

101は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は擦過ののちナデで，指頭圧痕がみられる。外面は縦方向擦過ののちナデ。内面は淡赤褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

102は直立する甕の口縁片である。口縁下2～14㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともにナデ。内面は黒色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。



第 124 図　W－4 区包含層(12・14・15層)出土土器 7 （縮尺1/3）

103は直立する甕の口縁片である。口縁下３～10㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面から口縁下までは横方向ナデ，外面は横方向擦過。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

104は直立する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は条痕風の横方向擦過，外面はナデ風の横方向擦過。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

105は肩で屈曲する甕である。口縁下５～14㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともに横方向擦過，内面は淡赤褐色，頸部外面は暗赤褐色，胴部外面は淡黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。凸帯下に石庖丁穿孔具による補修孔がある。外径は12㎜，内径は５㎜を測る。

106は肩で屈曲する甕で，復原口径は25.4㎝を測る。口縁下９～21㎜程の間と肩に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。胴部内面は横方向擦過ののちナデ，肩部内面は横方向条痕ののち横方向擦過でカキ消す。口縁内面から頸部外面は横方向擦過ののちナデ，胴部外面は縦方向擦過ののちナデ。暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

107は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁よりわずかに下ったところに凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面から凸帯下まではナデ，外面は横方向擦過。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

108は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下２～10㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内外ともに横方向擦過。黒褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

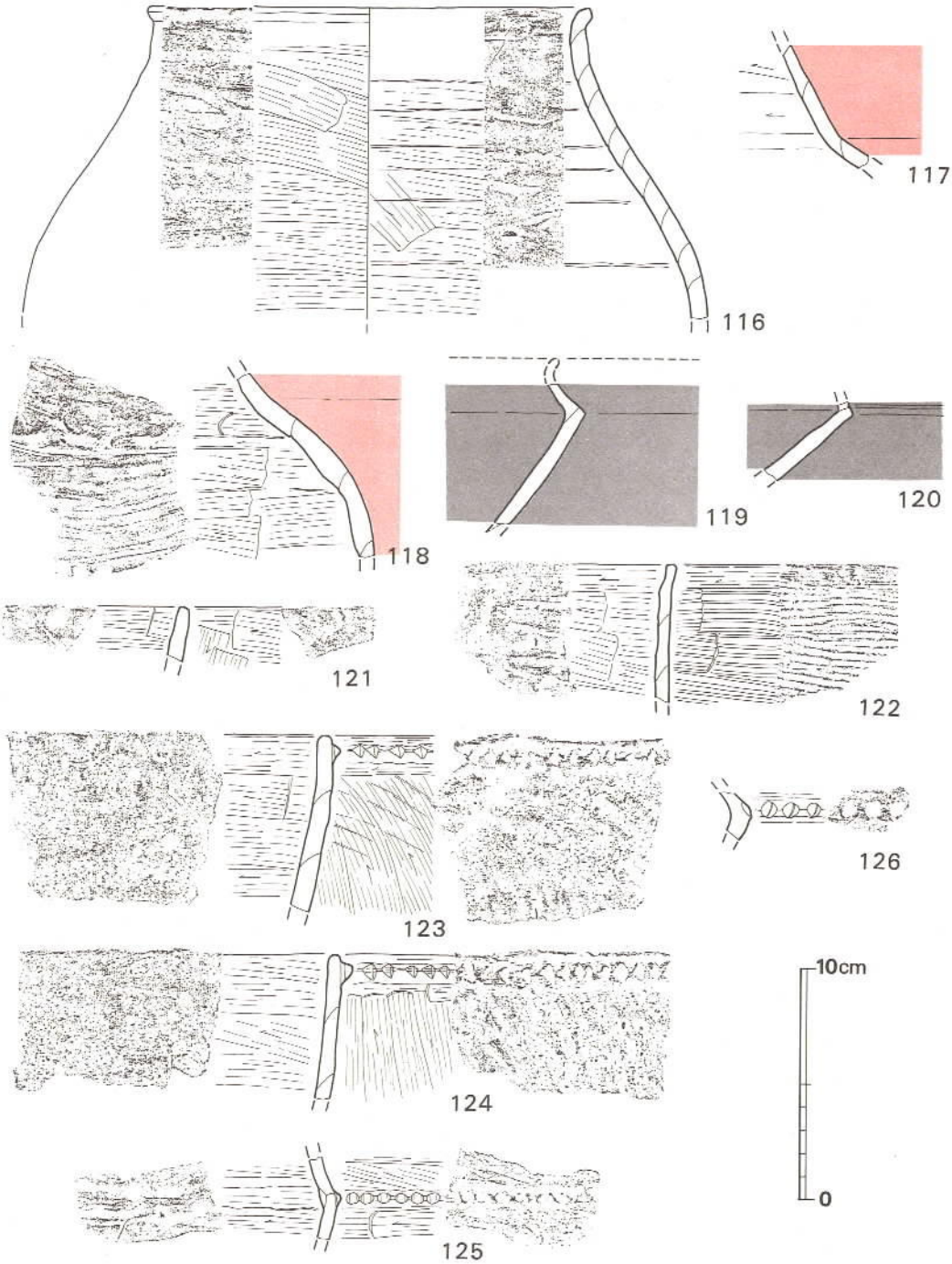
109は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。胴部内面は横方向擦過，頸部内面はナデ，頸部外面はナデ風の横方向擦過。暗赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

110は径9.0㎝の底部である。内面はナデ，外面は風化のため不明。黄褐色を呈するが，外面は二次的火熱により赤褐色に赤変している。胎土には砂粒を多く含み，焼成は不良。

111は復原径6.8㎝の底部片である。内面はナデ，外面は風化のため不明。赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は不良。

112は復原径9.7㎝の底部片である。内面はナデ，外面は縦方向擦過，外底はナデ。内面は淡赤褐色，外面は黄褐色を呈するが，底部外側から外底周縁は二次的火熱を受けて赤変している。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

113は径7.6㎝の底部片である。内面は横方向擦過，外面は縦方向擦過ののちナデ，底部外側はナデ風の横方向擦過，外底は板木口によるカキトリ。暗赤褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。外面は二次的火熱を受けている。



第 125 図　W－4 区包含層(11・16 層)出土土器 8（縮尺1/3）

114は復原径8.4cmの底部片である。内面はナデで内底には指頭圧痕がのこる。外面は縦方向擦過。暗赤褐色で，外面は二次的火熱を受ける。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

115は黒色磨研浅鉢の体部内面に米圧痕が付着したものである。長さ6.0mm，幅3.2mm，長幅比1.88を測る。内面は剝落いちじるしく，外面は横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

〈11・16層出土土器〉

116は壺で，口縁は外反し，頸から胴部へは明瞭な肩をつくらずにつづく。粘土紐巻上技法による成形である。復原口径は19.0cmを測る。内面は擦過で，一部は削り風を呈する。口縁内外は擦過ののちナデ，外面は斜・横方向の擦過。黄褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

117は丹塗り磨研壺の頸・肩部片である。内面は横方向擦過，外面は横方向ミガキ。内面は灰黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

118は丹塗り磨研壺の肩・胴部片である。内面は横方向擦過，外面は横方向ミガキ。内面は灰黒色，丹はやや明るい赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

119は黒塗り磨研浅鉢片である。外面から体部内面の上半までは横方向ミガキ，下半はミガキ。灰褐色の地に，外面はほとんど剝落しているが，黒色顔料を塗っている。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

120は黒色磨研浅鉢の肩部片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

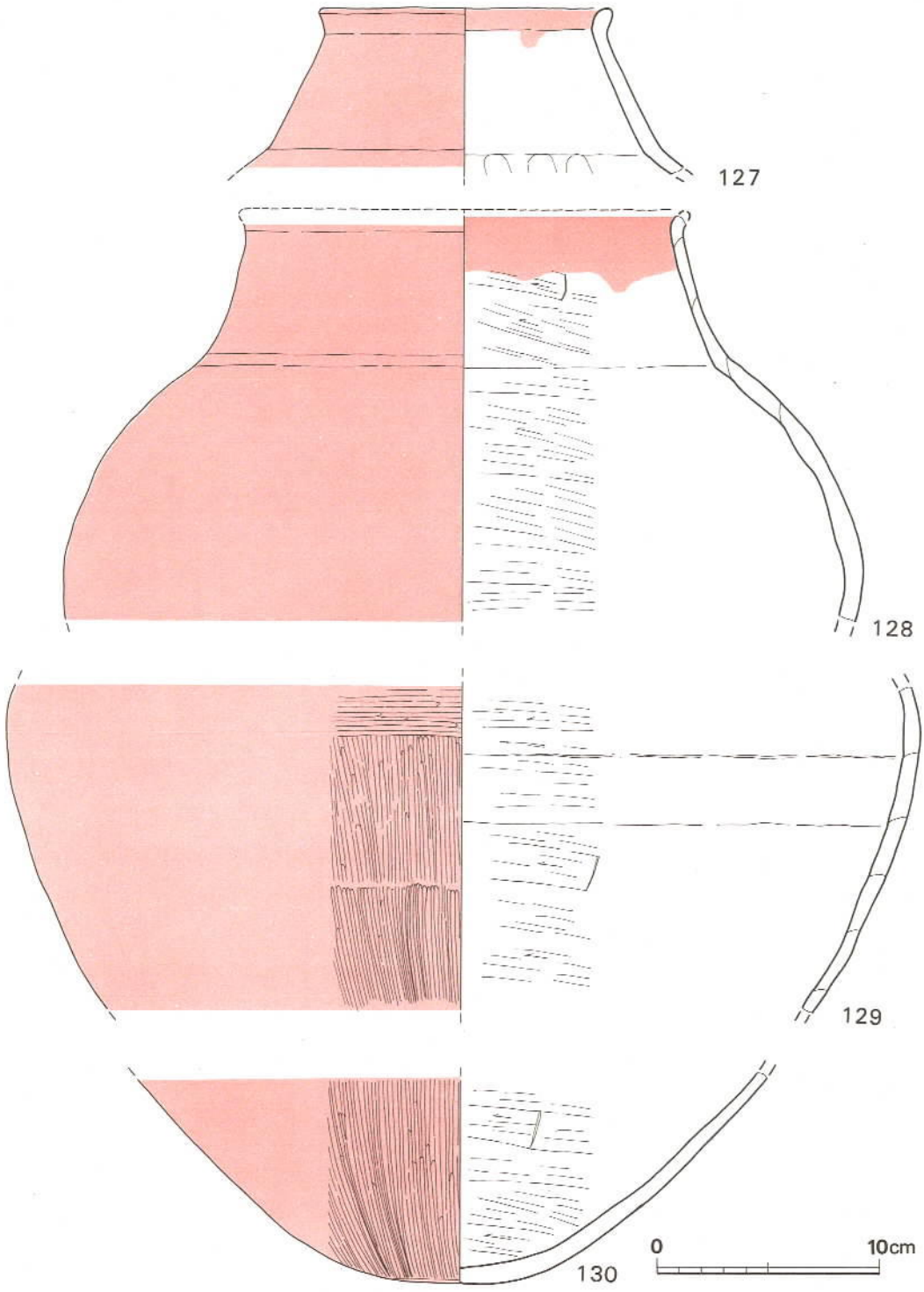
121は直立する甕の口縁片である。内面はナデ風の横方向擦過，外面はナデ風の縦横の擦過。内面は淡黄褐色，外面は灰黄色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

122は直立する甕の口縁片である。内面は横方向擦過，口縁はナデ風の横方向擦過，外面は横方向条痕。暗茶褐色～暗褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

123は直立する甕の口縁片である。口縁下4～12mm程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面から凸帯下までは横方向擦過，外面は指ナデによると思われる幅広の凹線の上から縦方向の擦過，内面は暗褐色，外面は黒褐色～茶褐色を呈する。砂土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

124は直立する甕の口縁片である。口縁下4～14mm程の間に凸帯を貼付し，板木口による刻目を施している。内面から凸帯下までは横方向擦過，外面はきたない縦方向の擦過。黒褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

125は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内外ともに横方向擦過。内面は黒色，頸部外面は淡橙色，胴部外面は暗褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 126 図　W－4 区包含層出土土器 9 （縮尺1/3）

126は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には爪による刻目を施している。頸部外面は横方向擦過，他は風化のため不明。暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

以上は層位別にとりあげた遺物である。

127は丹塗り磨研壺の口縁～肩部片である。復原口径は12.8cmを測る。内面はナデ，口縁内面から外面は横方向ミガキ。内面は黄褐色，丹は暗赤色。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

128は丹塗り磨研壺で，復原口径は約20cm，復原肩部径は24.6cm，復原胴部最大径は36.0cmを測る。外面から口縁内面は横方向ミガキ，内面は斜方向擦過。内面は淡黄色，外面の地は黒色が主で一部淡黄色，丹は部厚くてきたなく塗られており，焼成後に塗られたものと考える。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

129は丹塗り磨研大形壺の胴部片である。胴部最大径は41.0cmを測る。胴部最大径より上は横方向ミガキ，下は縦方向ミガキ，内面は横方向擦過。内面は淡黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

130は丹塗り磨研大形壺の底部である。ほぼ丸底化しているが，あえていえば径７cm程のところに，辛うじて稜をつくっているといえよう。外面は縦方向ミガキ。内面はナデ風の横方向擦過。内面は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。 144とは別個体である。

131は丹塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面は横方向擦過，内面は淡黄褐色，外面の地は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

132は丹塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

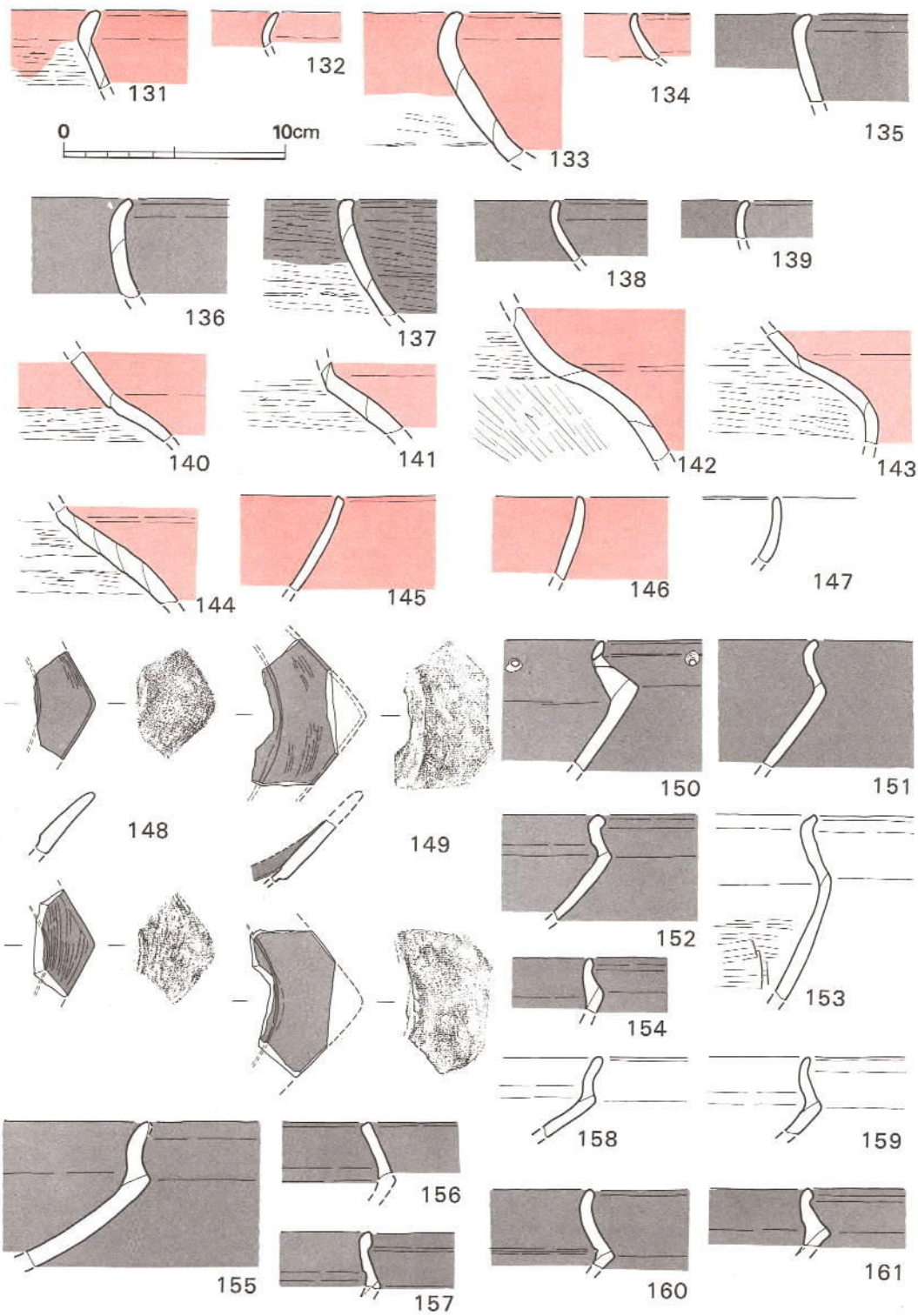
133は丹塗り磨研壺の口・頸部片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面は横方向擦過ののちナデ。内面は淡黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

134は丹塗り磨研小壺の口縁片である。外面から頸部内面は横方向ミガキ，肩部内面はナデ。地は黒褐色，丹は暗紅色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

135は黒塗り磨研壺の口縁片である。外面から口縁内面は横方向ミガキ，頸部内面はナデ。暗黄褐色の地の上に暗褐色の顔料を塗っている。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

136は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

137は黒塗り壺の口縁片である。内外ともに横方向擦過。茶褐色の地に黒褐色の顔料を口縁内面から外面に塗っている。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 127 図　W－4 区包含層出土土器10（縮尺1/3）

138は黒色磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

139は黒塗り磨研壺の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。暗茶褐色の地に黒色顔料を塗っている。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

140は丹塗り磨研壺の肩部片である。外面は横方向ミガキ，頸部内面はナデ，肩部内面は横方向擦過。内面は暗黄褐色，丹は暗紅色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

141は丹塗り磨研壺の肩部片である。外面は横方向ミガキ，内面は横方向擦過。内面は黒色，外面の地は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成はやや不良。

142は丹塗り磨研壺の肩・胴部片である。外面は横方向ミガキ，胴部内面は斜方向擦過，頸部内面は横方向擦過。内面は淡黄色，外面の地は灰黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

143は黒色磨研壺の肩・胴部片である。外面は横方向ミガキ，内面は横方向擦過。内面は灰黄色，丹は暗赤色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

144は丹塗り磨研壺の肩・胴部片である。外面は横方向ミガキ，内面は横方向擦過。内面は黄白色，丹は暗赤色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

145は丹塗り磨研埦の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は黄褐色，丹は暗赤色を呈する。胎土には精選粘土を用い，焼成は良好。

146は丹塗り磨研埦の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。地は黄褐色，丹は赤褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

147は埦の口縁片である。内面はナデ，外面は横方向ミガキ。淡茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

148は黒色磨研方形浅鉢の口縁片である。内外ともに口縁下に段をつくっている。内外ともにミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

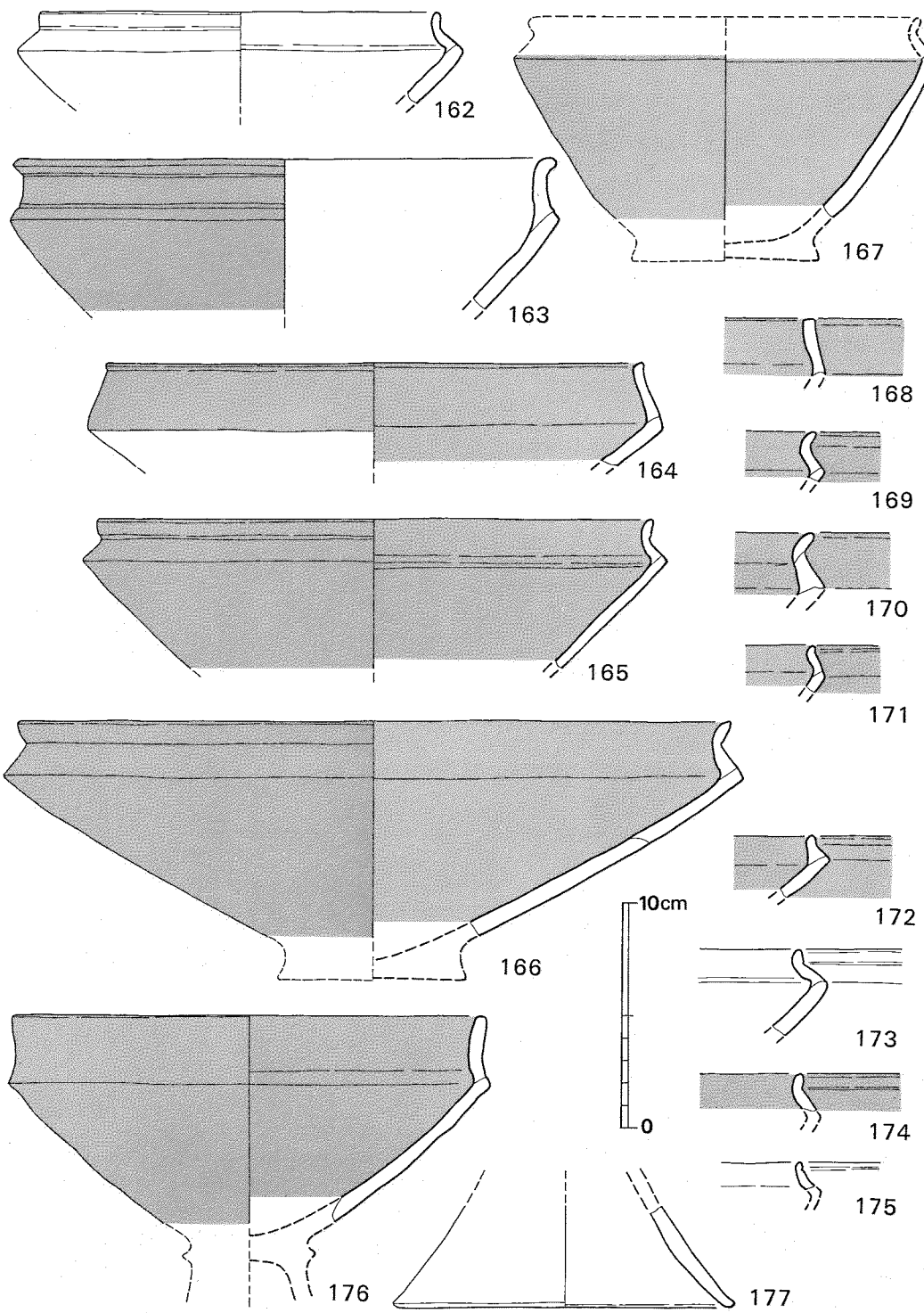
149は黒色磨研方形浅鉢の口縁片である。内外ともに口縁下に段をつくっている。内面は黒色，外面は灰黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

150は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ，黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。口縁直下に石庖丁穿孔具によって外から内へ穿孔した補修孔がある。外径は7㎜，内径は3㎜を測る。

151は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

152は黒塗り磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。茶褐色の地に黒色顔料を塗っている。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

153は浅鉢片である。内面の体部下半は横方向擦過，体部上半から頸部外面は擦過風の横方向



第 128 図　W－4 区包含層出土土器11（縮尺1/3）

ミガキ。体部外面は風化のため不明。内面は淡茶色で，肩部内面のみは黒褐色，外面は暗褐色を呈する。体部外面は二次的火熱を受けて器表の剝落がいちじるしい。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

154は黒塗り磨研高坏片と思われる。器表の剝落がいちじるしく黒塗りは痕跡的である。地色は茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

155は黒塗り磨研高坏片である。内外ともに横方向ミガキ。黄褐色の地に黒褐色の顔料を塗っているが，内面は痕跡的である。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

156は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

157は黒塗り磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。暗黄褐色の地に黒色顔料を塗っている。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

158は高坏かと思われる。内外ともに横方向ミガキ。淡黄色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

159は浅鉢片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黒褐色，外面は黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。本来は黒色磨研かと思われる。

160は黒塗り磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。淡茶褐色の地に黒色顔料を塗っている。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

161は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

162は浅鉢片で，復原口径は17.7cmを測る。内外ともに風化のため調整法は不明。茶褐色で一部黒色を呈する。黒斑かと思われる。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

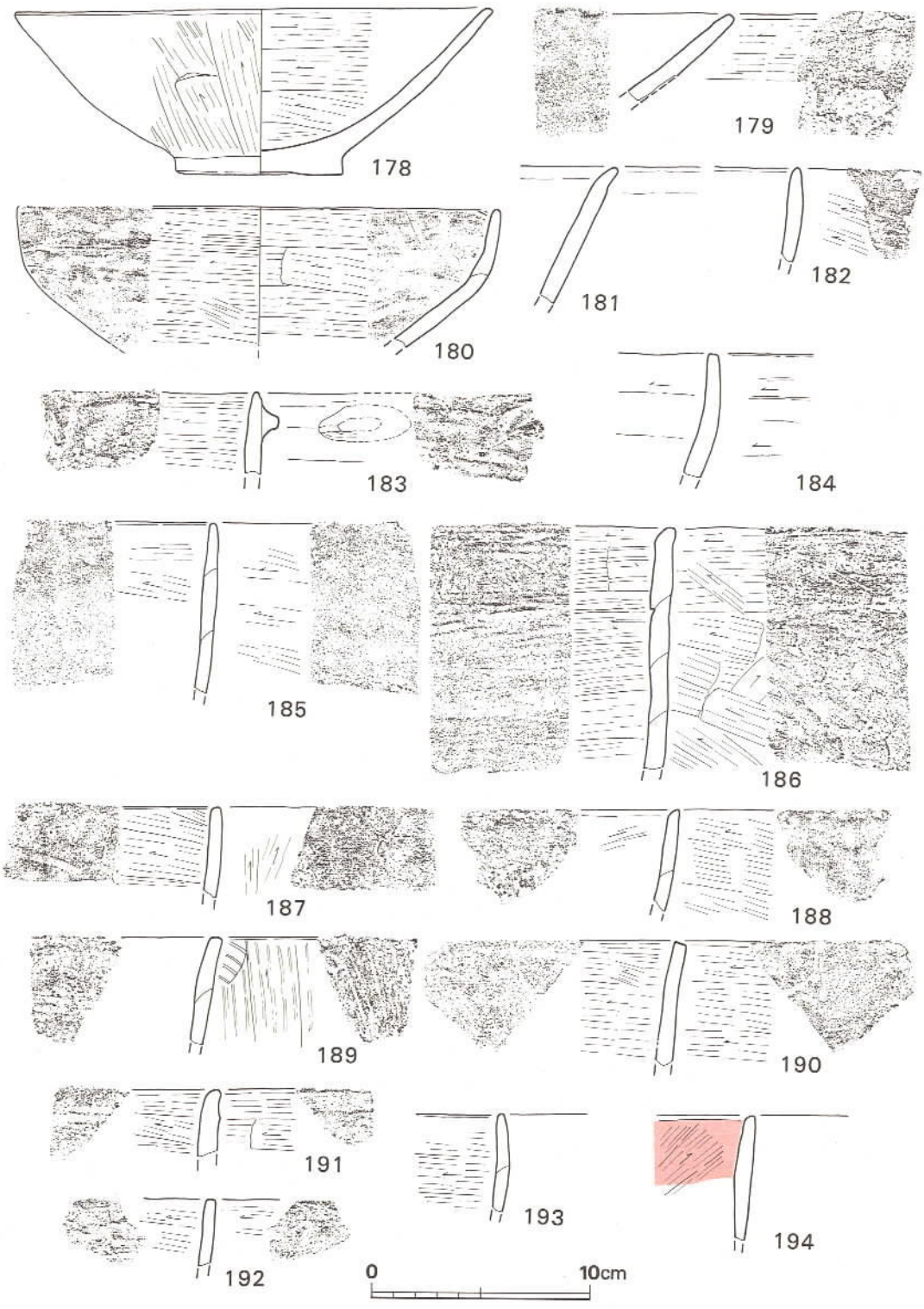
163は黒塗り磨研浅鉢片で，復原口径は23.6cmを測る。肩の上に1条の沈線をめぐらせている。内外ともに横方向ミガキ。内面には黒塗りの痕跡はなく淡褐色を呈する。外面は茶褐色の地に黒色顔料を塗っている。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

164は黒塗り磨研浅鉢片で，復原口径は23.6cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。茶褐色の地に，内面と頸部外面に黒色顔料を塗っている。胎土には細粒の砂粒を少量含み，焼成は良好。

165は黒塗り磨研浅鉢で，復原口径は24.4cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。暗灰黄色の地に黒色顔料を塗る。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

166は黒色磨研浅鉢で，復原口径は31.5cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

167は黒色磨研浅鉢で，復原肩部径は18.6cmを測る。器高は11cm，口径は17cm程のものである。内面は横方向ミガキ，外面は風化のためミガキ方向は不明。内面は黒色，外面は暗褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。



第 129 図　W－4 区包含層出土土器12（縮尺1/3）

168は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色,外面は黒褐色～黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

169は黒塗り磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。灰黄色の地に黒色顔料を塗る。胎土には細粒の砂を少量含み，焼成は良好。

170は黒塗り磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。灰黄色の地に黒色顔料を塗っているが残りは悪い。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良。

171は黒塗り磨研高坏と思われる。内外ともに横方向ミガキ。黄褐色の地に黒色顔料を塗る。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

172は黒色磨研浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し,胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

173は浅鉢片である。内外ともに横方向ミガキ。淡茶褐色を呈し,胎土には少量の砂粒を含み,焼成は良好。

174は黒色磨研浅鉢の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し,胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

175は浅鉢口縁片である。外面は擦過,内面は風化のため不明。暗黄褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

176は黒色磨研の高坏と思われる。復原口径は21.0cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。内面は黒色，口縁から体部上半までは黒褐色，体部下半は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

177は高坏の脚である。復原脚裾径は15.0cmを測る。内外ともに風化のため調整法は不明。黒褐色を呈し，胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好。本来は黒色磨研と思われる。

178は鉢で，器高7.5cm，口径21.4cm，底径7.6cmを測る。内面は横方向擦過,外面は縦方向条痕を縦方向擦過でカキ消している。底部外側は横方向擦過，外底は擦過。内面は淡黄橙色，外面は黒色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

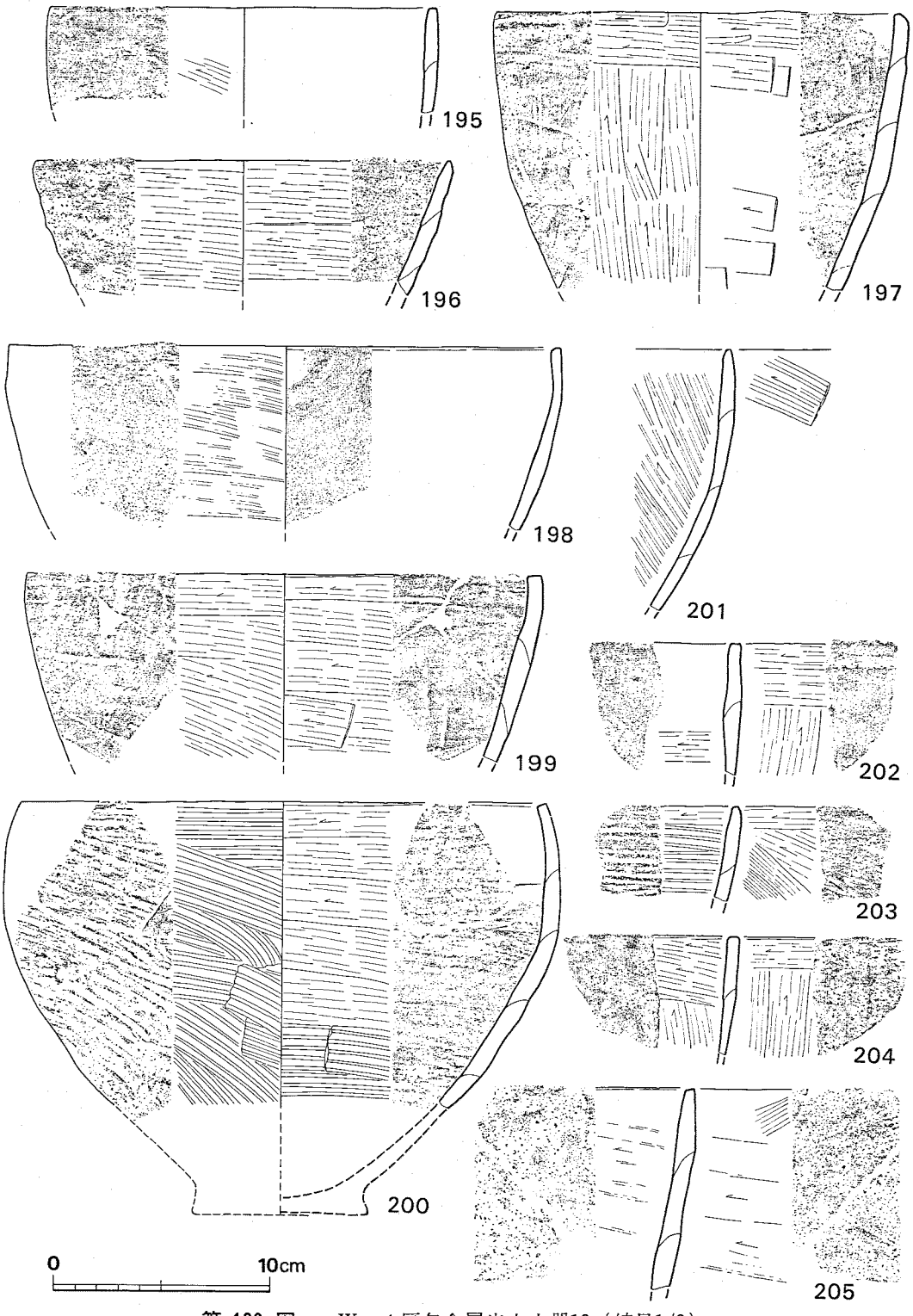
179は鉢の口縁片である。内面は横方向擦過ののちナデ，外面は横方向擦過。黒褐色を呈し,胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

180は鉢で,復原口径は21.8cmを測る。内外ともに横方向擦過で，外面には一部ハケ目風を呈する部分がある。淡茶色を呈し，胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

181は鉢口縁片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黄茶色，外面は赤褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

182は直立する甕の口縁片である。内面はナデ,外面は斜方向擦過ののちナデ。内面は暗褐色,外面は茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

183は直立する甕の口縁片である。口縁下6～22mm程の間に幅4～5cm程になると思われるが,



第 130 図　W－4 区包含層出土土器13（縮尺1/3）

こぶ状の隆起を貼付している。内外ともに横方向擦過。茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

184は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。内面は淡黄色，外面は黄白色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

185は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過ののちナデ。内面は黄白色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

186は直立する甕である。内面は横方向条痕ののちナデ，口縁内面は横方向擦過，外面は横・斜方向の粗い擦過。内面は黒色，外面は暗茶褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

187は直立する甕の口縁片である。内面は横・斜方向擦過，外面は縦方向擦過。内面は淡褐色，外面は黄白色を呈するが，口縁外面は二次的火熱により淡赤褐色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

188は直立する甕の口縁片である。内面は斜方向擦過ののちナデ，外面はナデ風の斜方向擦過。内面は淡褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

189は直立する甕の口縁片である。内面はナデ，外面は条痕風の縦方向擦過。内面は暗黒褐色，外面は赤褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

190は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向ミガキ。内面は褐色～茶褐色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

191は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。内面は淡茶褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

192は直立する甕の口縁片である。内外ともに横方向擦過。内面は茶色，外面は黒色を呈する。胎土には細粒の砂を微量に含み，焼成は良好。

193は直立する甕の口縁片である。内面はナデ風の横方向擦過，外面は丁寧なナデ。内面は黄褐色，外面は赤みを帯びた黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

194は直立する甕の口縁片である。内面は斜方向の擦過，外面はナデ。内面は暗黄褐色を呈するが，口縁内面には一部明るい赤色の丹塗りが認められる。外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

195は直立する甕で，復原口径は17.6cmを測る。内面はナデ，外面は斜方向擦過ののち丁寧なナデを加え擦過痕を消している。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

196は直立する甕で，復原口径は19.0cmを測る。内面は横方向擦過，外面は横方向の粗い擦過。黒色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

197は直立する甕で，復原口径は18.3cmを測る。内面はナデ風の横方向擦過，口縁内面は一部

第 131 図　W－4 区包含層出土土器14（縮尺1/3）

ミガキ風を呈する部分もある。口縁外面は横方向擦過，外面は縦方向擦過で一部ミガキ風を呈する部分もある。暗茶褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

198は直立する甕で，復原口径は25.2cmを測る。内面はナデ，外面は横方向条痕をナデ消して，ヘラミガキ風にみえる。内面は褐色，外面は淡黄褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

199は直立する甕で，復原口径は23.5cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。内面は暗黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

200は直立する甕で，復原口径は24cmを測る。器高は19cm程のものである。内面の下半は横方向条痕，上半は横方向擦過，外面は斜・横方向の条痕。内面は黒褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土に少量の砂粒を含み，焼成は良好。

201は直立する甕である。内面は条痕風の斜方向擦過，外面はナデで，一部に条痕風の粗い擦過がみられる。内面は淡橙色，外面は暗褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

202は直立する甕の口縁片である。内面はナデ風の横方向擦過，口縁内面はナデ，口縁外面はナデ風の横方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は淡茶黄色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

203は直立する甕の口縁片である。内面は横方向条痕，口縁内外はナデ風の横方向擦過，外面は斜方向擦過で一部はハケ目風を呈している。黒褐色～暗褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

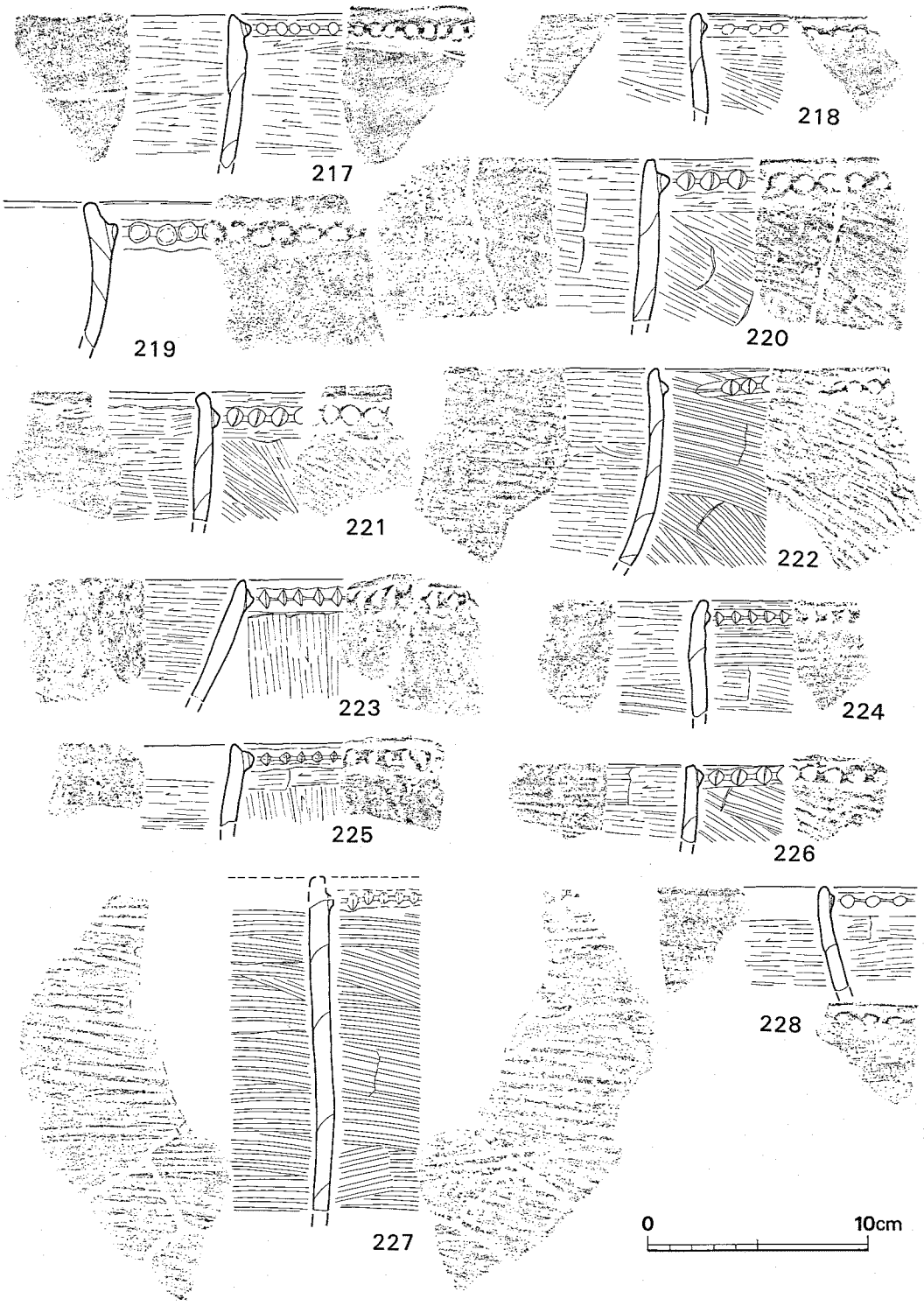
204は直立する甕の口縁片である。内面はナデ風の擦過，口縁外面は横方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は黄褐色，外面は淡褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

205は直立する甕である。内外ともに横方向擦過。口縁外面には一部粗いハケ目又は条痕風の痕跡がある。内面は明黄色，外面は黄白色の地に丹塗り風の淡赤茶色の化粧土をかけている。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

206は直立する甕の口縁片である。口縁には爪による大きな刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，外面は横方向擦過。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

207は直立する甕の口縁片である。口縁は折返してつくられており，可楽里式甕の影響を受けたものといえるであろう。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は擦過，外面はナデ。内面は茶褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

208は直立する甕である。口縁上端にはヘラによる刻目を施している。又口縁下31～54mmの間にヘラによる刻目を施した大きな凸起を貼付している。内外ともにナデ。内面は明黄褐色，外



第 132 図　W－4 区包含層出土土器15（縮尺1/3）

面は淡黄色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

209は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は暗褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

210は直立する甕である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，外面はナデ風の縦方向擦過。内面は赤茶色，外面は暗茶褐色を呈する。内面には黒色の有機物の付着がみられる。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

211は直立する甕の口縁片である。口縁にはヘラによる刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。口縁内面には指頭圧痕がみられる。暗褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

212は直立する甕の口縁片で，口縁はわずかに外反ぎみで胴は少しふくらむ。口縁にはヘラによる刻目を施している。内面は斜方向の擦過，口縁内外は横方向ナデ，口縁外面は横方向擦過，外面は縦方向擦過。内面は黄褐色～褐色，外面は黒色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

213は直立する甕で，復原口径は26.0cmを測る。内面は擦過ののちナデ，外面はナデ。内面は赤褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

214は直立する甕の口縁片である。口縁下７～19㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面は横方向擦過，外面はナデ。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

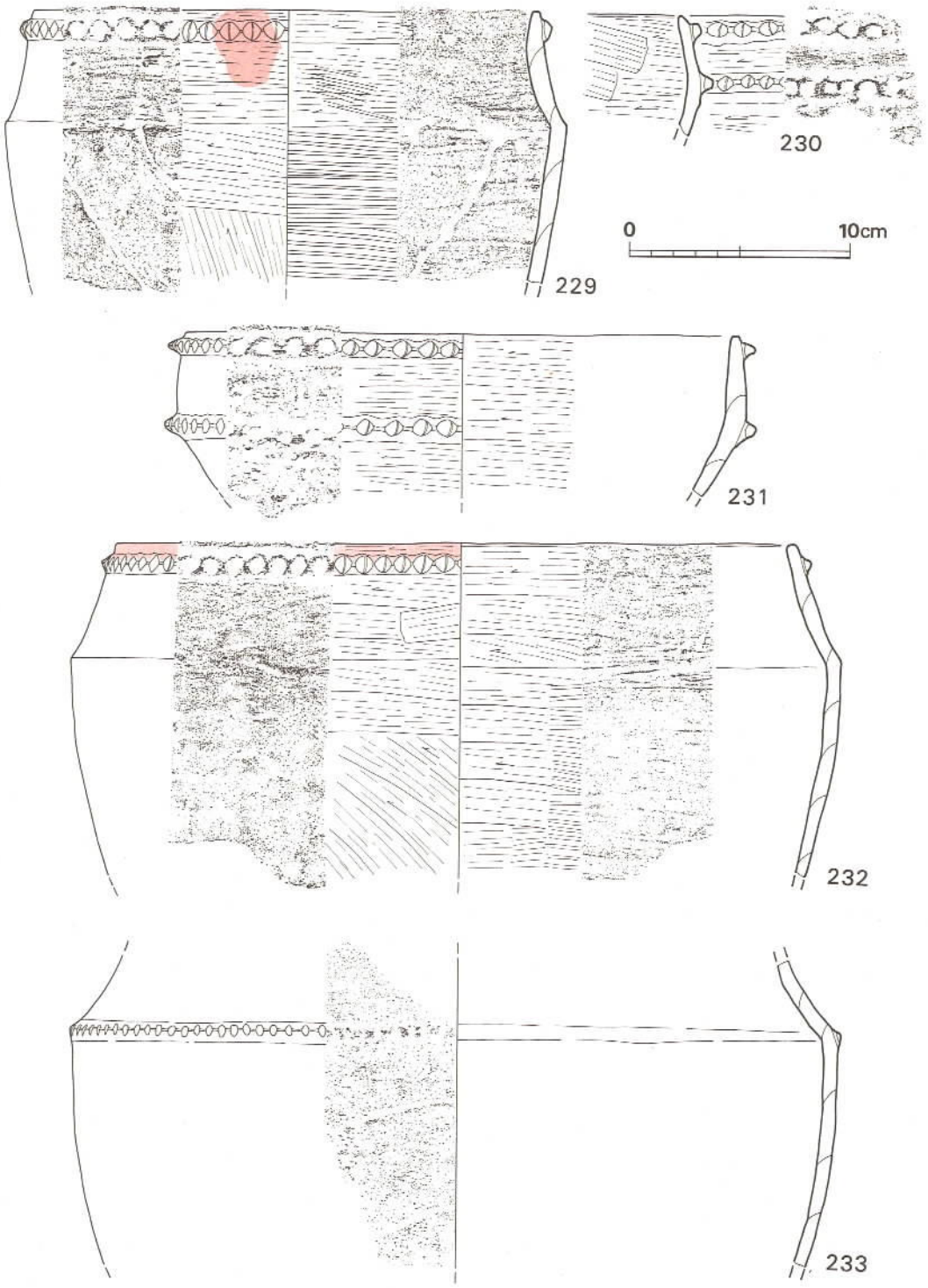
215は直立する甕の口縁片である。口縁下６～20㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内外ともにナデ。内面は黒色，外面は黄褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

216は直立する甕の口縁片である。口縁下２～12㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面はナデ，口縁から凸帯下までは横方向擦過，外面は縦方向擦過。暗茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良。

217は直立する甕の口縁片である。口縁下３～10㎜程の間に凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。口縁から凸帯下までは横方向擦過，他は内外ともにナデ風の横方向擦過。内面は黄褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

218は直立する甕の口縁片である。口縁下２～10㎜程の間に凸帯を貼付し，指頭押圧による不明瞭な刻目を施している。内面は横・斜方向擦過，外面はナデ風の横・斜方向擦過。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

219は直立する甕の口縁片である。口縁下９～23㎜程の間に凸帯を貼付し，指頭押圧による刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。暗黄褐色を呈し，胎土には砂粒をやや



第 133 図　W－4 区包含層出土土器16（縮尺1/3）

多く含み，焼成はやや不良。

220は直立する甕の口縁片である。口縁下６～16㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。内面から凸帯下まではナデ風の横方向擦過，外面は条痕風の斜方向擦過。内面は淡黄色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

221は直立する甕の口縁片である。口縁下７～17㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面から凸帯下までは横方向擦過，外面は斜方向の条痕と擦過を併用している。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

222は直立する甕である。口縁下５～13㎜程の間に完結しない凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は横方向の擦過，外面は斜方向の条痕。内面は黒色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

223は直立する甕の口縁片である。口縁下４～15㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，外面は縦方向の擦過。茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

224は直立する甕の口縁片である。口縁下５～12㎜程の間に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面下半は横方向条痕，口縁内面から凸帯下までは横方向擦過，外面は横方向条痕と擦過を併用している。黄褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

225は直立する甕の口縁片である。口縁下３～12㎜程の間に凸帯を貼付し，板木口（ハケ目工具）による刻目を施している。内面はナデ風の横方向擦過，口縁内面はナデ，凸帯下は横方向擦過，外面は縦方向擦過。内面は茶褐色，外面は褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

226は直立する甕の口縁片である。口縁下２～10㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は横方向擦過，外面は斜方向の条痕。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

227は直立する甕である。口縁を欠失するが，口縁より下ったところに凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施したものと思われる。内外ともに横方向条痕。内面は黄褐色，外面は暗褐色～黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

228は肩で屈曲する甕の口縁片である。口縁下３～13㎜程の間に凸帯を貼付し，指頭押圧による不明瞭な刻目を施している。内面は横方向擦過，口縁内面は横方向ナデ，外面は横方向擦過。黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

229は肩で屈曲する甕で，復原口径は22.6㎝，復原肩部径は25.1㎝を測る。口縁下４～14㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による大きな刻目を施している。胴部内面は横方向条痕，頸部内面は条痕を横方向擦過でかき消す。口縁から胴部上半は横方向擦過，胴部下半は縦方向擦過。内面は茶褐色～暗茶褐色，外面は褐色～黒褐色を呈する。口縁外面の一部には丹塗りの痕跡が認め

られる。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

230は肩で屈曲する甕である。口縁下４～14㎜程の間と肩には凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内外ともに横方向擦過。明橙色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成はやや不良。

231は肩で屈曲する（甕というよりは）鉢で，復原口径は24.8㎝を測る。口縁下３～11㎜程の間と肩には凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内外ともに横方向の粗い擦過。内面は明橙色，外面は黄褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成はやや悪く軟質である。

232は肩で屈曲する甕で，復原口径は30.4㎝，復原肩部径は34.3㎝を測る。口縁下５～15㎜程の間に凸帯を貼付し，爪による刻目を施している。内面は横方向擦過が主体で一部条痕がみられる。凸帯下から胴部上半は横方向擦過，胴部下半は斜・縦方向の擦過。内面は淡赤茶色，頸部外面は黄褐色，胴部外面は黒褐色を呈する。口縁から凸帯の上までは淡赤茶色の内面の色とほとんど変らない化粧土風の丹塗りを施している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

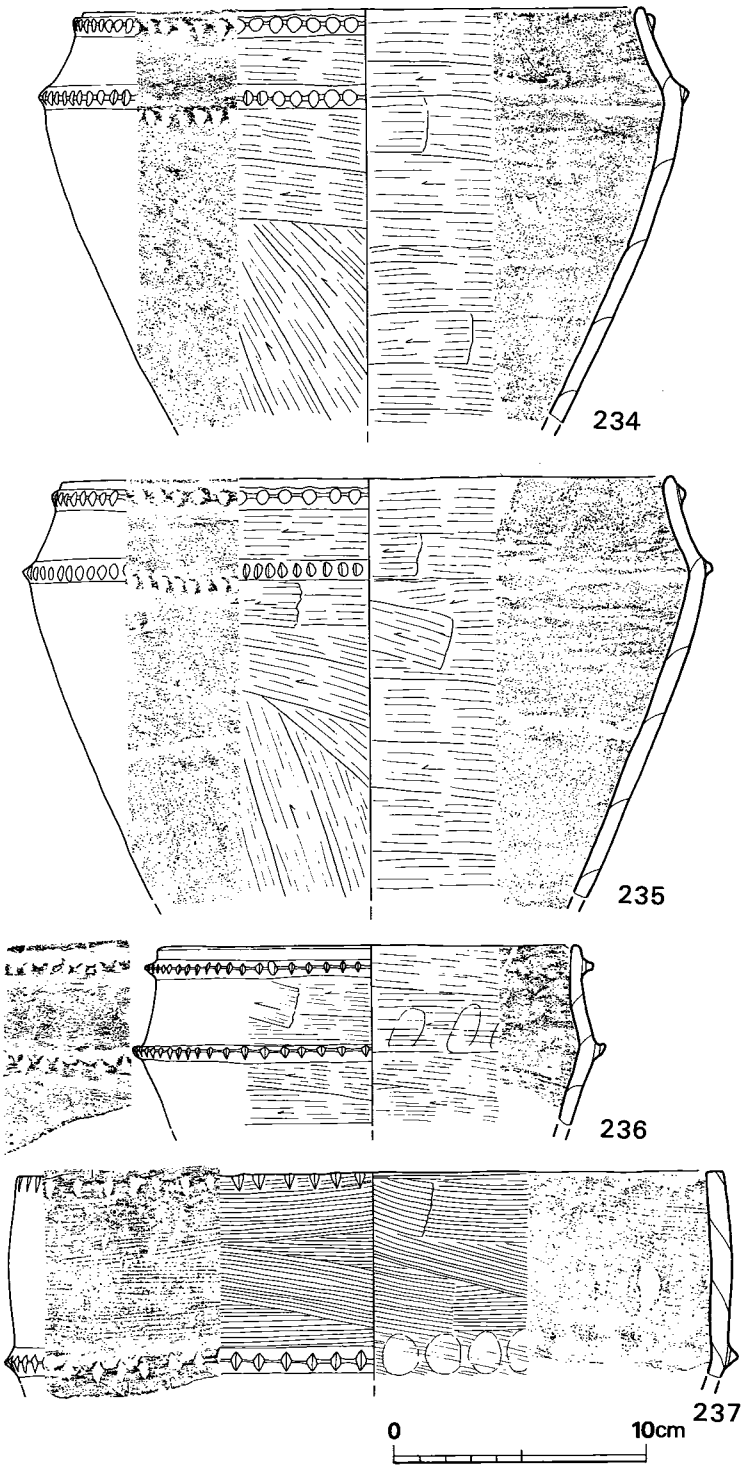
233は肩で屈曲する甕で，口縁部を欠失している。復原肩部径は34.8㎝を測る。肩には凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は明黄褐色，外面は黒色を呈する。胎土には砂粒を多く含み，焼成はやや不良。

234は肩で屈曲する甕で，復原口径は22.0㎝，復原肩部径は25.5㎝を測る。口縁下３～10㎜程の間と肩に凸帯を貼付し，口縁下の凸帯には棒状工具による刻目を，肩部凸帯には棒状工具による刻目を主とし，一部ヘラによる刻目を施している。内面は横方向擦過で，上半は粗いミガキ風を呈する。外面は口縁から胴部上半を横方向擦過，下半は斜・縦方向の擦過。内面は黄褐色～淡褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

235は肩で屈曲する甕で，復原口径は24.0㎝，復原肩部径は27.0㎝を測る。口縁下４～12㎜程の間と肩に凸帯を貼付し，棒状工具を主とし一部ヘラによる刻目を施している。内面は横方向擦過，外面の口縁から胴部上半までは横方向擦過，胴部下半は斜・縦方向の擦過。内面の下半は黄褐色，上半は褐色～暗褐色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。234と同一個体の可能性があるが，直接にはつながらない。

236は肩で屈曲する甕で，復原口径は16.4㎝，復原肩部径は18.4㎝を測る。口縁下５～13㎜程の間と肩に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。凸帯部はナデ，他は内外ともに横方向擦過。肩部内面には指頭圧痕がみられる。内面は茶褐色で一部暗褐色，外面は暗茶褐色を呈する。内面には黒色の有機物の付着がみられる。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

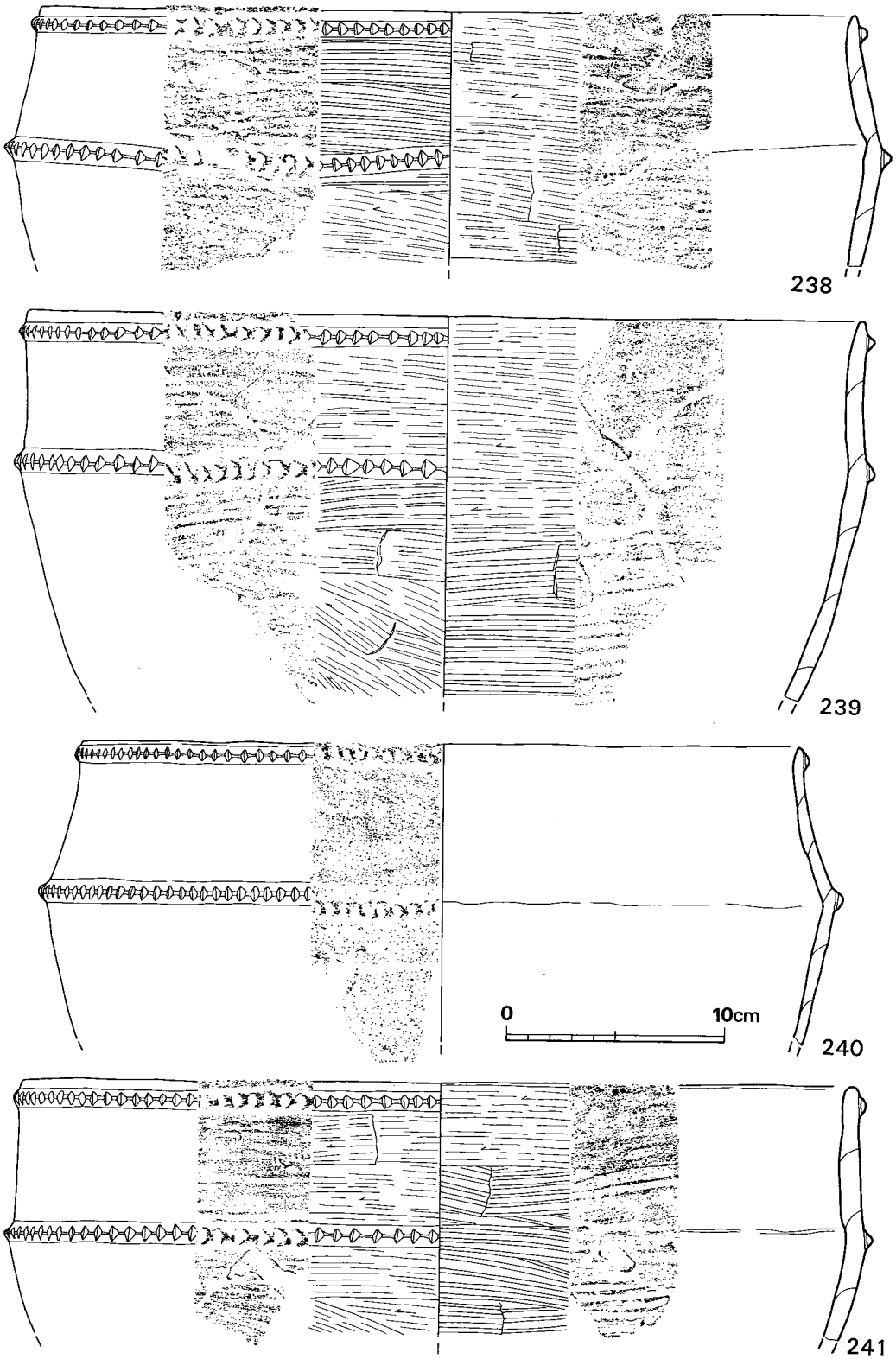
237は直立する甕で，口縁にはヘラによる刻目を施し，肩には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。復原口径は27.6㎝を測る。肩部凸帯は横方向ナデ，他は内外ともに横方向の粗いハケ目。肩部内面には指頭圧痕がみられる。淡黄桃色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。



238は肩で屈曲する甕で，復原口径は37.4cm，復原肩部径は40.6cmを測る。口縁下5～13mm程の間と肩には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は横方向条痕ののち条痕風の横方向擦過でかき消す。凸帯周辺はナデ，頸部外面は横方向の条痕，胴部外面は条痕ののち横方向擦過，内面は淡黄色，頸部外面は黄褐色，胴部外面は褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

239は肩で屈曲する甕で，復原口径は38.2cm，復原肩部径は39.4cmを測る。口縁下6～14mm程の間に凸帯を貼付しヘラによる刻目を施している。胴部内面は横方向条痕，頸部内面は横方向擦過，凸帯部はナデ，頸部外面は条痕風の横方向擦過，胴部外面は条痕ののち擦過。内面は淡黄色，外面は暗褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，

第 134 図　W－4区包含層出土土器17（縮尺1/3）



第 135 図　W－4 区包含層出土土器18（縮尺1/3）

焼成は良好。

240は肩で屈曲する甕で,復原口径は32.8cm，復原肩部径は36.8cmを測る。口縁下２～10mm程の間と肩に凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。外面は横方向擦過，内面は風化のため不明。内面は淡橙色，外面は黒褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

241は肩で屈曲する甕で,復原口径は38.0cm，復原肩部径は39.6cmを測る。口縁下４～13mm程の間と肩には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は横方向条痕，口縁内面は横方向擦過，頸部外面は横方向擦過，胴部外面は横・斜方向の擦過。内面は黒色，外面は茶褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

242は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し,棒状工具による刻目を施している。内面は横方向擦過，外面は風化のため不明。内面は黒色，外面は淡黄色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成はやや不良。

243は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，棒状工具による刻目を施している。内面は横方向擦過，外面は風化のため不明。内面は黄橙色で一部明赤褐色を呈する。外面は淡黄色。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は不良。

244は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し,棒状工具による刻目を施している。内面は斜・横方向擦過，外面は横方向擦過。胴部内面は淡褐色，頸部上半は淡黄褐色，頸部外面は暗黄褐色，胴部外面は暗褐色を呈する。頸部外面には暗赤色の丹塗りの痕跡がある。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

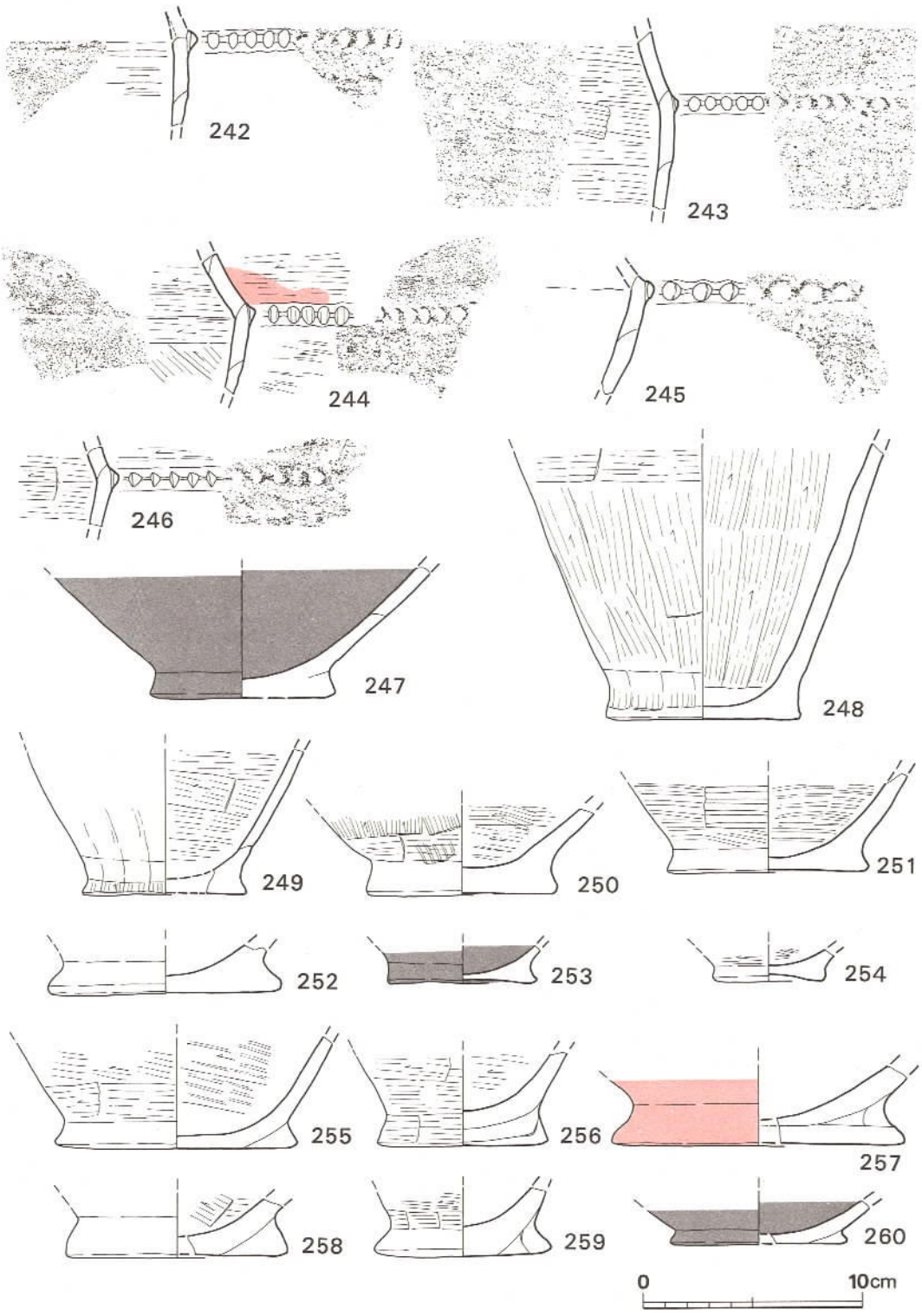
245は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し,爪による大きな刻目を施している。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は明橙色，外面は黄色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成はやや不良。

246は肩で屈曲する甕の肩部片である。肩には凸帯を貼付し，ヘラによる刻目を施している。内面は横方向擦過，頸部外面は横方向擦過，胴部外面は風化のため不明。淡黄色で，外面は一部黒色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良。

247は黒色磨研浅鉢の底部で，径は8.4cmを測る。内外ともに横方向ミガキ。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

248は甕の胴･底部で，底径は 8.8cmを測る。内面は縦方向擦過，胴部外面の上半は横方向擦過，下半は縦方向擦過，底部外側は擦過ののち横方向ナデを加えて一見指頭圧痕風にみえる。外底は擦過。茶褐色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

249は復原径7.4cmの底部片である。内面は横方向擦過，外面は縦方向擦過ののちナデ，底部外側は擦過ののち横方向ナデを加え一見指頭圧痕風にみえる。内面は黒褐色～暗褐色，外面は褐色を呈するが，二次的火熱を受けて赤紫色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 136 図　W－4 区包含層出土土器19（縮尺1/3）

250は径8.7cmの底部である。内外ともに条痕を擦過でかき消す。底部外側はナデ，外底は擦過。内面は明赤茶色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

251は径9.2cmの底部である。内外ともに横方向条痕であるが，器面風化のため残りは悪い。黄褐色を呈するが，底部外側から外底周縁にかけては二次的火熱を受けて赤褐色に赤変している。胎土に砂粒をやや多く含み，焼成は良。

252は径10.6cmの底部である。内面は擦過，外面は風化のため不明。内面は黒色，外面は淡茶褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良。

253は黒色磨研浅鉢の底部で，径は6.7cmを測る。内面はミガキ，外面は横方向ミガキ，外底はナデ，黒色を呈し，胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

254は径5.1cmの底部である。内外ともに擦過，外底はナデ。内面は淡黄色，外面は暗茶褐色を呈するが，外面は二次的火熱により暗赤紫色に赤変している。砂粒微量を含み，焼成は良好。

255は径10.9cmの底部片である。内外ともに条痕風の横方向擦過。底部外側から外底はナデ。内面は黄褐色，外面は二次的火熱により赤桃色に赤変している。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良。

256は径7.8cmの底部である。底部は粘土帯を２重に貼付している。内外ともに横方向擦過，外底は擦過。内面は淡黄色，外面は茶褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

257は丹塗り磨研大形壺の底部片で，復原径は13.2cmを測る。内面はナデ，外面は横方向ミガキ，外底はナデ，内面は黄褐色，丹は暗赤色を呈するが，外面は二次的火熱を受けて丹の剝落は著しく，かつ赤桃色に赤変している。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

258は復原径10.0cmの底部片である。内面は擦過，外面はナデ。内面は淡黄色，外面は黒色，外底は黄白色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

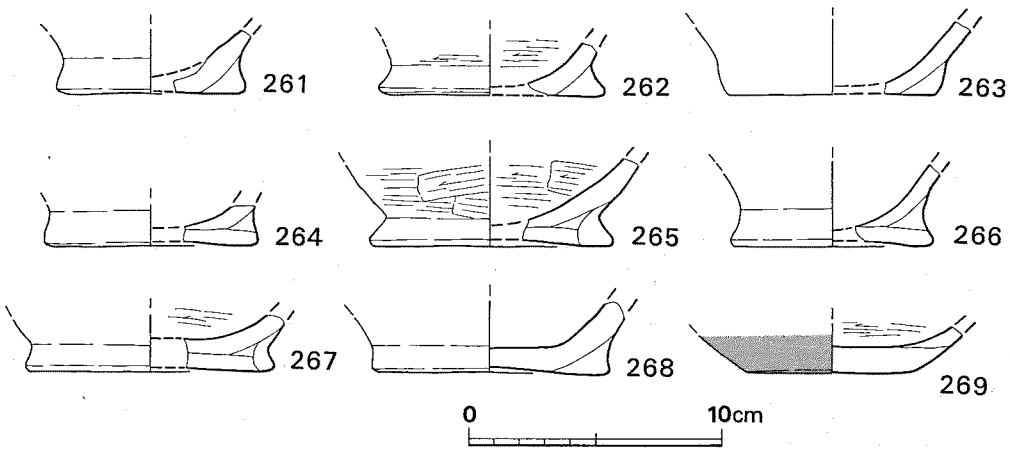
259は径8.0cmの底部である。底部外側には二重に粘土帯を貼付している。内面はナデ，外面は横方向擦過，底部外側から外底はナデ。内面は黄褐色，外面は暗黄褐色を呈する。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

260は黒色磨研浅鉢の底部片で，復原径は 8.0cmを測る。内面と外底はミガキ，外面は横方向ミガキ。内面は黒色，外面は黒褐色を呈する。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

261は復原径7.5cmの底部片である。内外ともにナデ。内面は茶褐色，外面は暗茶褐色を呈する。外面は二次的火熱により赤褐色に赤変している。胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

262は復原径8.8cmの底部片である。内外ともに横方向擦過，底部外側から外底はナデ。淡茶褐色を呈し，胎土には砂粒をやや多く含み，焼成は良好。

263は復原径8.2cmの底部片である。内外ともにナデ。内面は赤褐色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。



第 137 図　W－4 区包含層出土土器20（縮尺1/3）

264は復原径8.4cm程の底部片である。内外ともにナデ。内面は淡茶褐色，外面は二次的火熱により暗赤紫色に赤変している。胎土には微量の砂粒を含み，焼成は良好。

265は復原径9.6cmの底部片である。内外ともに横方向擦過，底部外側から外底はナデ。内面は黒色，外面は淡橙色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

266は復原径8.0cmの底部片である。内外ともに風化のため調整法は不明。内面は黒色，外面は淡茶褐色を呈する。外面は二次的火熱により桃色に赤変している。胎土には少量の砂粒を含み焼成は良。

267は復原径9.8cmの底部片である。内面は擦過，外底はナデ。内面は淡茶色，外面は黒褐色を呈する。胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

268は復原径9.2cmの底部片である。内面はナデ，外面は風化のため不明。淡褐色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

269は黒色磨研壺の底部で，丸底化した平底を呈している。径は6.6cmを測る。内面は擦過，外面は横方向ミガキ。外底はミガキ。黒色を呈し，胎土には少量の砂粒を含み，焼成は良好。

4）小　結

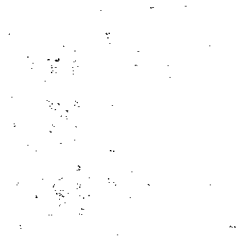
板付Ⅰ式以後，平安初期までの後世の混入の土器，床面下の縄文式土器を含めて総数2436点，夜臼期のものだけで2192点を図示して説明を加えてきた。これら夜臼期の土器は住居跡，支石墓副葬品，包含層から出土したものに差がみられるわけではなく，ほぼ同時期のものとしてとらえ，いままで夜臼式の古い段階と表現してきた。土器編年からいえば，夜臼式の古い段階に，さらに一段階古い型式のものが残っている時期のものであって，型式を細分し得る資料である。つまり佐賀県唐津市菜畑遺跡と対比すると，菜畑13層から，9～12層出土の土器を含み，それとほぼ同時期のものである。(註1）ところが一方で晩期中頃黒川式，晩期後半山の寺式と明快に呼称し，一方で夜臼式の古い段階というと，問題が稲作開始期の重要な事であるだけに，ある面では当然といえようが，マスコミ等では一方が古いかの如く表現し，研究者のなかでも遺物を観ることもなく伝聞によって，ほぼ同時期ではあるが，曲り田がやや新しいとかいう風評が飛びかったりした。発掘直後に整理の間をも与えず周囲が取沙汰するこのような傾向は戒めるべきであると考える。いずれにしてもこの土器編年の問題は学史とも関連して論議されている問題でもあるので，さけて通るわけにもいくまい。考察編で詳細に検討したいと思っている。

又，弥生文化は朝鮮からの影響によって成立したと主張され，稲作開始期のこれらの遺跡は渡来人集団による集落であるというような考え方もある。しかし土器を観ると，縄文以来の伝統的な形態・手法を踏襲したものが圧倒的であるといえよう。曲り田で出土した夜臼期の土器で，無文土器といえるものは2192点のなかで11点，可楽里式土器の影響を受けた折返し口縁のもの2点，他に無文土器の可能性のある丹塗り磨研小壺のなかで縦方向ミガキを加え，薄手でかつ焼成の良好なものをいれたにしても20点程で全体の1％にもみたない。石器をみても，縄文系の石器に加えて，弥生文化を構成する磨製石器群の各種がそろっている。これらはたしかに朝鮮系のものではあるが，ほぼすべての石器に未製品があり，船載されたものではないことを物語っている。石材にしても朝鮮の石器に使用されたものとは異る点もあるようではあるが，今回は未だ分析をしていない。いずれにしても縄文後晩期のなかで，除々に朝鮮からの先進的文化の流入があり，それを在来的要素と融合させながら受容しつつ弥生文化へ漸次発展していった(註2）というのが実態に近いと考える。あくまでも弥生文化の成立については主体は内部的条件の発展であり，外来的要素は従であったといえる。

この夜臼期には既に水稲耕作が行われ，弥生文化を構成する諸要素がすべてそろっている。したがってこの時期を弥生文化と呼ぶべきであろうと考えるが，この点についても考察で検討することとして，今回は割愛したい。

註1　中島直幸編「菜畑―佐賀県唐津市における初期稲作遺跡の調査―」1982　唐津市

2　橋口達也「九州の弥生土器」『世界陶磁全集1　日本原始』1979　小学館刊　所収



今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第9集

石崎 曲り田遺跡II

昭和59年 3 月31日

発 行 福岡県教育委員会
福岡市博多区東公園7番7号

印 刷 株式会社西日本新聞印刷
福岡市中央区天神1丁目4番1号